PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

茨城キリスト教大学　御中

基礎力測定テスト

PROG
全体傾向報告書
（2026）

2026.08.05
株式会社リアセック

目次

●PROGのご説明	P3	～	18
●1年生　通常集計	P19	～	99
●1年生　過去受験比較	P100	～	172
●1年生　共通アンケート集計結果	P173	～	183
●3年生　通常集計	P184	～	252
●3年生　成長分析	P253	～	367
●3年生　過去受験比較	P368	～	428
●3年生　共通アンケート集計結果	P429	～	437
●PROG活用事例	P438	～	452

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.0
PROGのご説明

基準集団を、入試難易度（偏差値）を使用し抽出している場合、
入試難易度（偏差値）は河合塾から提供されたものを使用しています。
また、入試難易度（偏差値）は一般入試のみを対象としています。

基礎力の2側面

PROGでは、基礎力を「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面から測定している。
「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養をみるもの。
「コンピテンシー」とは、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるもの。



構成概念について

■社会ニーズを網羅した設問項目

２０００年以降に実施された９種類の社会ニーズアンケートで収集した全４０７の項目をリクルートワークス研究所と協力して「社会人として成果をあげるために必要な要素」として整理しました。
多様な領域を網羅的に測定している為、大学独自で定義するジェネリックスキルとの対応付けも行い易いです。

大阪におけるキャリア教育（大阪商工会議所）	若者が自立できる社会へ（経済同友会）	企業が求める人材の能力などに関する調査（厚生労働省）	人材ニーズ調査（経済産業省）
摩擦や競争を避けず自分の考え・意見を伝える	協調性	自分とは異なる考えを理解する能力	先入観を持たずに相手の話を受け止め、信頼構築に役立てることができる
人に関心があり世代や価値観を越えてコミュニケーションする	環境適応力	誠実さ	自分の所属する組織・チーム全体の業績や成長を意識した行動ができる
組織の一員としての役割を果たす	忍耐力	自分の意見をはっきりと主張すること	立場や状況に応じて自分の感情をコントロールし、ストレスやプレッシャーに負けずに行動できる
目標を高く掲げて誠実に努力して達成している	責任感	リーダーシップを発揮すること	現状に満足せず、継続的に学習し、自らを高めてゆく
変化にスピーディに対応する	課題発見能力	自分の責任で決定を下す能力	
・・・	問題解決能力	自発性・学習能力	
	チャレンジ精神	情報やアイデアを収集し整理する能力	
	・・・	・・・	

※コンピテンシーは、９つの構成要素の下位に３３の項目があります。

リテラシー（受験時間４５分）

領域	構成要素
問題解決力	**情報収集力** 幅広い視点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力
	情報分析力 事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合した隠れた構造を捉え、本質を見極める力（言語・数的処理能力含む）
	課題発見力 様々な角度と広い視野から現象や事象を捉え、背景に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力
	構想力 様々な条件や制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処方法を構想する力

コンピテンシー（受験時間４０分）

領域	構成要素
対人基礎力 他の人と信頼を築き、チームとして動かす力	**親和力** 人に興味を持ち、共感・信頼する力
	協働力 役割を理解し、相互に助け合う力
	統率力 意見を主張し、チームを高める力
対自己基礎力 自分の感情ややる気をコントロールする力	**感情制御力** 自分の感情を適切に制御する力
	自信創出力 自分を知り、自信を引き出す力
	行動持続力 主体的に取り組み、完遂する力
対課題基礎力 課題解決に向けた行動を考え起こす力	**課題発見力** 情報を集め、本質に迫る力
	計画立案力 目標を設定し、計画を立てる力
	実践力 考えを行動に移し、振り返る力

測定項目について

リテラシー測定項目・・・4項目+処理能力2項目

コンピテンシー測定項目・・・最大33項目
（N版は小項目が一部異なる）

リテラシー領域						コンピテンシー領域																										
4つの力				処理能力		対人基礎力										対自己基礎力								対課題基礎力								
						親和力 人と興味を持ち共感・信頼する力						協働力 役割を理解し相互に助け合う力				統率力 意見を主張しチームを高める力				感情制御力 自分の感情を適切に正調する力			自信創出力 自分を知り自分を引き出す力			行動持続力 主体的に取り組み完遂する力			課題発見力 情報を集め本質に迫る力			計画立案力 目標を設定し計画を立てる力				実践力 考えを行動に移し振り返る力			
情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解・連携行動	情報共有	相互支援	相談・指導・他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整・交渉・説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感・楽観性	学習視点・機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正・調整	検証・改善
情報源の特性を知る／情報を整理・保存する／アンケートとインタビュー	表やグラフを読み取る／文献・資料を読む／批判的・多角的に分析する	広い観点から問題点を洗い出す／問題点を整理・分析する／発見された問題の中から課題を設定する	広い観点から解決策を考える／現実味のある解決策を考える／計画を立てる	国語の処理力	数学の処理力	話しかけやすい雰囲気をつくる	相手の立場に立って思いやる	人に興味を持つ／共感し受け止める	多様な価値観を受け入れる	有効な人間関係を築き、継続する	他者を信頼する／他者から信頼される	自分や周囲の役割を理解し連携・協力する	一緒に物事を進める人達と情報共有する	互いに力を貸して助け合う	相談にのる・アドバイスする・やる気にさせる	相手に合わせて、自分の考えを述べる	集団の中で自分の意見を主張する	議論の活性化のために自ら働きかける	意見を調整し、合意形成する／交渉、説得をする	感情や気持ちを認識し、自分の言動を調整する	悪影響を及ぼすストレスを処理する	緊張感やプレッシャーを力に変える	他者との違いを認め、自己の強みを認識する	自信を持つ・やればできるという確信を持つ	学ぶ視点をもつ・経験を自己の変革に活かす	自分の意志や判断において進んで行動する	決めたことを、粘り強く取り組みやり遂げる	自分なりのやり方を見出し、習慣化する	適切な方法を選択して情報を収集する	事実に基づいて情報を分析し、本質を見極める	様々な要因の中から、課題の原因を明らかにする	ゴールイメージを明確にし、目標を立てる	目標や課題解決に向けての見通しを立てる	自分の立てた計画を振り返り、見直す	リスクを想定し、事前に対策を講じる	自ら物事にとりかかる／実行に移す	状況を見て、計画や行動を柔軟に変更する	結果を検証し、次の改善につなげる

大学生活でのリテラシー発揮場面

授業やゼミで課題研究

情報収集力	目的に沿った情報を幅広く集める	目的意識 目標設定	仮説立て
情報分析力	情報を要約したり、数字をグラフにする	関連付け	
課題発見力	問題点を整理し、原因や解決策を探る	なぜ？ 繰り返す	疑問を持つ
構想力	発表内容をまとめ上げる	効果的 戦略戦術	

専門知識と同時に授業やゼミでリテラシーが開発されている

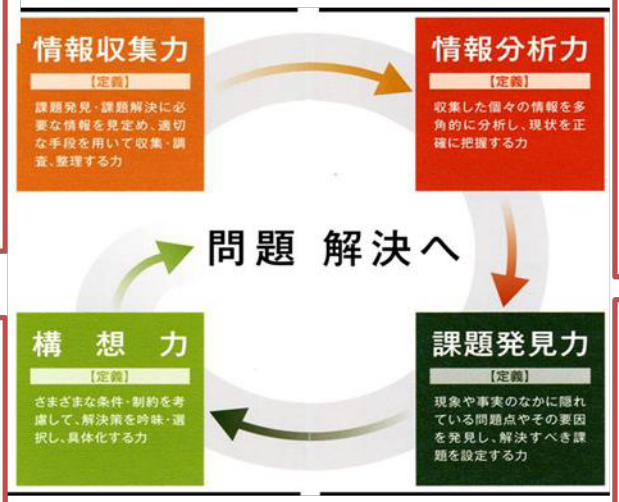
大学生活でのコンピテンシー発揮場面

厳しい授業・実習	最後まで諦めないでやり切る。自分ならできる。	感情制御力	自信創出力	実践力
宿題・課題が多い授業	締め切りに追われるのはなぜか。計画的な進め方を習慣化する。	課題発見力	計画立案力	行動持続力
発表・討議が多い授業	積極的に他者と関わり、情報を共有、合意形成を目指す。	親和力	協働力	統率力

授業や実習でコンピテンシーが開発されている

リテラシー思考力の4要素

学校法人　河合塾の高い問題作成技術を使って問題解決プロセス別に作問。



問題解決のプロセスに沿って整理。
思考力を４つの領域に分けて、
多面的に測定。

<情報収集力のテスト項目>
1.情報検索
-情報源の特性
-目的に応じた検索の方法名

2.情報の整理・保存
-情報を適切かつ効果的に活用するための方法など

3.一次情報の収集
-目的に応じた調査方法など

<情報分析力のテスト項目>
1.データ・グラフの読み取り
（+非言語処理能力）
-正確な読み取りと考察
-複数データの考察と統合
2.文献・資料の読み取り
（+言語処理能力）
-語彙の理解
-主題の読み取り
-構造的な理解
3.批判的な分析
-事実と意見の区別
-多角的な視点
-論証の検証

<構想力のテスト項目>
1.解決策のアイデア出し
-広い観点から解決策の検討

2.解決策の絞り込み
-現実的な解決策の検討

3.解決策の具体化
-必要な作業をもれなく洗い出す
-具体的な作業工程・行動の計画

<課題発見力のテスト項目>
1.広い観点から問題を洗い出す
-拡散思考について

2.問題点の整理・分析
-収束思考について
-問題の構造化・原因追及

3.解決する課題の設定
-課題への絞り込みの観点整理
-問題点から課題への絞り込み

コンピテンシー設問例

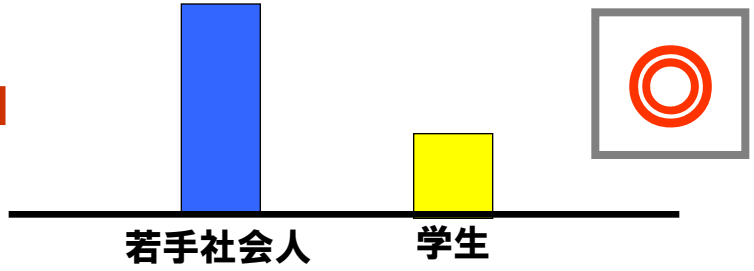
■設問の工夫
恣意的に回答できないよう（本音で回答せざるを得ない）、両義性のある設問を採用しています。

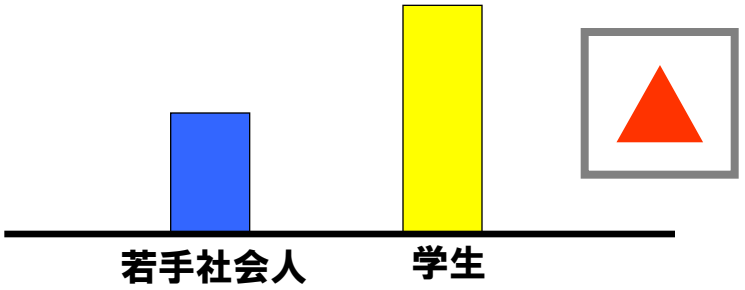
■採点の工夫
「コンピテンシー」を社会で活躍する若手社会人と比較（外的基準に基づいて採点）しています。

社会で活躍する若手社会人（4000人）と学生の回答のパターンを比較し、統計的に違いがある設問項目を抽出する（特性抽出）

連番	A	B
1	感情に流されず、客観的な状況を分析して判断を下してきた	客観的な情報よりも、人の気持ちや人間関係に配慮して判断してきた

設問1





参考）看護モデル人材について

今後の臨床現場を担う「看護モデル人材」を能力判定基準に用いる

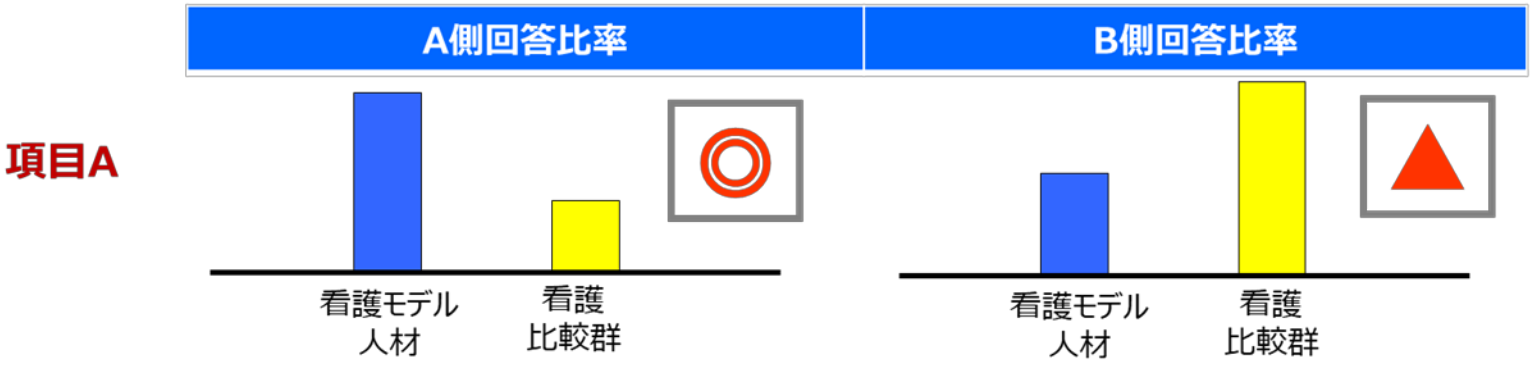
部長インタビューと、高評価者として指名された看護師の態度・行動特性を基に設定

看護モデル人材の行動特性を反映するように、質問項目を改変・追加する

モデル人材の確認ポイント

- 常に「これで良いのか」と自問し自分の役割を発展させている
- 既存の型に捉われず本質を見極めようとしている
- 事実を受け止め課題解決につなげている
- 方略を素早く判断し行動に移している
- 経験を意味づけながら目標を作り上げている
- 対話を通じて、より良い視点を見つけ出している
- メンバーの力を理解し方針を示している
- 組織の課題に主体的に取り組んでいる

・看護モデル人材と、看護比較群（モデル人材以外）の回答比率の差が大きな項目を抽出し（識別性の高い項目）、それらを正解とする能力判定ロジックを作成した



信頼性と妥当性①

■信頼性と妥当性

信頼性係数を公表しています。（β版の回答傾向で分析）
又、外的基準と照らし合わせても妥当性が高いと考えます。

			信頼性係数（α）
リテラシー（問題解決力_総合）			0.78
コンピテンシー	対課題基礎力	課題発見力	0.80
		計画立案力	0.83
		実践力	0.79
	対人基礎力	親和力	0.83
		協働力	0.86
		統率力	0.88
	対自己基礎力	感情制御力	0.79
		自信創出力	0.82
		行動持続力	0.75

図１

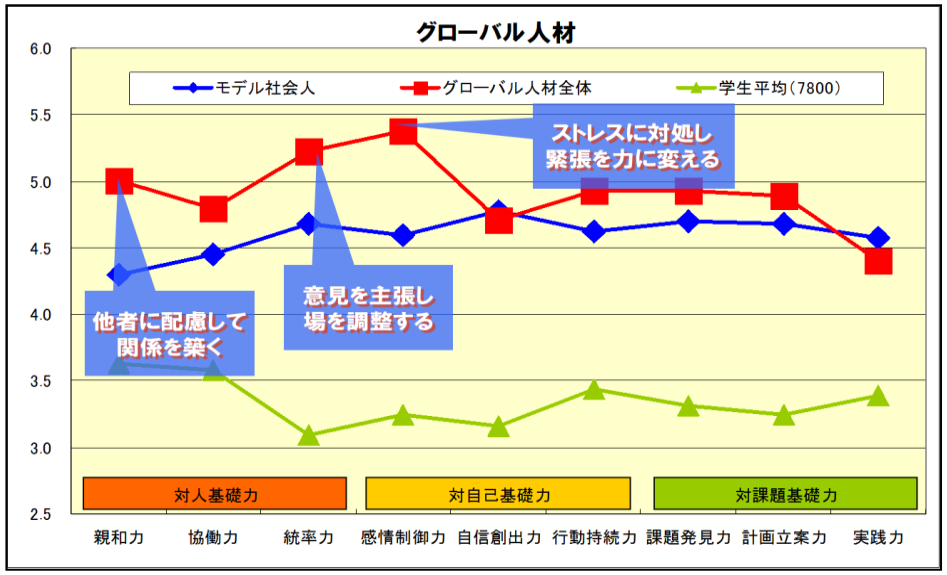
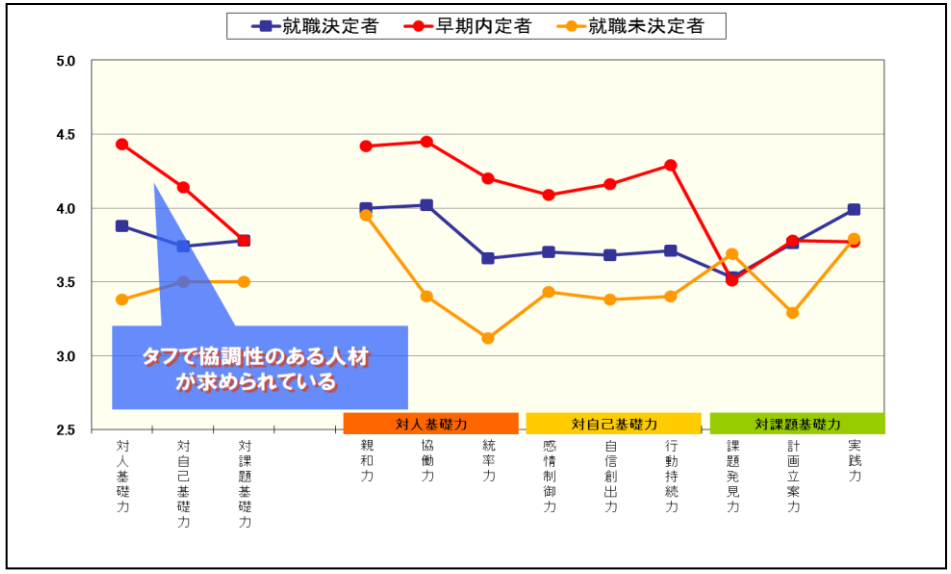
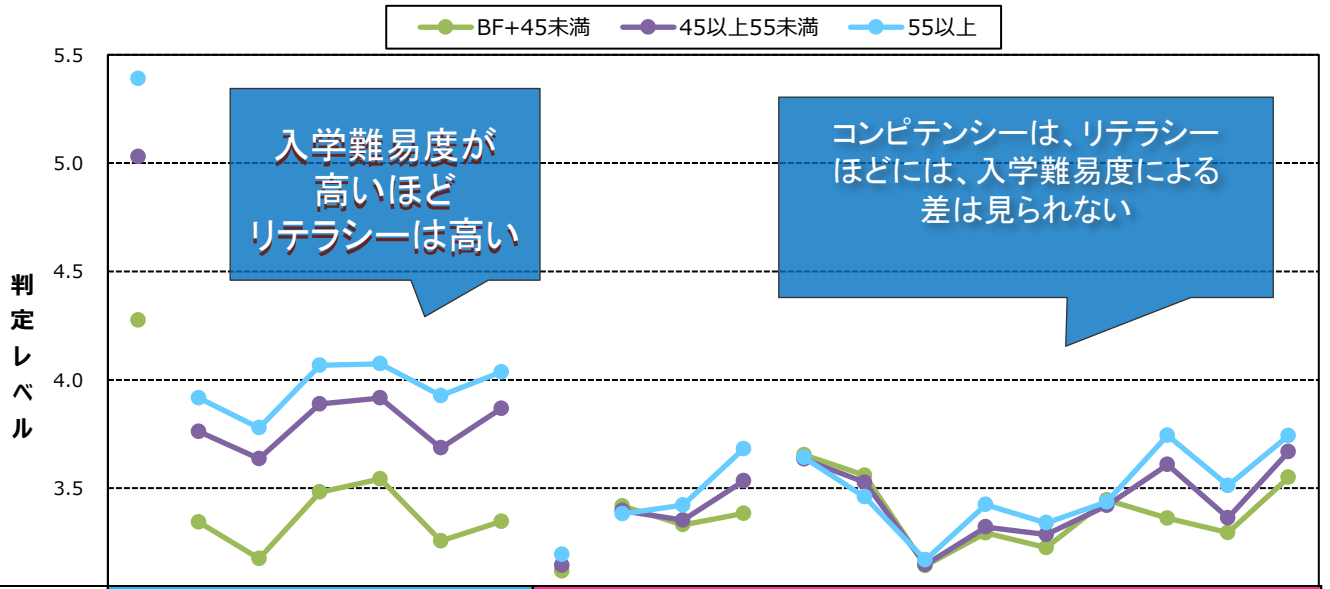


図２



※グローバル人材：25歳～49歳の日本人ビジネスパーソン。アジアにおいて、外国人のマネジメント経験があり、かつ、その当時のマネジメントに満足している者（735人、平均駐在期間は約4年）。

信頼性と妥当性②



	N数		リテラシー							コンピテンシー											
	リテラシー	コンピテンシー	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
														親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
四年制大学全体	280,103	323,610	4.86	3.66	3.51	3.79	3.82	3.60	3.72	3.15	3.41	3.37	3.50	3.65	3.54	3.15	3.34	3.29	3.44	3.54	3.36	3.65
BF+45未満	57,558	73,989	4.28	3.34	3.17	3.48	3.54	3.26	3.35	3.12	3.42	3.33	3.38	3.65	3.56	3.14	3.29	3.23	3.45	3.36	3.29	3.55
45以上55未満	93,616	100,433	5.03	3.76	3.64	3.89	3.92	3.68	3.87	3.14	3.40	3.35	3.53	3.63	3.53	3.15	3.32	3.29	3.42	3.61	3.36	3.67
55以上	35,718	36,306	5.39	3.92	3.78	4.07	4.07	3.93	4.04	3.19	3.38	3.42	3.68	3.64	3.46	3.17	3.42	3.34	3.44	3.74	3.51	3.74
なし（偏差値不明）	93,211	112,882	4.85	3.65	3.50	3.77	3.79	3.60	3.68	3.16	3.42	3.40	3.50	3.67	3.55	3.15	3.37	3.32	3.45	3.53	3.35	3.67

導入実績

2012年のリリース以来、毎年受験者数を伸ばし累計１４０万名以上が受験

（～2025年3月）

■導入大学数･受験者数

年間受験大学数	年間受験者数
約 320大学	約 23万人

【補足】 2021年度に
社会人版リリース
約１５０社大手企業
中心に導入

■受験者の属性

図１：偏差値別

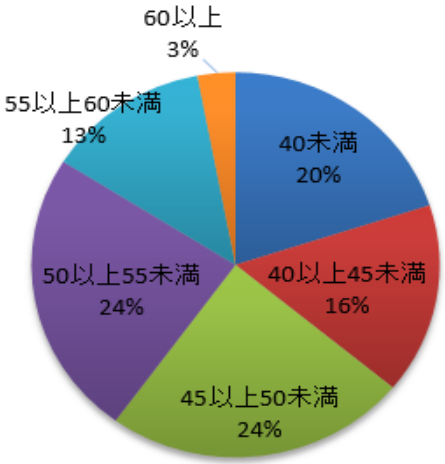
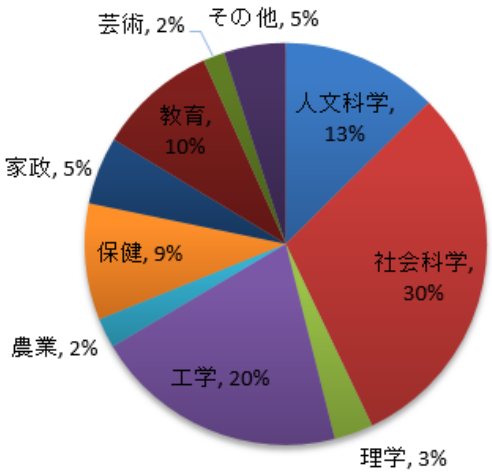
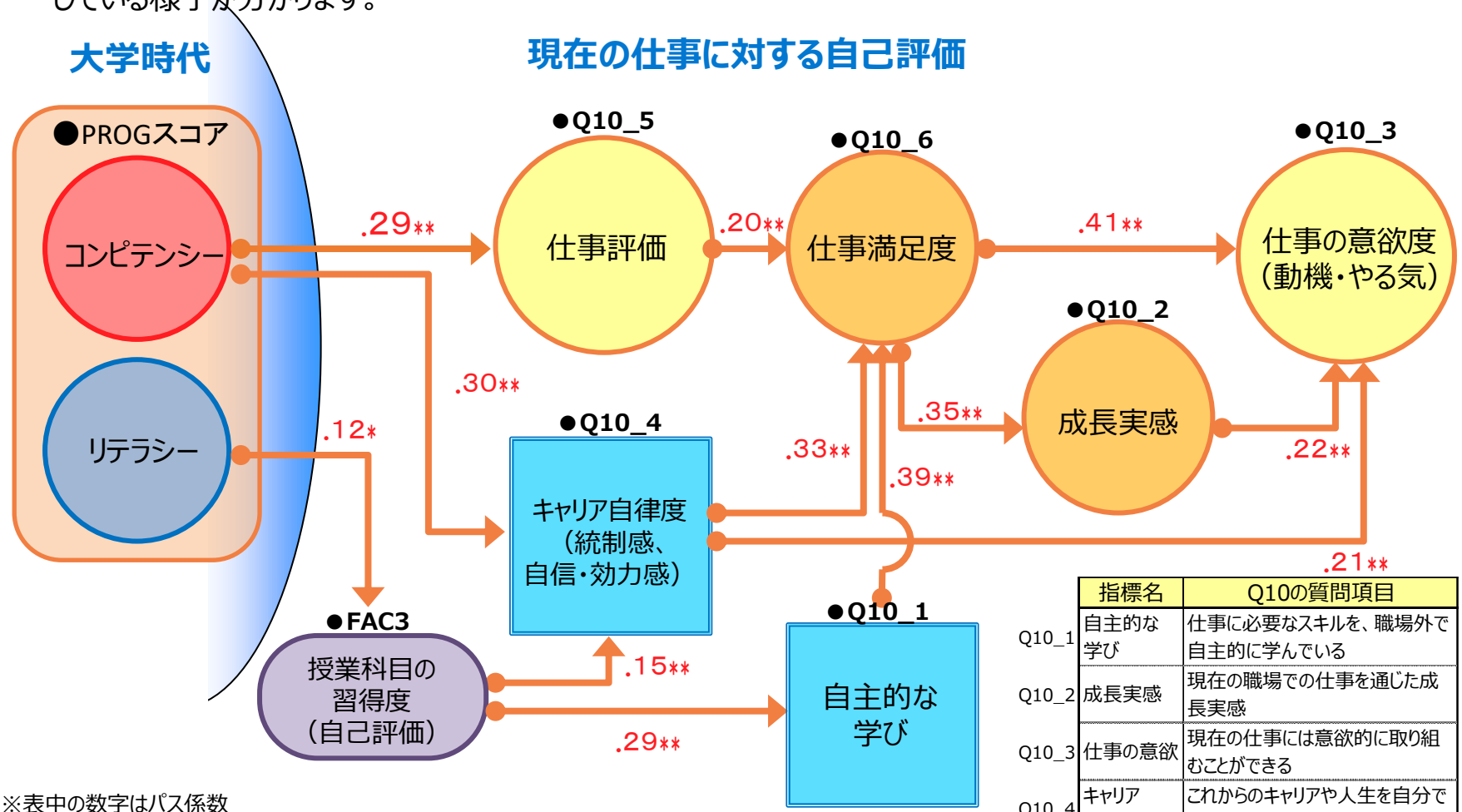


図２：学問系統別



社会人調査に見る大学時代のジェネリックスキル開発による仕事への影響について

■就業経験3～5年の社会人に対して行った調査を基に、パス解析を行った結果。
■学生時代のコンピテンシーの高低（PROGスコア）が、現在の「仕事評価」と「キャリア自律度」に直接に影響している様子が分かります。



	指標名	Q10の質問項目
Q10_1	自主的な学び	仕事に必要なスキルを、職場外で自主的に学んでいる
Q10_2	成長実感	現在の職場での仕事を通じた成長実感
Q10_3	仕事の意欲	現在の仕事には意欲的に取り組むことができる
Q10_4	キャリア自律度	これからのキャリアや人生を自分で切り開いていける
Q10_5	仕事評価	現在の職場で評価されている
Q10_6	仕事満足度	現在の職場での仕事に対する満足度

※表中の数字はパス係数
※**は１％有意、 *は５％有意の意味

$$Y = aX + b$$

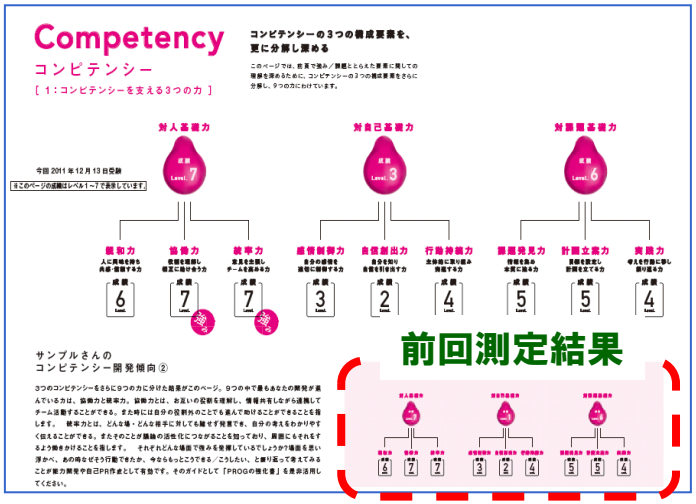
パス係数は、回帰（偏回帰）係数とほぼ同義

出所　PROG白書2021

主体的に行動させる為の学生向け診断結果・ハンドブック

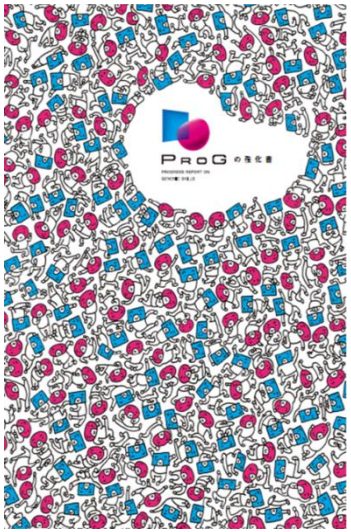
■学生向け診断結果

学生のジェネリックスキルを最大39の項目にて提示。
経年受験の場合は、前回の測定結果も提示し、成長を確認できます。



■能力開発ハンドブック

今後の学生生活でジェネリックスキルを醸成させる方法をたくさんのアドバイスを含め、解説しています。ワークシートも付いており、３年生向けには、測定結果から分かった自己の強みを自己ＰＲに繋げていきます。





協働力 UP ［10のアドバイス］

1. 自分の役割を考える
ゼミやサークル、バイト、ボランティアなど、自分が所属する組織の中での自分の役割を紙に書き出してみよう。キミが担っていることは、組織にどんな貢献をしているのかを考えてみるのだ。また、仲間ひとりひとりについても同じように、それぞれの役割を書き出してみて、本人たちにも考えを聞いてみよう。

2. チームワークの原則を知る
チームワークを上手にやっていくルールがある。たとえば、「指示待ちの行動をとらないで、積極的に自分の役割を探す」「自分の権限と責任の範囲を知る」「報連相を徹底する」など、チームメンバー間のコミュニケーションをとる」「チームメンバーをよく知り、理解するよう努める」「ひとりよがりな行動をとらない」といったことだ。チームに参加するときは、これらを頭に置いておこう。

3. チームの決定に納得がいかないときには、納得できるまで話す
自分の意見とは違う決定がチームでされたときに、いやいや取り組んでしまったり、手を抜いてしまうようなことはないだろうか？　もし、そんなことがまたあったら、まずは納得がいくまで話し合ってみてはどうだろう。意見をたたかわせることで、チームにとってよりよい意思決定ができる可能性もあるからだ。何より納得して取り組んだほうがキミも気持ちいいはず。

4. 伝えるべき情報をきちんと伝えるように意識する
たとえばバイト先で次のシフトの人に引き継ぎをするとき。そのときは、相手の立場に立って、丁寧な引き継ぎをするように心がけよう。また、問題が起こったときに「これくらいのことは言わなくても大丈夫だろう」と勝手に判断しないで、次の人がやりやすいように伝達しておく。その問題が大きくなることだってあるからだ。みんなが働きやすいようにする心がけが大切だ。

5. 情報共有を積極的にやってみる
キミから情報や知識を発信することを普段どれくらい意識しているだろう？「聞かれたらちゃんと答えるし」なんて思っていたり、逆に「自分がもっている情報なんてたいしたことない…」なんて思っているかもしれない。もし思い当たるなら、まずは積極的な情報提供を心がけてみよう。トライ＆エラーを繰り返していくうちに、どういう情報は共有すべきか、コツがわかってくるからだ。

6. ボランティア活動に取り組んでみよう
ぜひ、人を支援することに取り組んでみよう。自治体が行っている清掃活動や、地域ボランティアなどなんでもいい。きっと、「人を助けているつもりがいつの間にか助けられている」経験をするだろう。一人で行く勇気がないキミは、友達を誘って行ってみるのも手。貴重な体験ができるはずだ。

7. チームで困っている人がいたら積極的に「何か手伝えることはある？」と聞いてみる
「チームは、メンバーそれぞれが自分の役割を果たしていることが大事」とか、「相手から言われない限り自分から手を貸すべきではない」といった考えがもしあるようなら、それは一度脇に置いて、ほかの人が足りない部分を積極的にサポートするようにしてみよう。ぜひ、困っているチームメンバーがいたら、「何か手伝えることはある？」と聞いてみることを習慣にしたい。

8. 常に「何か困ったことがあったら声をかけてね」と言っておく
日頃から、お互いに助け合える関係性を築くことを心がけよう。特に、「自分には人と積極的にかかわる気持ちがある」ことを、面倒くさがらずに言葉や態度で示しておくことはとても大切。また、「話しかけやすい人」という雰囲気を意識してつくっておくと、お互いにサポートし合える関係性を築くことにつながるだろう。

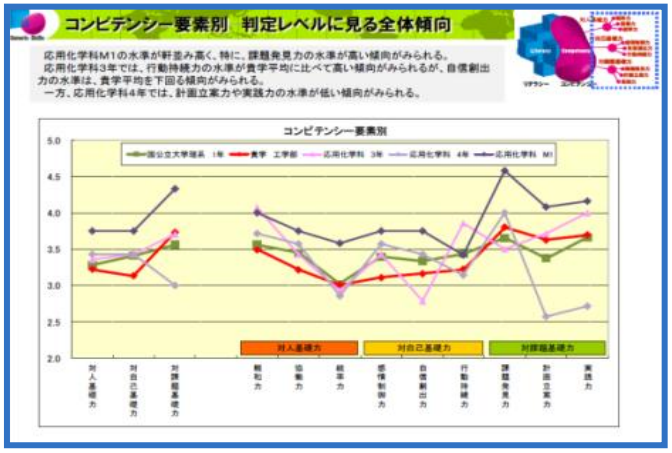
9. ポジティブな言葉を使うようにする
人と何かに取り組むときは「ポジティブな言葉」を使おう。メンバーのいい点をできる限り見つけ、積極的にほめるのだ。たとえば、「○○さんは、△△が得意だね」とか、「□□さんがいつも細やかにサポートしてくれて助かる」といったカンジだ。また、「できない」「だめだ」とみんなが言うようなときには あえて「どうしたらできるかな？」と言い換えて投げかけるようにしてみよう。

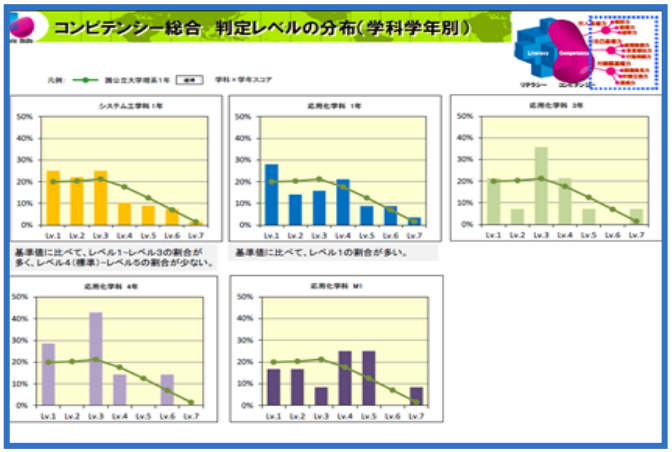
10. 後輩の相談を受けたり、教える時間と機会をもとう
バイト先やサークルなどで後輩と接するチャンスがある人は、後輩に「何かわからないこと、困ったことがあったらいつでも声をかけてね」と伝えておくのだ。そして、ときどき「最近調子はどう？」「何か困っていることはない？」などと聞いてみよう。あまりしつこく聞くと相手もひるむだろうから、後輩の表情や様子をよく観察して、タイミングよく声をかけるようにしよう。

大学様への納品物

■全体集計報告書

他大学と比較し、学部別、学科別等で分析報告致します。
※他大学の基準値は偏差値別、学問系統別、男女別等
ご指定頂けます。

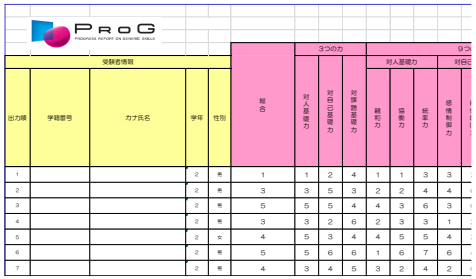




■受験結果一覧

学内にて追加の分析にお使い頂けますよう、受験者の結果一覧
を送ります。

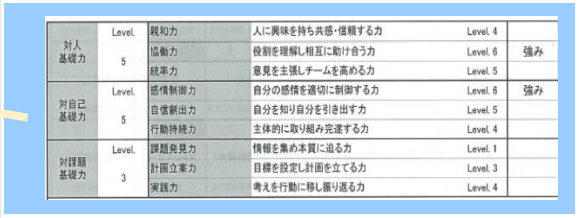




■個人結果要約版

学生様の診断結果を要約版として、紙もしくはＰＤＦにて
ご用意致します。





対人基礎力	Level. 5	親和力	Level. 4	
		協働力	Level. 6	強み
		統率力	Level. 5	
対自己基礎力	Level. 5	感情制御力	Level. 6	強み
		自信創出力	Level. 5	
		行動持続力	Level. 4	
対課題基礎力	Level. 3	課題発見力	Level. 1	
		計画立案力	Level. 3	
		実践力	Level. 4	

PROGテストの留意点

✓全ての能力が最高レベルである必要はない

※全ての能力項目がレベル７である必要はなく。４～５レベルで十分社会通用性はあります。まずは、自分の特徴（強み・弱み）を把握する事が大事。その上で、本人が「もっと伸ばしたい」、「克服したい」と意識する事が重要です。
又、全項目の全てが高い人は少なく、個々、強み・弱みがあります。

✓先天的なものでなく学習や経験によるスキルを測定している

※性格や気質ではなく、学修によって変化する可変な能力（下がる事もある）を測定しています。スコアが低いというのは、経験や学習が足りなかっただけ。これからの授業や課外活動等を通じ、大学生活でどう伸ばすかが重要です。

✓学生の特性の一部であり人格や社会性を制限するものではない

※人の能力とは多様でありその価値は一義的なものではありません。PROGが測定している「ジェネリックスキル」とは個人の一部の特性を捉えているに過ぎません。この結果が学生個人の人格を否定したり、将来の選択に制限を加えるのでなく、あくまで今後の学習活動の参考として活用してください。

受験者プロフィール

受験日： 2026年 4月～6月

学部・学環	学科 コース	1年	2年	3年	4年	合計
文学部	現代英語学科	51	0	0	0	51
	児童教育学科 児童教育コース	49	0	0	0	49
	児童教育学科 幼児保育コース	47	0	0	0	47
	文化交流学科	79	0	0	0	79
		226	0	0	0	226
生活科学部	心理福祉学科	76	0	0	0	76
	食物健康科学科	67	0	0	0	67
		143	0	0	0	143
看護学部	看護学科 ※N版受験	92	0	0	0	92
		92	0	0	0	92
経営学部	経営学科	86	0	0	0	86
		86	0	0	0	86
未来教養学環	-	21	0	0	0	21
		21	0	0	0	21
合計		568	0	0	0	568

※「茨城キリスト教大学1年全体」について
看護学部はN版受験のため、コンピテンシーテストは通常版と異なるため集計から除外いたします。
（リテラシー：568名 ／コンピテンシー：476名）

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1
１年生全体集計
（大学全体）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（リテラシー総合）			
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

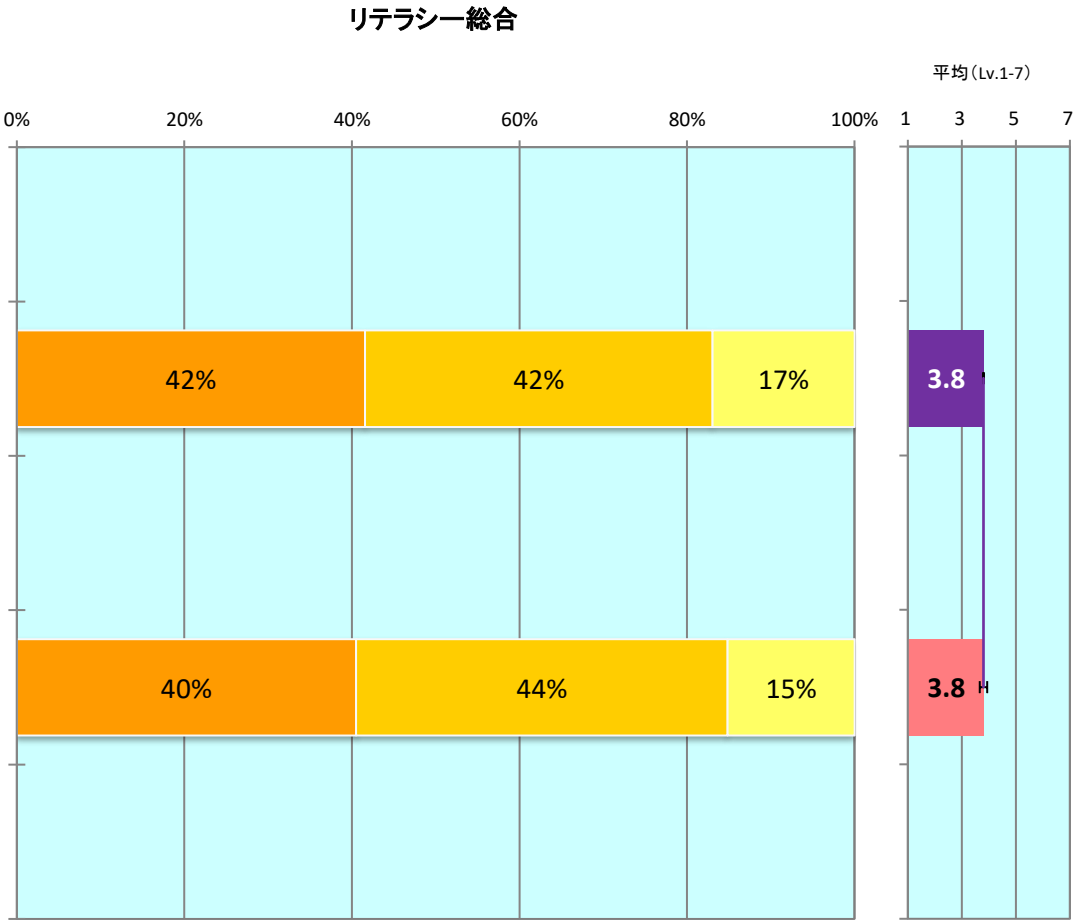
●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学1年	154校　N=99,322

	χ2乗値	有意確率
茨城キリスト教大学1年全体	2.37	0.31



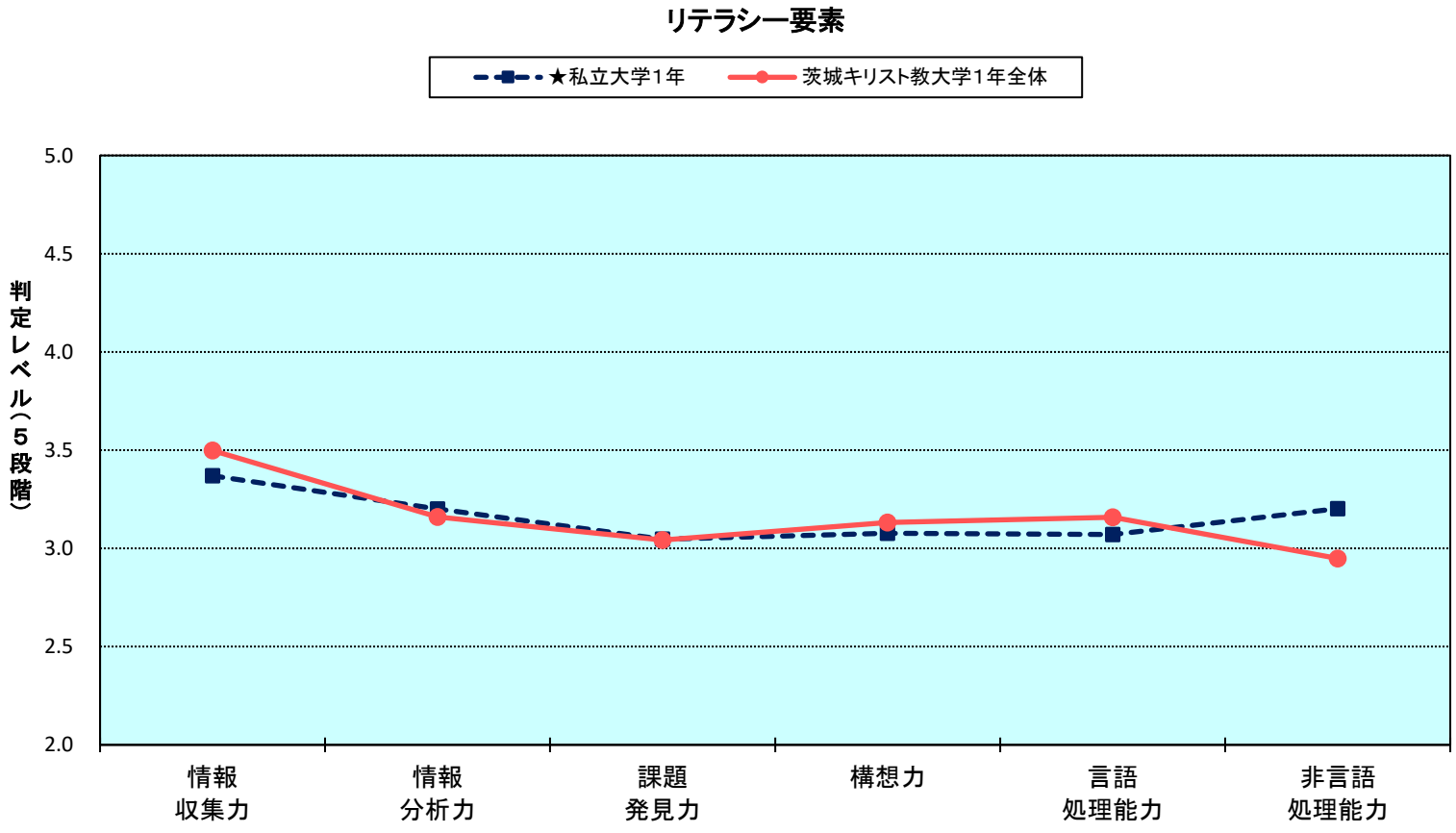
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

【茨城キリスト教大学1年全体】

基準集団（★印）と比較して、情報収集力、構想力、言語処理能力の平均値は高い。

一方、情報分析力、課題発見力の平均値は下回る傾向にあり、非言語処理能力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

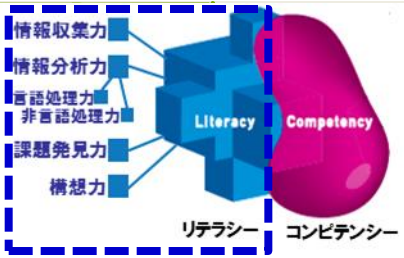
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

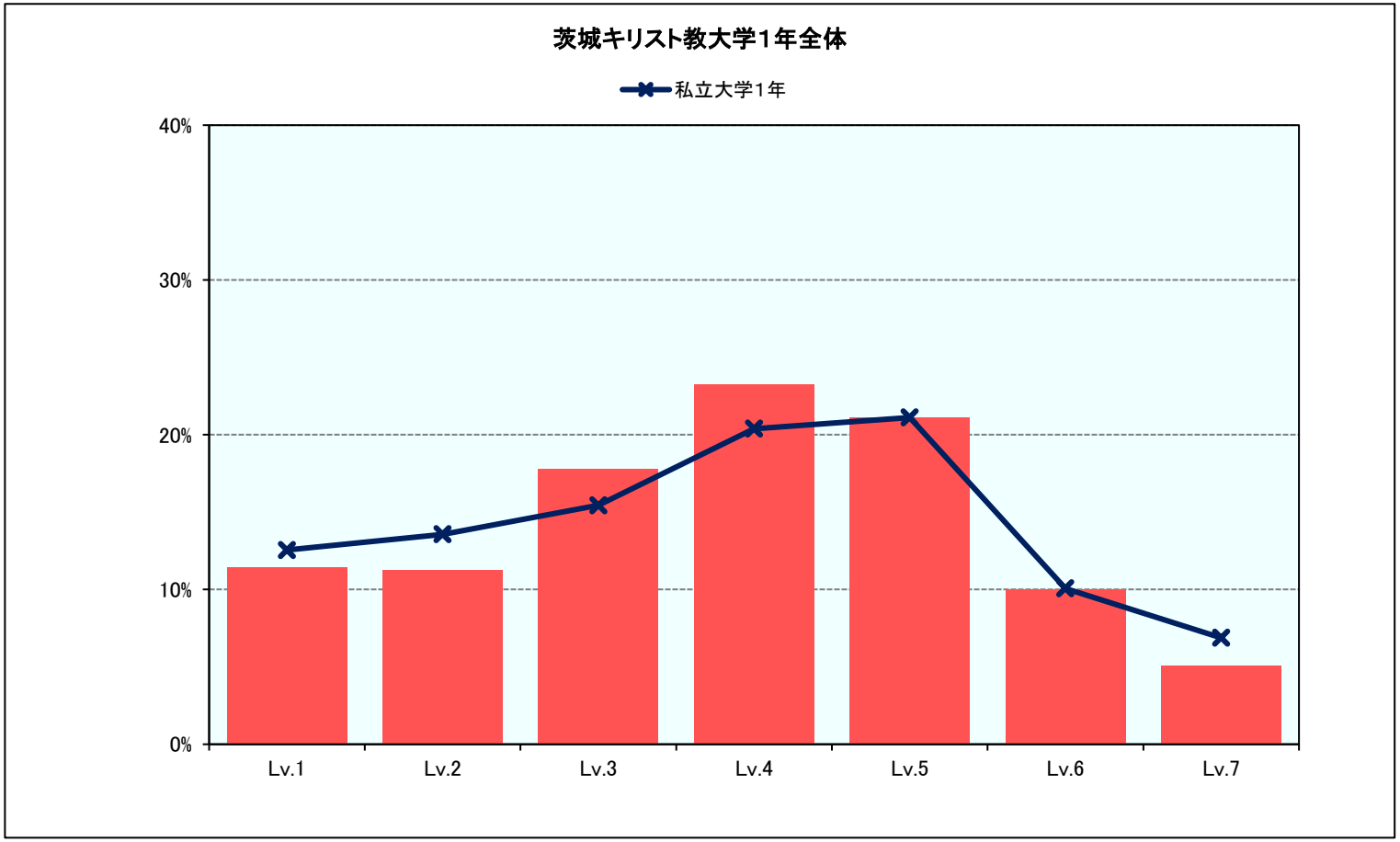
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、茨城キリスト教大学１年全体は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

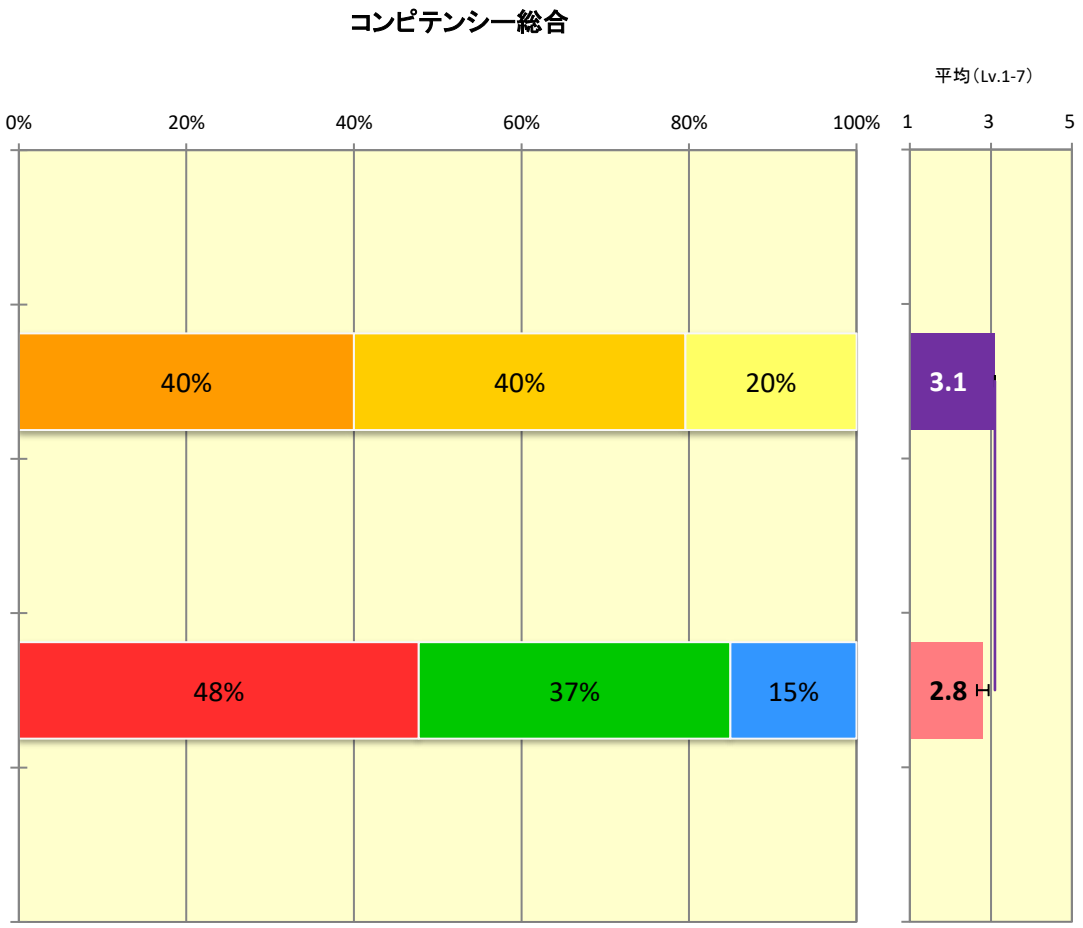
●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学１年	224校　N=348,987

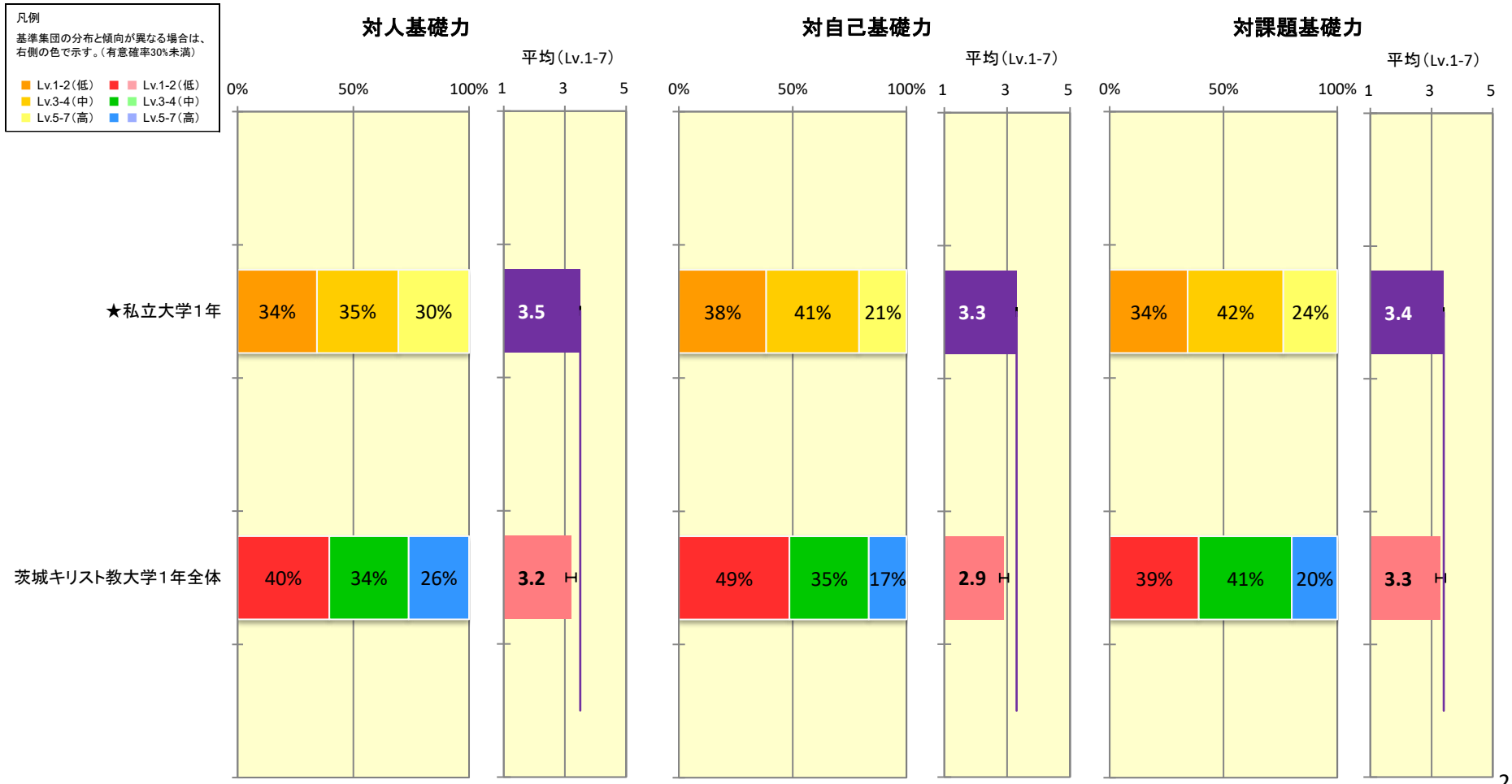
	χ2乗値	有意確率
茨城キリスト教大学１年全体	14.18	0.00



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

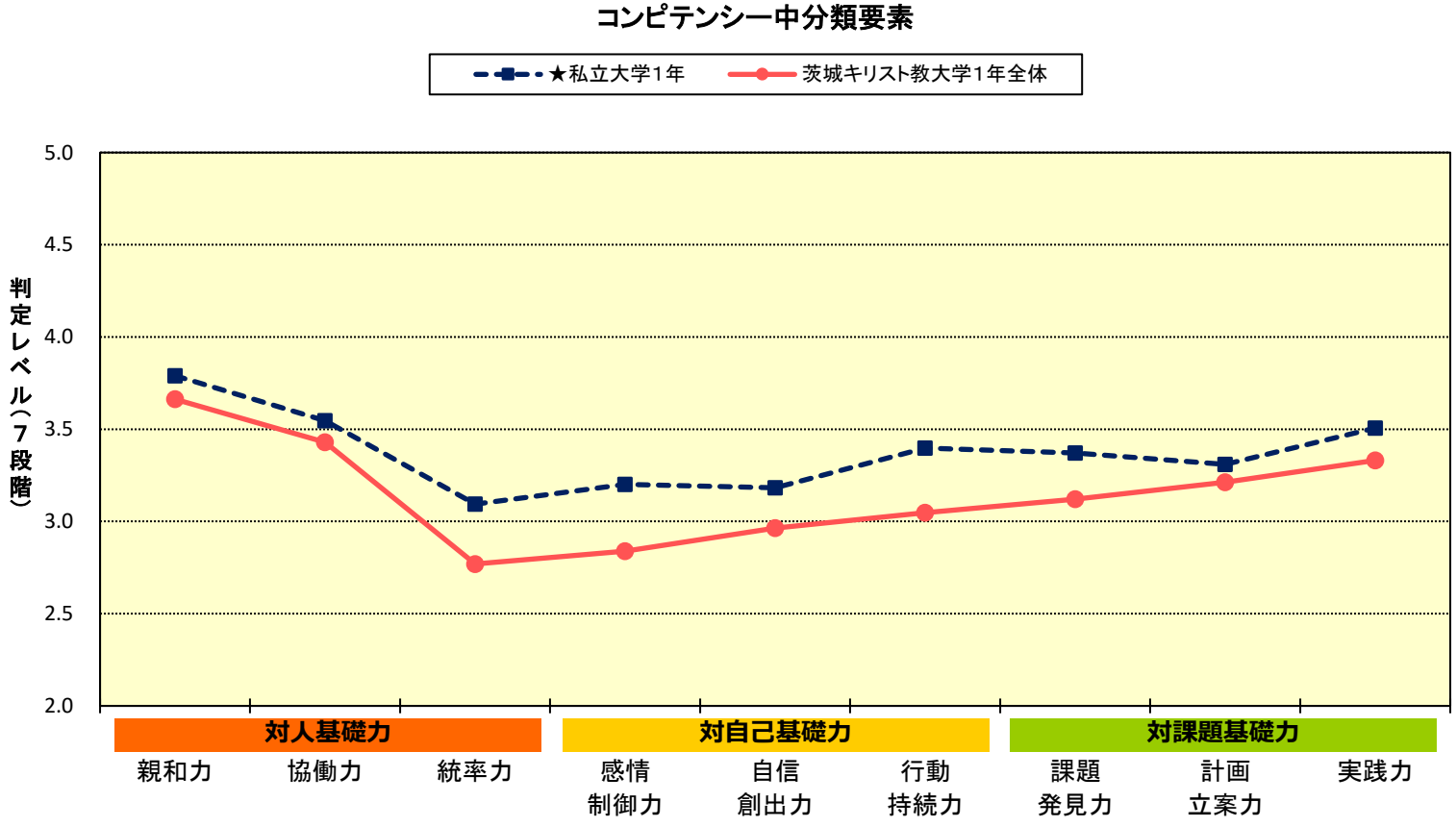
【対人基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、茨城キリスト教大学1年全体は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。
【対自己基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、茨城キリスト教大学1年全体は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。
【対課題基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、茨城キリスト教大学1年全体は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

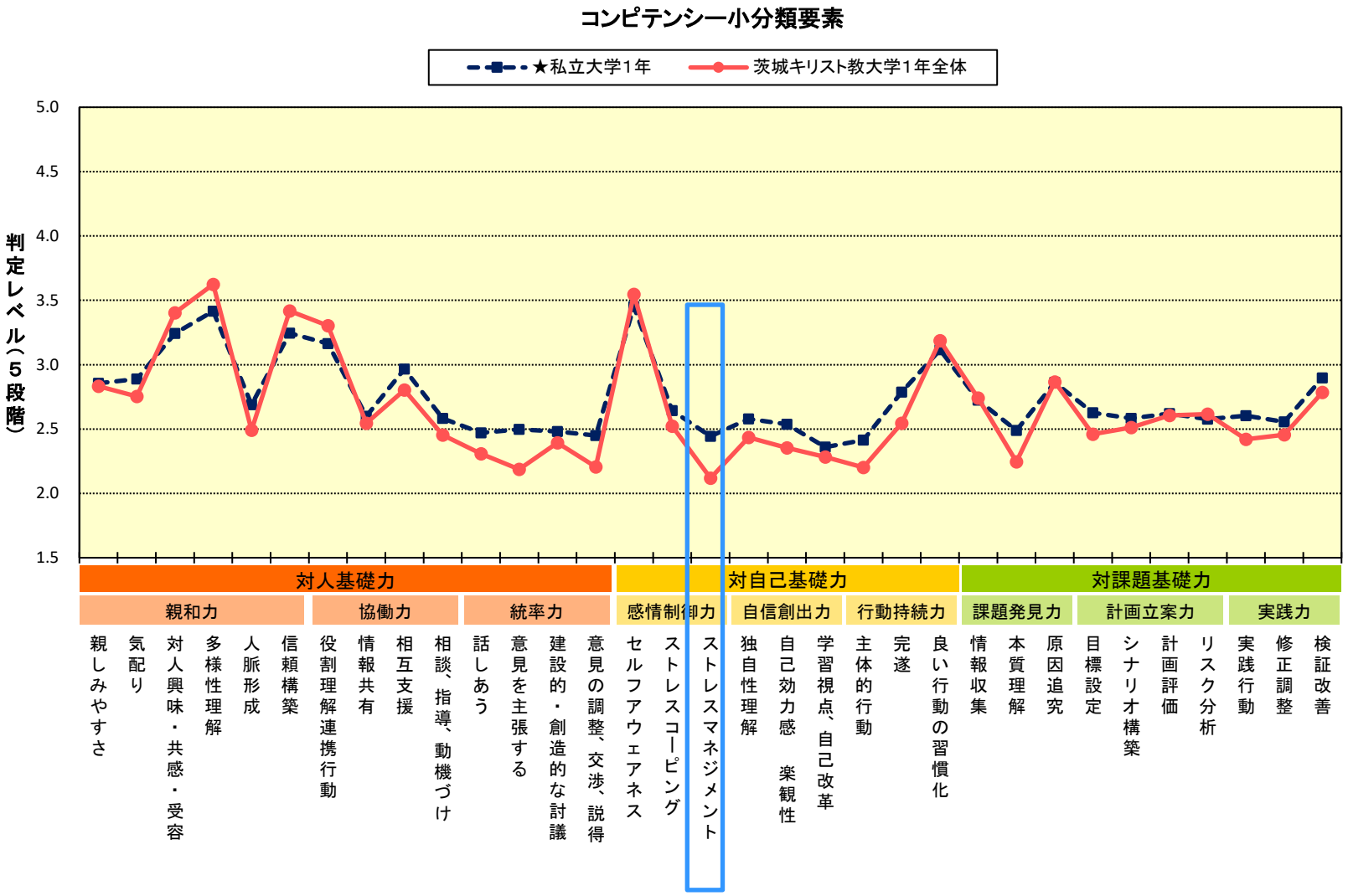
コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【茨城キリスト教大学1年全体】
基準集団（★印）と比較して、
親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は低い。



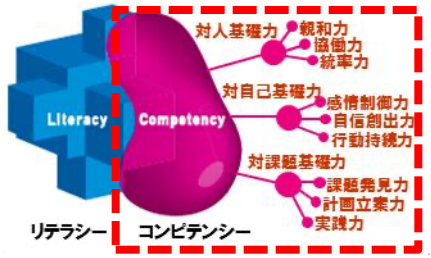
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

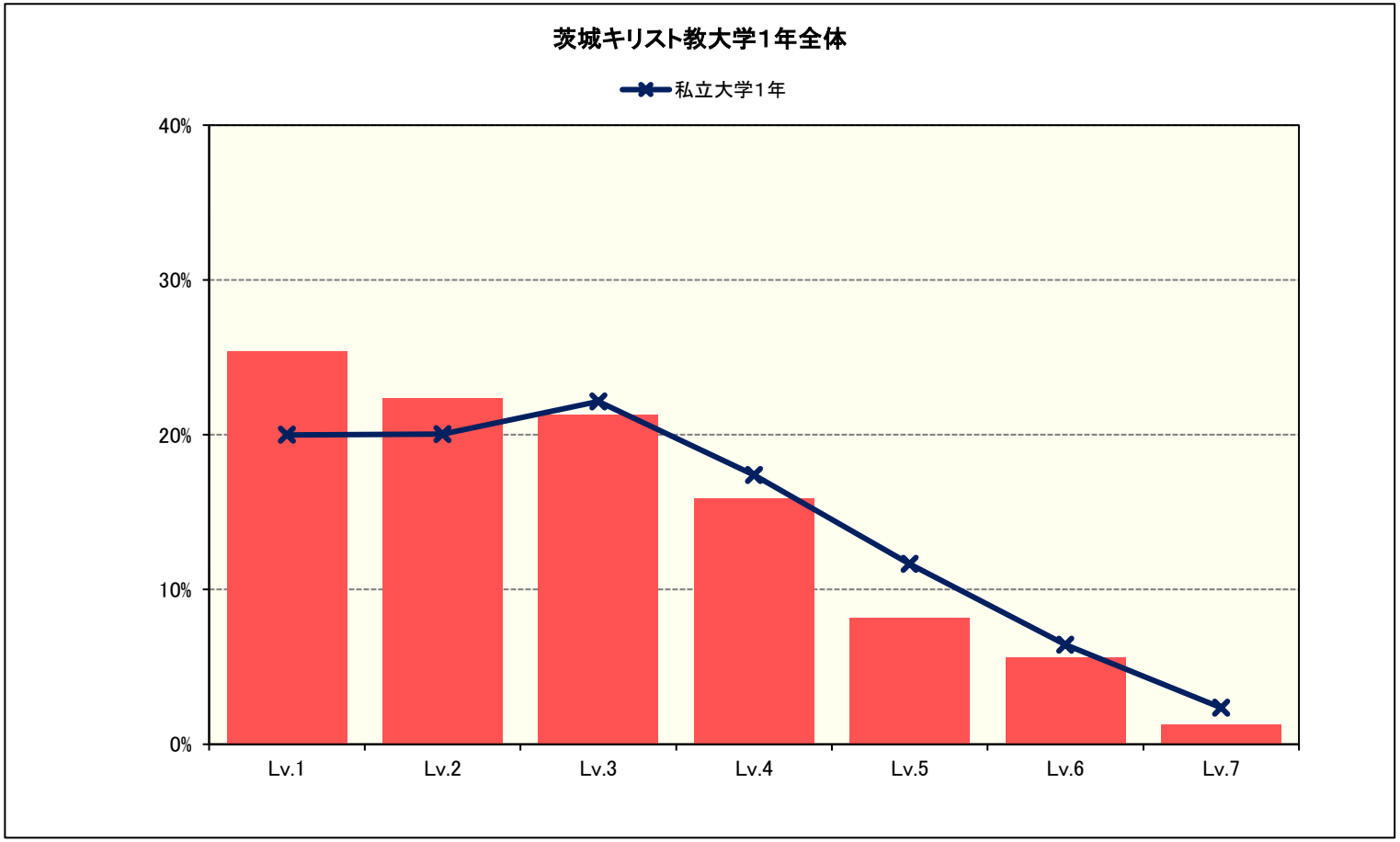
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向



コンピテンシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
茨城キリスト教大学１年全体	-	◎	-	-	◎	■	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【茨城キリスト教大学１年全体】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状（お礼メール）など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
	●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●自信創出力	仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	自分のオリジナリティにこだわるように指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる 与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する
	●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにいている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
	●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的で妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける
	●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2
1年生全体集計
（文学部）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、児童教育コース1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

●基準集団（★印）と比較して、文学部1年、文化交流学科1年は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

凡例（リテラシー総合）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

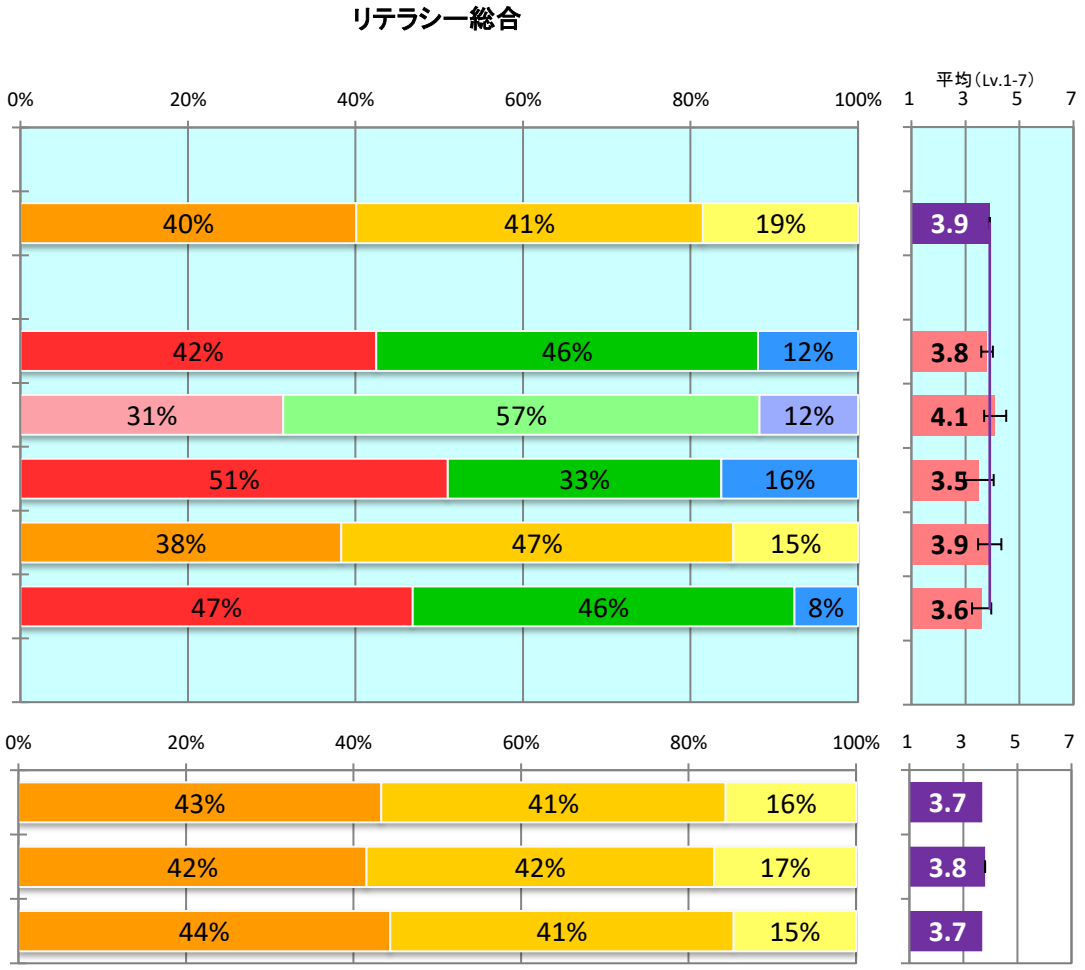
【基準集団】

★大学1年	185校　N=105,103

	χ2乗値	有意確率
文学部1年	6.57	0.04
現代英語学科1年	5.19	0.07
児童教育コース1年	2.48	0.29
幼児保育コース1年	0.71	0.70
文化交流学科1年	6.32	0.04

【ご参考基準集団】

大学文系1年	118校　N=56,594
私立大学1年	154校　N=99,322
私立大学文系1年	108校　N=54,503

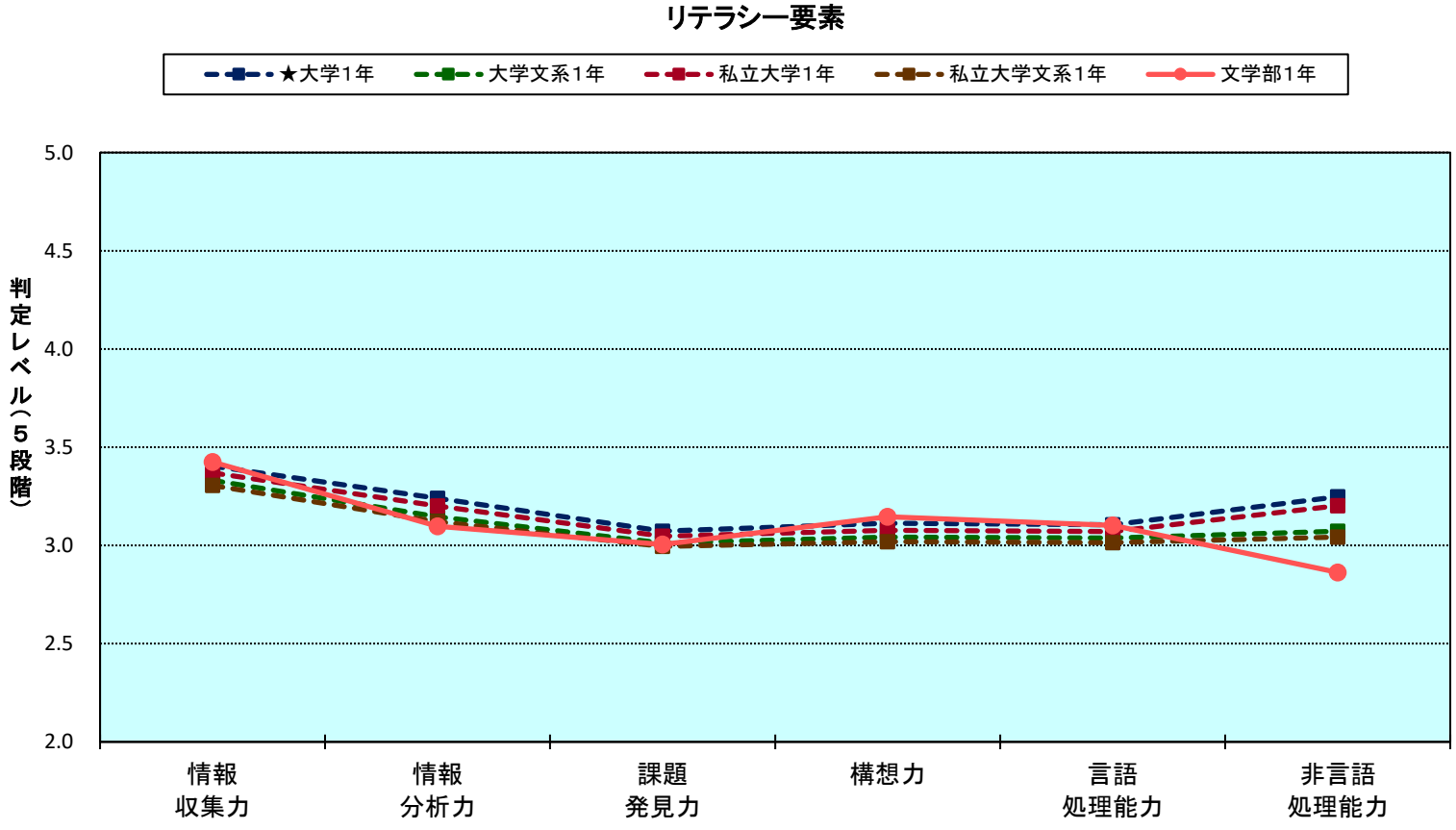


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【文学部1年】

基準集団（★印）と比較して、情報収集力、構想力の平均値は上回る傾向にある。
一方、課題発見力、言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報分析力、非言語処理能力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

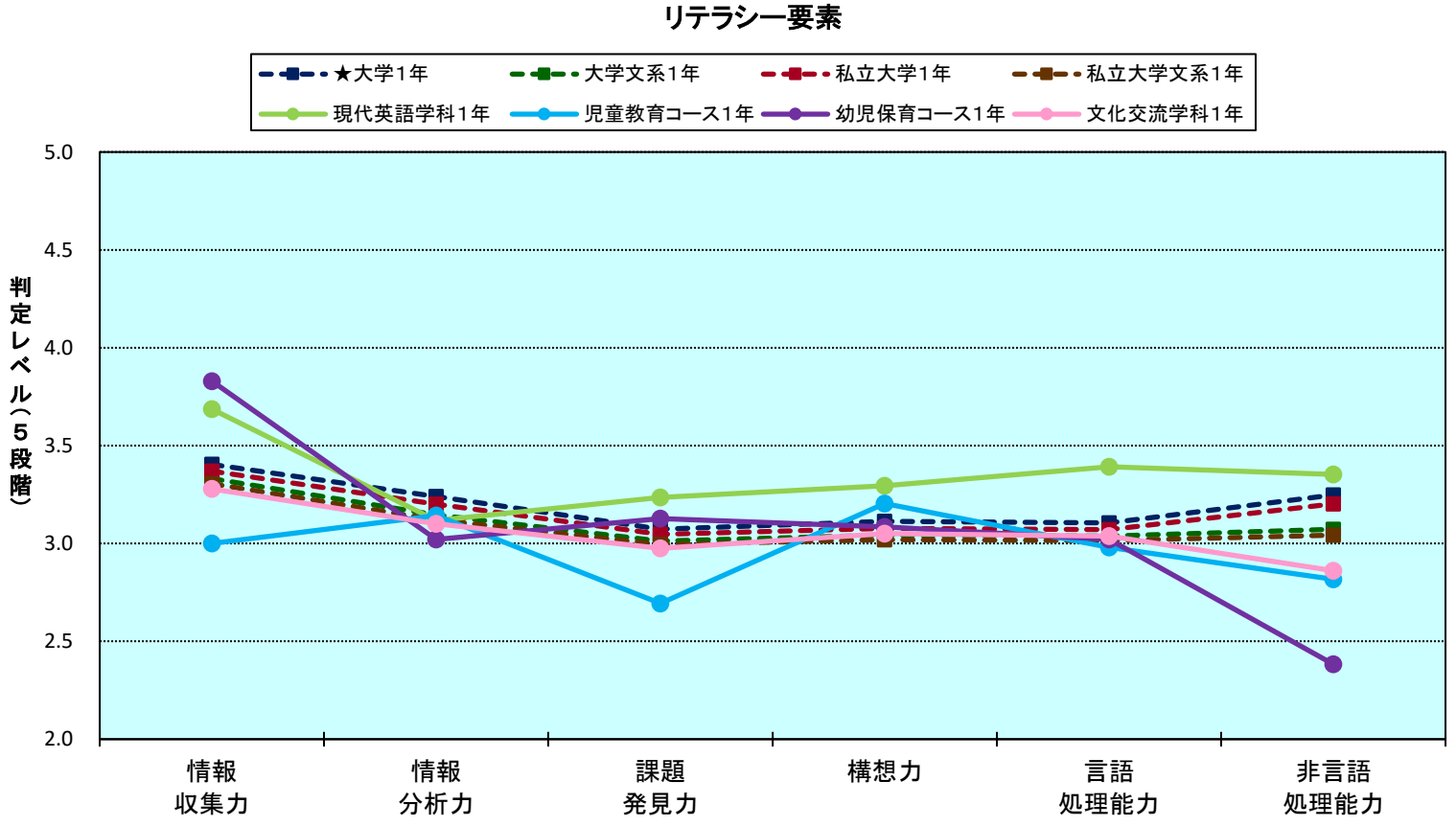
リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【現代英語学科1年】
基準集団（★印）と比較して、情報収集力、課題発見力、構想力、言語処理能力の平均値は高く、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報分析力の平均値は下回る傾向にある。

【児童教育コース1年】
基準集団（★印）と比較して、構想力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報分析力、言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報収集力、課題発見力、非言語処理能力の平均値は低い。

【幼児保育コース1年】
基準集団（★印）と比較して、情報収集力の平均値は高く、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。
一方、構想力、言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報分析力、非言語処理能力の平均値は低い。

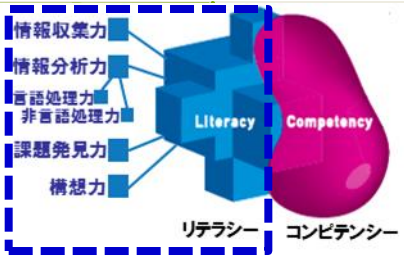
【文化交流学科1年】
基準集団（★印）と比較して、情報収集力、課題発見力、構想力、言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報分析力、非言語処理能力の平均値は低い。



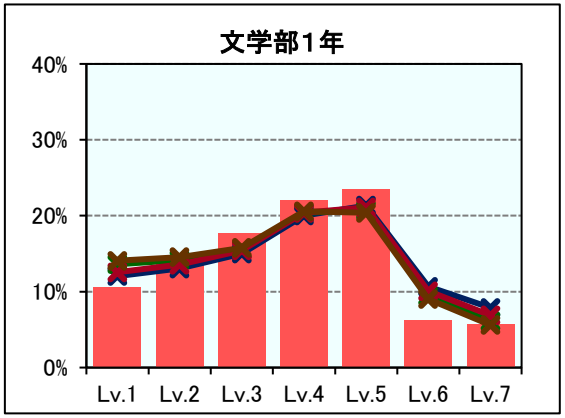
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

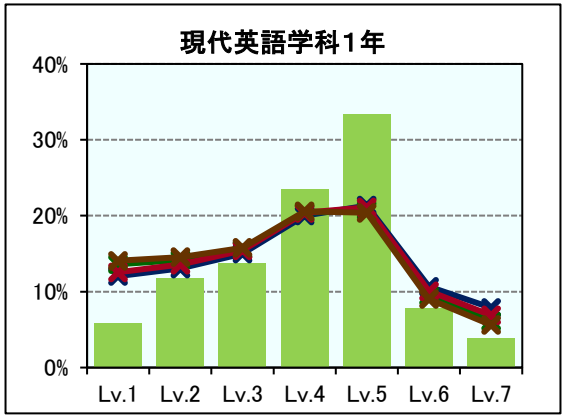
リテラシー総合　判定レベルの分布

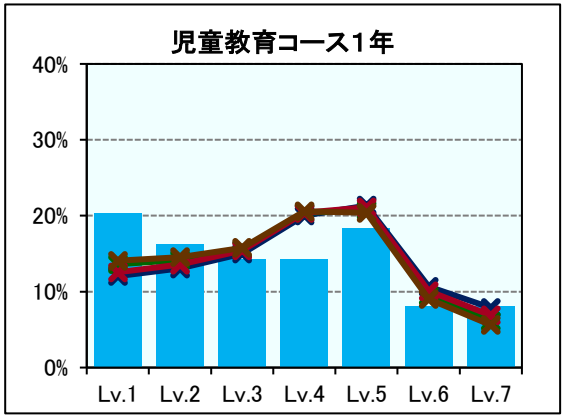
オプション分析

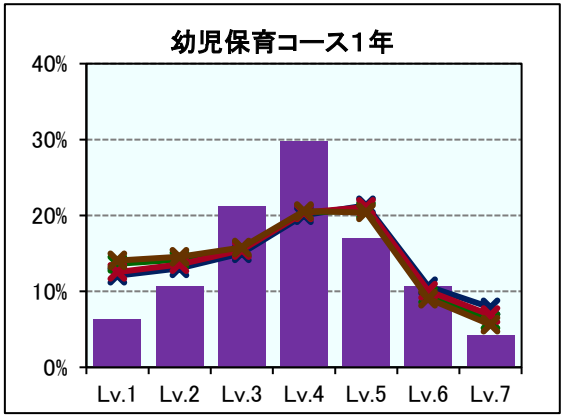


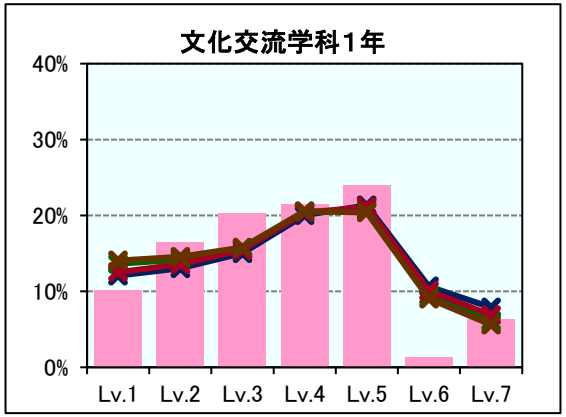












コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、文学部1年は、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる。

●基準集団（★印）と比較して、幼児保育コース1年は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

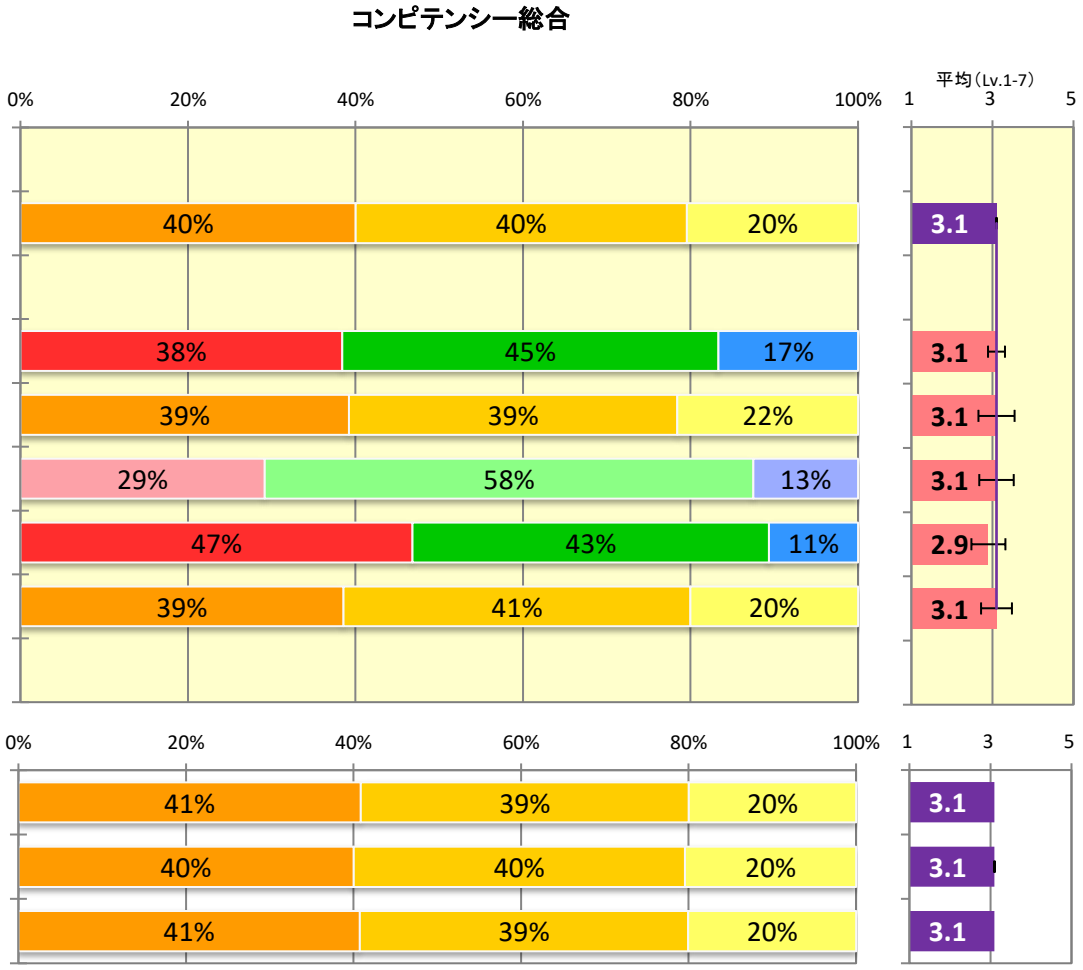
【基準集団】

★大学1年	281校　N=378,892

	χ2乗値	有意確率
文学部1年	3.25	0.20
現代英語学科1年	0.04	0.98
児童教育コース1年	7.21	0.03
幼児保育コース1年	2.86	0.24
文化交流学科1年	0.11	0.95

【ご参考基準集団】

大学文系1年	176校　N=198,613
私立大学1年	224校　N=348,987
私立大学文系1年	155校　N=189,228



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】

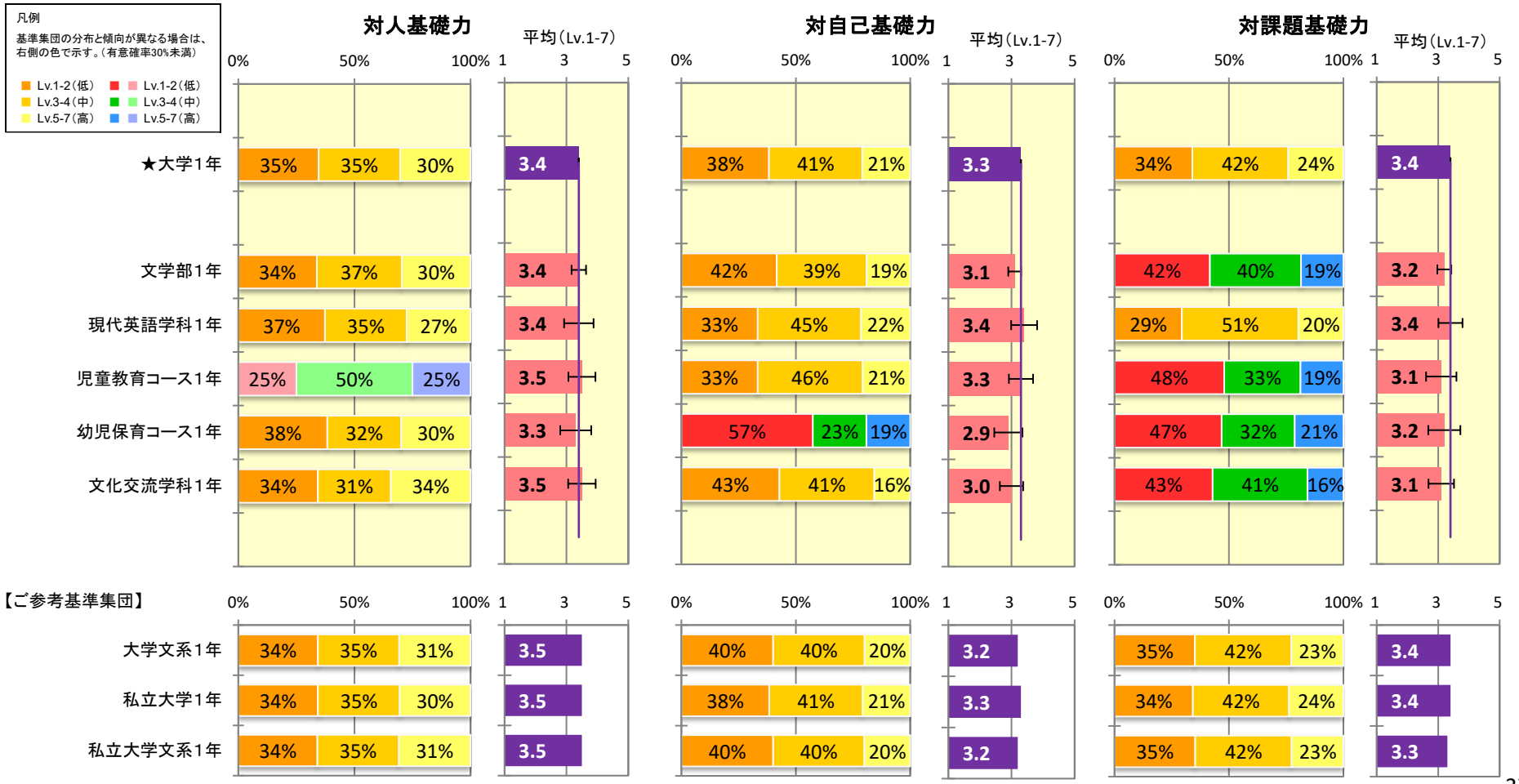
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

【対自己基礎力】

●基準集団（★印）と比較して、幼児保育コース1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対課題基礎力】

●基準集団（★印）と比較して、
文学部1年、児童教育コース1年、幼児保育コース1年、文化交流学科1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

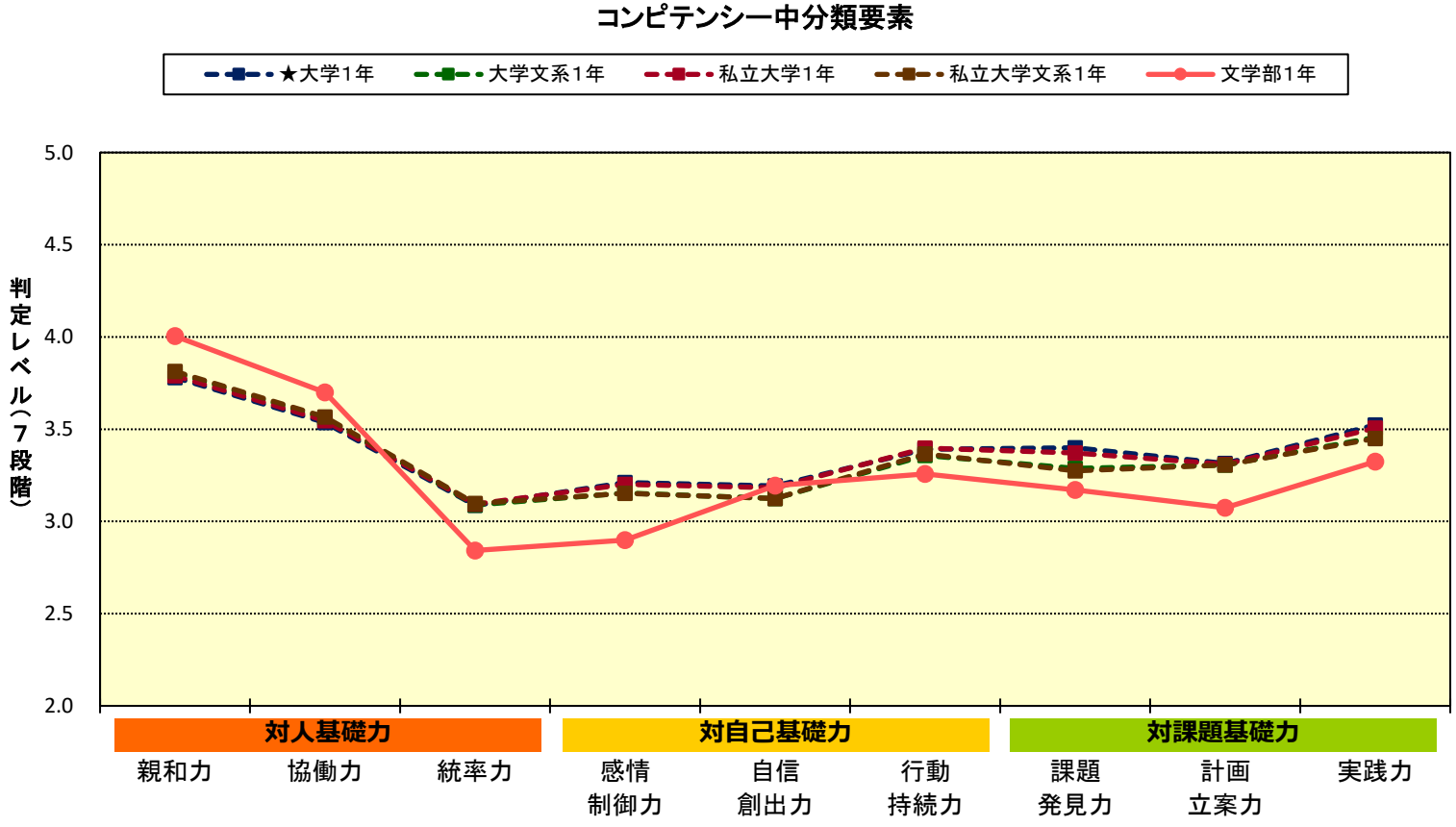


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　①

【文学部1年】

基準集団（★印）と比較して、親和力、協働力の平均値は高く、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。
一方、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

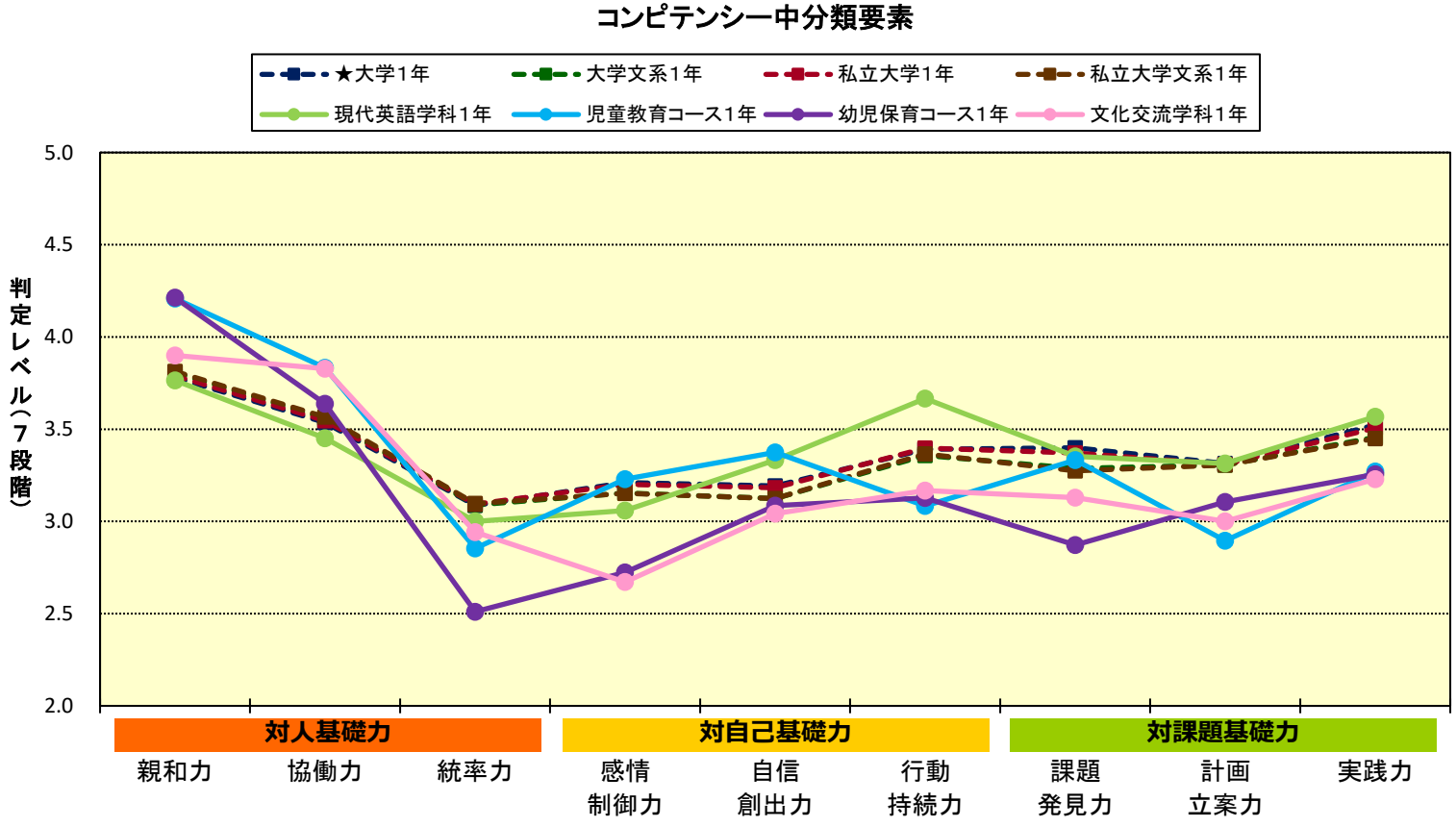
コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　②

【現代英語学科1年】
基準集団（★印）と比較して、行動持続力の平均値は高く、自信創出力、実践力の平均値は上回る傾向にある。
一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、課題発見力、計画立案力の平均値は下回る傾向にある。

【児童教育コース1年】
基準集団（★印）と比較して、親和力、協働力の平均値は高く、感情制御力、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。
一方、統率力、課題発見力の平均値は下回る傾向にあり、行動持続力、計画立案力、実践力の平均値は低い。

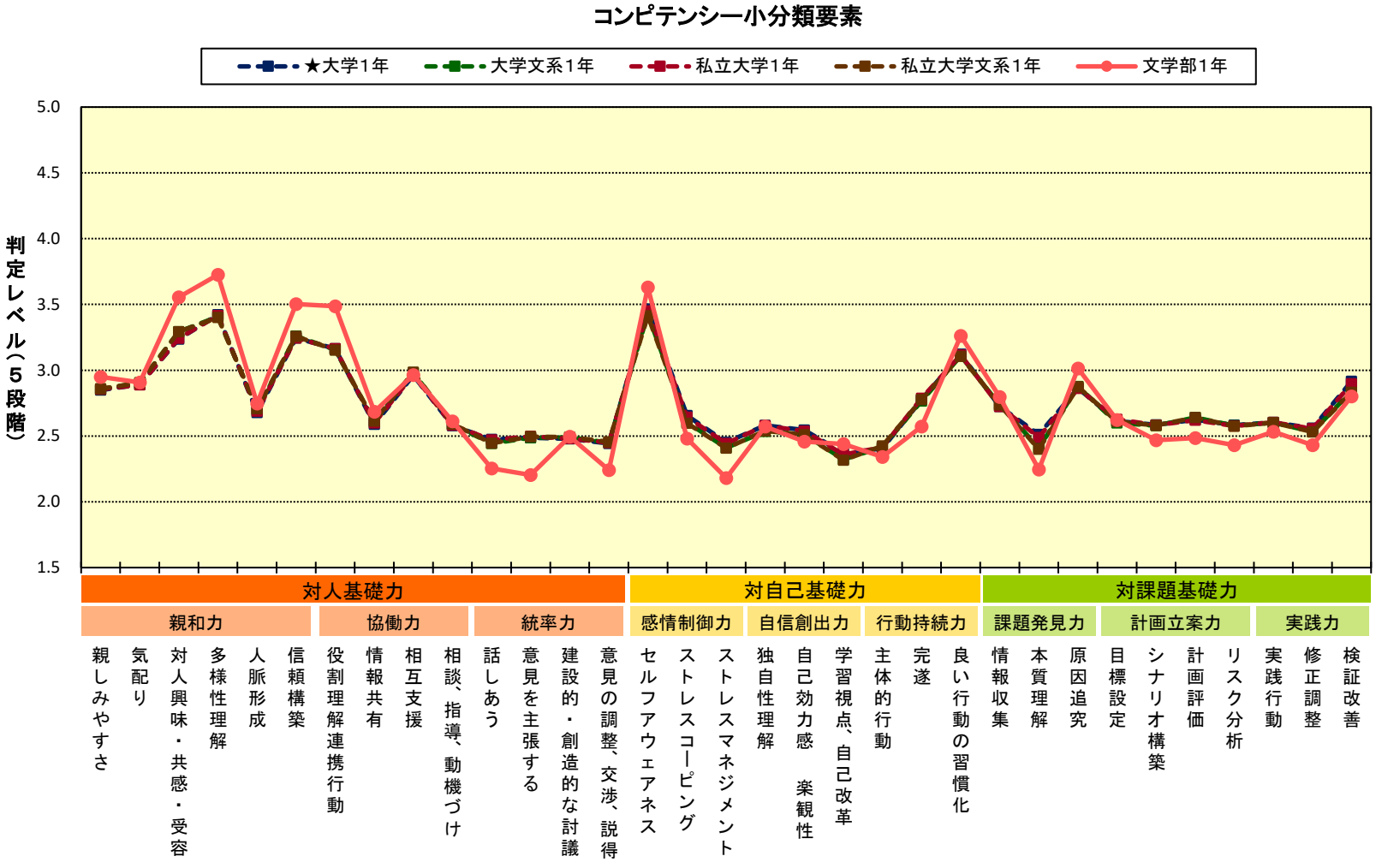
【幼児保育コース1年】
基準集団（★印）と比較して、親和力の平均値は高く、協働力の平均値は上回る傾向にある。
一方、自信創出力、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、実践力の平均値は低い。

【文化交流学科1年】
基準集団（★印）と比較して、協働力の平均値は高く、親和力の平均値は上回る傾向にある。
一方、統率力、自信創出力の平均値は下回る傾向にあり、感情制御力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は低い。

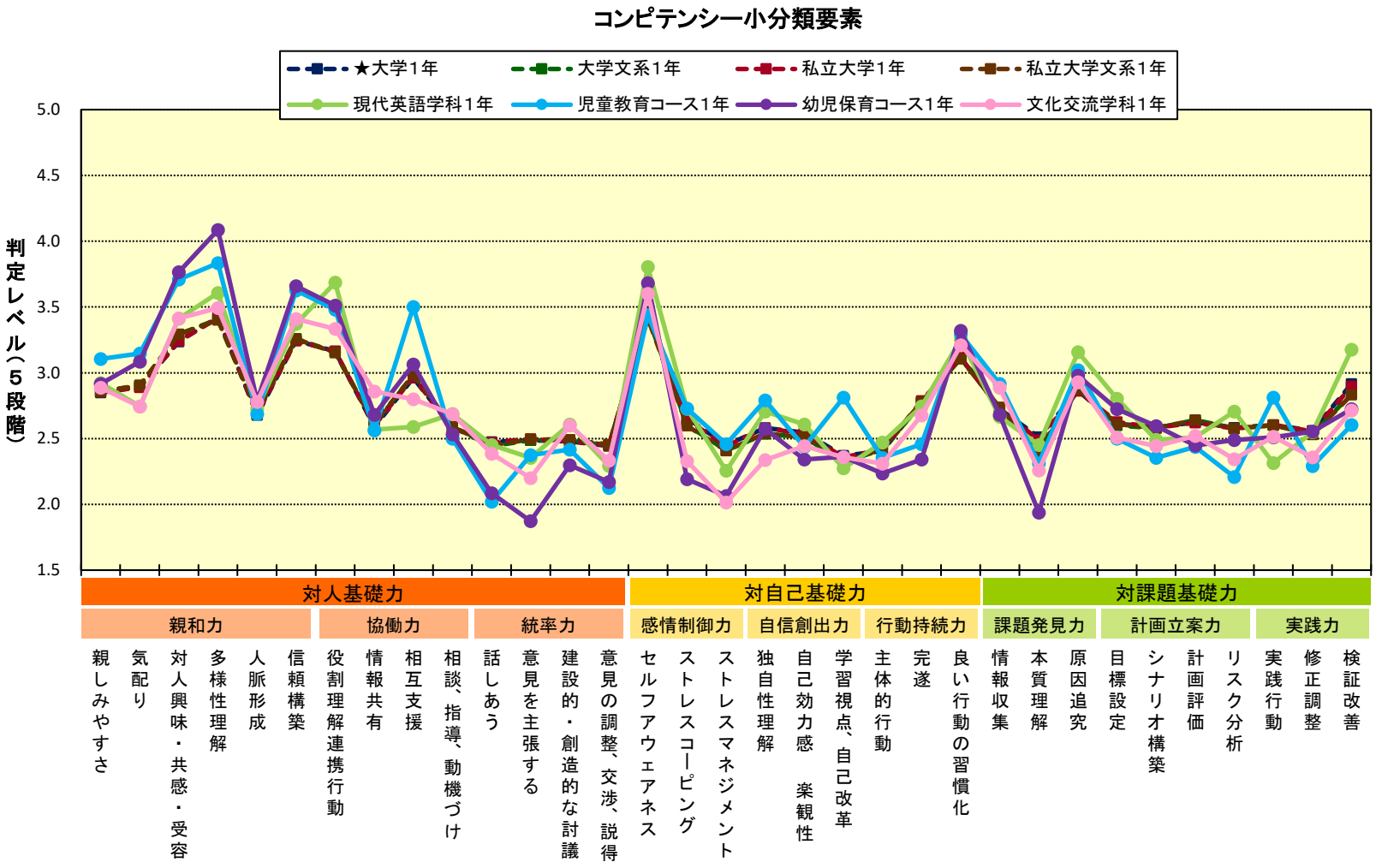


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　①

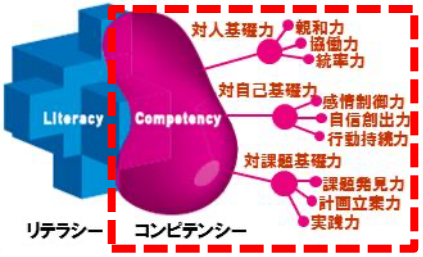


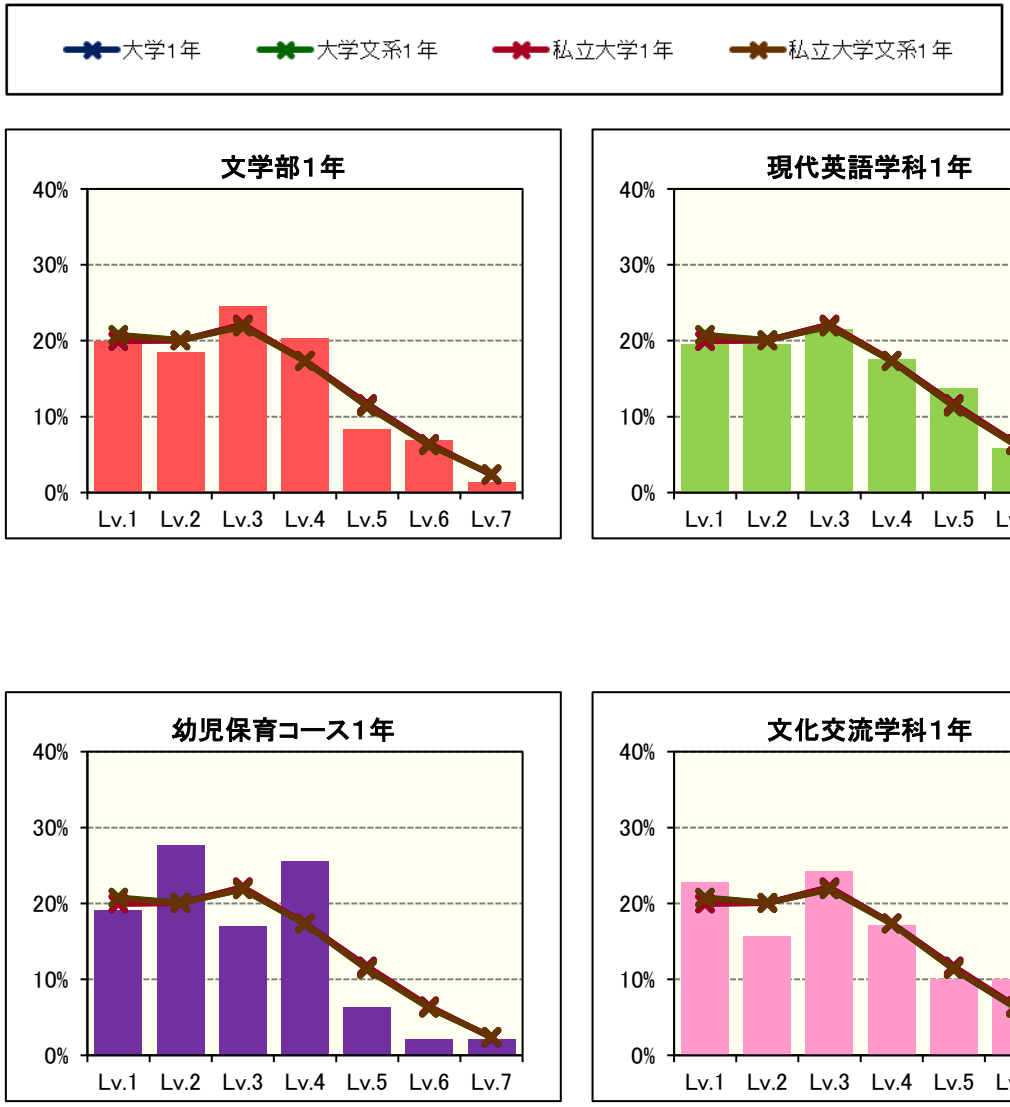
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　②



コンピテンシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
文学部１年	▲	-	▲	-	-	△	◎	◎	▲	▲	-	▲	▲	▲	▲
現代英語学科１年	-	◎	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-
児童教育コース１年	■	▲	-	▲	-	-	◎	◎	-	-	-	▲	-	▲	▲
幼児保育コース１年	-	◎	▲	-	-	▲	◎	-	▲	▲	-	▲	▲	-	▲
文化交流学科１年	▲	-	▲	-	-	-	-	◎	-	▲	-	▲	▲	▲	▲

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策 ①

【文学部１年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●情報分析力	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複数のデータから総合的に情報を読み取らせる／複数の視点から問題を客観的に分析させる／物事を批判的に捉え問題の本質を掘り下げさせる
■コンピテンシー	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにいている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
	●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的で妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける
	●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

【現代英語学科１年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

今後の課題と対策 ②

【児童教育コース1年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●情報収集力	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	目的に応じた検索方法・情報源の活用を求める／書籍や雑誌、新聞などの特性を理解し活用させる／インターネットの問題点を認識させた上で活用させる／情報の作成者や発信元を調べ情報の信頼性を確認させる／知識をノートにまとめ整理させる／情報をテーマごとに分類しファイルリングさせる
	●課題発見力	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	ブレーンストーミングなどの手法を用い既成概念に囚われず広く深く発想させる／SWOT分析などの手法をも用いて問題点を洗い出させる／親和図法・KJ法などの手法を用いて情報を分類・結合し、階層化・構造化させる
■コンピテンシー	●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにいている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
	●計画立案力	課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる 立案した計画や目標に自分なりに取り組むことができる 条件が明確な課題であれば、発生しそうな問題を予め考えることができる 起こりうる事象を予測し、計画を立て取り組むことができる	ゴール（目指す姿）をイメージしてから、課題に取り組ませる 想定される障害を考慮して代替案を考えるよう指導する 立てた計画について、達成の見込みや問題点を客観的にあげさせる
	●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

今後の課題と対策 ③

【幼児保育コース1年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●情報分析力	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複数のデータから総合的に情報を読み取らせる／複数の視点から問題を客観的に分析させる／物事を批判的に捉え問題の本質を掘り下げさせる
■コンピテンシー	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにいている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
	●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する
	●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

今後の課題と対策 ④

【文化交流学科１年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●情報分析力	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複数のデータから総合的に情報を読み取らせる／複数の視点から問題を客観的に分析させる／物事を批判的に捉え問題の本質を掘り下げさせる
■コンピテンシー	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにいている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
	●計画立案力	課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる 立案した計画や目標に自分なりに取り組むことができる 条件が明確な課題であれば、発生しそうな問題を予め考えることができる 起こりうる事象を予測し、計画を立て取り組むことができる	ゴール（目指す姿）をイメージしてから、課題に取り組ませる 想定される障害を考慮して代替案を考えるよう指導する 立てた計画について、達成の見込みや問題点を客観的にあげさせる
	●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.3
1年生全体集計
（生活科学部）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（リテラシー総合）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

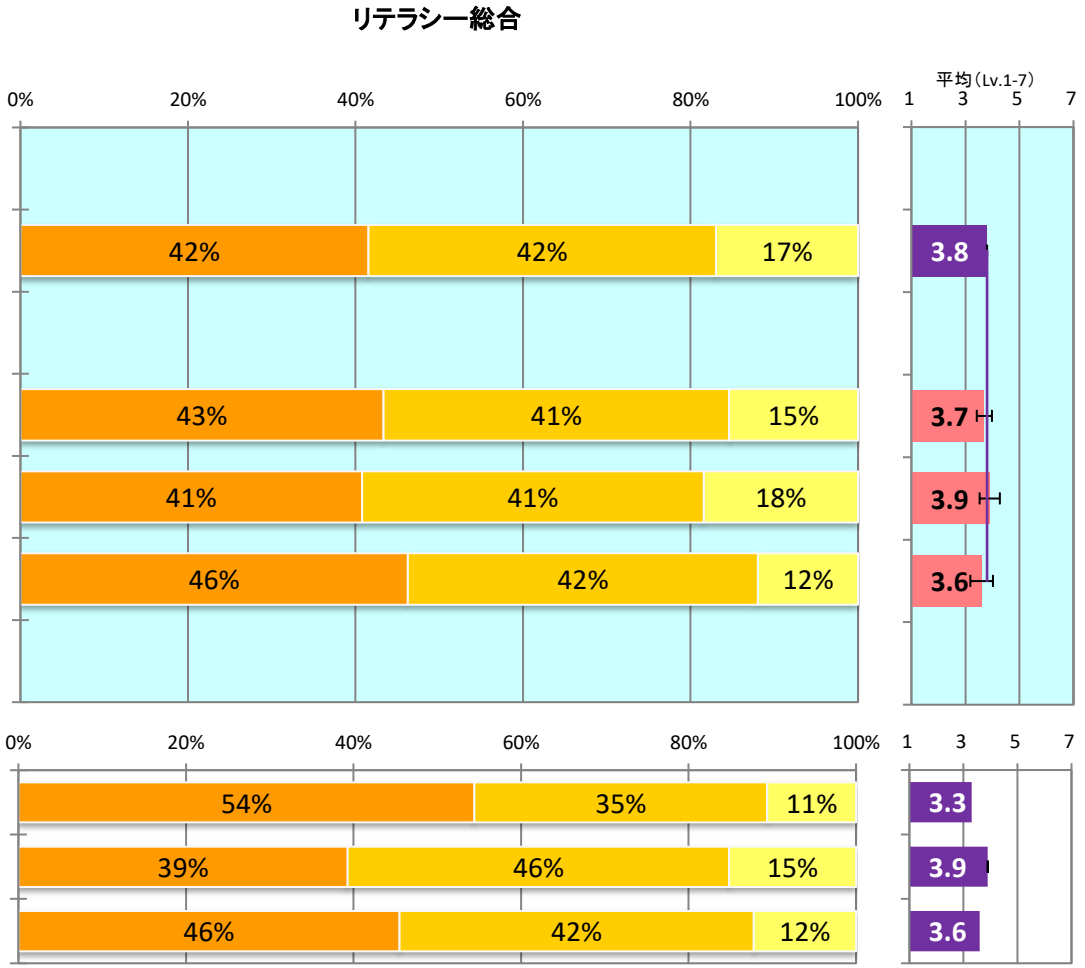
【基準集団】

★私立大学1年	154校　N=99,322

	χ2乗値	有意確率
生活科学部1年	0.32	0.85
心理福祉学科1年	0.12	0.94
食物健康科学科1年	1.35	0.51

【ご参考基準集団】

私立大学1年（福祉学系）	16校　N=1,348
私立大学1年（公認心理師資格対応心理学系）	27校　N=2,843
私立大学1年（食物栄養学系）	19校　N=1,890

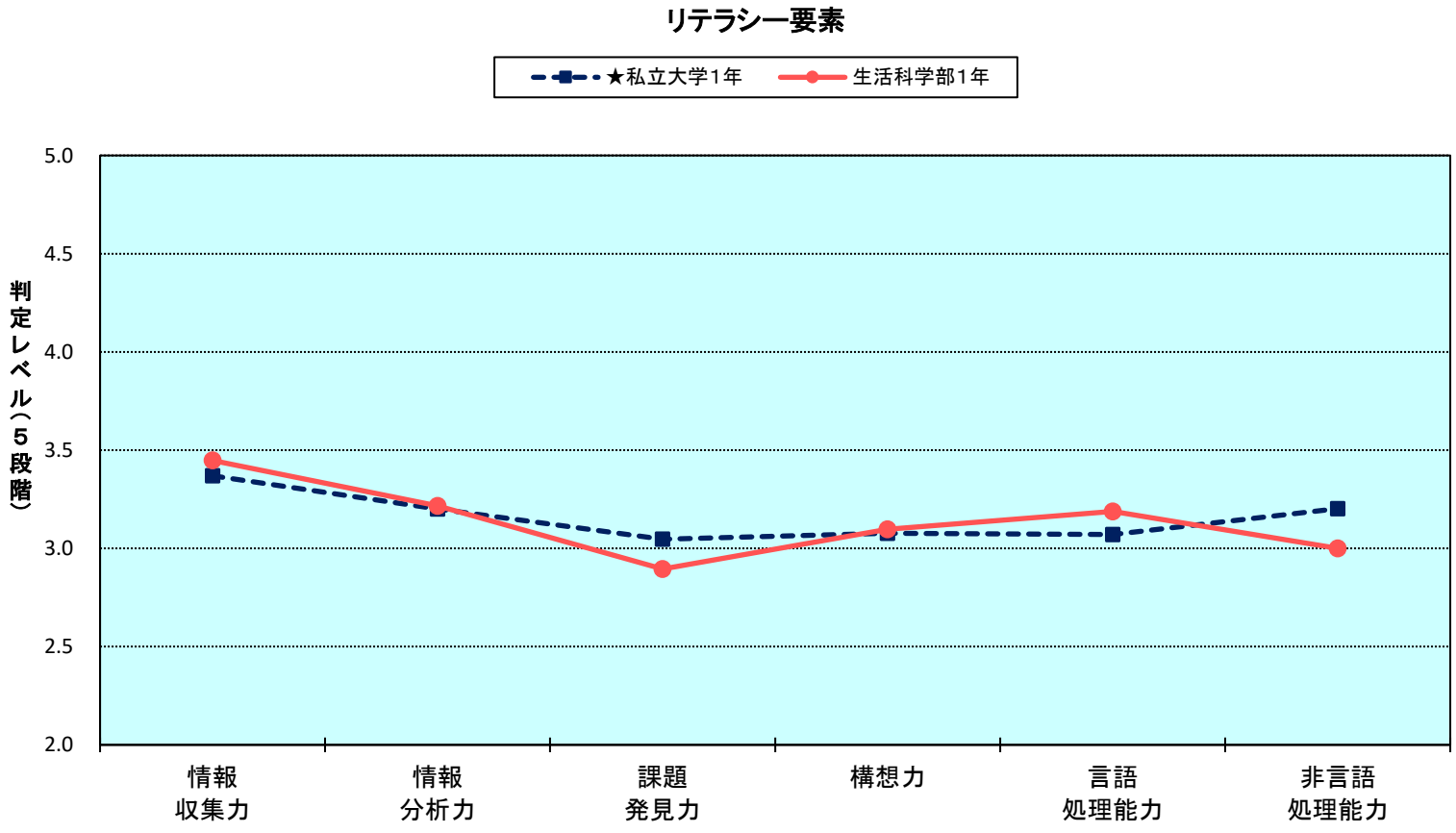


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【生活科学部1年】

基準集団（★印）と比較して、言語処理能力の平均値は高く、情報収集力、情報分析力、構想力の平均値は上回る傾向にある。
一方、課題発見力、非言語処理能力の平均値は低い。



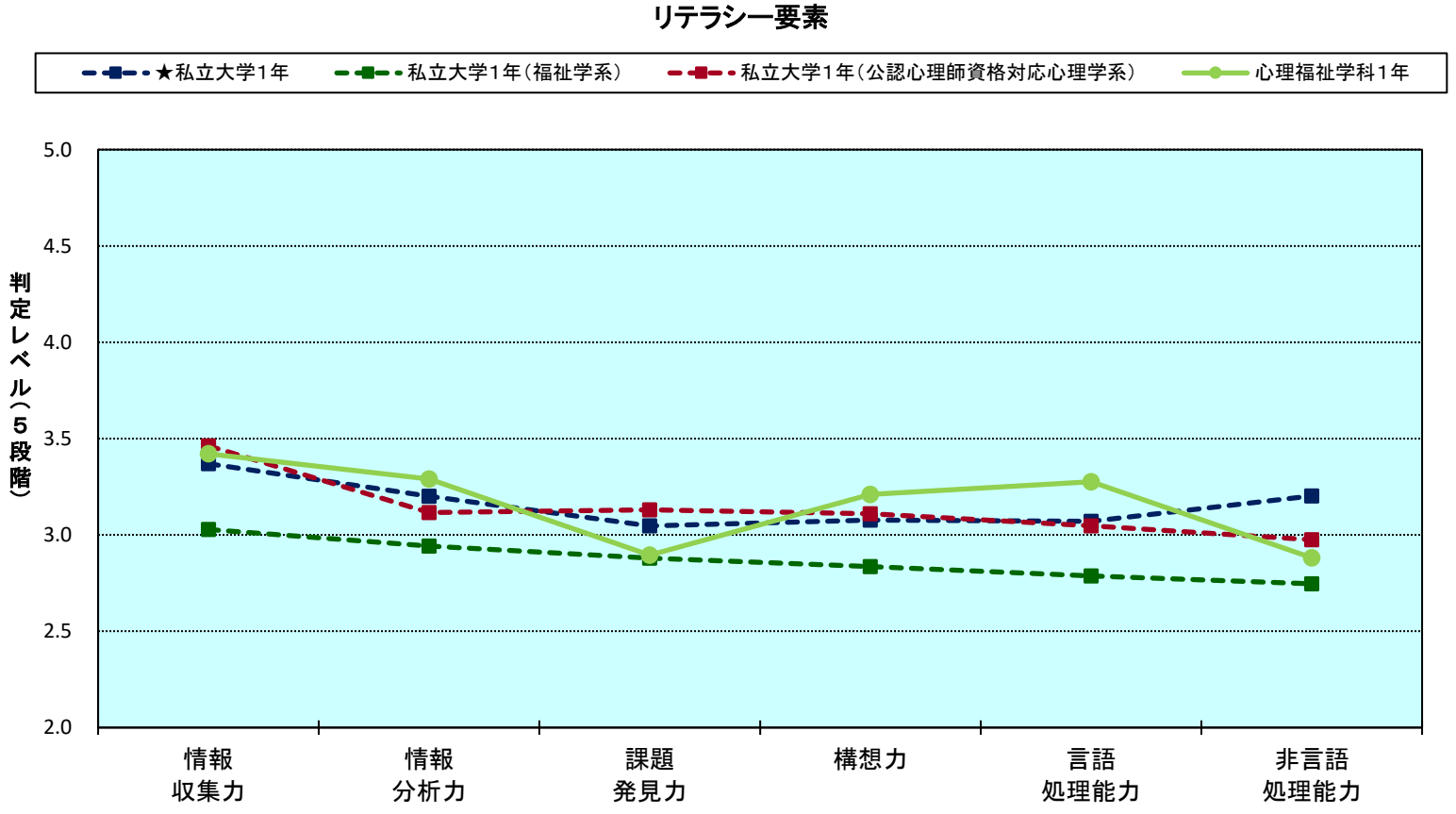
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【心理福祉学科１年】

基準集団（★印）と比較して、言語処理能力の平均値は高く、情報収集力、情報分析力、構想力の平均値は上回る傾向にある。
一方、課題発見力、非言語処理能力の平均値は低い。

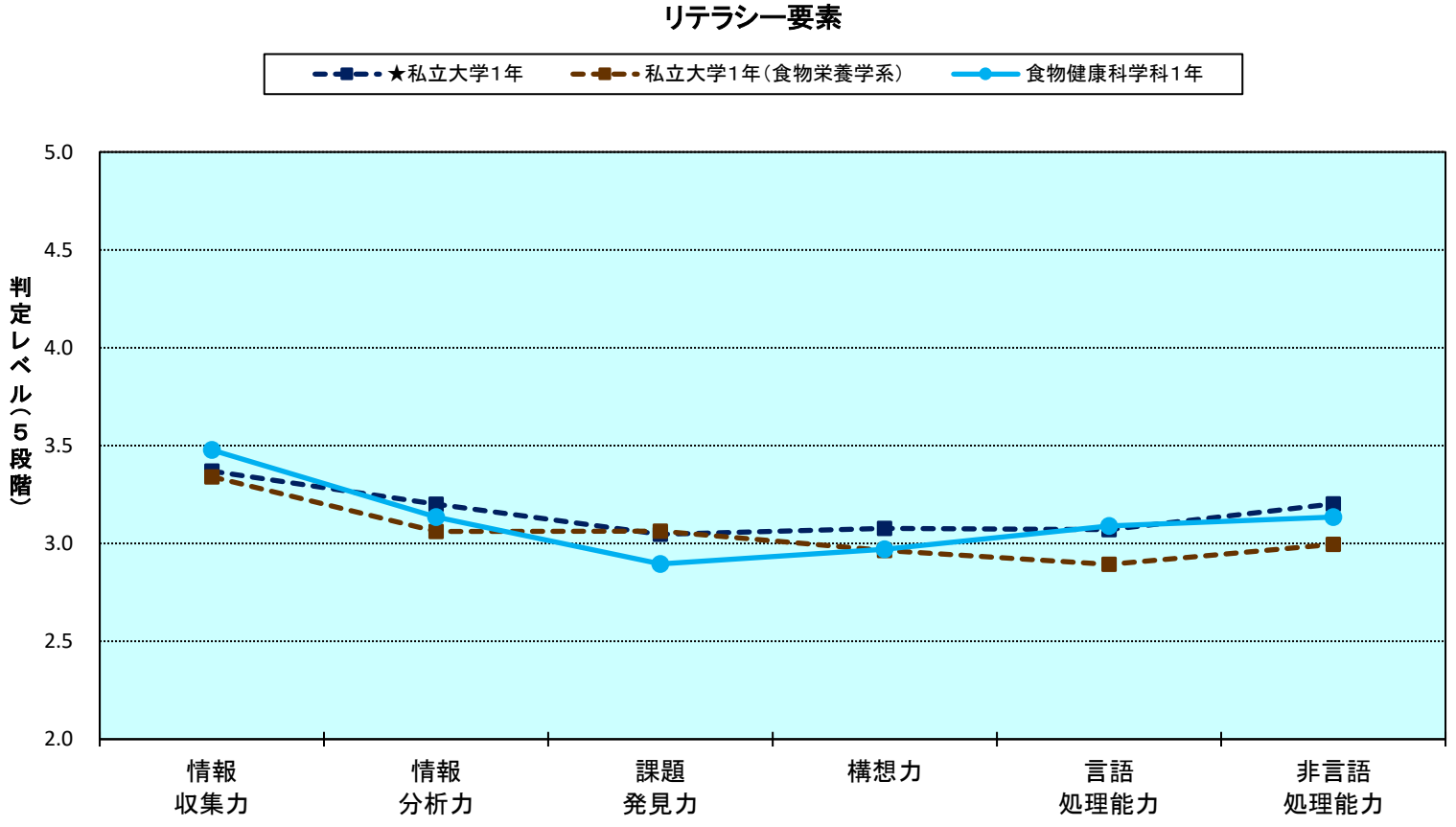


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ③

【食物健康科学科１年】

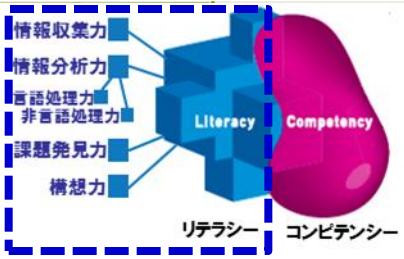
基準集団（★印）と比較して、情報収集力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。



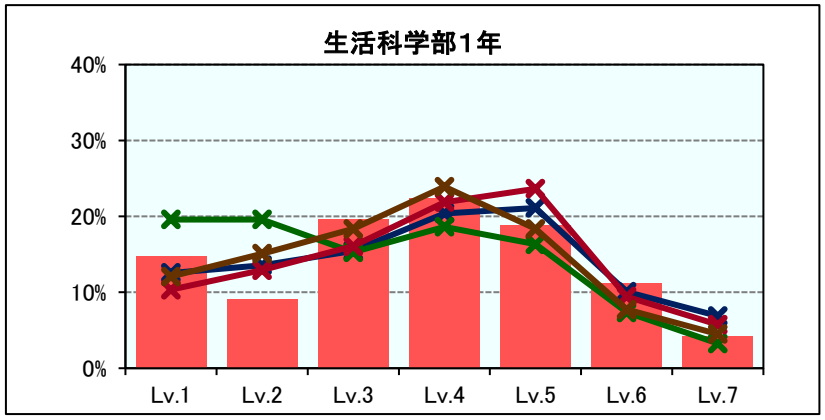
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

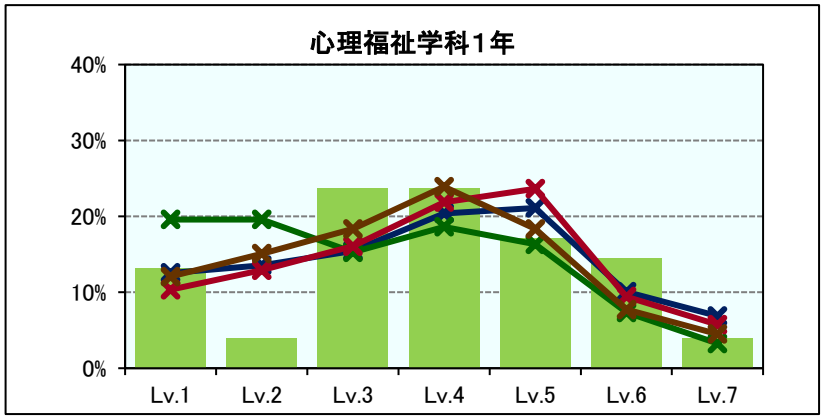
リテラシー総合　判定レベルの分布

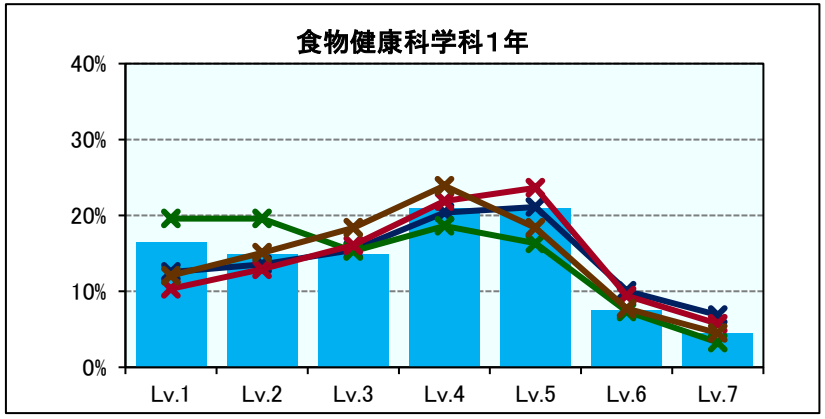
オプション分析











コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、生活科学部1年、心理福祉学科1年、食物健康科学科1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

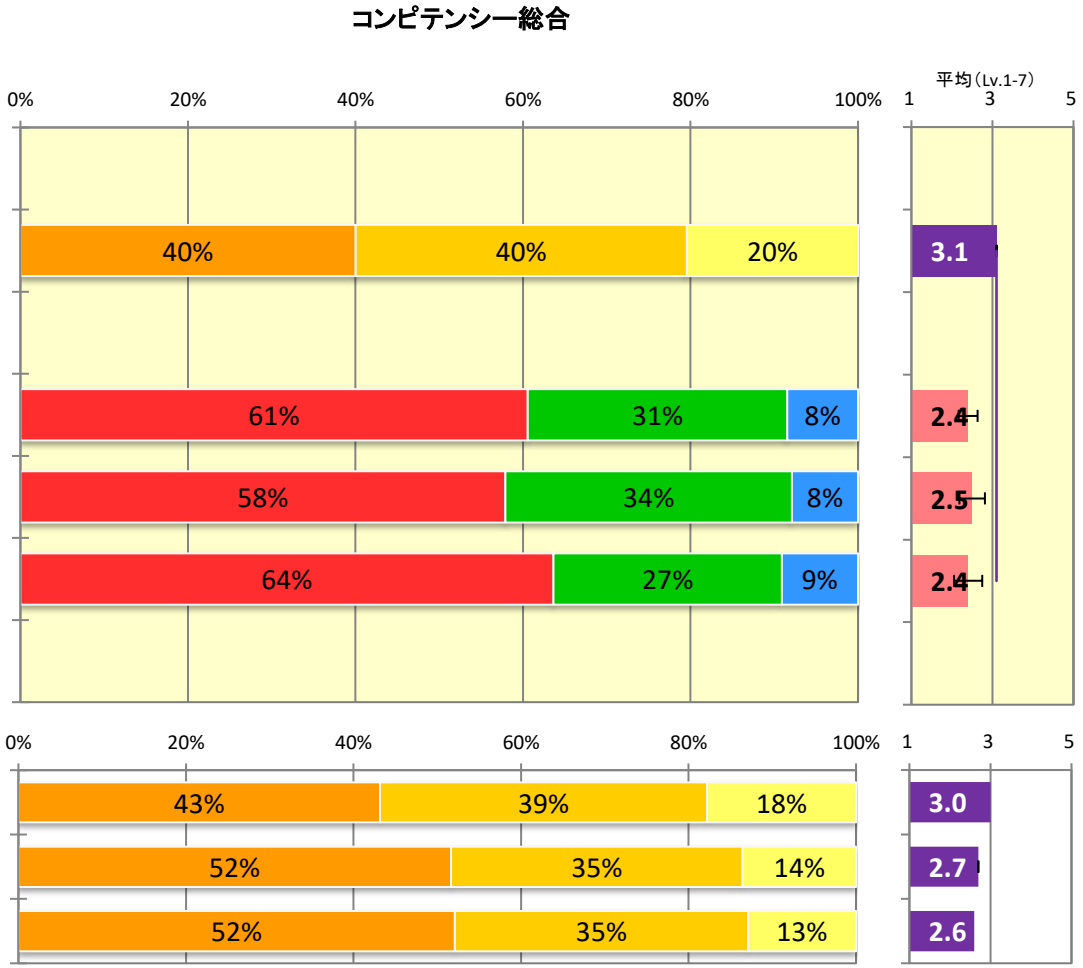
【基準集団】

★私立大学1年	224校　N=348,987

	χ2乗値	有意確率
生活科学部1年	27.60	0.00
心理福祉学科1年	12.47	0.00
食物健康科学科1年	15.87	0.00

【ご参考基準集団】

私立大学1年（福祉学系）	34校　N=14,062
私立大学1年（公認心理師資格対応心理学系）	38校　N=9,886
私立大学1年（食物栄養学系）	22校　N=6,125



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】

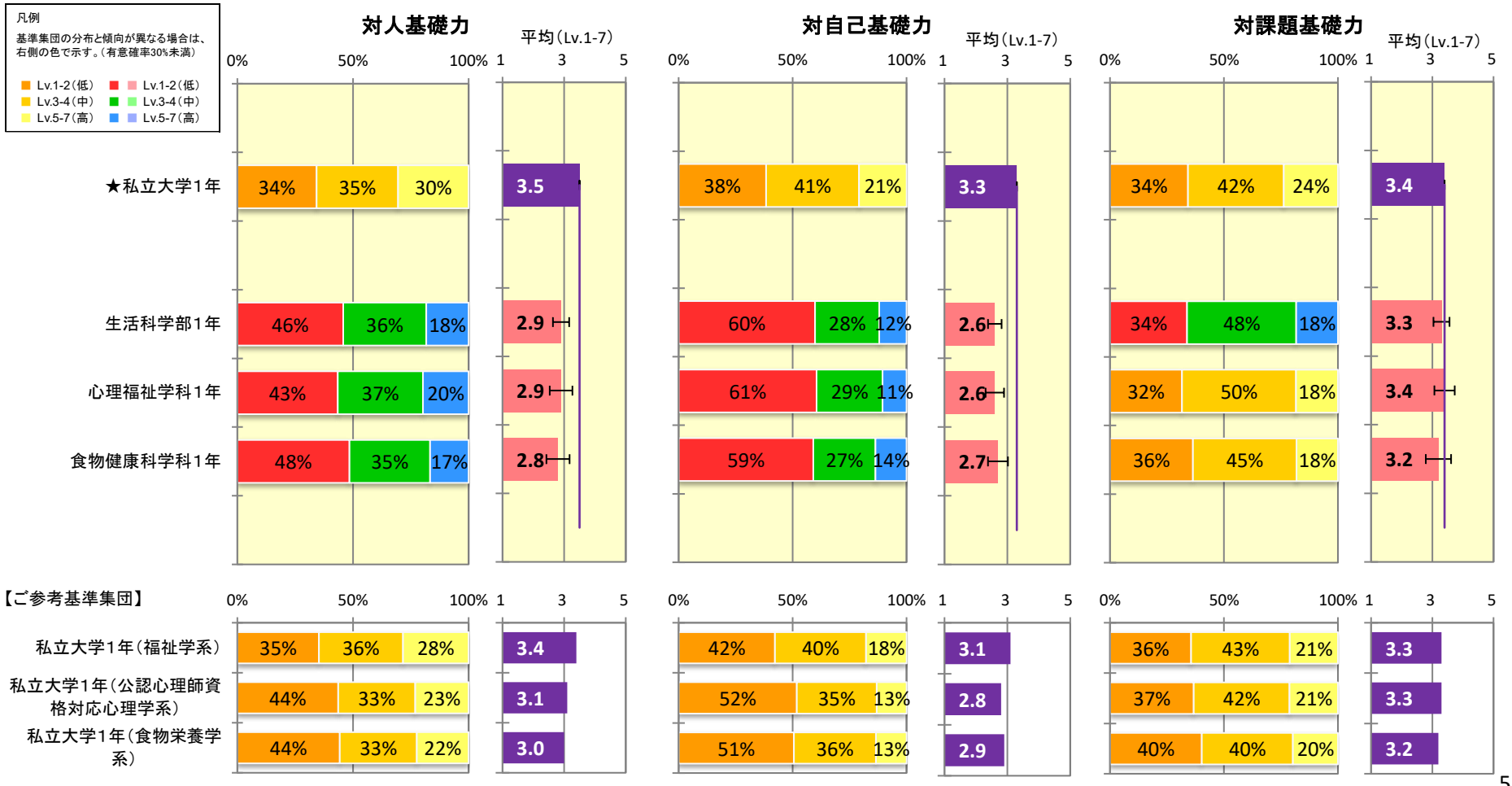
●基準集団（★印）と比較して、生活科学部1年、心理福祉学科1年、食物健康科学科1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対自己基礎力】

●基準集団（★印）と比較して、生活科学部1年、心理福祉学科1年、食物健康科学科1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対課題基礎力】

●基準集団（★印）と比較して、生活科学部1年は、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる。



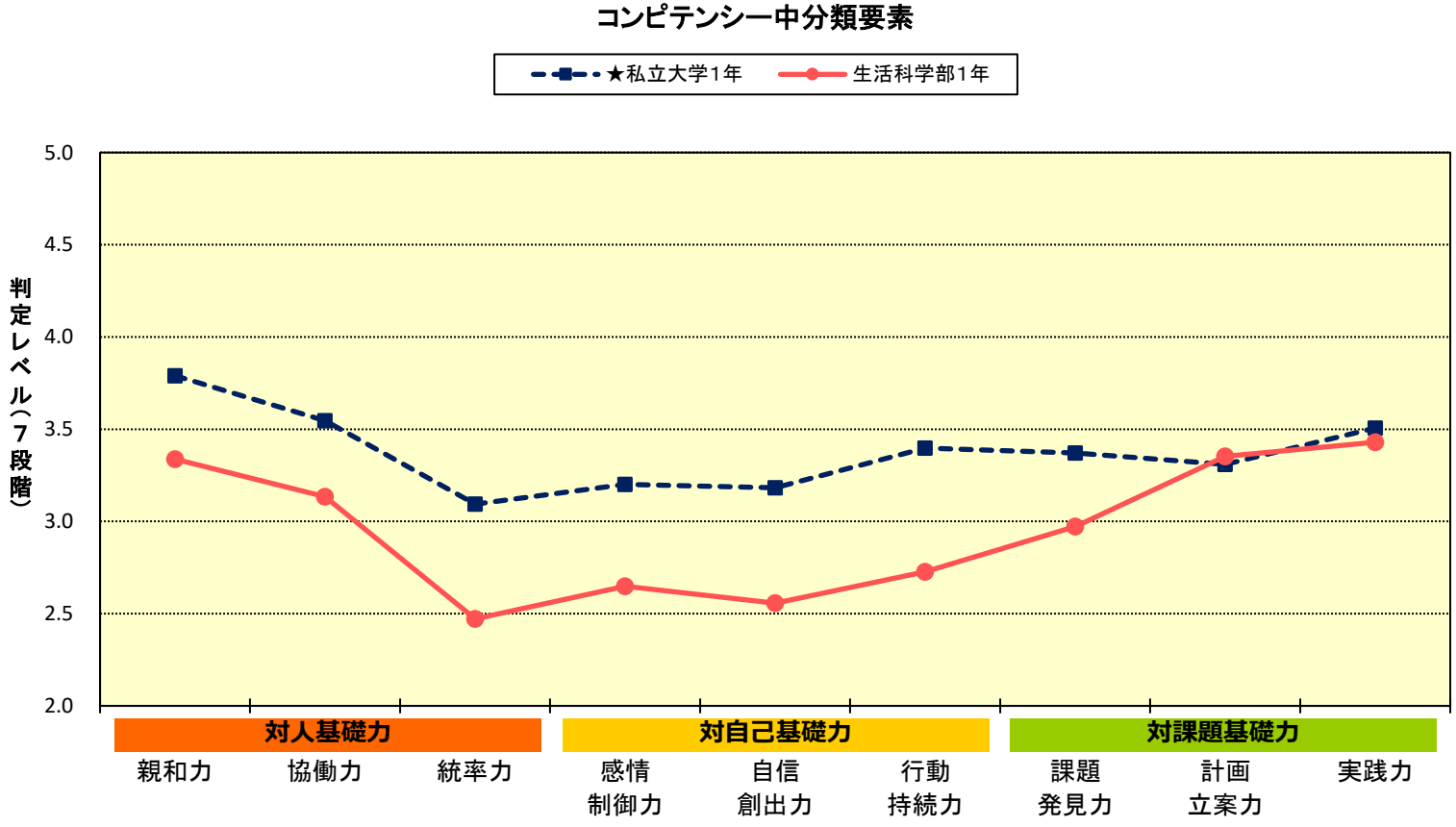
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　①

【生活科学部1年】

基準集団（★印）と比較して、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

一方、実践力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

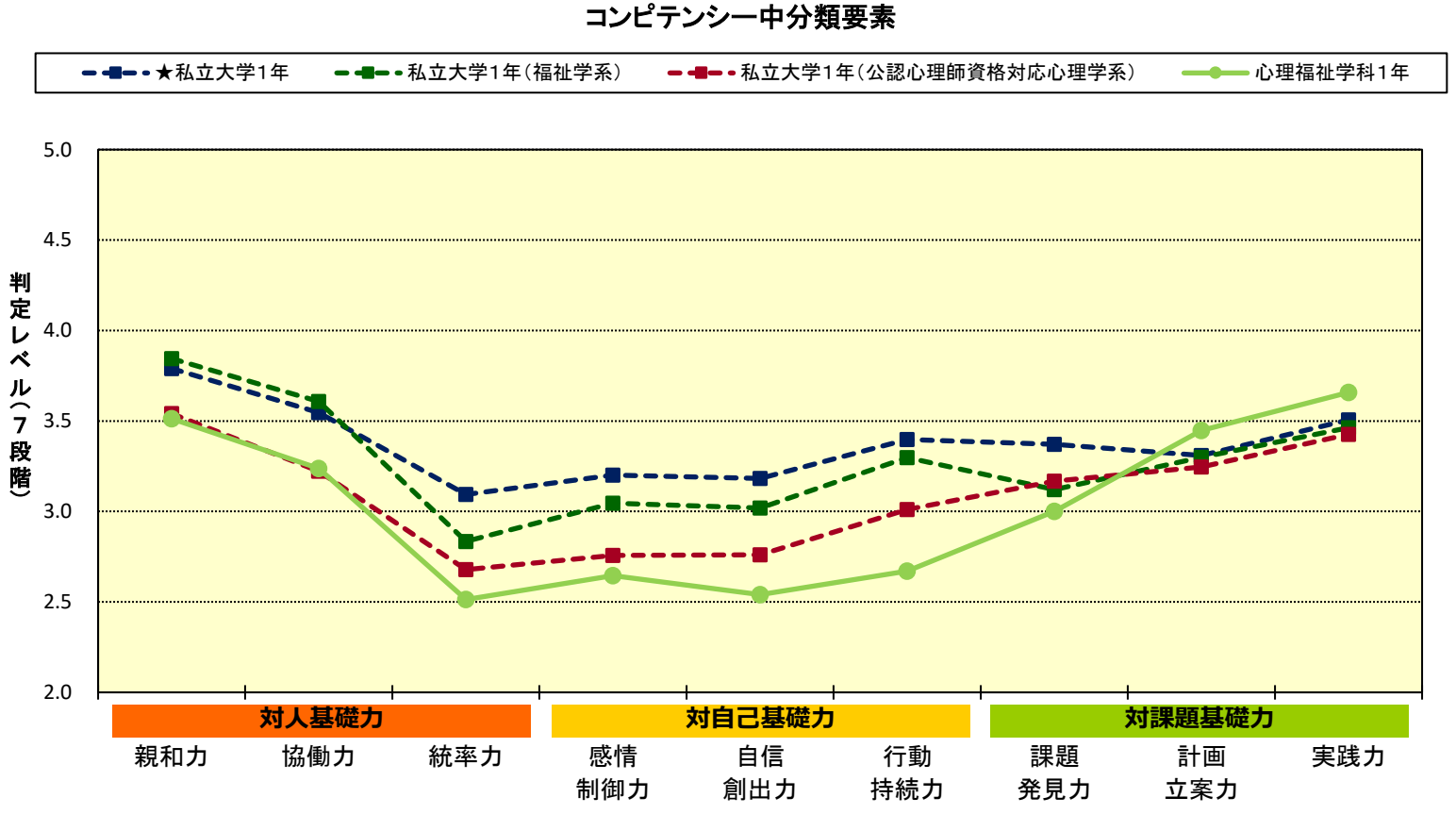
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　②

【心理福祉学科１年】

基準集団（★印）と比較して、実践力の平均値は高く、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。
一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力の平均値は低い。

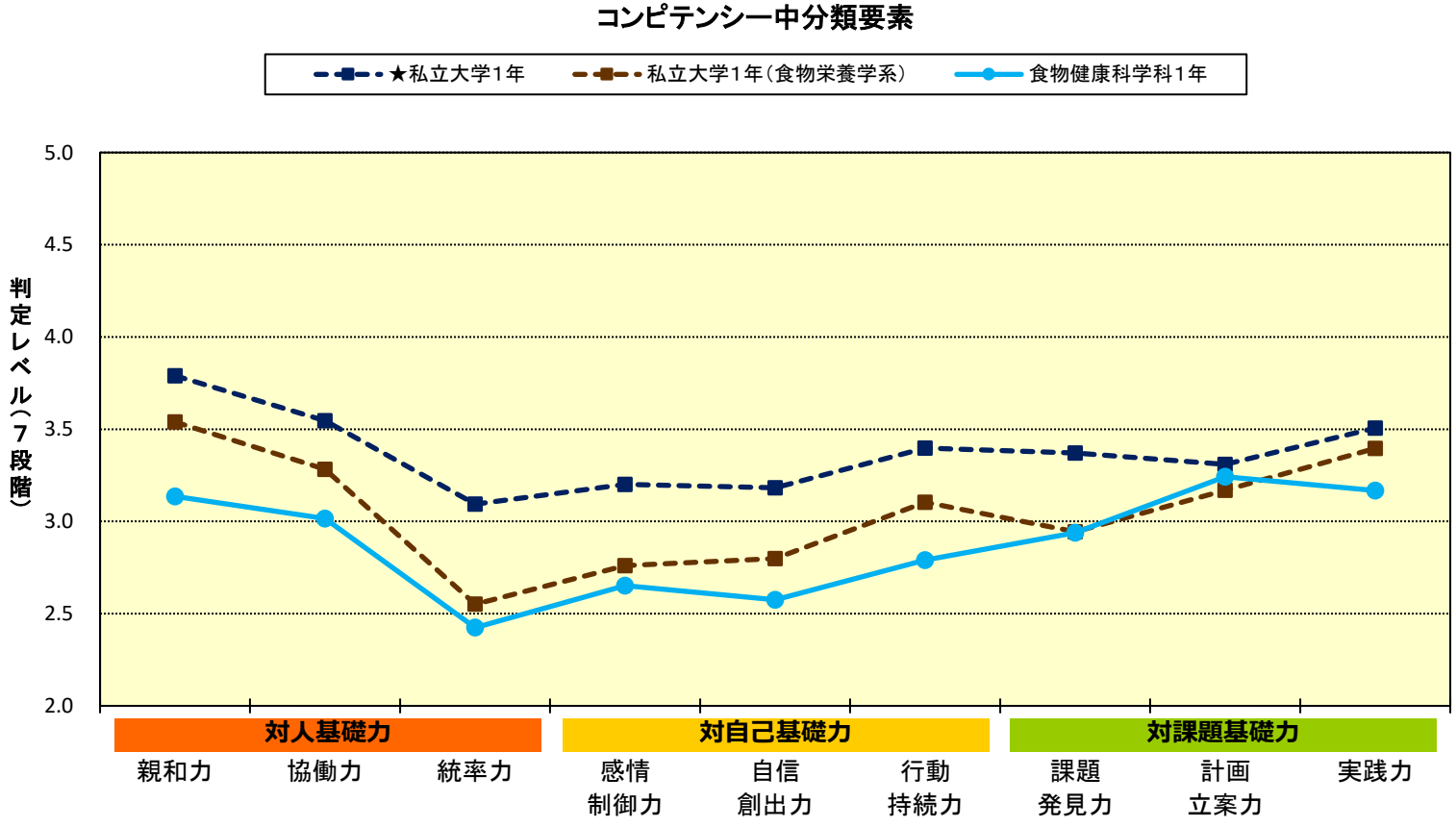


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　③

【食物健康科学科１年】

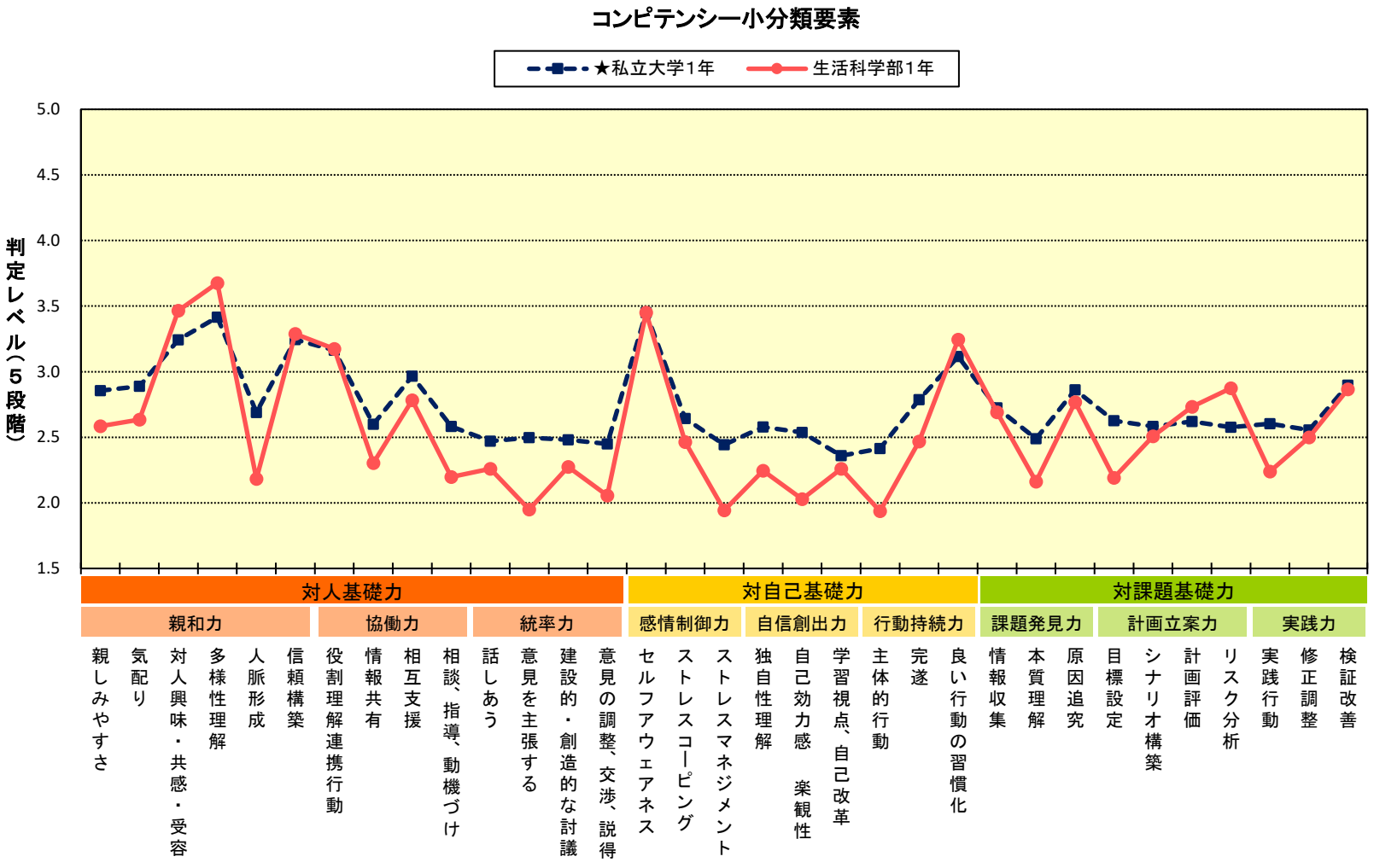
基準集団（★印）と比較して、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、
親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力の平均値は低い。



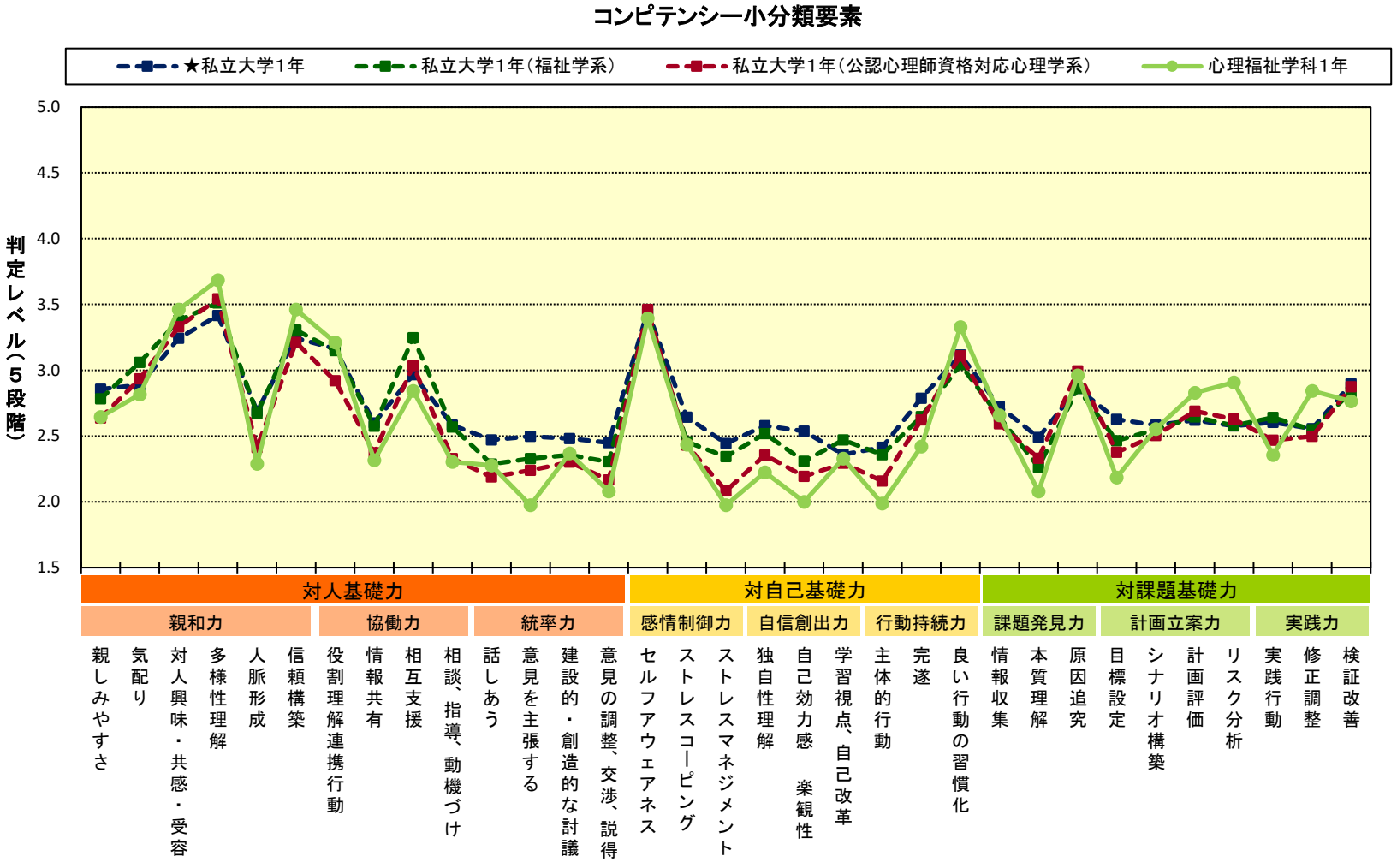
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

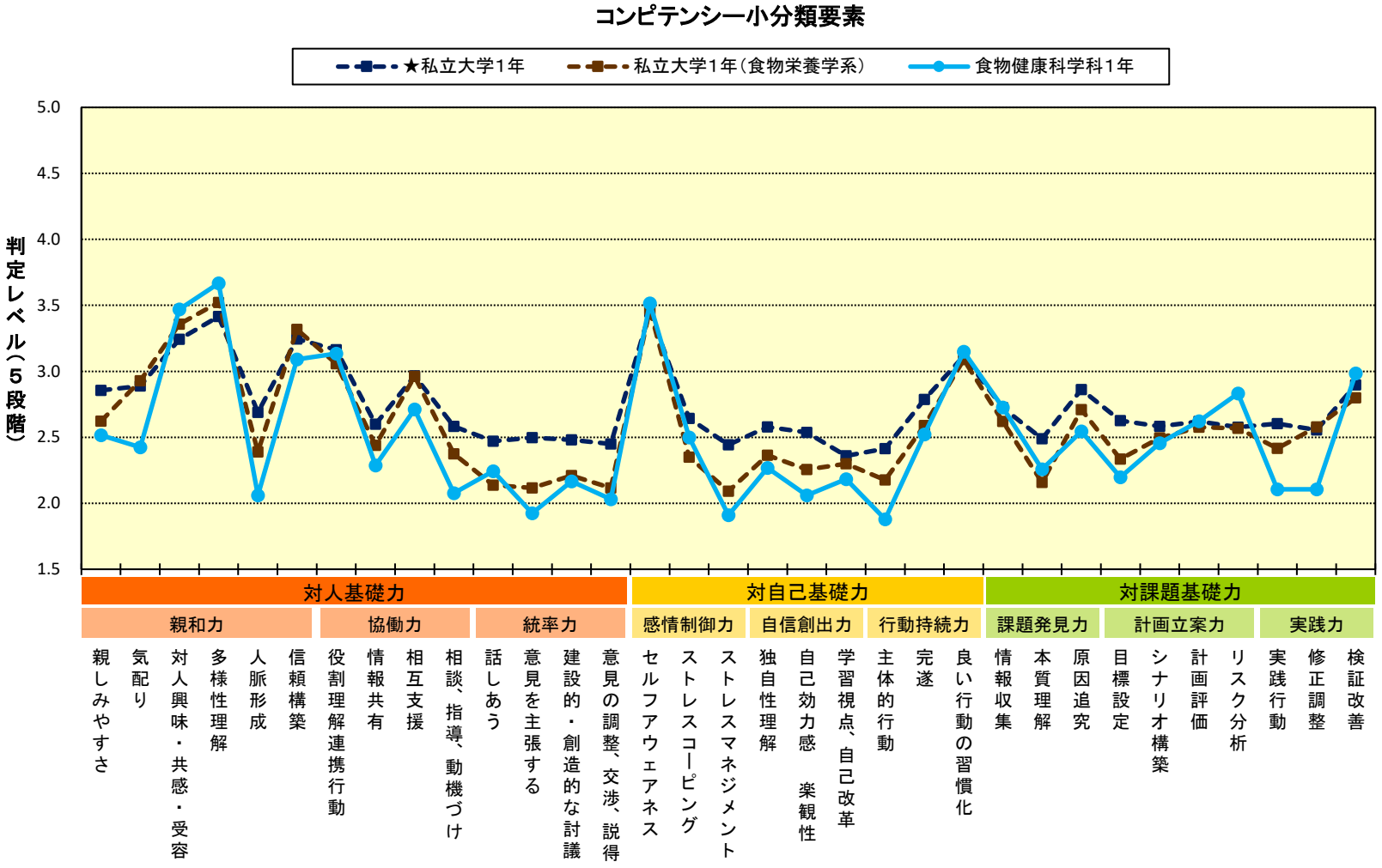
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　①



コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　②

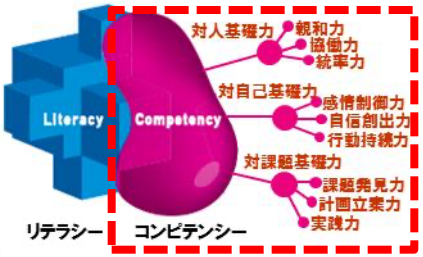


コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　③

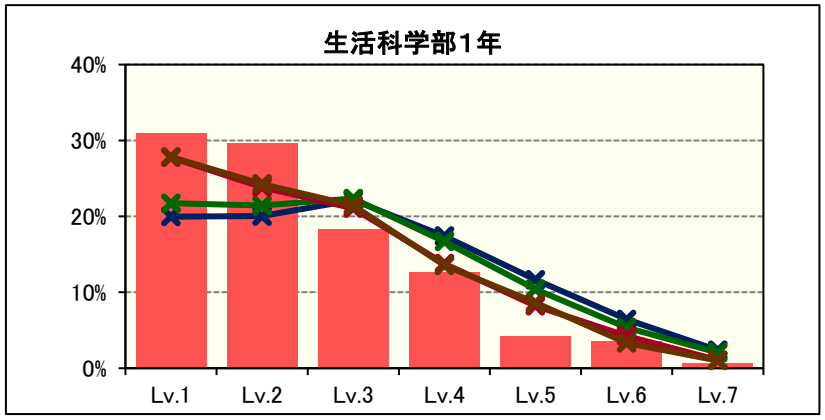


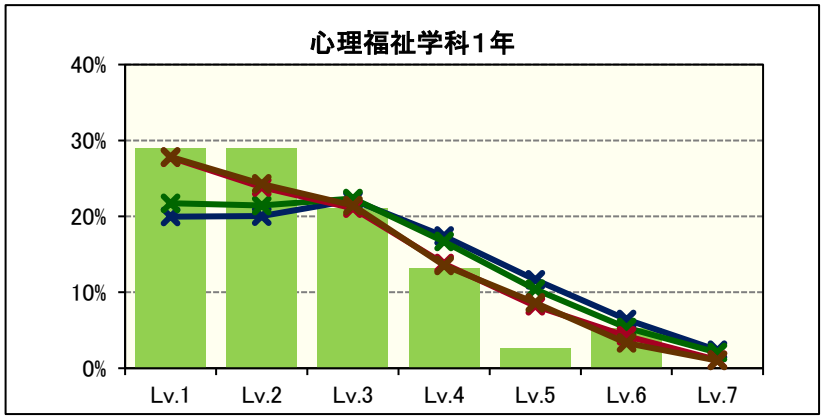
コンピテンシー総合　判定レベルの分布

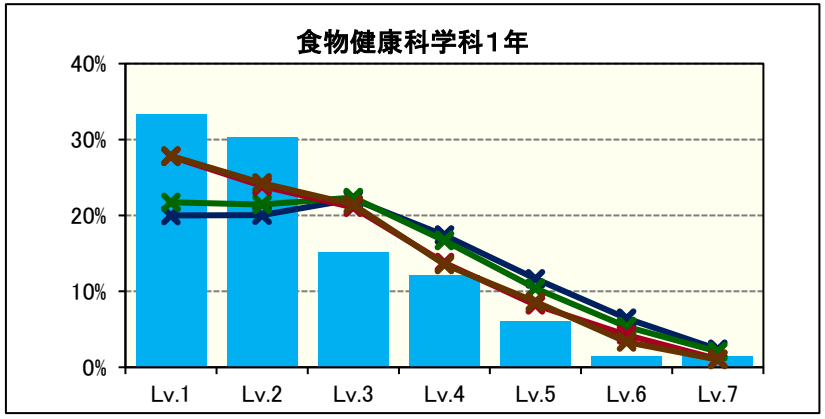
オプション分析











今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
生活科学部１年	-	-	-	▲	-	■	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	-	-
心理福祉学科１年	-	-	-	▲	-	■	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	-	◎
食物健康科学科１年	-	-	-	-	-	■	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	-	▲

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策 ①

【生活科学部1年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●課題発見力	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	ブレーンストーミングなどの手法を用い既成概念に囚われず広く深く発想させる／SWOT分析などの手法をも用いて問題点を洗い出させる／親和図法・KJ法などの手法を用いて情報を分類・結合し、階層化・構造化させる
■コンピテンシー	●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く（傾聴する）ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
	●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●自信創出力	仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	自分のオリジナリティにこだわるように指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる 与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する
	●行動持続力	良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるよう心がけている 任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている 常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	まじめさ、誠意をもった行動、真摯な取り組みを評価する機会を設ける 現状に満足せず、より高い目標に挑戦する大切さを指導する 目的意識を常に持って、学習したとを直ぐに試みるように指導する
	●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する

今後の課題と対策 ②

【心理福祉学科１年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●課題発見力	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	ブレーンストーミングなどの手法を用い既成概念に囚われず広く深く発想させる／SWOT分析などの手法をも用いて問題点を洗い出させる／親和図法・KJ法などの手法を用いて情報を分類・結合し、階層化・構造化させる
■コンピテンシー	●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状（お礼メール）など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
	●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●自信創出力	仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	自分のオリジナリティにこだわるように指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる 与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する
	●行動持続力	良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるよう心がけている 任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている 常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	まじめさ、誠意をもった行動、真摯な取り組みを評価する機会を設ける 現状に満足せず、より高い目標に挑戦する大切さを指導する 目的意識を常に持って、学習したとを直ぐに試みるように指導する
	●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する

今後の課題と対策 ③

【食物健康科学科１年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く（傾聴する）ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
	●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●自信創出力	仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	自分のオリジナリティにこだわるように指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる 与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する
	●行動持続力	良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるよう心がけている 任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている 常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	まじめさ、誠意をもった行動、真摯な取り組みを評価する機会を設ける 現状に満足せず、より高い目標に挑戦する大切さを指導する 目的意識を常に持って、学習したとを直ぐに試みるように指導する
	●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する
	●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.4
１年生全体集計
（看護学部）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（リテラシー総合）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

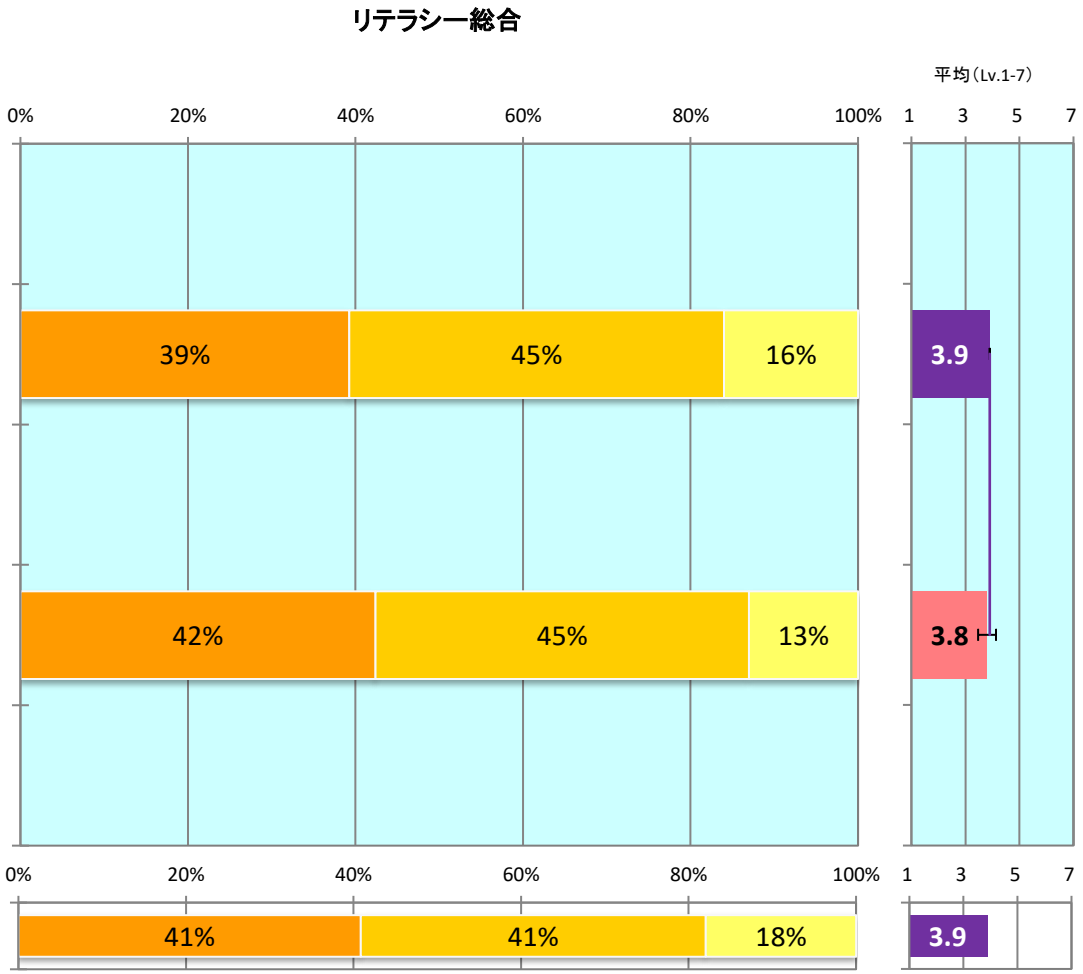
【基準集団】

★大学1年（看護学系）	54校　N=6,383

	χ2乗値	有意確率
看護学部1年	0.73	0.69

【ご参考基準集団】

1年	250校　N=117,305

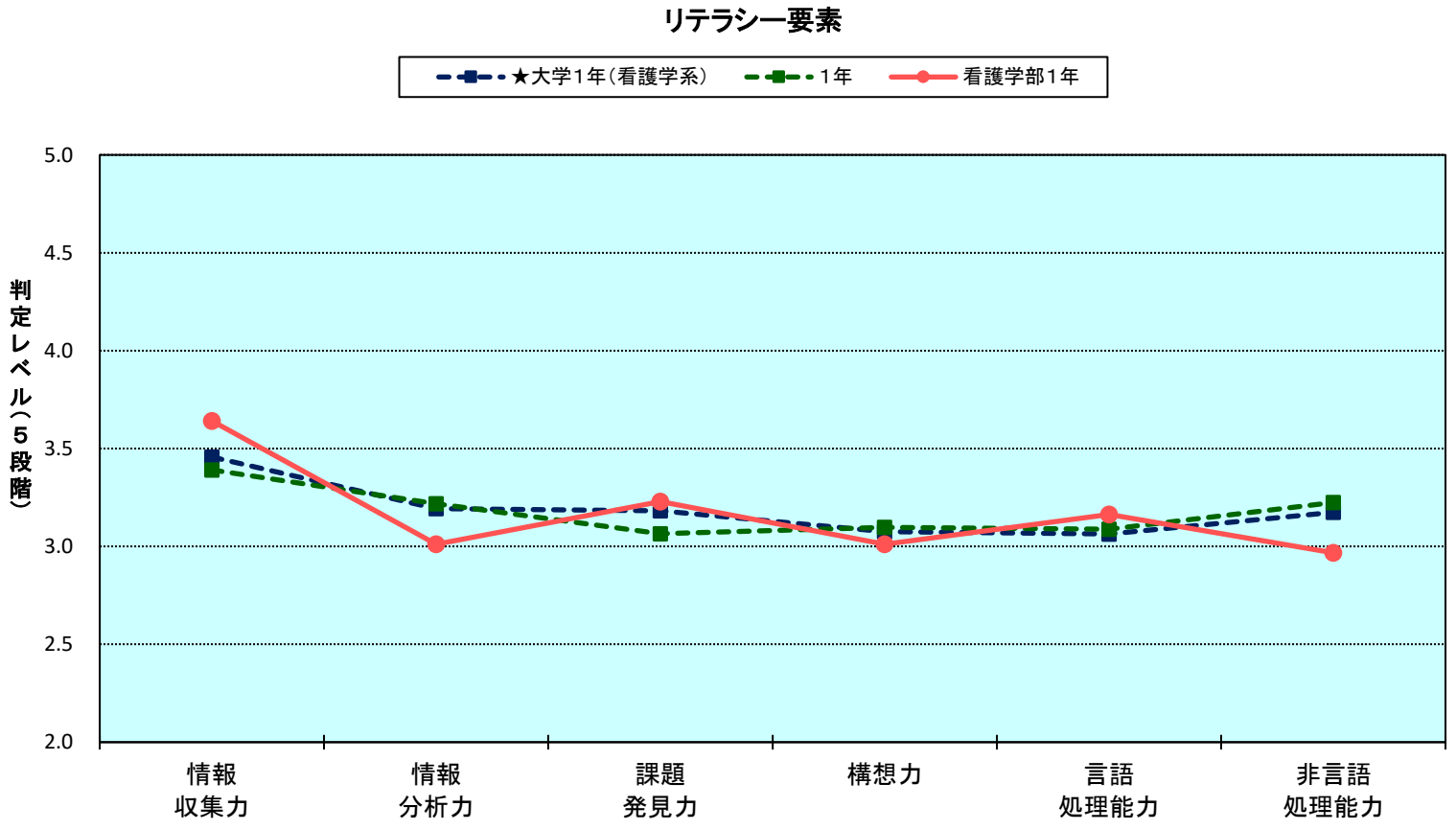


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

【看護学部1年】

基準集団（★印）と比較して、情報収集力の平均値は高く、課題発見力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、構想力の平均値は下回る傾向にあり、情報分析力、非言語処理能力の平均値は低い。

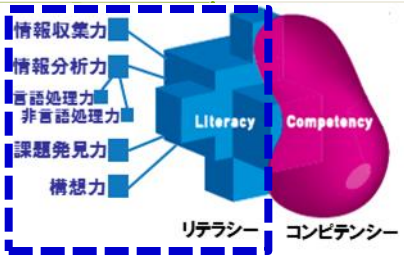


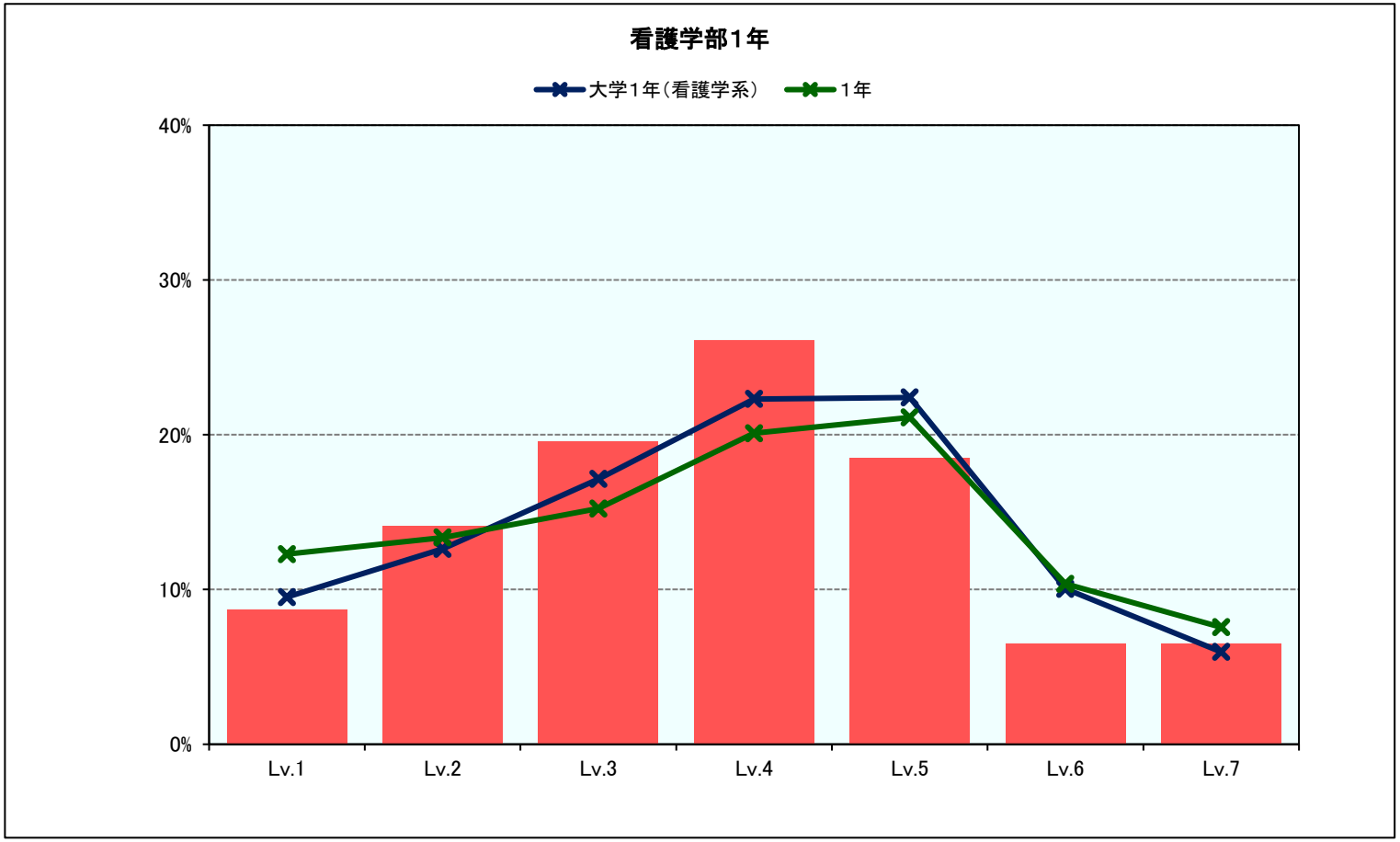
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

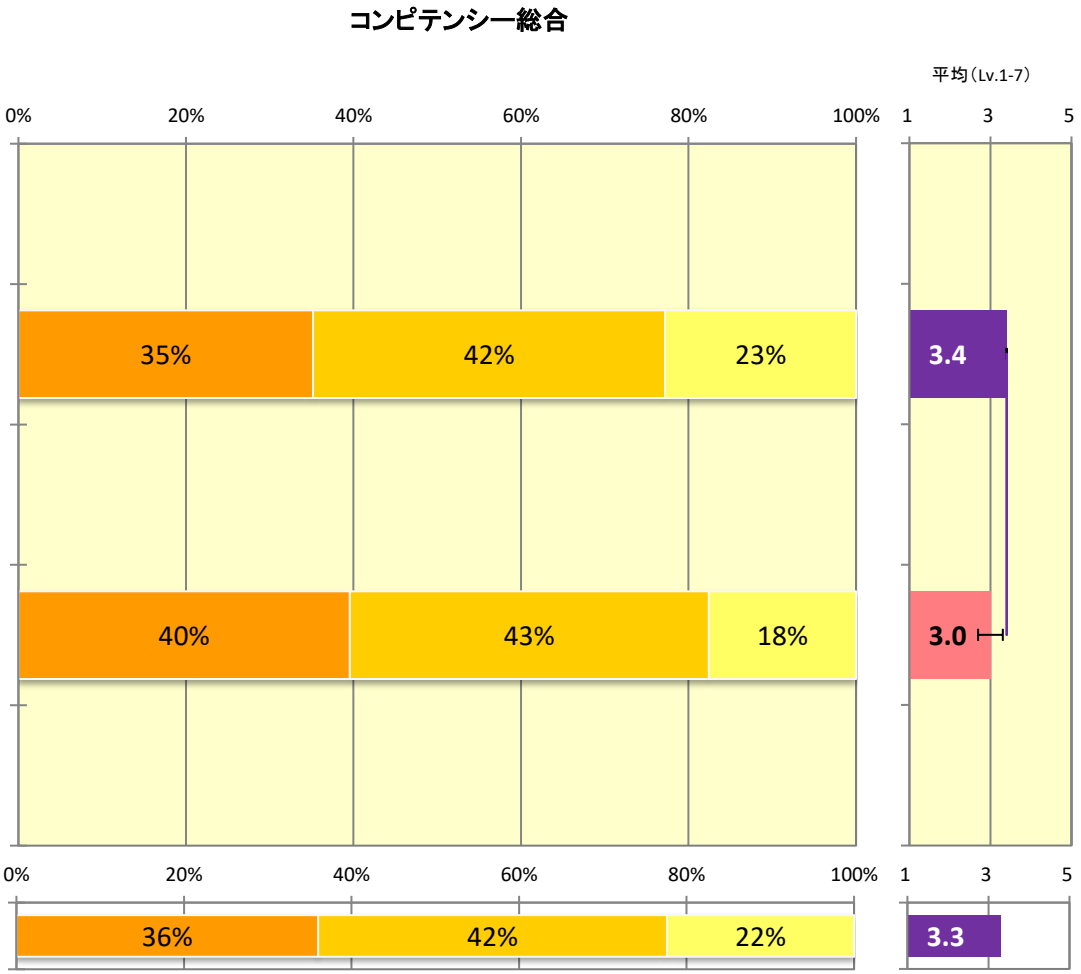
【基準集団】

★大学1年（看護学系）（N版）	60校　N=17,758

	χ2乗値	有意確率
看護学部1年（N版）	1.59	0.45

【ご参考基準集団】

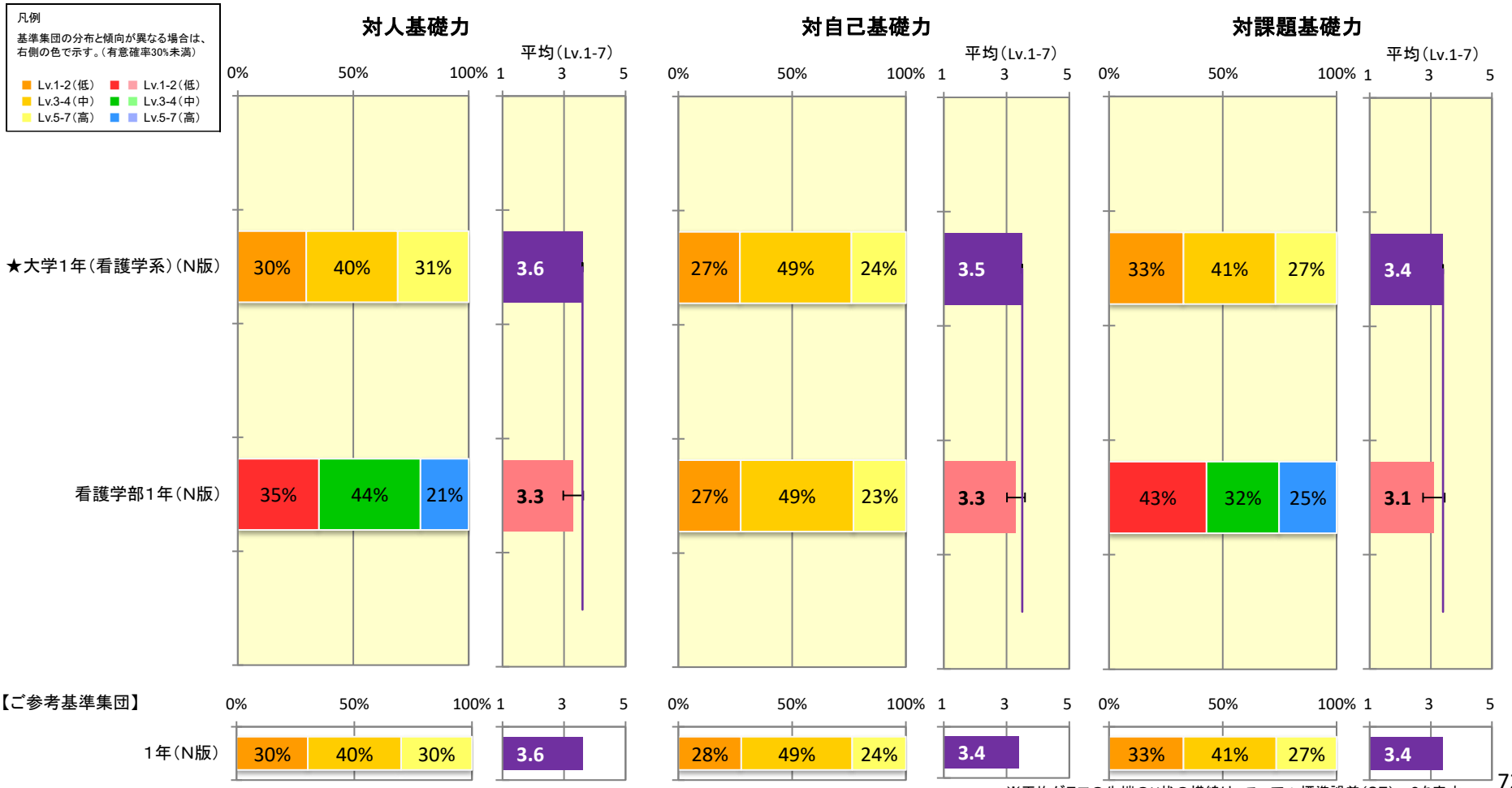
1年（N版）	74校　N=21,609



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、看護学部1年（N版）は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。
【対自己基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
【対課題基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、看護学部1年（N版）は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

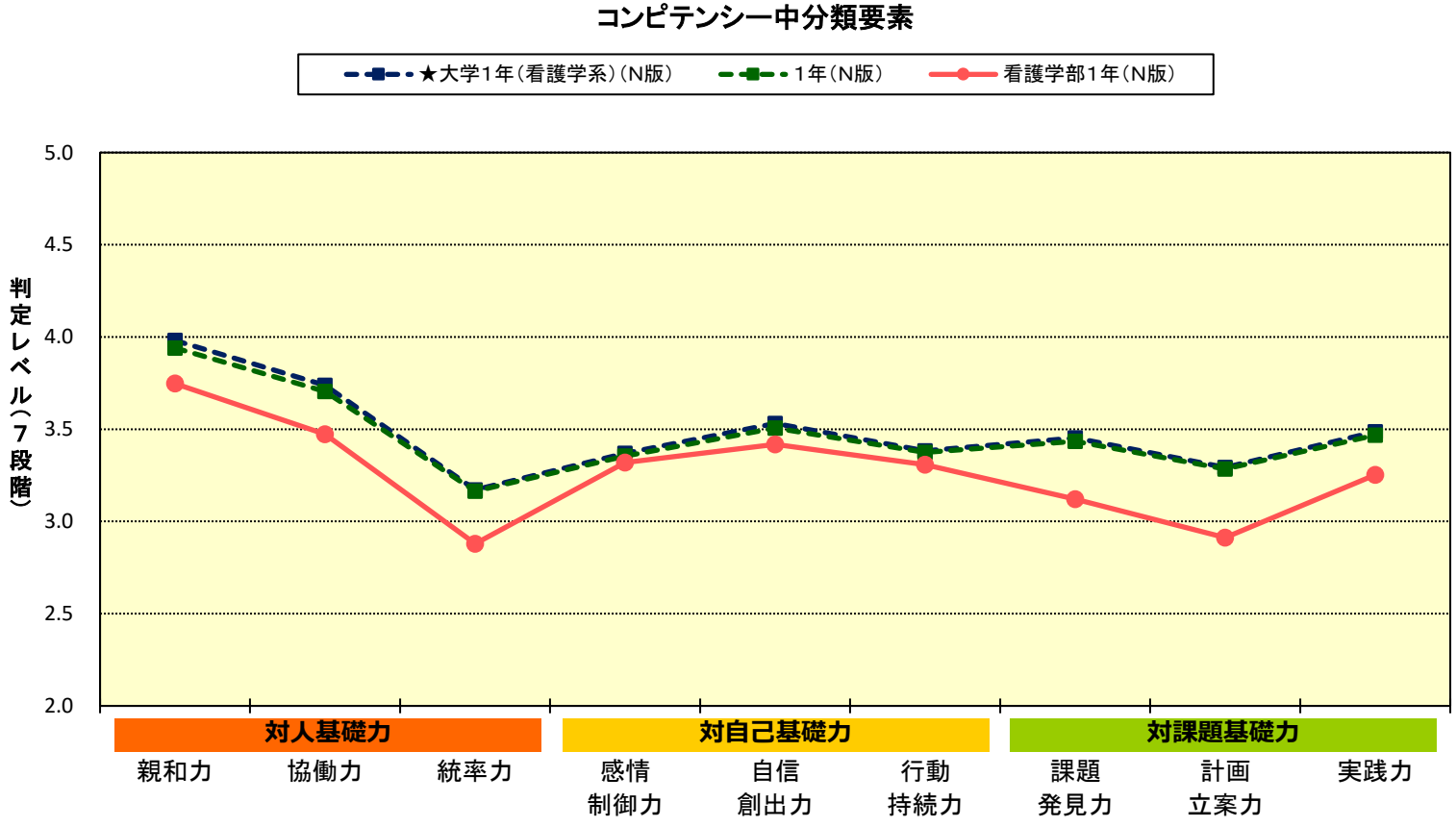


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【看護学部1年(N版)】

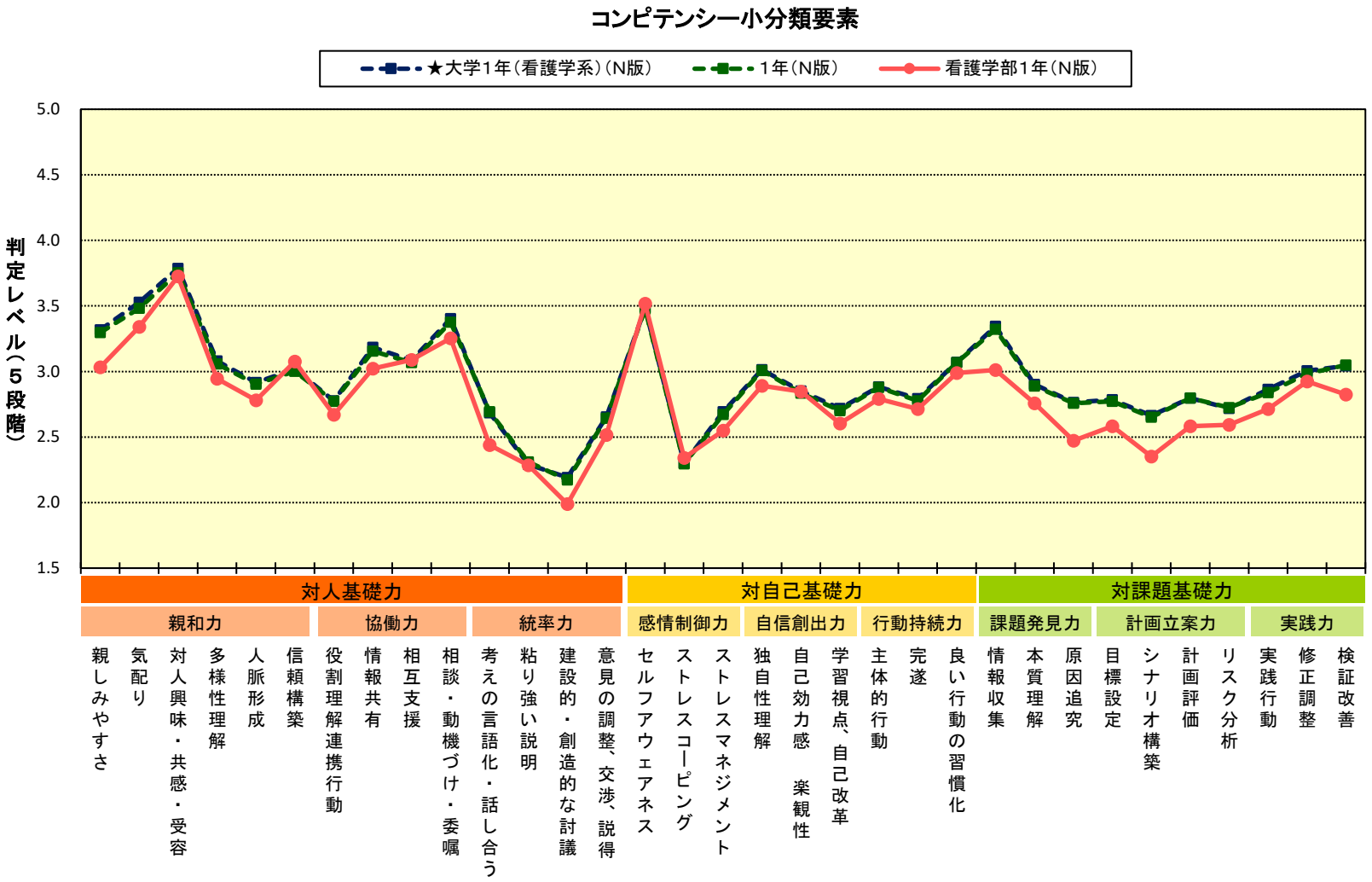
基準集団(★印)と比較して、感情制御力、自信創出力、行動持続力の平均値は下回る傾向にあり、
親和力、協働力、統率力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

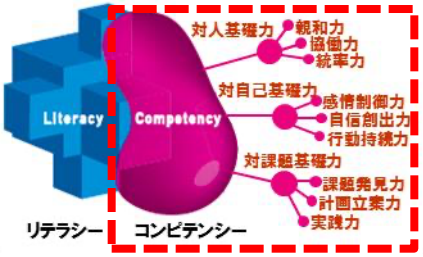
1)標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2)標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3)基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4)基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

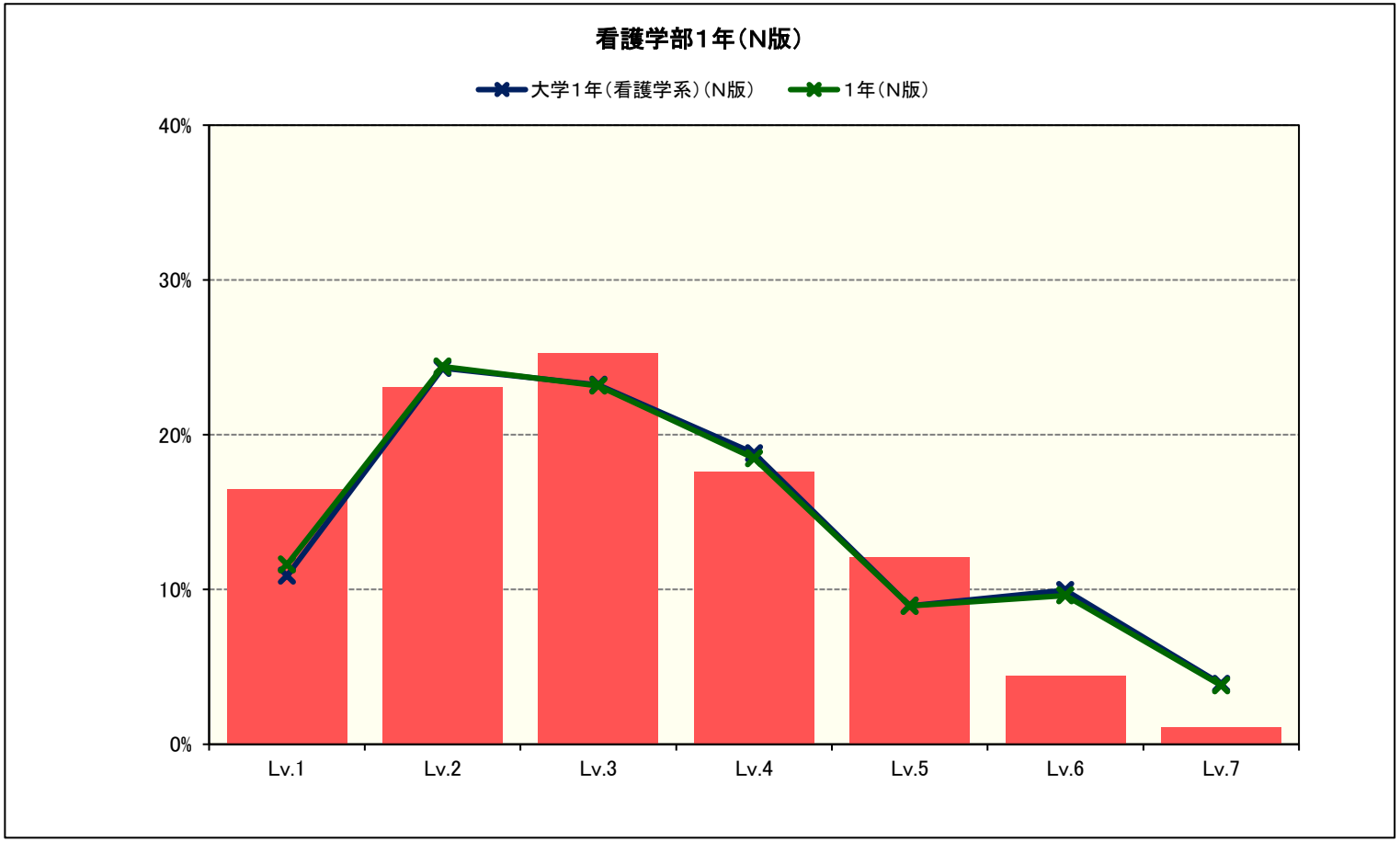
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向



コンピテンシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
看護学部１年（N版）	-	◎	▲	-	-	-	▲	▲	▲	-	-	-	▲	▲	▲

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【看護学部1年（N版）】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●情報分析力	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複数のデータから総合的に情報を読み取らせる／複数の視点から問題を客観的に分析させる／物事を批判的に捉え問題の本質を掘り下げさせる
■コンピテンシー	●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状（お礼メール）など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
	●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
	●計画立案力	課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる 立案した計画や目標に自分なりに取り組むことができる 条件が明確な課題であれば、発生しそうな問題を予め考えることができる 起こりうる事象を予測し、計画を立て取り組むことができる	ゴール（目指す姿）をイメージしてから、課題に取り組ませる 想定される障害を考慮して代替案を考えるよう指導する 立てた計画について、達成の見込みや問題点を客観的にあげさせる
	●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.5
１年生全体集計
（経営学部）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（リテラシー総合）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

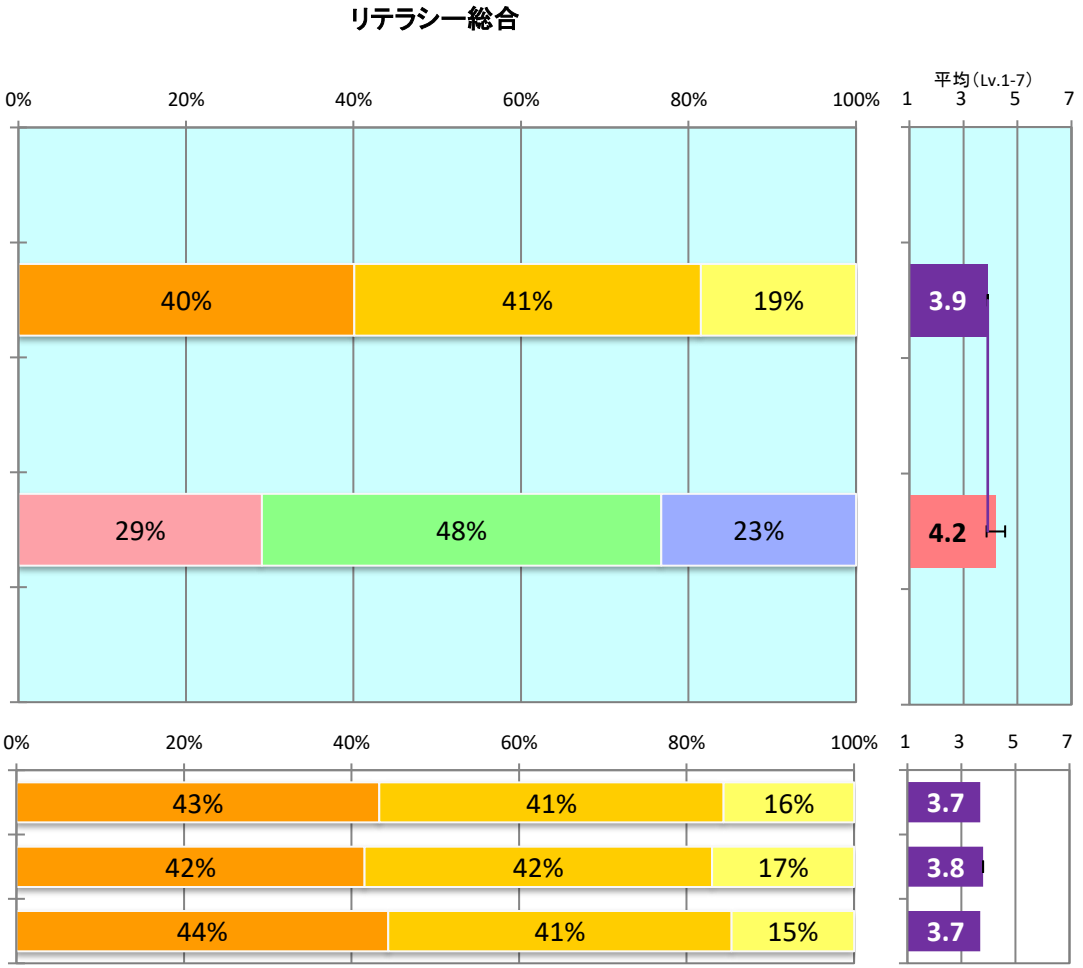
【基準集団】

★大学1年	185校　N=105,103

	χ2乗値	有意確率
経営学部1年	4.48	0.11

【ご参考基準集団】

大学文系1年	118校　N=56,594
私立大学1年	154校　N=99,322
私立大学文系1年	108校　N=54,503

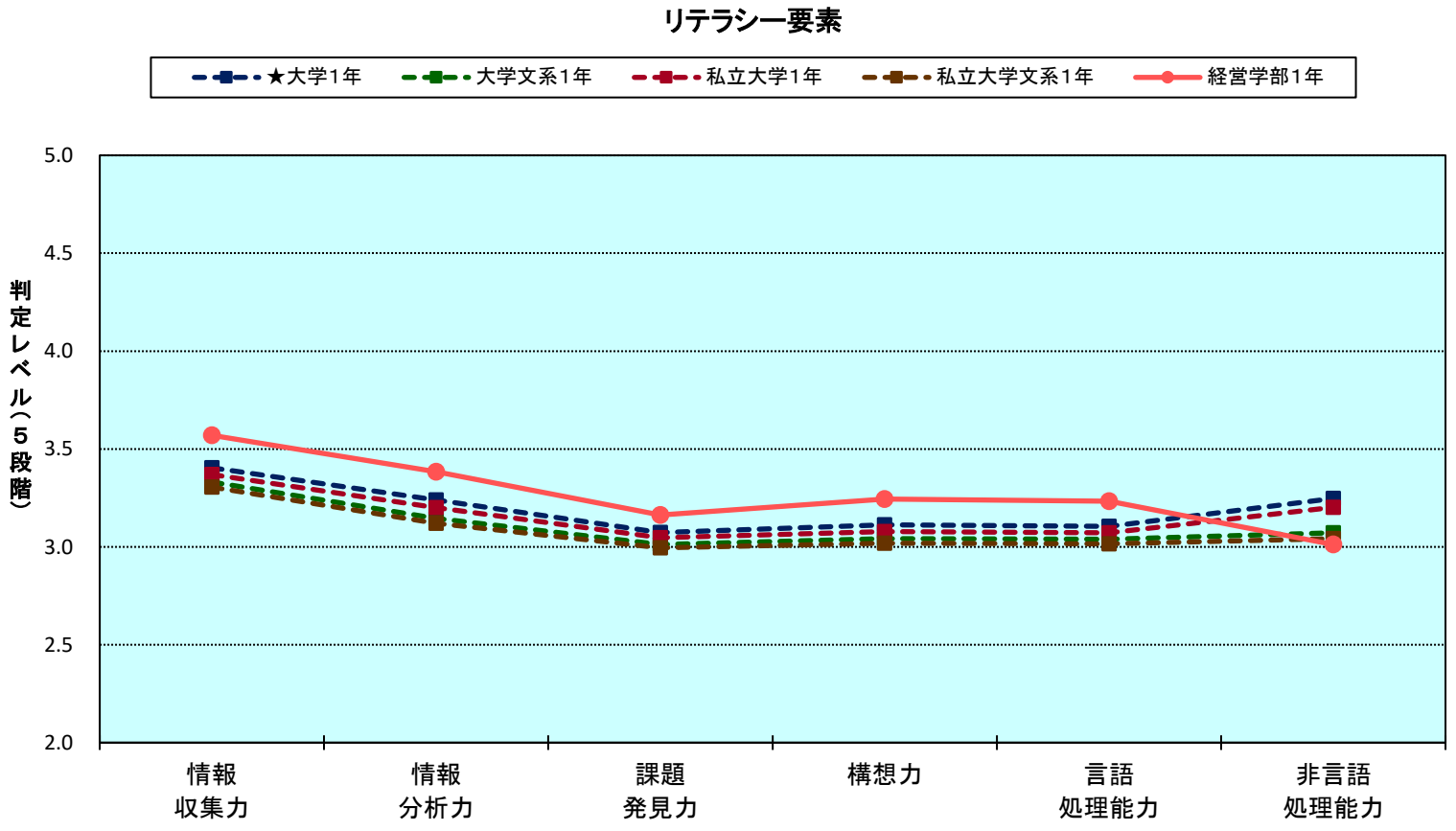


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

【経営学部1年】

基準集団（★印）と比較して、情報収集力、情報分析力、構想力、言語処理能力の平均値は高く、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。
一方、非言語処理能力の平均値は低い。

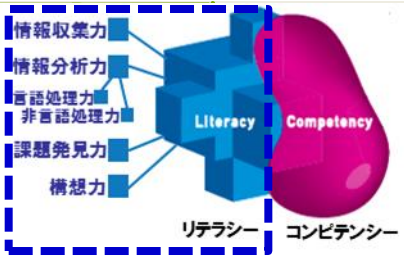


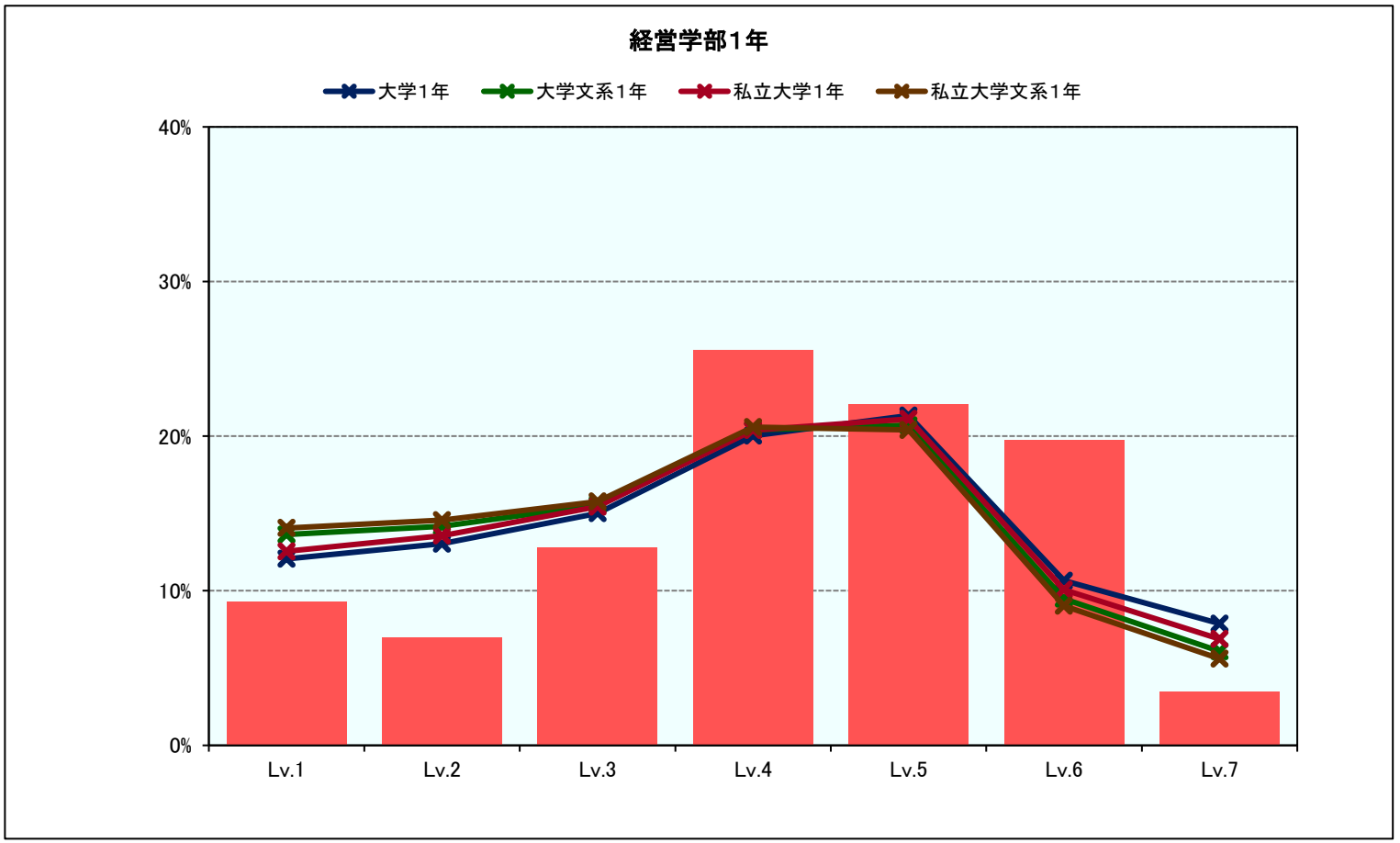
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、経営学部1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

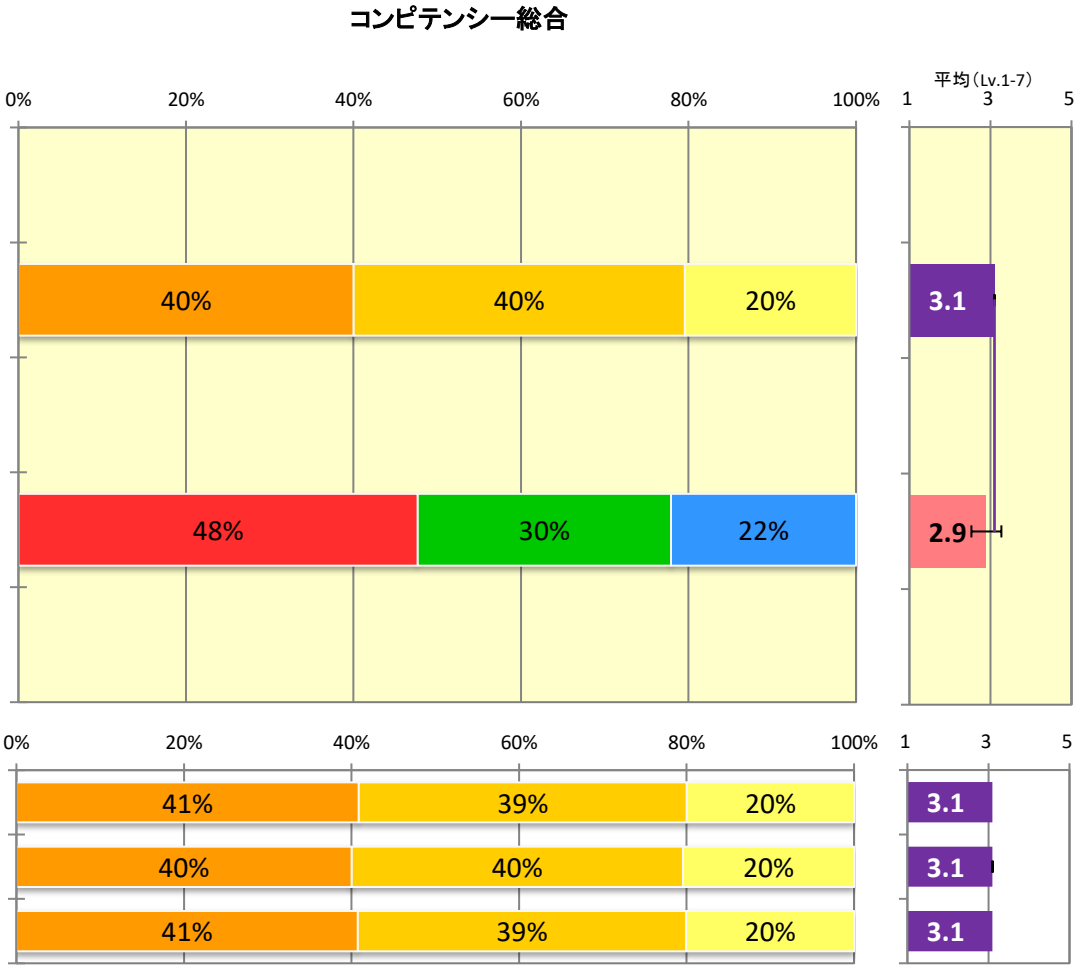
【基準集団】

★大学1年	281校　N=378,892

	χ2乗値	有意確率
経営学部1年	3.24	0.20

【ご参考基準集団】

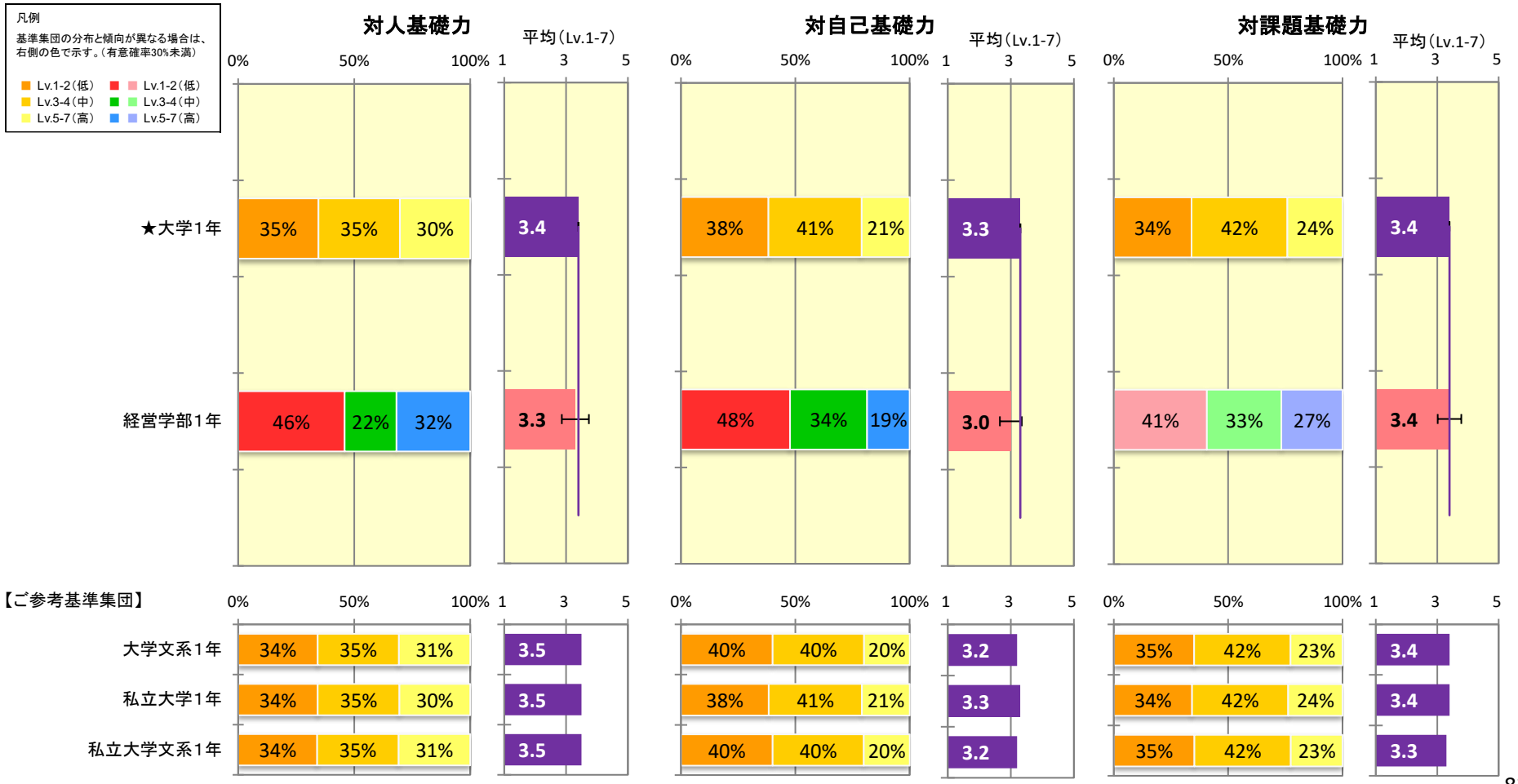
大学文系1年	176校　N=198,613
私立大学1年	224校　N=348,987
私立大学文系1年	155校　N=189,228



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、経営学部1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。
【対自己基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、経営学部1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。
【対課題基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。



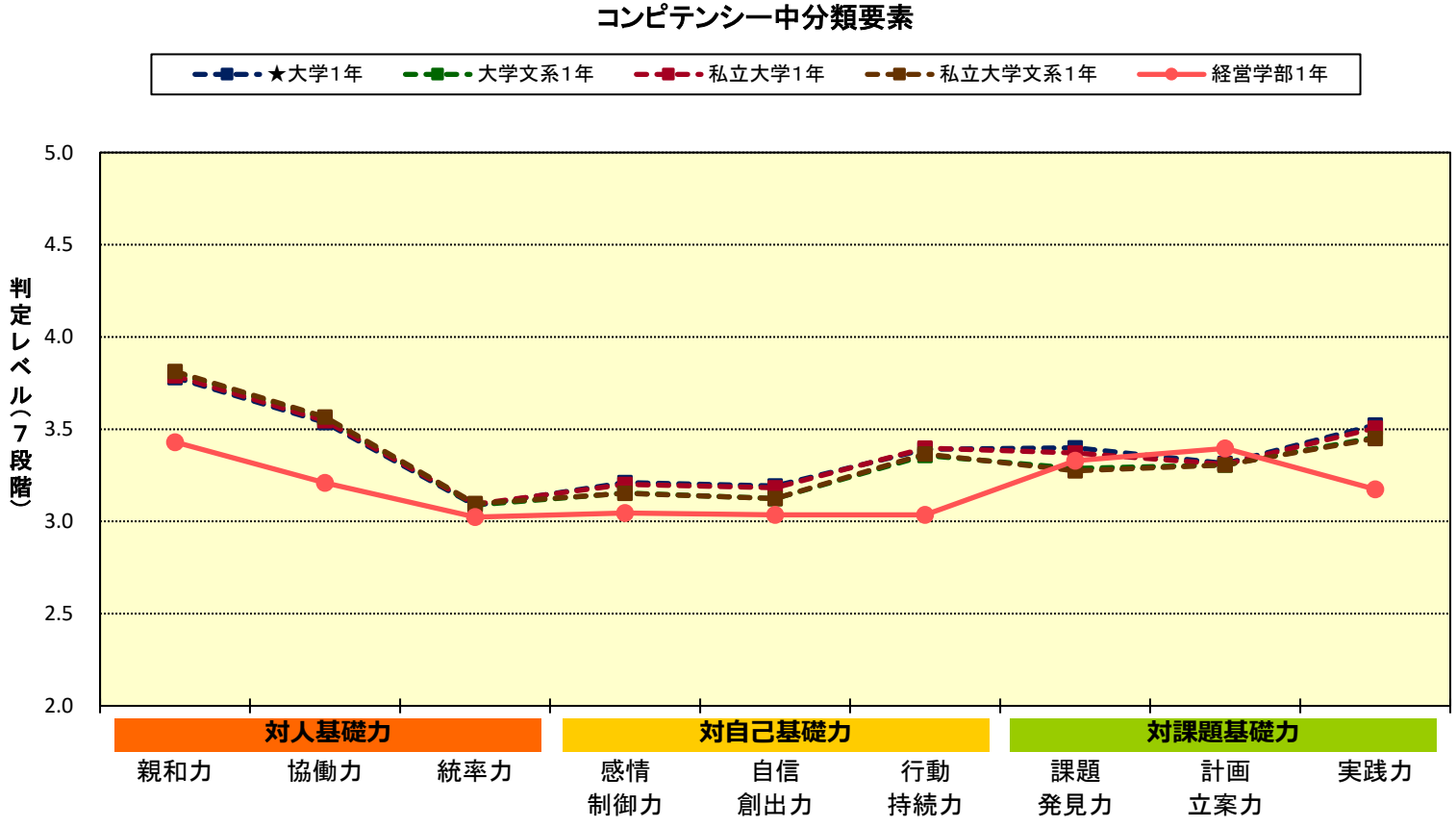
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【経営学部1年】

基準集団（★印）と比較して、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

一方、統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、行動持続力、実践力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

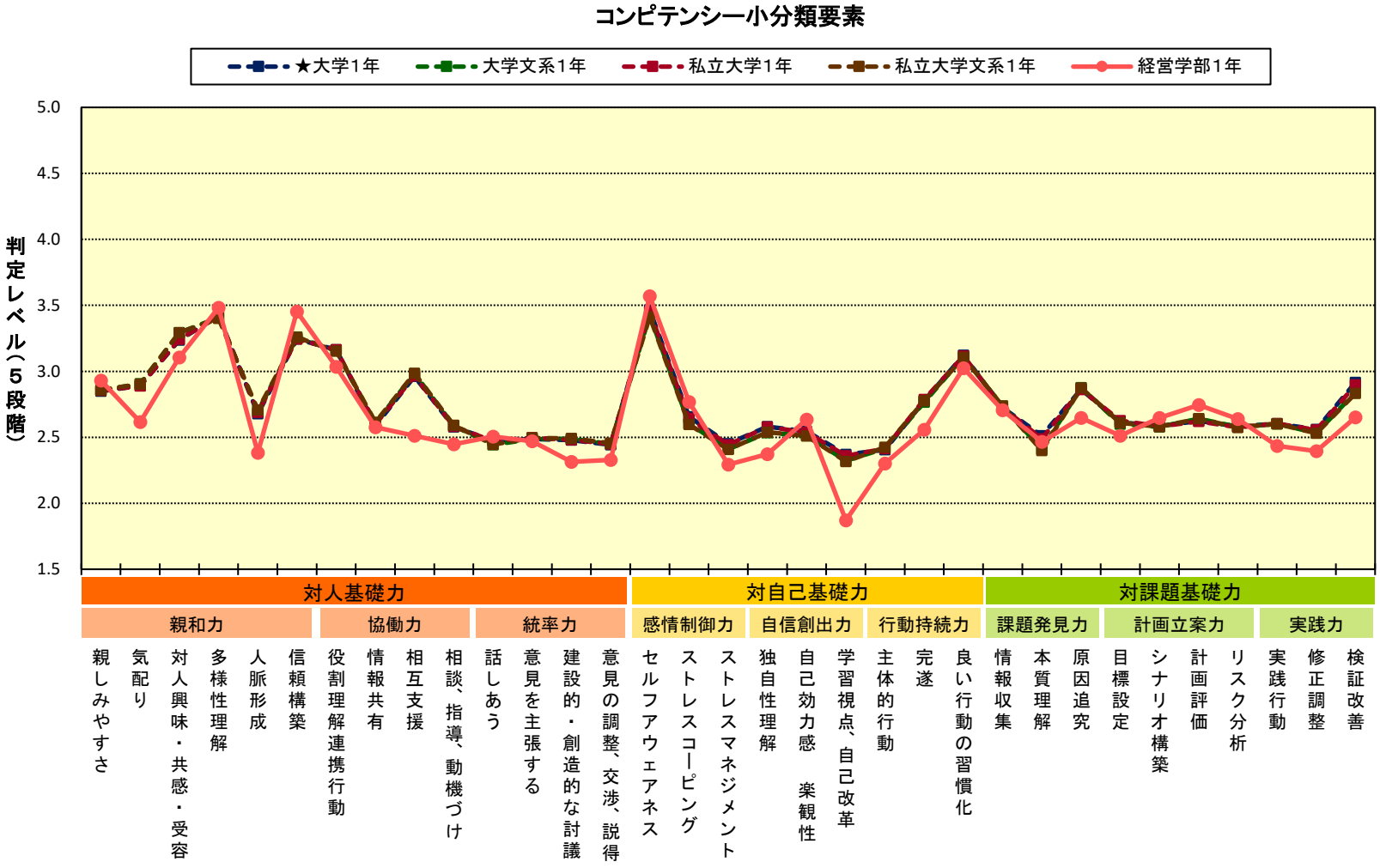
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

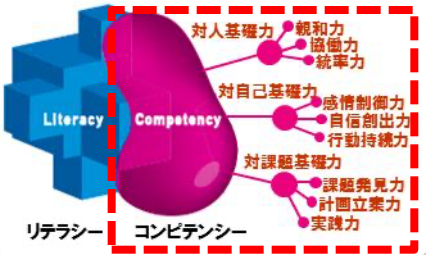
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

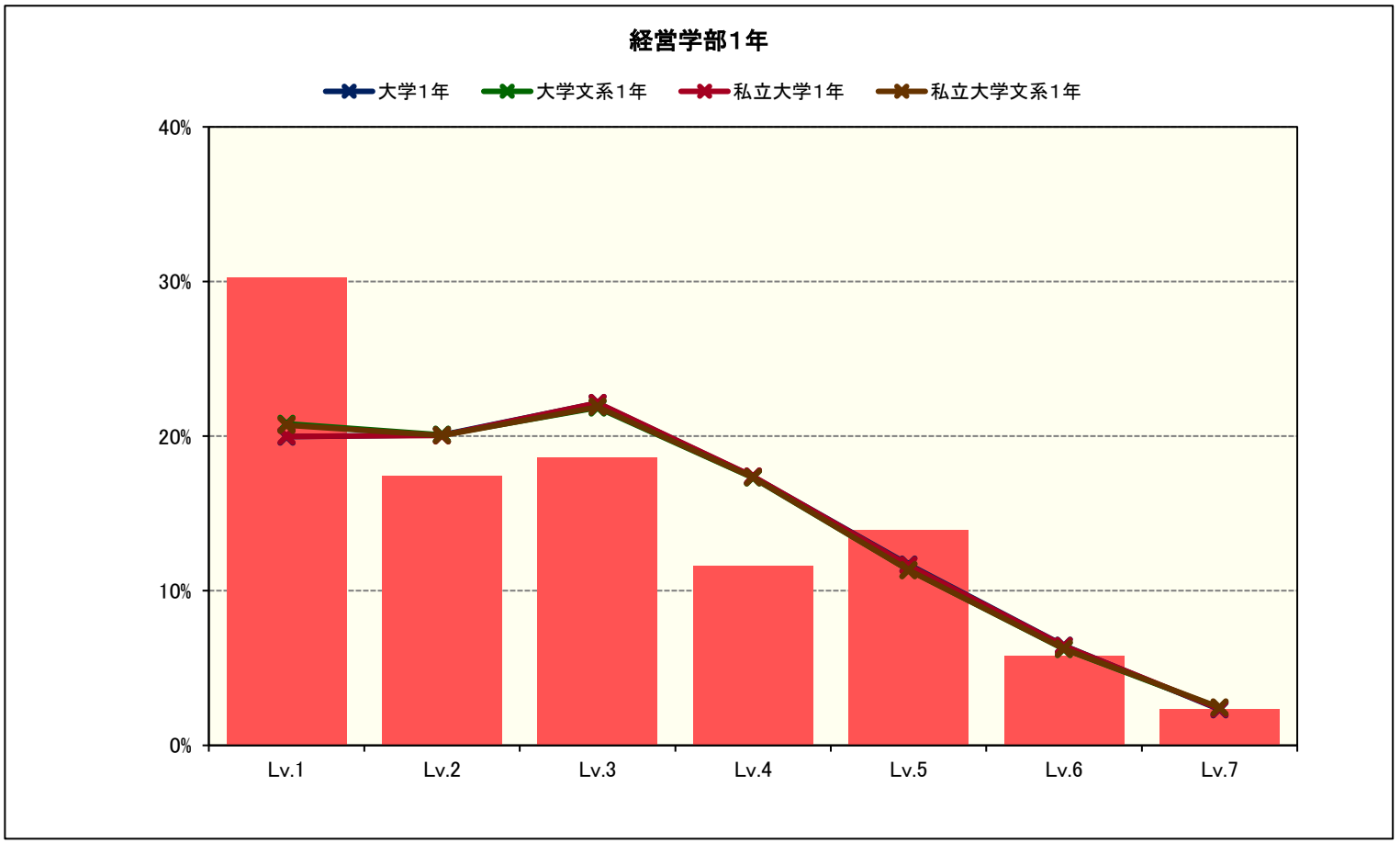
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向



コンピテンシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
経営学部１年	-	◎	◎	-	◎	■	▲	▲	-	-	-	▲	-	-	▲

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【経営学部１年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く（傾聴する）ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
	●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
	●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにいている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
	●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.6
１年生全体集計
（未来教養学環）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

※未来教養学環1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例（リテラシー総合）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

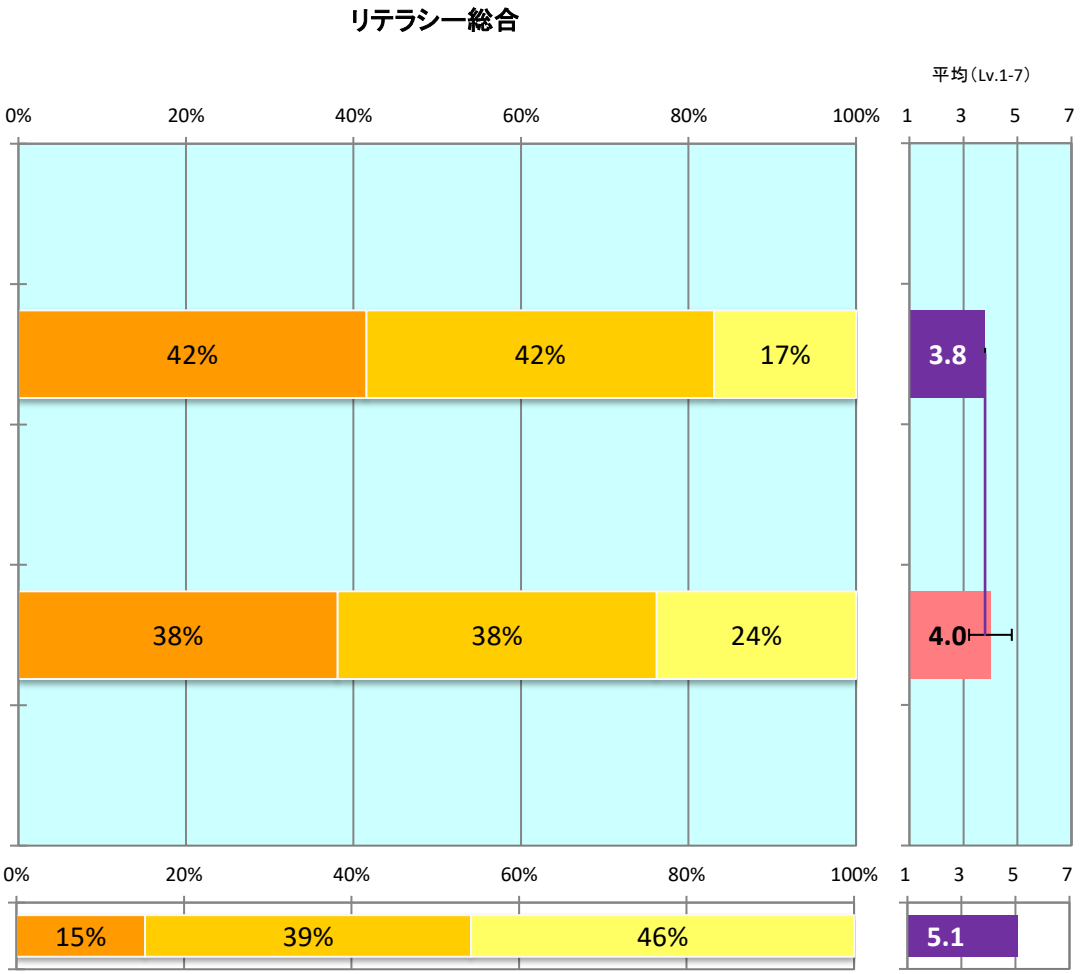
【基準集団】

★私立大学1年	154校　N=99,322

	χ2乗値	有意確率
未来教養学環1年	0.70	0.70

【ご参考基準集団】

国公立大学1年	31校　N=5,781

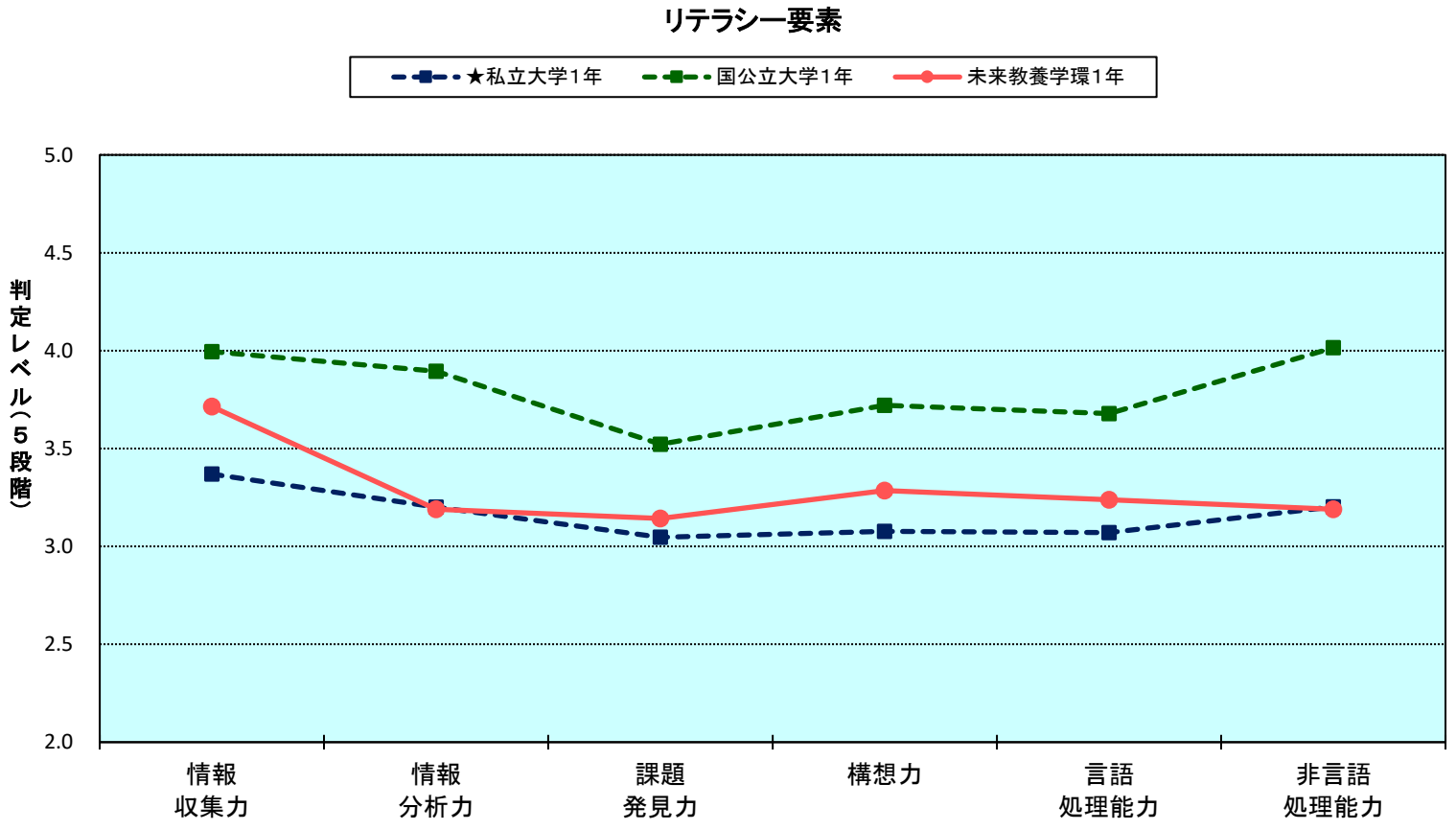


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

【未来教養学環1年】

基準集団（★印）と比較して、情報収集力の平均値は高く、課題発見力、構想力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報分析力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。

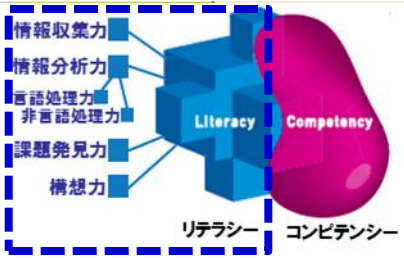


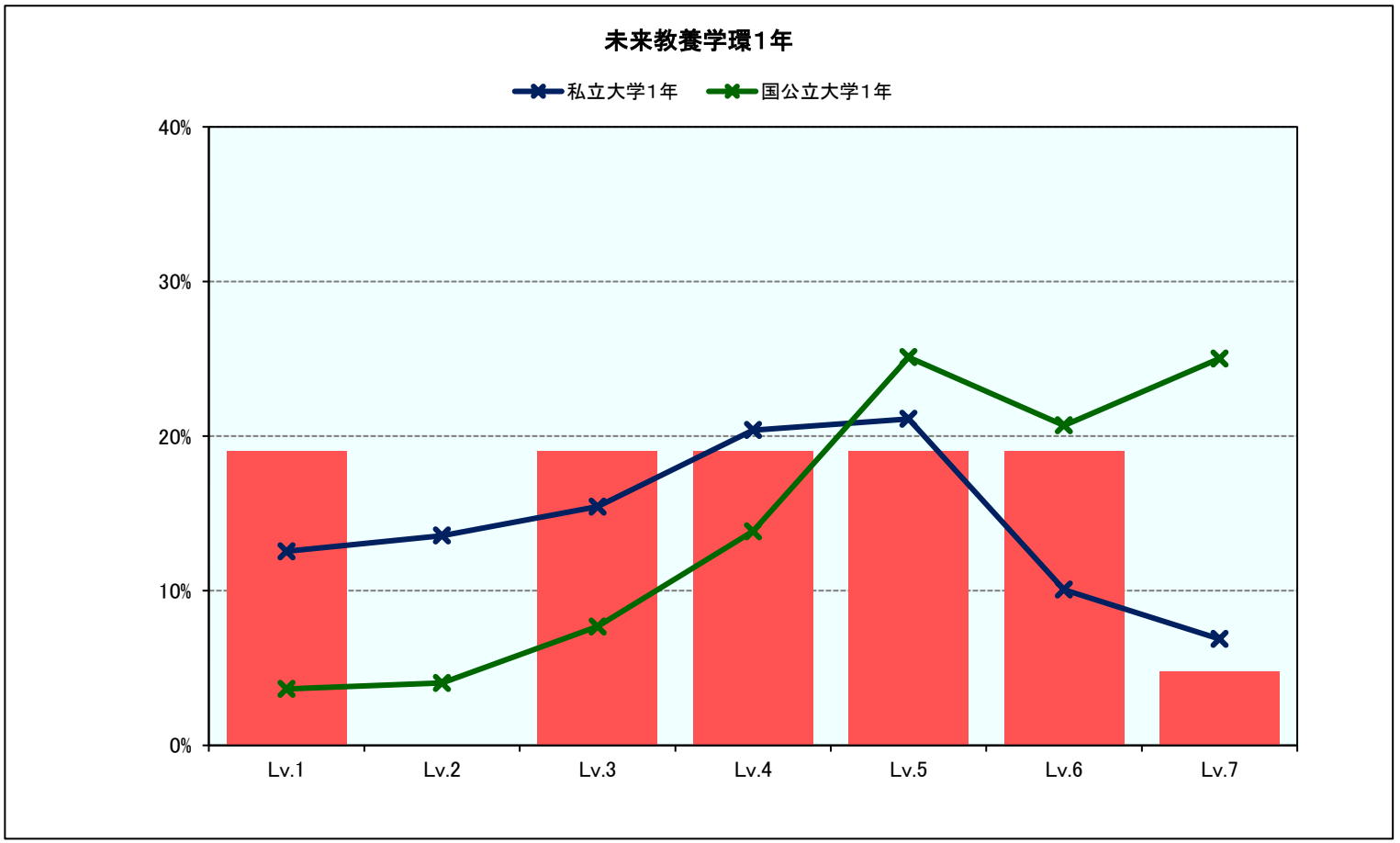
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、未来教養学環１年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

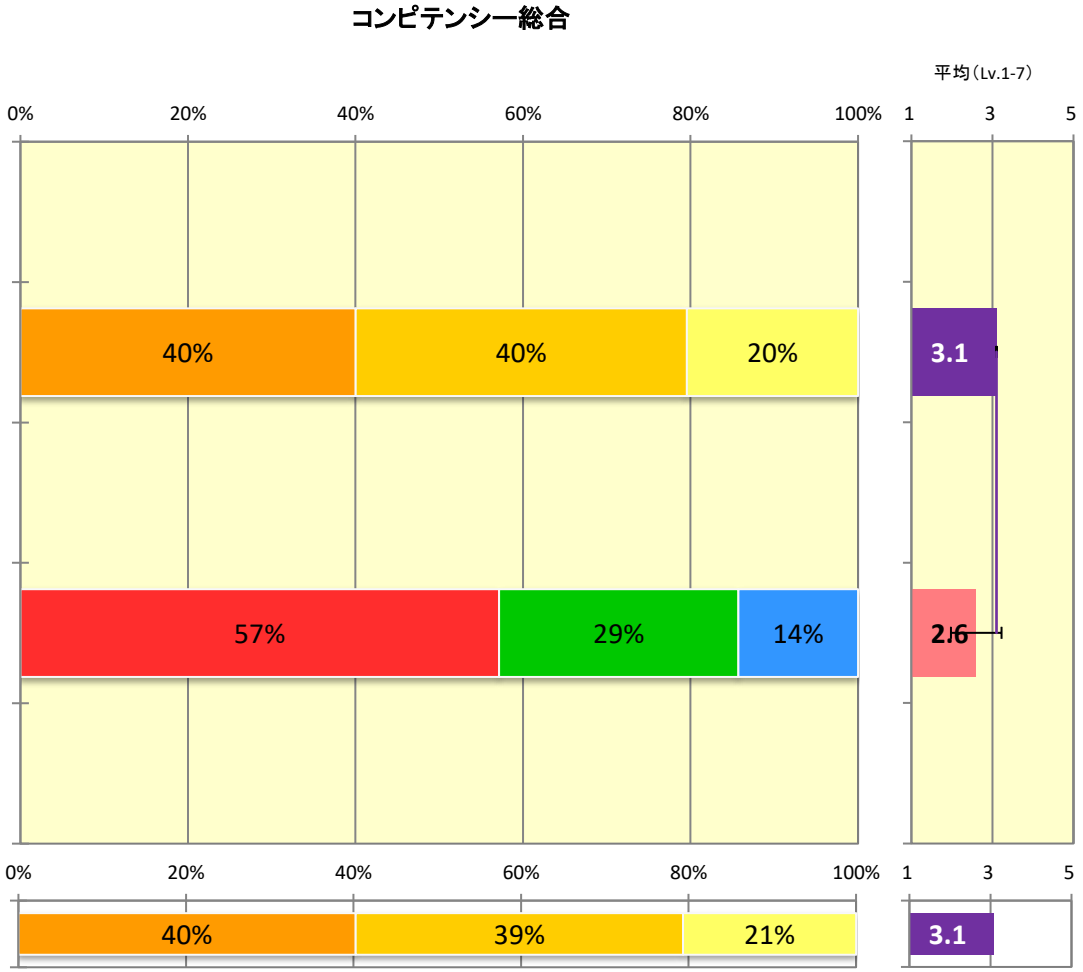
※未来教養学環１年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い



【基準集団】

★私立大学１年	224校　N=348,987

	χ２乗値	有意確率
未来教養学環１年	2.57	0.28

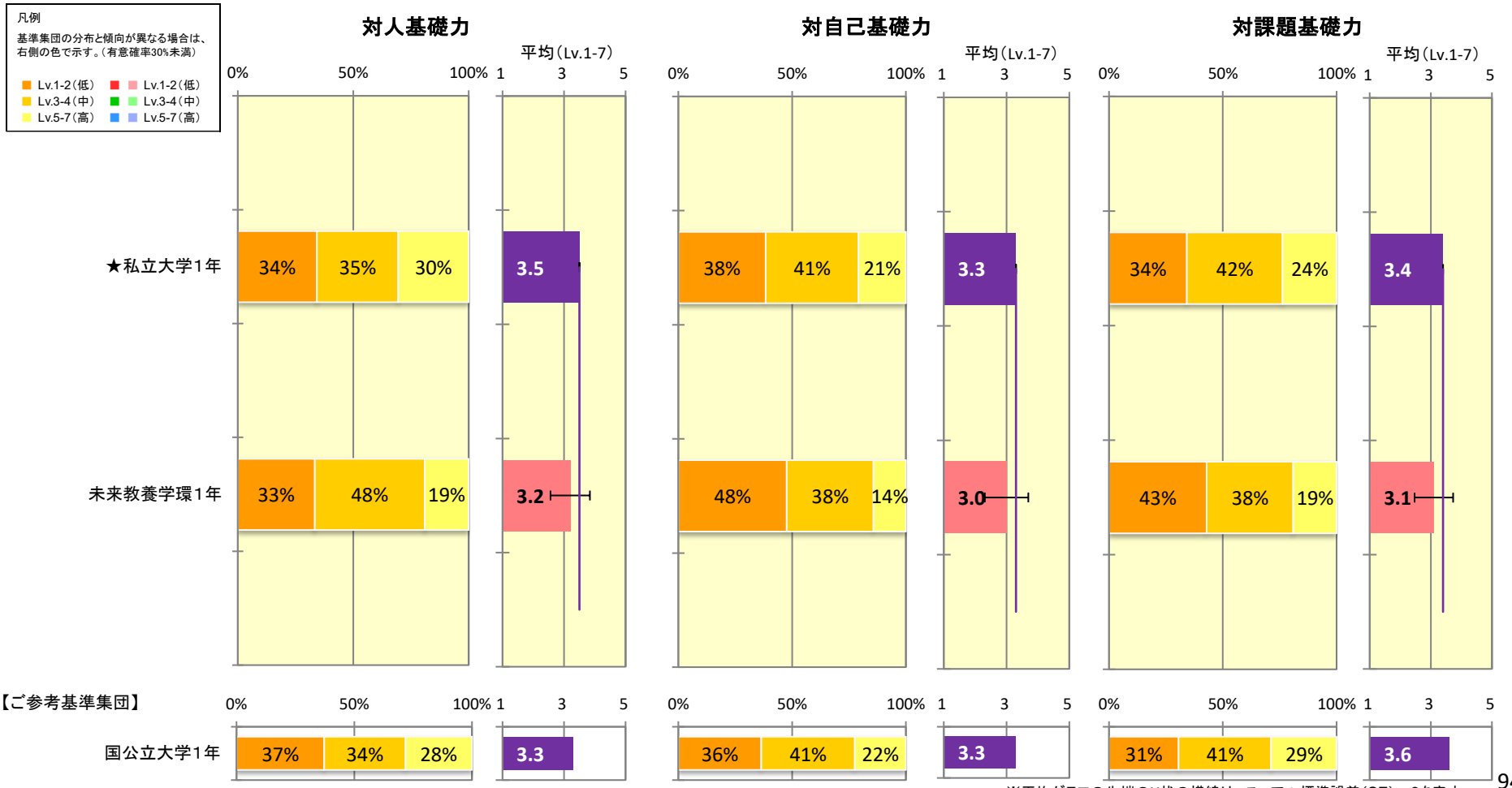
【ご参考基準集団】

国公立大学１年	57校　N=29,905

※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
※未来教養学環1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。
【対自己基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
※未来教養学環1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。
【対課題基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
※未来教養学環1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



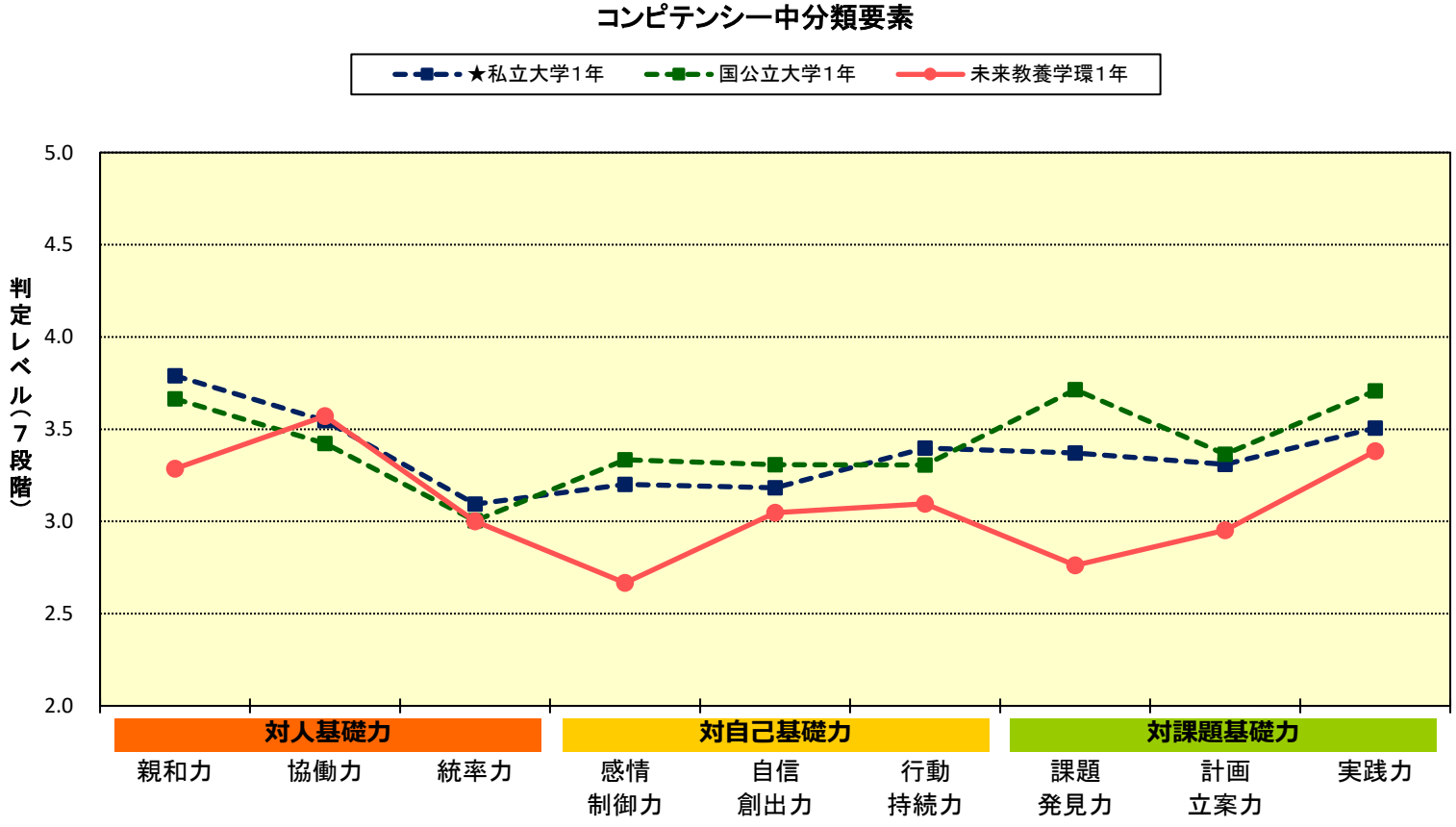
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【未来教養学環1年】

基準集団（★印）と比較して、協働力の平均値は上回る傾向にある。

一方、統率力、自信創出力、行動持続力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、感情制御力、課題発見力、計画立案力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

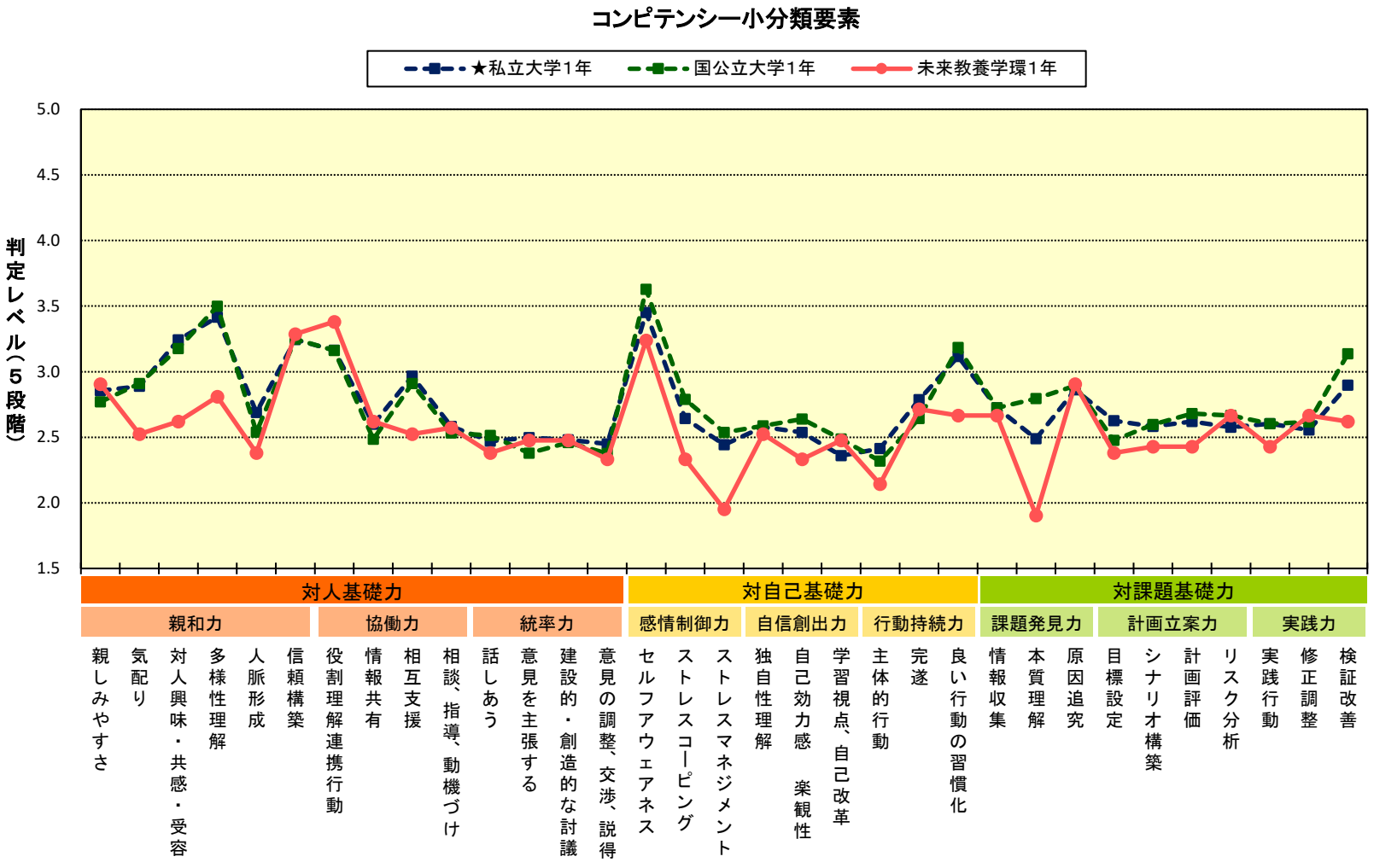
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

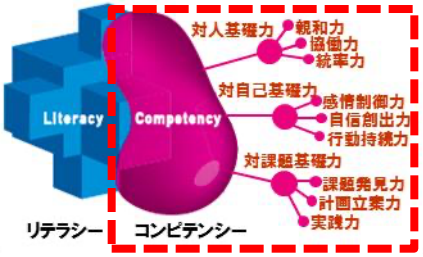
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

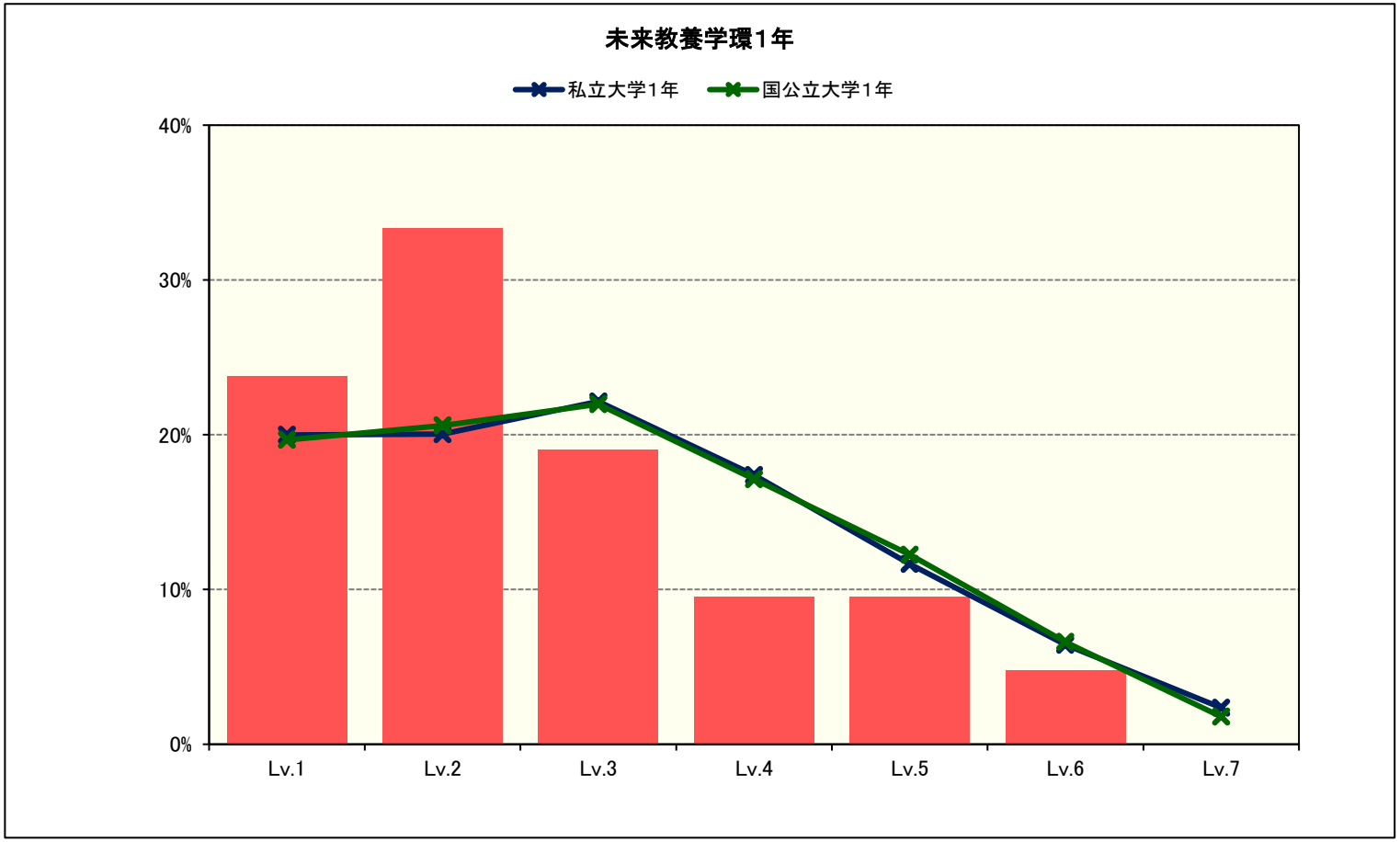
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向



コンピテンシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
未来教養学環１年	-	◎	-	-	-	■	▲	-	-	▲	-	-	▲	▲	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【未来教養学環１年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く（傾聴する）ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する
	●計画立案力	課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる 立案した計画や目標に自分なりに取り組むことができる 条件が明確な課題であれば、発生しそうな問題を予め考えることができる 起こりうる事象を予測し、計画を立て取り組むことができる	ゴール（目指す姿）をイメージしてから、課題に取り組ませる 想定される障害を考慮して代替案を考えるよう指導する 立てた計画について、達成の見込みや問題点を客観的にあげさせる

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.7
１年生過去受験者比較
（文学部）

受験者プロフィール

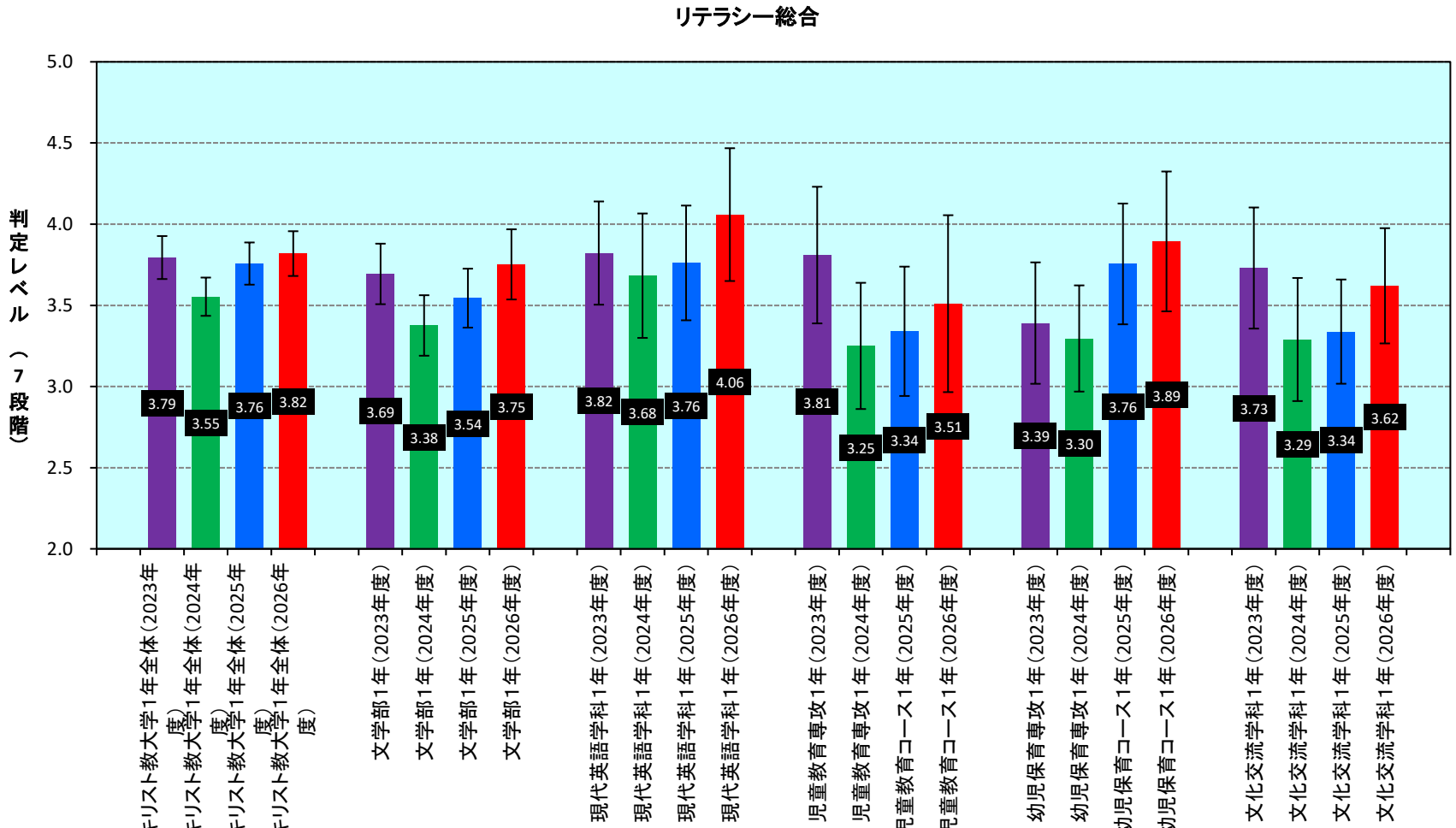
学部	学科	2023年度 1年 2023年4月～5月 受験	2024年度 1年 2024年4月～7月 受験	2025年度 1年 2025年4月～6月 受験	2026年度 1年 2026年4月～6月 受験
文学部	現代英語学科	73	63	67	51
	児童教育学科　児童教育コース	-	-	50	49
	児童教育学科　幼児保育コース	-	-	49	47
	児童教育学科　児童教育専攻	63	56	-	-
	児童教育学科　幼児保育専攻	64	71	-	-
	文化交流学科	74	76	71	79
		274	266	237	226
生活科学部	心理福祉学科	76	68	69	76
	食物健康科学科	80	76	79	67
		156	144	148	143
看護学部	看護学科　　※N版受験	93	98	91	92
		93	98	91	92
経営学部	経営学科	80	90	92	86
		80	90	92	86
未来教養学環	-	-	13	17	21
		-	13	17	21
合計		603	611	585	568
合計　※N版除く		510	513	494	476

※「茨城キリスト教大学1年全体」について

看護学部はN版受験のため、コンピテンシーテストは通常版と異なるため集計から除外いたします。

リテラシー総合（過去の受験者との比較）

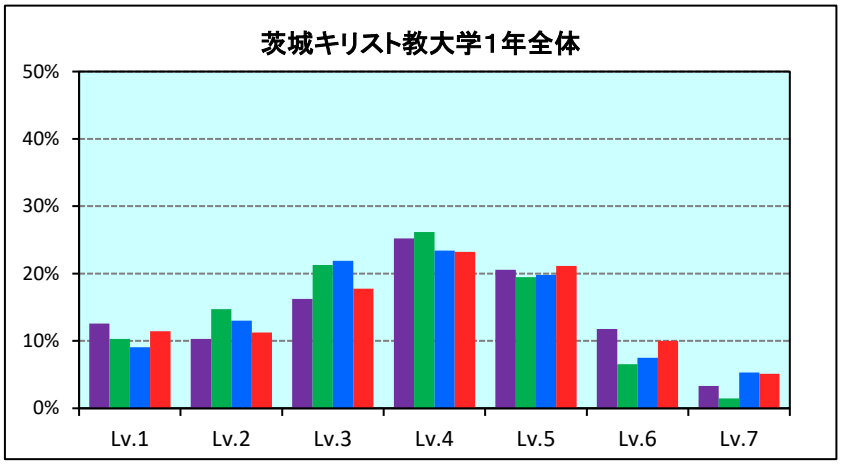
●茨城キリスト教大学1年全体、茨城キリスト教大学1年全体、文学部1年、現代英語学科1年、児童教育コース1年、幼児保育コース1年、文化交流学科1年は、2025年度のスコアを上回る。



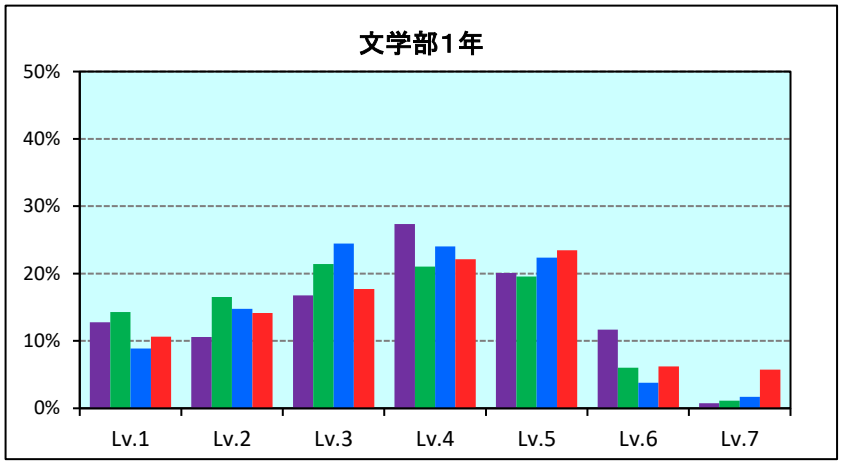
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）①

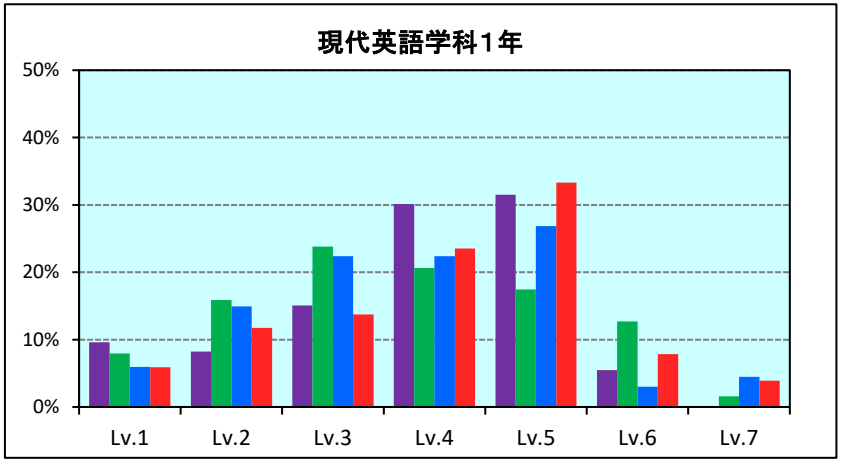




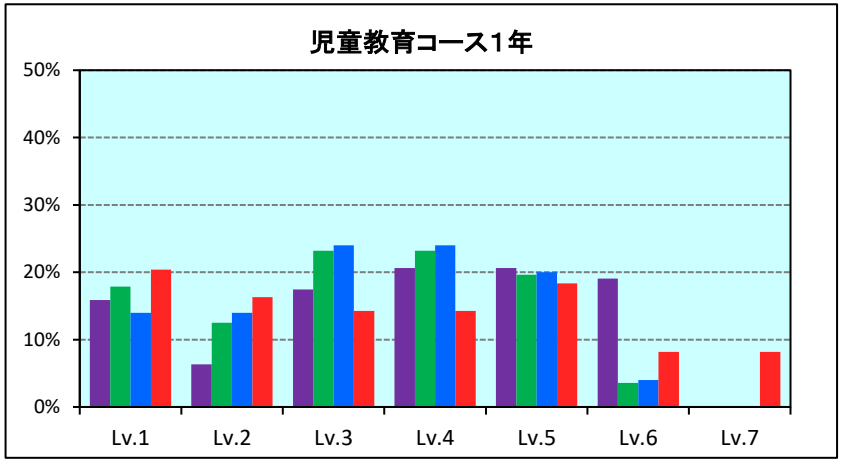
2025年度に比べて、レベル3の割合が小さい。



2025年度に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル7の割合が大きい。

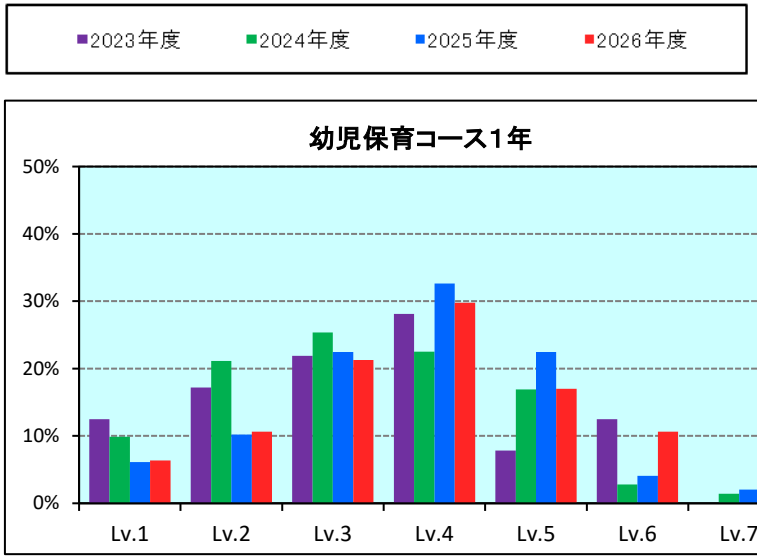


2025年度に比べて、レベル2～3のボリュームが小さく、レベル5～6のボリュームが大きい。

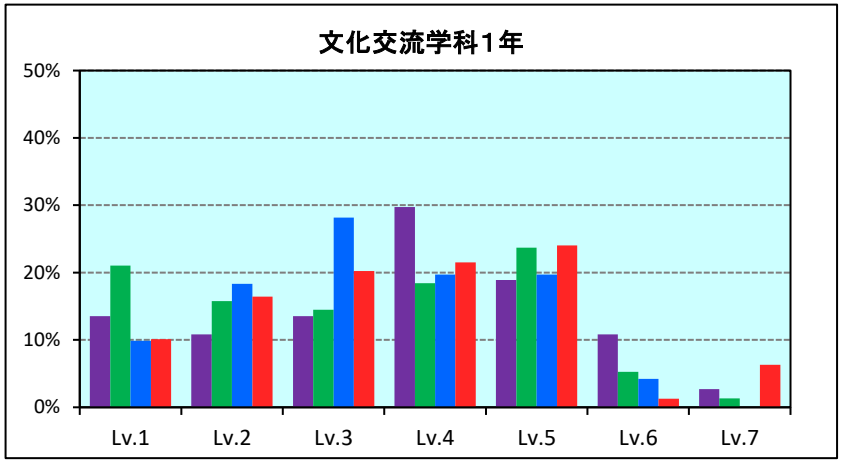


2025年度に比べて、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル1、レベル6～7のボリュームが大きい。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）②



2025年度に比べて、レベル5の割合が小さく、レベル6の割合が大きい。

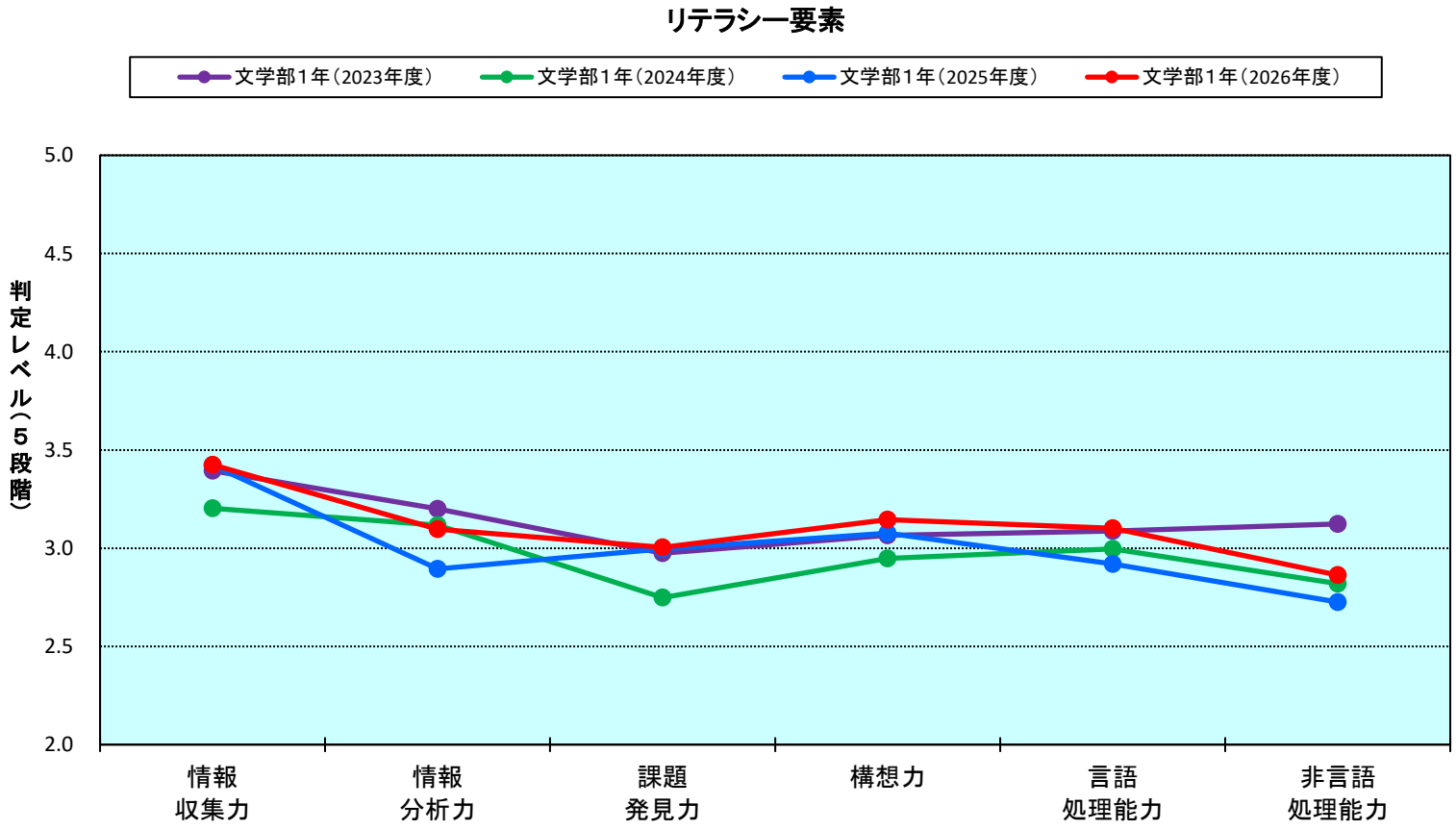


2025年度に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル5、レベル7の割合が大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

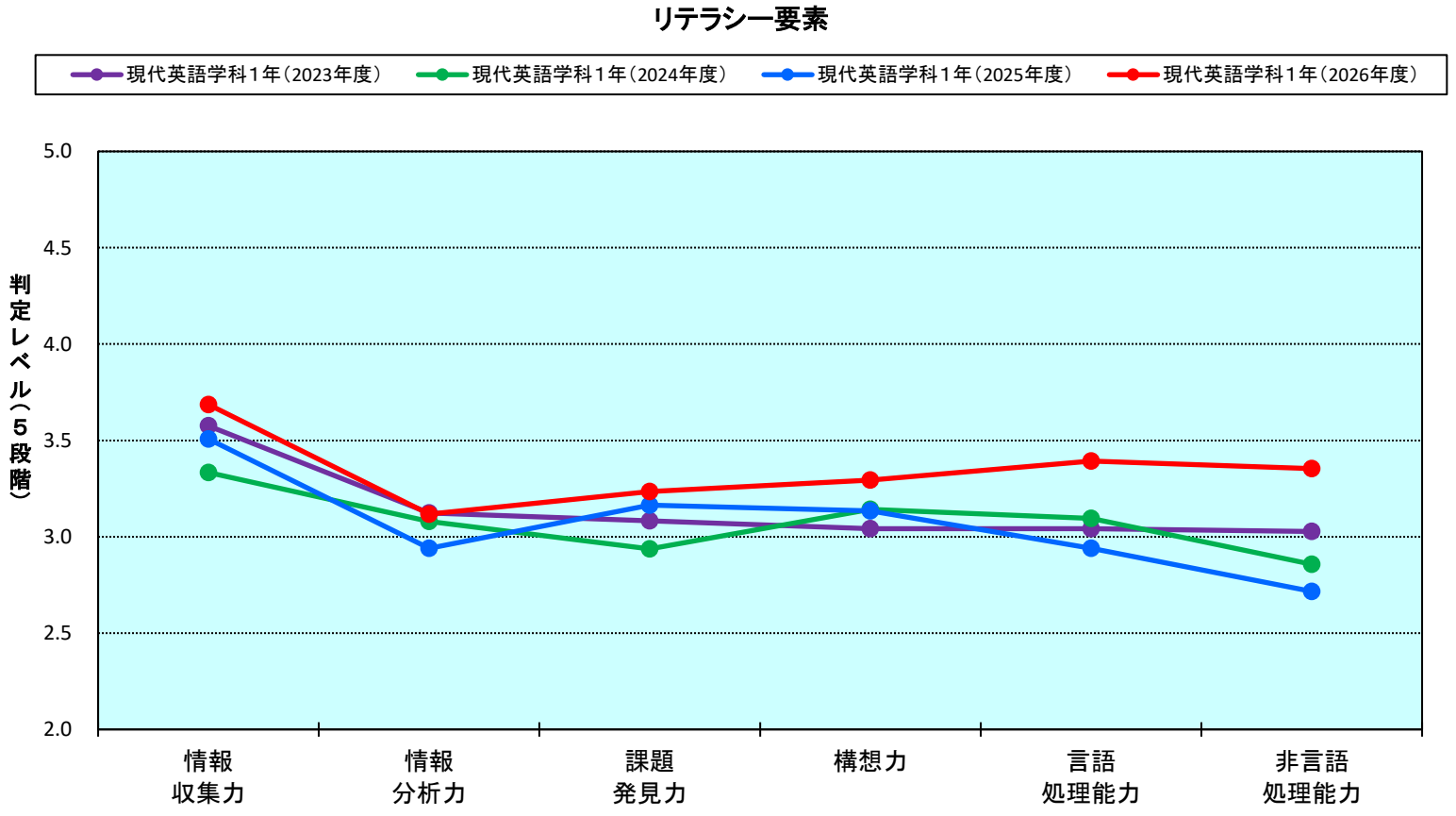
【文学部1年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

【現代英語学科１年】
　情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。

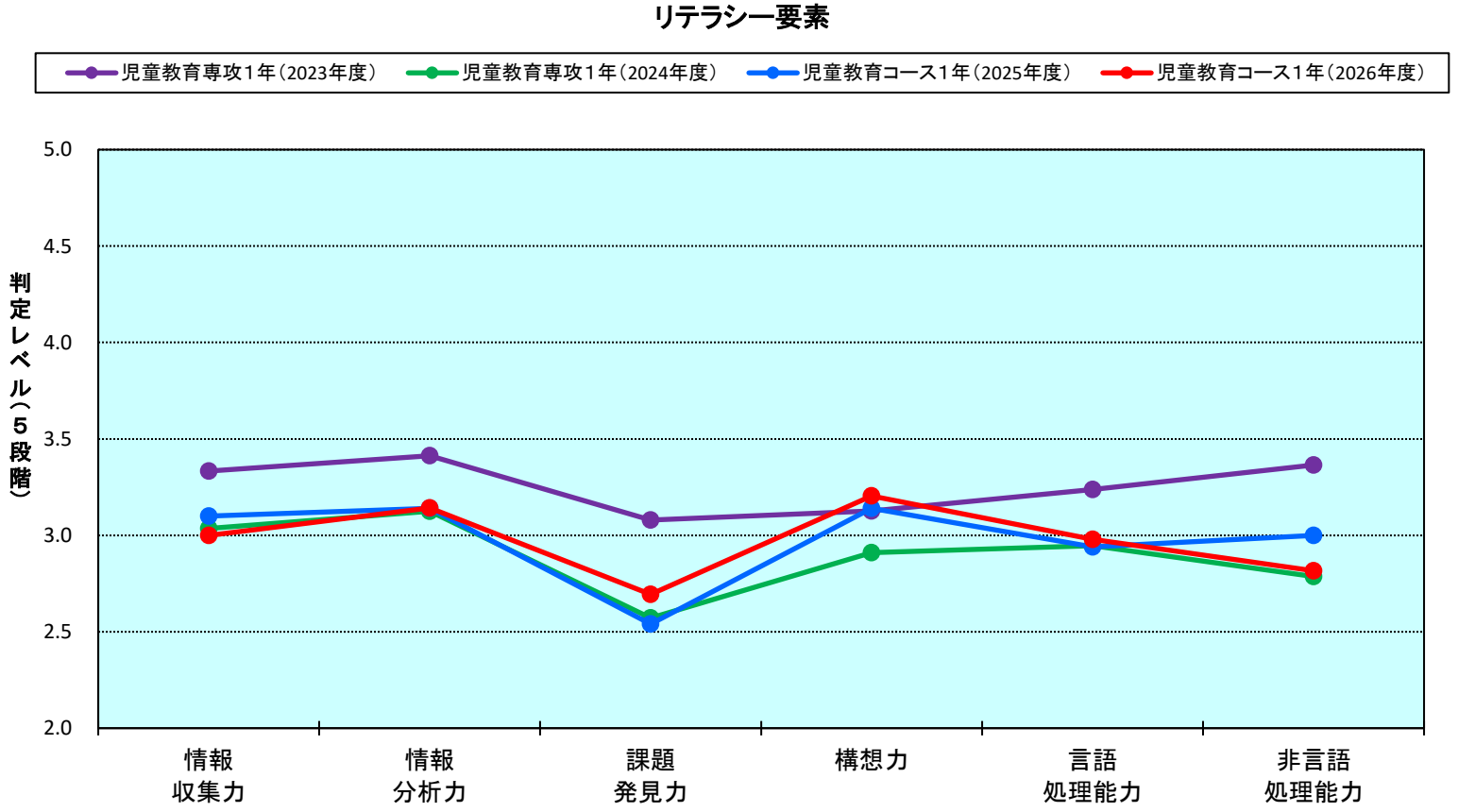


リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【児童教育コース1年】

情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。

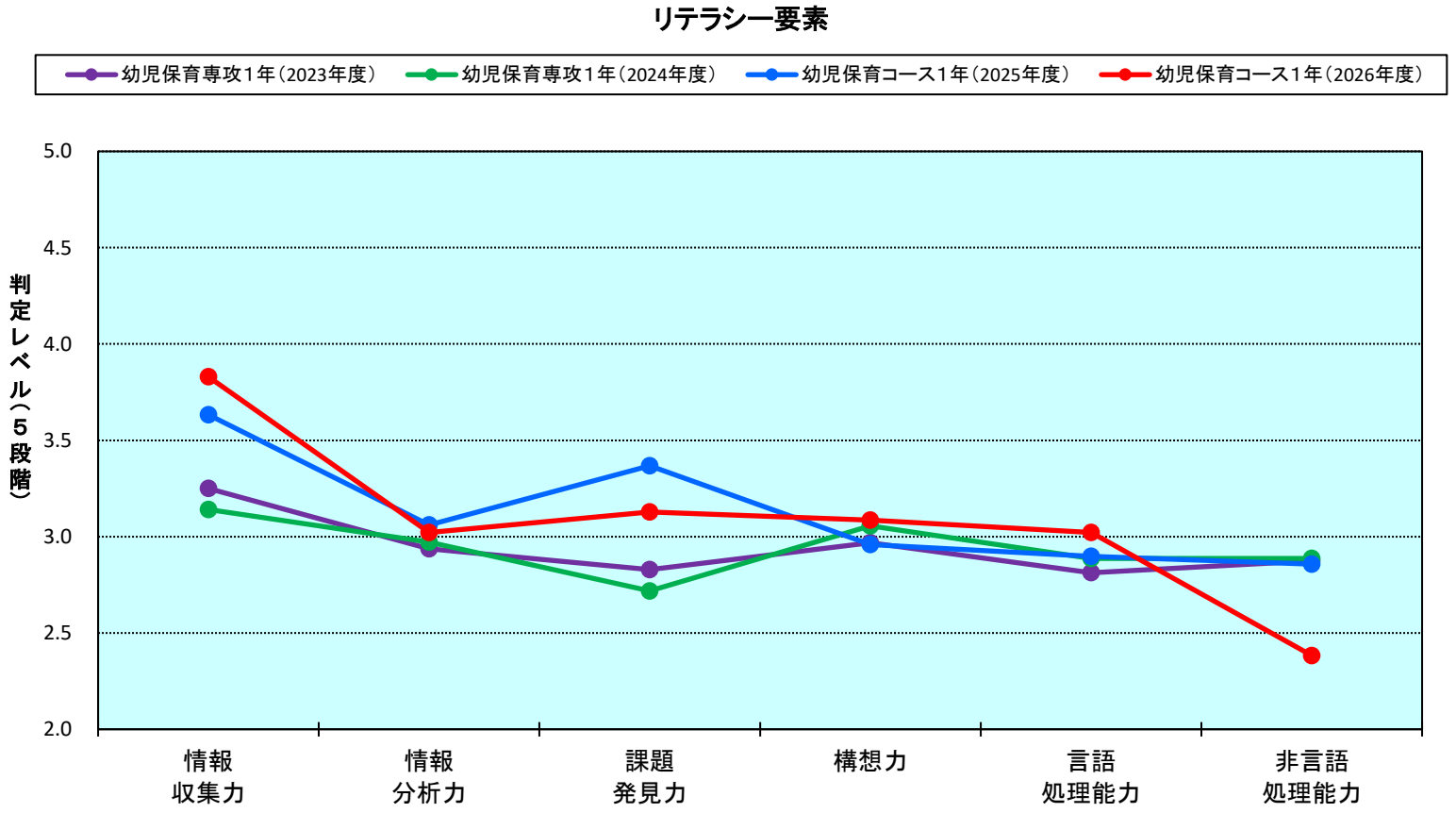


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑤

【幼児保育コース1年】

情報収集力、構想力、言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、情報分析力、課題発見力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。

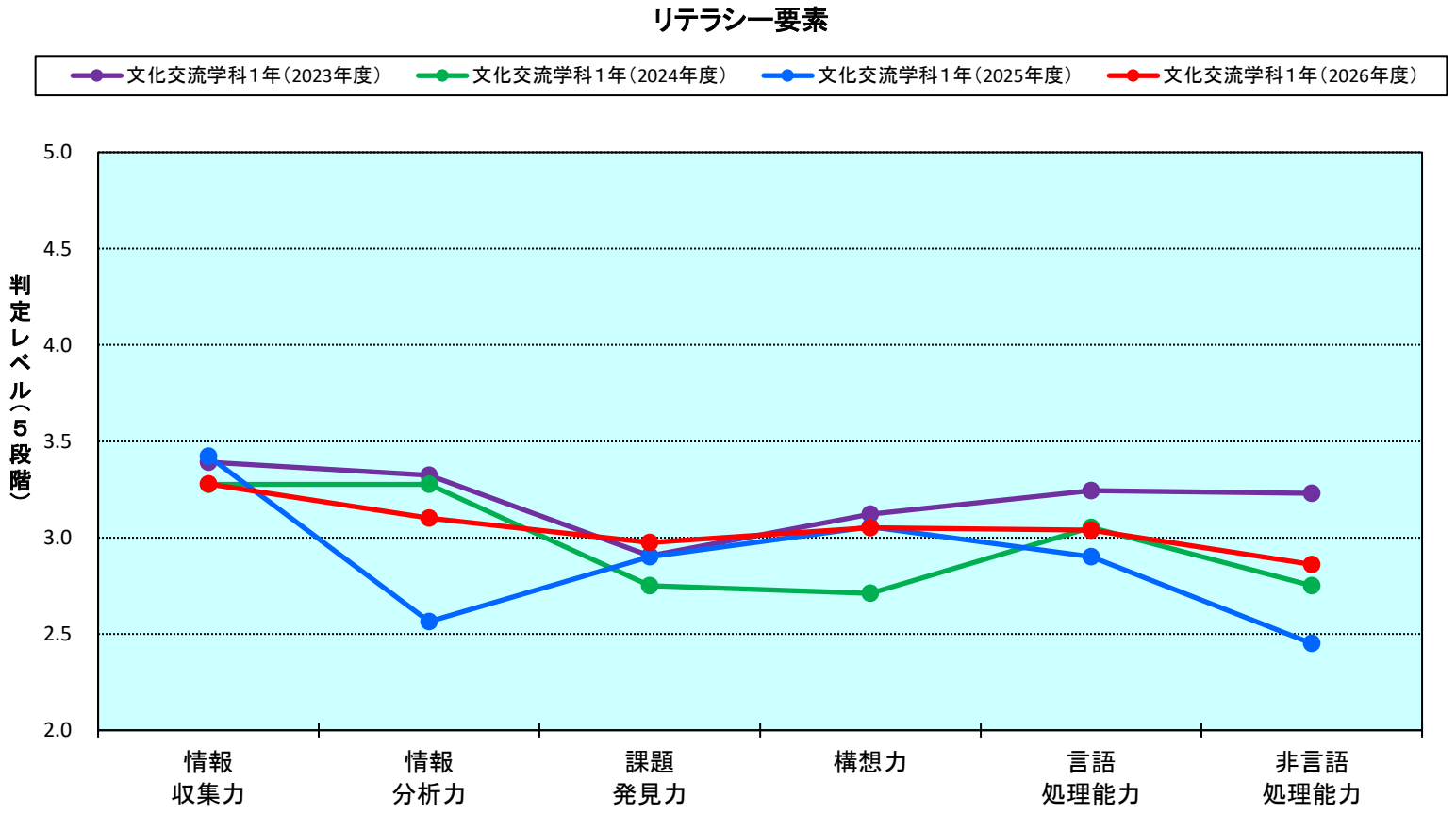


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑥

【文化交流学科１年】

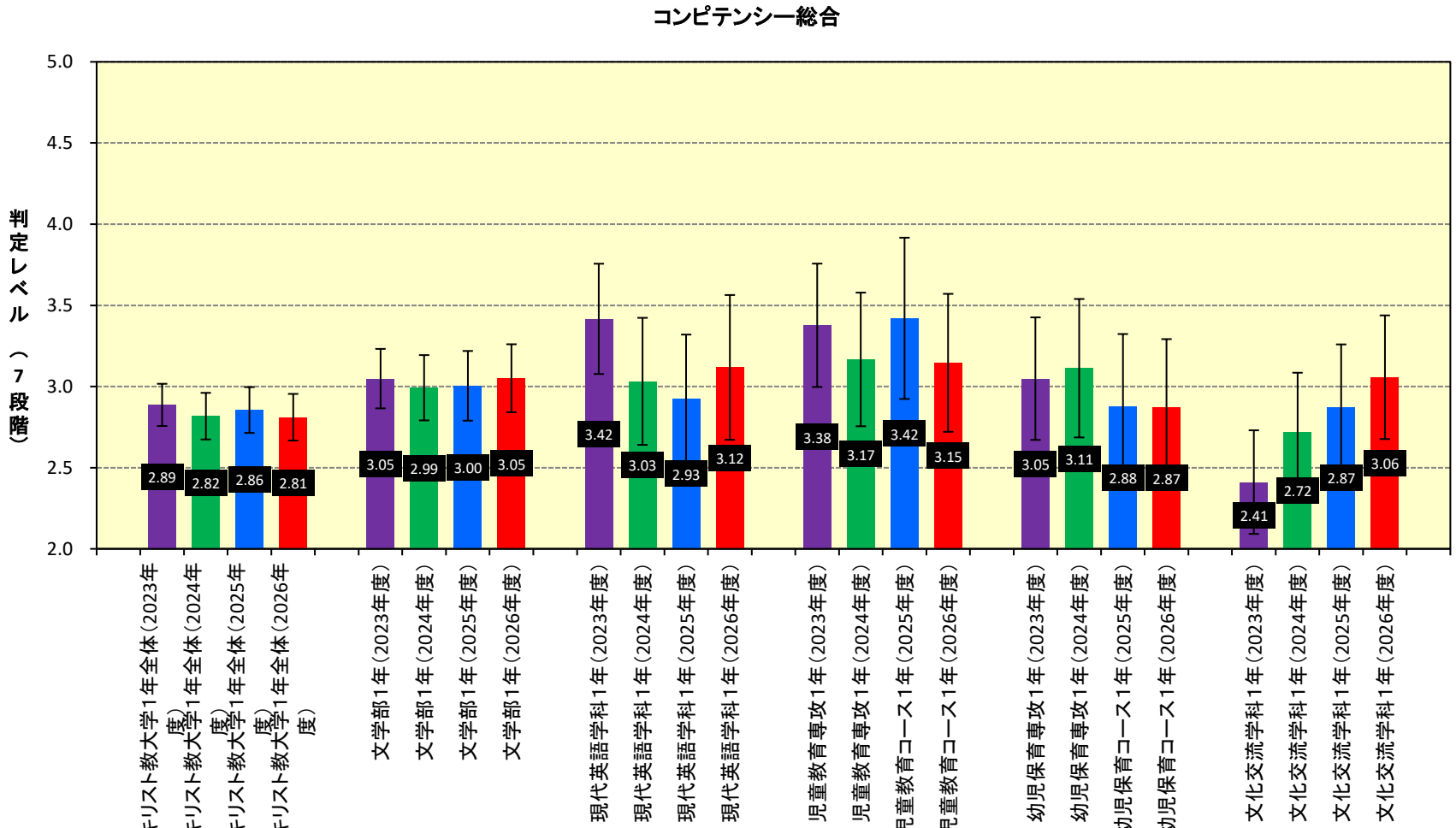
情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、構想力は、2025年度のスコアを下回る。



コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

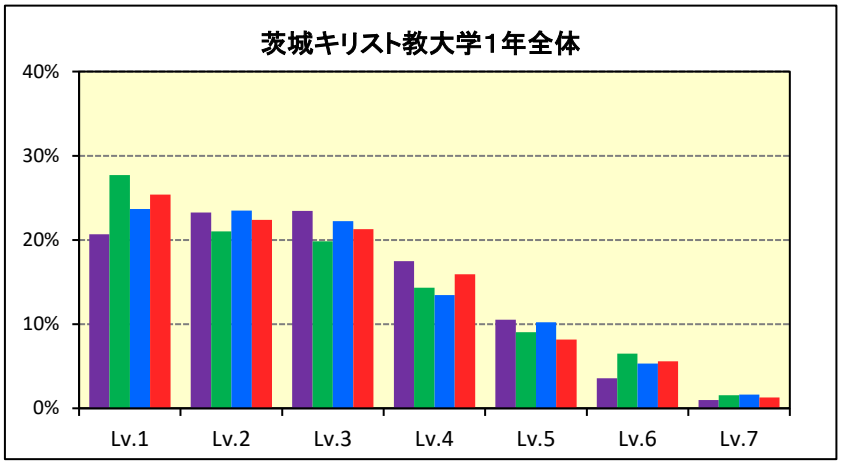
●文学部1年、現代英語学科1年、文化交流学科1年は、2025年度のスコアを上回る。
●茨城キリスト教大学1年全体、茨城キリスト教大学1年全体、児童教育コース1年、幼児保育コース1年は、2025年度のスコアを下回る。



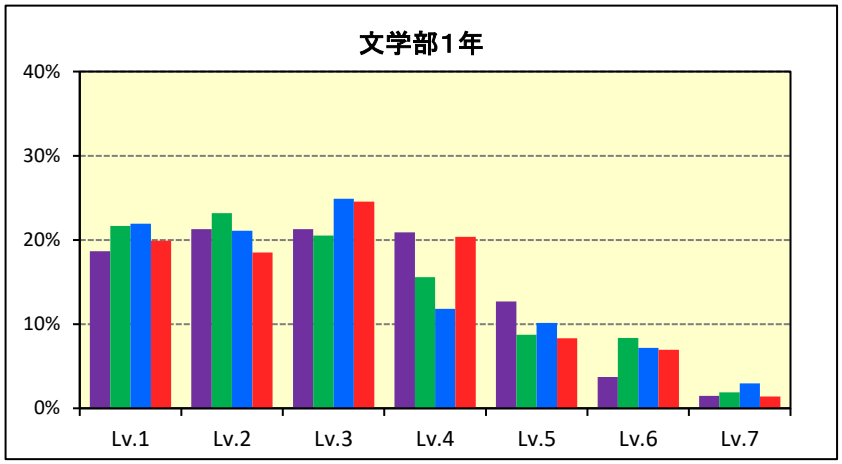
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）①

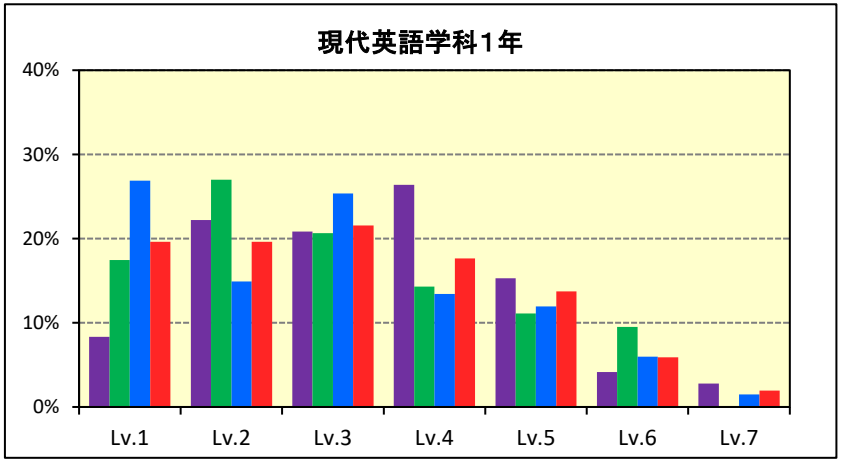




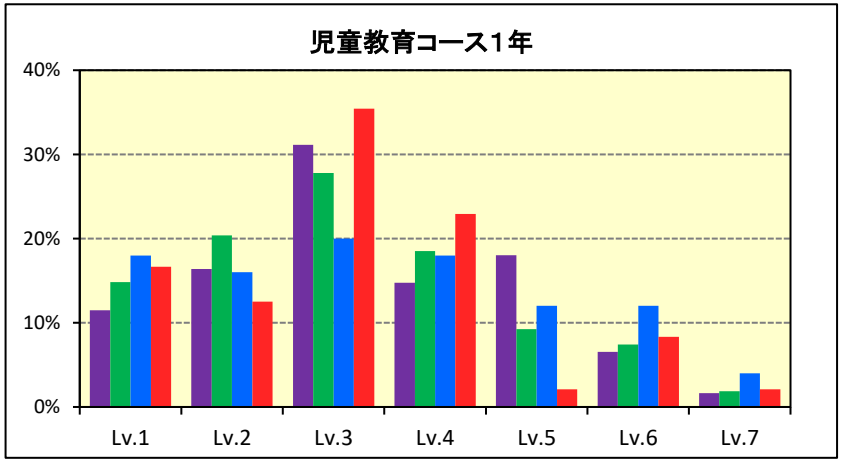
2025年度に近い分布を成す。



2025年度に比べて、レベル4の割合が大きい。



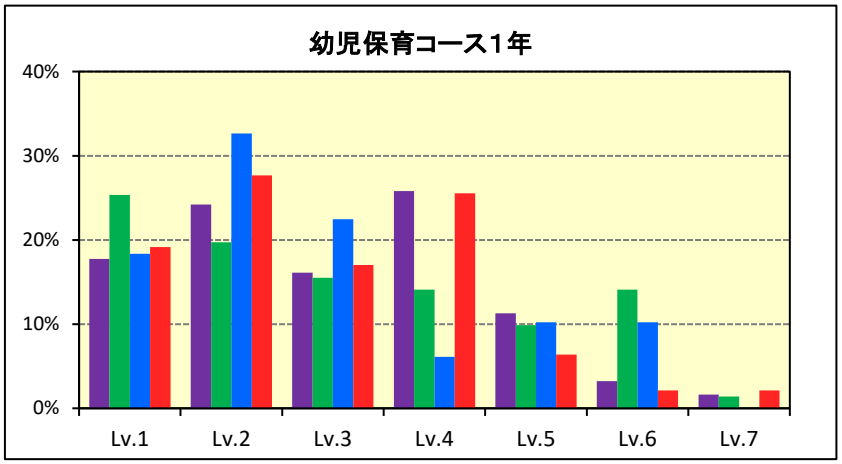
2025年度に比べて、レベル1、レベル3の割合が小さく、レベル2、レベル4の割合が大きい。



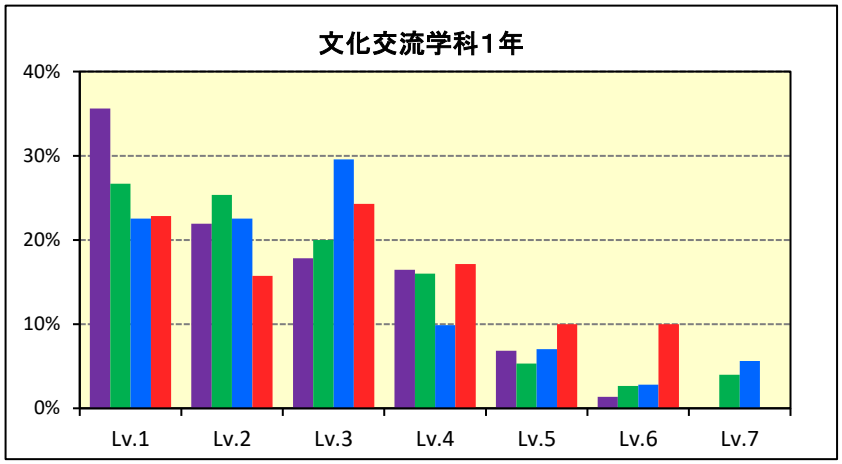
2025年度に比べて、レベル2、レベル5～6のボリュームが小さく、レベル3～4のボリュームが大きい。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）②





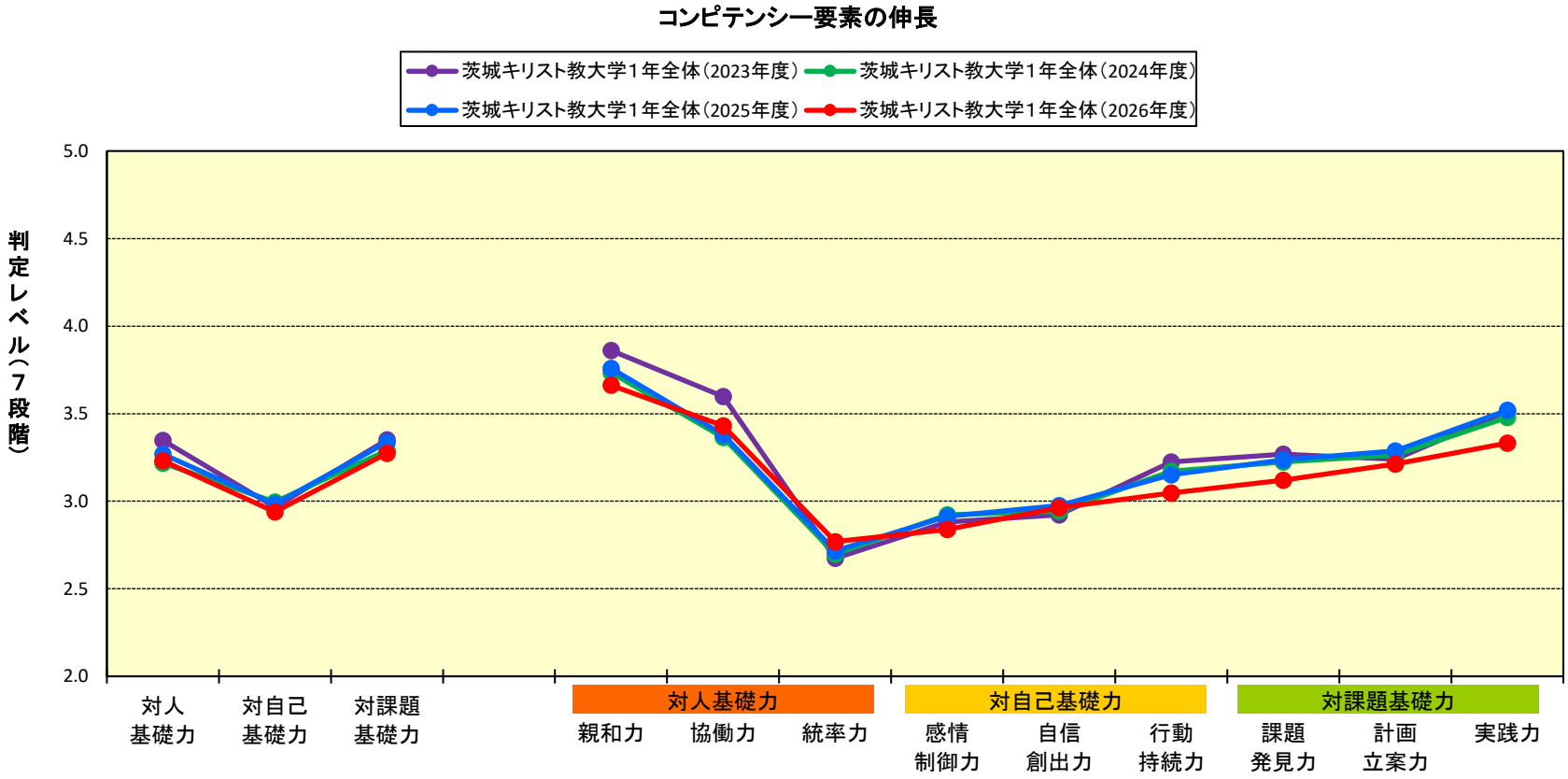
2025年度に比べて、レベル2～3、レベル5～6のボリュームが小さく、レベル4の割合が大きい。



2025年度に比べて、レベル2～3、レベル7のボリュームが小さく、レベル4、レベル6の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

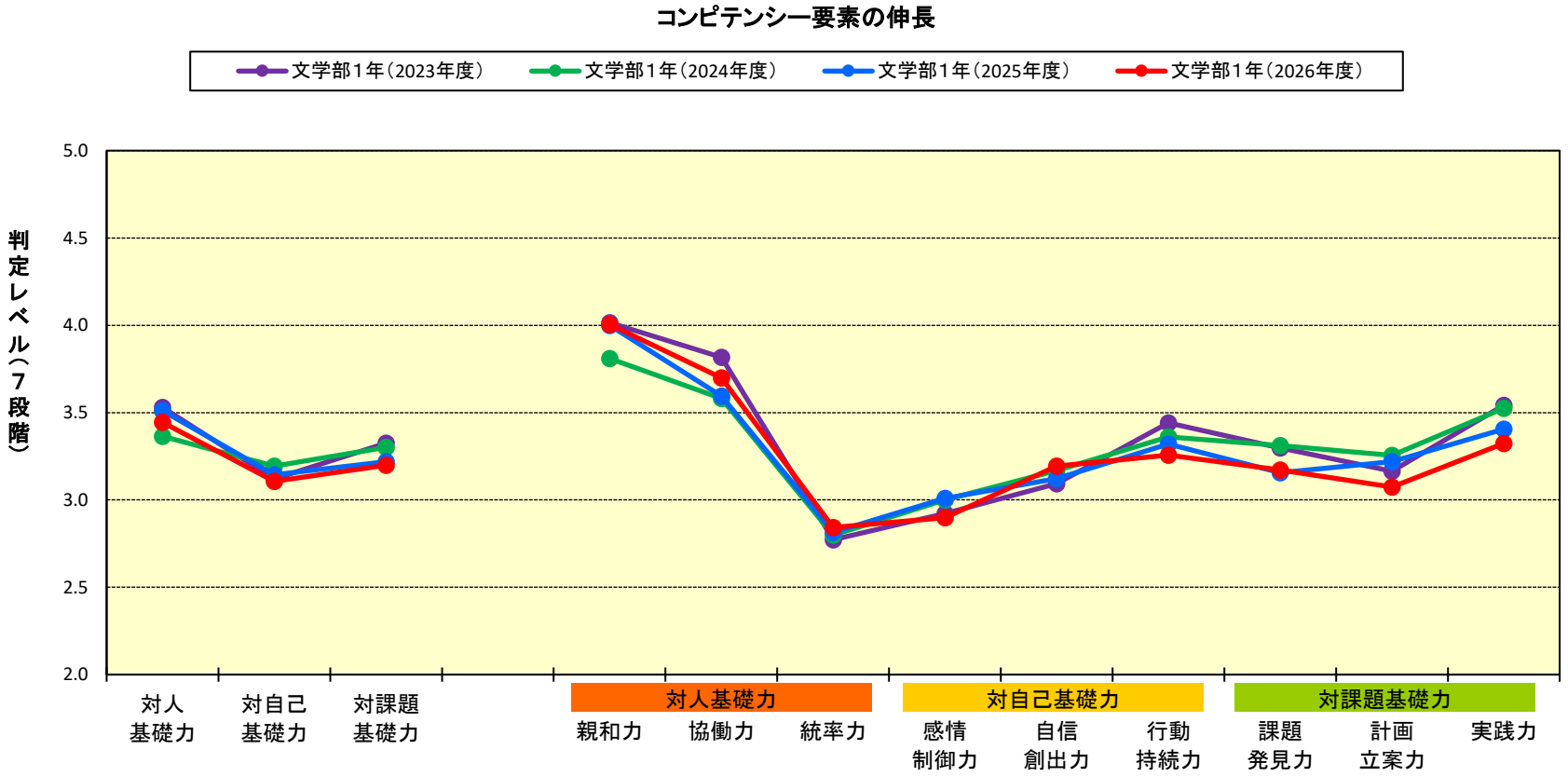
【茨城キリスト教大学1年全体】
協働力、統率力は、2025年度のスコアを上回る。
一方、親和力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。



コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）②

【文学部1年】

親和力、協働力、統率力、自信創出力、課題発見力は、2025年度のスコアを上回る。
一方、感情制御力、行動持続力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。

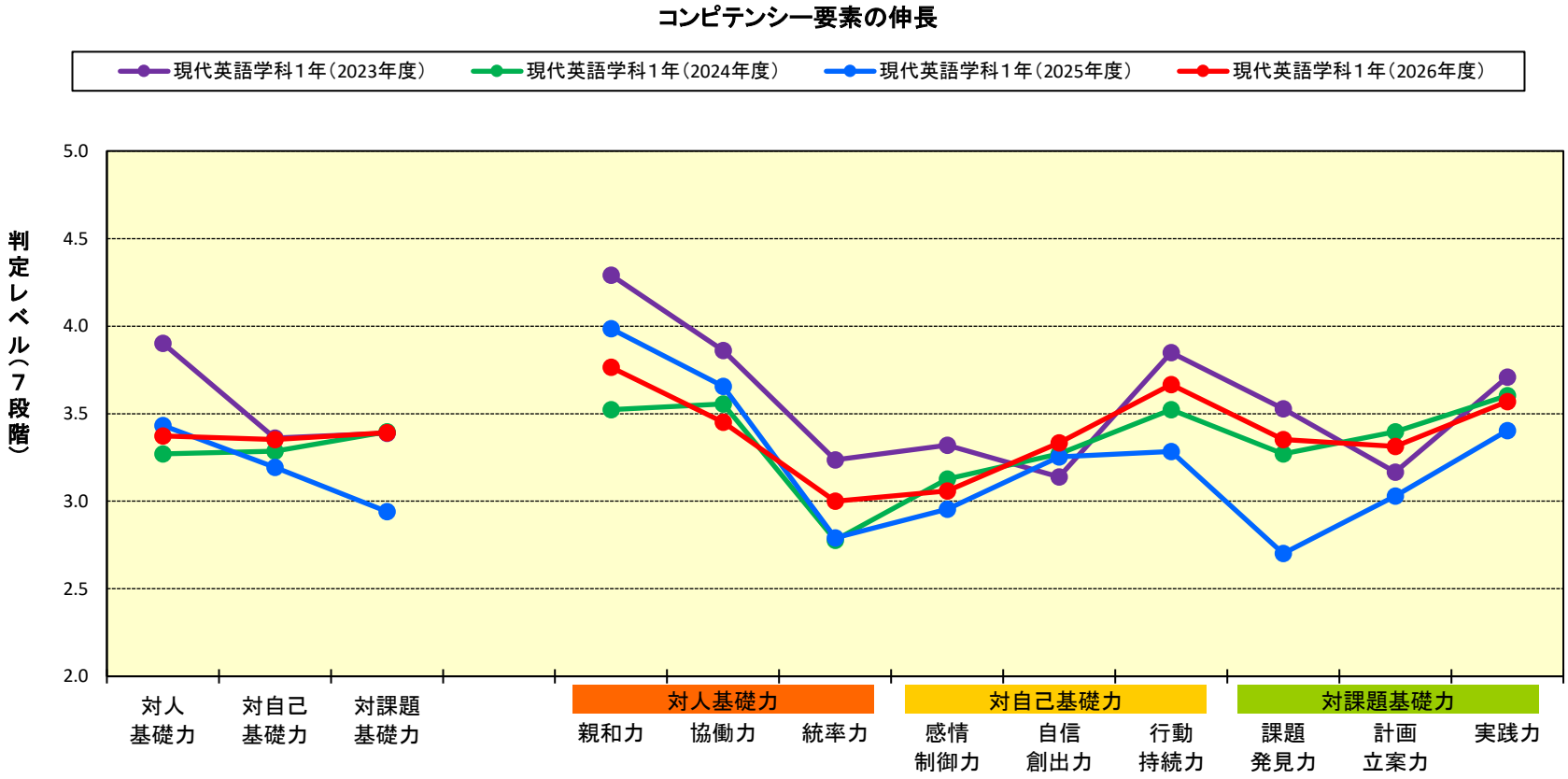


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）③

【現代英語学科１年】

統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを上回る。

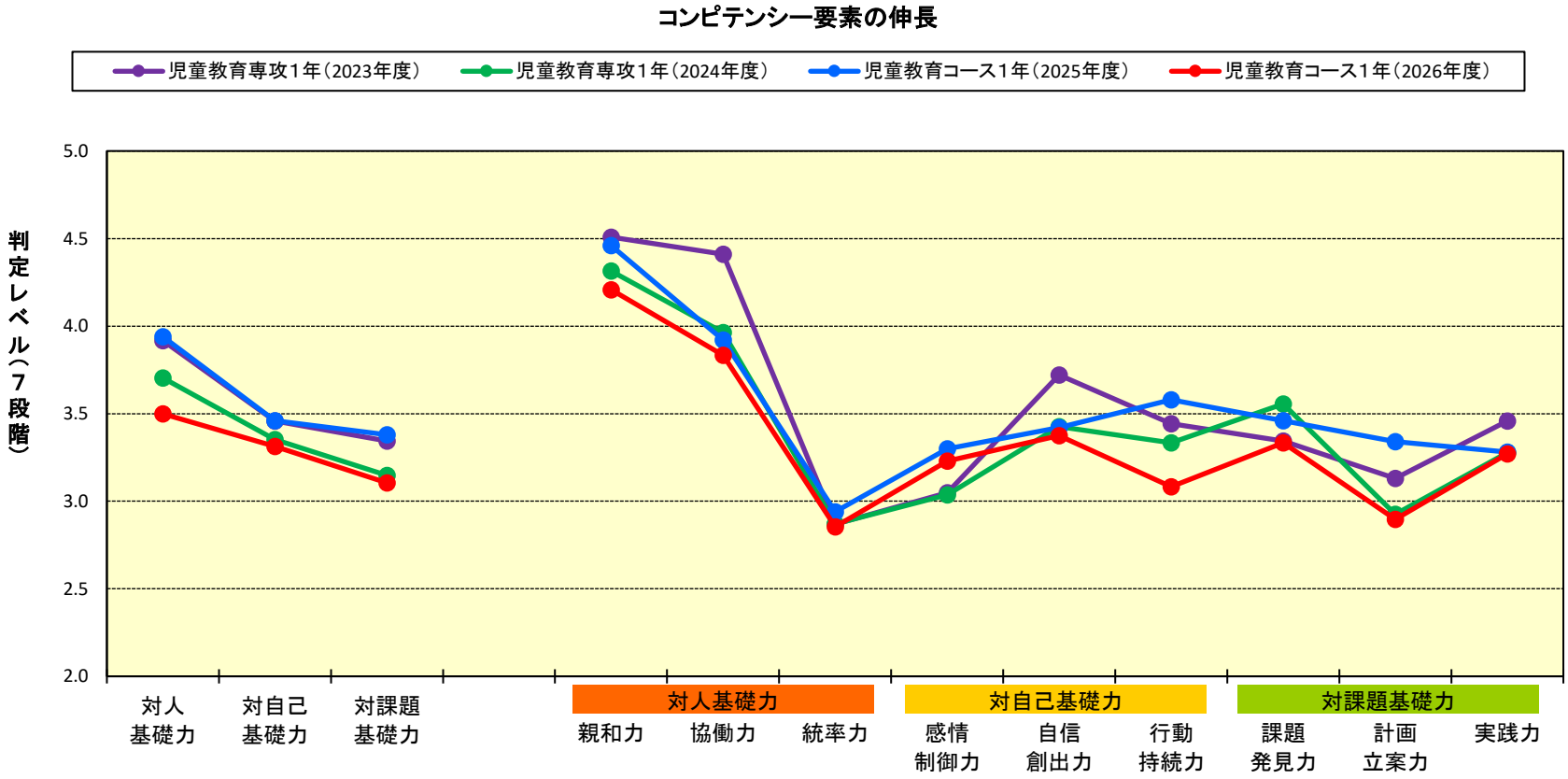
一方、親和力、協働力は、2025年度のスコアを下回る。



コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）④

【児童教育コース1年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。

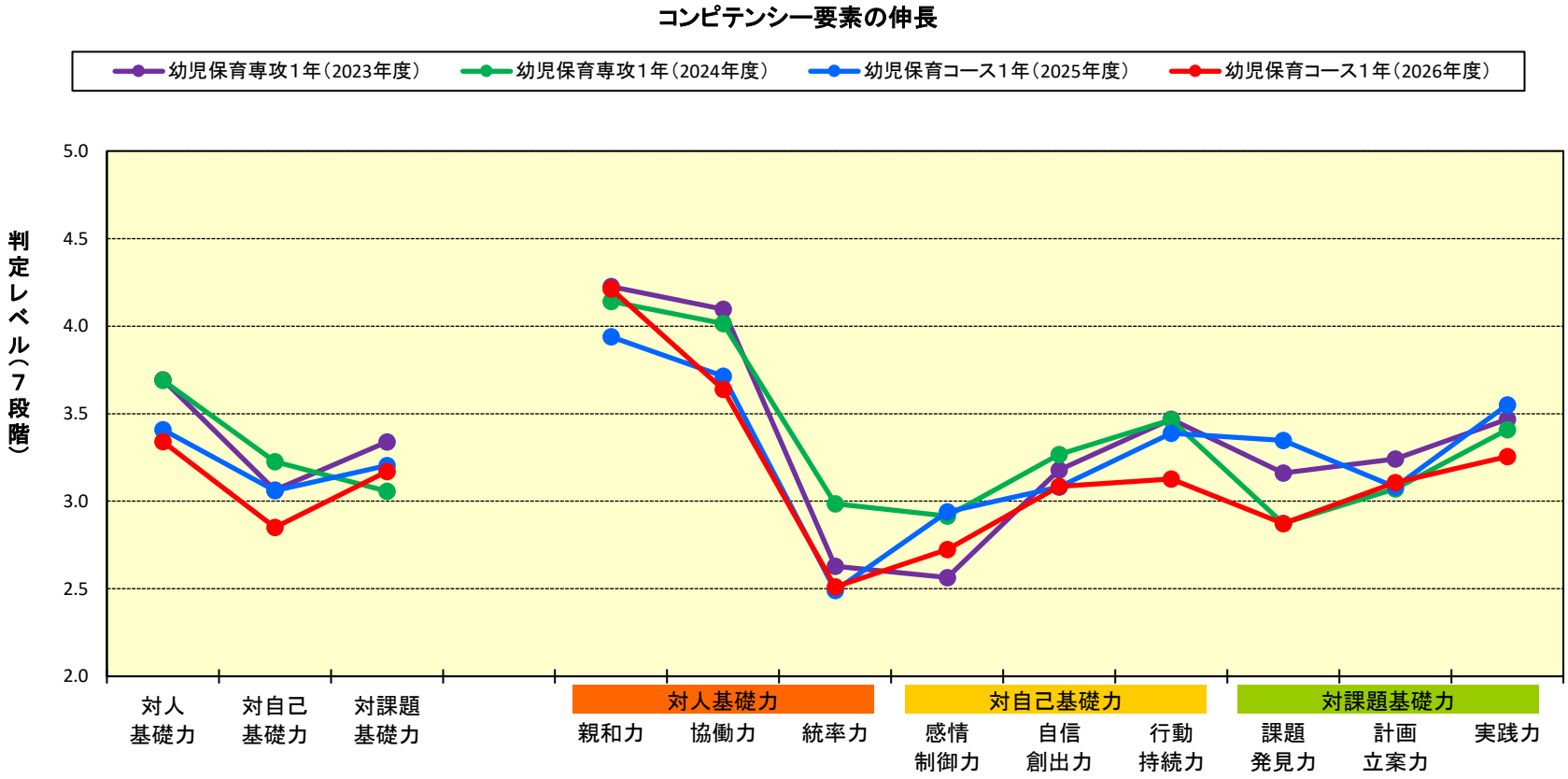


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【幼児保育コース1年】

親和力、統率力、自信創出力、計画立案力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、協働力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。

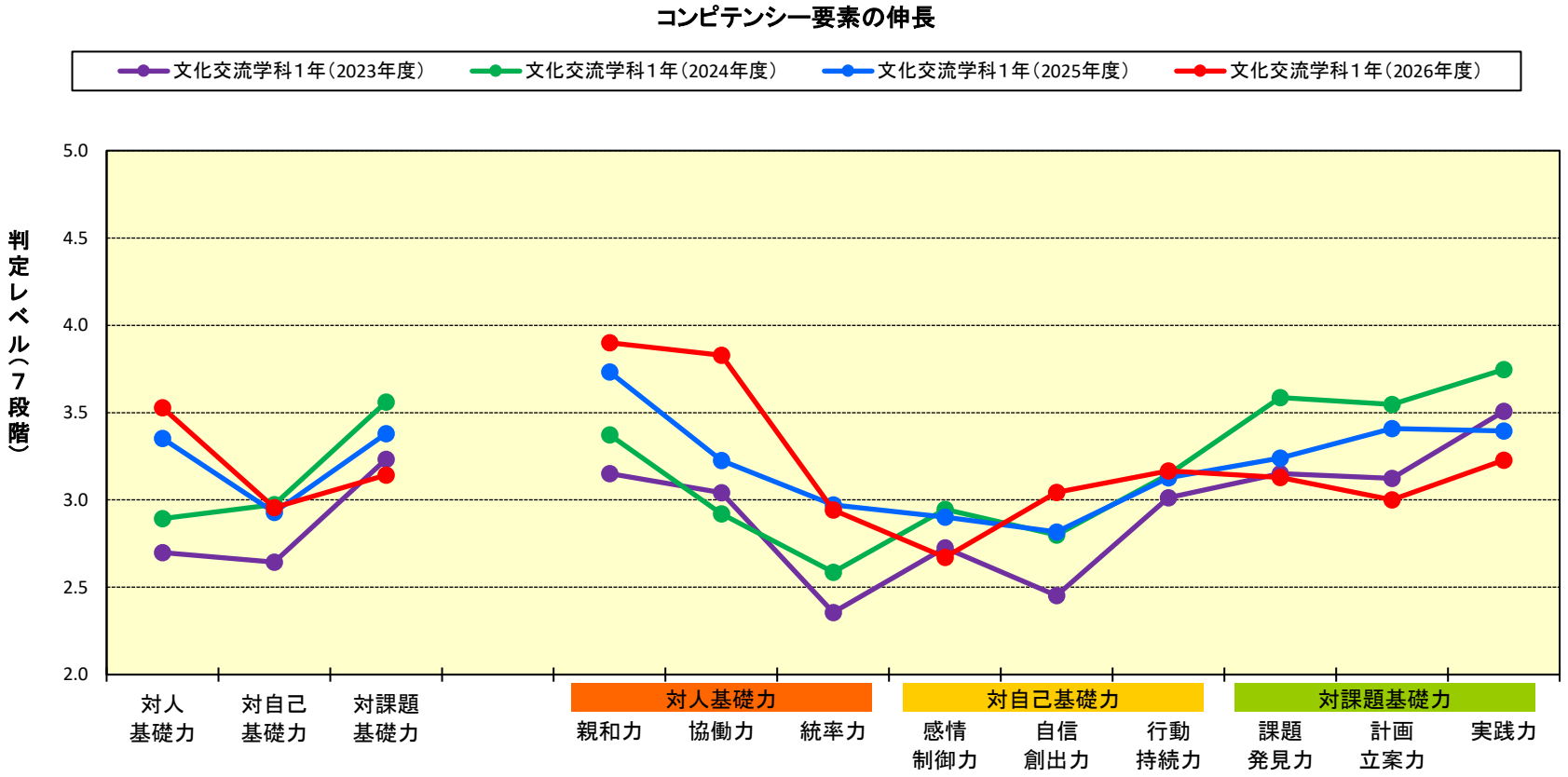


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑥

【文化交流学科１年】

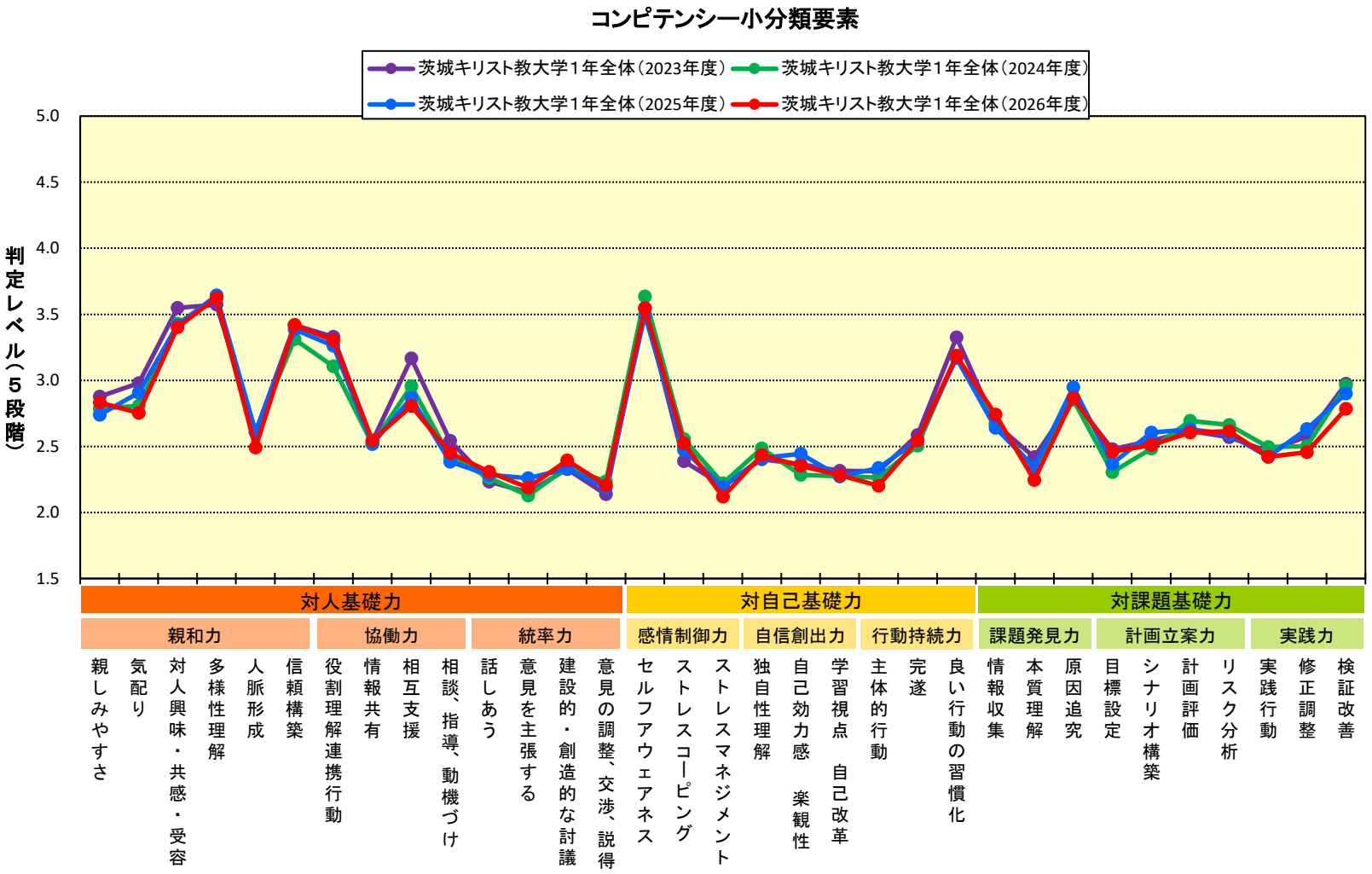
親和力、協働力、自信創出力、行動持続力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、統率力、感情制御力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。



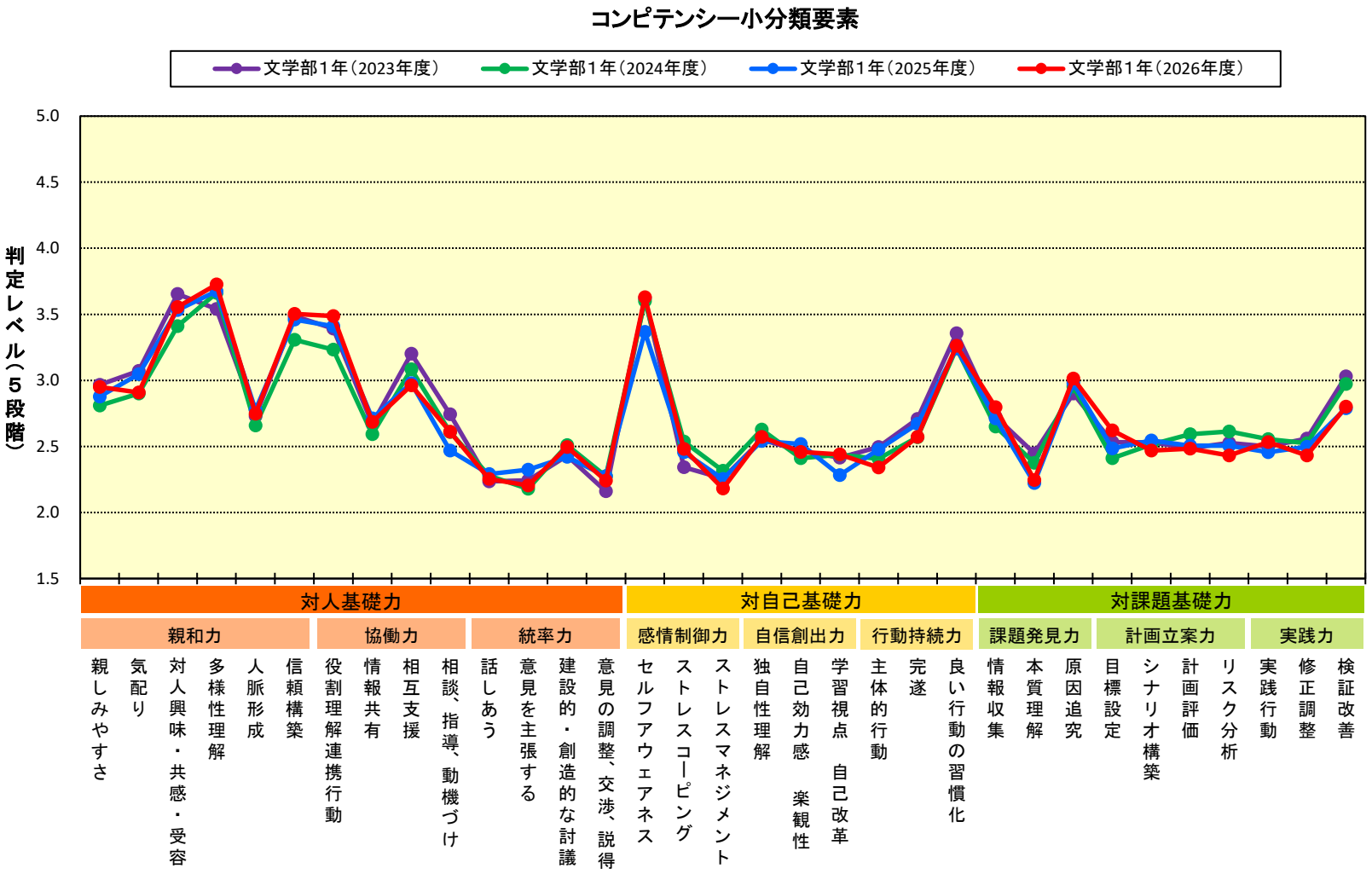
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

【茨城キリスト教大学1年全体】



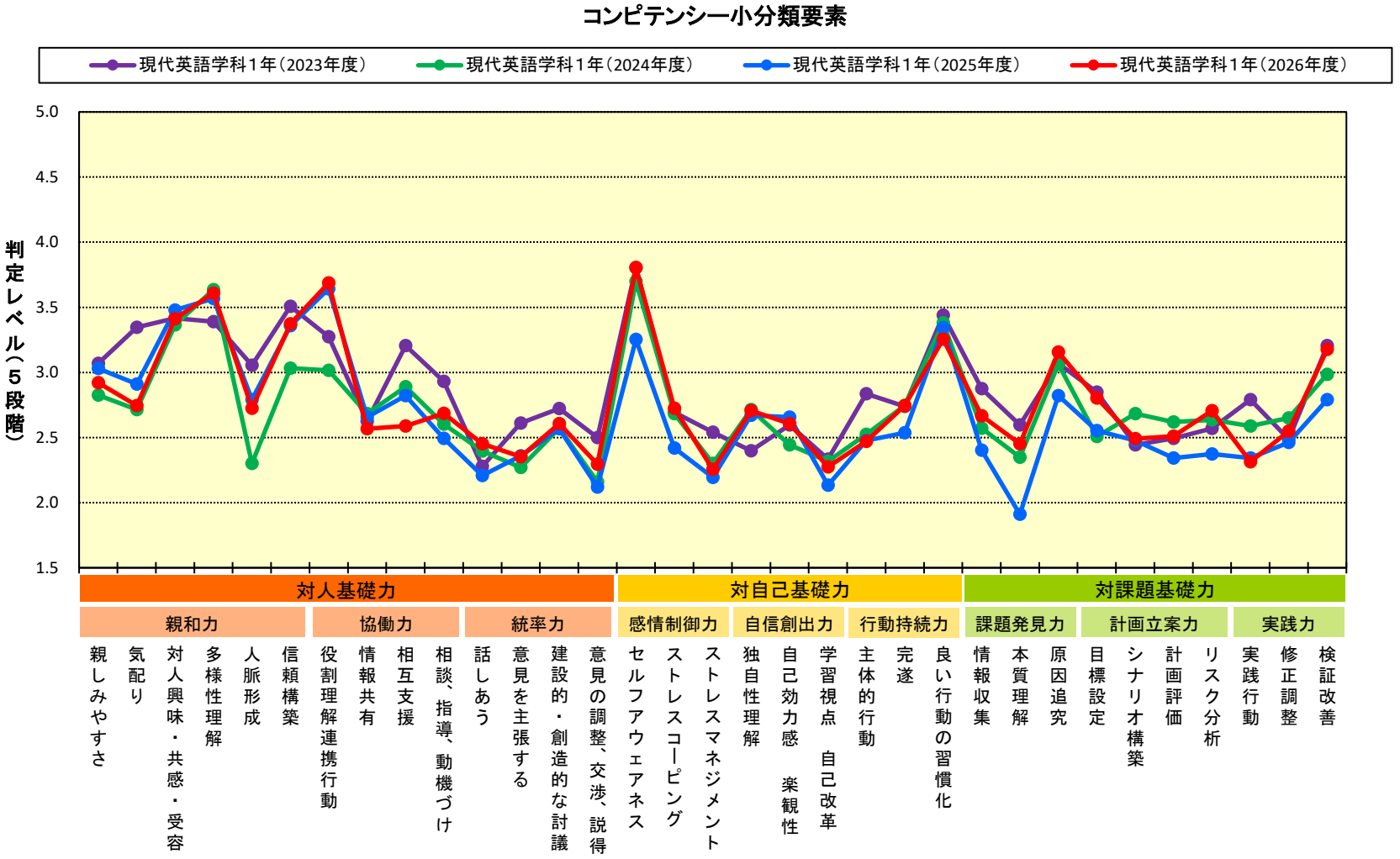
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）②

【文学部1年】



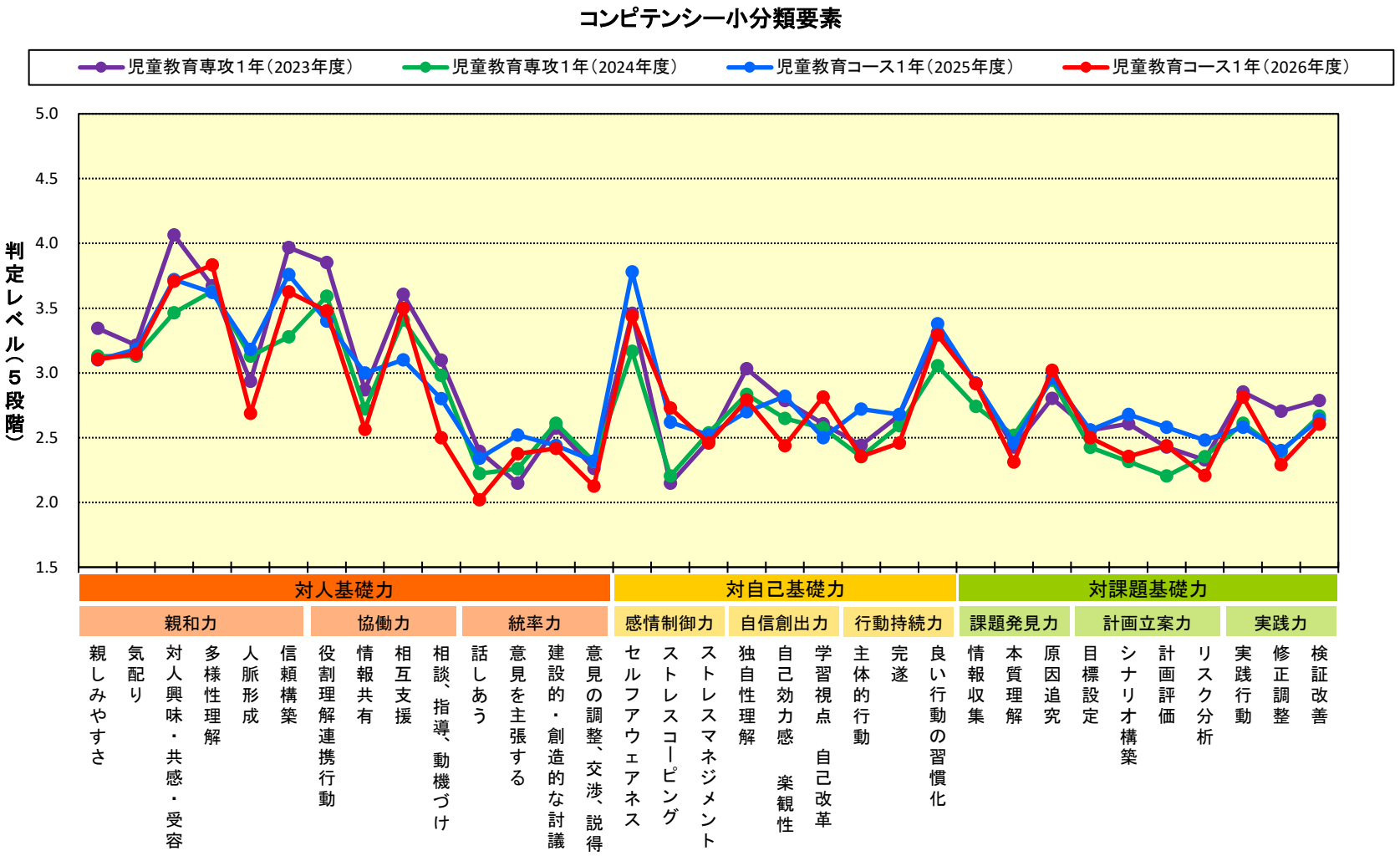
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）③

【現代英語学科１年】



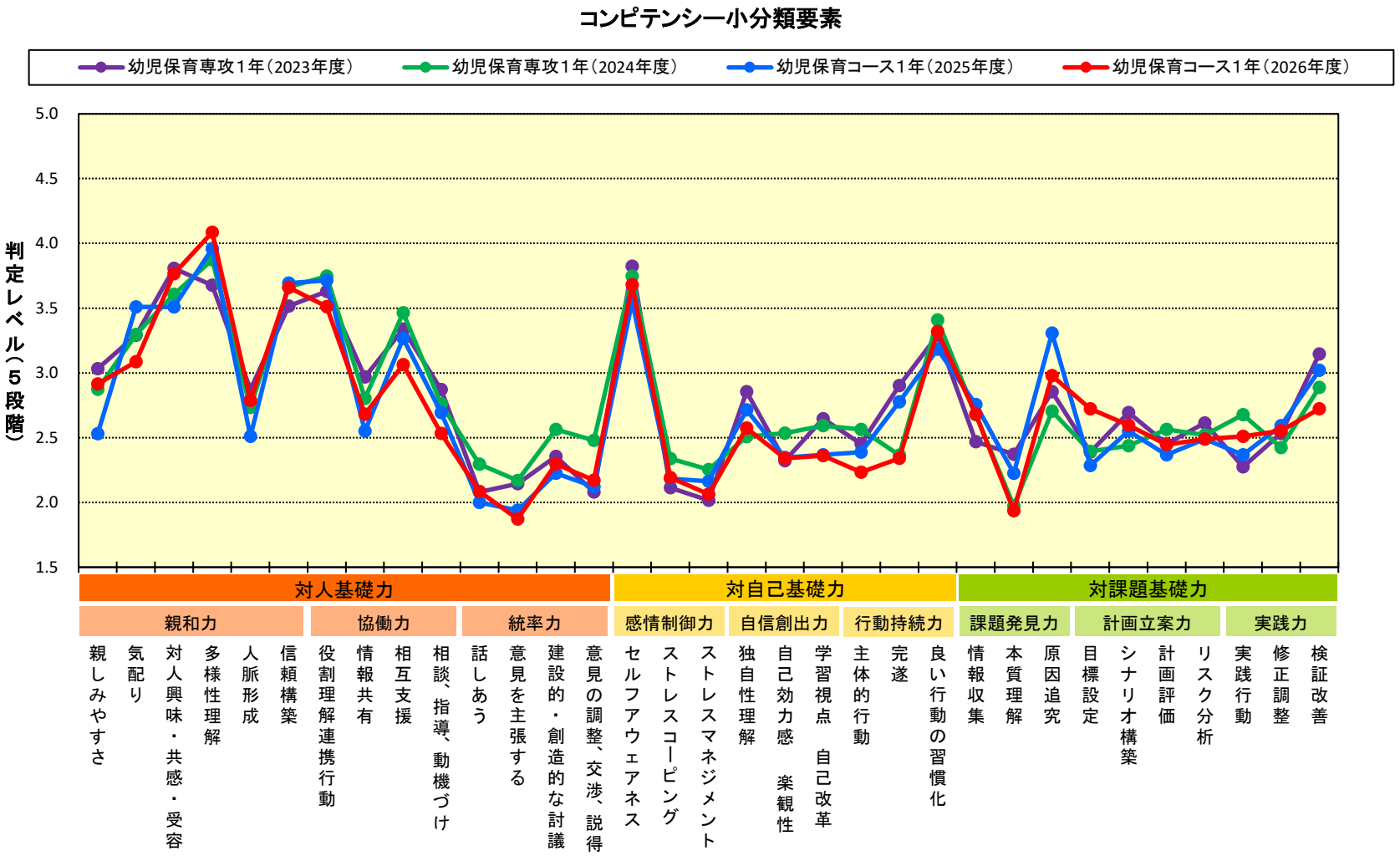
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）④

【児童教育コース1年】



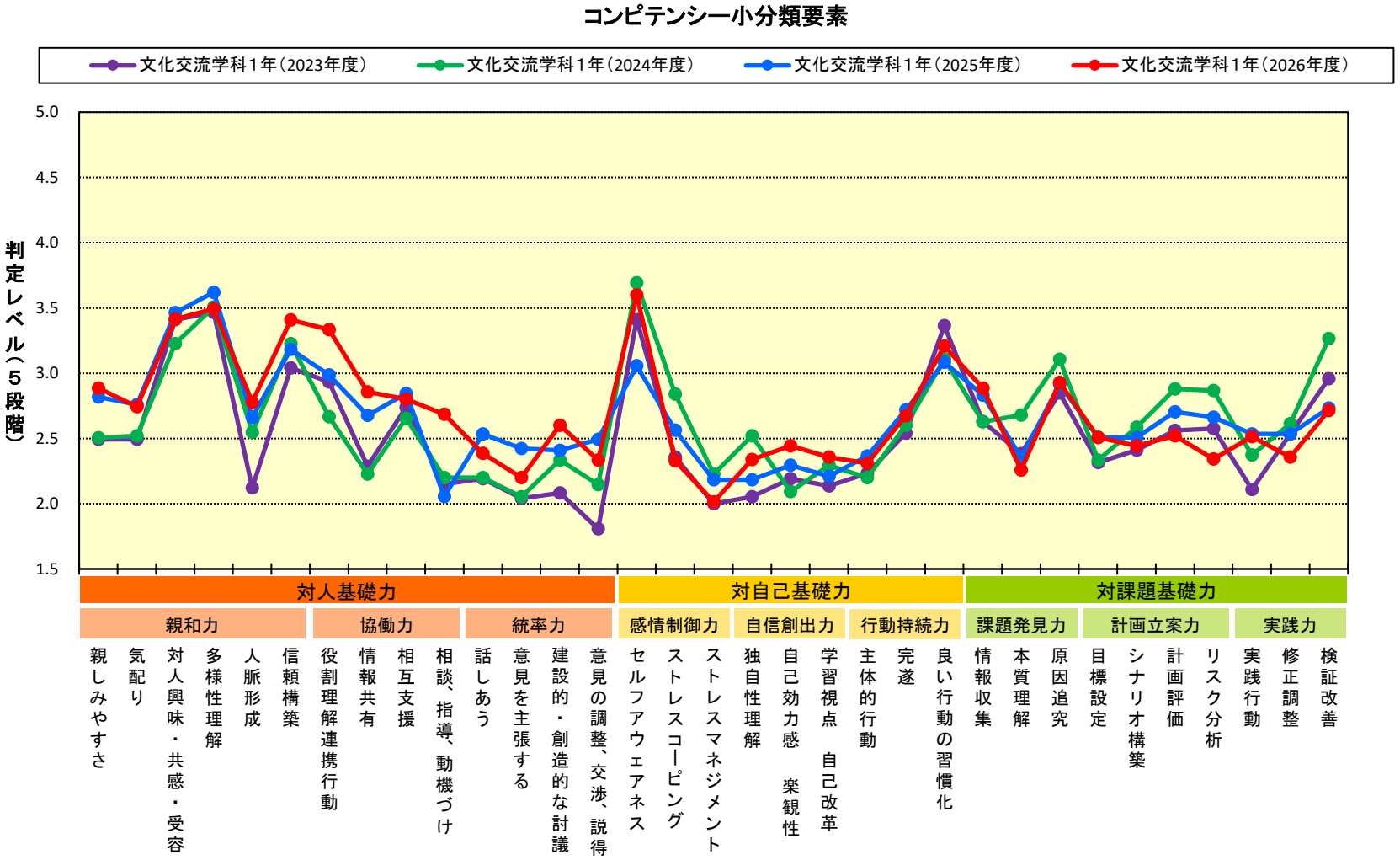
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【幼児保育コース1年】



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑥

【文化交流学科１年】



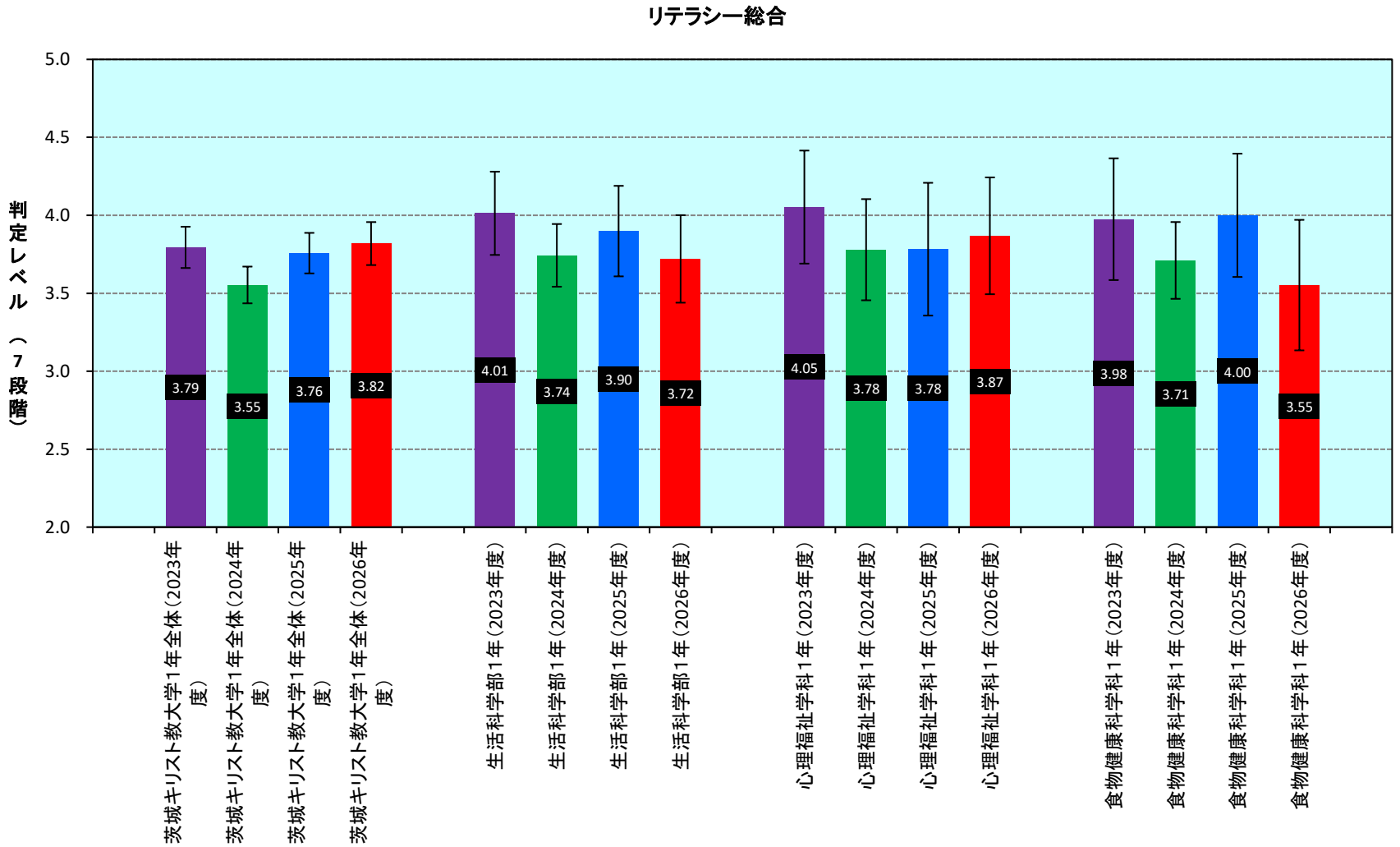
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.8
１年生過去受験者比較
（生活科学部）

リテラシー総合（過去の受験者との比較）

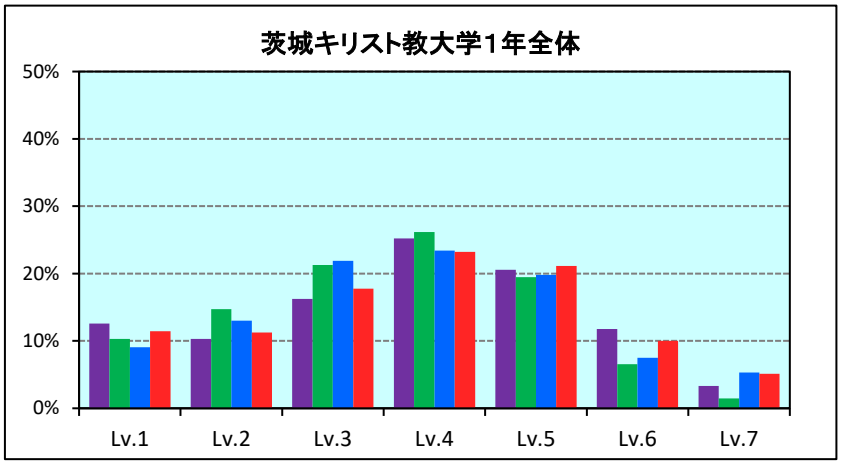
●茨城キリスト教大学1年全体、茨城キリスト教大学1年全体、心理福祉学科1年は、2025年度のスコアを上回る。
●生活科学部1年、食物健康科学科1年は、2025年度のスコアを下回る。



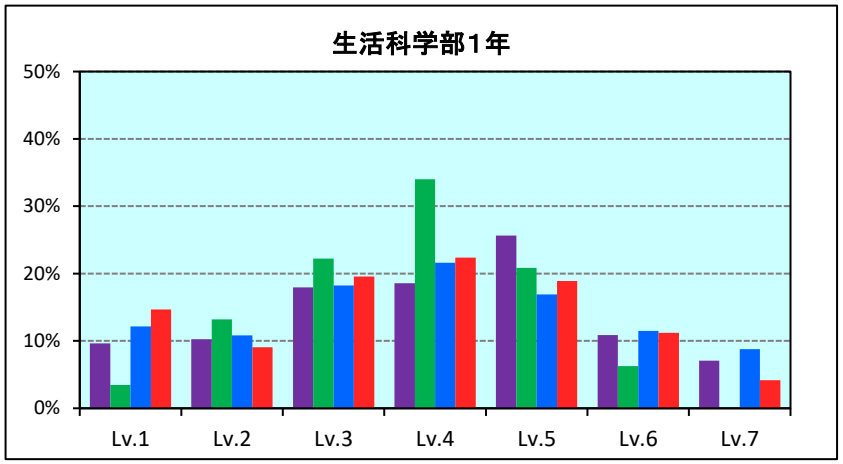
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）

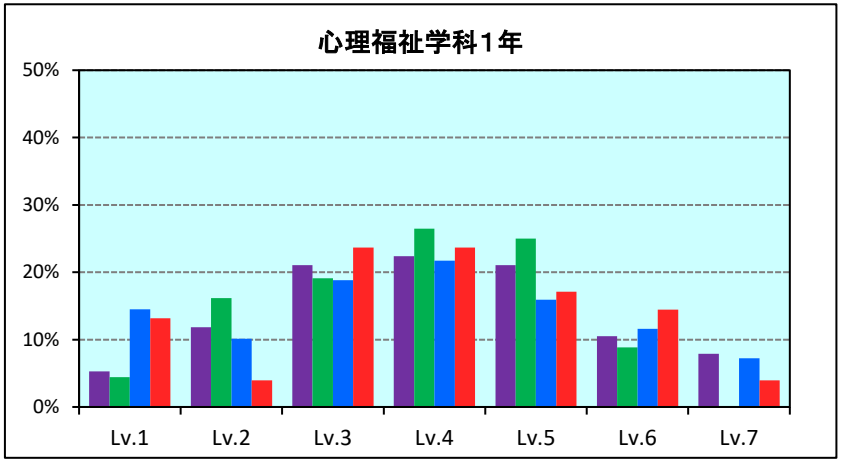




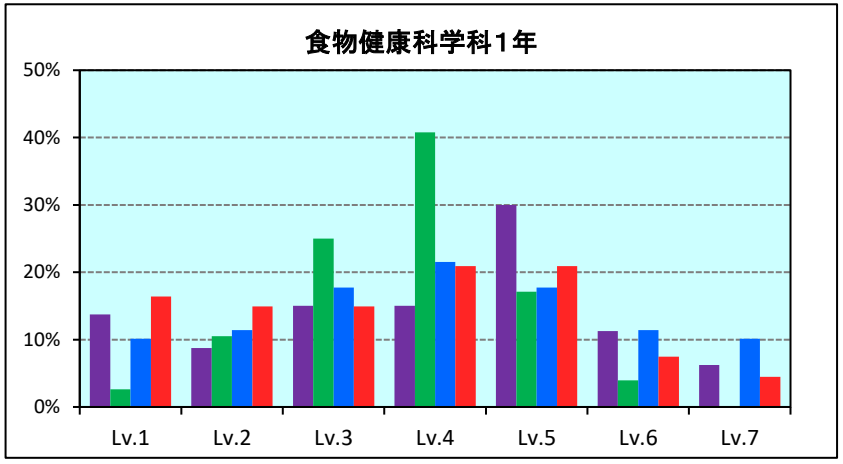
2025年度に比べて、レベル3の割合が小さい。



2025年度に比べて、レベル7の割合が小さい。



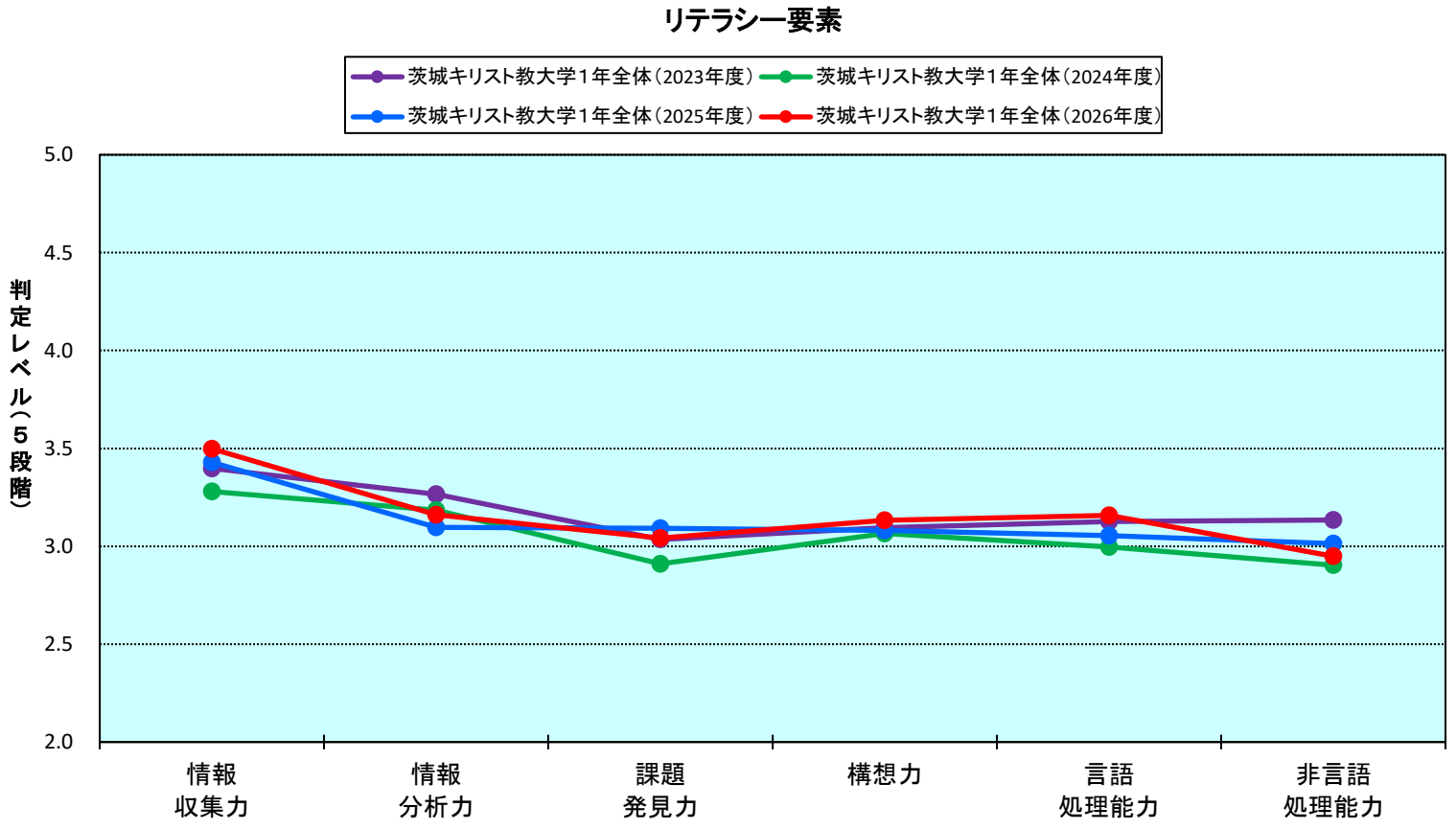
2025年度に比べて、レベル2、レベル7の割合が小さく、レベル3の割合が大きい。



2025年度に比べて、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル1～2、レベル5のボリュームが大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【茨城キリスト教大学1年全体】
情報収集力、情報分析力、構想力、言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。
一方、課題発見力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。

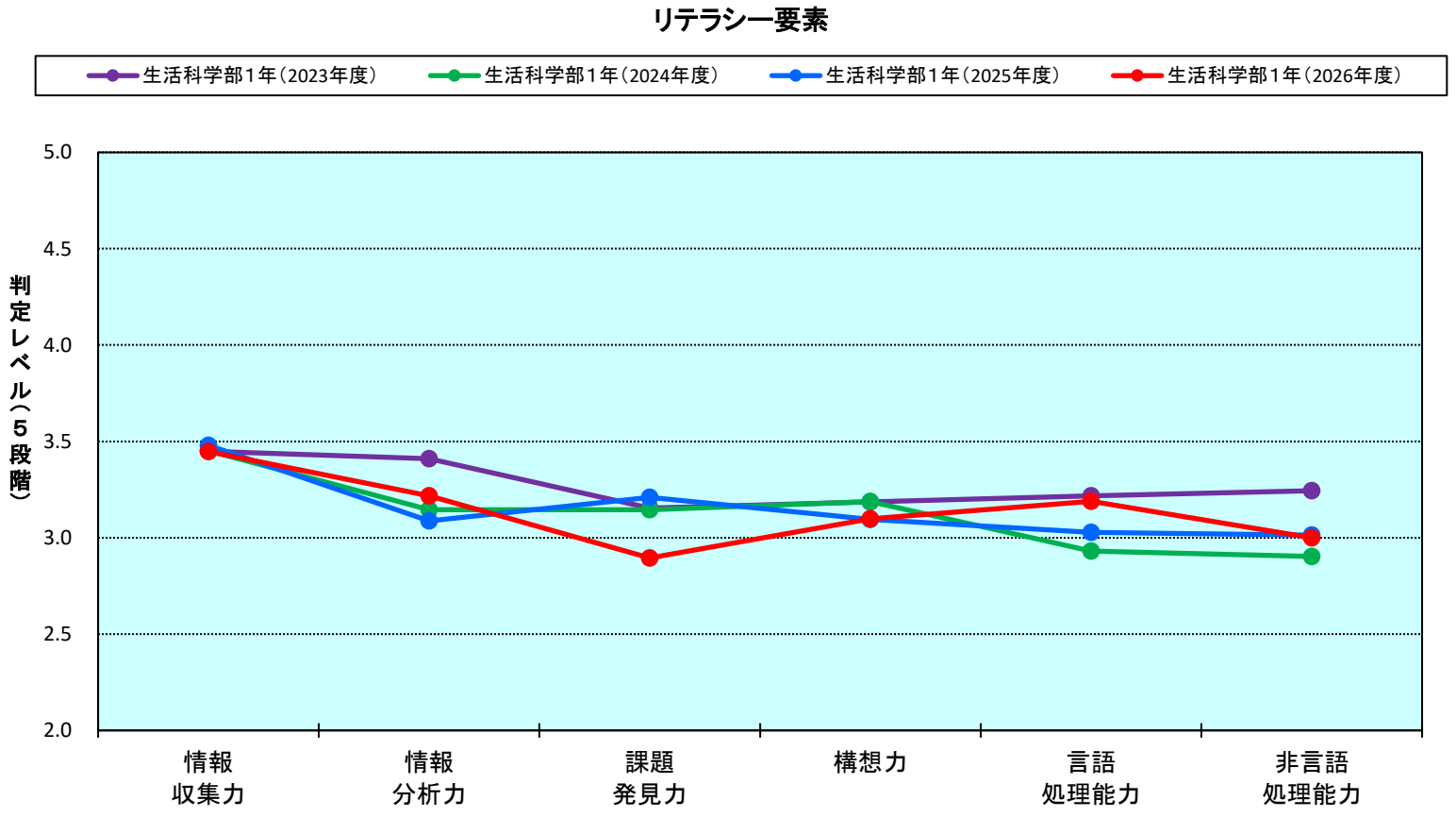


リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【生活科学部1年】

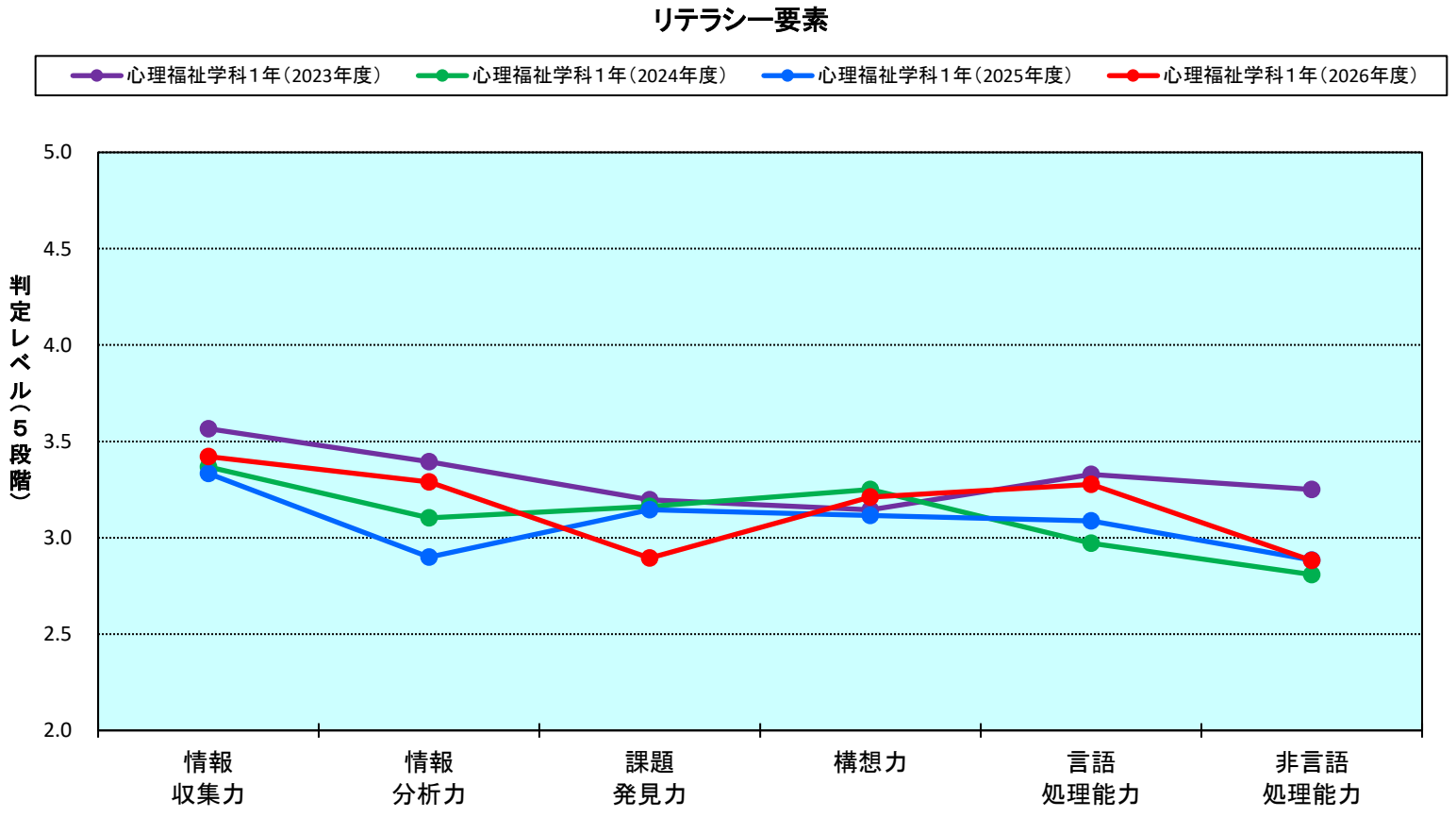
情報分析力、構想力、言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、課題発見力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

【心理福祉学科１年】
情報収集力、情報分析力、構想力、言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。
一方、課題発見力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。

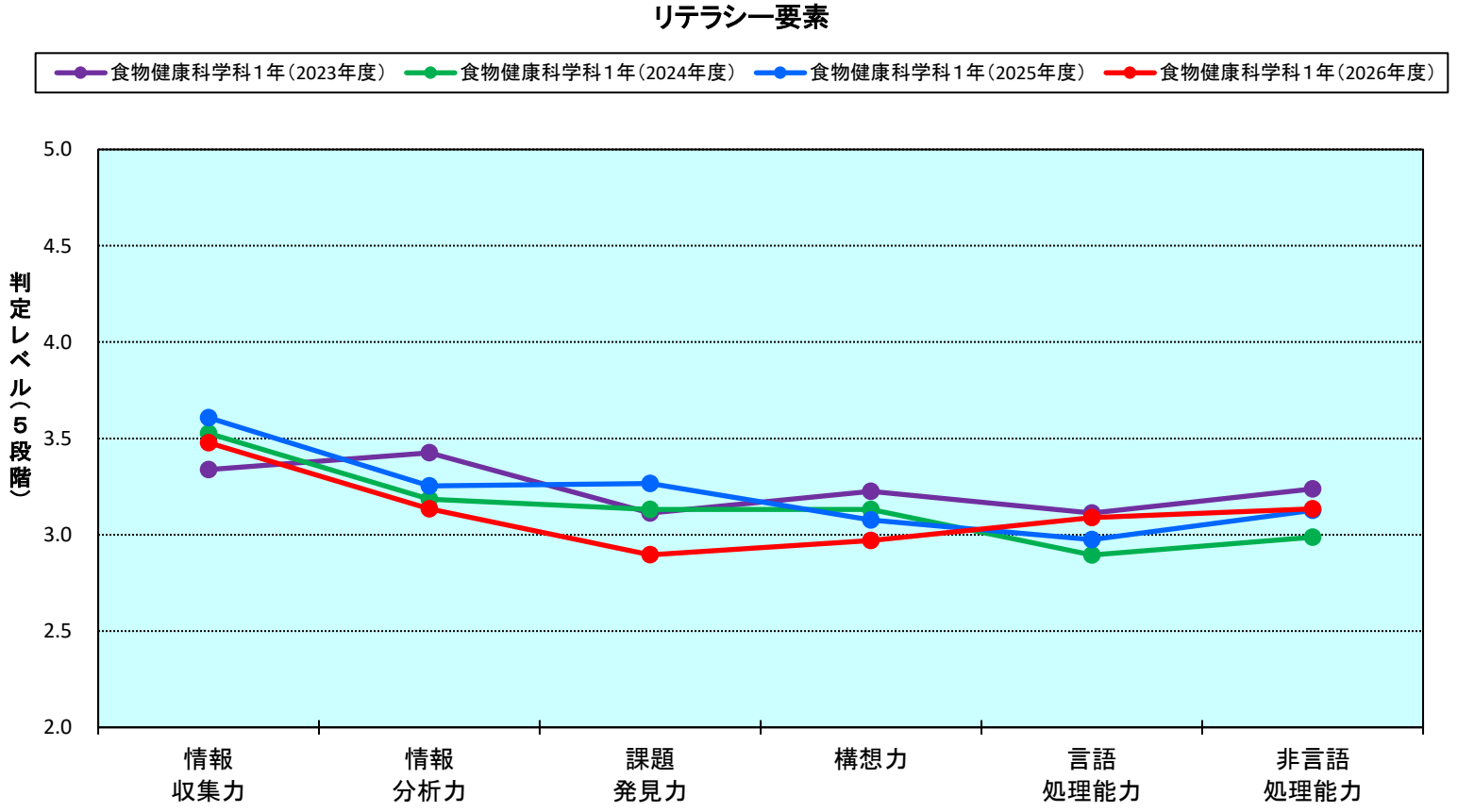


リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【食物健康科学科１年】

言語処理能力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。

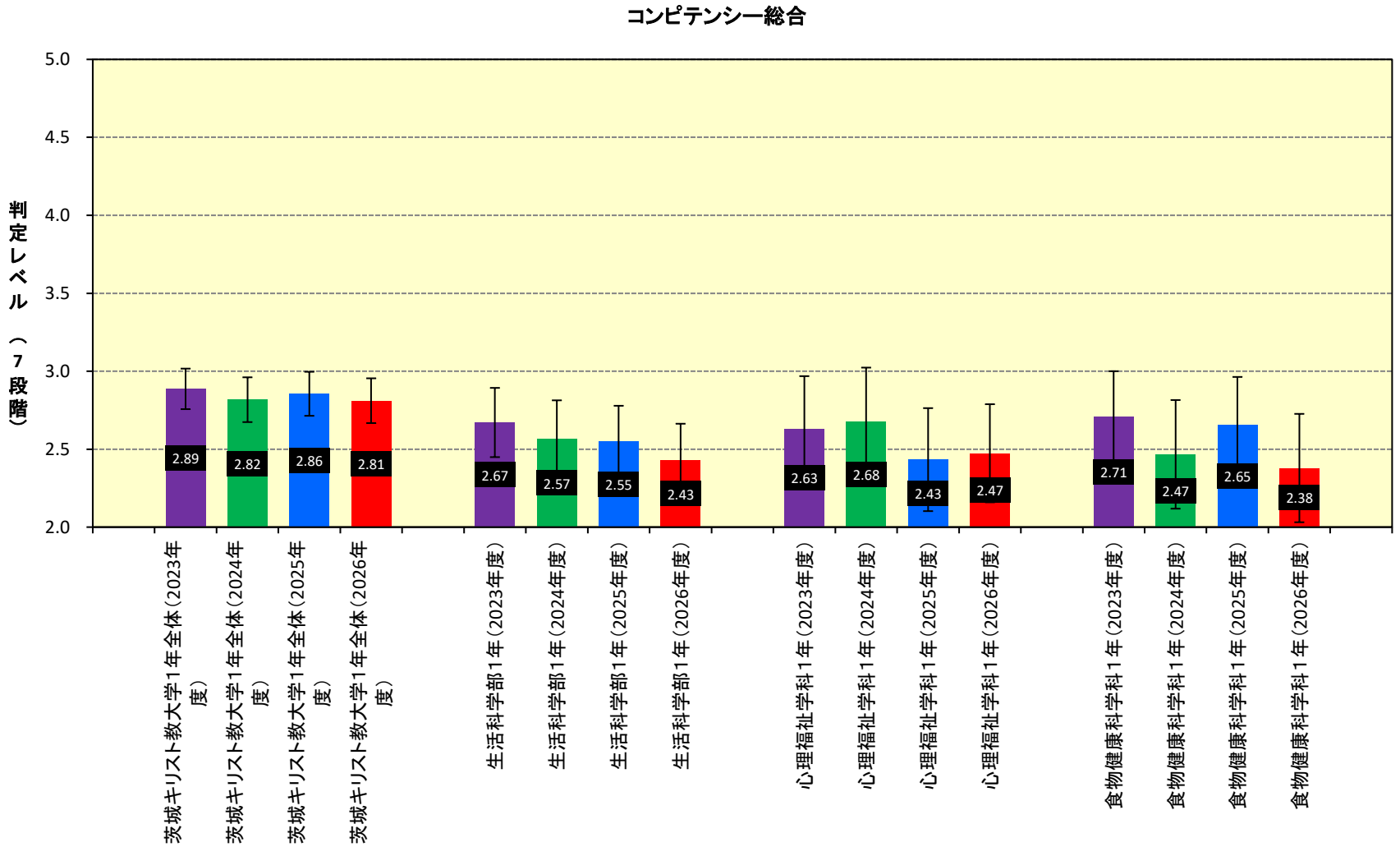
一方、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力は、2025年度のスコアを下回る。



コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

●心理福祉学科１年は、2025年度のスコアを上回る。

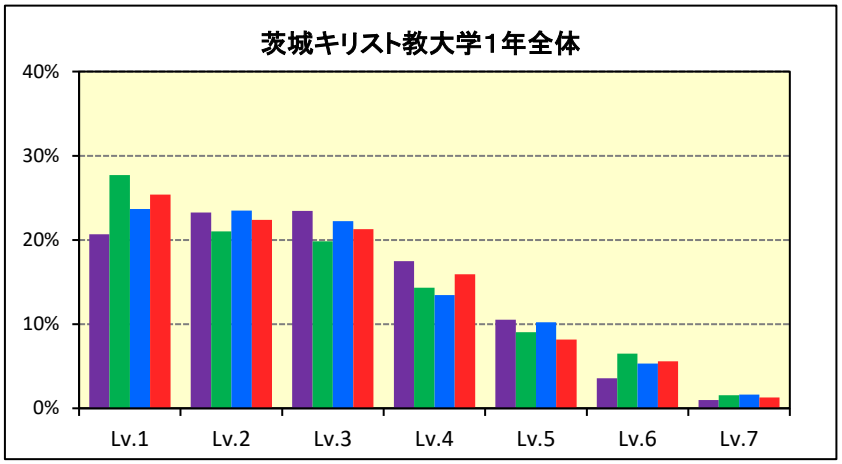
●茨城キリスト教大学１年全体、茨城キリスト教大学１年全体、生活科学部１年、食物健康科学科１年は、2025年度のスコアを下回る。



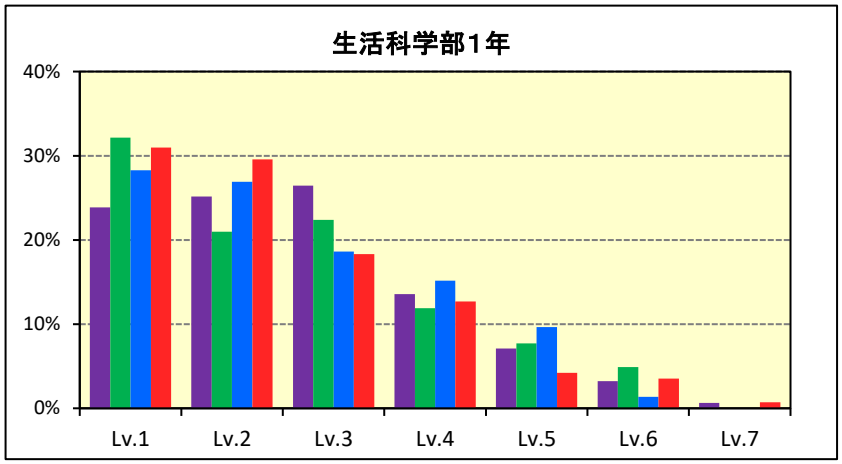
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）

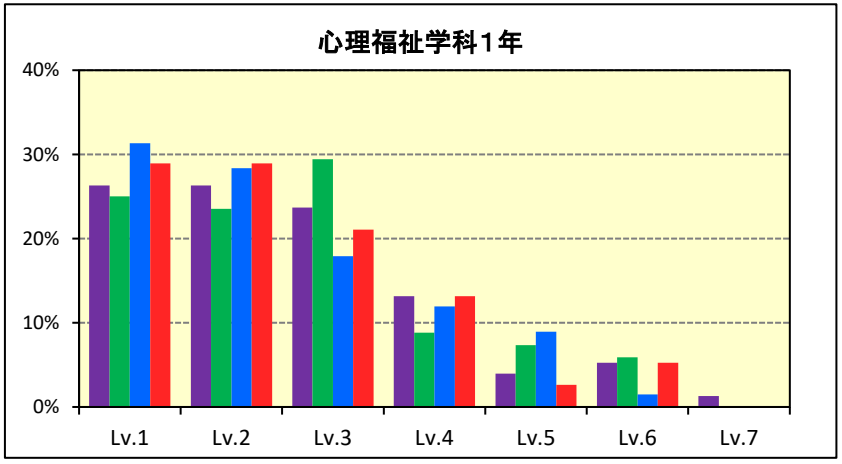




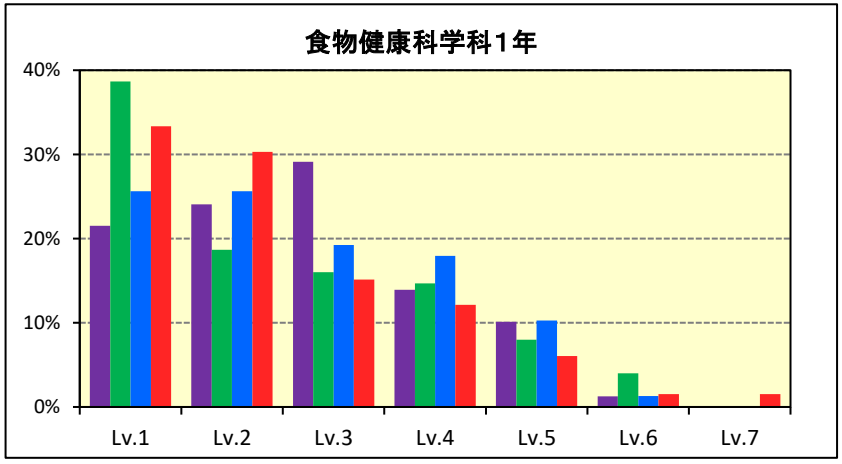
2025年度に近い分布を成す。



2025年度に比べて、レベル5の割合が小さい。



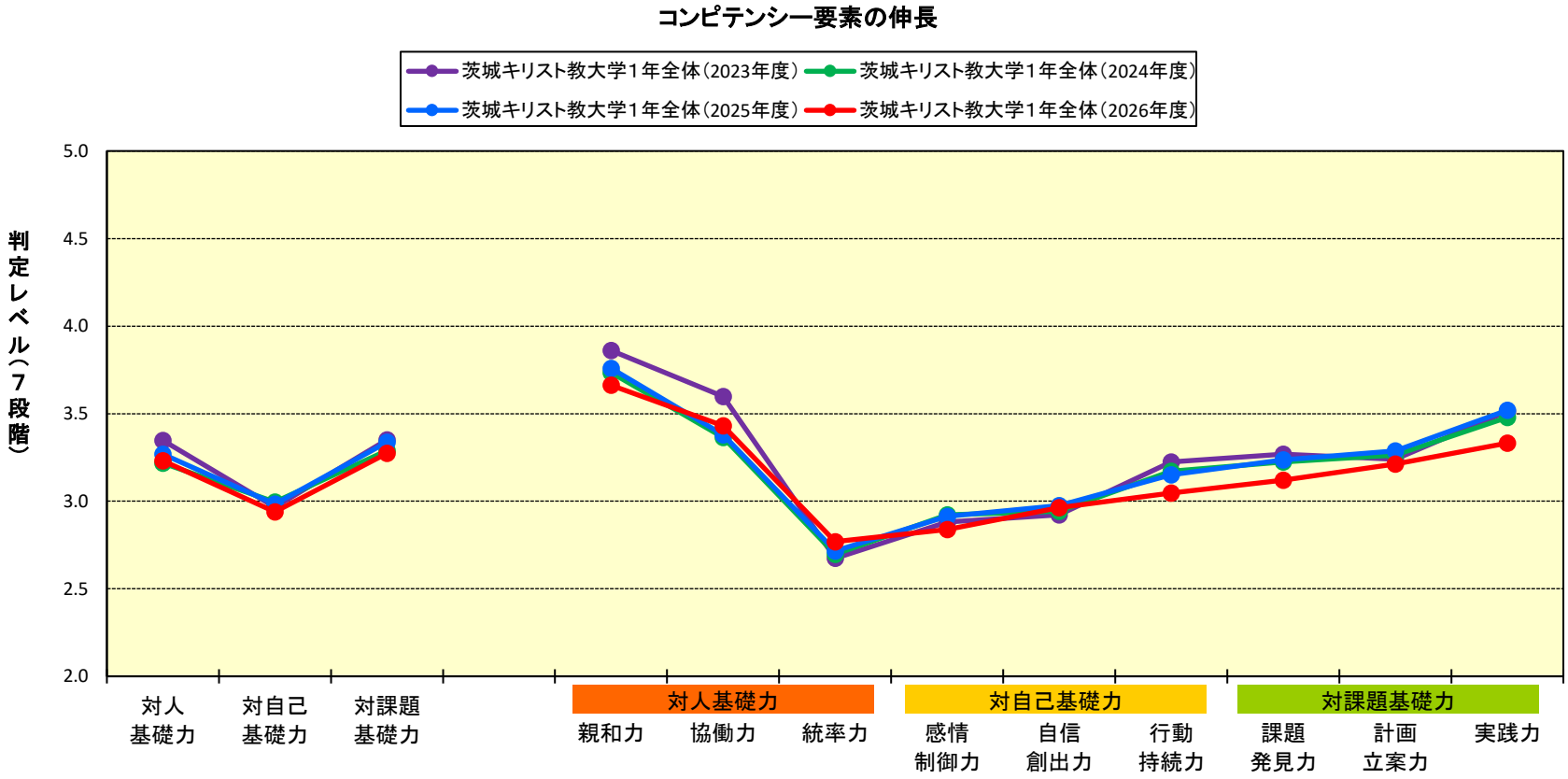
2025年度に比べて、レベル5の割合が小さく、レベル3、レベル6の割合が大きい。



2025年度に比べて、レベル3～5のボリュームが小さく、レベル1～2のボリュームが大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

【茨城キリスト教大学1年全体】
協働力、統率力は、2025年度のスコアを上回る。
一方、親和力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。

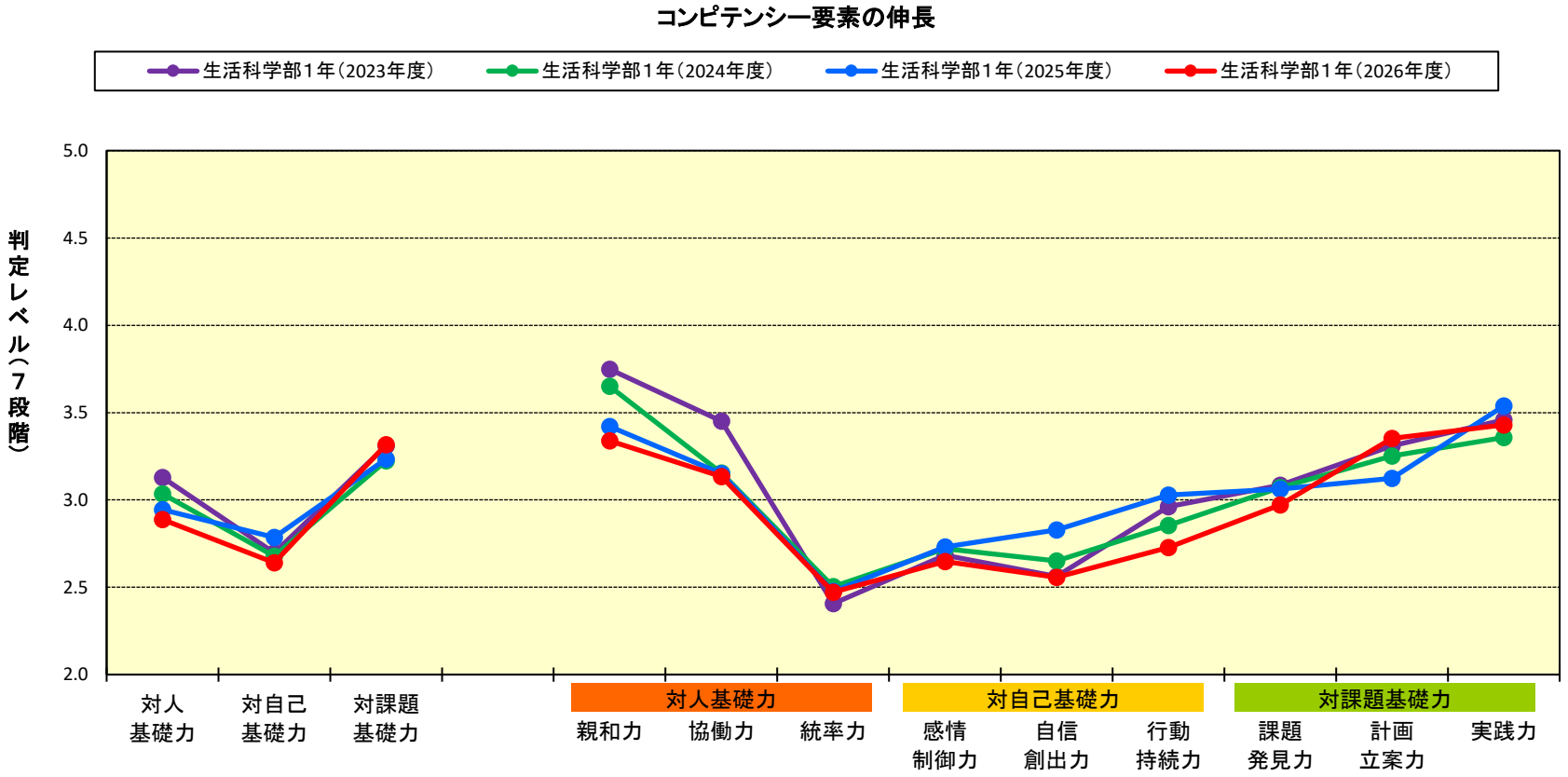


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）②

【生活科学部1年】

計画立案力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。

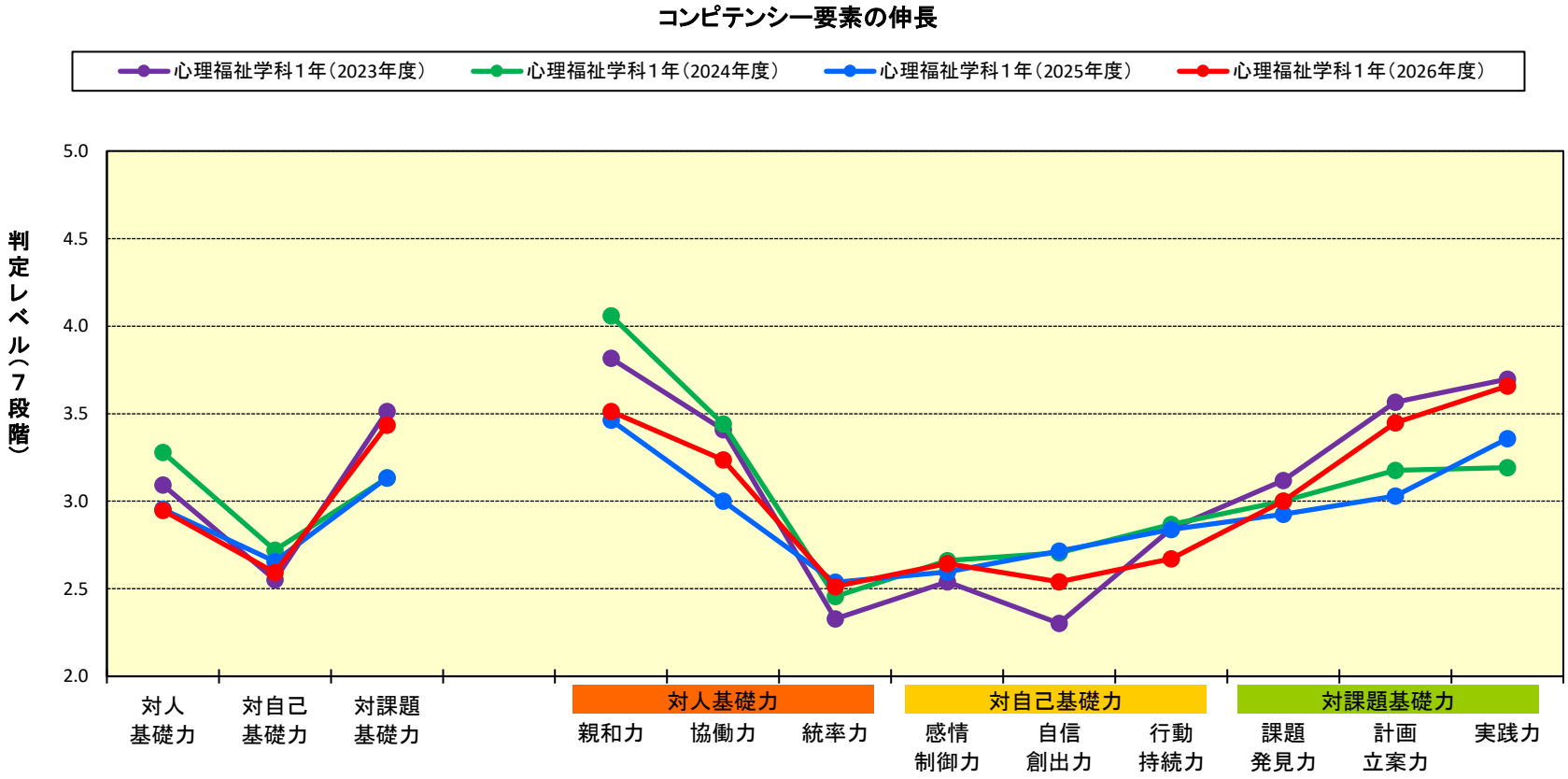


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）③

【心理福祉学科１年】

親和力、協働力、感情制御力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、統率力、自信創出力、行動持続力は、2025年度のスコアを下回る。

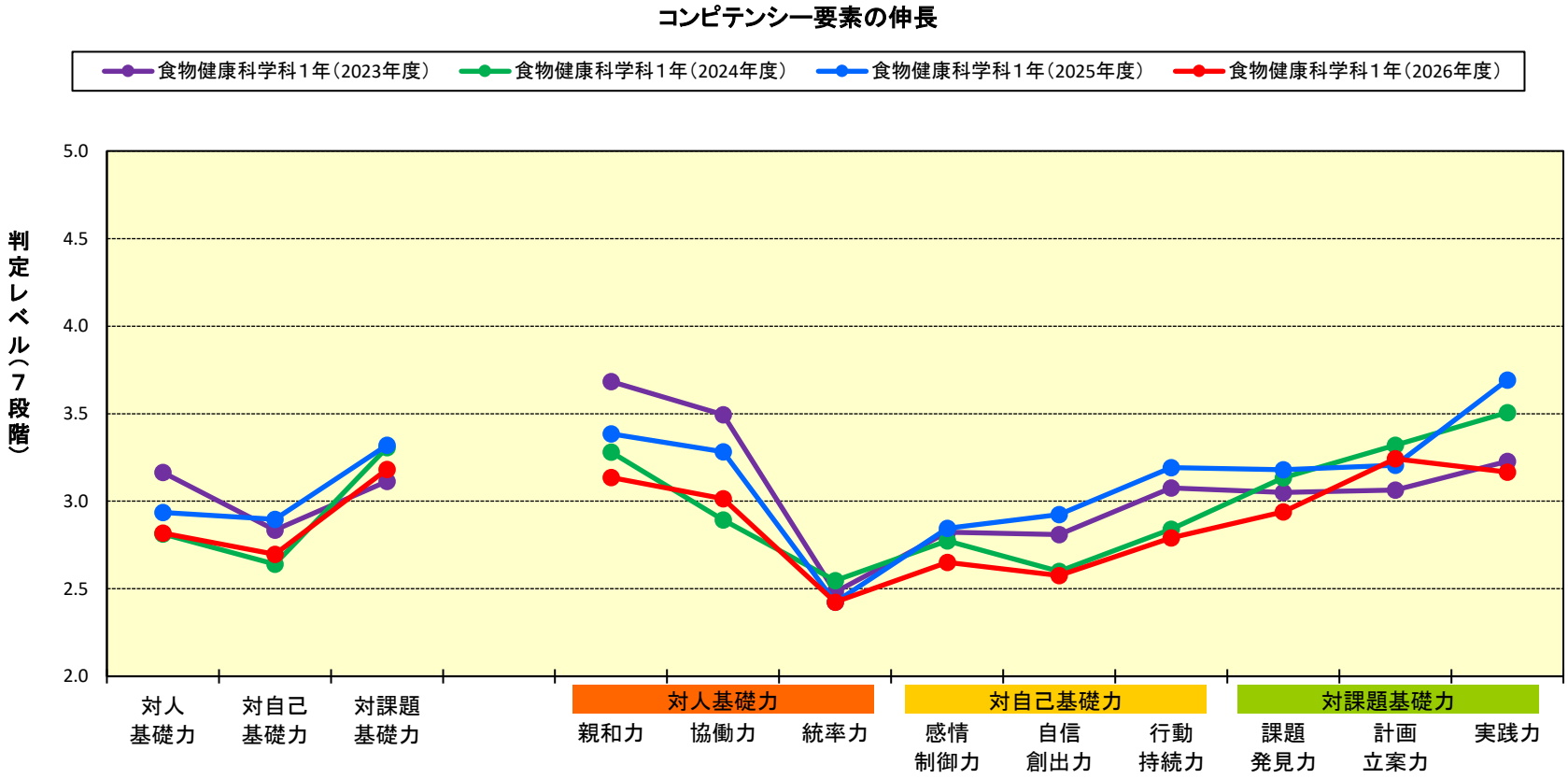


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）④

【食物健康科学科１年】

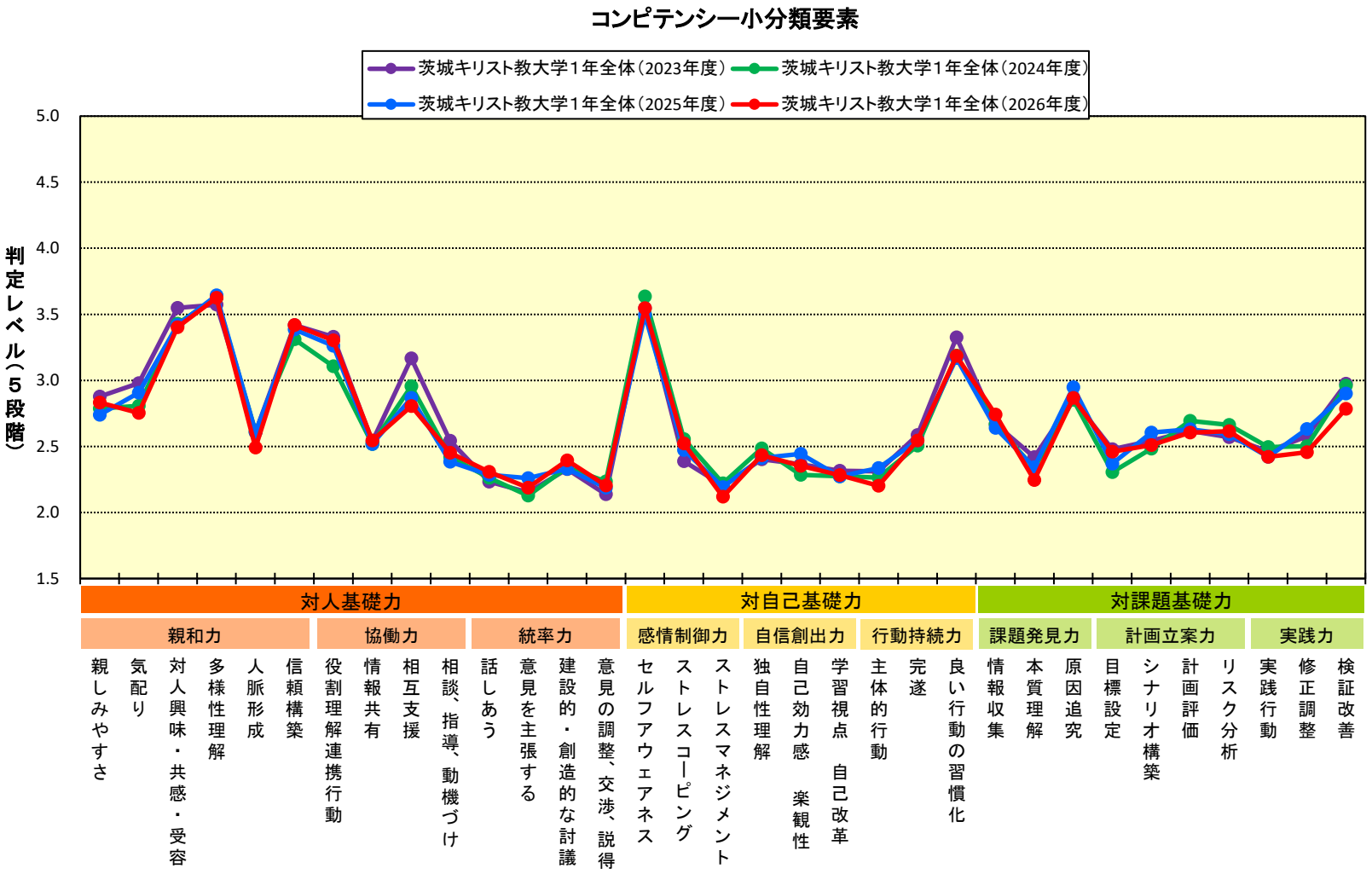
統率力、計画立案力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。



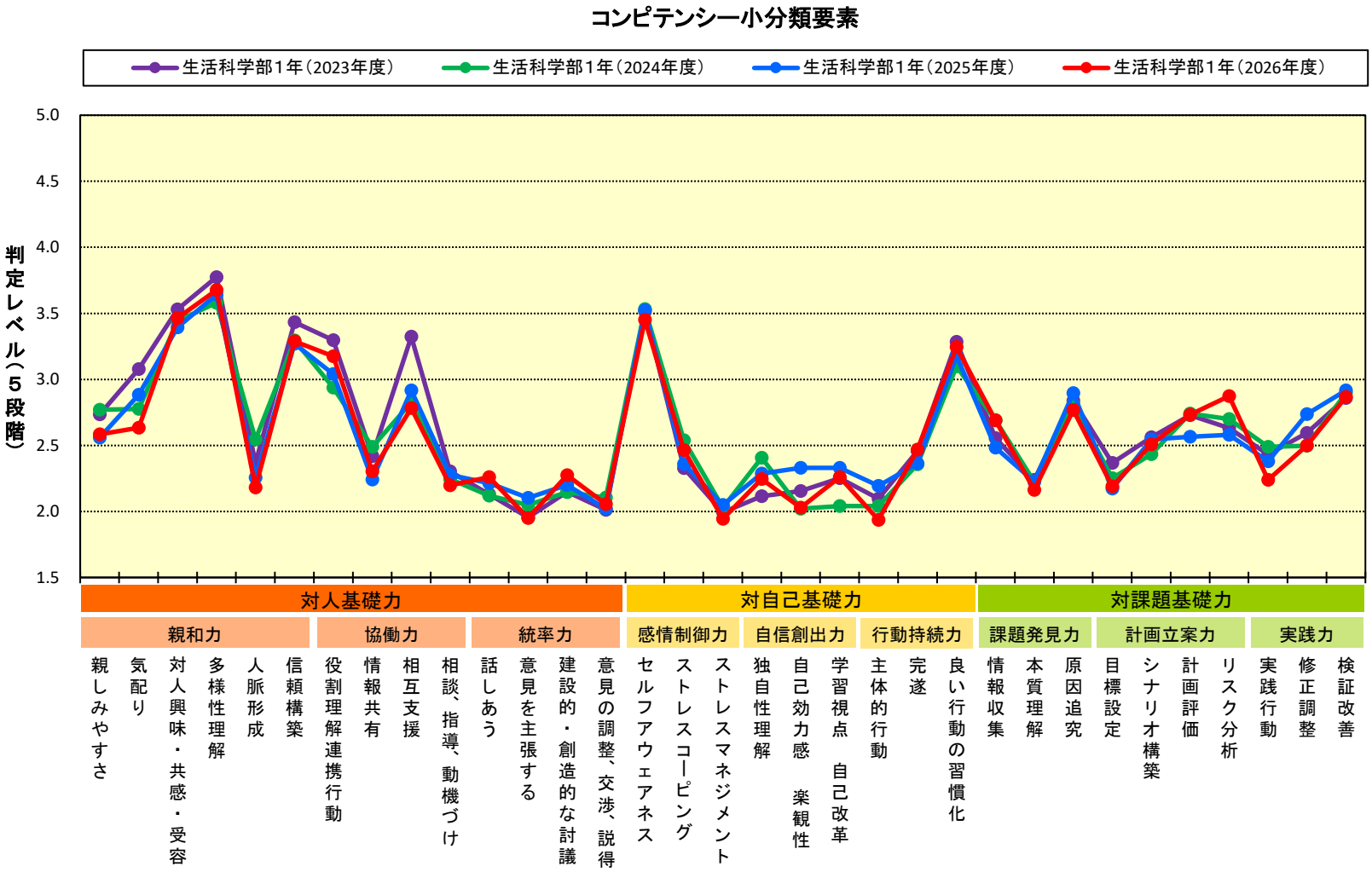
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

【茨城キリスト教大学1年全体】



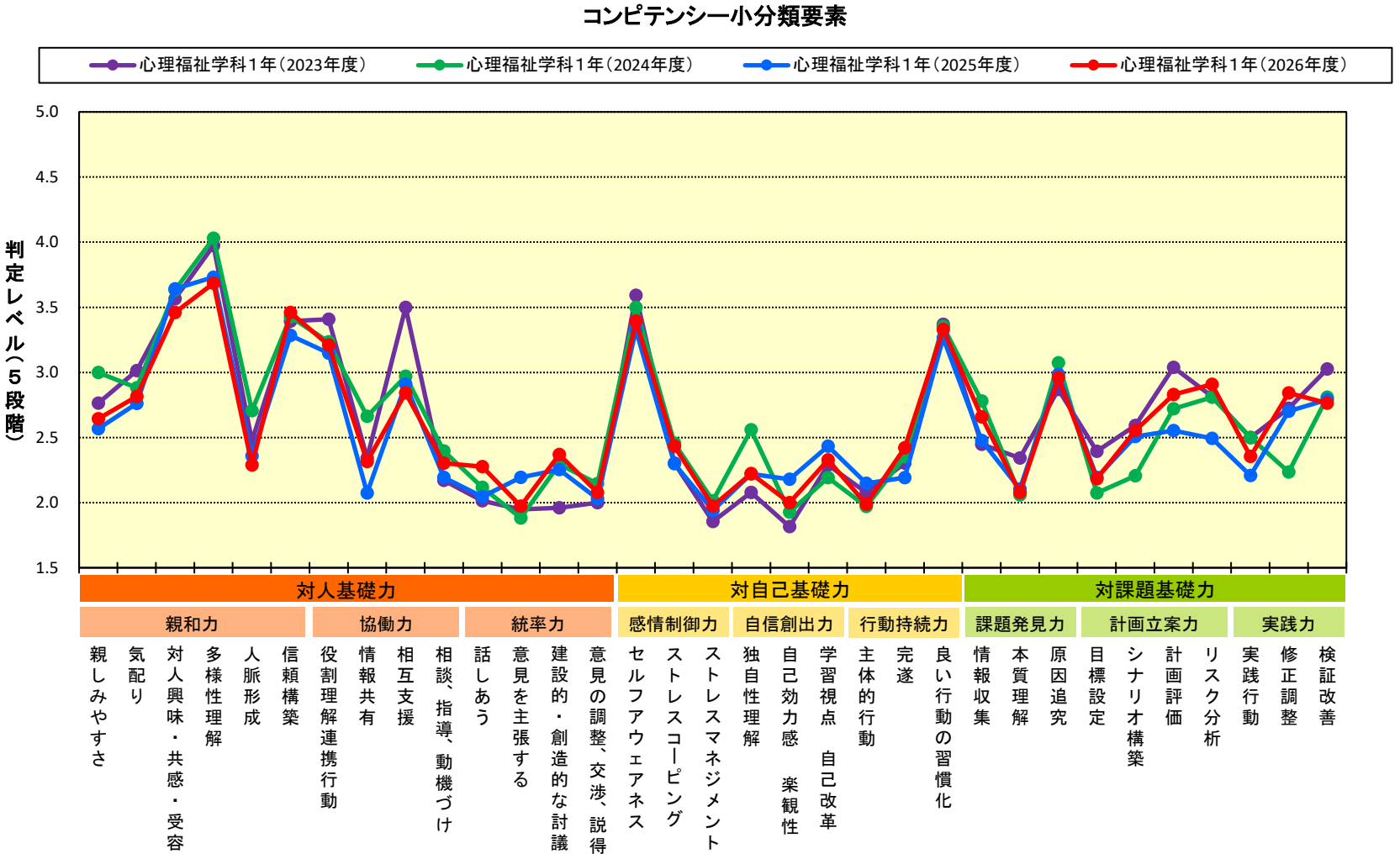
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）②

【生活科学部1年】



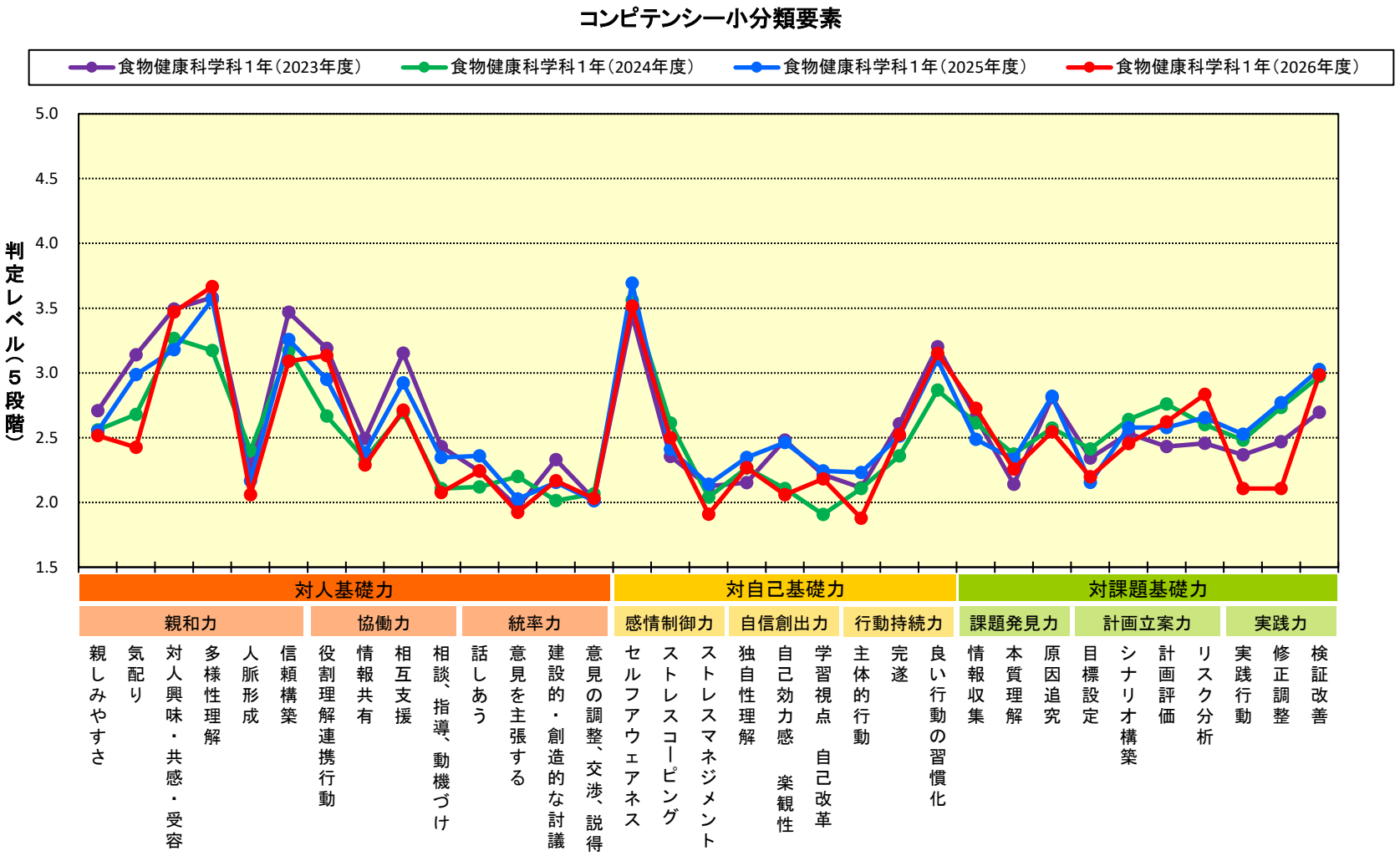
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）③

【心理福祉学科１年】



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）④

【食物健康科学科１年】



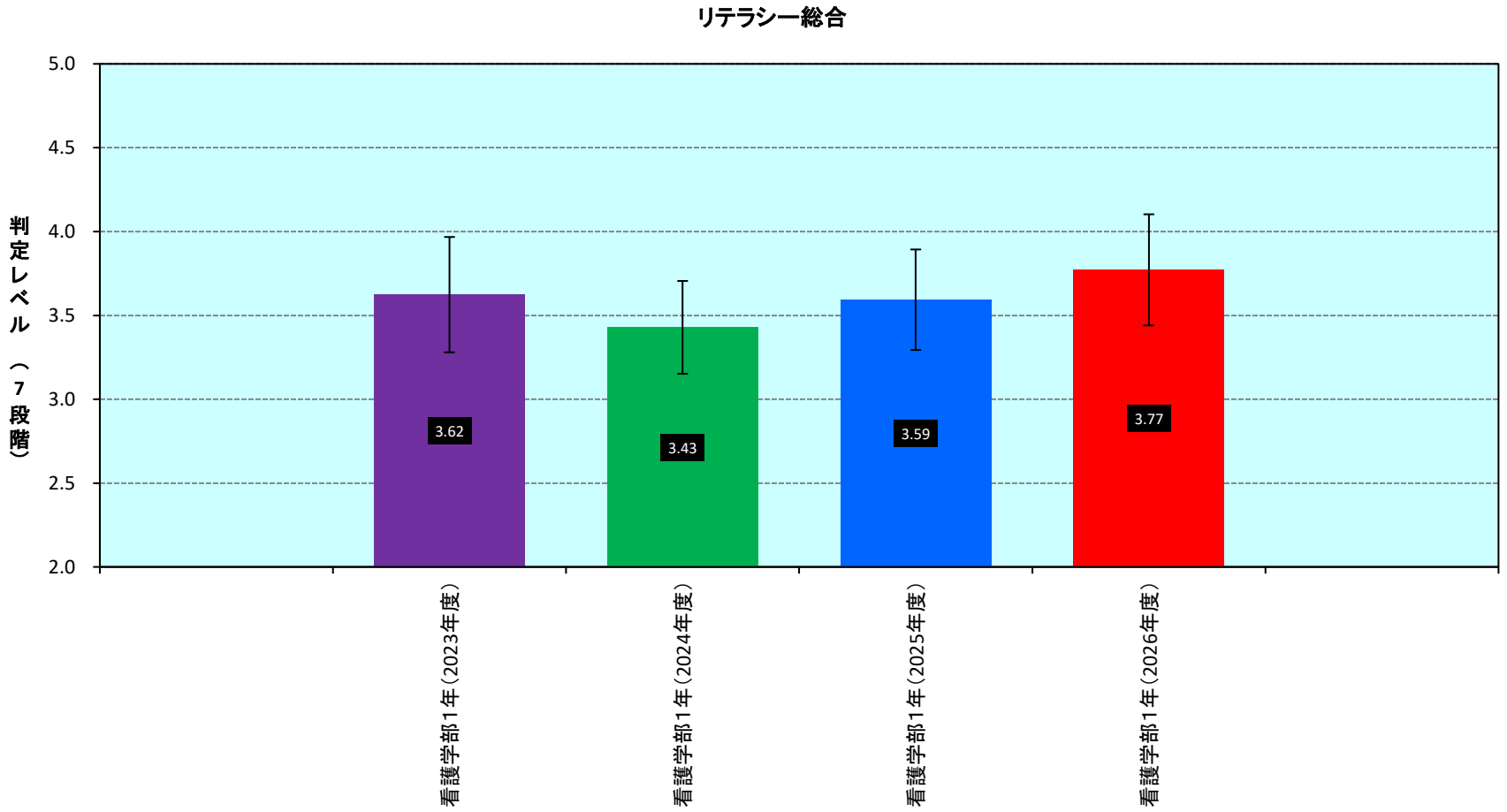
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.9
１年生過去受験者比較
（看護学部）

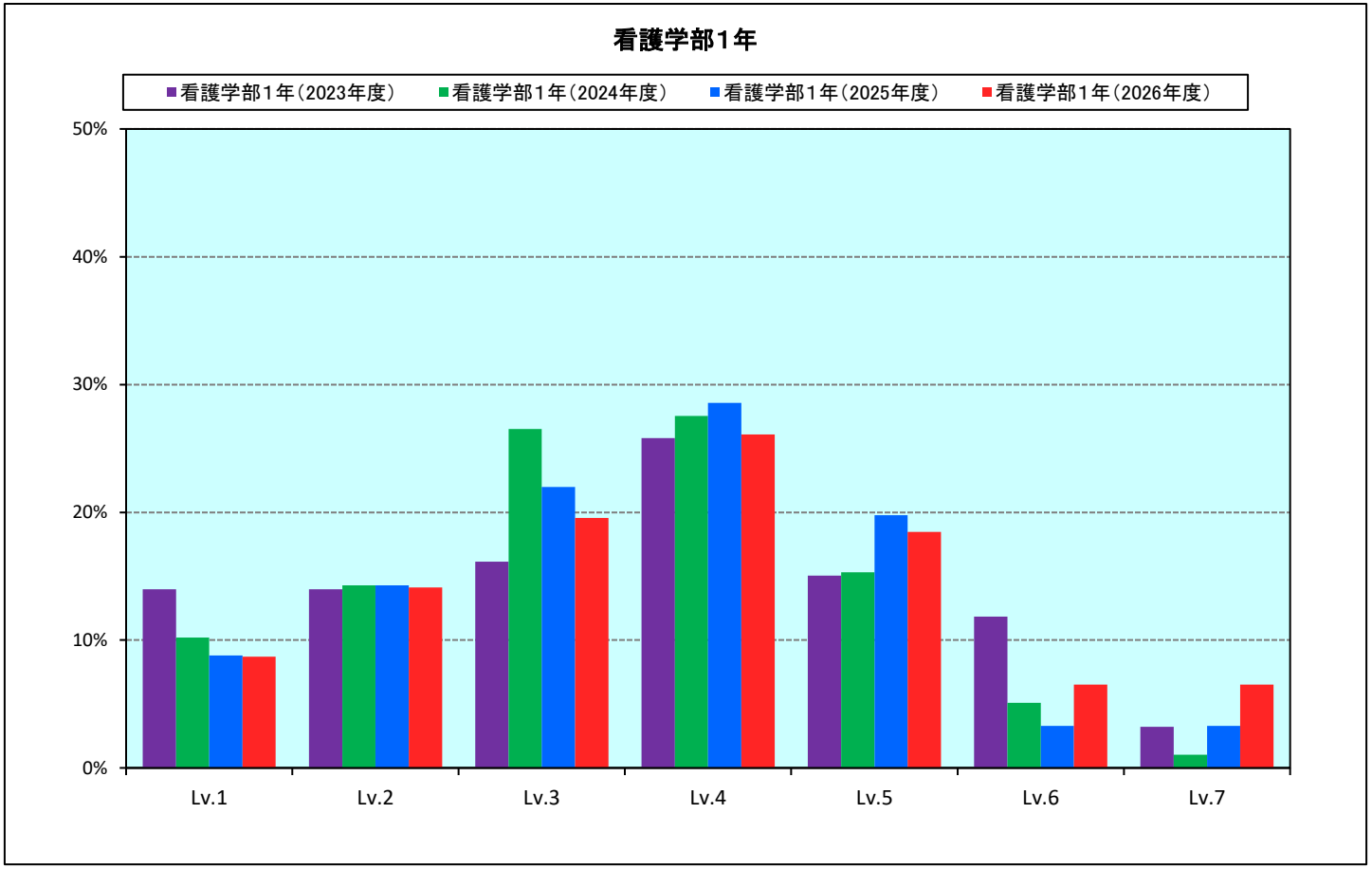
リテラシー総合（過去の受験者との比較）

●看護学部1年は、2025年度のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）



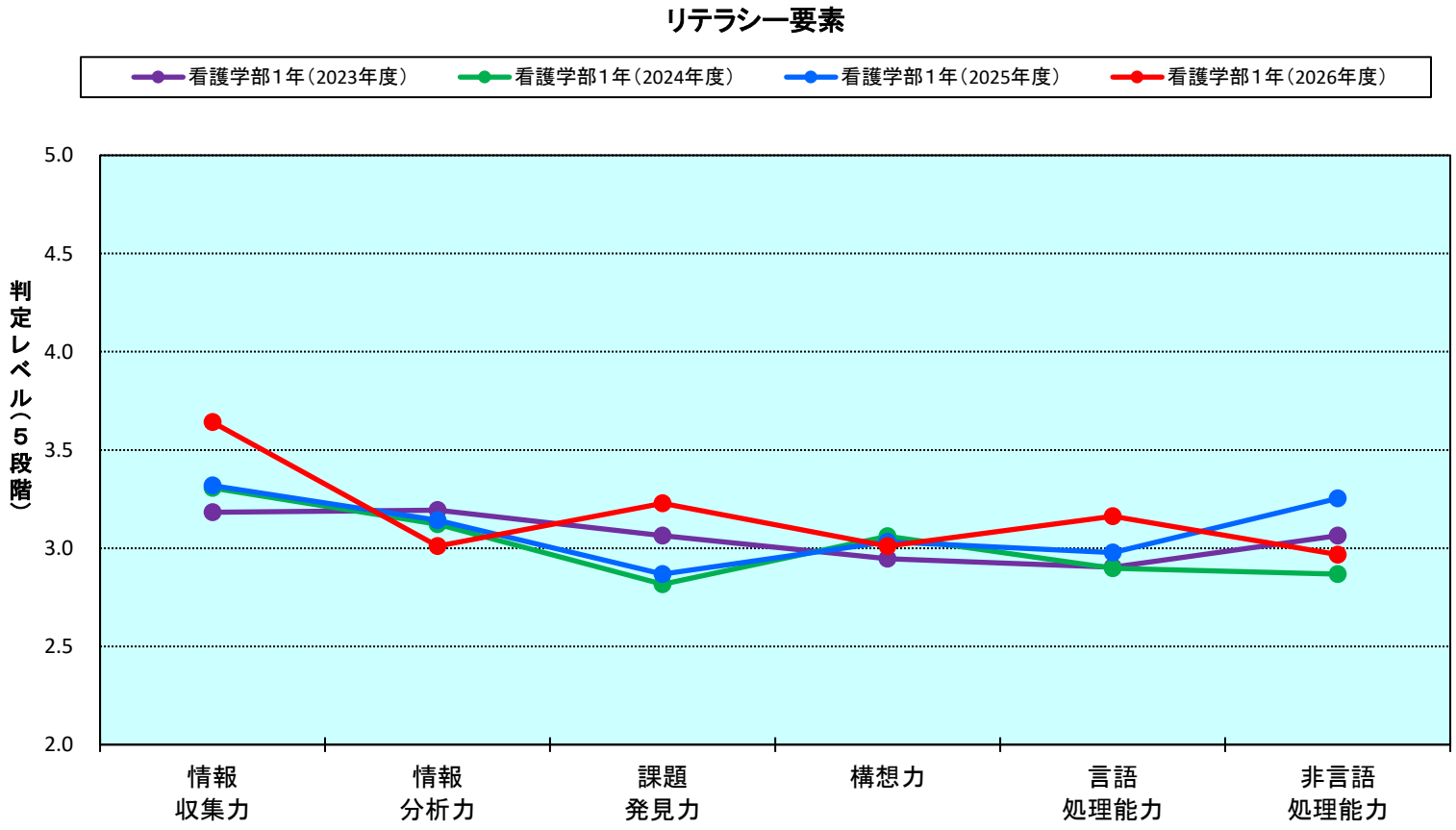
2025年度に比べて、レベル6～7のボリュームが大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）

【看護学部1年】

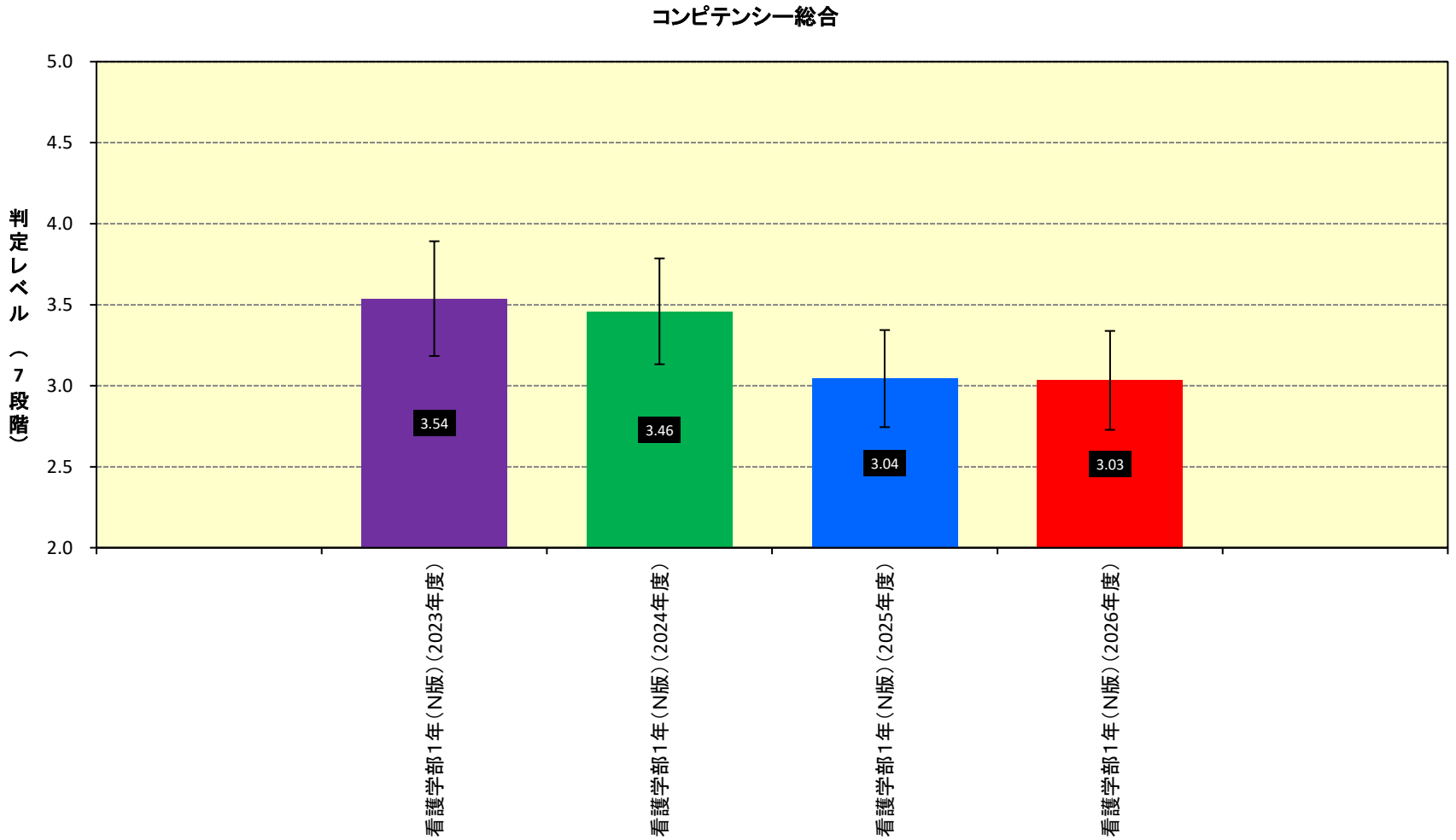
情報収集力、課題発見力、言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、情報分析力、構想力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。



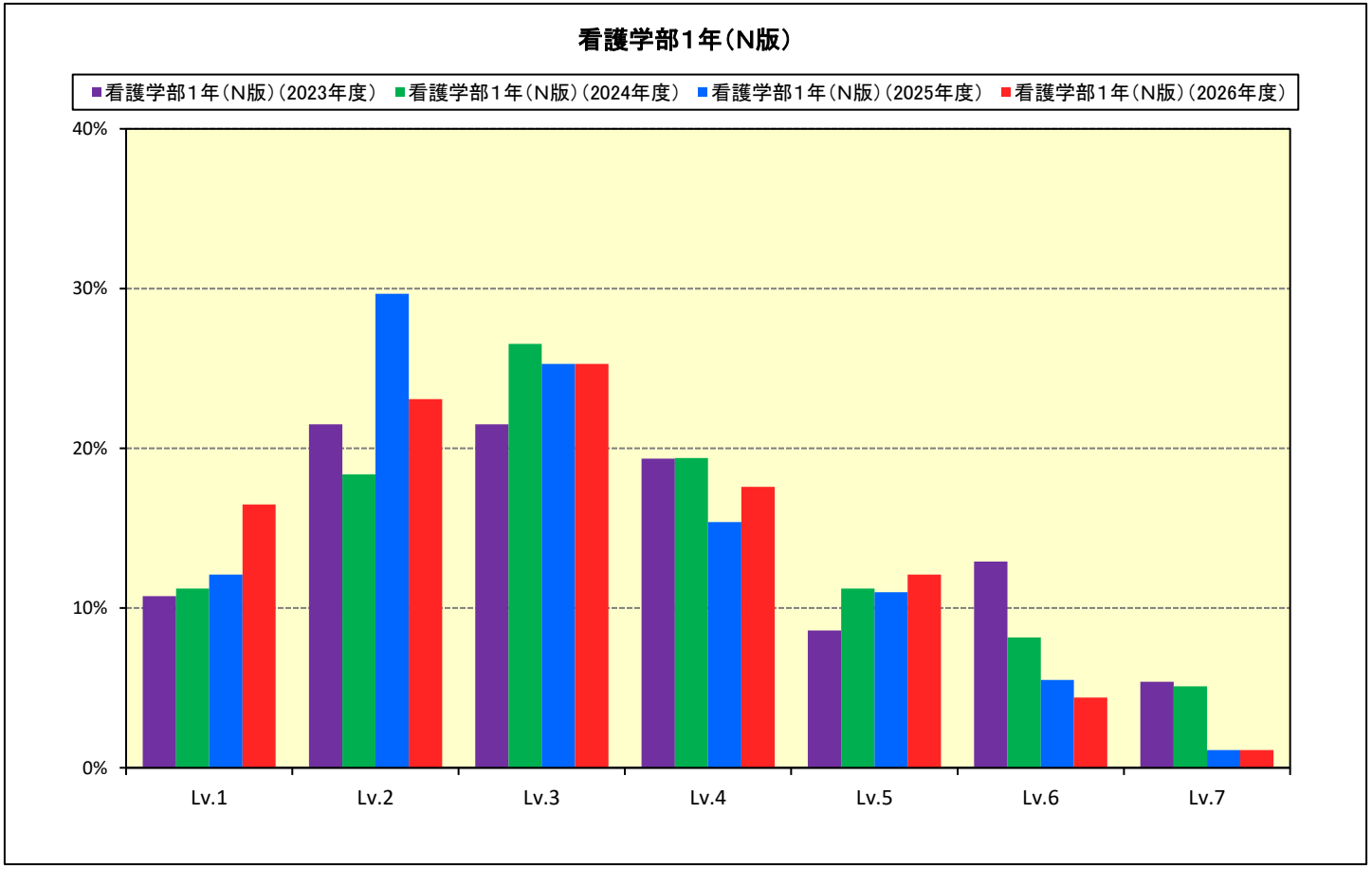
コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

●看護学部1年（N版）は、2025年度のスコアを下回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）



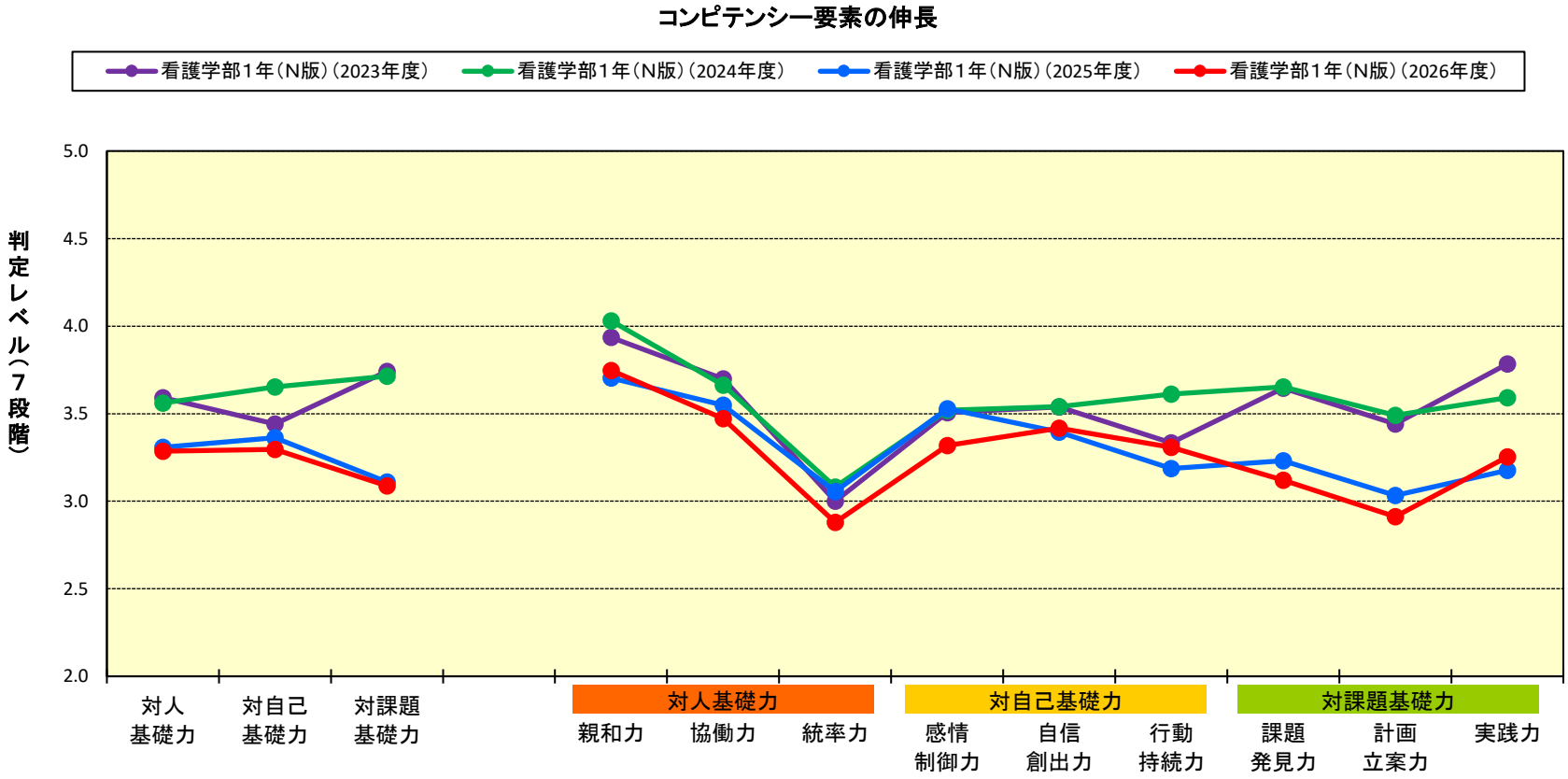
2025年度に比べて、レベル2の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）

【看護学部1年（N版）】

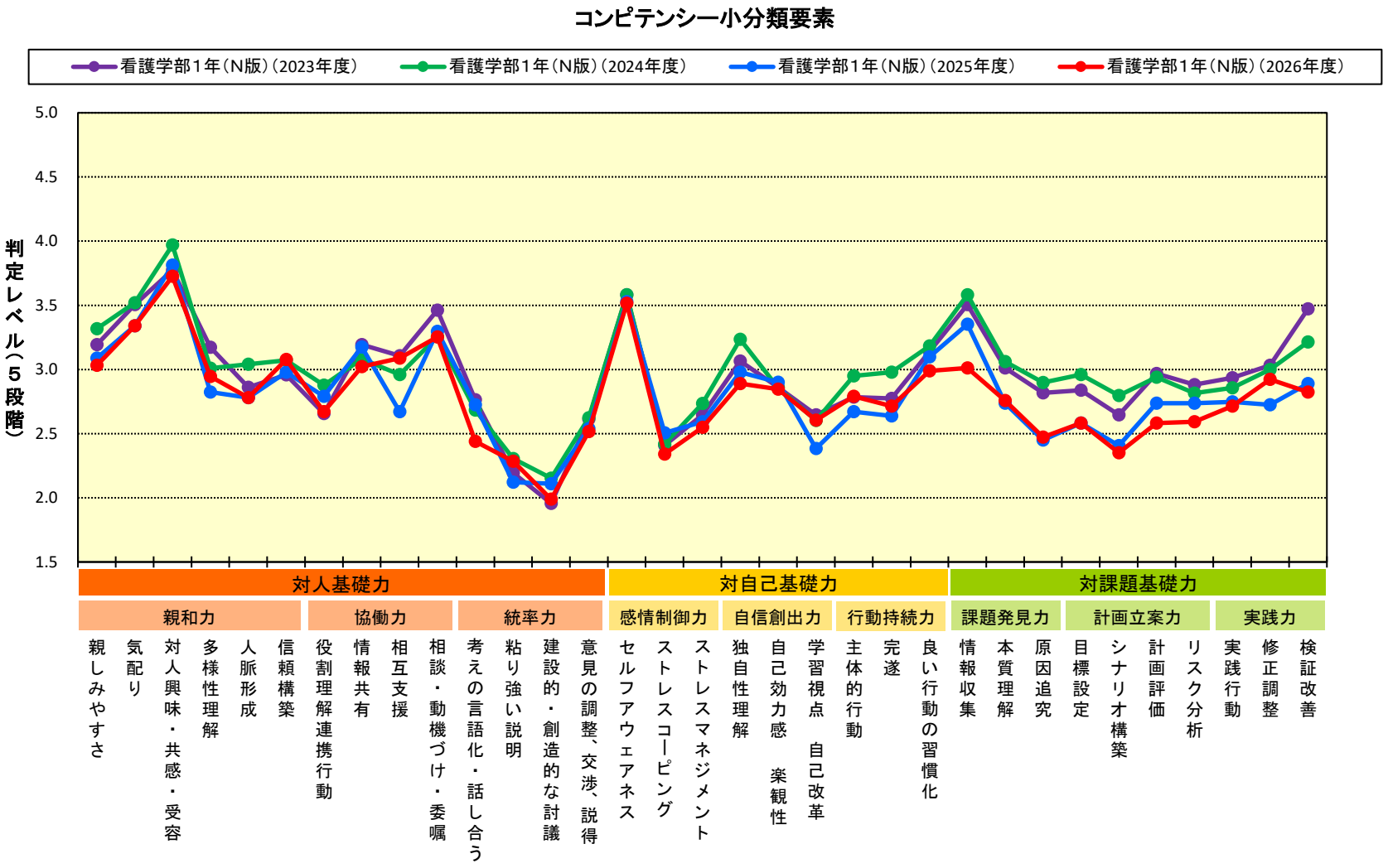
親和力、自信創出力、行動持続力、実践力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、協働力、統率力、感情制御力、課題発見力、計画立案力は、2025年度のスコアを下回る。



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）

【看護学部1年（N版）】



PROG

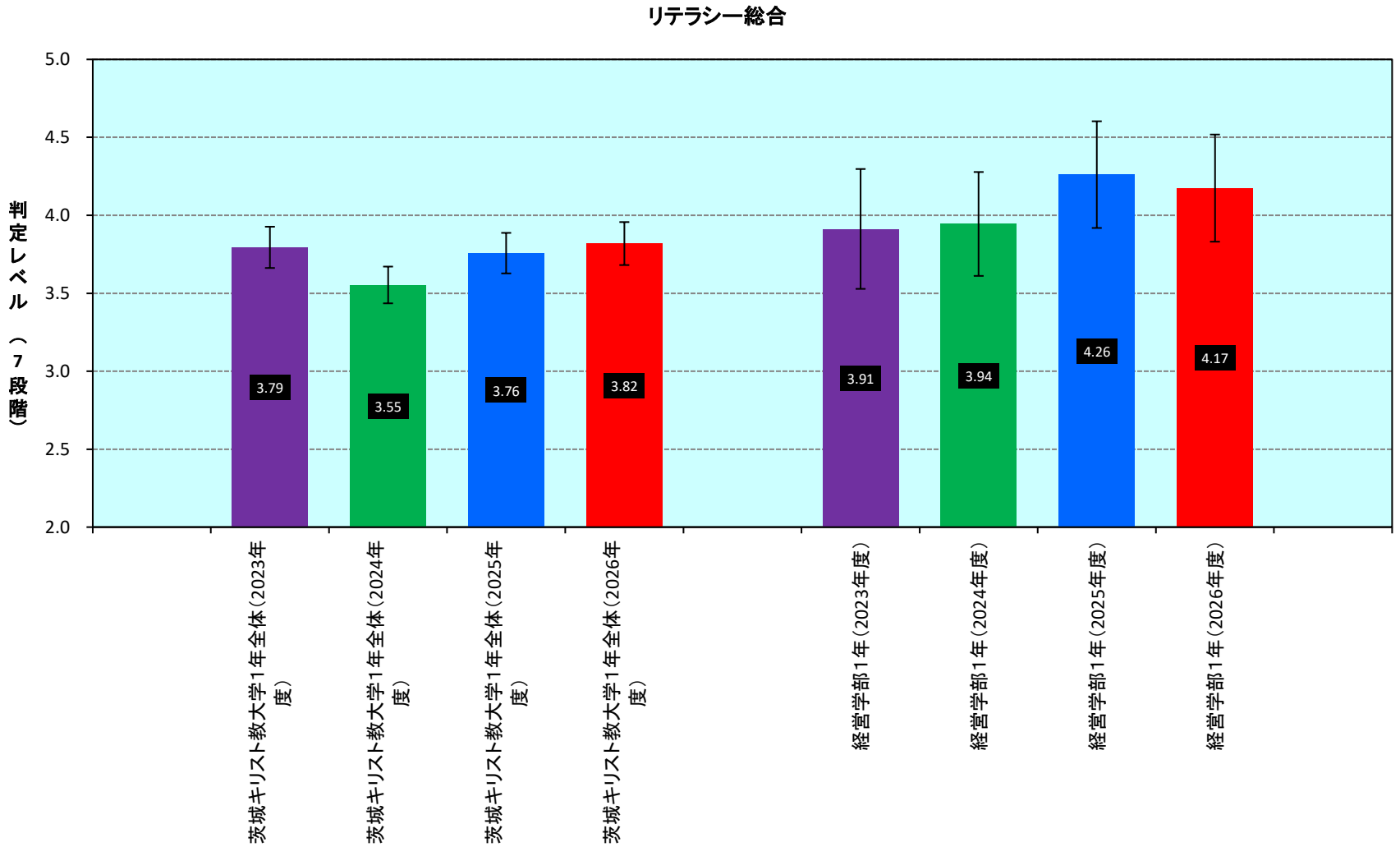
PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.10
１年生過去受験者比較
（経営学部）

リテラシー総合（過去の受験者との比較）

●茨城キリスト教大学1年全体、茨城キリスト教大学1年全体は、2025年度のスコアを上回る。

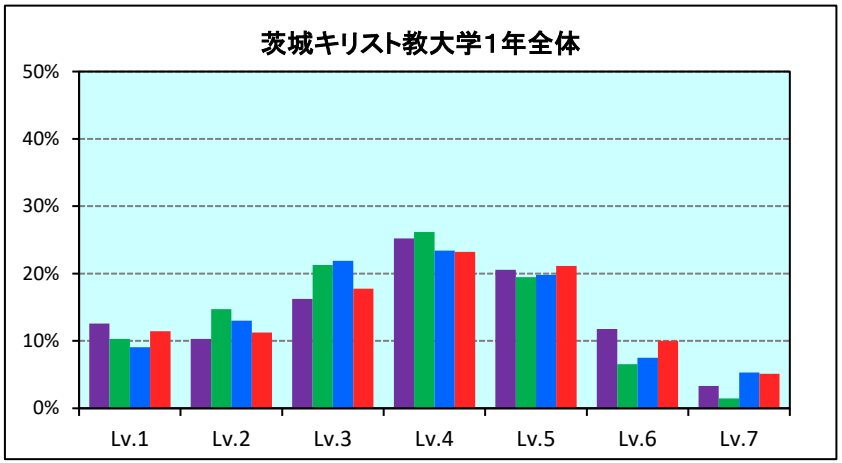
●経営学部1年は、2025年度のスコアを下回る。



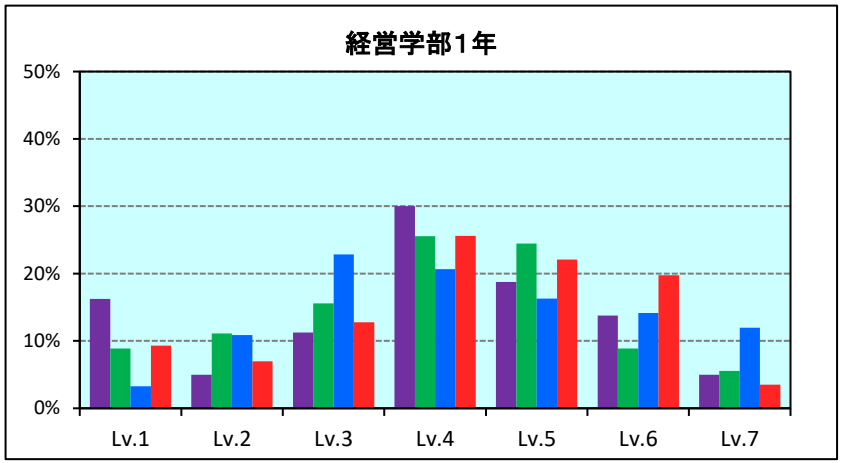
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）





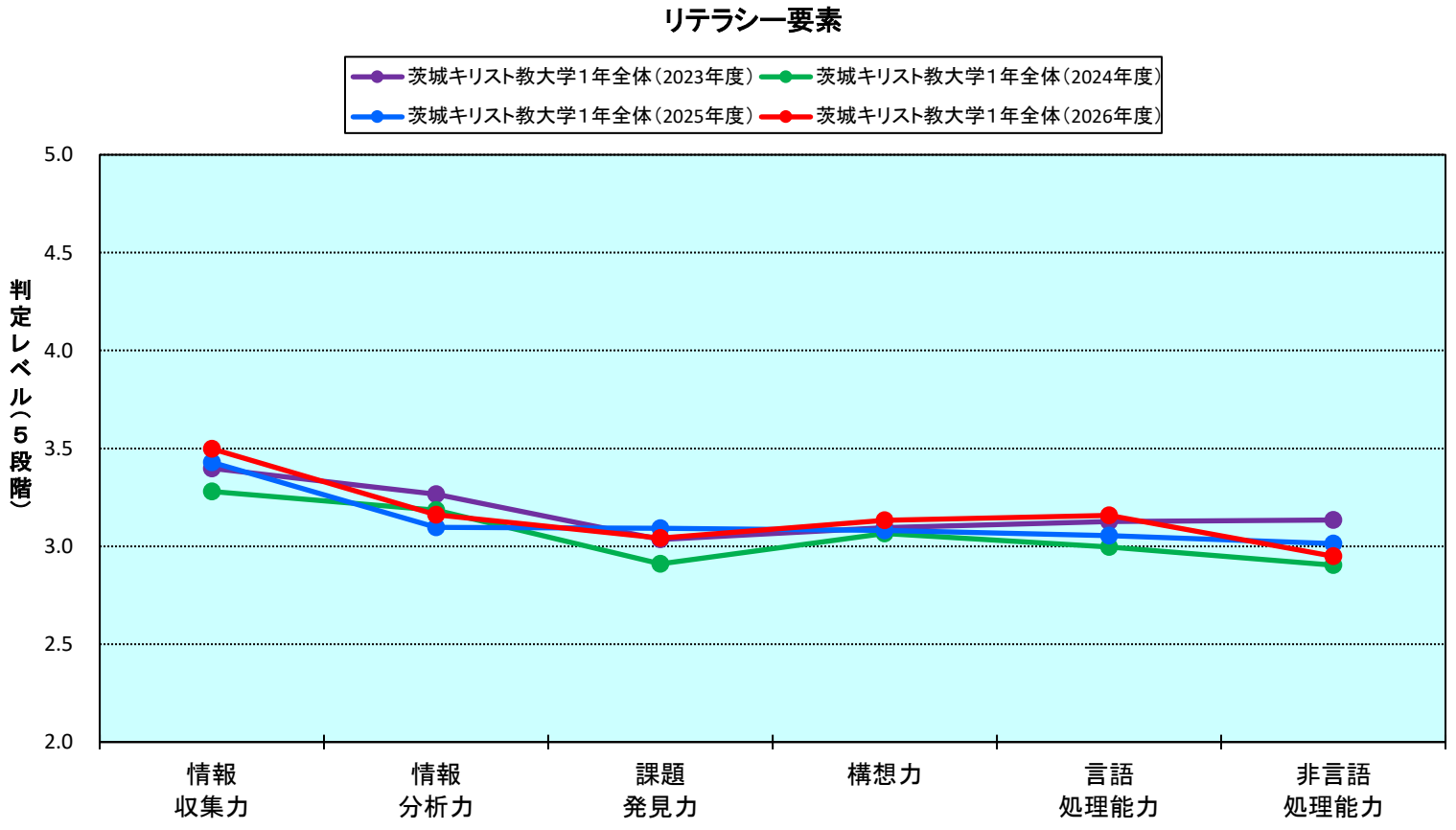
2025年度に比べて、レベル3の割合が小さい。



2025年度に比べて、レベル2～3、レベル7のボリュームが小さく、レベル1、レベル4～6のボリュームが大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【茨城キリスト教大学1年全体】
情報収集力、情報分析力、構想力、言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。
一方、課題発見力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。

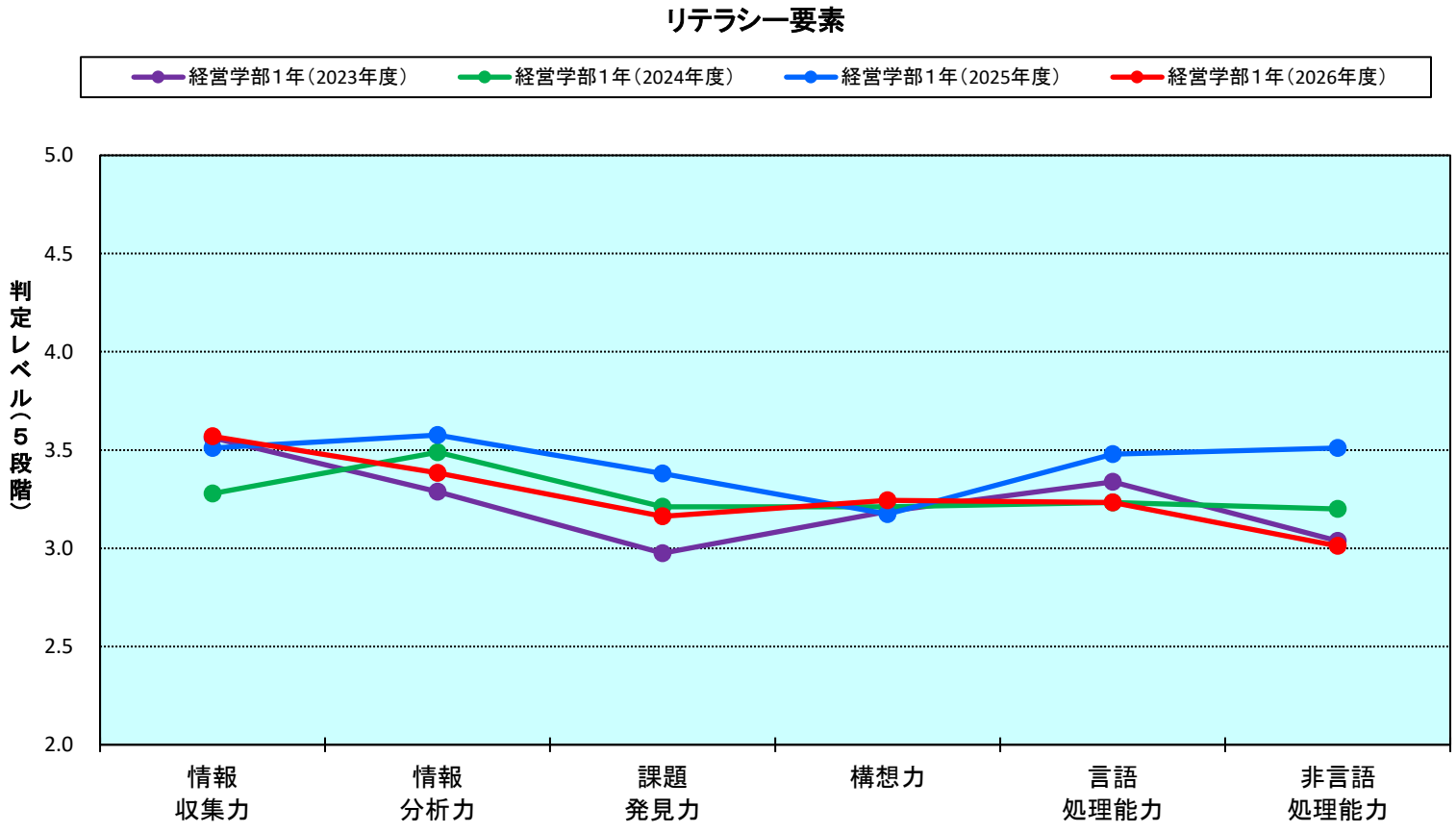


リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【経営学部1年】

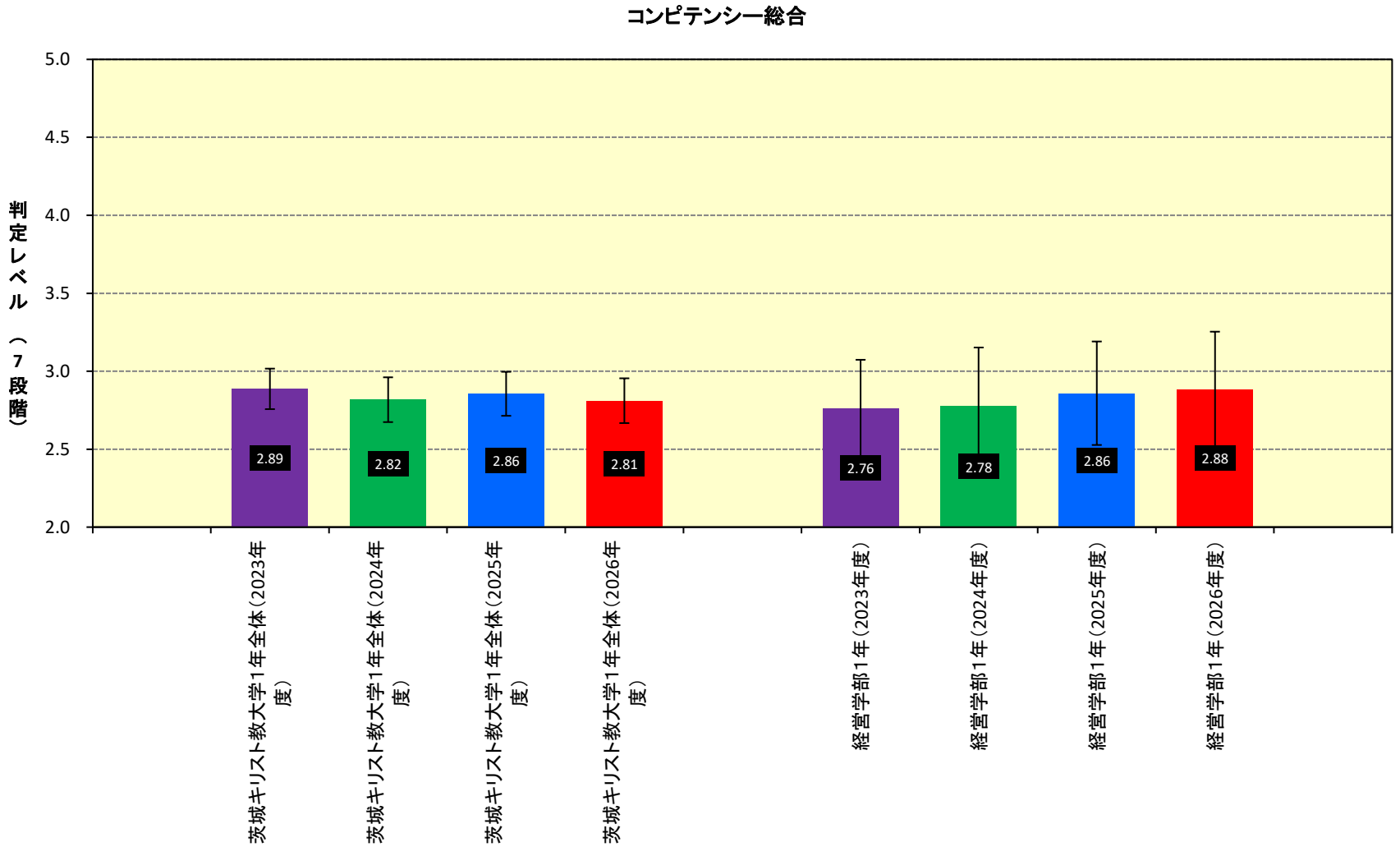
情報収集力、構想力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。



コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

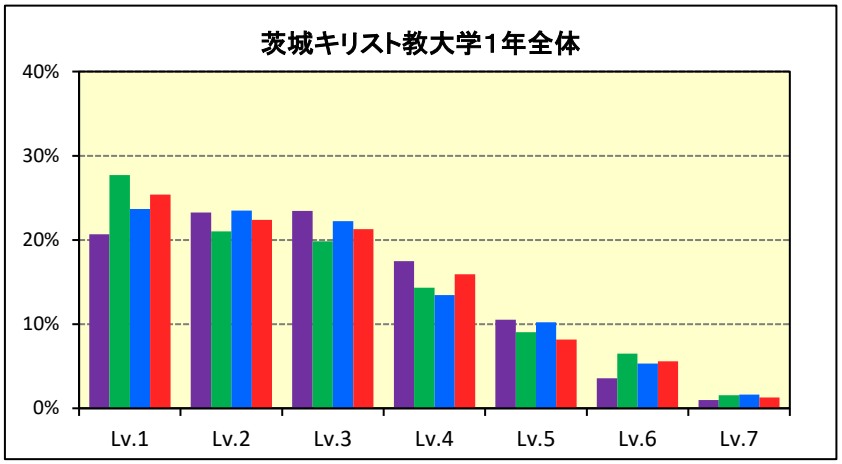
●経営学部1年は、2025年度のスコアを上回る。
●茨城キリスト教大学1年全体、茨城キリスト教大学1年全体は、2025年度のスコアを下回る。



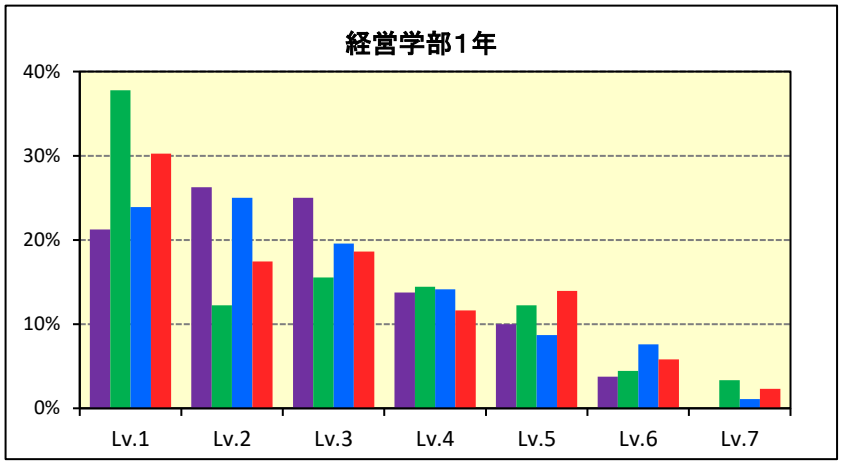
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）





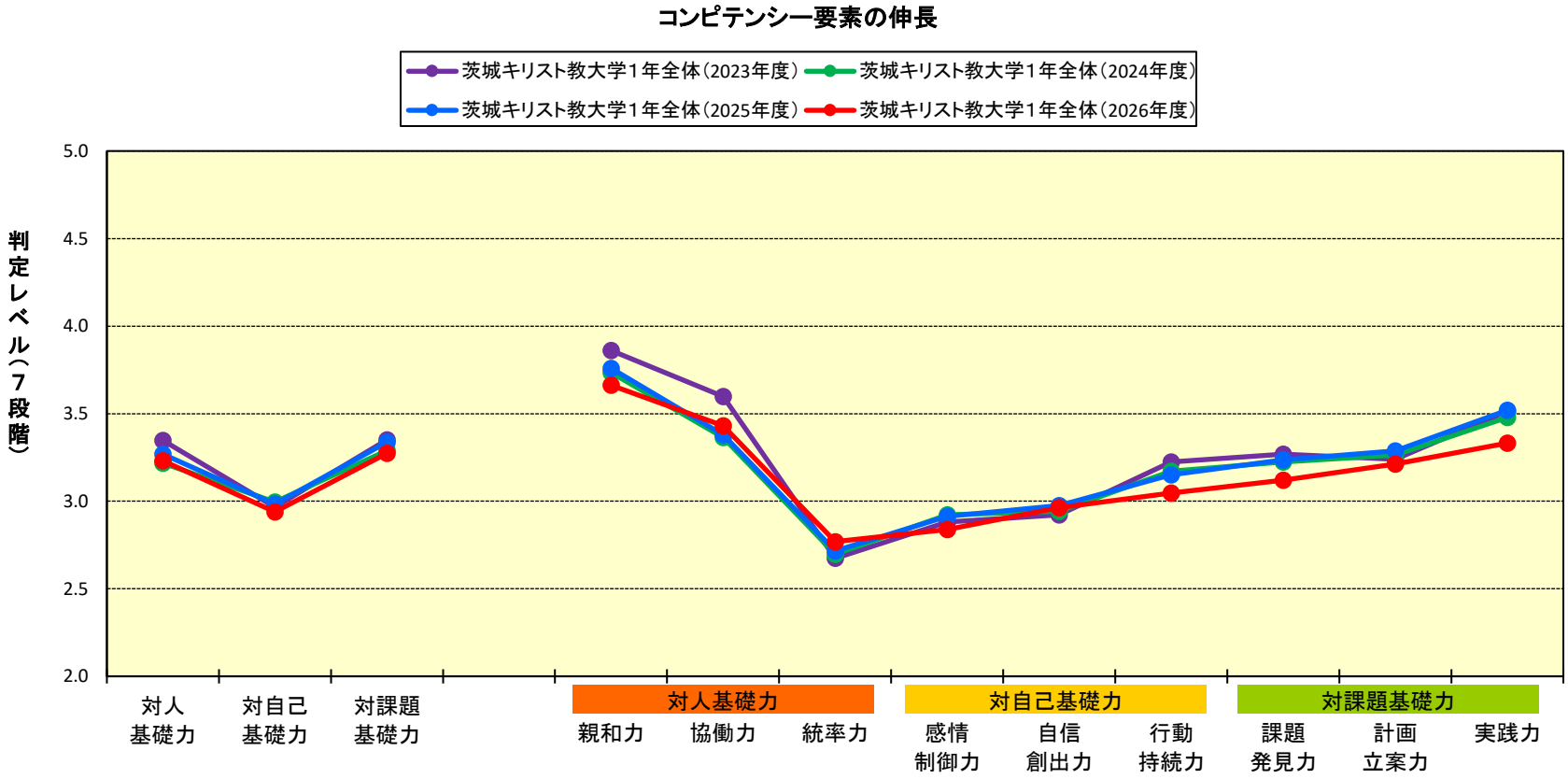
2025年度に近い分布を成す。



2025年度に比べて、レベル2の割合が小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

【茨城キリスト教大学1年全体】
協働力、統率力は、2025年度のスコアを上回る。
一方、親和力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。

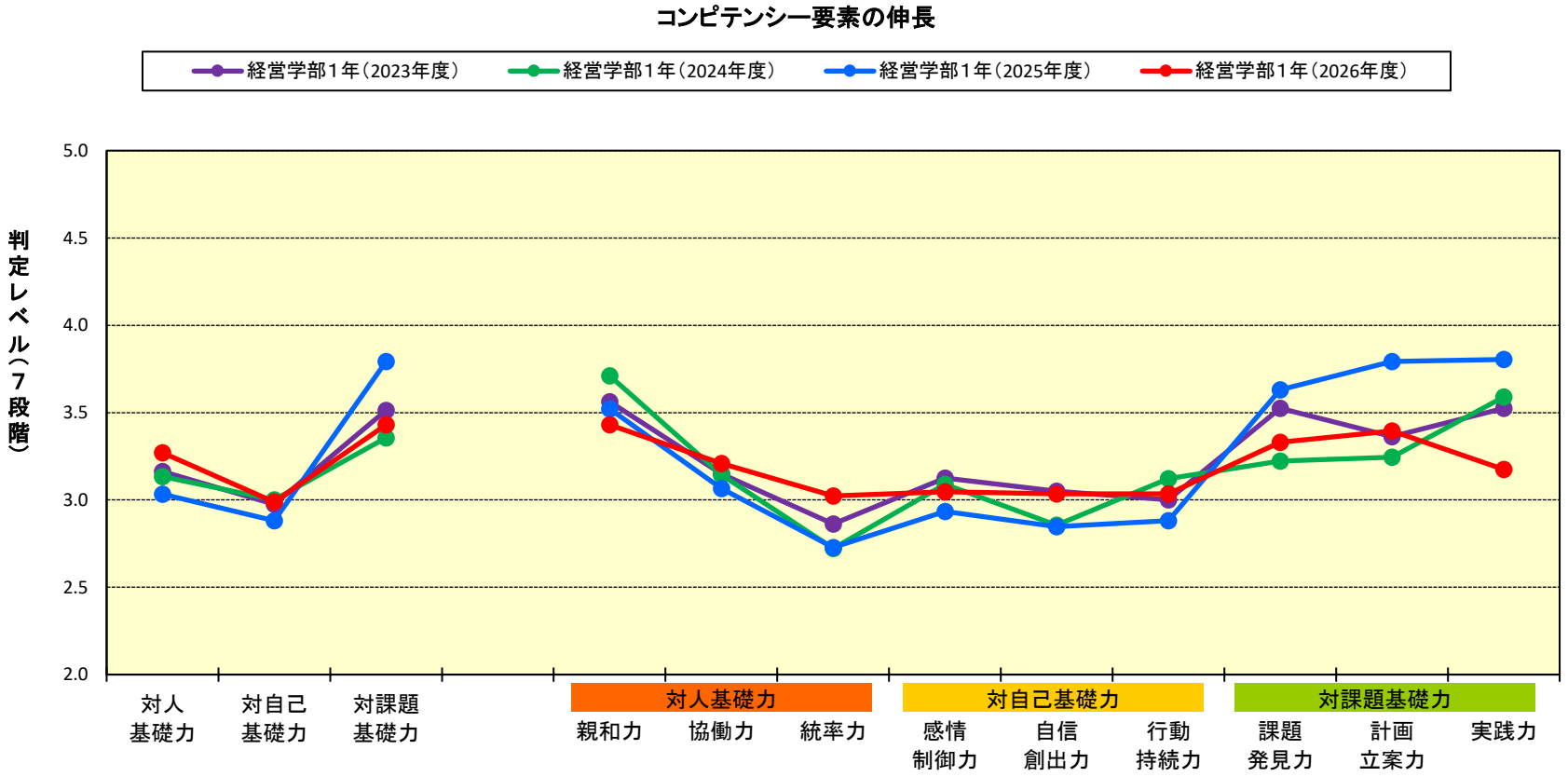


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）②

【経営学部1年】

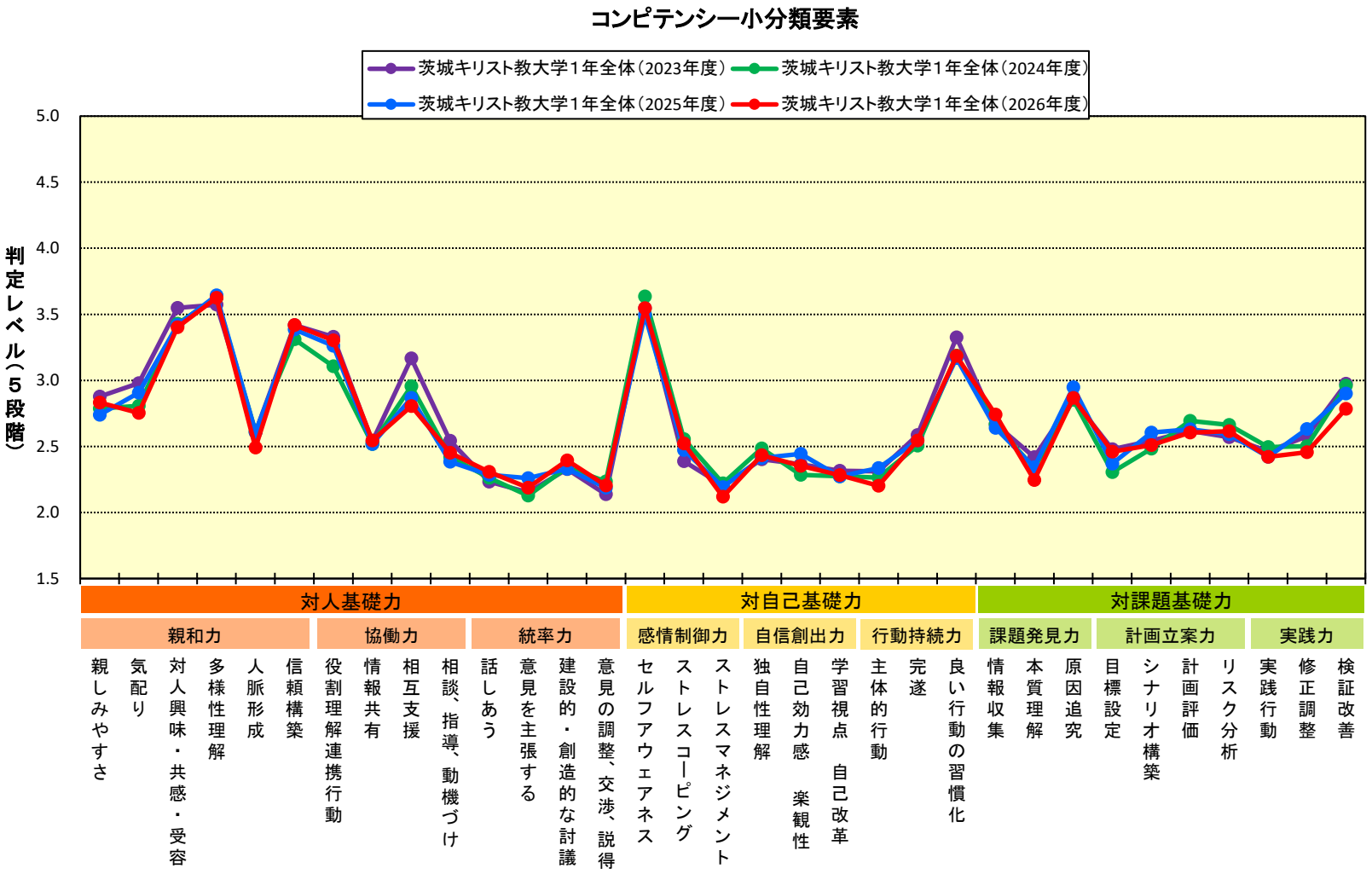
協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、2025年度のスコアを上回る。

一方、親和力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。



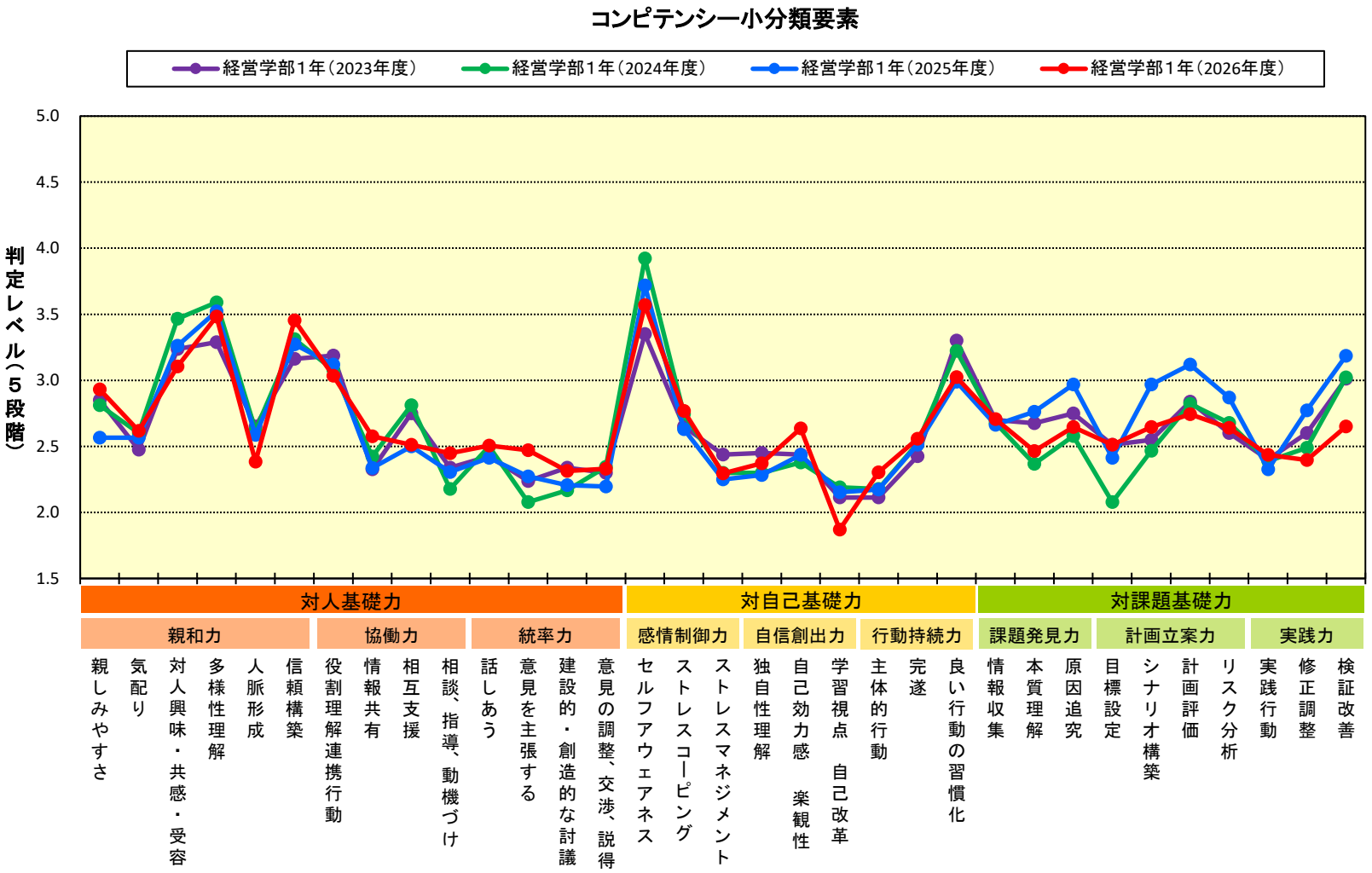
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

【茨城キリスト教大学1年全体】



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）②

【経営学部1年】



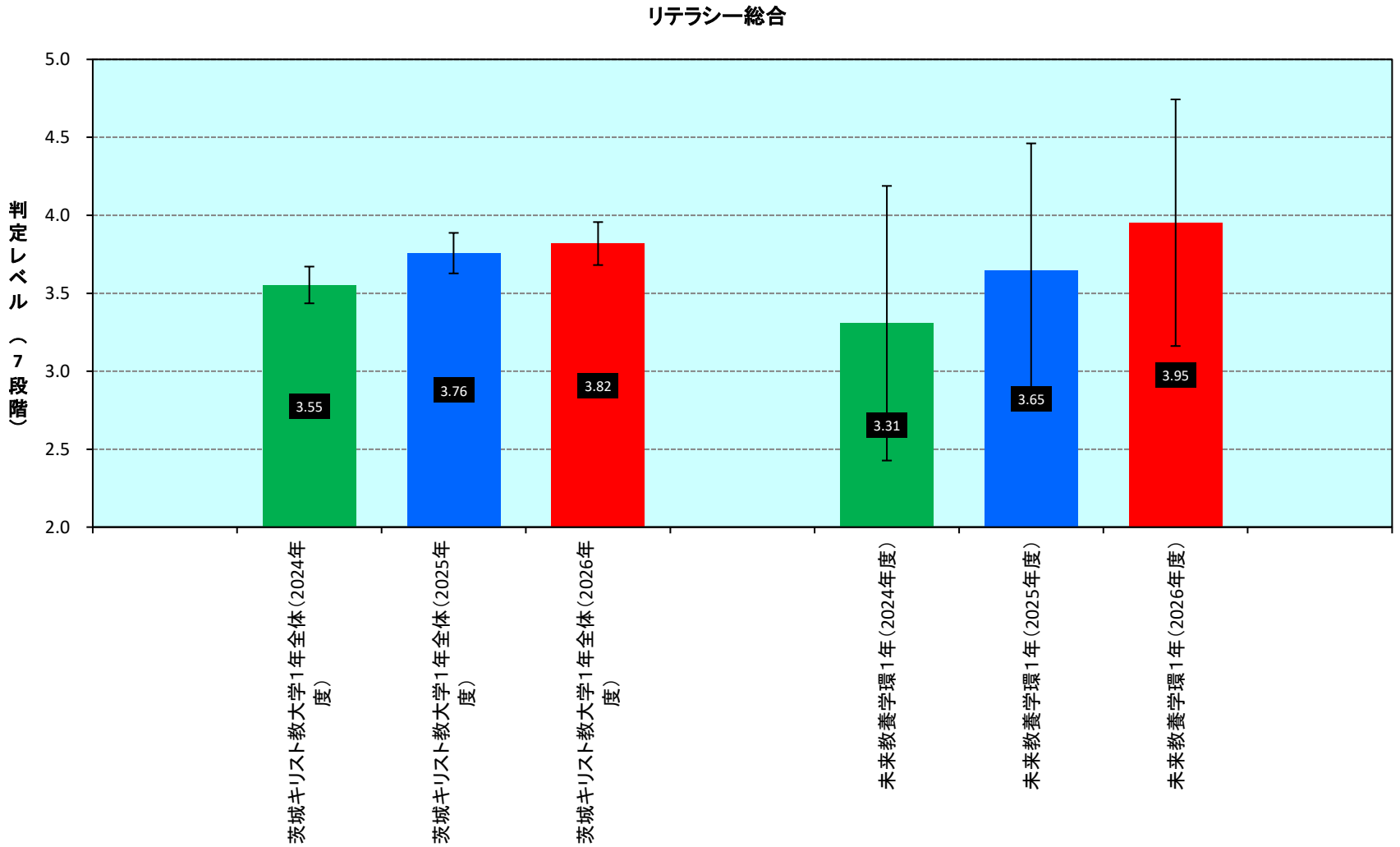
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.11
１年生過去受験者比較
（未来教養学環）

リテラシー総合（過去の受験者との比較）

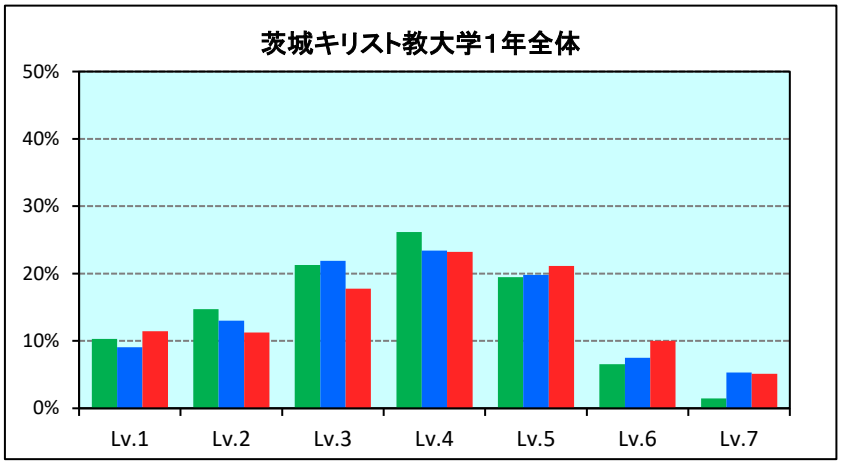
●茨城キリスト教大学1年全体、茨城キリスト教大学1年全体、未来教養学環1年は、2025年度のスコアを上回る。
（※未来教養学環1年（2024年度）は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）



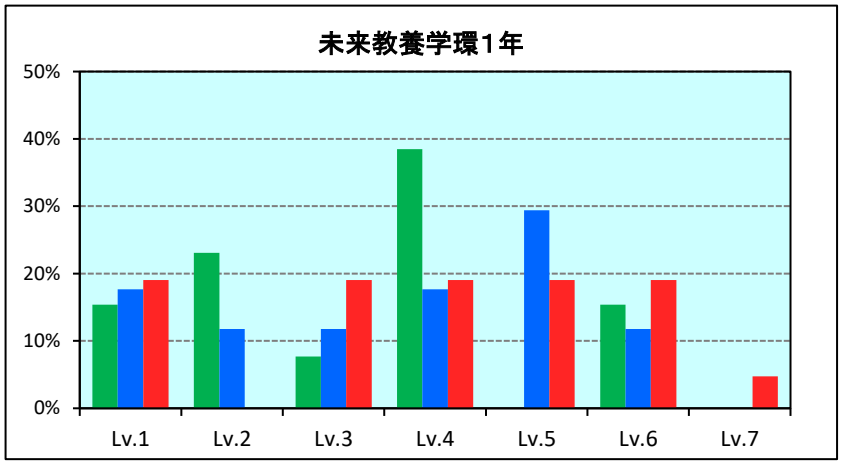
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）





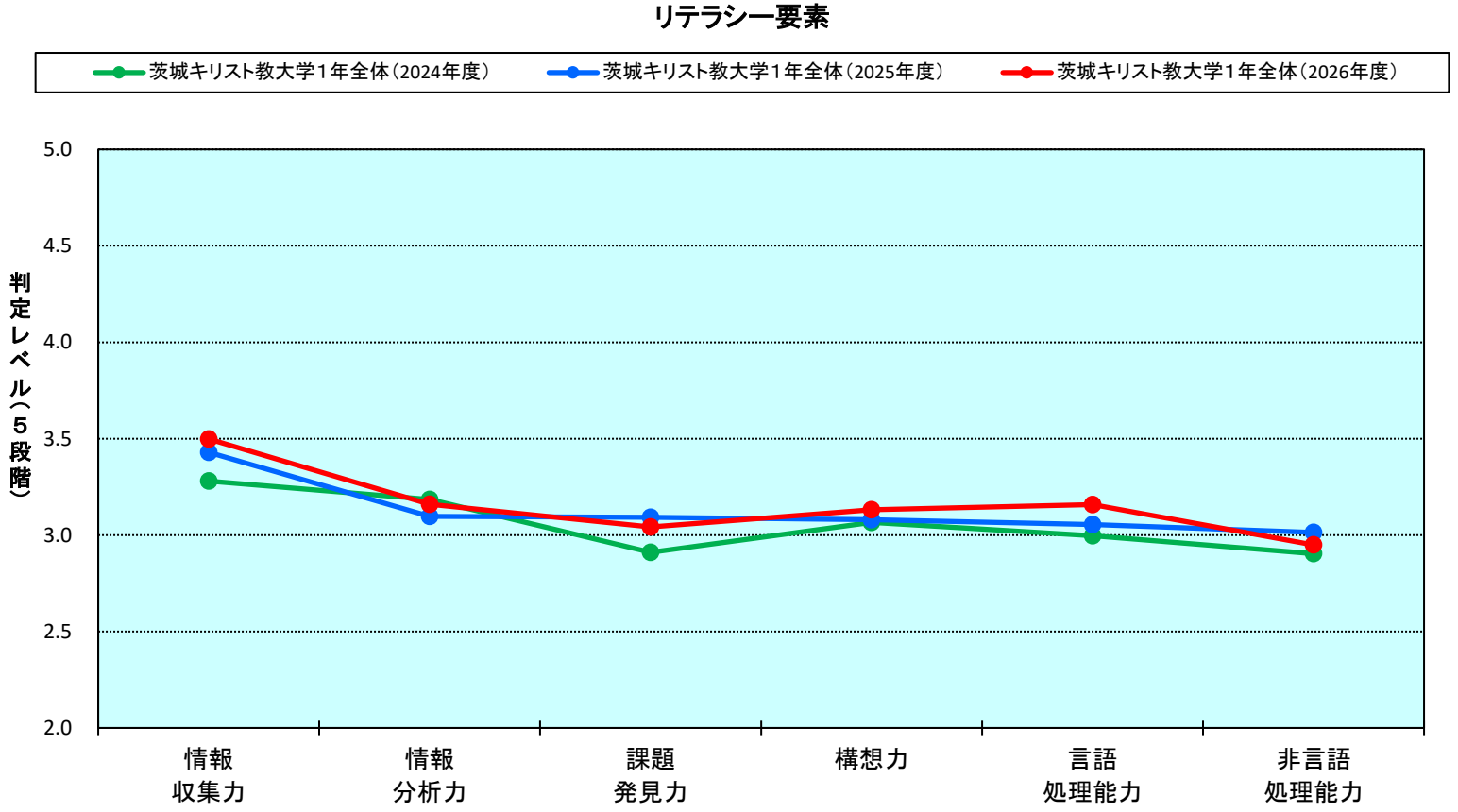
2025年度に比べて、レベル3の割合が小さい。



2025年度に比べて、レベル2、レベル5の割合が小さく、レベル3、レベル6～7のボリュームが大きい。
（※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

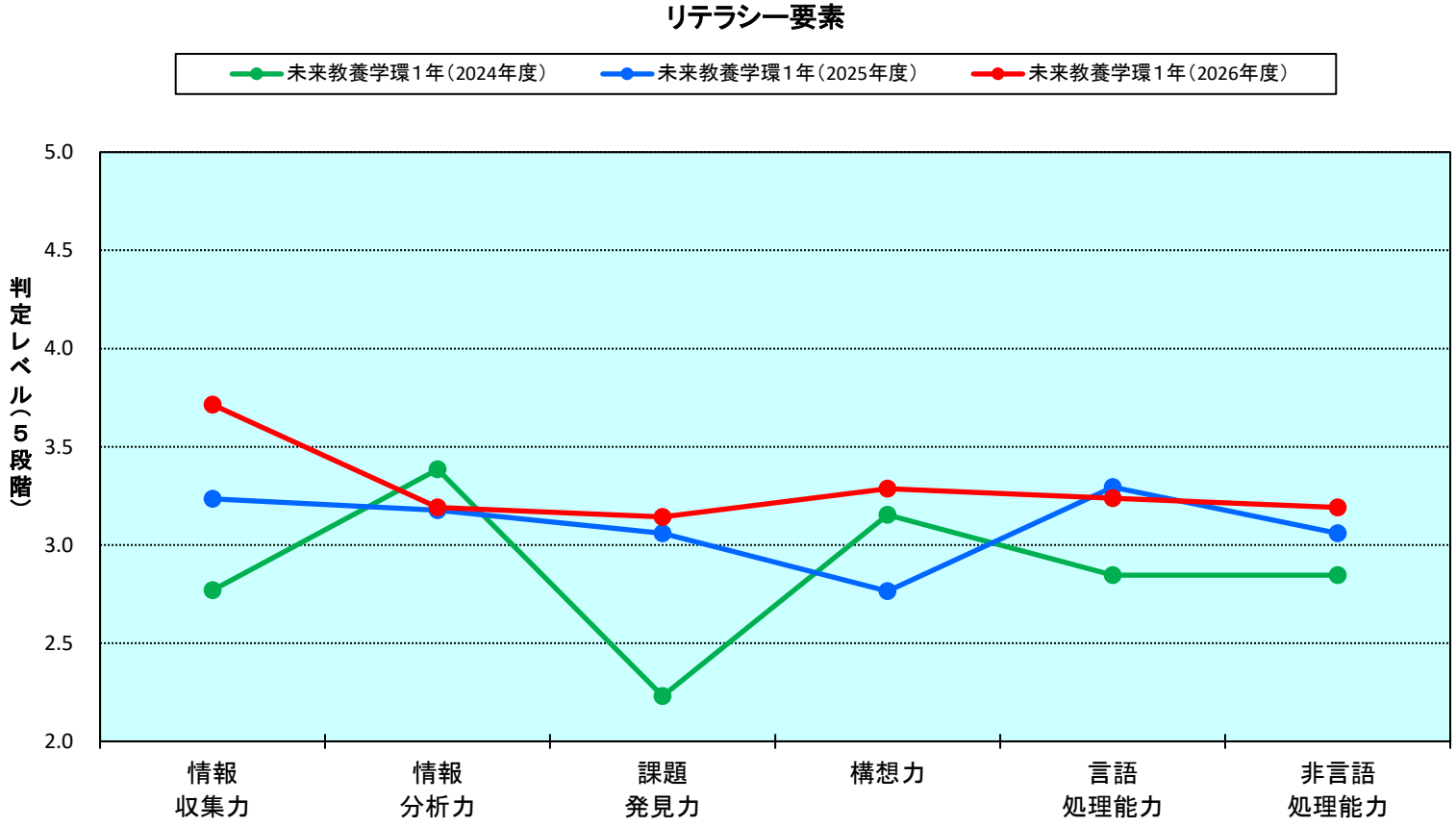
リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【茨城キリスト教大学1年全体】
情報収集力、情報分析力、構想力、言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。
一方、課題発見力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。



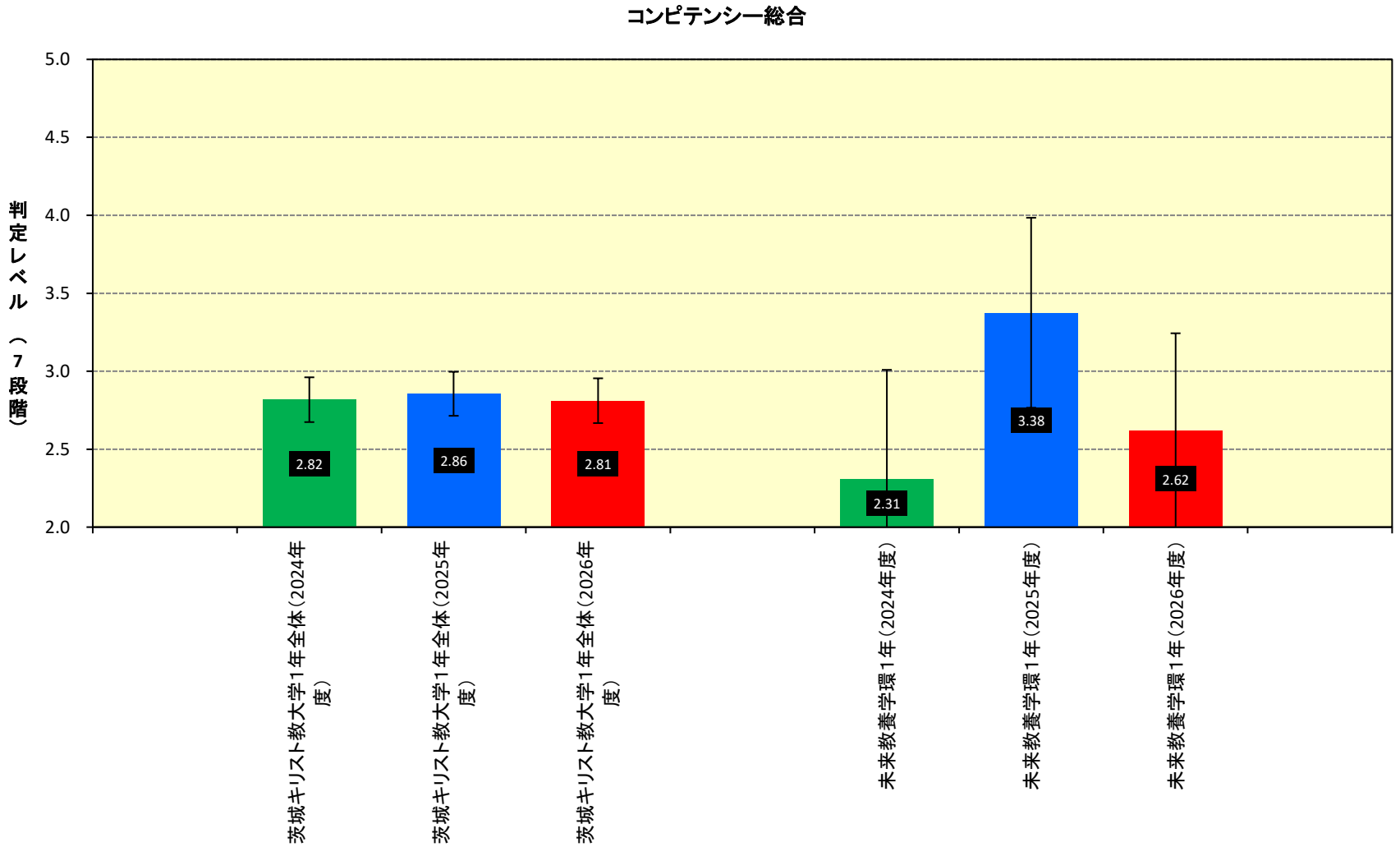
リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【未来教養学環1年】
　情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2025年度のスコアを上回る。
　一方、言語処理能力は、2025年度のスコアを下回る。
（※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）



コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

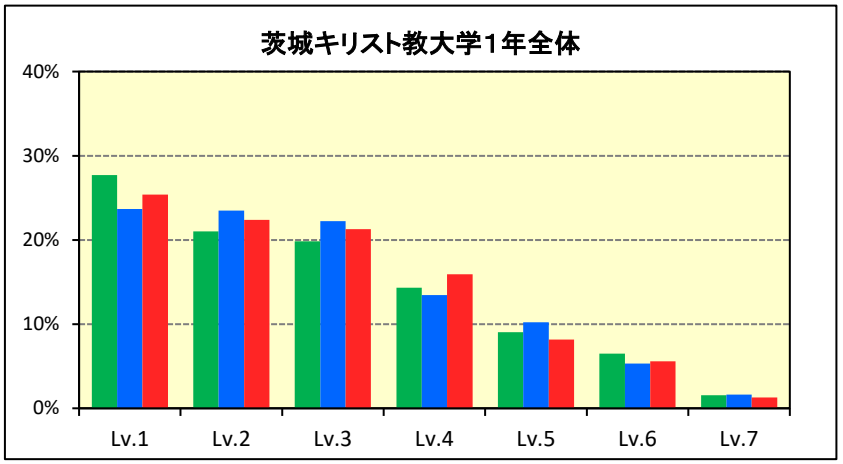
●茨城キリスト教大学1年全体、茨城キリスト教大学1年全体、未来教養学環1年は、2025年度のスコアを下回る。
（※未来教養学環1年（2024年度）は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）



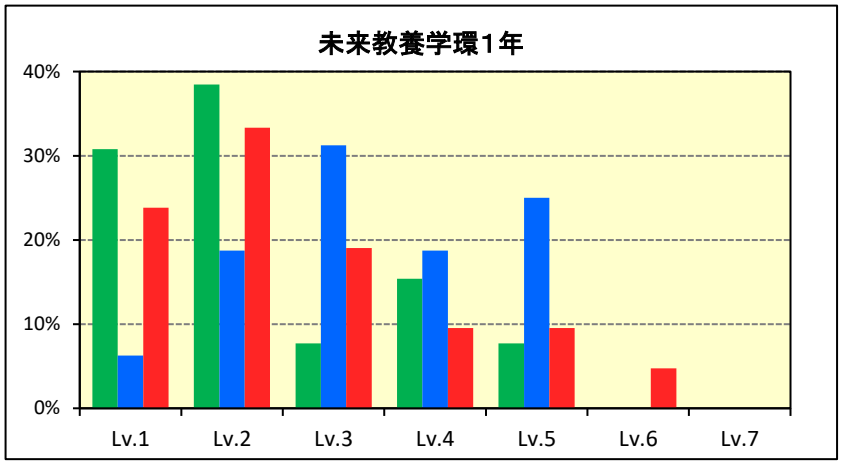
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）





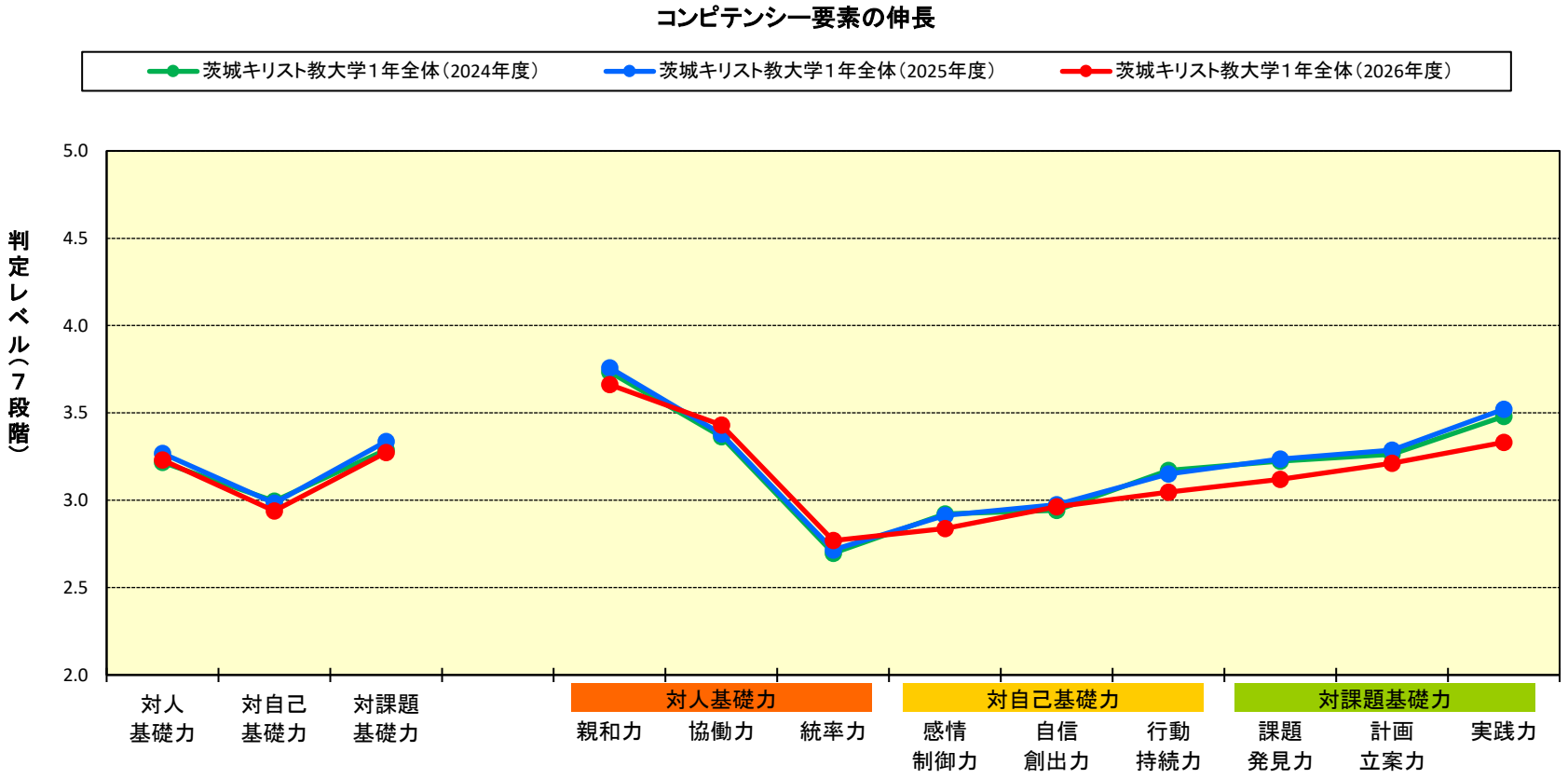
2025年度に近い分布を成す。



2025年度に比べて、レベル3～5のボリュームが小さく、レベル1～2、レベル6のボリュームが大きい。
（※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

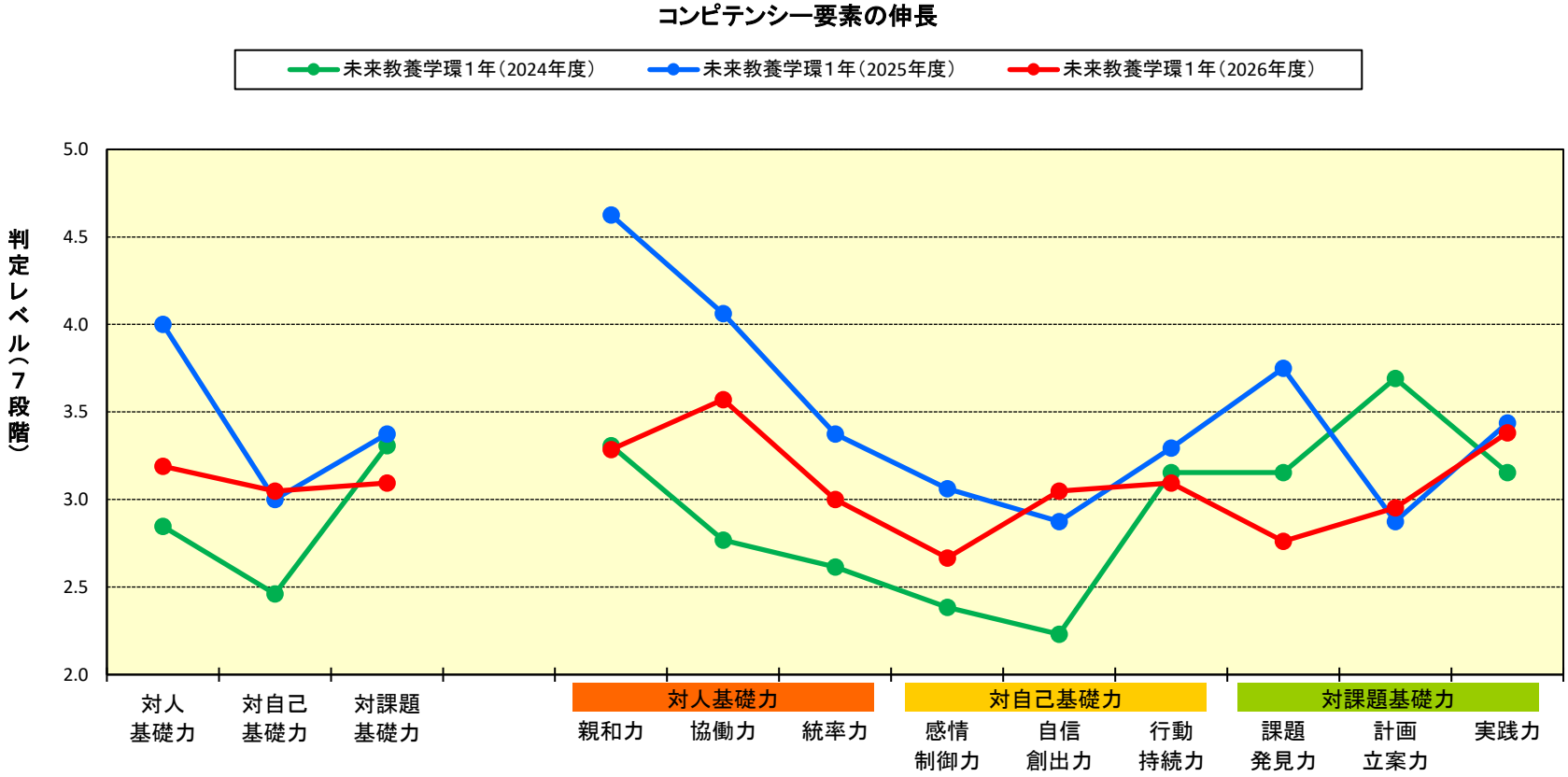
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

【茨城キリスト教大学1年全体】
協働力、統率力は、2025年度のスコアを上回る。
一方、親和力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。



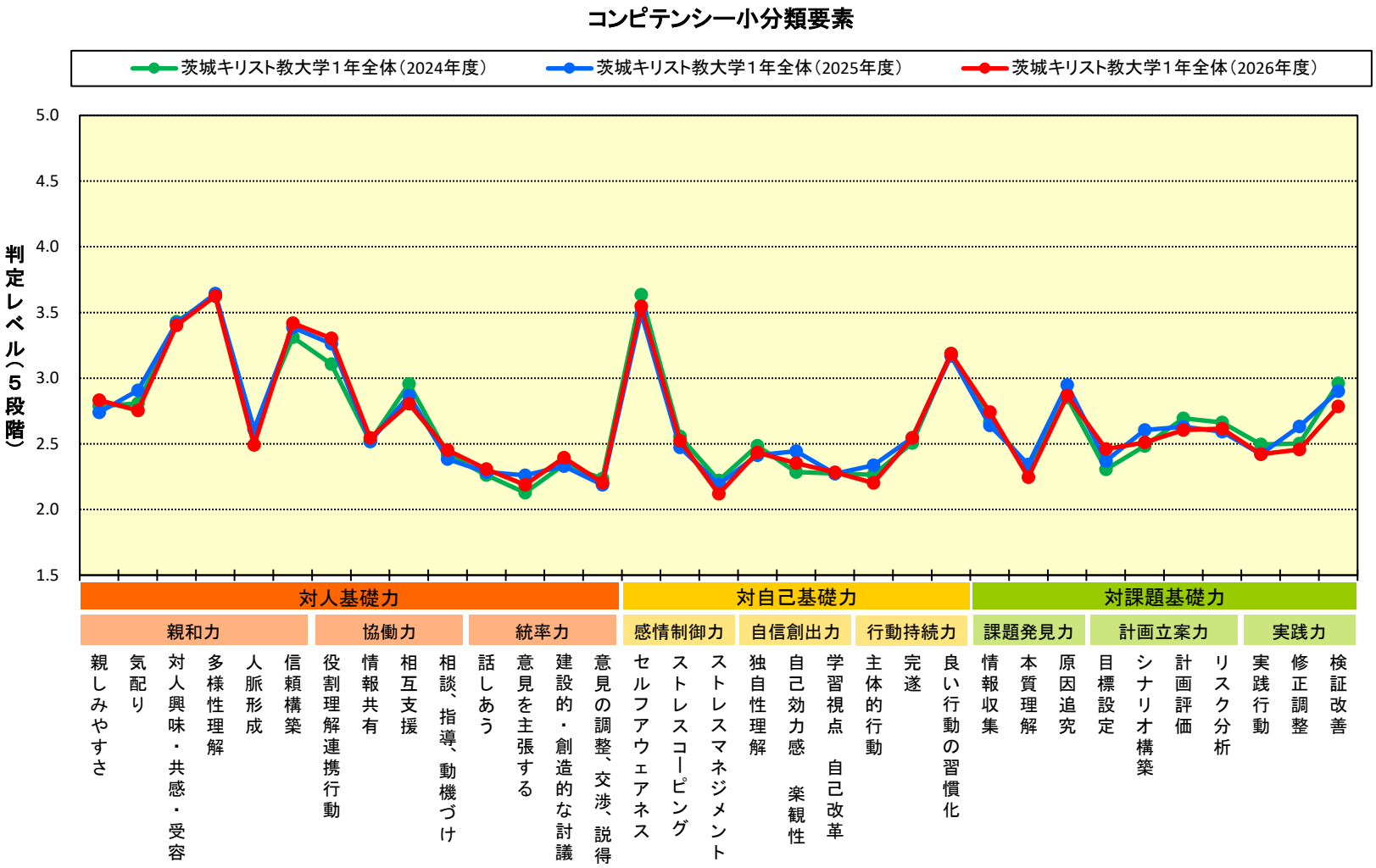
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）②

【未来教養学環1年】
　自信創出力、計画立案力は、2025年度のスコアを上回る。
　一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、実践力は、2025年度のスコアを下回る。
（※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

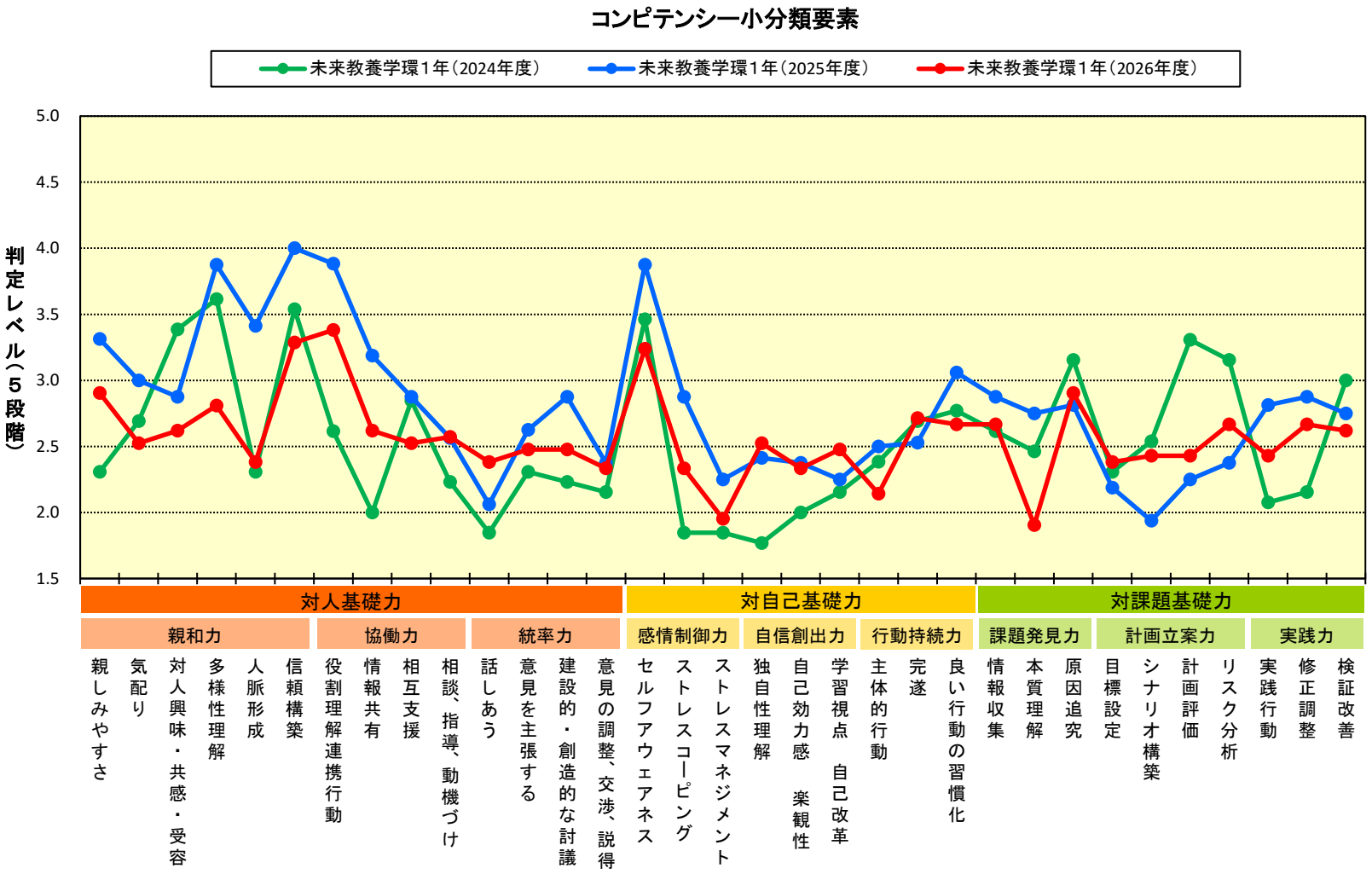
【茨城キリスト教大学1年全体】



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）②

【未来教養学環1年】

（※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため参考値とお考えください。）



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

共通アンケート
【1年生・新入生アンケート】

共通アンケート集計 ①

Q1. 高校時代の成績について教えてください。

所属情報	学科	回答者数	1. 上位の方	2. 中の上くらい	3. 中くらい	4. 中の下くらい	5. 下位の方	6. わからない/覚えていない
共通アンケート新入生平均値		24414	9.7%	24.1%	30.9%	18.7%	13.8%	2.8%
1年生全体(26年度)		568	11.3%	26.1%	30.8%	19.7%	10.0%	2.1%
	現代英語学科	51	5.9%	33.3%	37.3%	15.7%	5.9%	2.0%
	児童教育学科	96	16.7%	18.8%	31.3%	20.8%	10.4%	2.1%
	文化交流学科	79	10.1%	21.5%	30.4%	16.5%	17.7%	3.8%
	心理福祉学科	76	10.5%	21.1%	27.6%	21.1%	15.8%	3.9%
	食物健康科学科	67	7.5%	20.9%	32.8%	31.3%	7.5%	0.0%
	看護学科	92	8.7%	26.1%	40.2%	16.3%	7.6%	1.1%
	経営学科	86	16.3%	39.5%	20.9%	17.4%	4.7%	1.2%
	未来教養学環	21	9.5%	38.1%	19.0%	19.0%	9.5%	4.8%

Q2. 高校時代の出席状況について教えてください。

所属情報	学科	回答者数	1. 概ね全日出席した	2. 8割から9割程度は出席した	3. 半分以上出席した	4. 半分以上欠席した	5. ほとんど出席しなかった	6. わからない/覚えていない
共通アンケート新入生平均値		24414	45.9%	40.8%	10.2%	1.1%	0.8%	1.2%
1年生全体(26年度)		568	45.1%	45.8%	7.6%	1.1%	0.4%	0.2%
	現代英語学科	51	45.1%	49.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	児童教育学科	96	47.9%	38.5%	13.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	文化交流学科	79	46.8%	41.8%	8.9%	1.3%	1.3%	0.0%
	心理福祉学科	76	39.5%	46.1%	11.8%	2.6%	0.0%	0.0%
	食物健康科学科	67	32.8%	55.2%	10.4%	0.0%	0.0%	1.5%
	看護学科	92	54.3%	42.4%	0.0%	2.2%	1.1%	0.0%
	経営学科	86	45.3%	50.0%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	未来教養学環	21	42.9%	52.4%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%

Q3. 志望した学校の中で、本学は何番目でしたか。

所属情報	学科	回答者数	1. 第一志望	2. 第二志望	3. 第三志望以下
共通アンケート新入生平均値		24414	63.2%	18.8%	18.1%
1年生全体(26年度)		568	65.7%	21.0%	13.4%
	現代英語学科	51	45.1%	31.4%	23.5%
	児童教育学科	96	64.6%	17.7%	17.7%
	文化交流学科	79	59.5%	27.8%	12.7%
	心理福祉学科	76	68.4%	25.0%	6.6%
	食物健康科学科	67	82.1%	10.4%	7.5%
	看護学科	92	68.5%	17.4%	14.1%
	経営学科	86	62.8%	20.9%	16.3%
	未来教養学環	21	81.0%	19.0%	0.0%

共通アンケート集計 ②

Q4. 志望した学部・学科の中で、本学部・学科は何番目でしたか。

所属情報	学科	回答者数	1. 第一志望	2. 第二志望	3. 第三志望以下
共通アンケート新入生平均値		24414	88.7%	7.7%	3.6%
1年生全体(26年度)		568	92.4%	5.1%	2.5%
	現代英語学科	51	82.4%	11.8%	5.9%
	児童教育学科	96	93.8%	2.1%	4.2%
	文化交流学科	79	87.3%	11.4%	1.3%
	心理福祉学科	76	96.1%	3.9%	0.0%
	食物健康科学科	67	98.5%	0.0%	1.5%
	看護学科	92	91.3%	5.4%	3.3%
	経営学科	86	94.2%	3.5%	2.3%
	未来教養学環	21	95.2%	4.8%	0.0%

Q5. 入学した試験区分について教えてください。

所属情報	学科	回答者数	1. 一般入試	2. 共通テスト	3. 内部推薦	4. 推薦型(旧公募推薦、自己推薦)	5. 推薦型(旧指定校)	6. 総合型選抜	7. 一般編入	8. その他
共通アンケート新入生平均値		24414	24.0%	6.3%	3.8%	13.3%	27.4%	22.4%	0.1%	2.7%
1年生全体(26年度)		568	16.7%	18.0%	1.6%	3.7%	34.2%	25.2%	0.0%	0.7%
	現代英語学科	51	21.6%	31.4%	2.0%	2.0%	25.5%	17.6%	0.0%	0.0%
	児童教育学科	96	13.5%	17.7%	0.0%	1.0%	37.5%	30.2%	0.0%	0.0%
	文化交流学科	79	16.5%	21.5%	1.3%	2.5%	39.2%	19.0%	0.0%	0.0%
	心理福祉学科	76	21.1%	18.4%	3.9%	1.3%	32.9%	22.4%	0.0%	0.0%
	食物健康科学科	67	14.9%	10.4%	4.5%	1.5%	34.3%	34.3%	0.0%	0.0%
	看護学科	92	16.3%	8.7%	0.0%	13.0%	29.3%	28.3%	0.0%	4.3%
	経営学科	86	18.6%	20.9%	1.2%	3.5%	34.9%	20.9%	0.0%	0.0%
	未来教養学環	21	4.8%	23.8%	0.0%	0.0%	42.9%	28.6%	0.0%	0.0%

共通アンケート集計 ③

Q6. 進学理由について教えてください。

所属情報	学科	回答者数	1. 周囲からの勧め（家族や親せき）	2. 周囲からの勧め（予備校や高校の先生）	3. 周囲がみな行くから	4. すぐに働きたくない	5. 大卒の学歴が欲しい	6. 学生生活を楽しみたい	7. 高校で深く関わった部活動を大学で継続したい	8. 将来に役立つ学びをしたい	9. 専門的な研究をしたい	10. 産業界で役立つスキルを身につけたい	11. その他
共通アンケート新入生平均値		24414	22.4%	18.4%	4.3%	6.4%	27.3%	27.3%	4.1%	55.7%	19.0%	10.2%	5.7%
1年生全体（26年度）		568	27.1%	14.6%	4.8%	5.8%	31.0%	22.7%	0.9%	59.0%	9.0%	3.9%	8.5%
	現代英語学科	51	7.8%	7.8%	7.8%	5.9%	35.3%	29.4%	0.0%	60.8%	7.8%	3.9%	5.9%
	児童教育学科	96	24.0%	17.7%	2.1%	4.2%	20.8%	21.9%	2.1%	67.7%	7.3%	2.1%	12.5%
	文化交流学科	79	41.8%	13.9%	6.3%	5.1%	38.0%	26.6%	1.3%	44.3%	2.5%	6.3%	7.6%
	心理福祉学科	76	27.6%	14.5%	2.6%	5.3%	31.6%	26.3%	0.0%	61.8%	13.2%	7.9%	7.9%
	食物健康科学科	67	22.4%	14.9%	4.5%	6.0%	26.9%	22.4%	1.5%	70.1%	13.4%	4.5%	9.0%
	看護学科	92	32.6%	8.7%	3.3%	0.0%	28.3%	13.0%	1.1%	66.3%	15.2%	3.3%	9.8%
	経営学科	86	25.6%	19.8%	5.8%	14.0%	38.4%	23.3%	0.0%	44.2%	4.7%	0.0%	5.8%
	未来教養学環	21	28.6%	23.8%	14.3%	9.5%	33.3%	23.8%	0.0%	52.4%	4.8%	4.8%	4.8%

Q7. 学校について知るのに特に役立った情報源について教えてください。（大学からの発信情報）

所属情報	学科	回答者数	1. 大学からの手紙・ハガキ	2. 大学からのメール・LINE等	3. 高校で行われた説明会	4. オープンキャンパス・大学見学会	5. 大学案内（パンフレット）	6. 大学ホームページ	7. その他
共通アンケート新入生平均値		24414	4.9%	5.3%	14.5%	54.9%	34.4%	41.0%	10.4%
1年生全体（26年度）		568	6.3%	6.5%	23.9%	63.4%	31.5%	35.9%	7.0%
	現代英語学科	51	5.9%	5.9%	15.7%	51.0%	23.5%	47.1%	11.8%
	児童教育学科	96	7.3%	9.4%	18.8%	67.7%	37.5%	33.3%	7.3%
	文化交流学科	79	5.1%	10.1%	19.0%	60.8%	30.4%	39.2%	10.1%
	心理福祉学科	76	7.9%	6.6%	31.6%	71.1%	38.2%	36.8%	7.9%
	食物健康科学科	67	4.5%	4.5%	22.4%	71.6%	28.4%	29.9%	4.5%
	看護学科	92	5.4%	5.4%	18.5%	72.8%	35.9%	40.2%	2.2%
	経営学科	86	8.1%	2.3%	36.0%	44.2%	24.4%	24.4%	8.1%
	未来教養学環	21	4.8%	9.5%	38.1%	66.7%	23.8%	52.4%	4.8%

共通アンケート集計 ④

Q8. 学校について知るのに特に役立った情報源について教えてください。(大学以外またはメディアからの発信情報)

所属情報	学科	回答者数	1. 進学情報誌・進学情報サイト	2. 高校の先生からの情報・アドバイス	3. 塾・予備校の先生からの情報・アドバイス	4. 家族からの情報・アドバイス	5. 友人・先輩からの情報・アドバイス	6. TV・ラジオCM	7. 新聞広告	8. 電車内の広告や駅の看板	9. SNSの広告	10. SNSの投稿	11. その他
共通アンケート新入生平均値		24414	45.9%	38.7%	14.1%	19.5%	13.9%	0.8%	0.2%	1.2%	3.7%	7.9%	4.6%
1年生全体(26年度)		568	48.2%	47.5%	5.3%	22.9%	18.8%	0.0%	0.2%	0.5%	1.9%	7.9%	3.3%
	現代英語学科	51	54.9%	37.3%	3.9%	19.6%	13.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	3.9%	5.9%
	児童教育学科	96	49.0%	45.8%	6.3%	20.8%	19.8%	0.0%	0.0%	1.0%	3.1%	7.3%	4.2%
	文化交流学科	79	48.1%	49.4%	7.6%	22.8%	22.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	6.3%	2.5%
	心理福祉学科	76	50.0%	43.4%	5.3%	32.9%	21.1%	0.0%	1.3%	1.3%	1.3%	7.9%	2.6%
	食物健康科学科	67	44.8%	52.2%	1.5%	16.4%	16.4%	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%	17.9%	3.0%
	看護学科	92	50.0%	47.8%	4.3%	25.0%	19.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	13.0%	2.2%
	経営学科	86	44.2%	48.8%	4.7%	20.9%	16.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	4.7%
	未来教養学環	21	42.9%	66.7%	14.3%	23.8%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Q9. 本学の入学を決めた理由について教えてください。(学習内容・環境に関する要素)

所属情報	学科	回答者数	1. 興味のある専門分野を学べそう	2. 幅広い分野を学べそう	3. 授業が楽しそう	4. 少人数クラスで学べそう	5. 苦手な学習分野を丁寧にサポートしてくれそう	6. 友人が作りやすそう	7. 図書館や自習スペースなどが充実してそう	8. 設備(PCルームやWi-Fi環境、学習支援アプリなど)が充実	9. キャンパス(校舎・食堂・カフェ・トイレなど)がおしゃれ	10. キャンパスが清潔	11. 教職員のサポートが充実していそう	12. その他
共通アンケート新入生平均値		24414	67.8%	32.6%	17.3%	12.5%	8.9%	9.2%	11.2%	15.8%	19.1%	22.5%	19.5%	7.4%
1年生全体(26年度)		568	67.3%	26.9%	13.9%	8.3%	5.3%	7.2%	12.3%	16.4%	14.4%	28.2%	16.9%	10.2%
	現代英語学科	51	68.6%	21.6%	19.6%	11.8%	3.9%	7.8%	13.7%	7.8%	5.9%	25.5%	11.8%	9.8%
	児童教育学科	96	75.0%	17.7%	18.8%	7.3%	3.1%	9.4%	10.4%	19.8%	16.7%	27.1%	25.0%	8.3%
	文化交流学科	79	59.5%	40.5%	30.4%	3.8%	1.3%	10.1%	19.0%	13.9%	13.9%	31.6%	16.5%	10.1%
	心理福祉学科	76	80.3%	28.9%	9.2%	5.3%	9.2%	5.3%	21.1%	17.1%	15.8%	25.0%	18.4%	11.8%
	食物健康科学科	67	80.6%	17.9%	4.5%	1.5%	9.0%	3.0%	6.0%	20.9%	13.4%	22.4%	13.4%	11.9%
	看護学科	92	76.1%	18.5%	6.5%	15.2%	6.5%	5.4%	8.7%	16.3%	15.2%	30.4%	18.5%	7.6%
	経営学科	86	47.7%	29.1%	8.1%	8.1%	4.7%	8.1%	8.1%	16.3%	14.0%	27.9%	9.3%	12.8%
	未来教養学環	21	9.5%	81.0%	19.0%	23.8%	4.8%	9.5%	14.3%	14.3%	23.8%	47.6%	23.8%	9.5%

共通アンケート集計 ⑤

Q10. 本学の入学を決めた理由について教えてください。(就職・キャリア・その他の要素)

所属情報	学科	回答者数	1. 社会で役立つ力が身につきそう	2. 高い就職実績	3. 就職サポートが手厚そう	4. やりたい仕事が見つかりそう	5. 部活・サークルに力を入れられそう	6. 留学サポートが充実してそう	7. 学生生活でやりたいことが見つかりそう	8. 卒業生の評判が良さそう	9. 公務員試験・資格取得に有利	10. 食堂・カフェが安くて美味しそう	11. 経済支援制度が充実してそう	12. その他
共通アンケート新入生平均値		24414	46.7%	36.5%	30.0%	26.9%	7.7%	9.0%	25.2%	7.0%	12.8%	5.5%	1.7%	6.2%
1年生全体(26年度)		568	47.7%	23.9%	21.0%	25.0%	3.0%	8.8%	23.8%	6.7%	19.5%	3.3%	1.4%	7.9%
	現代英語学科	51	43.1%	13.7%	13.7%	37.3%	2.0%	37.3%	25.5%	0.0%	9.8%	3.9%	2.0%	7.8%
	児童教育学科	96	39.6%	38.5%	33.3%	25.0%	6.3%	7.3%	17.7%	13.5%	28.1%	5.2%	2.1%	7.3%
	文化交流学科	79	43.0%	20.3%	22.8%	32.9%	6.3%	17.7%	32.9%	2.5%	25.3%	3.8%	0.0%	6.3%
	心理福祉学科	76	53.9%	25.0%	15.8%	28.9%	1.3%	1.3%	28.9%	6.6%	27.6%	3.9%	5.3%	5.3%
	食物健康科学科	67	46.3%	22.4%	20.9%	23.9%	1.5%	3.0%	23.9%	3.0%	16.4%	1.5%	1.5%	13.4%
	看護学科	92	58.7%	19.6%	17.4%	9.8%	1.1%	3.3%	14.1%	7.6%	17.4%	2.2%	0.0%	7.6%
	経営学科	86	46.5%	25.6%	17.4%	20.9%	1.2%	3.5%	22.1%	8.1%	10.5%	2.3%	0.0%	8.1%
	未来教養学環	21	52.4%	9.5%	23.8%	38.1%	4.8%	4.8%	42.9%	9.5%	9.5%	4.8%	0.0%	9.5%

Q11. 卒業後はどのような進路を希望しますか。あてはまるもの1つをお選びください。

所属情報	学科	回答者数	1. 民間就職	2. 公務員	3. 教員	4. 大学院進学	5. 留学	6. 独立・起業	7. その他	8. 特に考えていない
共通アンケート新入生平均値		24414	39.6%	10.2%	8.5%	7.7%	0.9%	2.9%	6.8%	23.3%
1年生全体(26年度)		568	33.3%	23.9%	14.3%	2.3%	0.9%	1.8%	8.3%	15.3%
	現代英語学科	51	27.5%	21.6%	5.9%	0.0%	5.9%	2.0%	7.8%	29.4%
	児童教育学科	96	7.3%	18.8%	64.6%	0.0%	0.0%	1.0%	8.3%	0.0%
	文化交流学科	79	25.3%	34.2%	12.7%	0.0%	2.5%	1.3%	2.5%	21.5%
	心理福祉学科	76	32.9%	31.6%	0.0%	10.5%	0.0%	0.0%	6.6%	18.4%
	食物健康科学科	67	49.3%	19.4%	4.5%	0.0%	0.0%	1.5%	6.0%	19.4%
	看護学科	92	59.8%	5.4%	2.2%	3.3%	0.0%	0.0%	25.0%	4.3%
	経営学科	86	33.7%	33.7%	1.2%	1.2%	0.0%	5.8%	1.2%	23.3%
	未来教養学環	21	28.6%	42.9%	0.0%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%	19.0%

共通アンケート集計 ⑥

Q12. 自分の意思で自分の将来を決めることができる。

所属情報	学科	回答者数	1. とてもそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. まったくそう思わない
共通アンケート新入生平均値		24414	46.7%	38.3%	8.0%	6.2%	0.8%
1年生全体(26年度)		568	48.9%	39.8%	6.3%	4.4%	0.5%
	現代英語学科	51	47.1%	43.1%	7.8%	2.0%	0.0%
	児童教育学科	96	61.5%	29.2%	5.2%	4.2%	0.0%
	文化交流学科	79	39.2%	44.3%	5.1%	8.9%	2.5%
	心理福祉学科	76	34.2%	55.3%	5.3%	5.3%	0.0%
	食物健康科学科	67	43.3%	41.8%	10.4%	4.5%	0.0%
	看護学科	92	60.9%	33.7%	4.3%	0.0%	1.1%
	経営学科	86	52.3%	40.7%	4.7%	2.3%	0.0%
	未来教養学環	21	38.1%	23.8%	19.0%	19.0%	0.0%

Q13. 自分の未来がどんなものになるか想像することができる。

所属情報	学科	回答者数	1. とてもそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. まったくそう思わない
共通アンケート新入生平均値		24414	14.3%	33.6%	18.1%	25.4%	8.7%
1年生全体(26年度)		568	14.6%	39.4%	14.6%	23.9%	7.4%
	現代英語学科	51	11.8%	33.3%	7.8%	41.2%	5.9%
	児童教育学科	96	19.8%	51.0%	8.3%	16.7%	4.2%
	文化交流学科	79	11.4%	32.9%	21.5%	24.1%	10.1%
	心理福祉学科	76	5.3%	35.5%	14.5%	31.6%	13.2%
	食物健康科学科	67	9.0%	41.8%	19.4%	19.4%	10.4%
	看護学科	92	26.1%	51.1%	14.1%	8.7%	0.0%
	経営学科	86	15.1%	29.1%	16.3%	30.2%	9.3%
	未来教養学環	21	9.5%	23.8%	14.3%	42.9%	9.5%

Q14. 常に好奇心を持って新しい可能性を探すことができる。

所属情報	学科	回答者数	1. とてもそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. まったくそう思わない
共通アンケート新入生平均値		24414	31.0%	43.6%	14.0%	10.0%	1.3%
1年生全体(26年度)		568	28.7%	43.8%	13.7%	12.7%	1.1%
	現代英語学科	51	35.3%	41.2%	15.7%	7.8%	0.0%
	児童教育学科	96	32.3%	40.6%	15.6%	10.4%	1.0%
	文化交流学科	79	31.6%	45.6%	11.4%	8.9%	2.5%
	心理福祉学科	76	17.1%	43.4%	18.4%	19.7%	1.3%
	食物健康科学科	67	25.4%	41.8%	11.9%	20.9%	0.0%
	看護学科	92	26.1%	53.3%	13.0%	6.5%	1.1%
	経営学科	86	36.0%	39.5%	10.5%	12.8%	1.2%
	未来教養学環	21	19.0%	42.9%	14.3%	23.8%	0.0%

共通アンケート集計 ⑦

Q15. 自分が行ったことに常に自信を持つことができる。

所属情報	学科	回答者数	1. とてもそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. まったくそう思わない
共通アンケート新入生平均値		24414	15.8%	32.2%	18.4%	27.6%	6.0%
1年生全体(26年度)		568	15.0%	34.2%	17.4%	28.3%	5.1%
	現代英語学科	51	15.7%	33.3%	19.6%	29.4%	2.0%
	児童教育学科	96	19.8%	30.2%	16.7%	29.2%	4.2%
	文化交流学科	79	12.7%	36.7%	15.2%	30.4%	5.1%
	心理福祉学科	76	11.8%	25.0%	17.1%	36.8%	9.2%
	食物健康科学科	67	11.9%	28.4%	17.9%	32.8%	9.0%
	看護学科	92	12.0%	40.2%	26.1%	19.6%	2.2%
	経営学科	86	20.9%	40.7%	11.6%	25.6%	1.2%
	未来教養学環	21	9.5%	42.9%	9.5%	19.0%	19.0%

Q16. 在学時に力を入れたいことや目標は明確ですか。

所属情報	学科	回答者数	1. とても明確である	2. やや明確である	3. どちらでもない	4. あまり明確ではない	5. まったく明確ではない
共通アンケート新入生平均値		24414	23.8%	51.9%	10.0%	12.4%	1.9%
1年生全体(26年度)		568	25.4%	53.5%	9.3%	10.7%	1.1%
	現代英語学科	51	31.4%	58.8%	3.9%	5.9%	0.0%
	児童教育学科	96	27.1%	56.3%	12.5%	4.2%	0.0%
	文化交流学科	79	13.9%	55.7%	12.7%	16.5%	1.3%
	心理福祉学科	76	18.4%	51.3%	15.8%	11.8%	2.6%
	食物健康科学科	67	17.9%	62.7%	9.0%	9.0%	1.5%
	看護学科	92	44.6%	52.2%	1.1%	2.2%	0.0%
	経営学科	86	23.3%	44.2%	9.3%	22.1%	1.2%
	未来教養学環	21	19.0%	42.9%	9.5%	23.8%	4.8%

共通アンケート集計 ⑧

Q17. 学生生活で力を入れたい事を教えてください。

所属情報	学科	回答者数	1. 学業	2. 自己成長や学びに関する事	3. 友人との交流等	4. 部活/サークル	5. 学校以外の課外活動	6. 趣味	7. エンターテイメント（テレビ、ゲーム、SNS等）	8. アルバイト	9. その他	10. 特にない
共通アンケート新入生平均値		24414	77.8%	51.9%	50.1%	30.9%	14.7%	37.6%	12.0%	37.7%	2.2%	0.7%
1年生全体（26年度）		568	80.5%	52.1%	51.8%	22.9%	15.8%	37.3%	8.6%	36.4%	1.4%	0.4%
	現代英語学科	51	76.5%	64.7%	56.9%	25.5%	11.8%	45.1%	13.7%	37.3%	3.9%	0.0%
	児童教育学科	96	86.5%	56.3%	62.5%	25.0%	18.8%	33.3%	9.4%	29.2%	1.0%	0.0%
	文化交流学科	79	72.2%	49.4%	59.5%	27.8%	20.3%	43.0%	15.2%	40.5%	3.8%	1.3%
	心理福祉学科	76	76.3%	56.6%	38.2%	17.1%	22.4%	38.2%	7.9%	35.5%	1.3%	1.3%
	食物健康科学科	67	80.6%	37.3%	46.3%	20.9%	13.4%	43.3%	6.0%	41.8%	1.5%	0.0%
	看護学科	92	92.4%	58.7%	53.3%	20.7%	16.3%	21.7%	3.3%	35.9%	0.0%	0.0%
	経営学科	86	76.7%	40.7%	46.5%	23.3%	4.7%	41.9%	9.3%	38.4%	0.0%	0.0%
	未来教養学環	21	71.4%	61.9%	42.9%	23.8%	23.8%	42.9%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%

Q18. 現在の学部・学科で勉強を続けることに不安はありますか。

所属情報	学科	回答者数	1. まったく不安はない	2. あまり不安はない	3. どちらでもない	4. 少し不安がある	5. とても不安がある
共通アンケート新入生平均値		24414	13.4%	34.5%	11.8%	33.1%	7.2%
1年生全体（26年度）		568	12.5%	39.4%	10.4%	30.6%	7.0%
	現代英語学科	51	13.7%	43.1%	13.7%	29.4%	0.0%
	児童教育学科	96	20.8%	35.4%	7.3%	31.3%	5.2%
	文化交流学科	79	13.9%	44.3%	15.2%	17.7%	8.9%
	心理福祉学科	76	7.9%	26.3%	10.5%	43.4%	11.8%
	食物健康科学科	67	7.5%	26.9%	9.0%	41.8%	14.9%
	看護学科	92	5.4%	35.9%	15.2%	35.9%	7.6%
	経営学科	86	16.3%	61.6%	4.7%	16.3%	1.2%
	未来教養学環	21	14.3%	42.9%	4.8%	33.3%	4.8%

共通アンケート集計 ⑨

Q19. 学生生活で不安な事を教えてください。

所属情報	学科	回答者数	1. 学業に関する不安	2. 経済的な不安	3. 将来に対する不安	4. 人間関係等の不安	5. 健康への不安	6. その他	7. 特に不安はない
共通アンケート新入生平均値		24414	62.0%	19.4%	48.4%	30.1%	9.9%	1.5%	8.7%
1年生全体(26年度)		568	63.0%	16.4%	49.3%	23.6%	5.5%	1.2%	12.3%
	現代英語学科	51	52.9%	21.6%	56.9%	21.6%	5.9%	2.0%	17.6%
	児童教育学科	96	64.6%	19.8%	47.9%	21.9%	4.2%	2.1%	13.5%
	文化交流学科	79	49.4%	13.9%	57.0%	31.6%	3.8%	2.5%	15.2%
	心理福祉学科	76	80.3%	19.7%	59.2%	25.0%	7.9%	0.0%	2.6%
	食物健康科学科	67	76.1%	16.4%	43.3%	32.8%	10.4%	1.5%	7.5%
	看護学科	92	79.3%	14.1%	33.7%	16.3%	4.3%	1.1%	7.6%
	経営学科	86	43.0%	14.0%	51.2%	18.6%	4.7%	0.0%	19.8%
	未来教養学環	21	38.1%	4.8%	52.4%	23.8%	0.0%	0.0%	23.8%

Q20. 高校時代、予習・復習にどの程度取り組みましたか。

所属情報	学科	回答者数	1. ひんぱんにあった	2. ときどきあった	3. あまりなかった	4. まったくなかった
共通アンケート新入生平均値		24414	10.8%	41.6%	33.4%	14.2%
1年生全体(26年度)		568	12.7%	47.9%	31.9%	7.6%
	現代英語学科	51	19.6%	45.1%	31.4%	3.9%
	児童教育学科	96	12.5%	44.8%	32.3%	10.4%
	文化交流学科	79	10.1%	48.1%	32.9%	8.9%
	心理福祉学科	76	13.2%	50.0%	28.9%	7.9%
	食物健康科学科	67	10.4%	50.7%	31.3%	7.5%
	看護学科	92	12.0%	47.8%	34.8%	5.4%
	経営学科	86	9.3%	51.2%	30.2%	9.3%
	未来教養学環	21	28.6%	38.1%	33.3%	0.0%

共通アンケート集計 ⑩

Q21. 高校時代、グループで話し合いながら進める授業はどの程度ありましたか。

所属情報	学科	回答者数	1. ひんぱんにあった	2. ときどきあった	3. あまりなかった	4. まったくなかった
共通アンケート新入生平均値		24414	34.1%	51.1%	12.3%	2.5%
1年生全体(26年度)		568	38.2%	53.0%	8.3%	0.5%
	現代英語学科	51	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%
	児童教育学科	96	44.8%	50.0%	5.2%	0.0%
	文化交流学科	79	35.4%	53.2%	10.1%	1.3%
	心理福祉学科	76	44.7%	48.7%	5.3%	1.3%
	食物健康科学科	67	28.4%	61.2%	10.4%	0.0%
	看護学科	92	38.0%	51.1%	10.9%	0.0%
	経営学科	86	34.9%	59.3%	5.8%	0.0%
	未来教養学環	21	33.3%	38.1%	23.8%	4.8%

Q22. 高校時代、部活やボランティア等の課外経験活動はどの程度参加しましたか。

所属情報	学科	回答者数	1. ひんぱんにあった	2. ときどきあった	3. あまりなかった	4. まったくなかった
共通アンケート新入生平均値		24414	43.0%	26.9%	17.9%	12.1%
1年生全体(26年度)		568	44.4%	37.0%	13.0%	5.6%
	現代英語学科	51	43.1%	31.4%	21.6%	3.9%
	児童教育学科	96	50.0%	36.5%	11.5%	2.1%
	文化交流学科	79	34.2%	41.8%	19.0%	5.1%
	心理福祉学科	76	44.7%	39.5%	11.8%	3.9%
	食物健康科学科	67	44.8%	40.3%	10.4%	4.5%
	看護学科	92	55.4%	34.8%	6.5%	3.3%
	経営学科	86	34.9%	32.6%	15.1%	17.4%
	未来教養学環	21	47.6%	42.9%	9.5%	0.0%

Q23. 高校時代に力を入れたことを教えてください。

所属情報	学科	回答者数	1. 学業	2. 自己成長や学びに関する事	3. 友人との交流等	4. 部活/サークル	5. 学校以外の課外活動	6. 趣味	7. エンターテイメント(テレビ、ゲーム、SNS等)	8. アルバイト	9. その他	10. 特にない
共通アンケート新入生平均値		24414	45.7%	24.1%	51.3%	52.1%	9.5%	35.6%	15.1%	12.6%	2.0%	2.2%
1年生全体(26年度)		568	51.8%	25.0%	52.3%	54.8%	12.9%	34.7%	13.6%	14.4%	1.8%	0.9%
	現代英語学科	51	47.1%	37.3%	49.0%	45.1%	11.8%	31.4%	19.6%	19.6%	2.0%	0.0%
	児童教育学科	96	49.0%	26.0%	57.3%	53.1%	22.9%	36.5%	9.4%	14.6%	3.1%	2.1%
	文化交流学科	79	43.0%	31.6%	53.2%	58.2%	13.9%	32.9%	21.5%	15.2%	6.3%	0.0%
	心理福祉学科	76	50.0%	30.3%	51.3%	57.9%	14.5%	31.6%	17.1%	13.2%	0.0%	1.3%
	食物健康科学科	67	55.2%	19.4%	58.2%	47.8%	9.0%	43.3%	9.0%	10.4%	0.0%	0.0%
	看護学科	92	60.9%	20.7%	57.6%	64.1%	9.8%	30.4%	6.5%	17.4%	1.1%	0.0%
	経営学科	86	55.8%	16.3%	41.9%	50.0%	3.5%	34.9%	17.4%	12.8%	0.0%	2.3%
	未来教養学環	21	47.6%	19.0%	38.1%	61.9%	23.8%	42.9%	4.8%	9.5%	0.0%	0.0%

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1-1
3年生　全体集計
（大学全体）

受験者プロフィール

受験日 ： 2026年 2月～3月

学部	学科 専攻	1年	2年	3年	4年	合計
文学部	現代英語学科	0	0	57	0	57
	児童教育学科 児童教育専攻	0	0	45	0	45
	児童教育学科 幼児保育専攻	0	0	56	0	56
	文化交流学科	0	0	53	0	53
		0	0	211	0	211
生活科学部	心理福祉学科	0	0	60	0	60
	食物健康科学科	0	0	63	0	63
		0	0	123	0	123
看護学部	看護学科 ※N版受験	0	0	87	0	87
		0	0	87	0	87
経営学部	経営学科	0	0	41	0	41
		0	0	41	0	41
合計		0	0	462	0	462

※看護学科はN版受験のため、学年全体には含めず集計いたします。（N版と大学版はコンピテンシー領域が異なるため）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（リテラシー総合）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

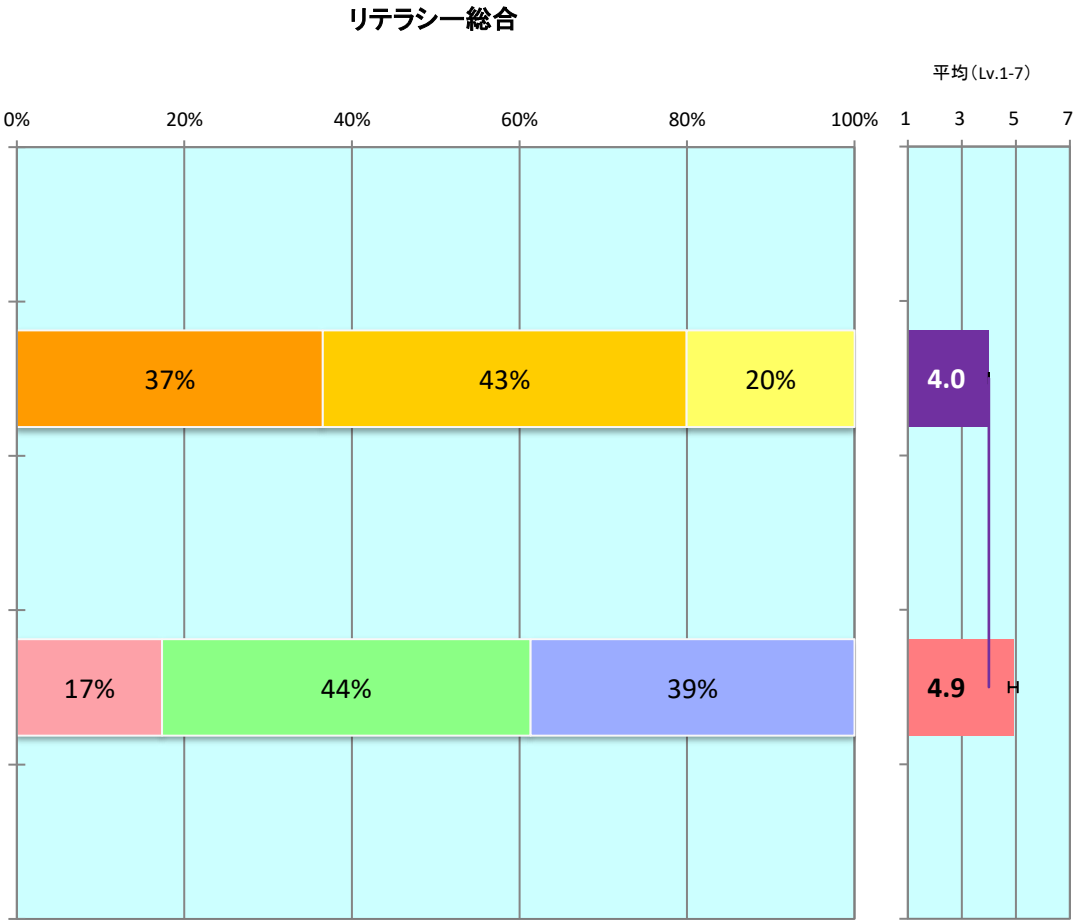
●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学3年	151校　N=109,325

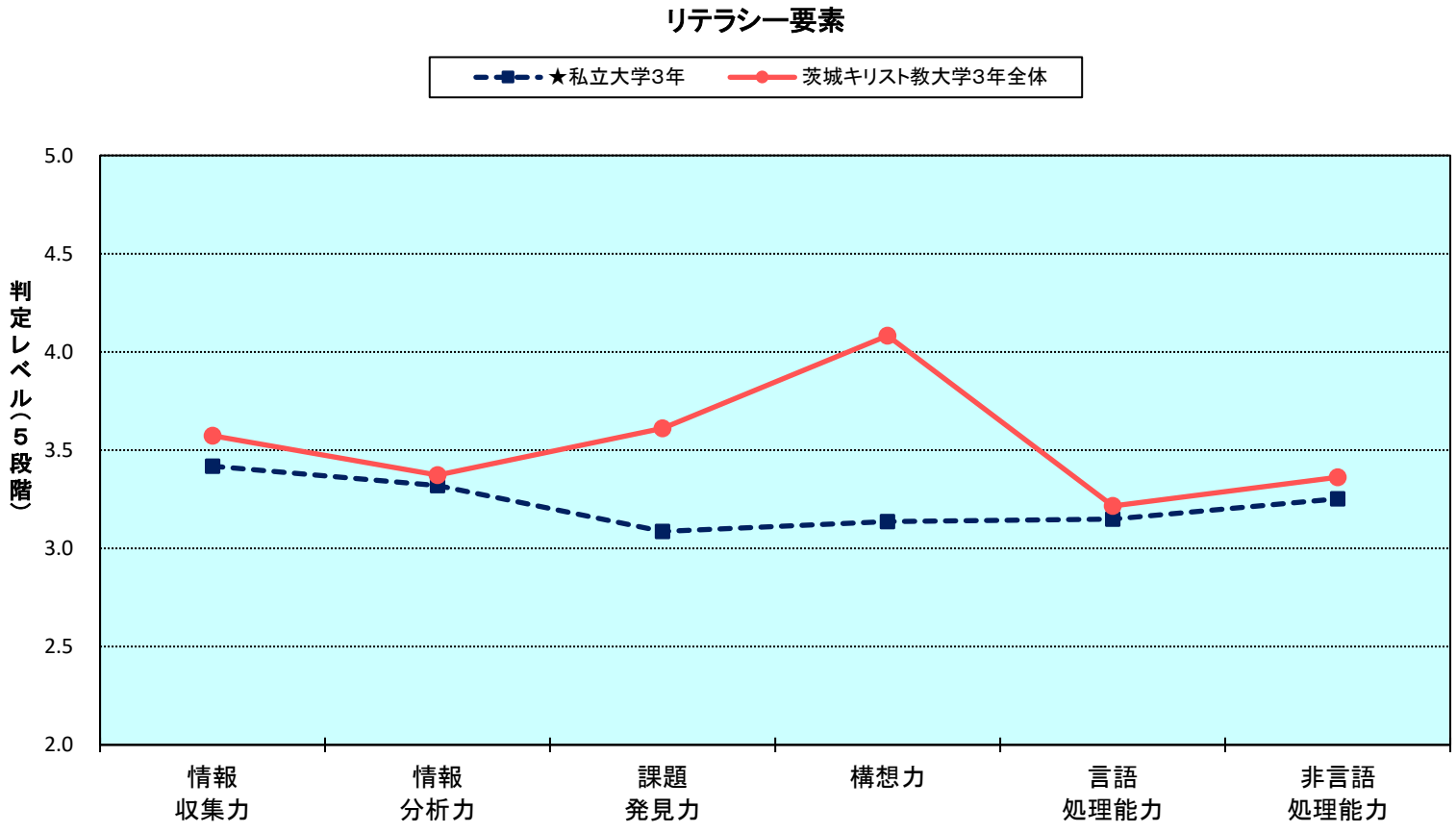
	χ2乗値	有意確率
茨城キリスト教大学3年全体	102.75	0.00



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

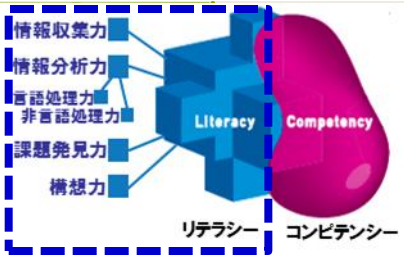
【茨城キリスト教大学3年全体】
基準集団（★印）と比較して、
情報収集力、課題発見力、構想力、非言語処理能力の平均値は高く、情報分析力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

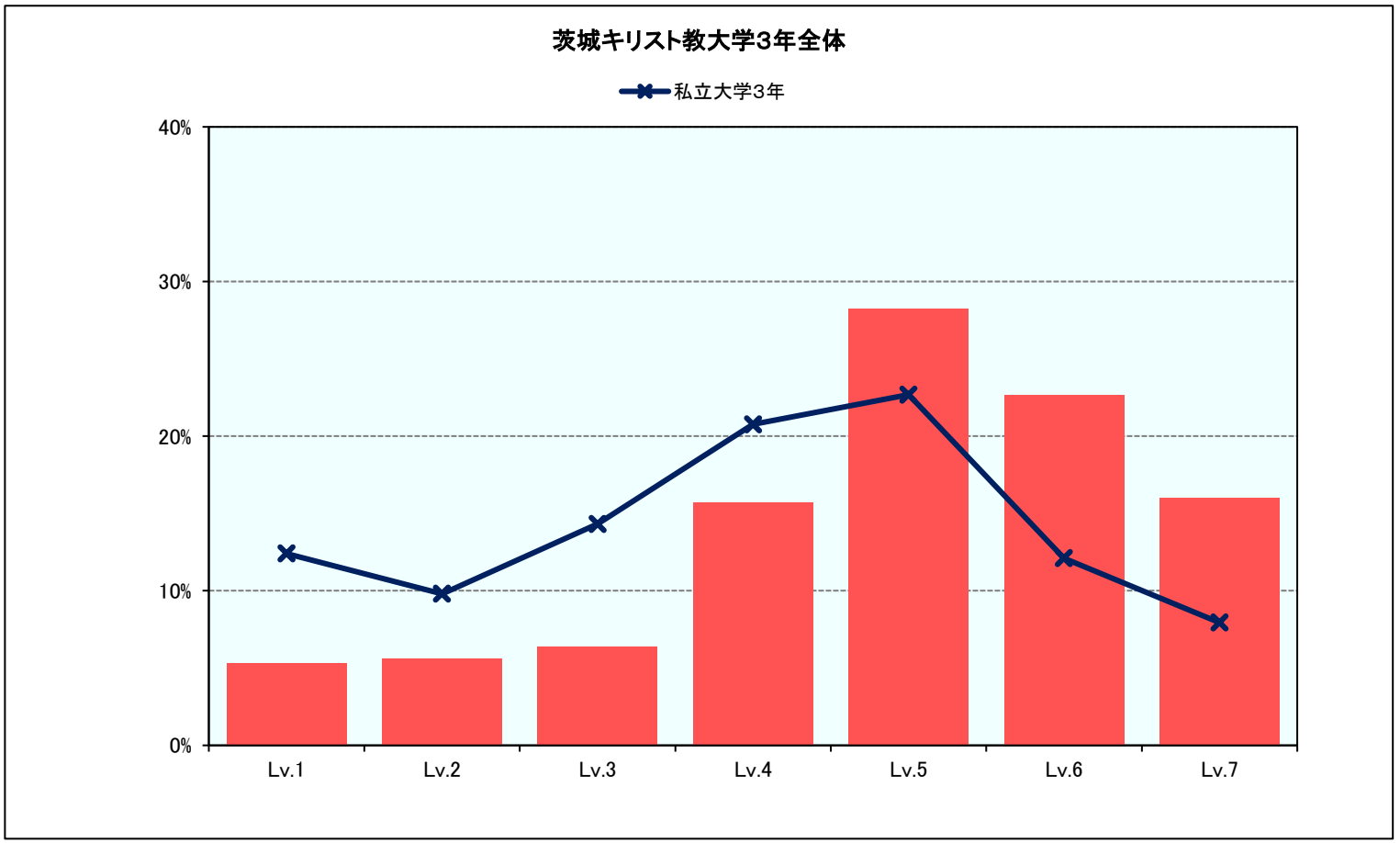


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、茨城キリスト教大学3年全体は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

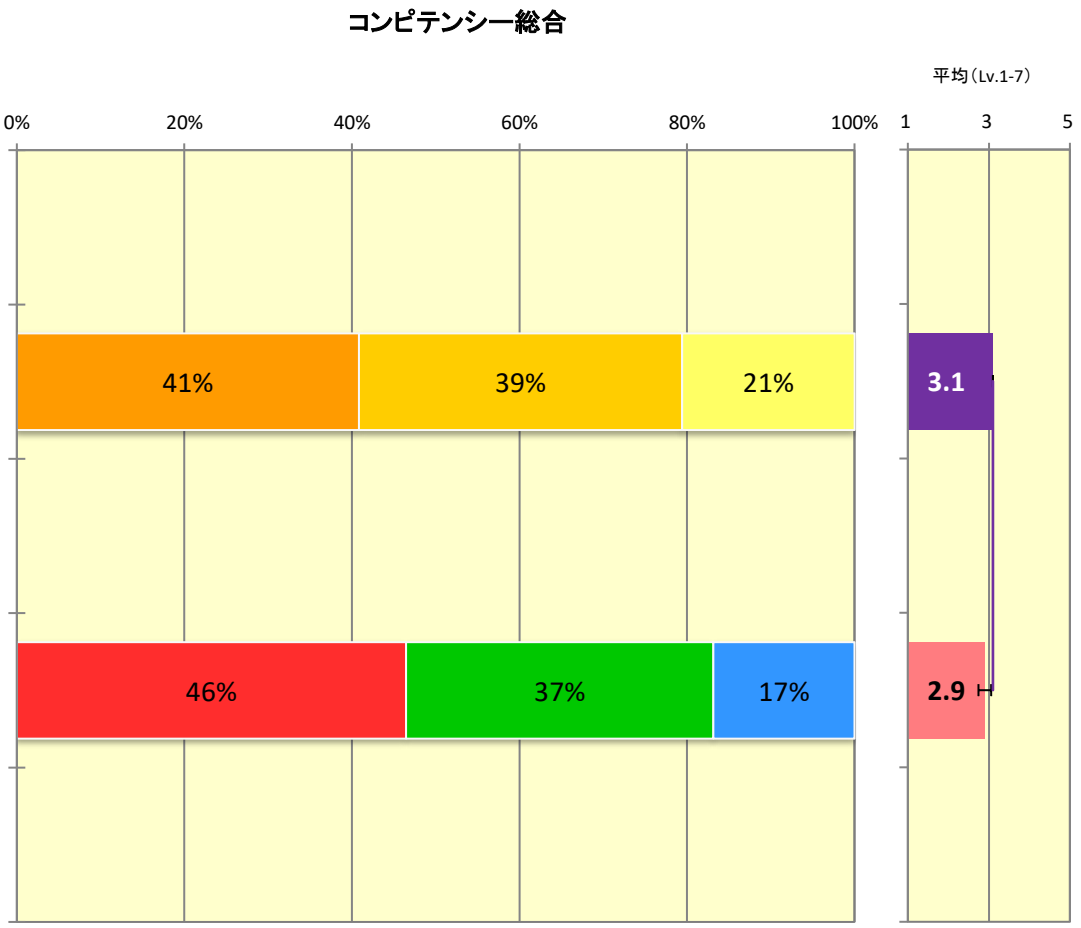
●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学3年	227校　N=279,182

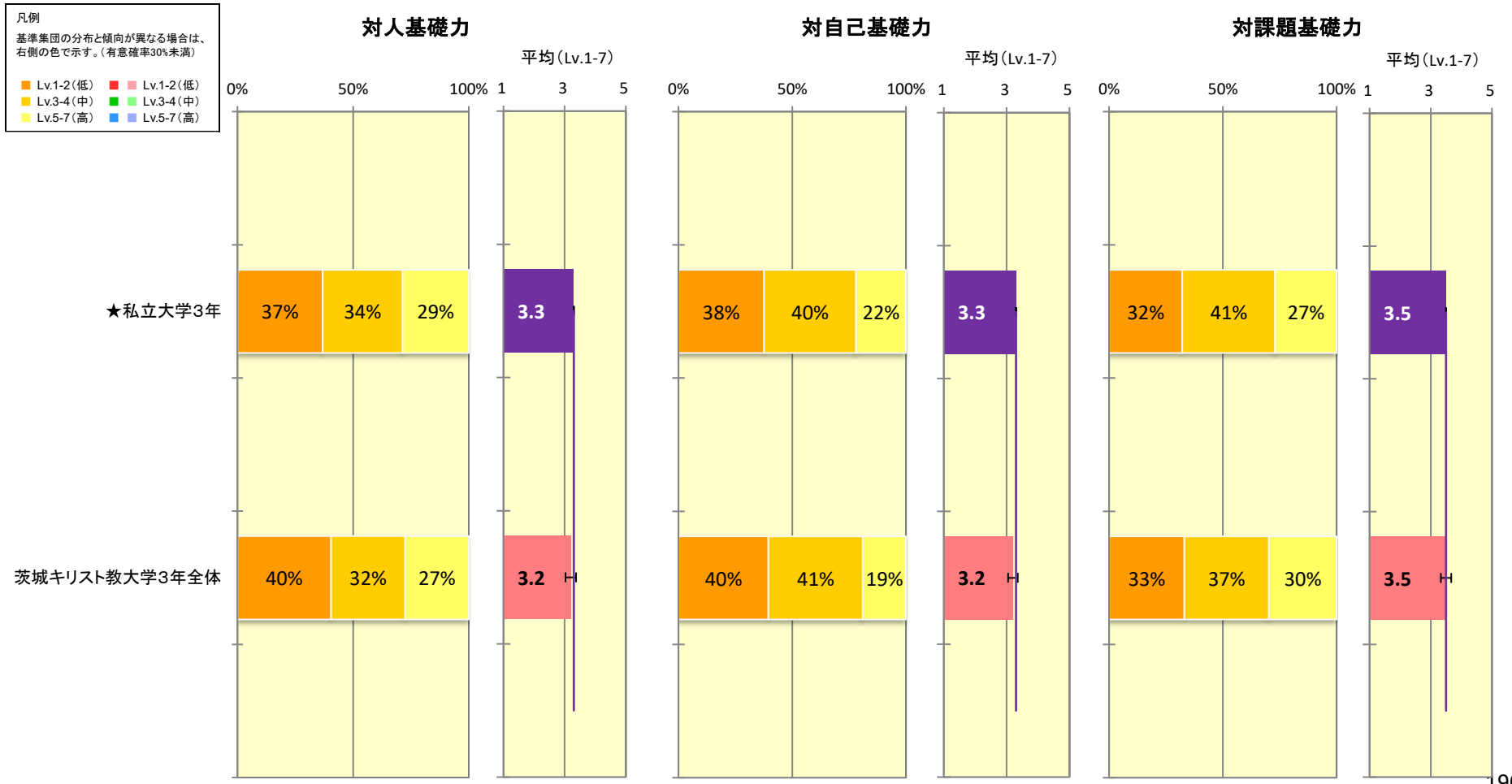
	χ2乗値	有意確率
茨城キリスト教大学3年全体	5.67	0.06



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
【対自己基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
【対課題基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。



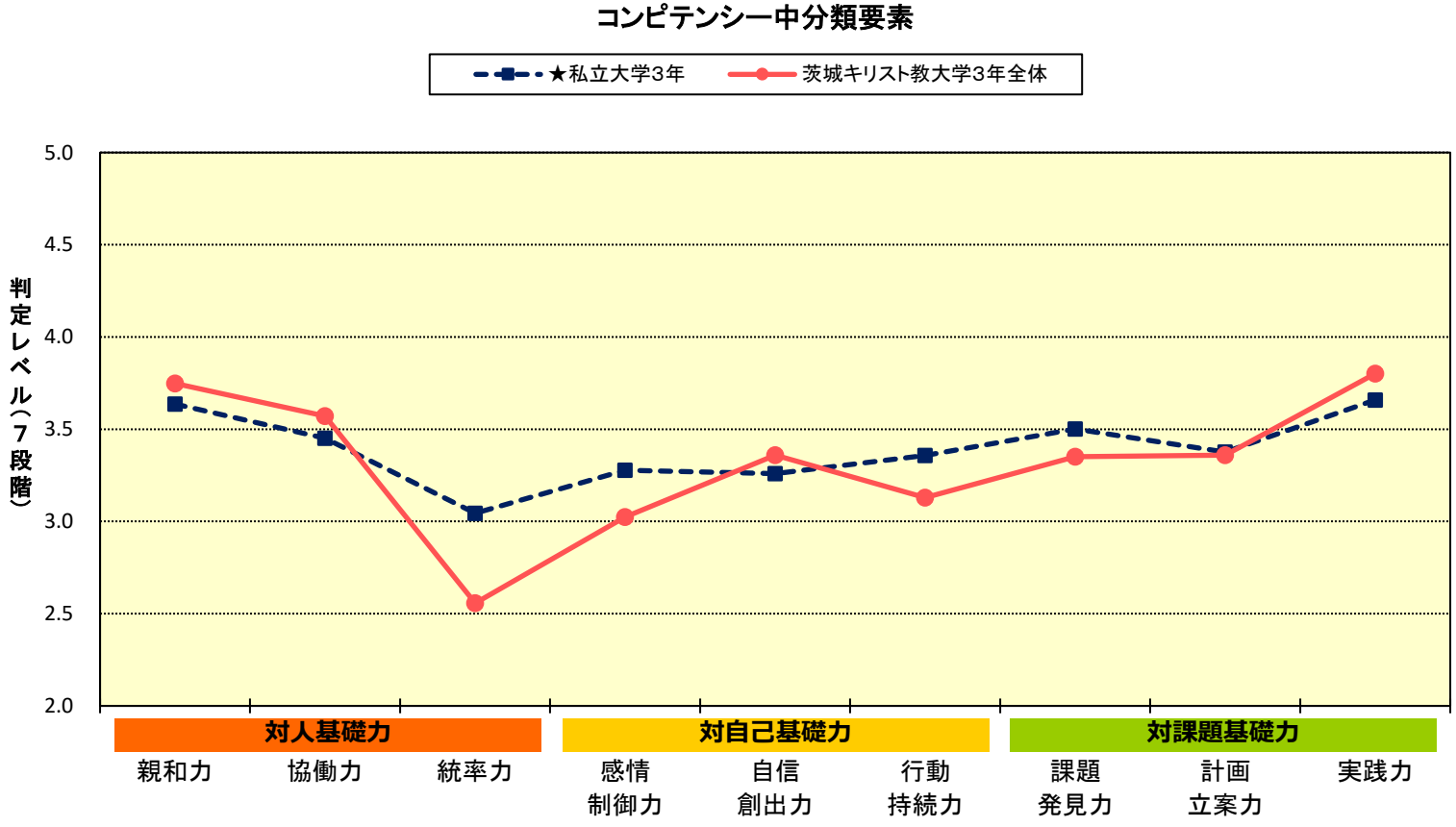
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【茨城キリスト教大学3年全体】

基準集団（★印）と比較して、親和力、協働力、自信創出力、実践力の平均値は高い。

一方、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

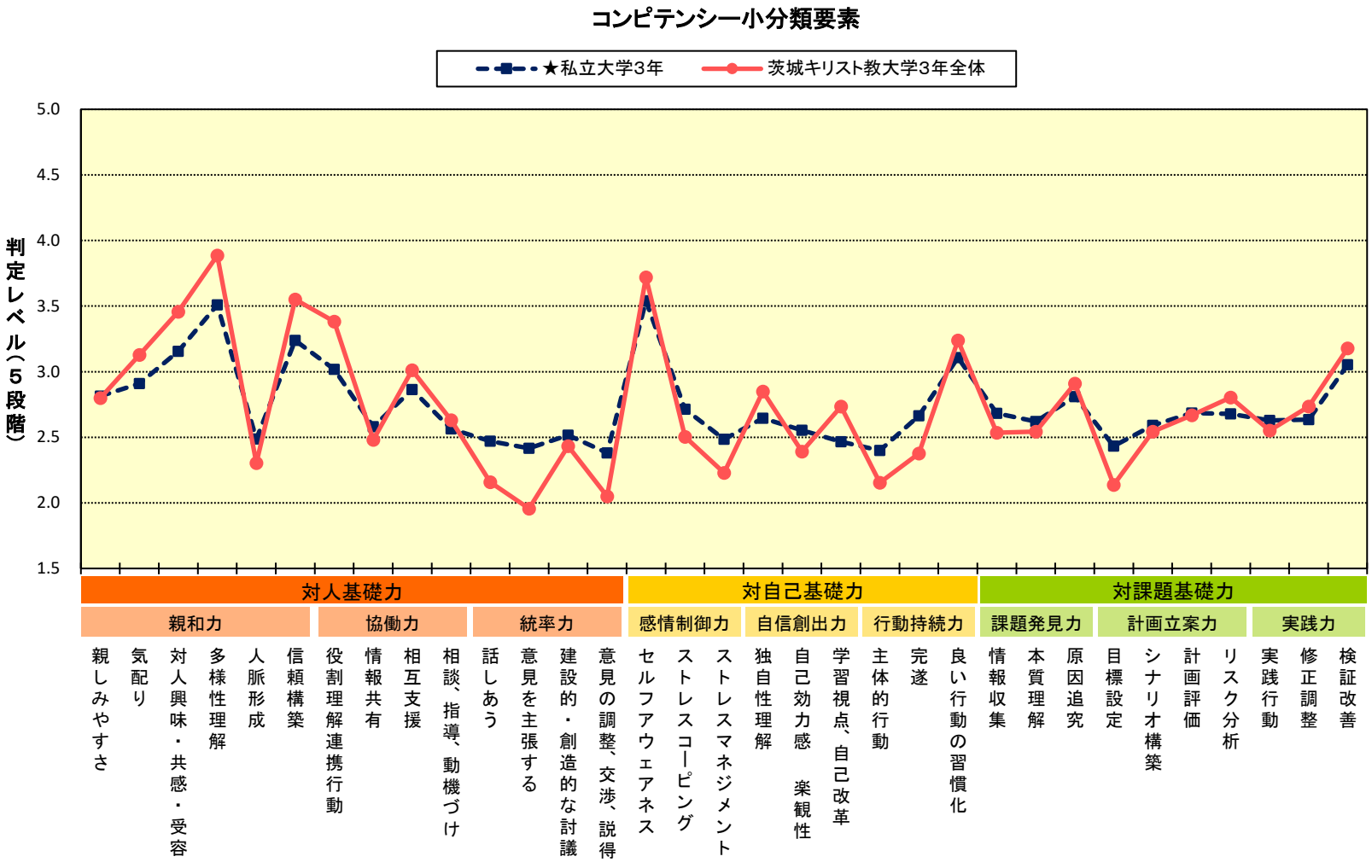
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

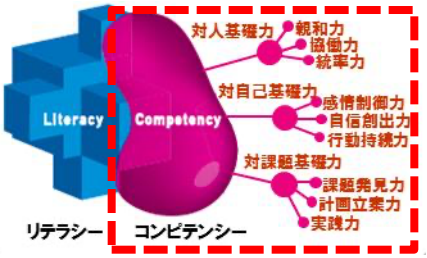
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

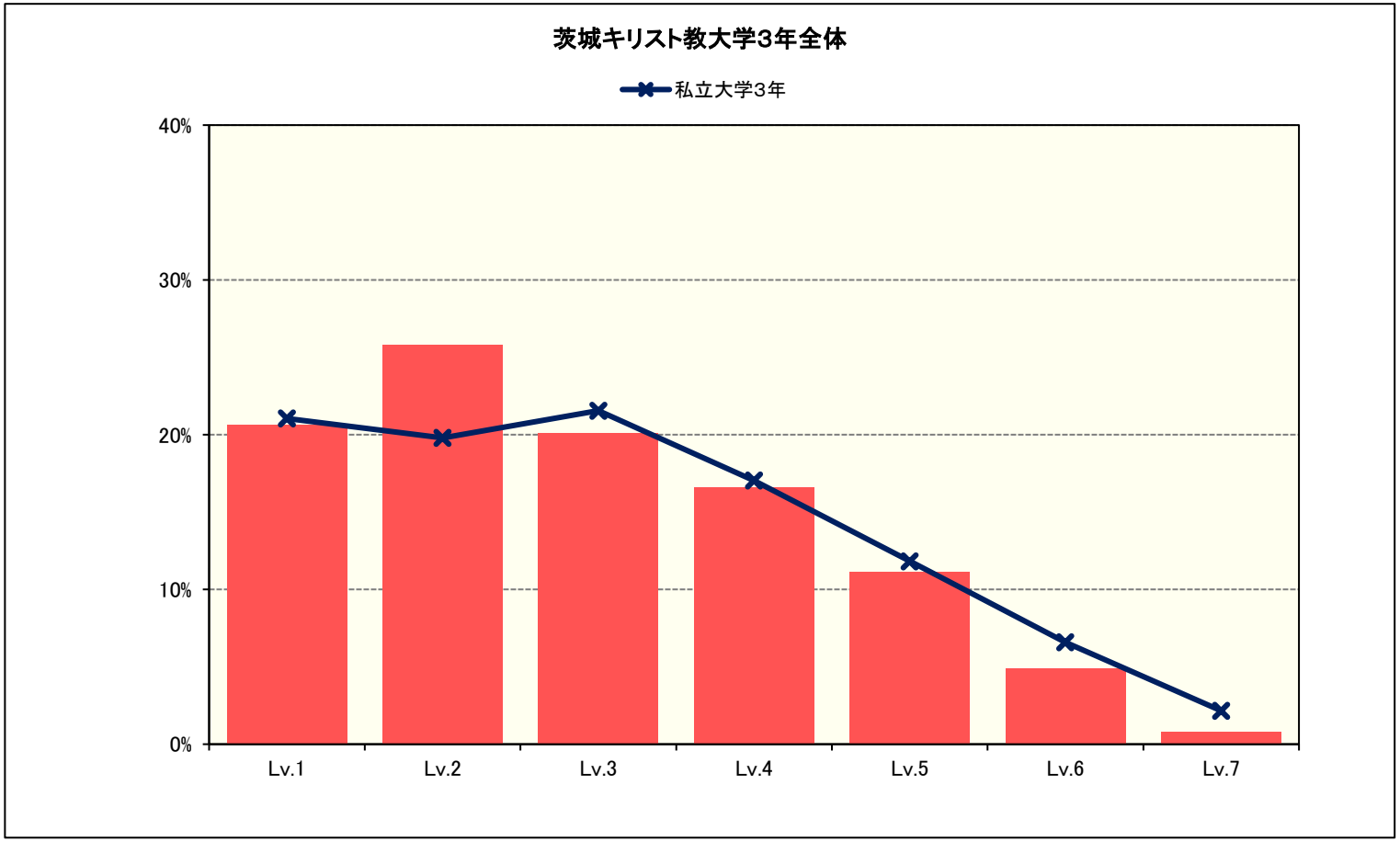
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向



コンピテンシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
茨城キリスト教大学３年全体	-	◎	-	◎	◎	■	◎	◎	▲	▲	◎	▲	▲	-	◎

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【茨城キリスト教大学3年全体】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる 難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる 自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を知っている 失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	ストレスやプレッシャーを与えて、その中で結果を出すことを求める 限られた時間の中でも、物事に優先順位を付けて、ベストを尽くすよう指導する 難しい課題に対しても前向きに取り組み、結果を振り返るよう指導する 自分がストレスを感じやすい状況について自覚を促す
	●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにいている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1-2
3年生　全体集計
（文学部）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（リテラシー総合）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

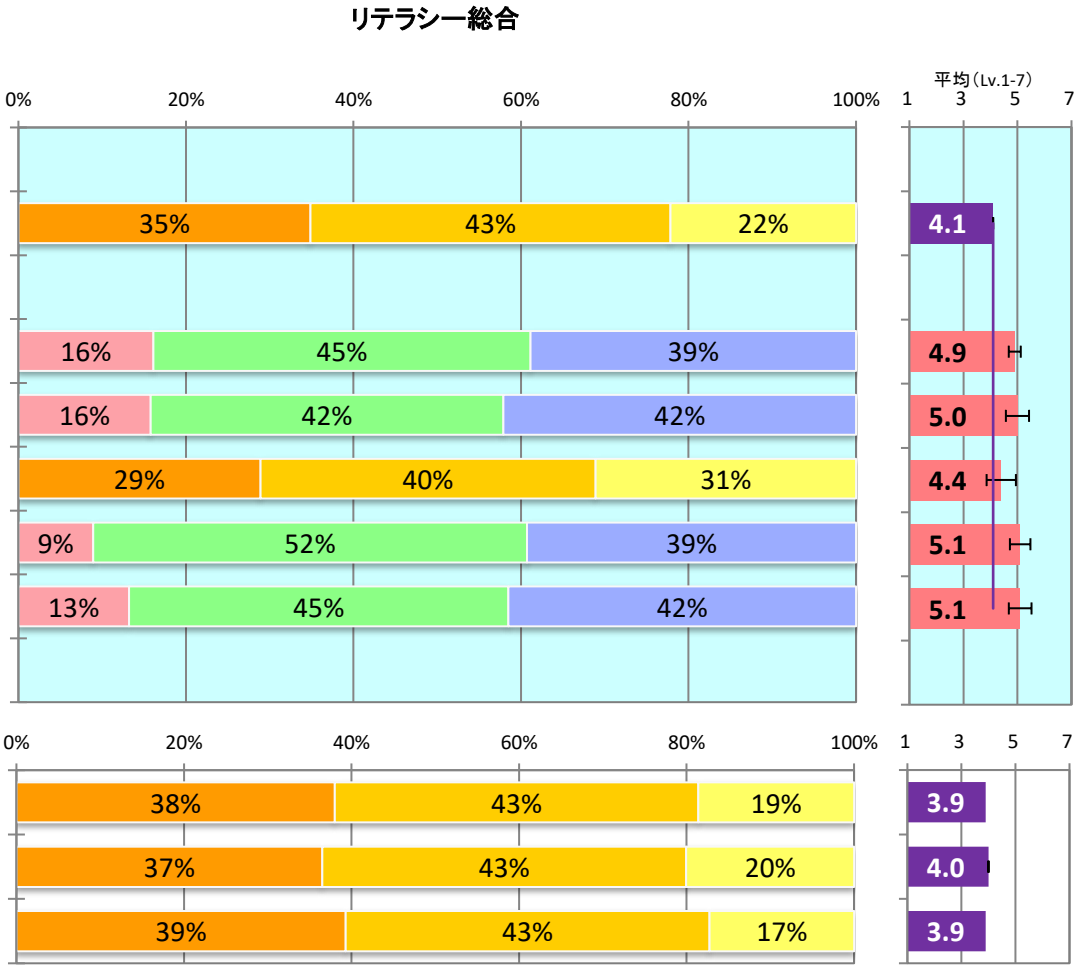
【基準集団】

★大学3年	186校　N=118,253

	χ2乗値	有意確率
文学部3年	48.09	0.00
現代英語学科3年	16.20	0.00
児童教育専攻3年	2.18	0.34
幼児保育専攻3年	19.24	0.00
文化交流学科3年	16.16	0.00

【ご参考基準集団】

大学文系3年	132校　N=68,352
私立大学3年	151校　N=109,325
私立大学文系3年	118校　N=64,780

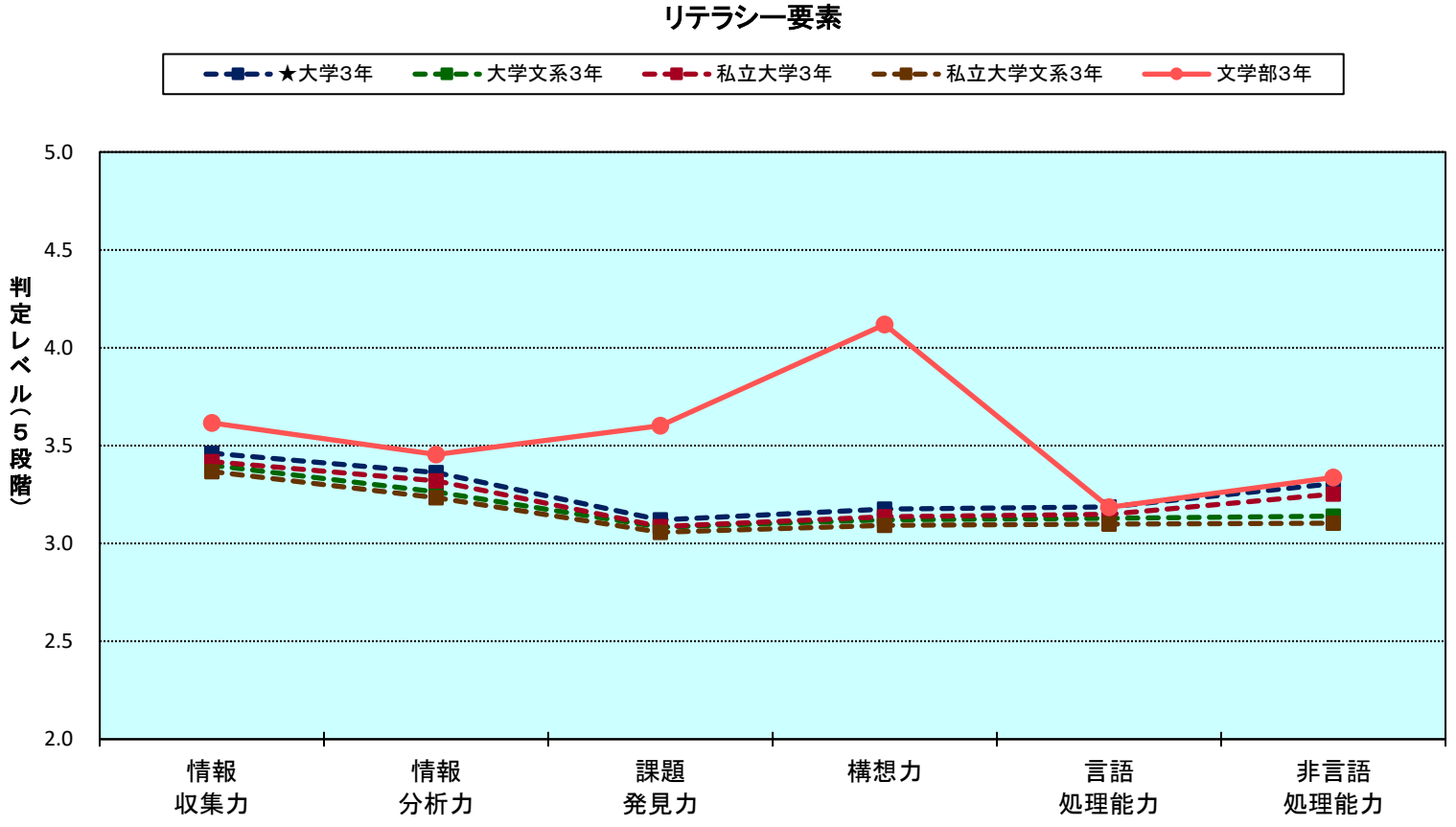


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【文学部3年】

基準集団（★印）と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力の平均値は高く、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

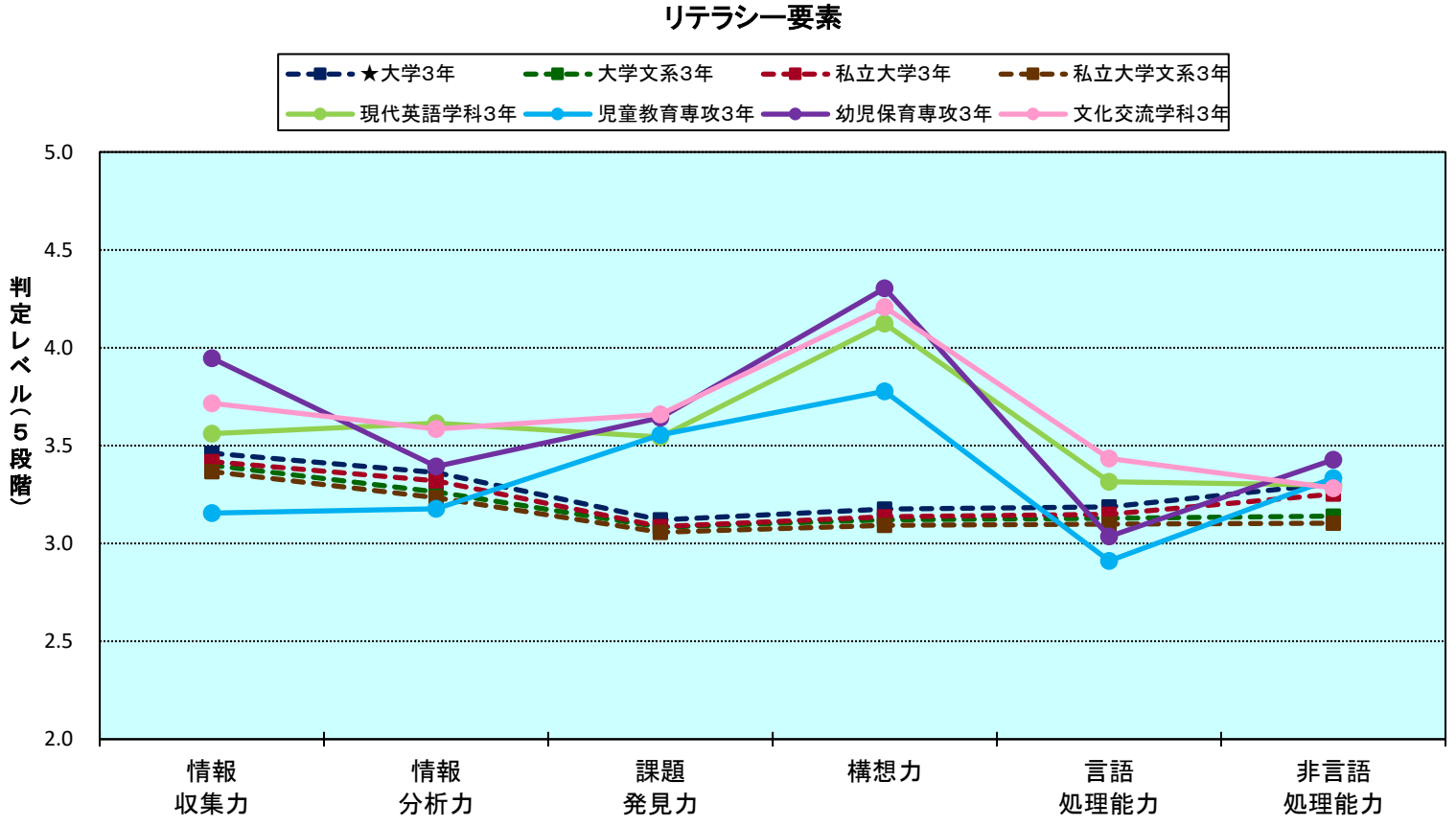
リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【現代英語学科3年】
基準集団(★印)と比較して、情報分析力、課題発見力、構想力の平均値は高く、情報収集力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。

【児童教育専攻3年】
基準集団(★印)と比較して、課題発見力、構想力の平均値は高く、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報分析力の平均値は下回る傾向にあり、情報収集力、言語処理能力の平均値は低い。

【幼児保育専攻3年】
基準集団(★印)と比較して、情報収集力、課題発見力、構想力の平均値は高く、情報分析力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。

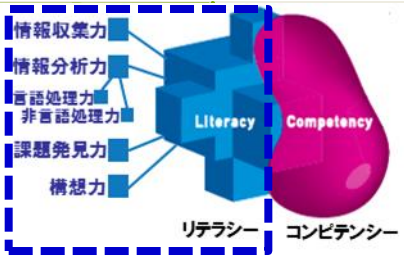
【文化交流学科3年】
基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力の平均値は高い。
一方、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。



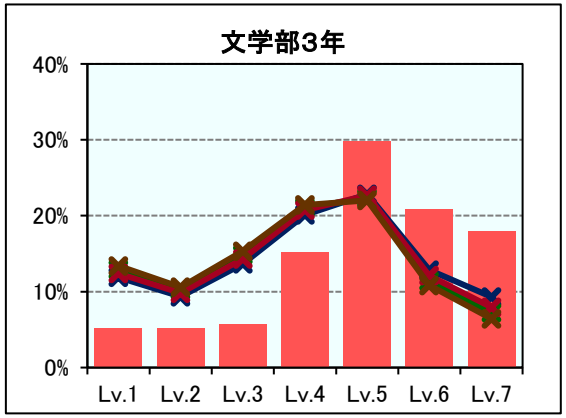
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1)標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2)標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3)基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4)基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

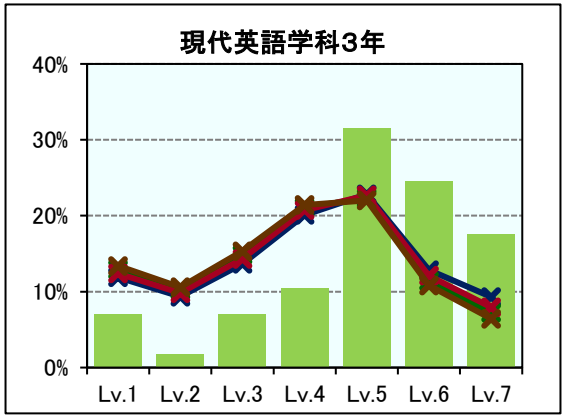
リテラシー総合　判定レベルの分布

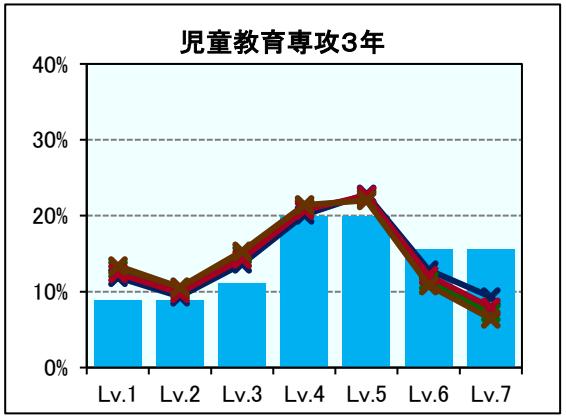
オプション分析

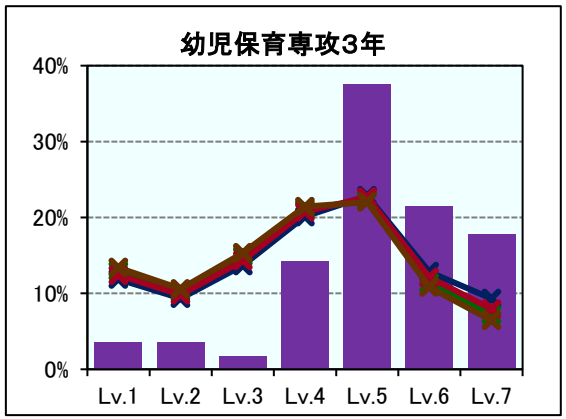


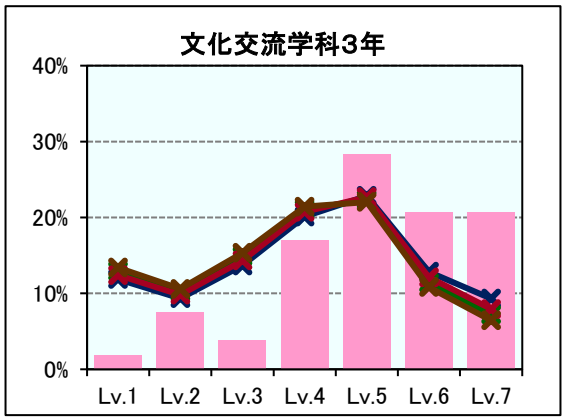












コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、文学部3年、文化交流学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

※文化交流学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

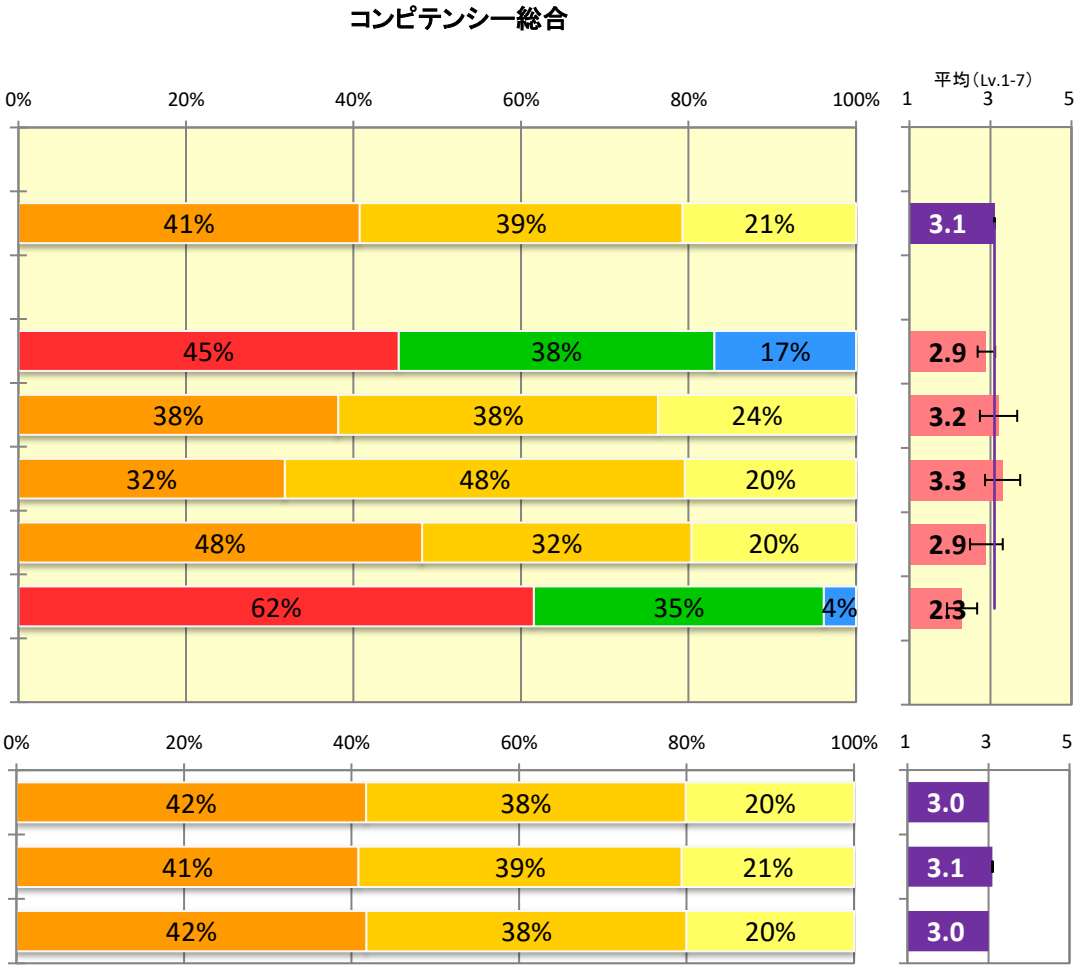
【基準集団】

★大学3年	286校　N=308,994

	χ2乗値	有意確率
文学部3年	2.57	0.28
現代英語学科3年	0.32	0.85
児童教育専攻3年	1.83	0.40
幼児保育専攻3年	1.39	0.50
文化交流学科3年	12.85	0.00

【ご参考基準集団】

大学文系3年	186校　N=175,279
私立大学3年	227校　N=279,182
私立大学文系3年	160校　N=165,671



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】

●基準集団（★印）と比較して、文化交流学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

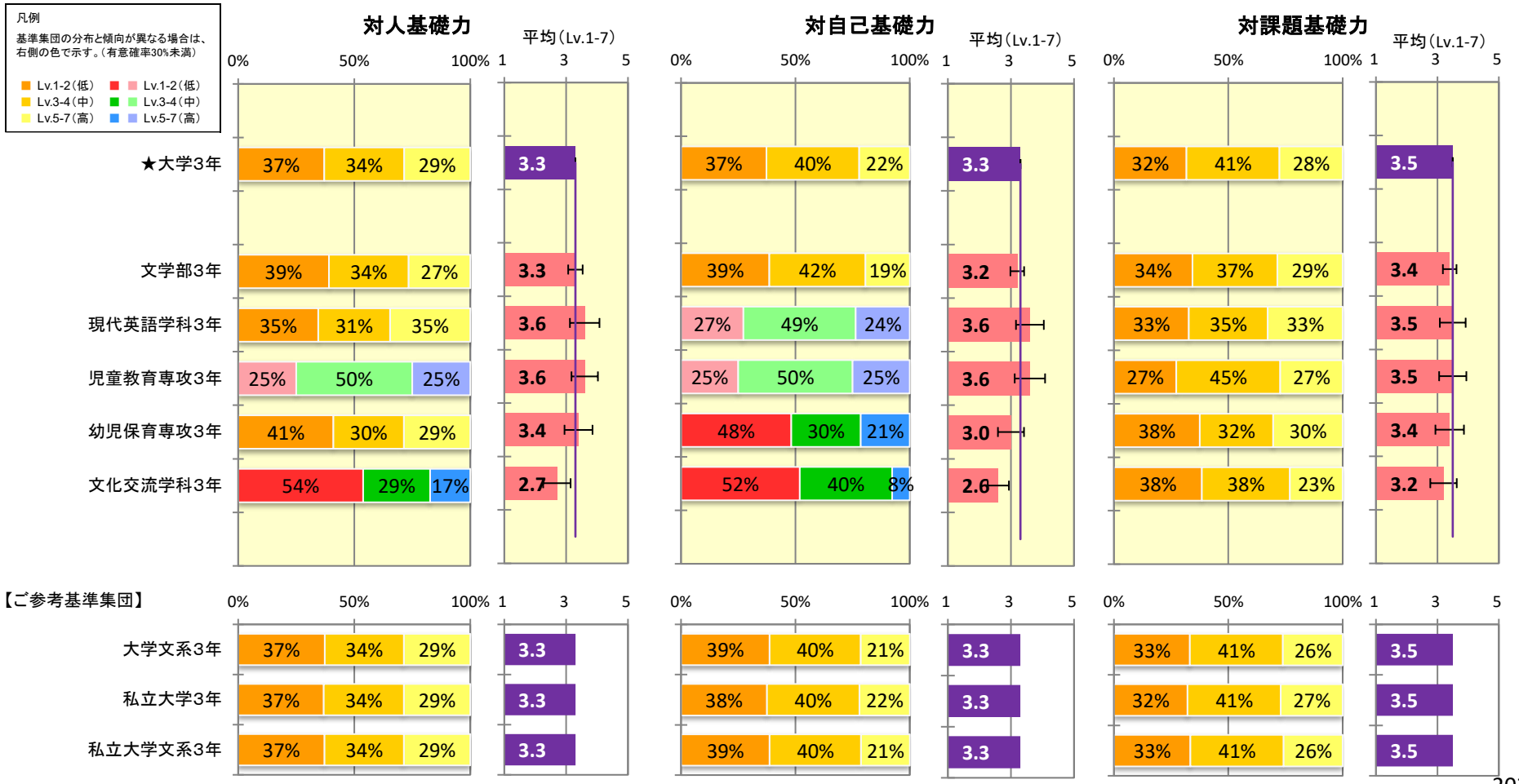
【対自己基礎力】

●基準集団（★印）と比較して、幼児保育専攻3年、文化交流学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

※文化交流学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対課題基礎力】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

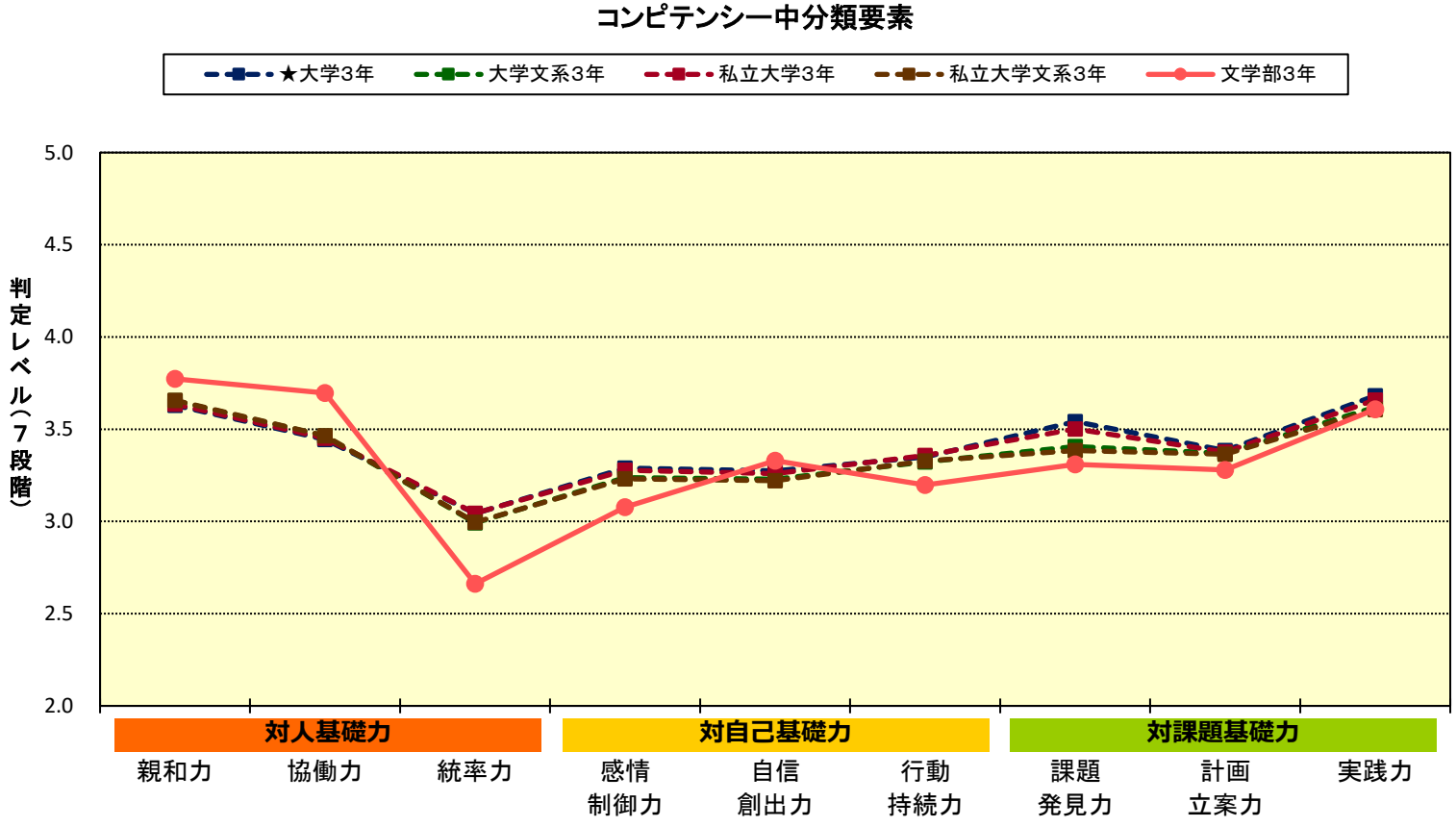


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　①

【文学部3年】

基準集団（★印）と比較して、親和力、協働力の平均値は高く、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。
一方、計画立案力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

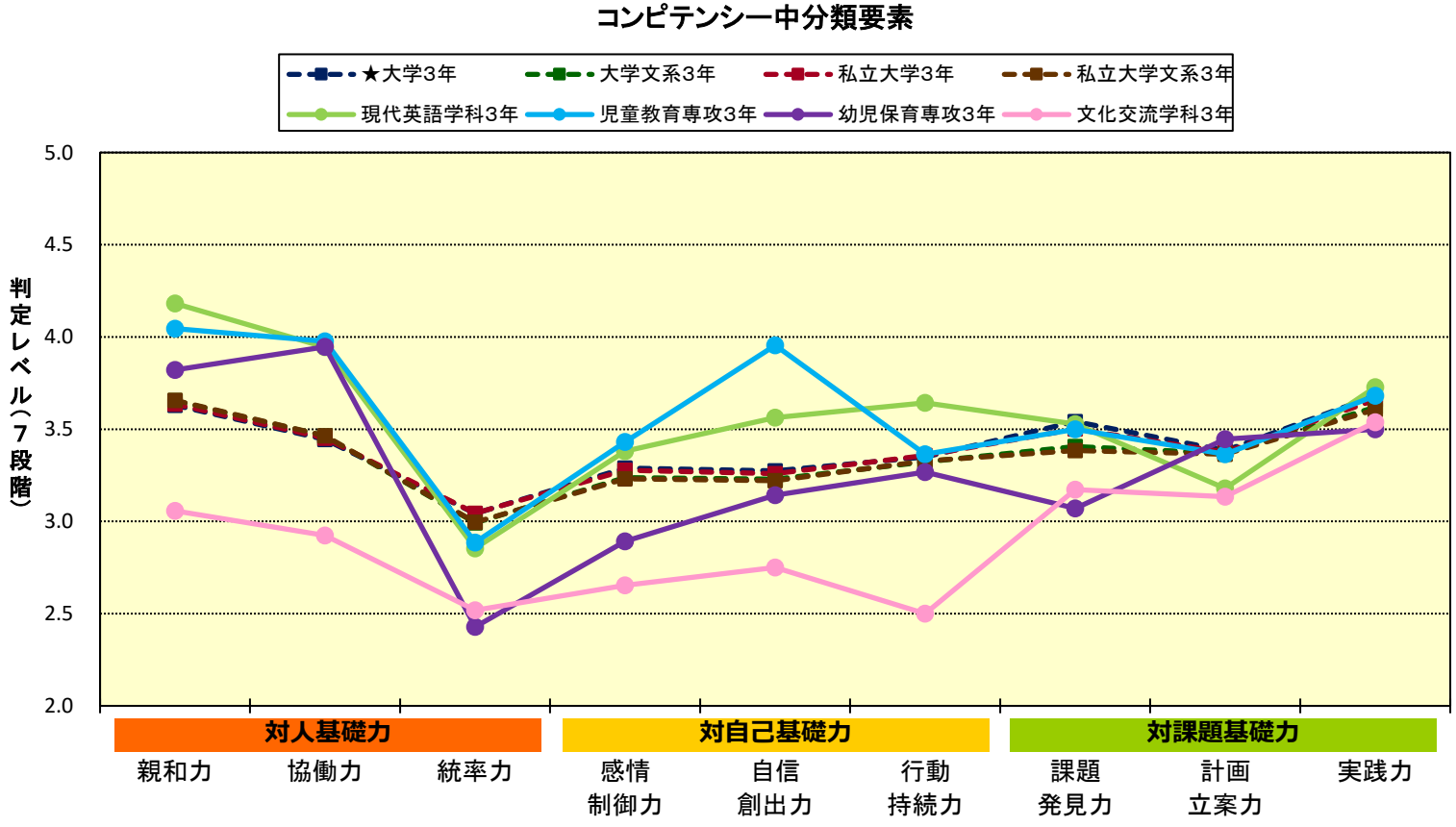
コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　②

【現代英語学科3年】
基準集団（★印）と比較して、親和力、協働力、自信創出力、行動持続力の平均値は高く、感情制御力、実践力の平均値は上回る傾向にある。
一方、統率力、課題発見力、計画立案力の平均値は下回る傾向にある。

【児童教育専攻3年】
基準集団（★印）と比較して、親和力、協働力、自信創出力の平均値は高く、感情制御力、行動持続力、実践力の平均値は上回る傾向にある。
一方、統率力、課題発見力、計画立案力の平均値は下回る傾向にある。

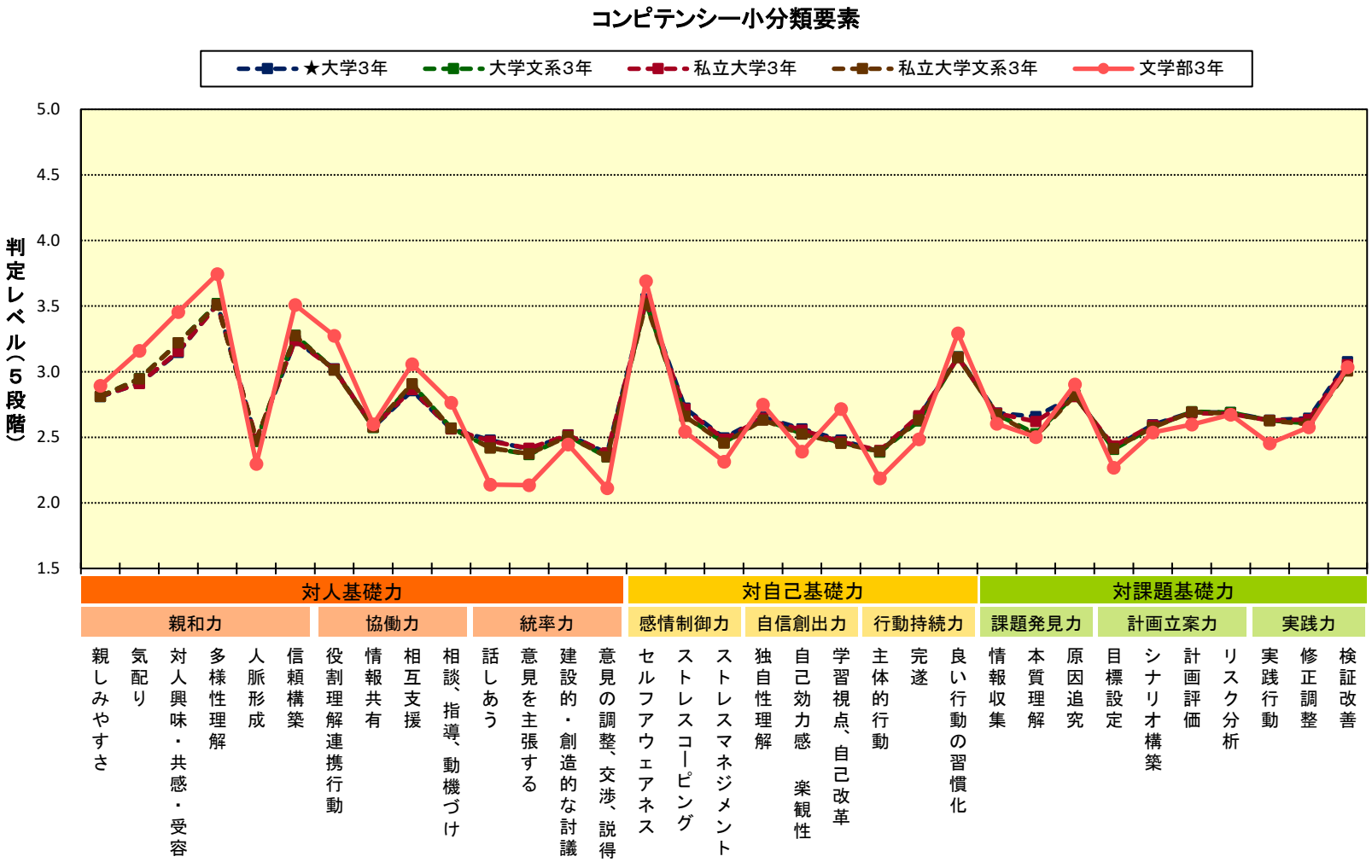
【幼児保育専攻3年】
基準集団（★印）と比較して、協働力の平均値は高く、親和力、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。
一方、自信創出力、行動持続力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、課題発見力の平均値は低い。

【文化交流学科3年】
基準集団（★印）と比較して、実践力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力の平均値は低い。

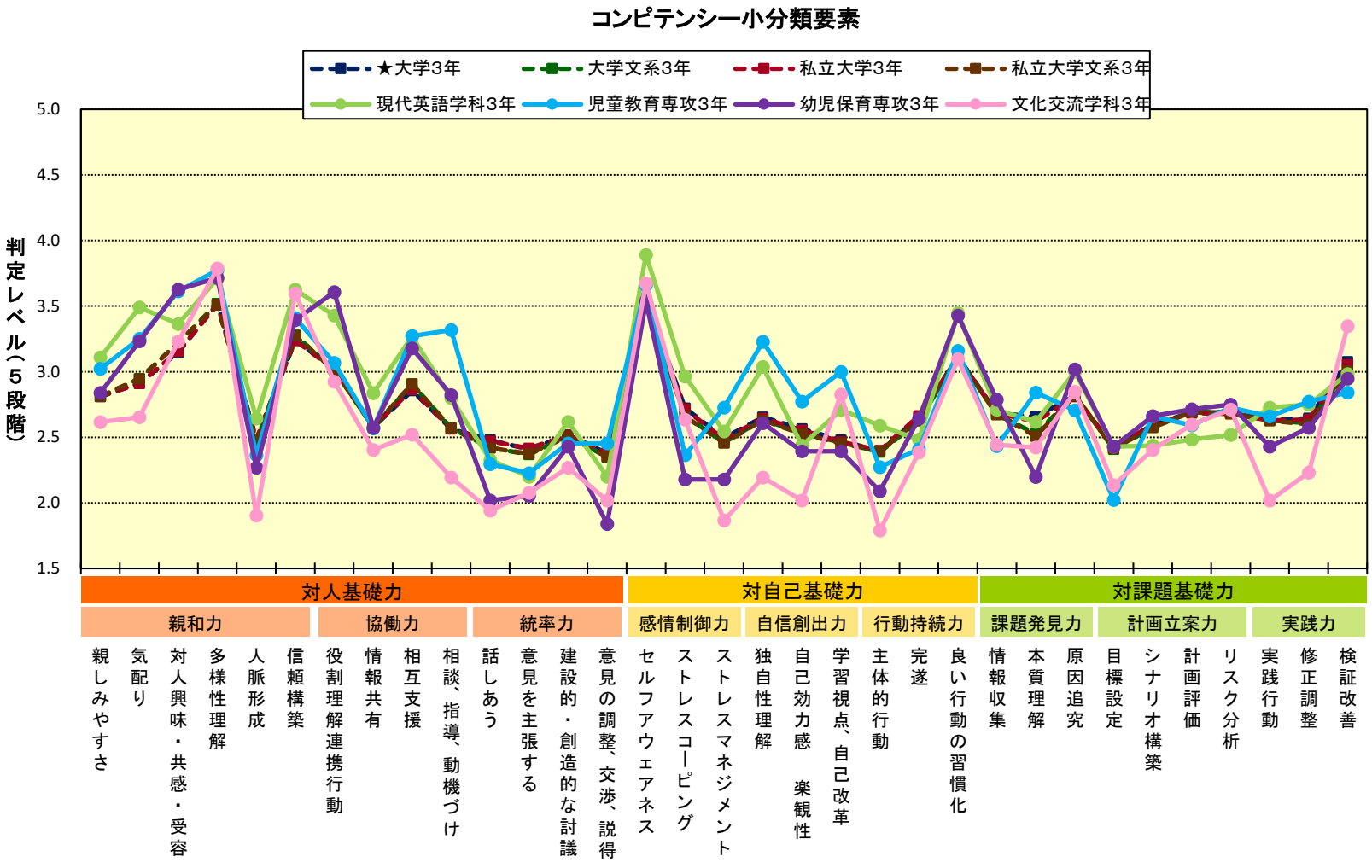


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　①

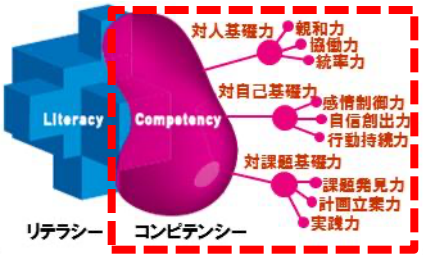


コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　②

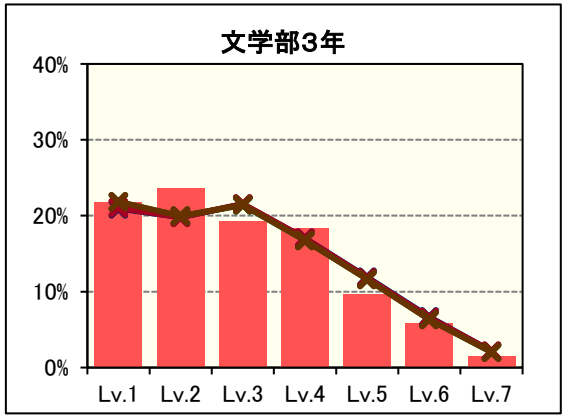


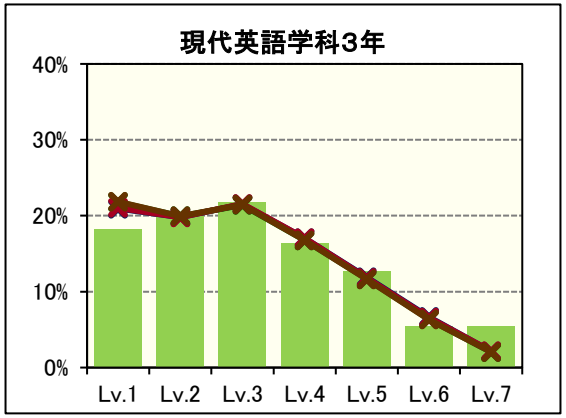
コンピテンシー総合　判定レベルの分布

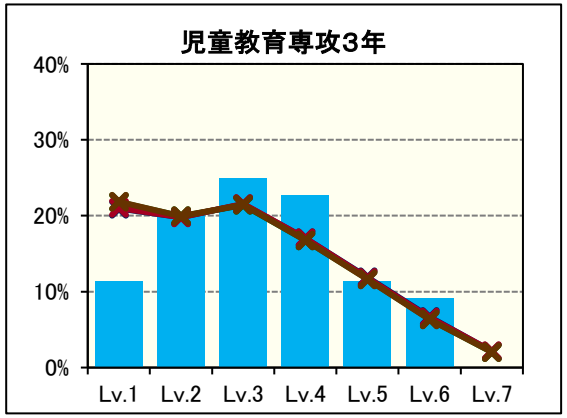
オプション分析

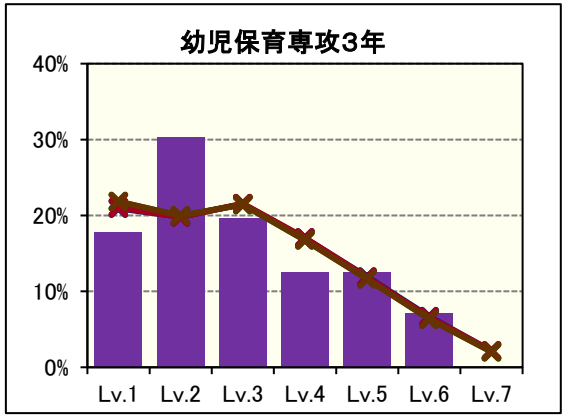


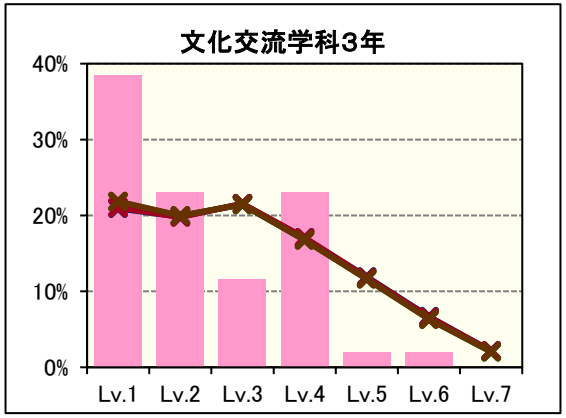












今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
文学部３年	-	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	▲	▲	-	▲	▲	-	-
現代英語学科３年	-	-	◎	◎	◎	-	◎	◎	-	-	◎	◎	-	-	-
児童教育専攻３年	-	▲	-	◎	◎	-	◎	◎	-	-	◎	-	-	-	-
幼児保育専攻３年	-	◎	-	◎	◎	-	-	◎	▲	▲	-	-	▲	-	-
文化交流学科３年	-	◎	◎	◎	◎	■	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策 ①

【文学部３年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる 難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる 自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を知っている 失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	ストレスやプレッシャーを与えて、その中で結果を出すことを求める 限られた時間の中でも、物事に優先順位を付けて、ベストを尽くすよう指導する 難しい課題に対しても前向きに取り組み、結果を振り返るよう指導する 自分がストレスを感じやすい状況について自覚を促す
	●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにいている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる

【現代英語学科３年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー		基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【児童教育専攻３年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●情報収集力	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な問題を整理し複数の仮説を立てさせる／限られた時間の中で仮説を検証するために必要な情報を優先順位をつけて収集させる／情報の真偽や有用性を考え整理させる／調べたい情報が得られるようにアンケート項目を考えさせる／人に直接面会してインタビューをさせる
■コンピテンシー		基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

今後の課題と対策 ②

【幼児保育専攻3年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる

今後の課題と対策 ③

【文化交流学科３年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く（傾聴する）ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
	●協働力	割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組むことができる 周囲に気を配り、困っている人には手を貸すことができる チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	各自の貢献する領域を定め責任を果たすようにする 集団の中で自分の役割を実感する機会を設ける 各自で調べたことを全体に共有させる機会を設ける 情報を発信したり吸収したり、学生相互に情報をやり取りする機会を設ける
	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●自信創出力	仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	自分のオリジナリティにこだわるように指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる 与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する
	●行動持続力	良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるよう心がけている 任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている 常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	まじめさ、誠意をもった行動、真摯な取り組みを評価する機会を設ける 現状に満足せず、より高い目標に挑戦する大切さを指導する 目的意識を常に持って、学習したとを直ぐに試みるように指導する
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
	●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的で妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1-3
3年生　全体集計
（生活科学部）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（リテラシー総合）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

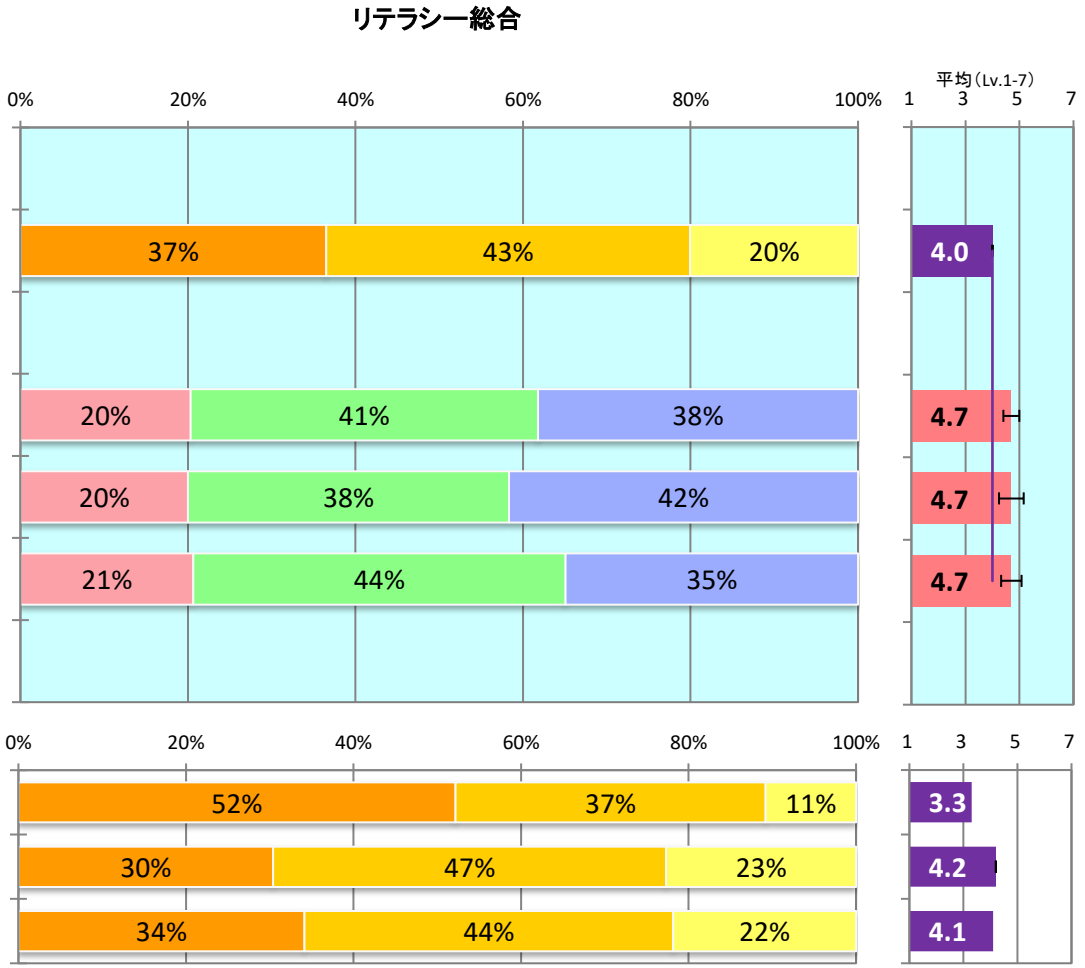
【基準集団】

★私立大学3年	151校　N=109,325

	χ2乗値	有意確率
生活科学部3年	29.21	0.00
心理福祉学科3年	18.85	0.00
食物健康科学科3年	11.33	0.00

【ご参考基準集団】

私立大学3年（福祉学系）	17校　N=1,677
私立大学3年（公認心理師資格対応系）	34校　N=4,300
私立大学3年（心理福祉系）	4校　N=650

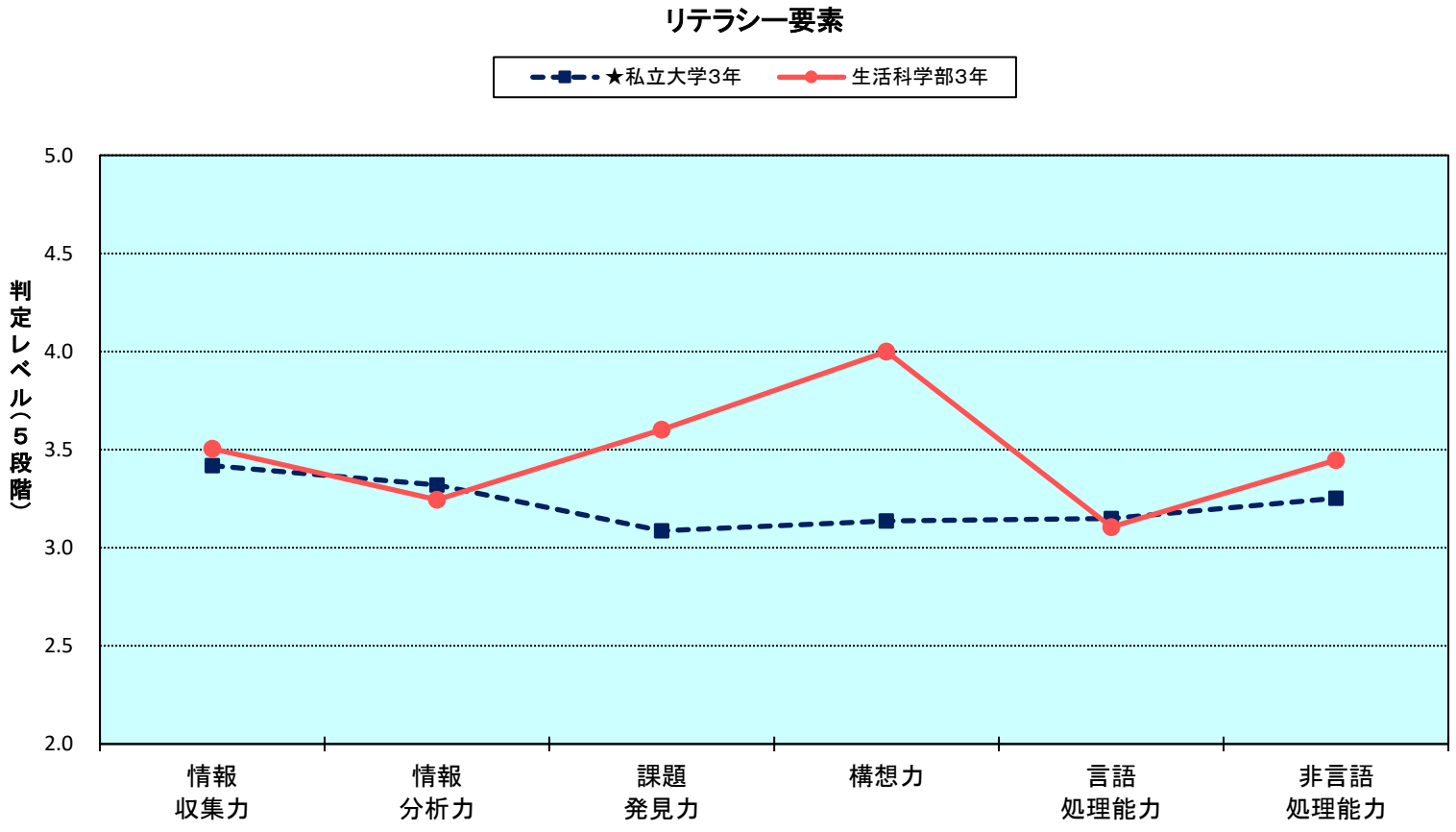


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【生活科学部3年】

基準集団（★印）と比較して、課題発見力、構想力、非言語処理能力の平均値は高く、情報収集力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報分析力、言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。



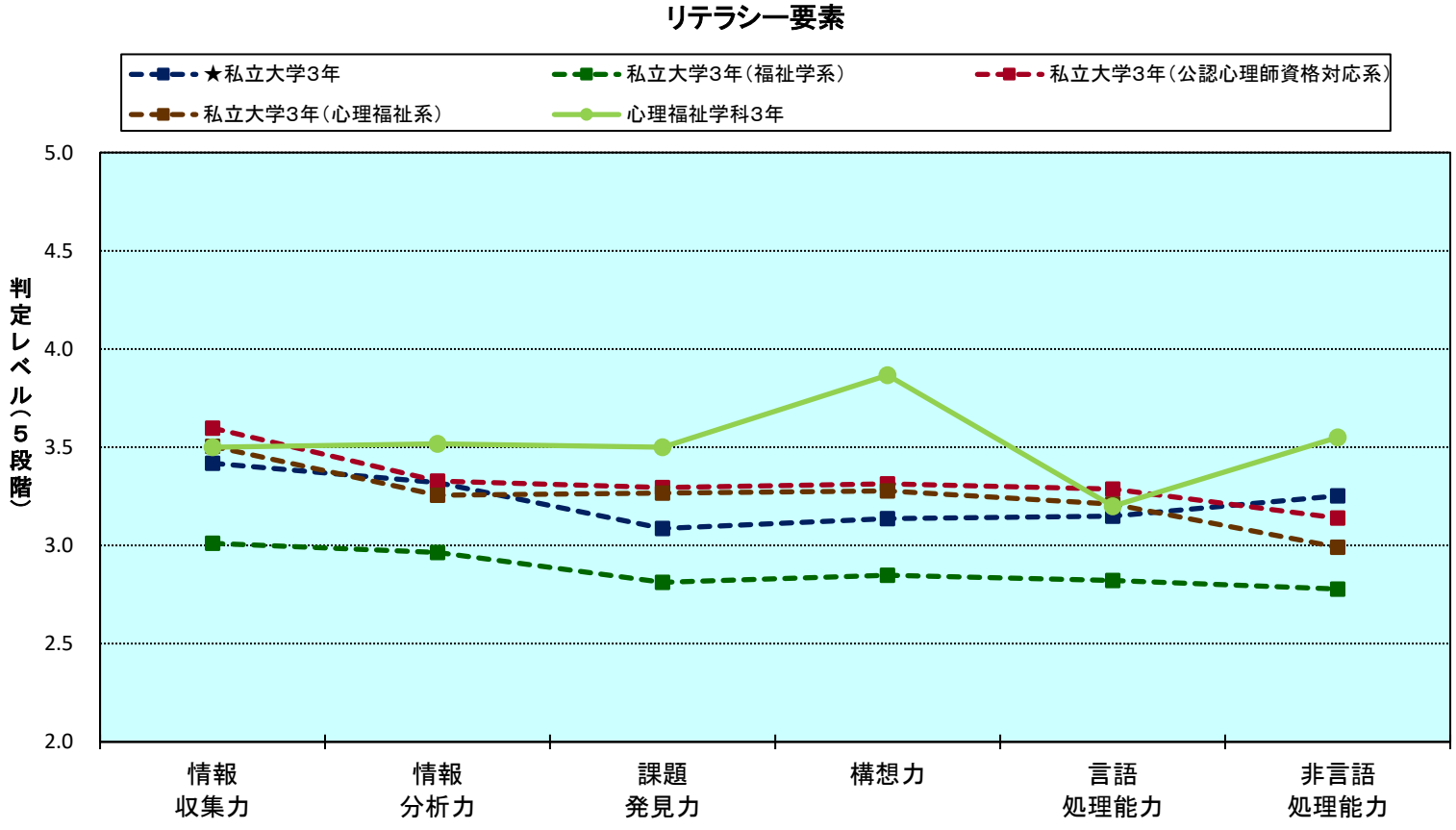
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【心理福祉学科3年】

基準集団（★印）と比較して、

情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力の平均値は高く、情報収集力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

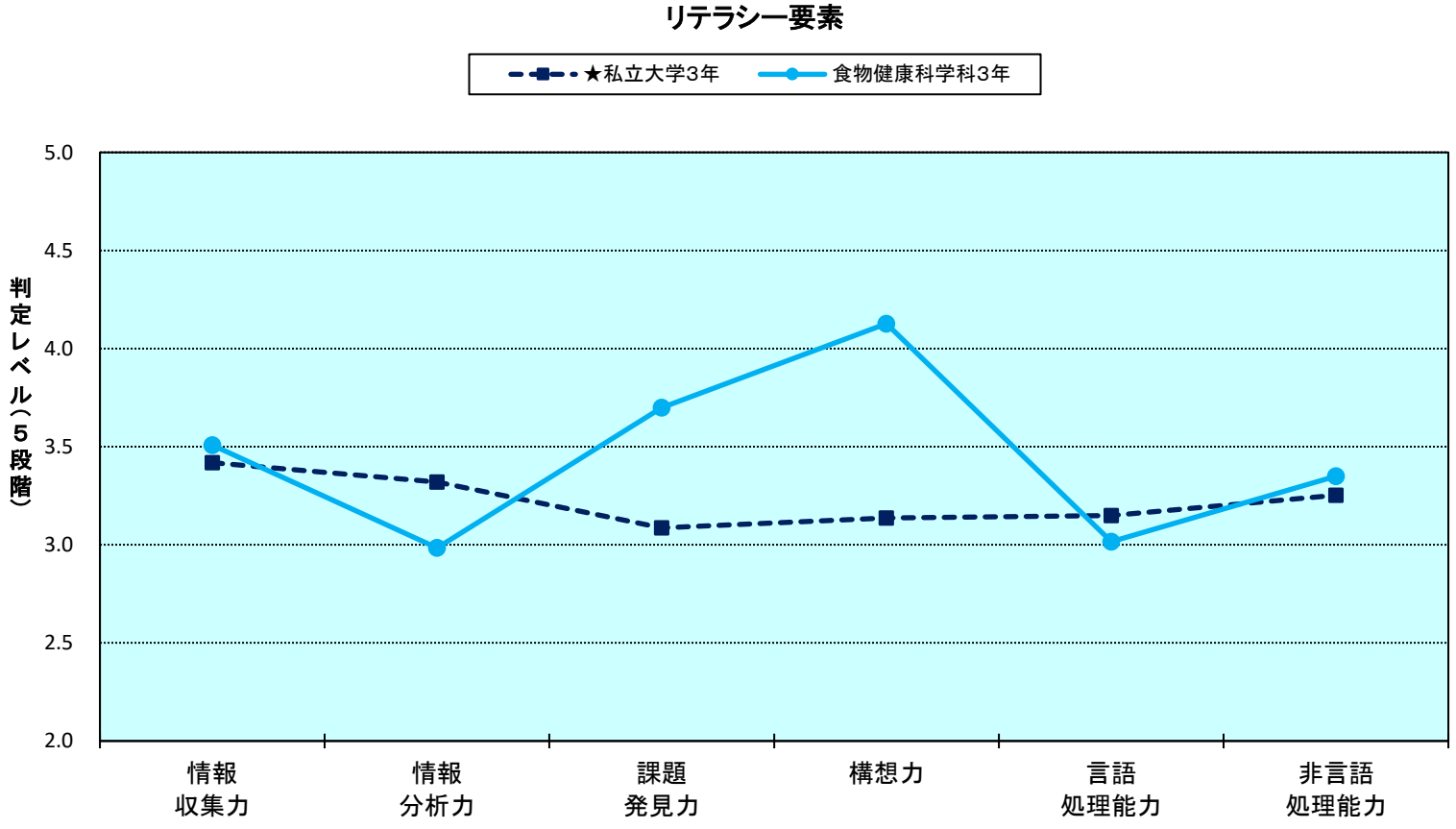
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ③

【食物健康科学科３年】

基準集団（★印）と比較して、課題発見力、構想力の平均値は高く、情報収集力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報分析力の平均値は低い。

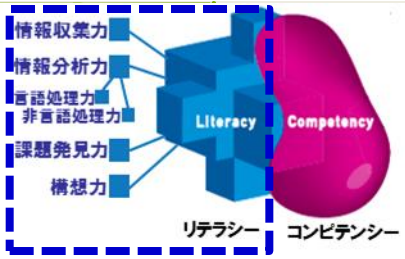


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

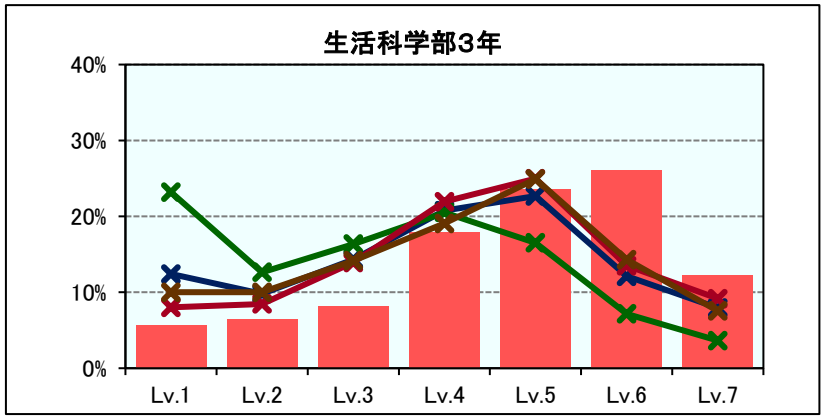
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

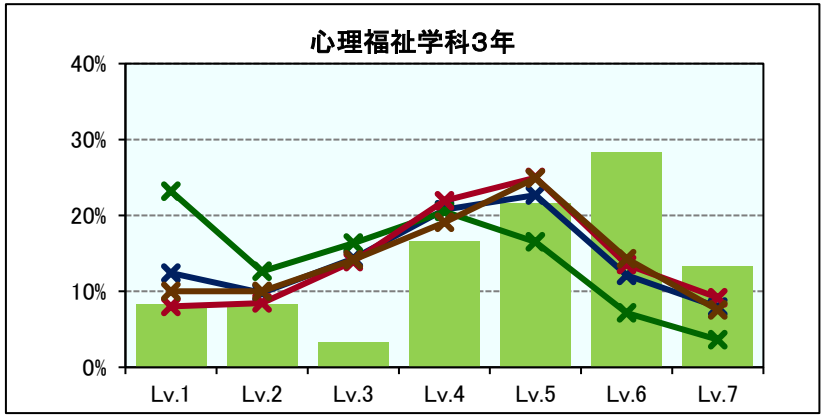
リテラシー総合　判定レベルの分布

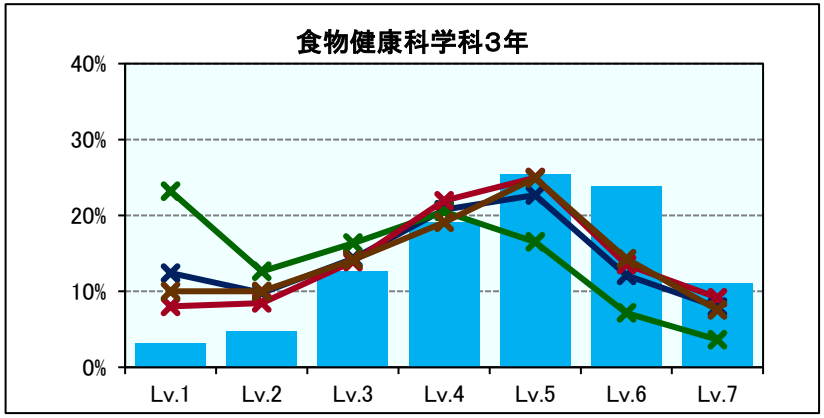
オプション分析











コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、生活科学部3年、心理福祉学科3年、食物健康科学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

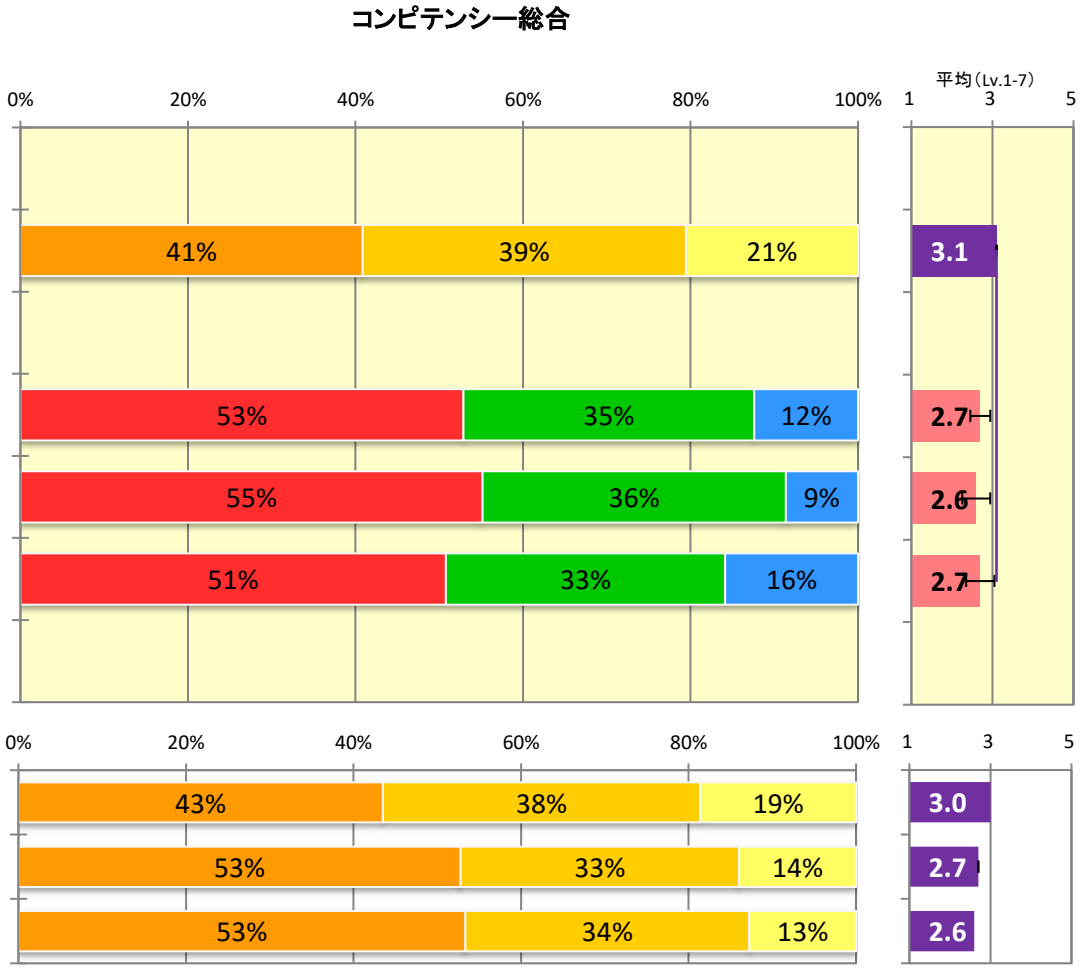
【基準集団】

★私立大学3年	227校　N=279,182

	χ2乗値	有意確率
生活科学部3年	8.70	0.01
心理福祉学科3年	7.02	0.03
食物健康科学科3年	2.65	0.27

【ご参考基準集団】

私立大学3年（福祉学系）	34校　N=10,451
私立大学3年（公認心理師資格対応系）	38校　N=8,789
私立大学3年（心理福祉系）	6校　N=1,539



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】

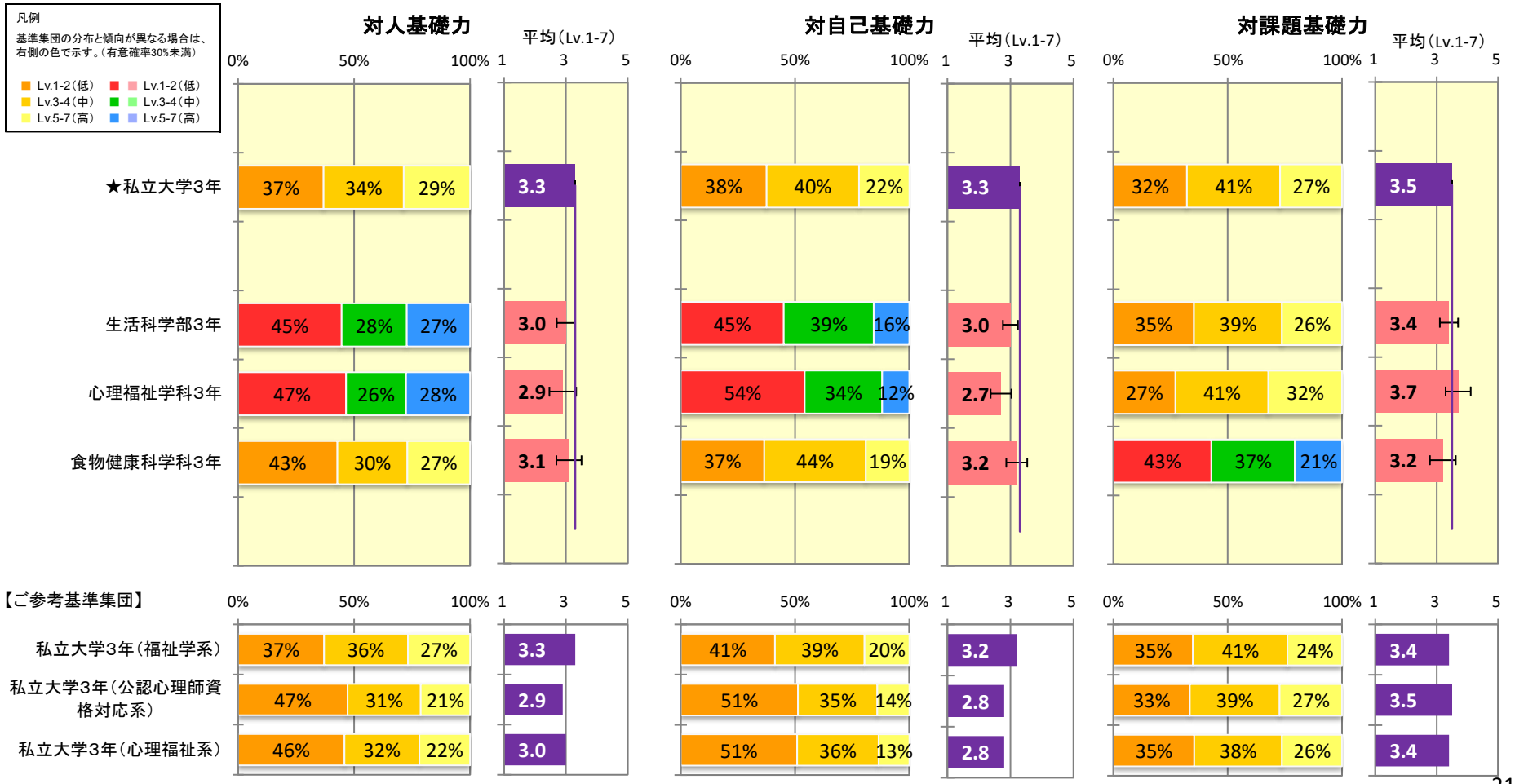
●基準集団（★印）と比較して、生活科学部3年、心理福祉学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対自己基礎力】

●基準集団（★印）と比較して、生活科学部3年、心理福祉学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対課題基礎力】

●基準集団（★印）と比較して、食物健康科学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

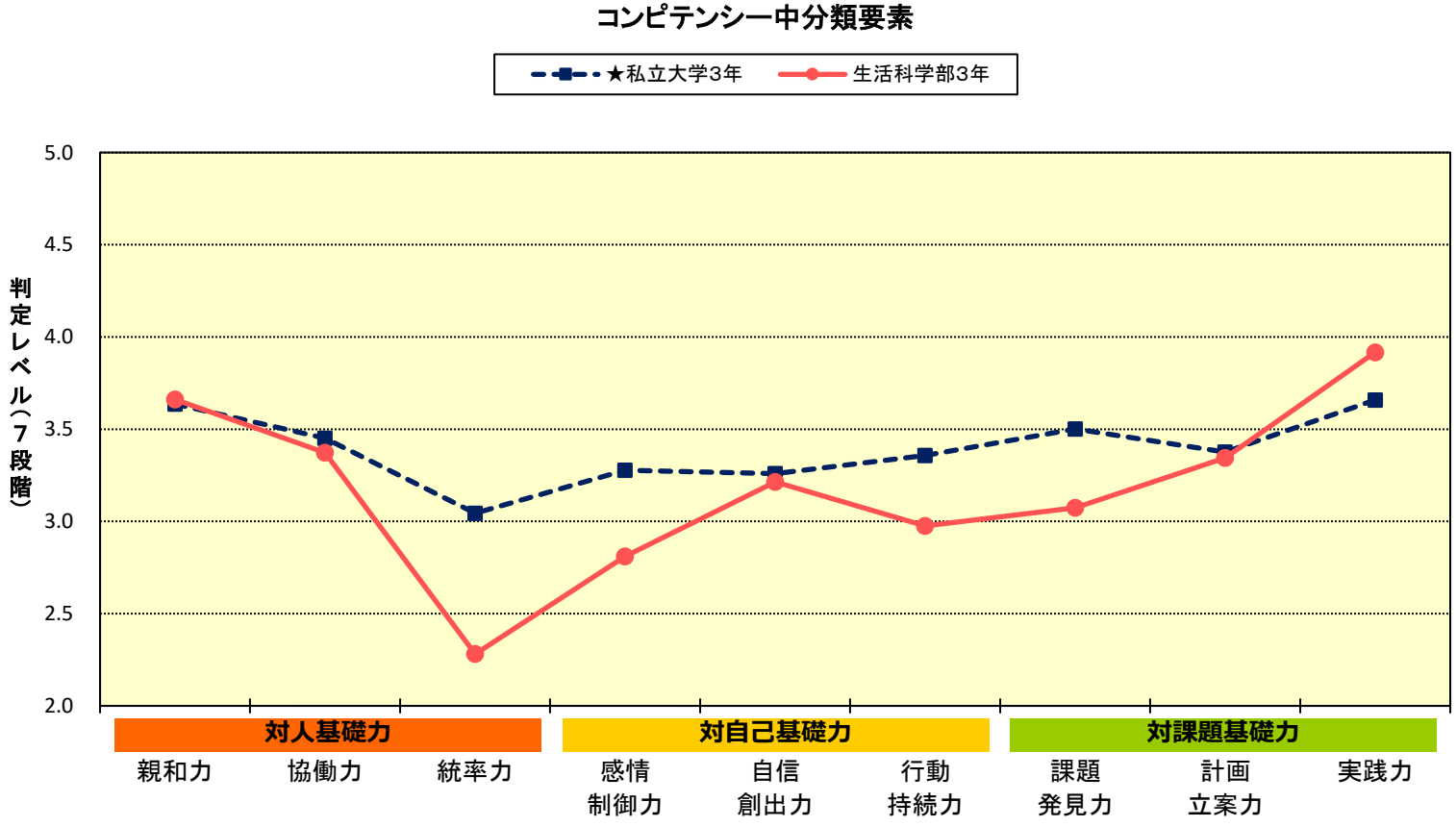


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　①

【生活科学部3年】

基準集団（★印）と比較して、実践力の平均値は高く、親和力の平均値は上回る傾向にある。
一方、協働力、自信創出力、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力の平均値は低い。



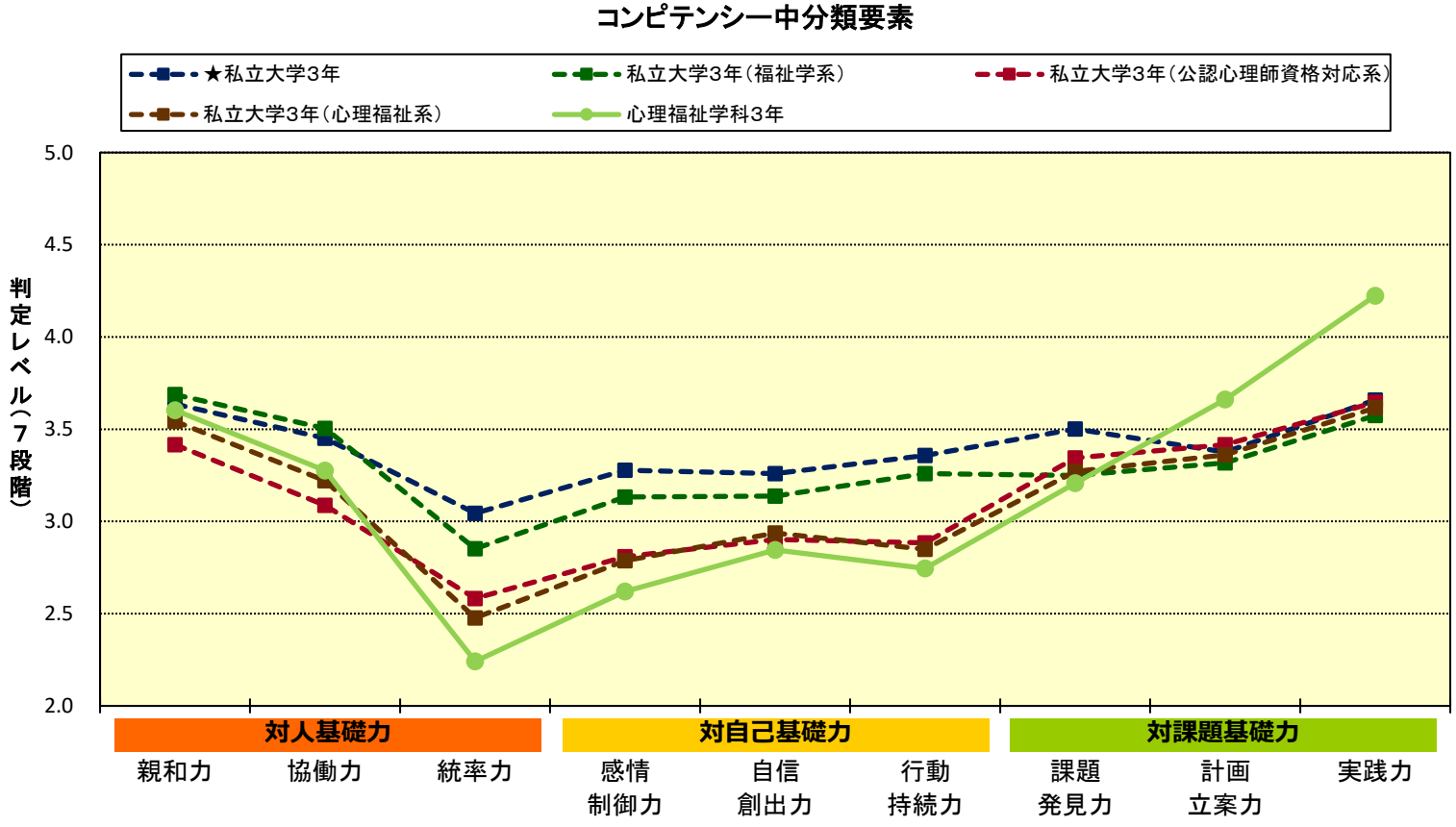
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　②

【心理福祉学科３年】

基準集団（★印）と比較して、計画立案力、実践力の平均値は高い。

一方、親和力、協働力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

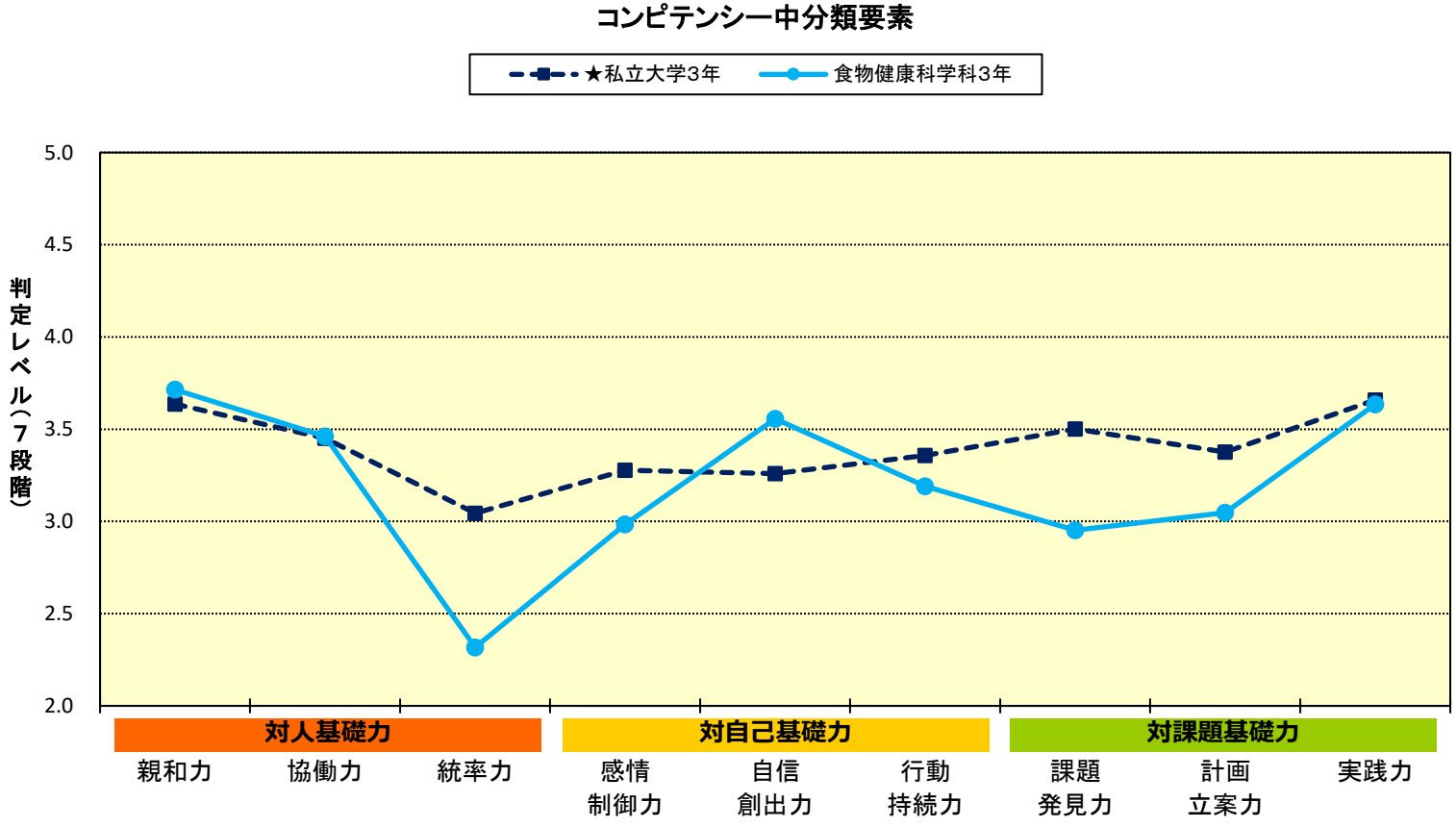
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向　③

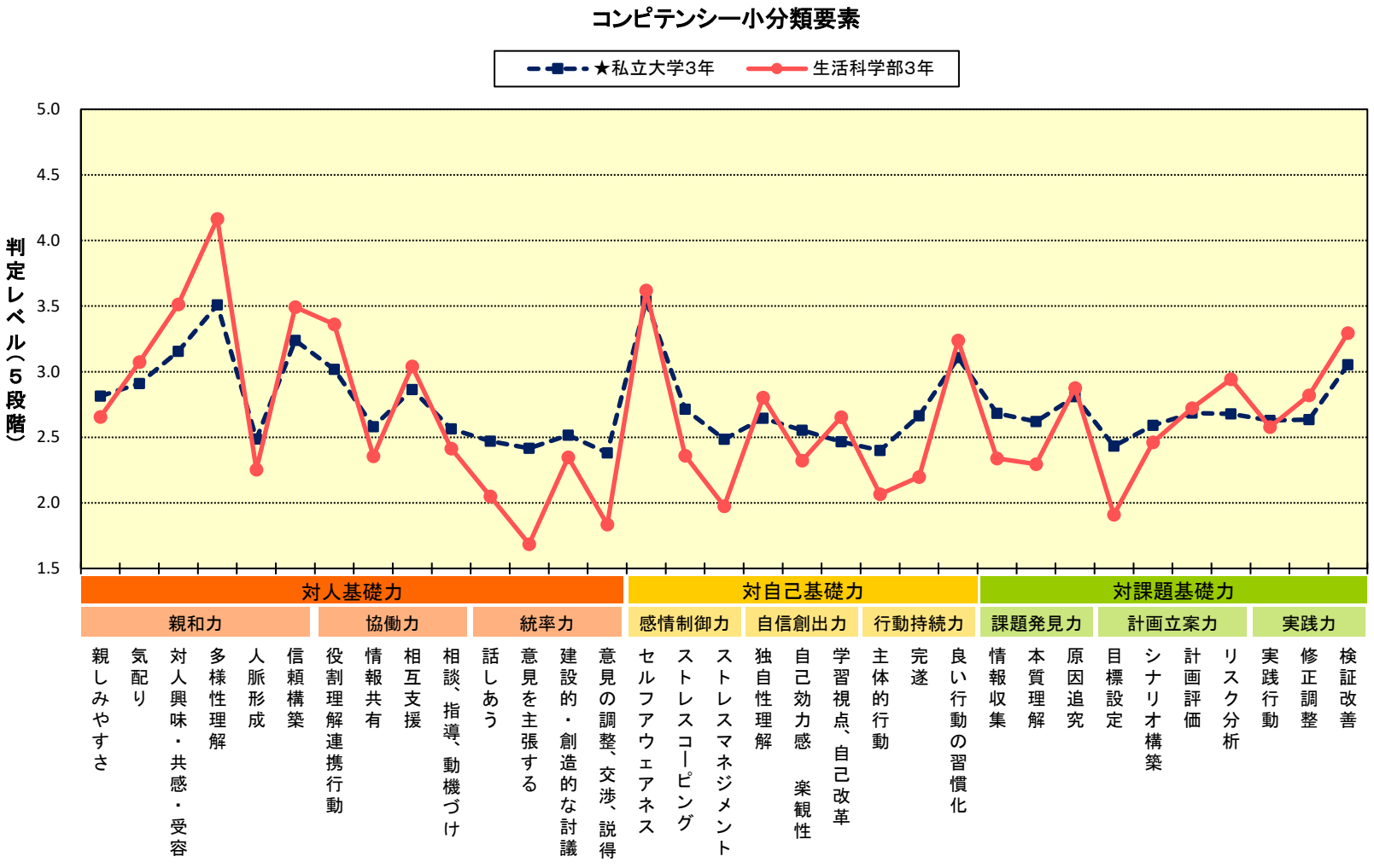
【食物健康科学科３年】

基準集団（★印）と比較して、自信創出力の平均値は高く、親和力、協働力の平均値は上回る傾向にある。
一方、行動持続力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、課題発見力、計画立案力の平均値は低い。

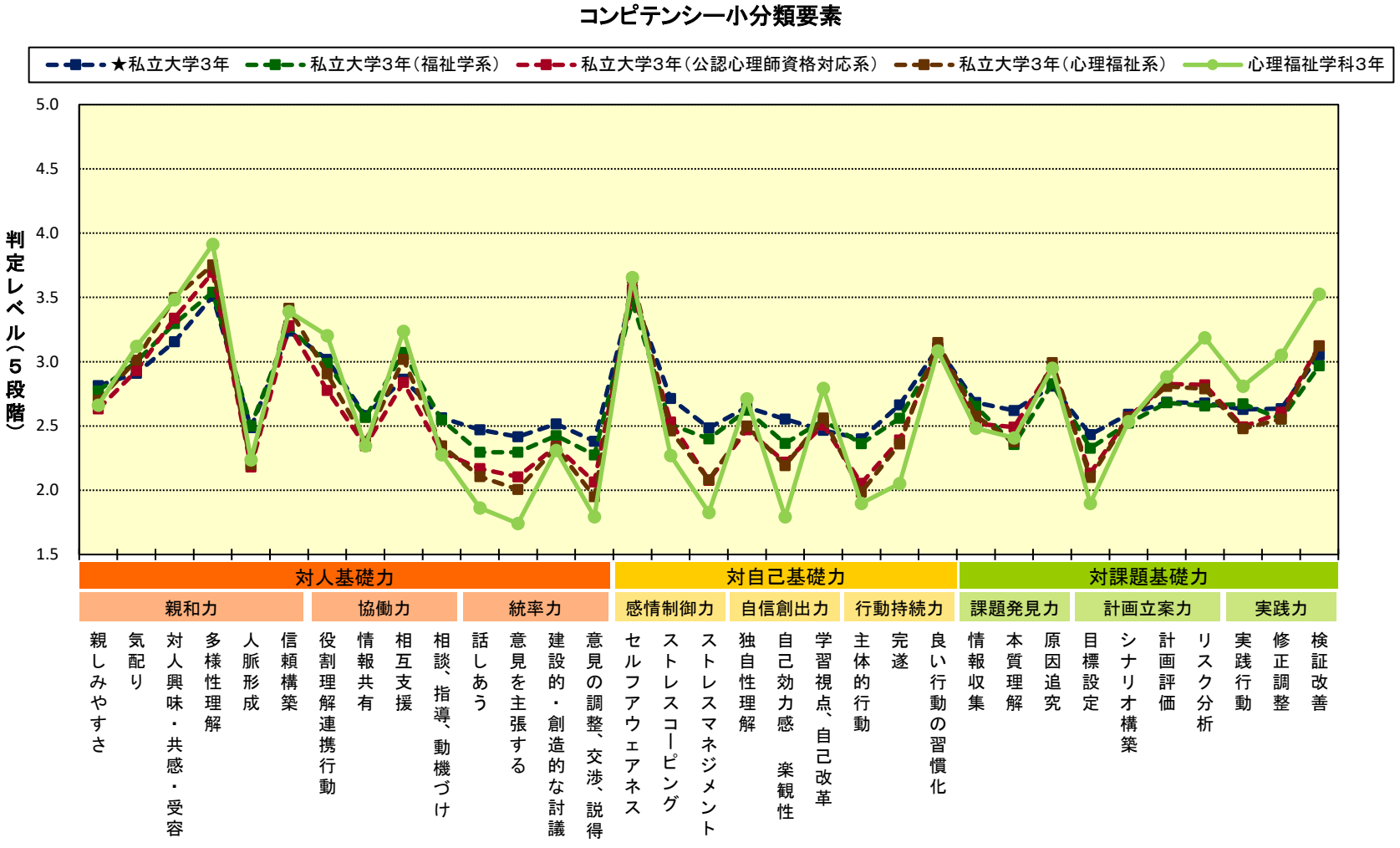


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

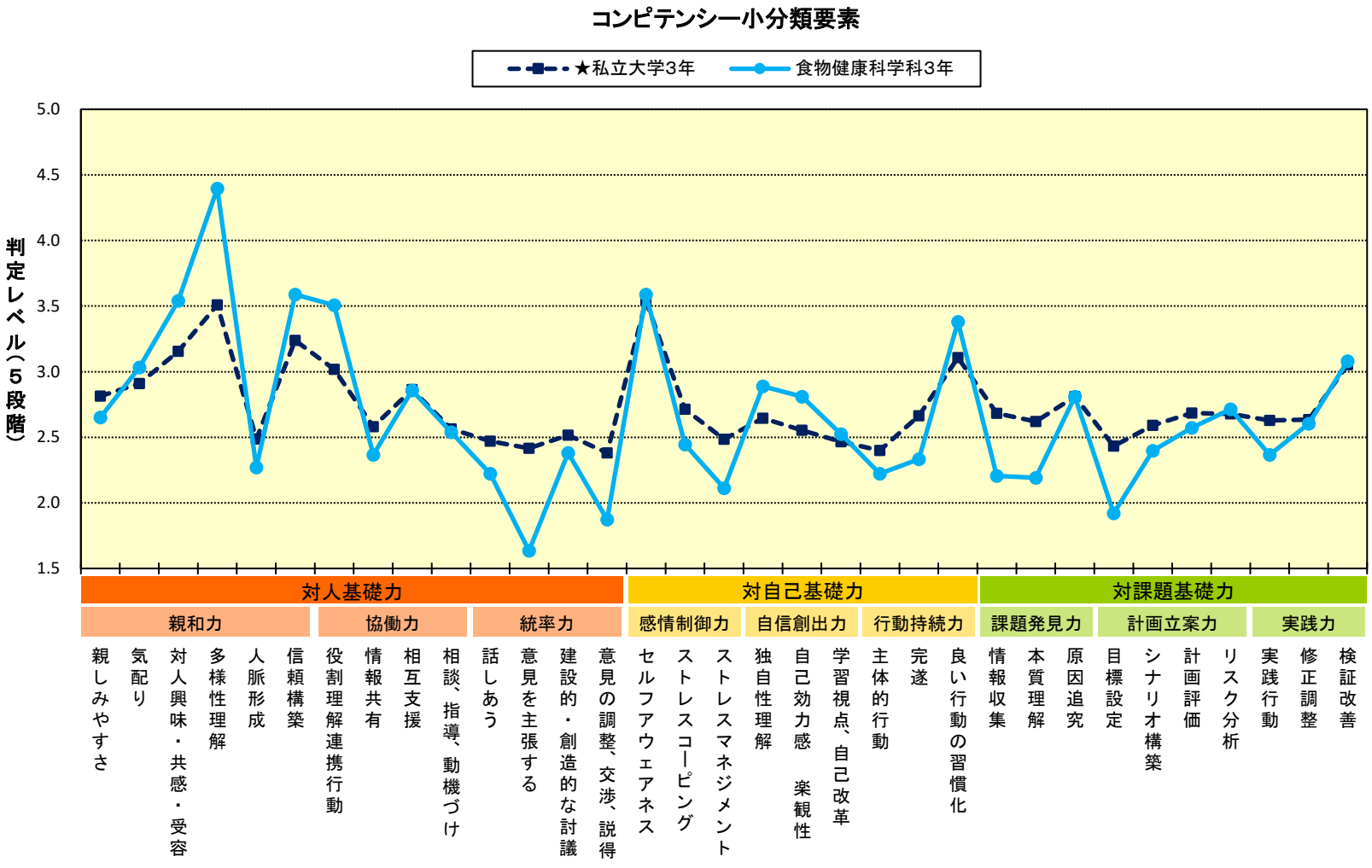
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　①



コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　②

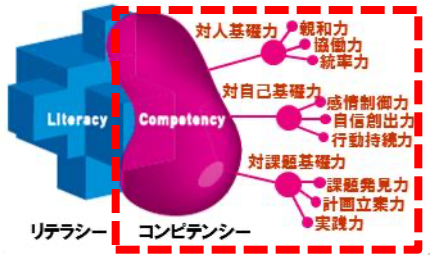


コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向　③

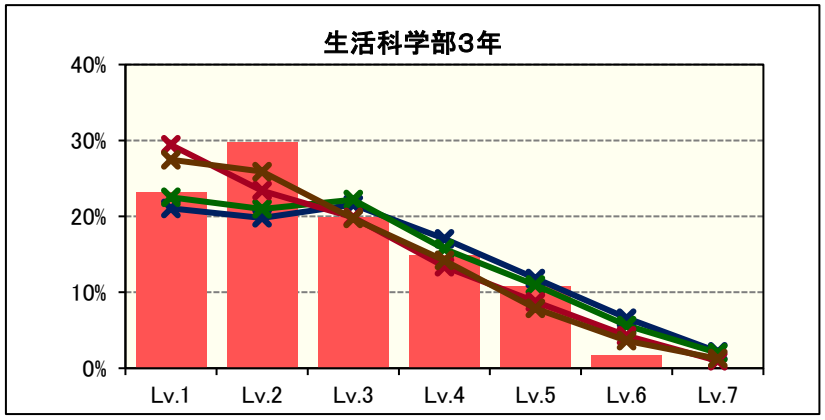


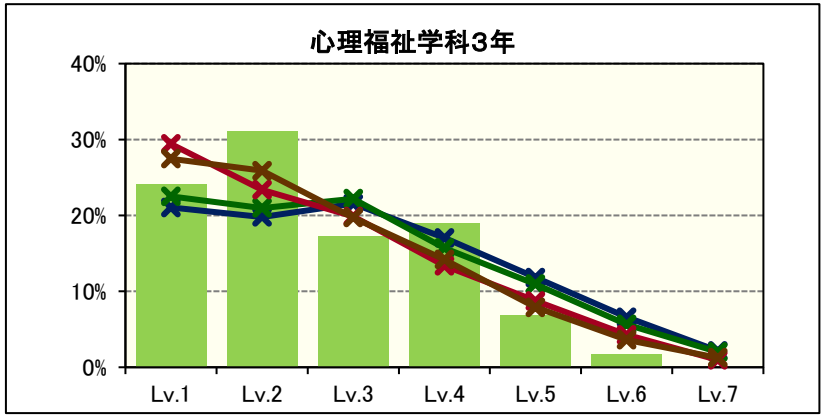
コンピテンシー総合　判定レベルの分布

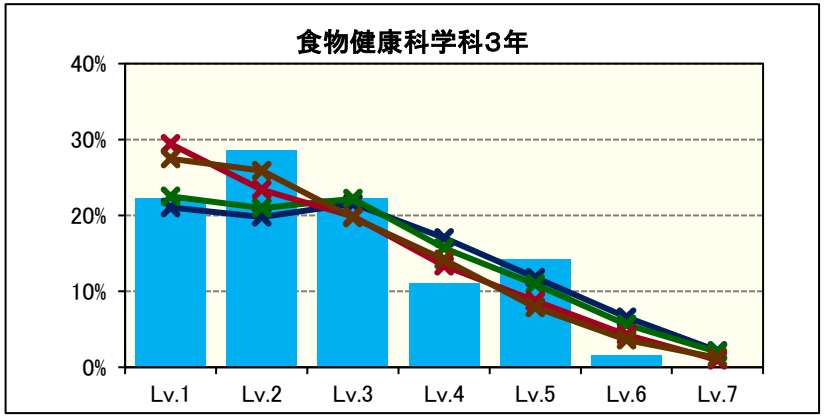
オプション分析











今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
生活科学部３年	-	-	-	◎	◎	■	-	-	▲	▲	-	▲	▲	-	◎
心理福祉学科３年	-	-	◎	◎	◎	■	-	-	▲	▲	▲	▲	▲	◎	◎
食物健康科学科３年	-	-	▲	◎	◎	■	-	-	▲	▲	◎	-	▲	▲	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策 ①

【生活科学部3年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●行動持続力	良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるよう心がけている 任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている 常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	まじめさ、誠意をもった行動、真摯な取り組みを評価する機会を設ける 現状に満足せず、より高い目標に挑戦する大切さを指導する 目的意識を常に持って、学習したとを直ぐに試みるように指導する
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる

今後の課題と対策 ②

【心理福祉学科３年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー		基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●自信創出力	仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	自分のオリジナリティにこだわるように指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる 与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する
	●行動持続力	良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるよう心がけている 任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている 常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	まじめさ、誠意をもった行動、真摯な取り組みを評価する機会を設ける 現状に満足せず、より高い目標に挑戦する大切さを指導する 目的意識を常に持って、学習したとを直ぐに試みるように指導する
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる

今後の課題と対策 ③

【食物健康科学科３年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●情報分析力	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	データ・グラフから読み取れる事実の背景や要因を考察させる／語彙を理解し概念を正確に捉えるようにする／書かれている内容を客観的に捉えるようにする／客観的な事実と主観的な意見とを区別させる／論理の矛盾や飛躍がないかを検証させる
■コンピテンシー	●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
	●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する
	●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的で妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1-4
3年生　全体集計
（看護学部）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（リテラシー総合）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

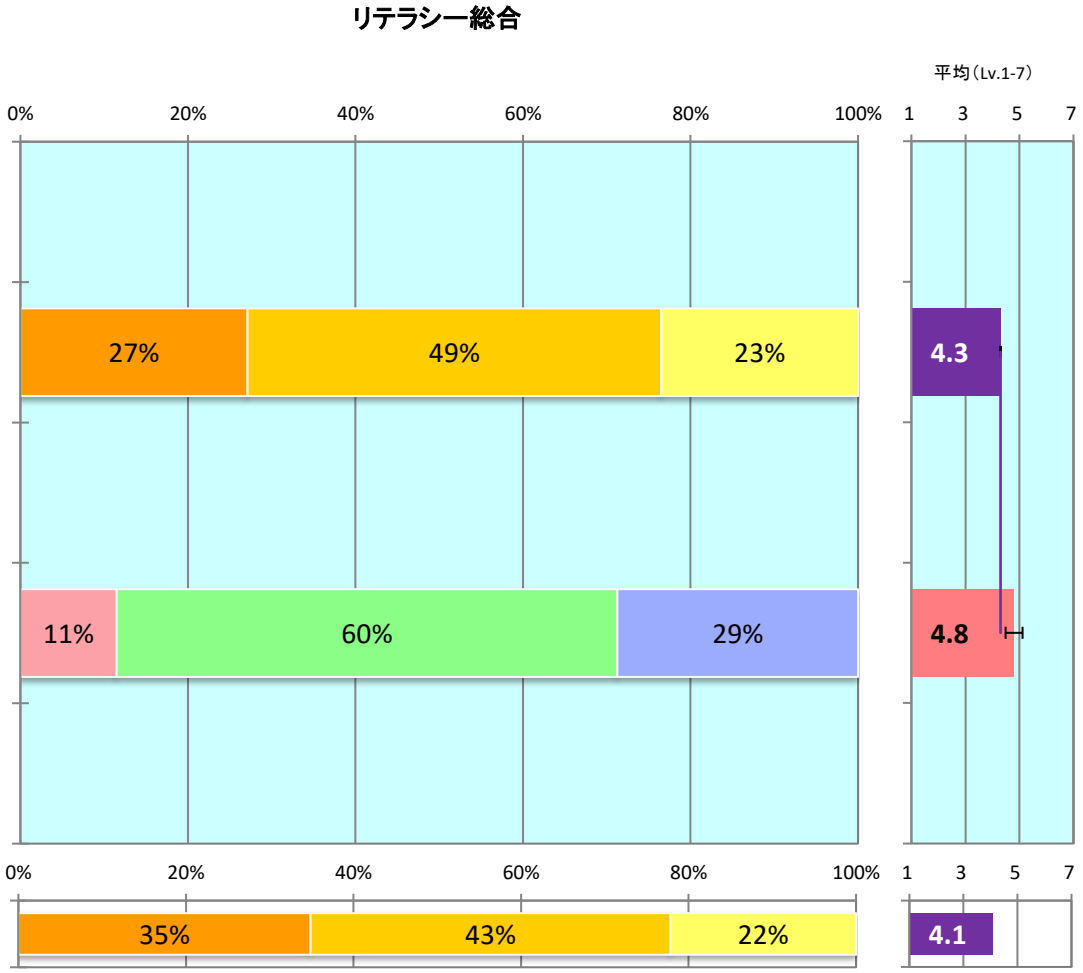
【基準集団】

★大学3年（看護学系）	41校　N=4,333

	χ2乗値	有意確率
看護学部3年	10.75	0.00

【ご参考基準集団】

大学3年	186校　N=118,253

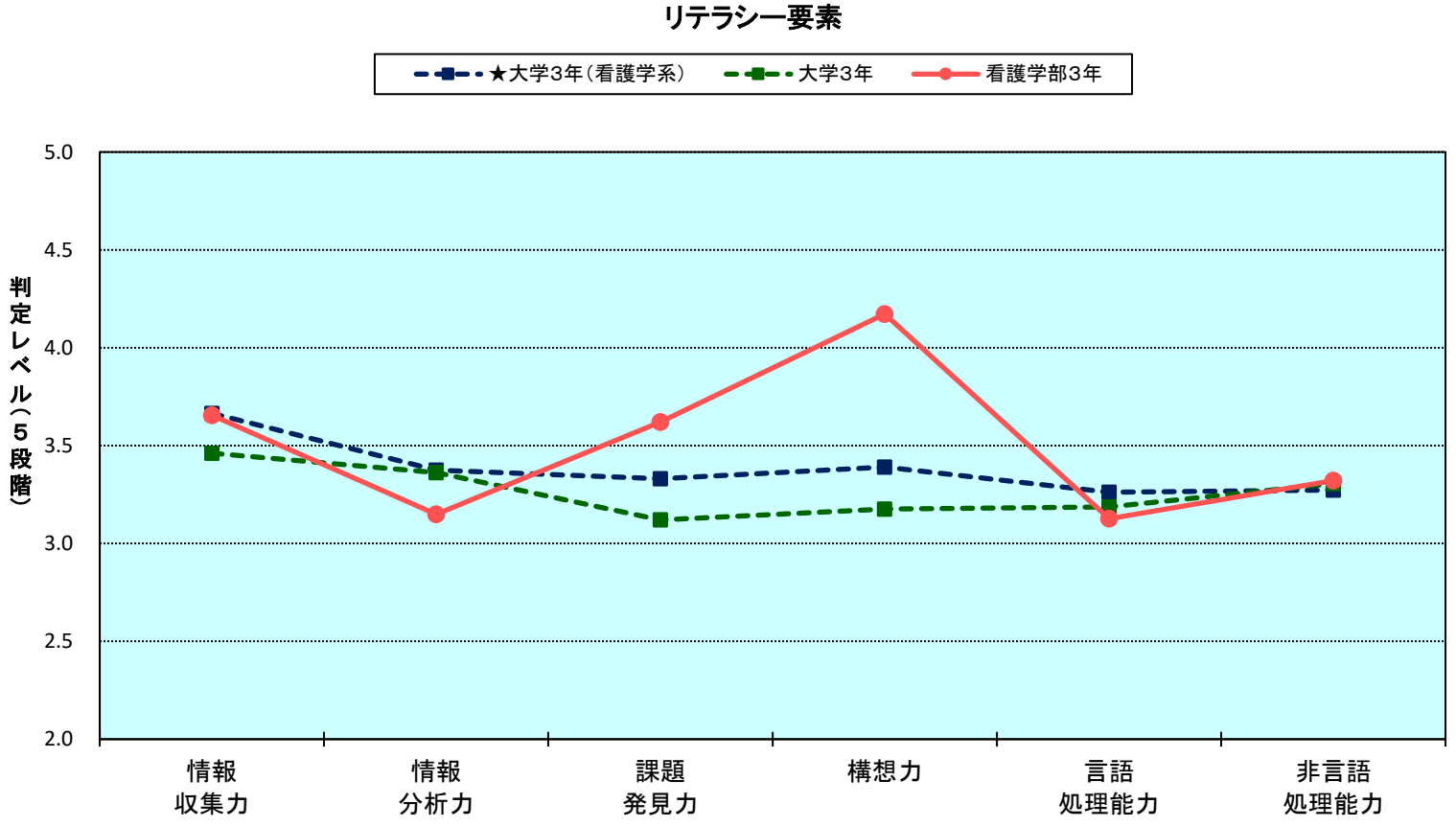


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

【看護学部3年】

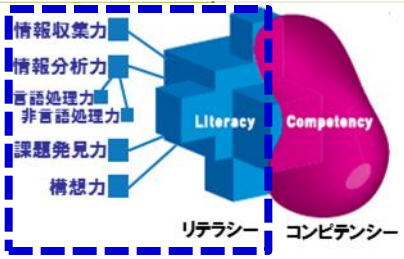
基準集団（★印）と比較して、課題発見力、構想力の平均値は高く、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報収集力、言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報分析力の平均値は低い。

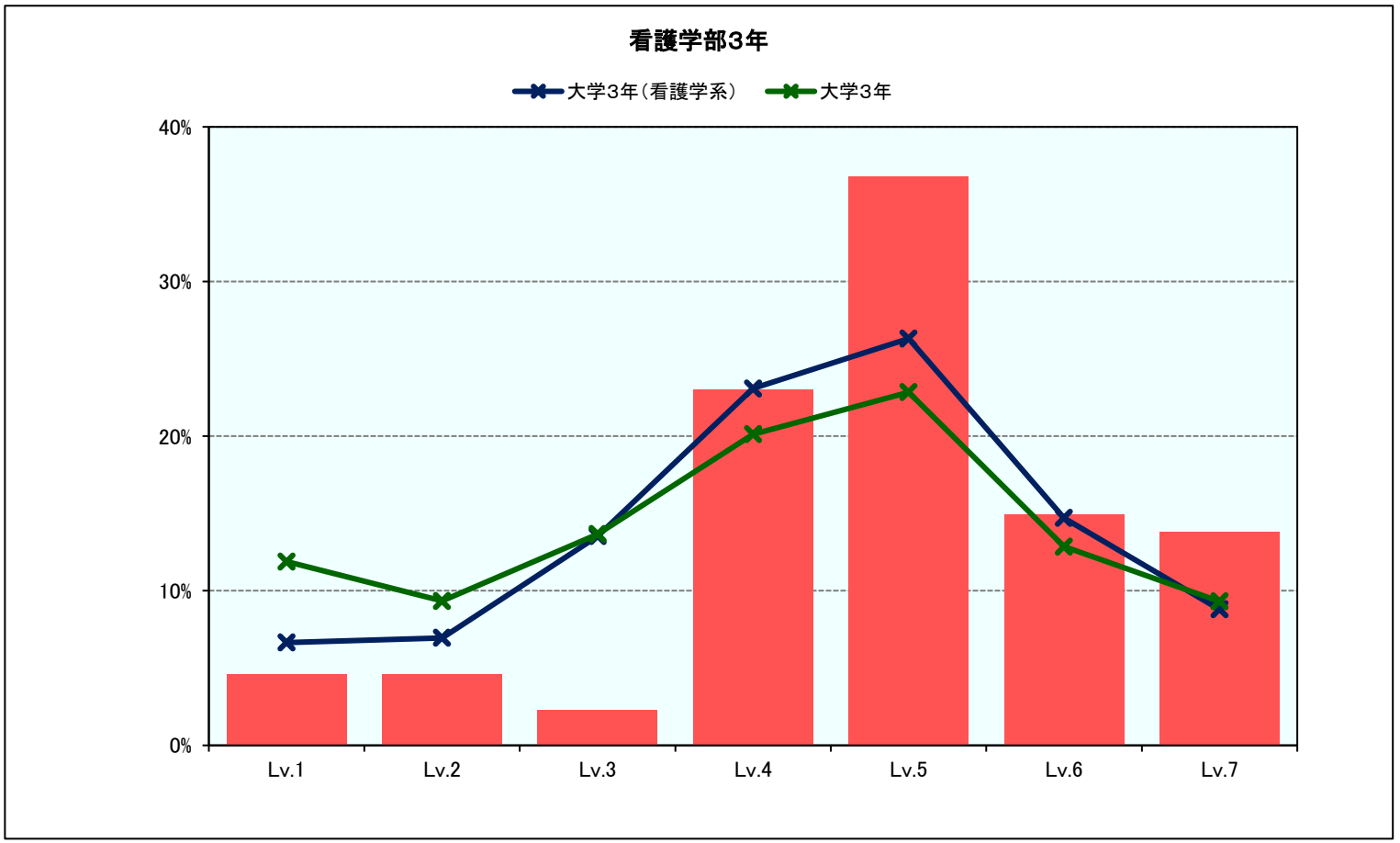


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、看護学部3年（N版）は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

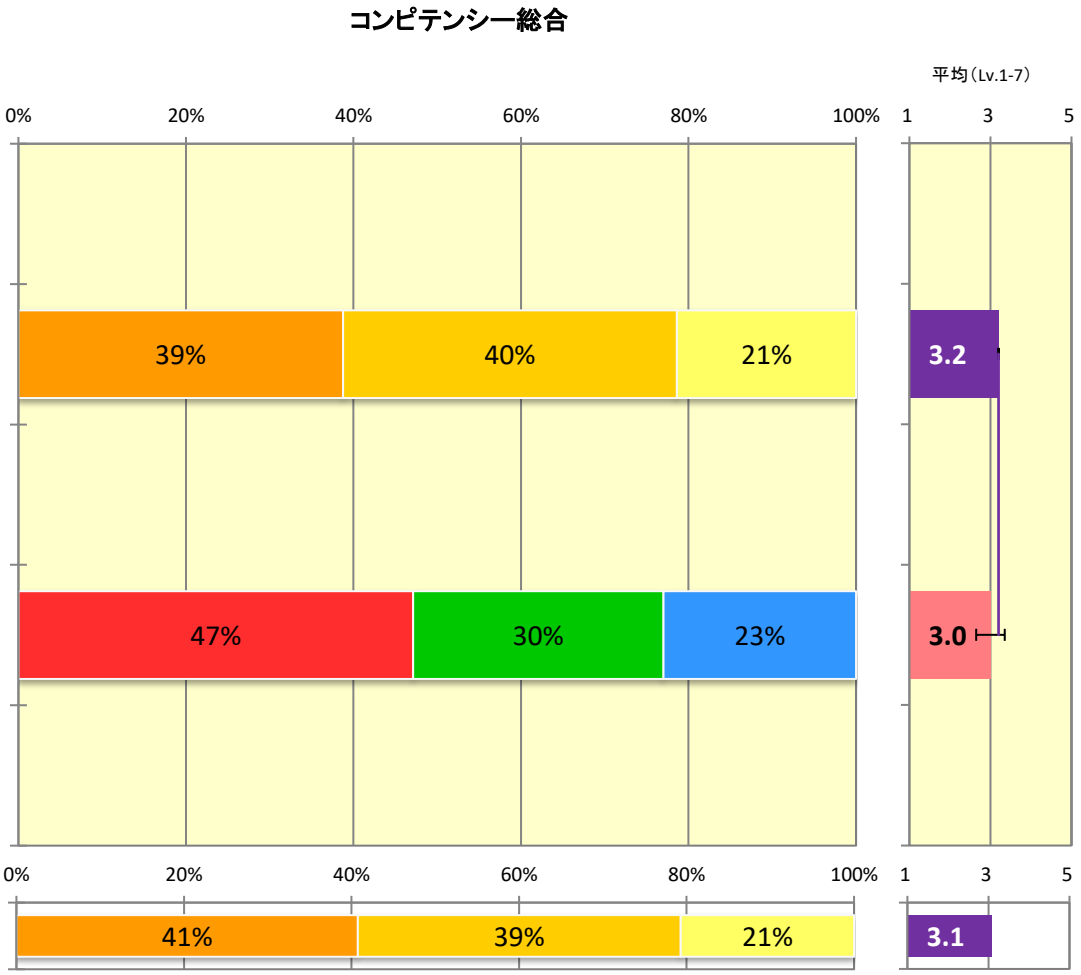
【基準集団】

★大学3年（看護学系）（N版）	43校　N=8,026

	χ2乗値	有意確率
看護学部3年（N版）	3.85	0.15

【ご参考基準集団】

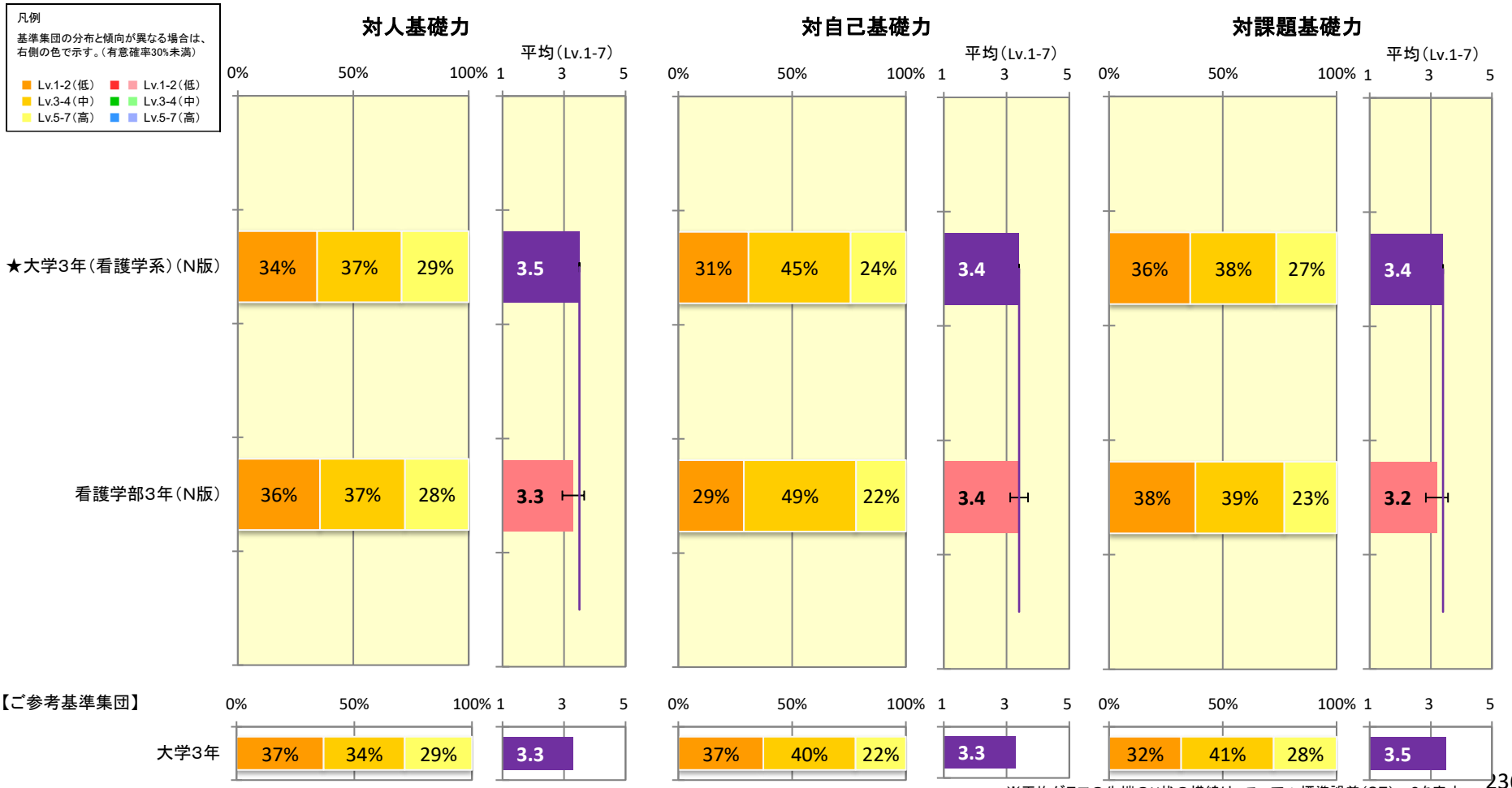
大学3年	286校　N=308,994



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
【対自己基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
【対課題基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。



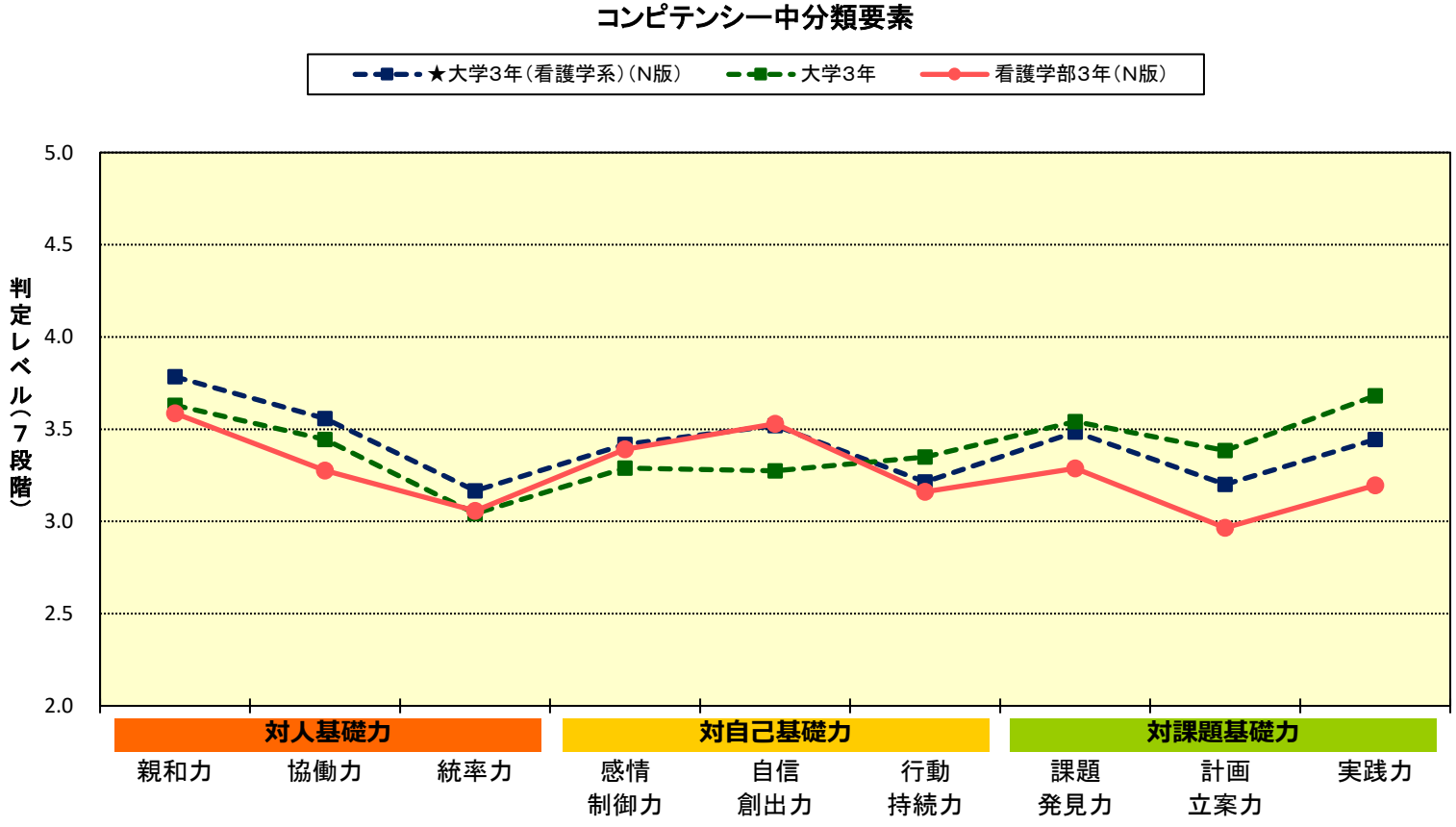
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【看護学部3年（N版）】

基準集団（★印）と比較して、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。

一方、統率力、感情制御力、行動持続力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

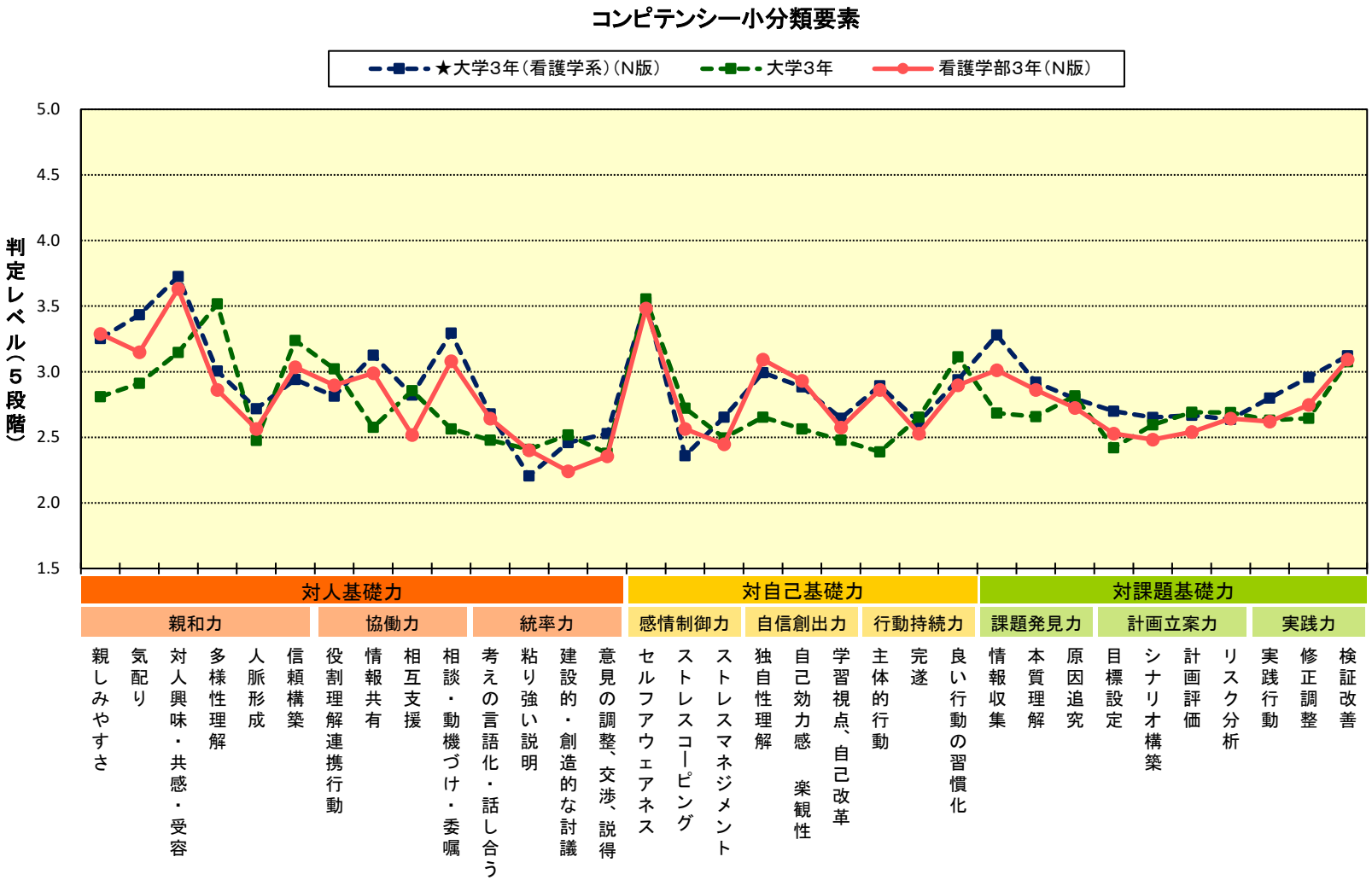
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

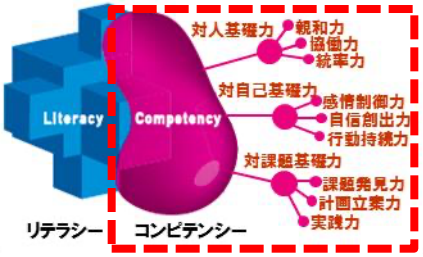
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

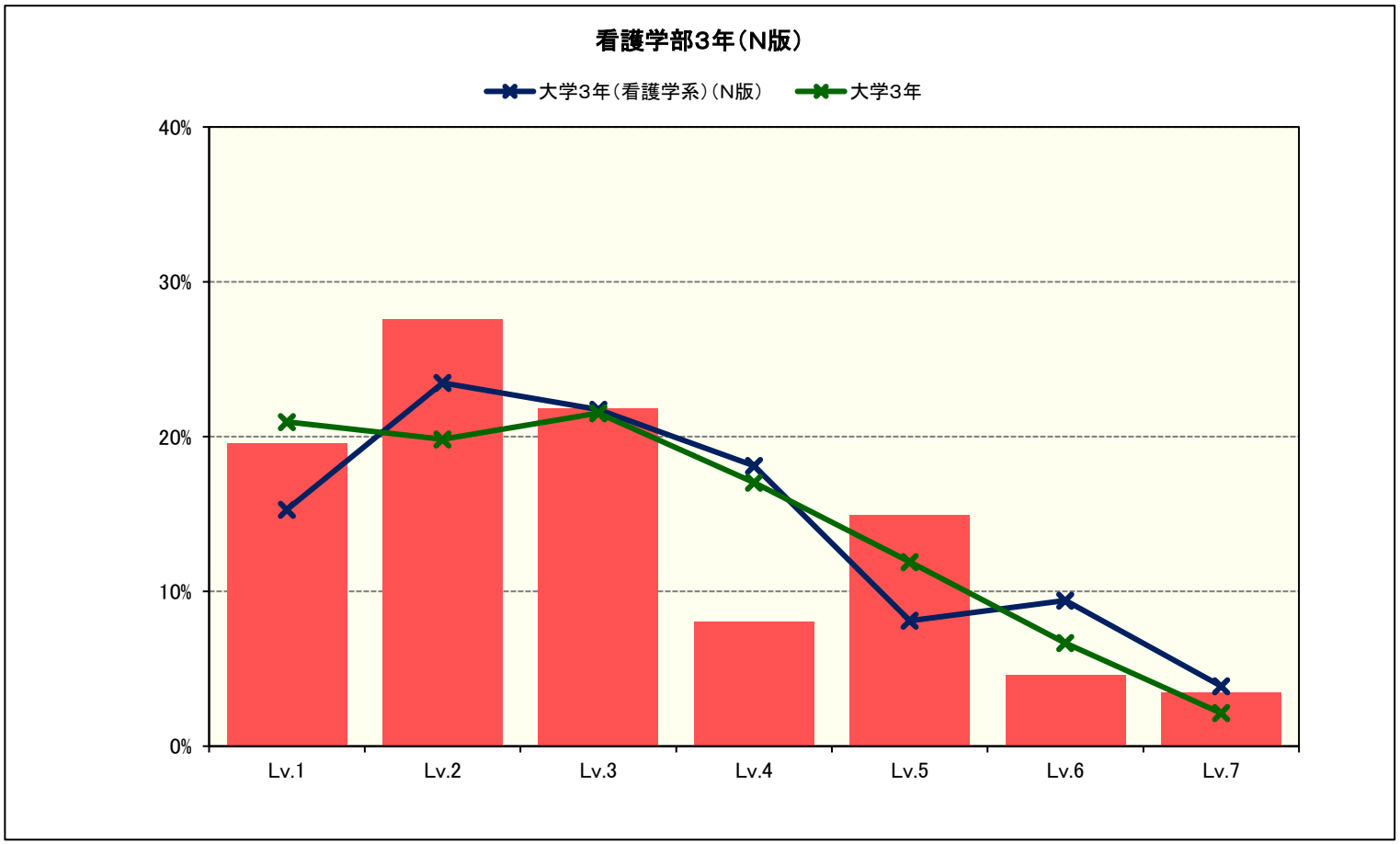
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向



コンピテンシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
看護学部３年（N版）	-	-	▲	◎	◎	■	▲	▲	-	-	-	-	▲	▲	▲

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【看護学部3年（N版）】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●情報分析力	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複数のデータから総合的に情報を読み取らせる／複数の視点から問題を客観的に分析させる／物事を批判的に捉え問題の本質を掘り下げさせる
■コンピテンシー	●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状（お礼メール）など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
	●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
	●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
	●計画立案力	課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる 立案した計画や目標に自分なりに取り組むことができる 条件が明確な課題であれば、発生しそうな問題を予め考えることができる 起こりうる事象を予測し、計画を立て取り組むことができる	ゴール（目指す姿）をイメージしてから、課題に取り組ませる 想定される障害を考慮して代替案を考えるよう指導する 立てた計画について、達成の見込みや問題点を客観的にあげさせる
	●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1-5
3年生　全体集計
（経営学部）

リテラシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（リテラシー総合）			
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-3）	中（Lv.4-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

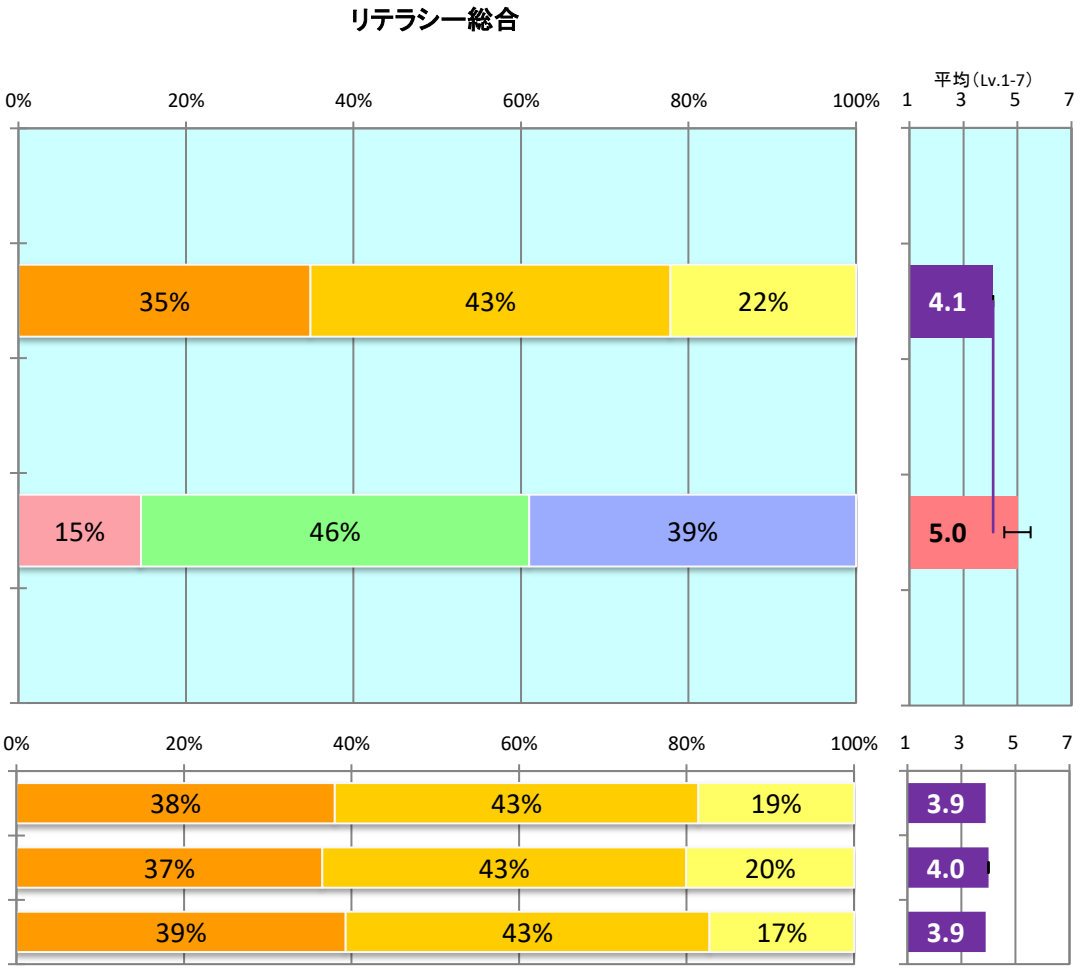
【基準集団】

★大学3年	186校　N=118,253

	χ2乗値	有意確率
経営学部3年	10.19	0.01

【ご参考基準集団】

大学文系3年	132校　N=68,352
私立大学3年	151校　N=109,325
私立大学文系3年	118校　N=64,780

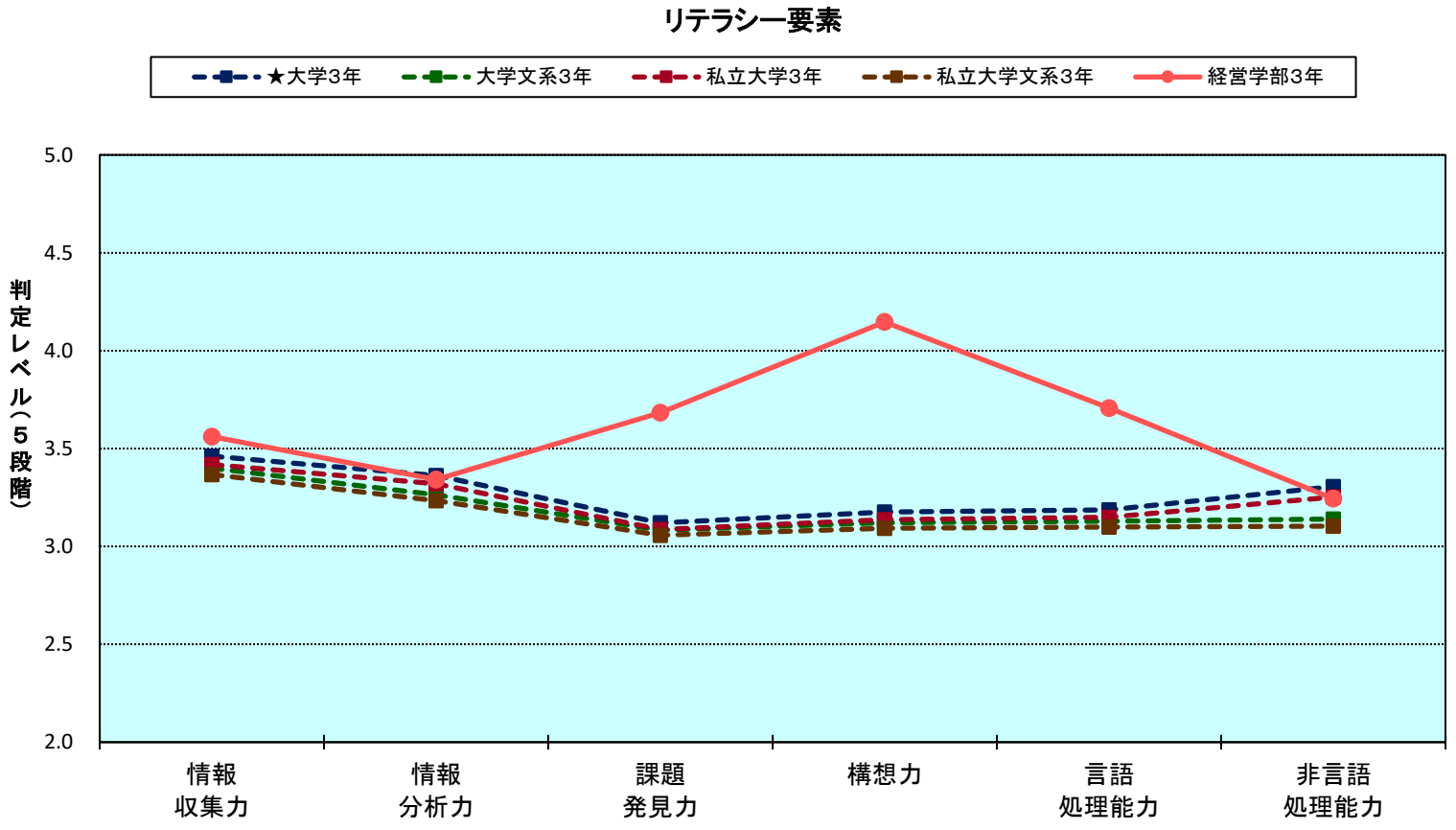


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

【経営学部3年】

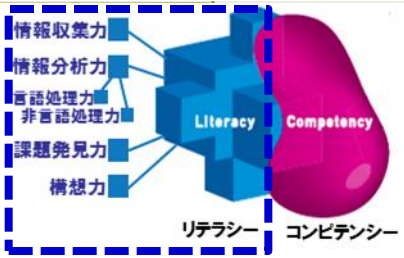
基準集団（★印）と比較して、課題発見力、構想力、言語処理能力の平均値は高く、情報収集力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報分析力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。

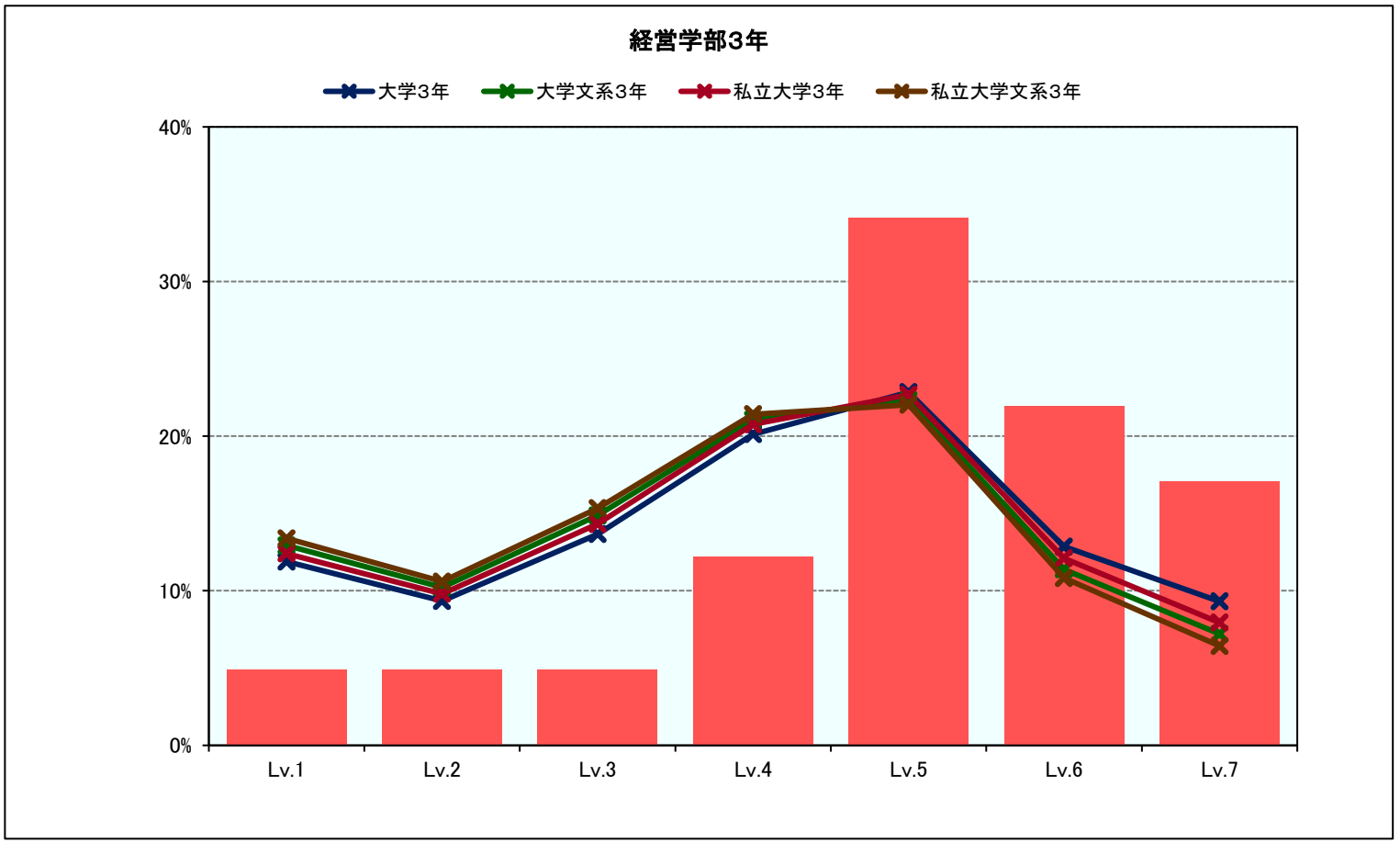


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





コンピテンシー総合　判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）

低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-4）	高（Lv.5-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

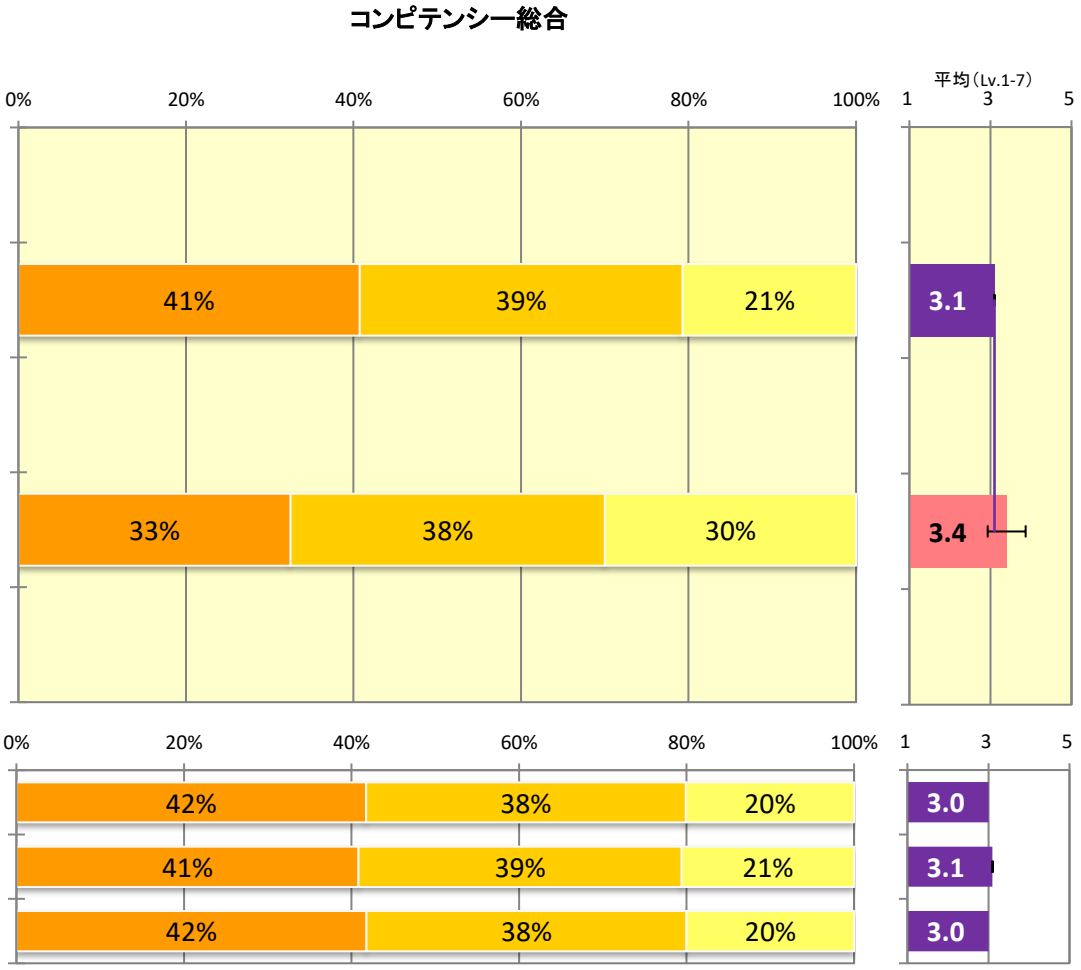
【基準集団】

★大学3年	286校　N=308,994

	χ2乗値	有意確率
経営学部3年	2.35	0.31

【ご参考基準集団】

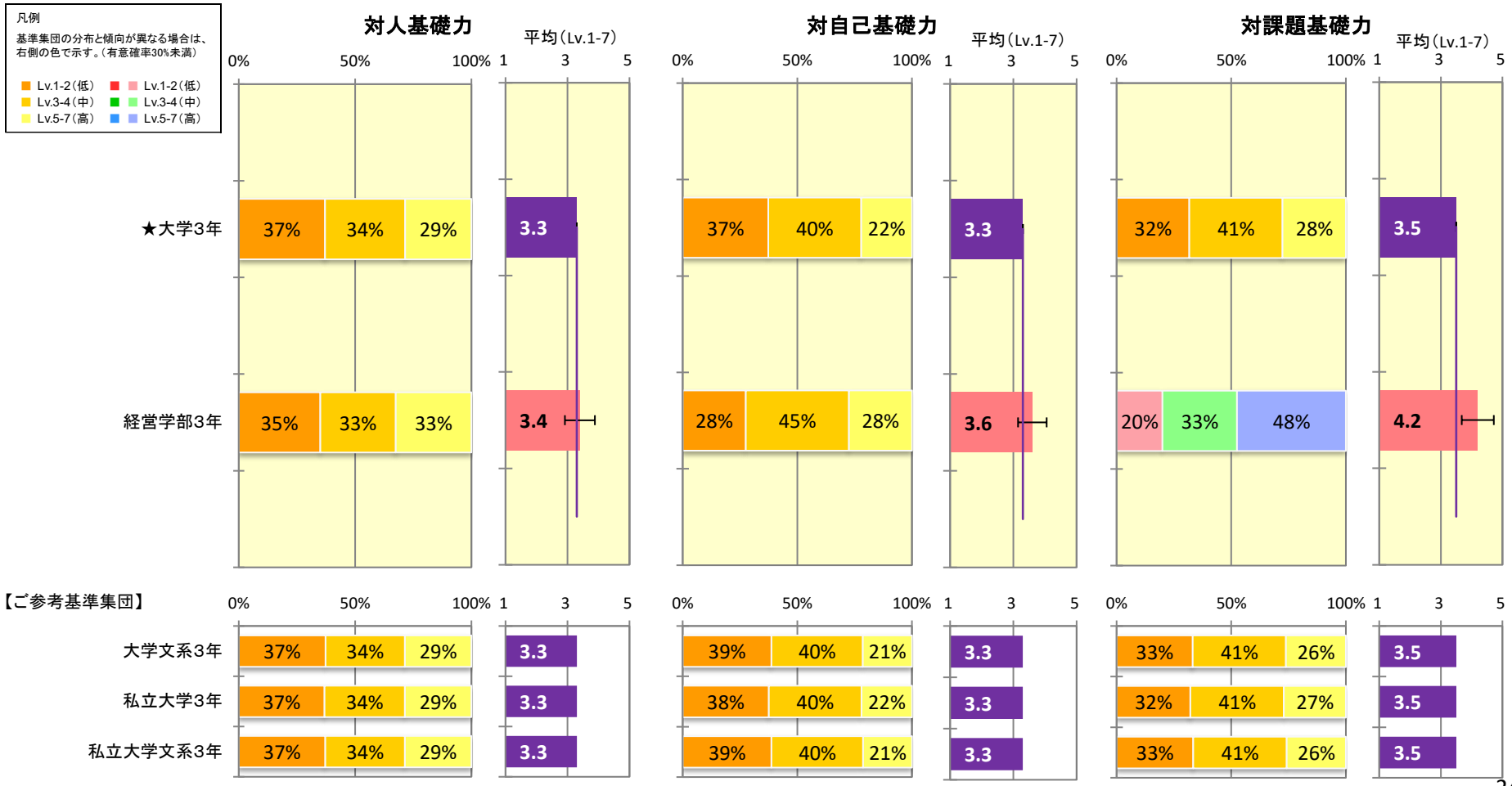
大学文系3年	186校　N=175,279
私立大学3年	227校　N=279,182
私立大学文系3年	160校　N=165,671



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素　判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
【対自己基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。
【対課題基礎力】
●基準集団（★印）と比較して、特に課題は見当たらない。

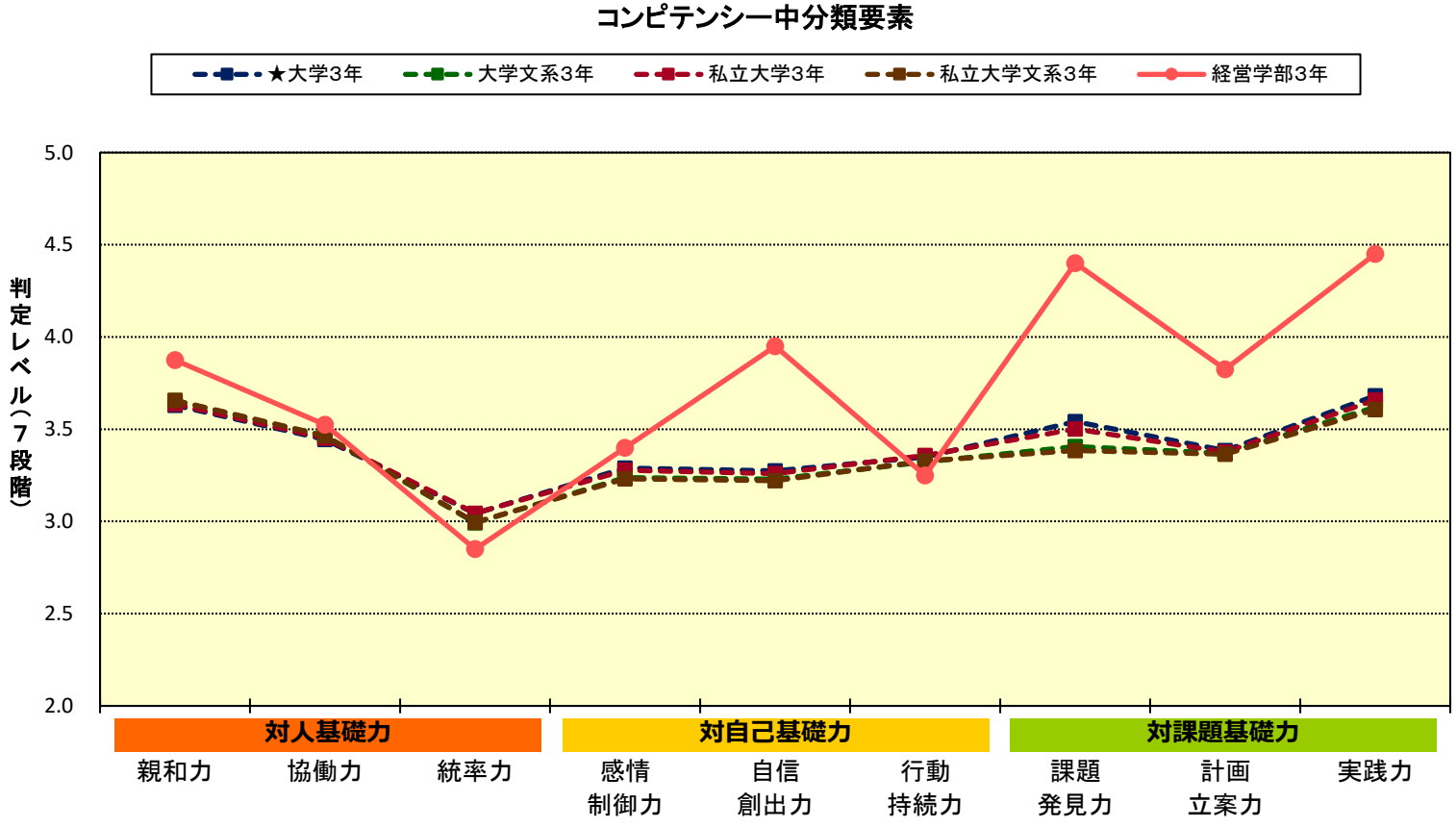


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー中分類要素　判定レベルに見る全体傾向

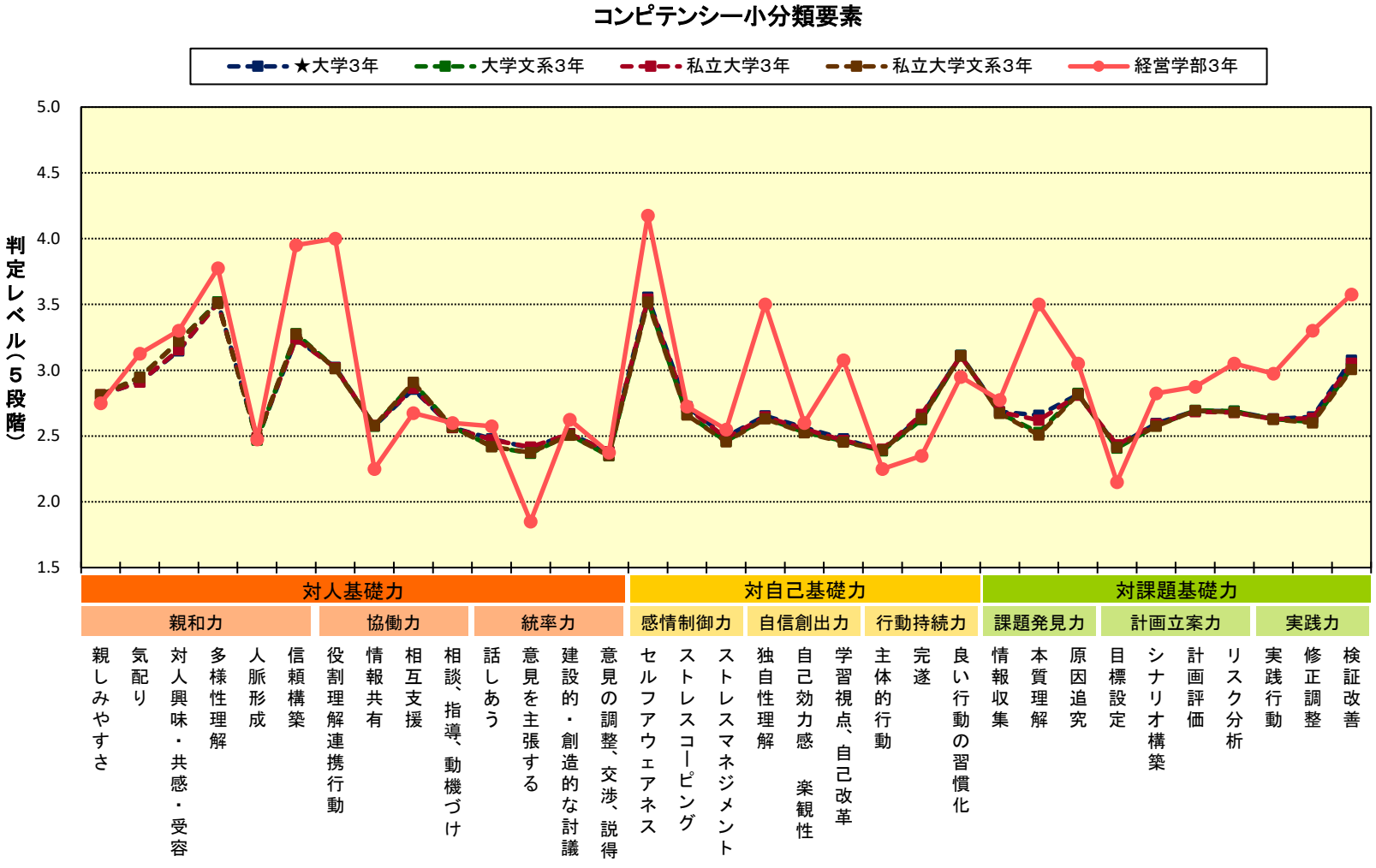
【経営学部3年】

基準集団（★印）と比較して、
自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は高く、親和力、協働力、感情制御力の平均値は上回る傾向にある。
一方、統率力、行動持続力の平均値は下回る傾向にある。



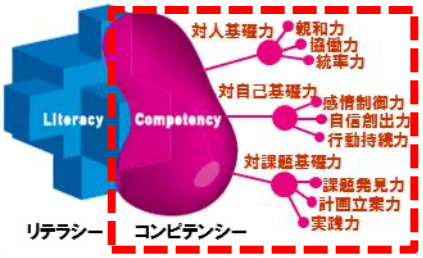
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。
1）標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
2）標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
3）基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
4）基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

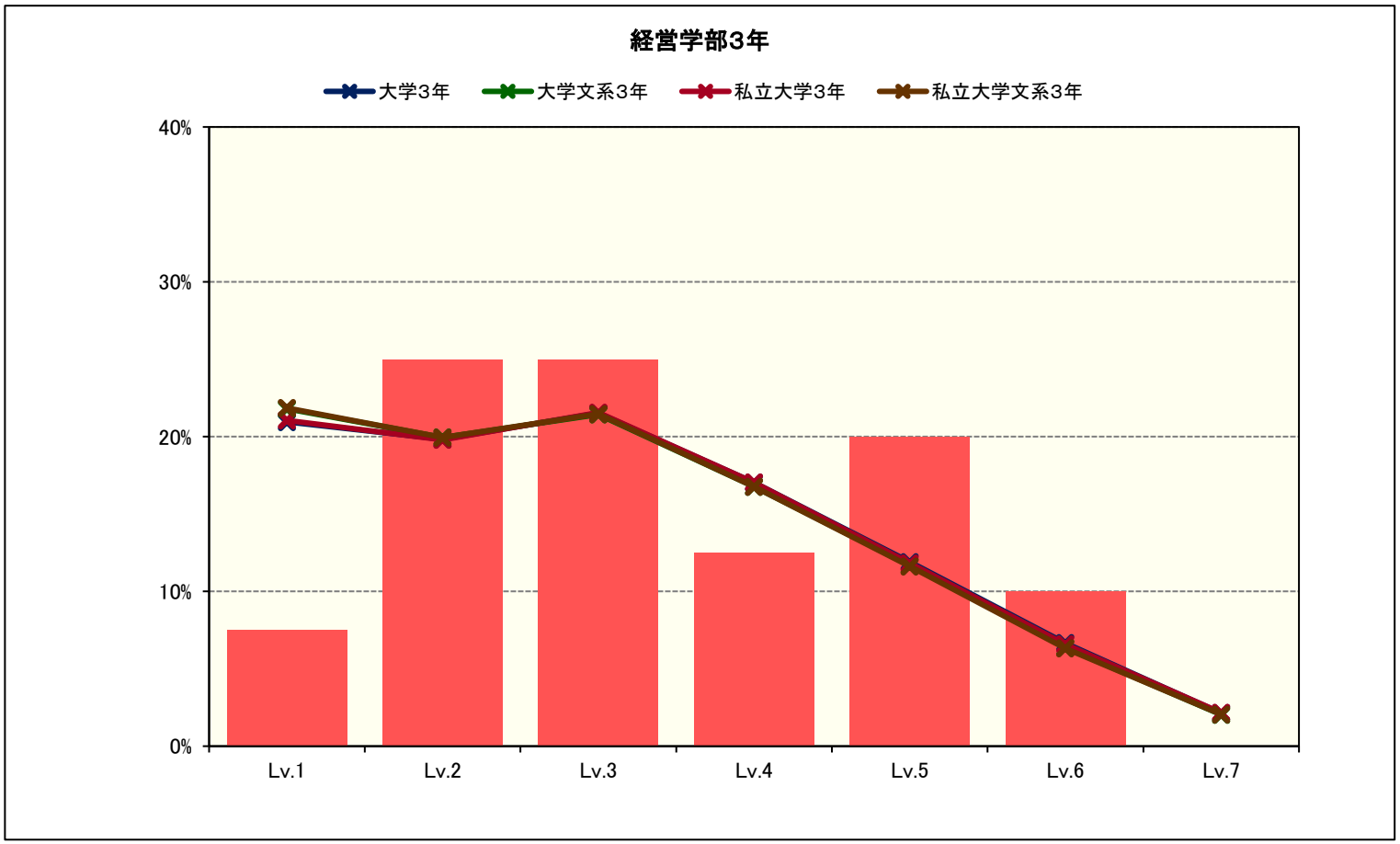
コンピテンシー小分類要素　判定レベルに見る全体傾向



コンピテンシー総合　判定レベルの分布

オプション分析





今後の課題と対策　まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
							対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
経営学部３年	-	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-	◎	-	◎	◎	◎

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

■・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる

▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる

△・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る

▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【経営学部３年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-1
3年生　成長分析
（大学全体）

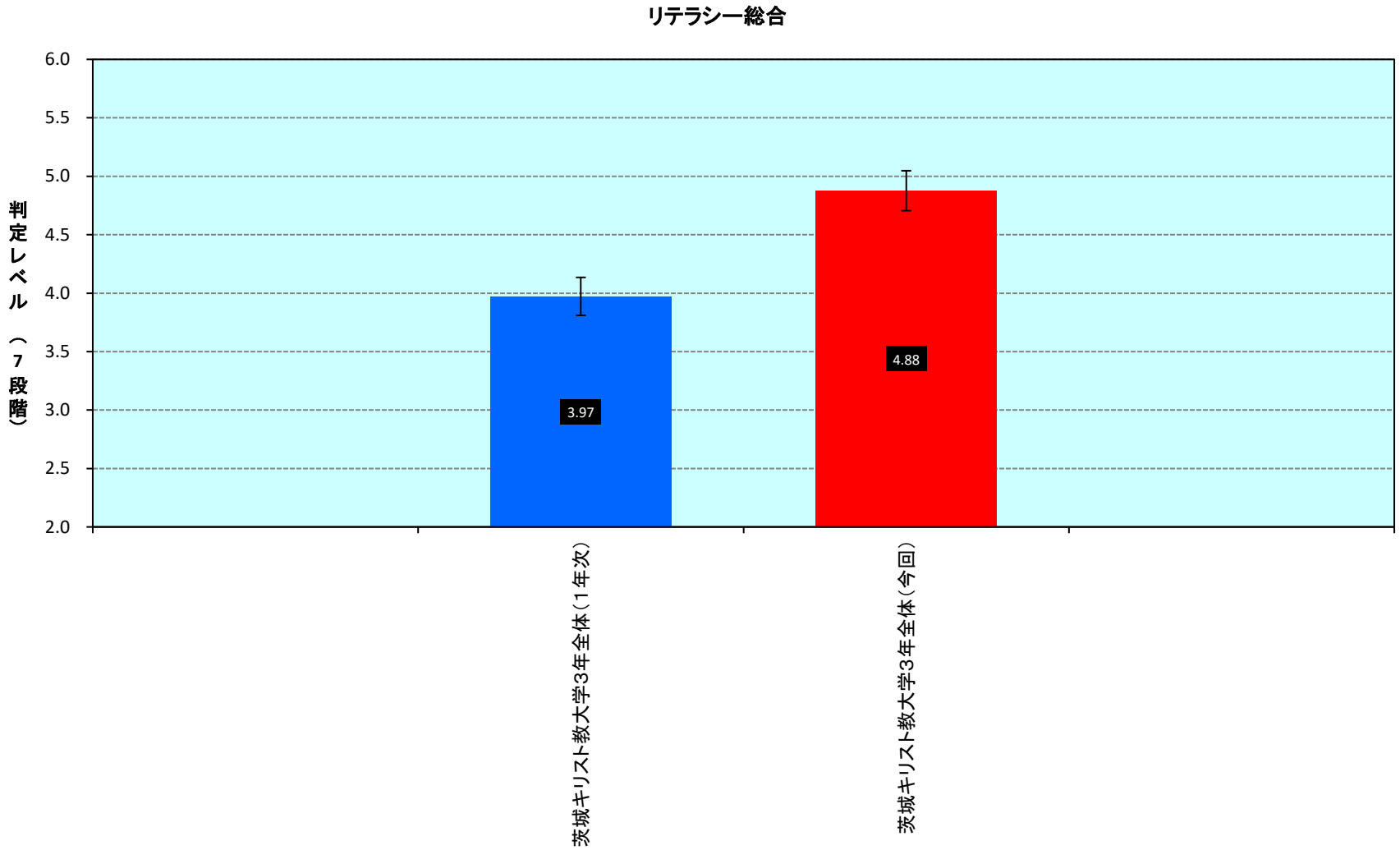
受験者プロフィール

学部	学科　専攻	1年次 2023年4月～5月 受験	3年次（今回） 2026年2月～3月 受験	集計対象者 （1年次・3年次 いずれも受験）
文学部	現代英語学科	73	57	55
	児童教育学科　児童教育専攻	63	45	42
	児童教育学科　幼児保育専攻	64	56	55
	文化交流学科	74	53	52
		274	211	204
生活科学部	心理福祉学科	76	60	60
	食物健康科学科	80	63	61
		156	123	121
看護学部	看護学科　※N版受験	93	87	87
		93	87	87
経営学部	経営学科	80	41	39
		80	41	39
合計		603	462	451

※看護学科はN版受験のため、学年全体には含めず集計いたします。（N版と大学版はコンピテンシー領域が異なるため）

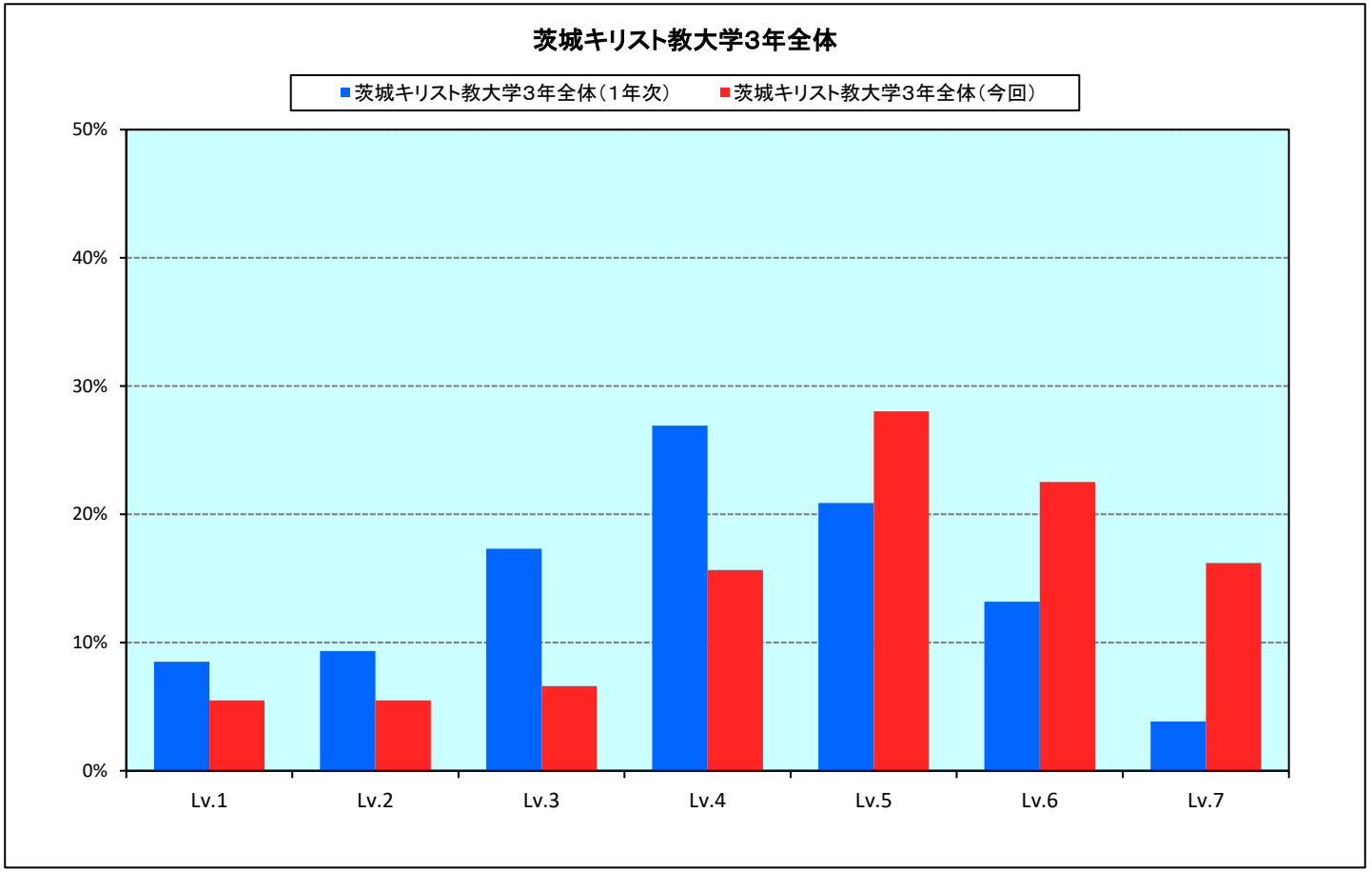
リテラシー総合（成長分析）

●茨城キリスト教大学3年全体は、1年次受験のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

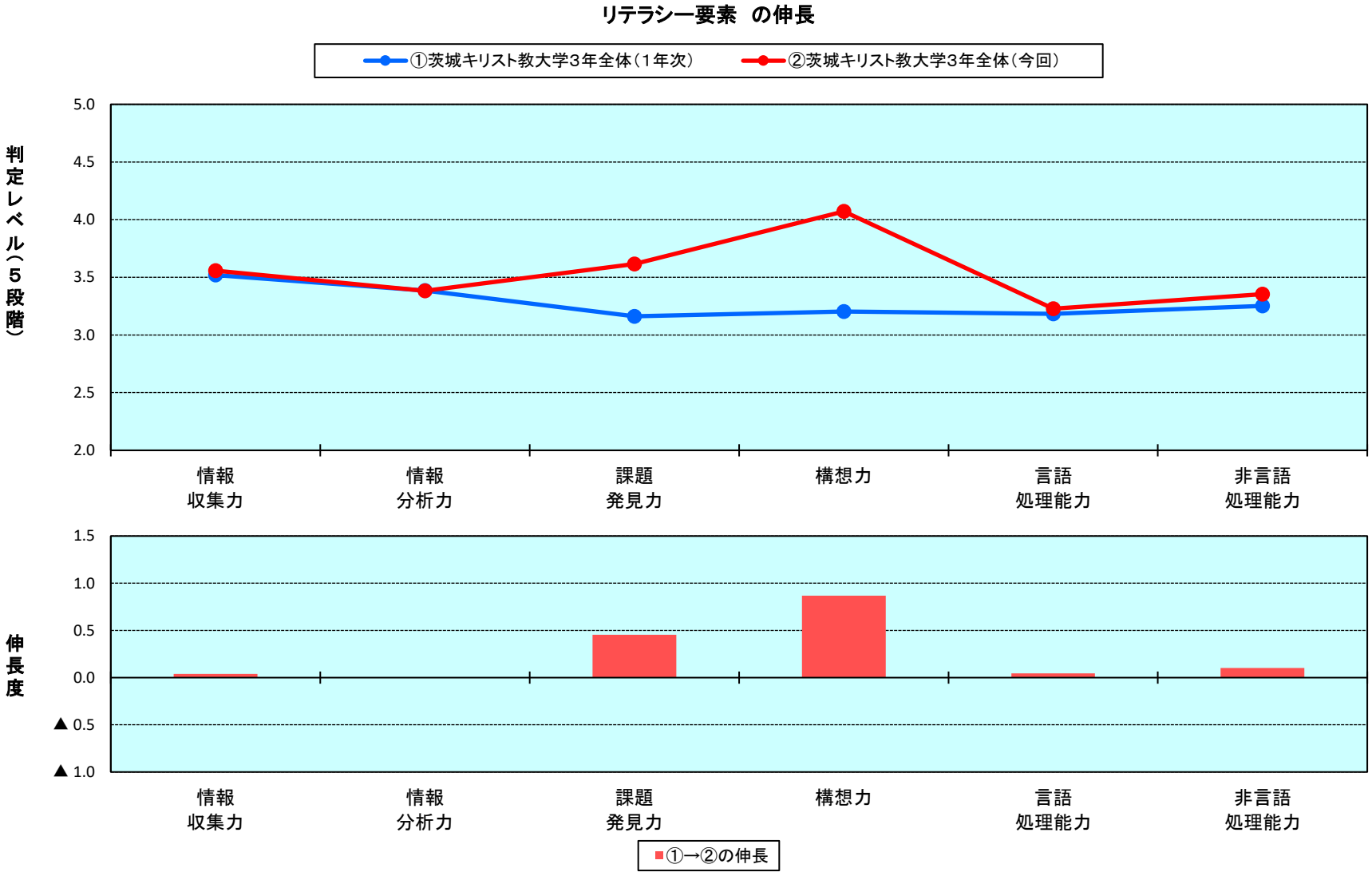
リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）



１年次受験に比べて、レベル１～４のボリュームが小さく、レベル５～７のボリュームが大きい。

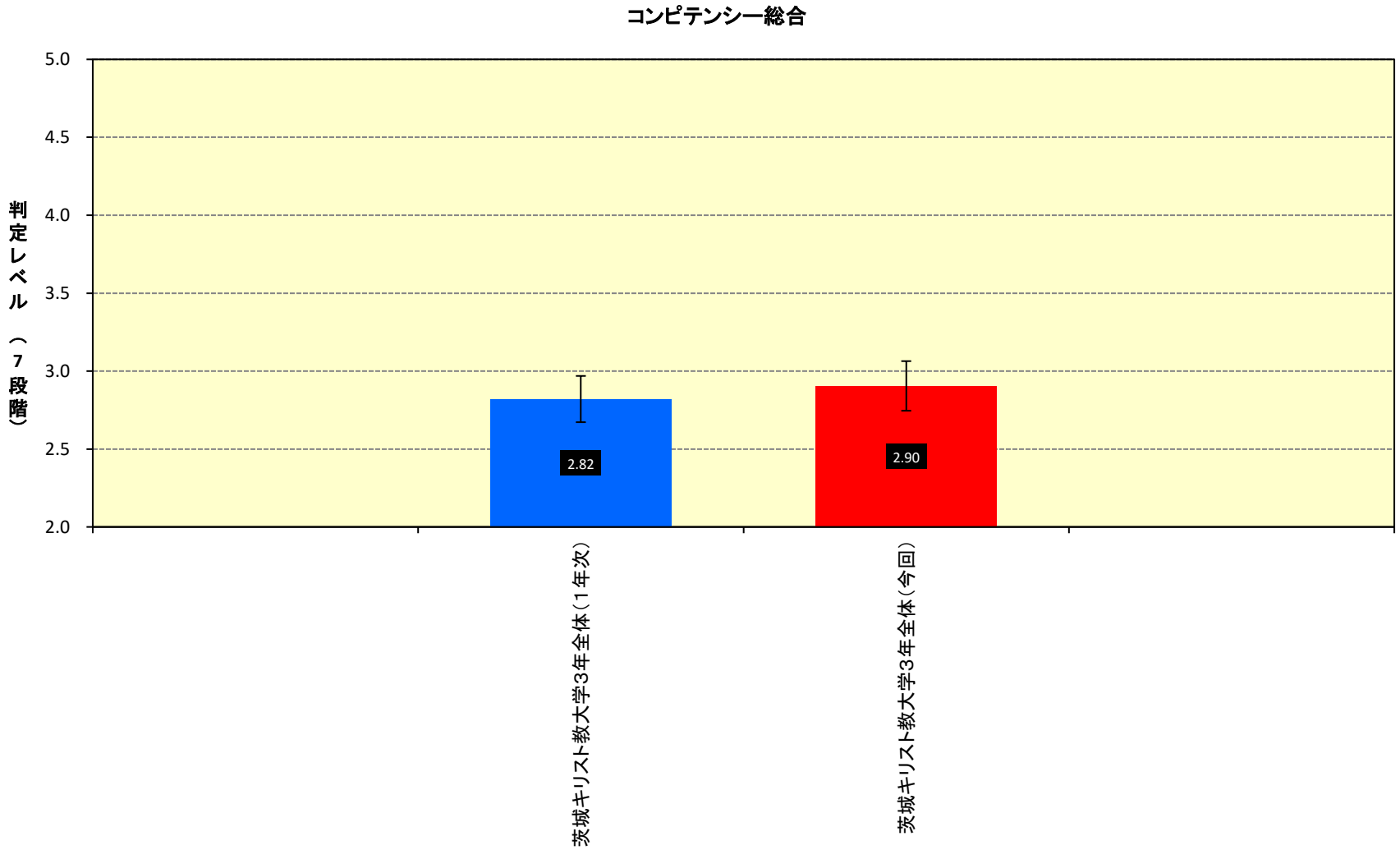
リテラシー要素（成長分析）

【茨城キリスト教大学3年全体】
情報収集力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、情報分析力は、1年次受験のスコアを下回る。



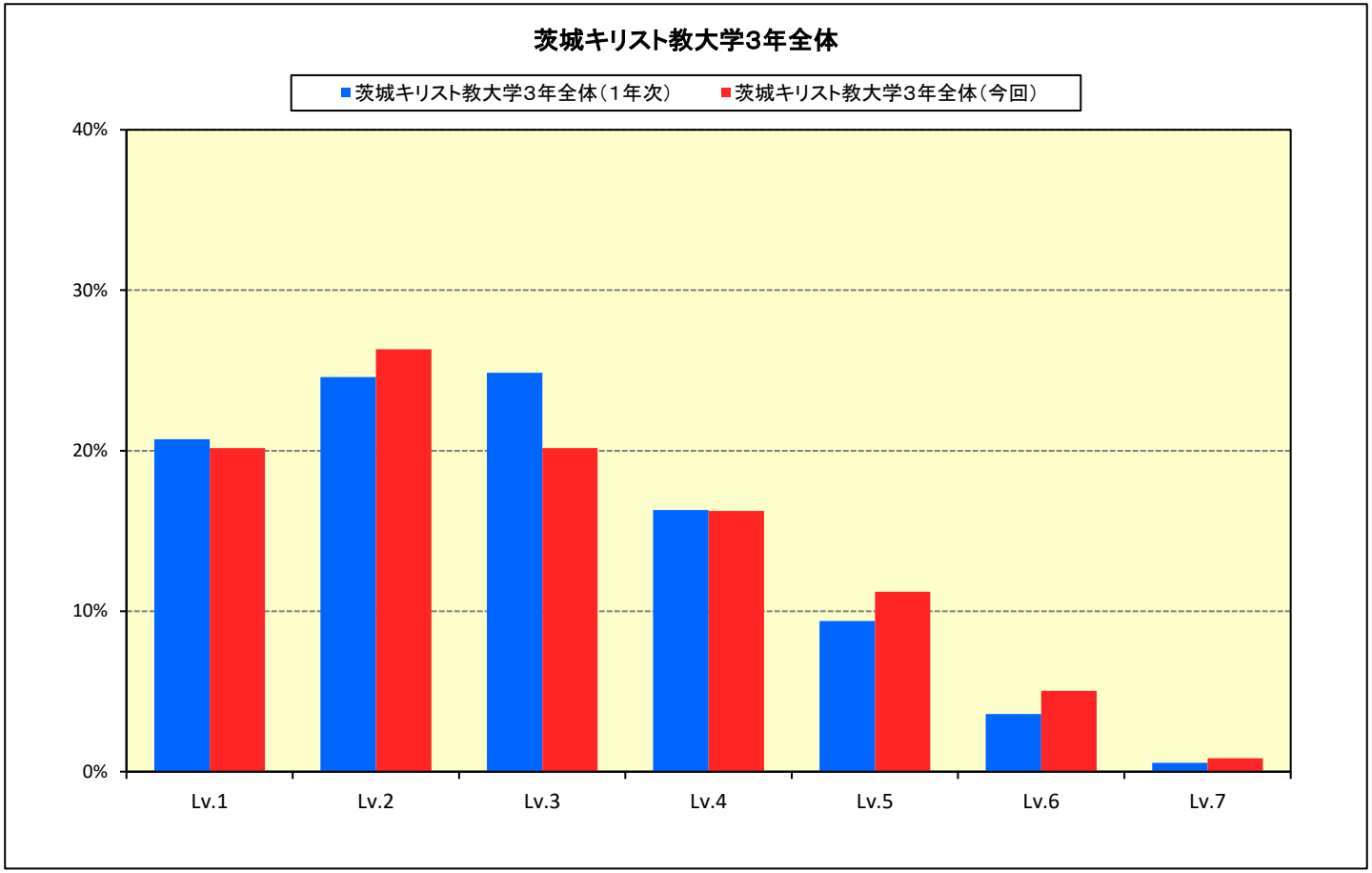
コンピテンシー総合（成長分析）

●茨城キリスト教大学3年全体は、1年次受験のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）



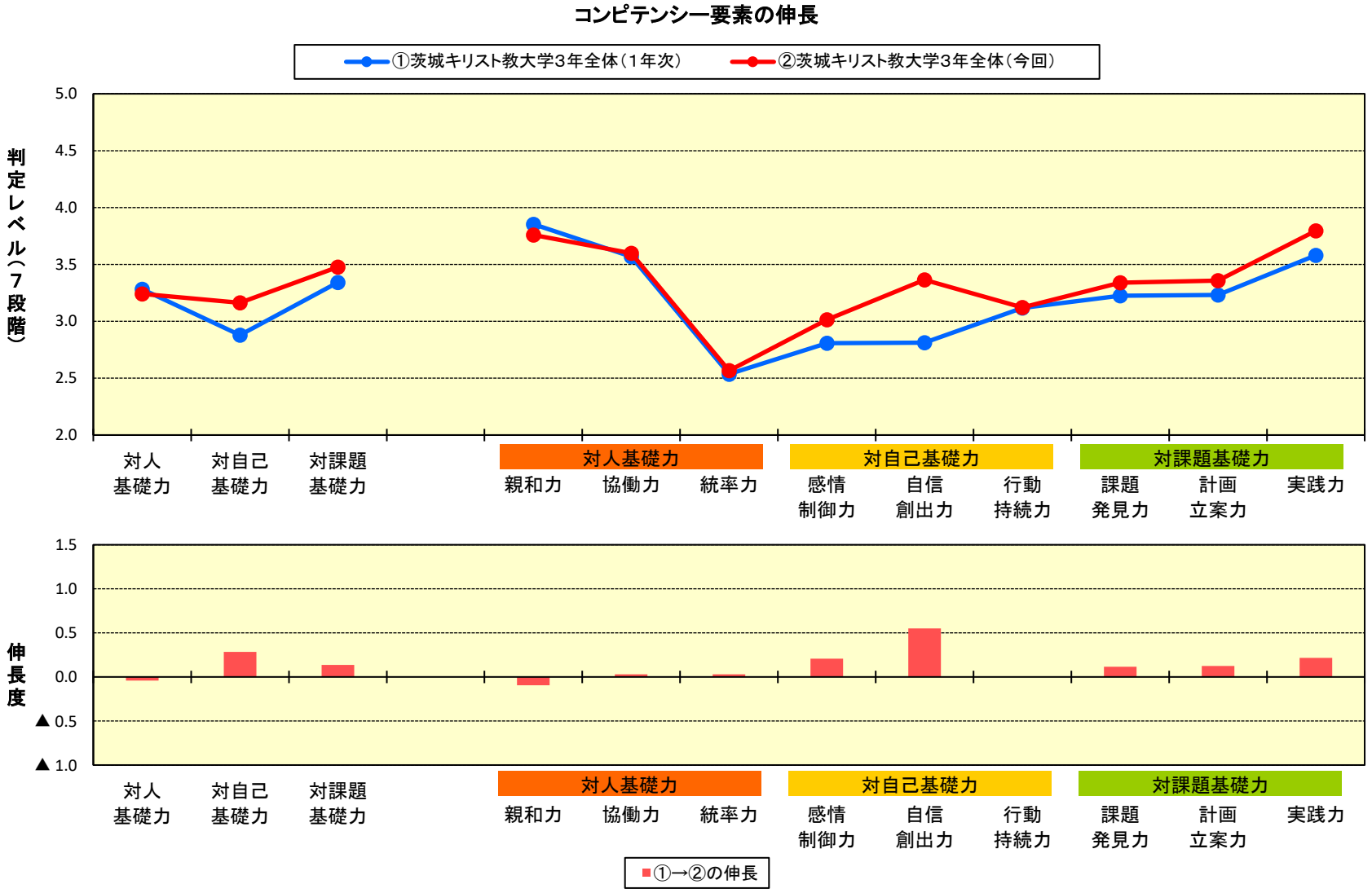
1年次受験に比べて、レベル3の割合が小さい。

コンピテンシー大中分類要素（成長分析）

【茨城キリスト教大学3年全体】

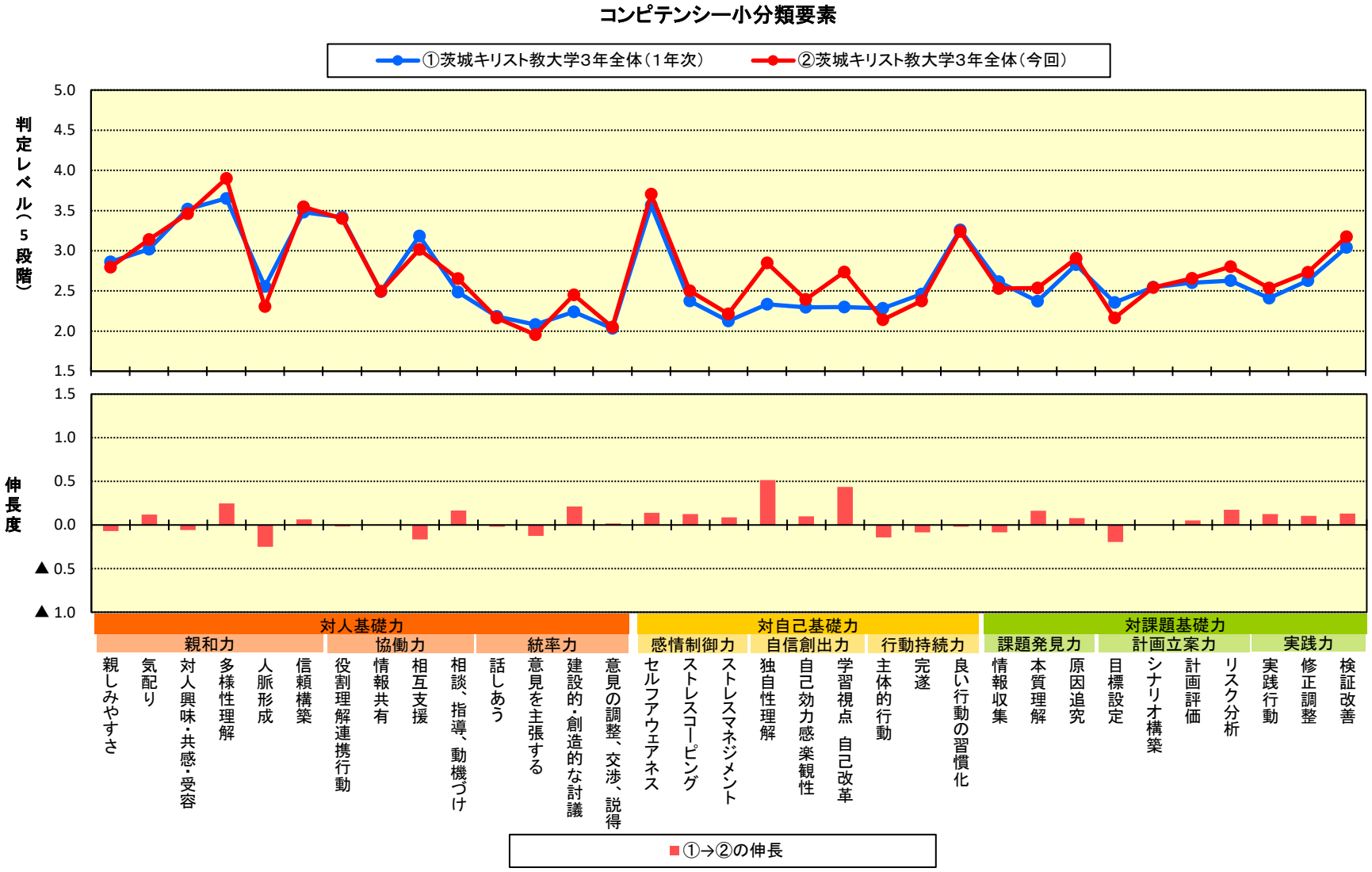
協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力は、1年次受験のスコアを下回る。



コンピテンシー小分類要素（成長分析）

【茨城キリスト教大学3年全体】

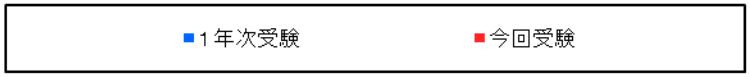


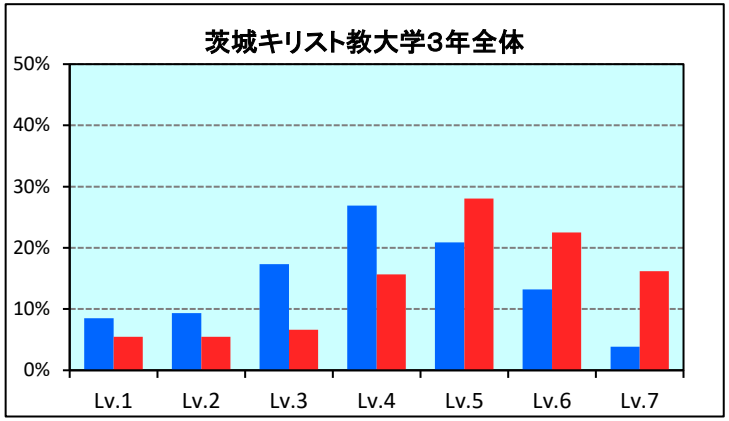
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

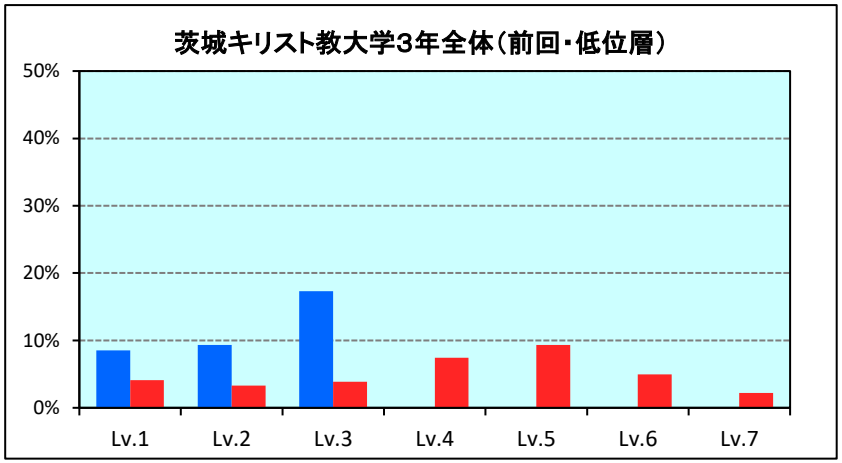
Part.2-1
3年生　成長分析
（大学全体）
高中低位分析

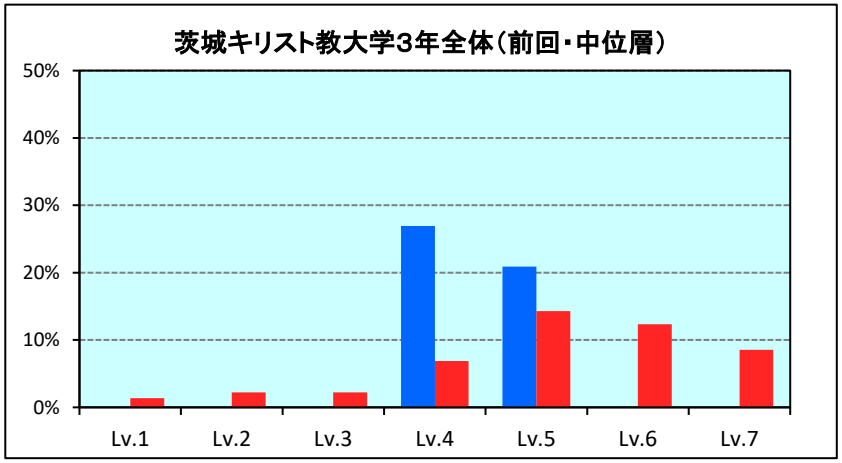
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

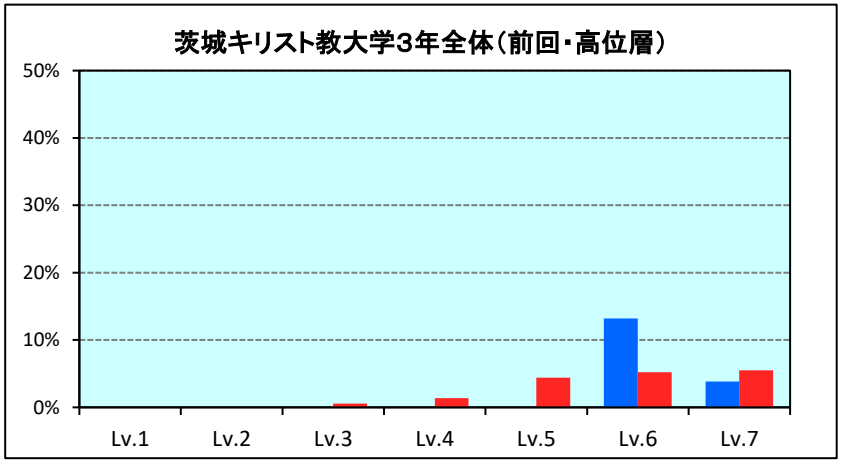




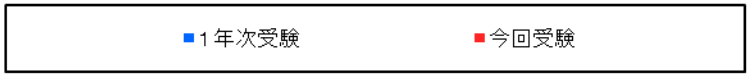
1年次受験に比べて、レベル1～4のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。

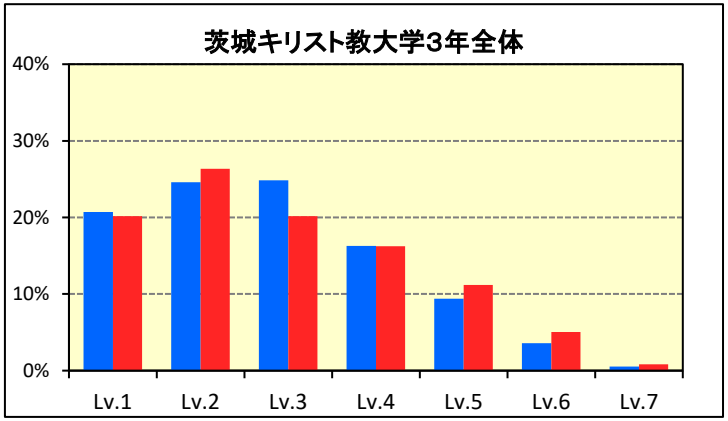




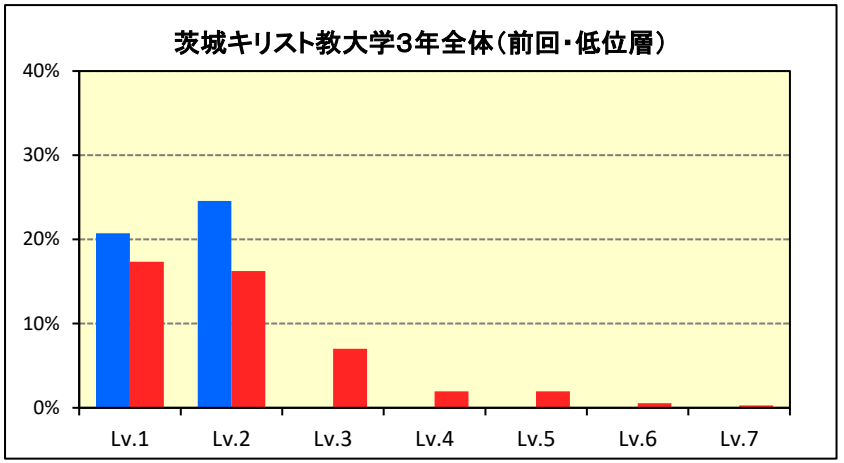


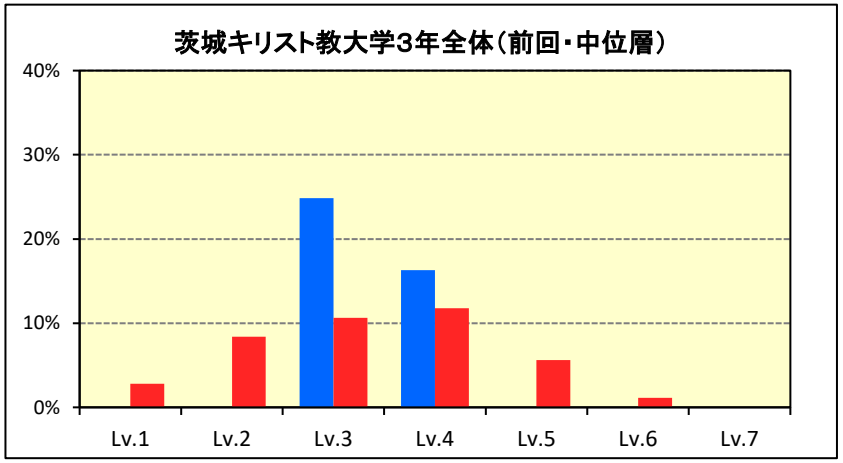
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

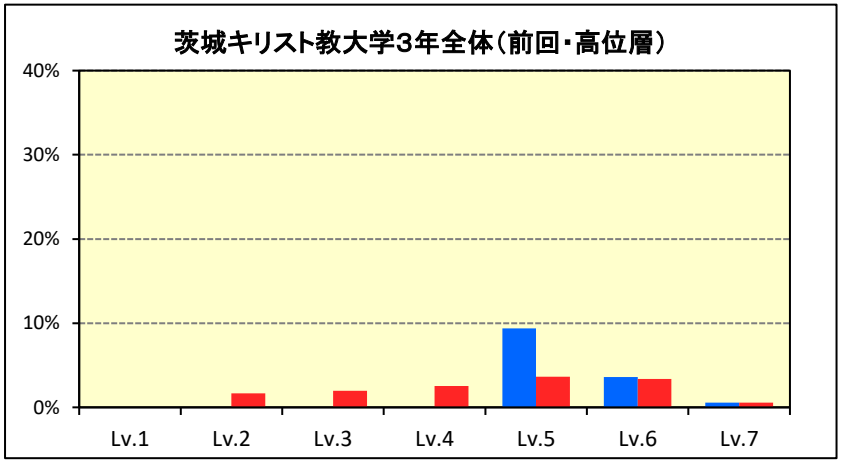




1年次受験に比べて、レベル3の割合が小さい。





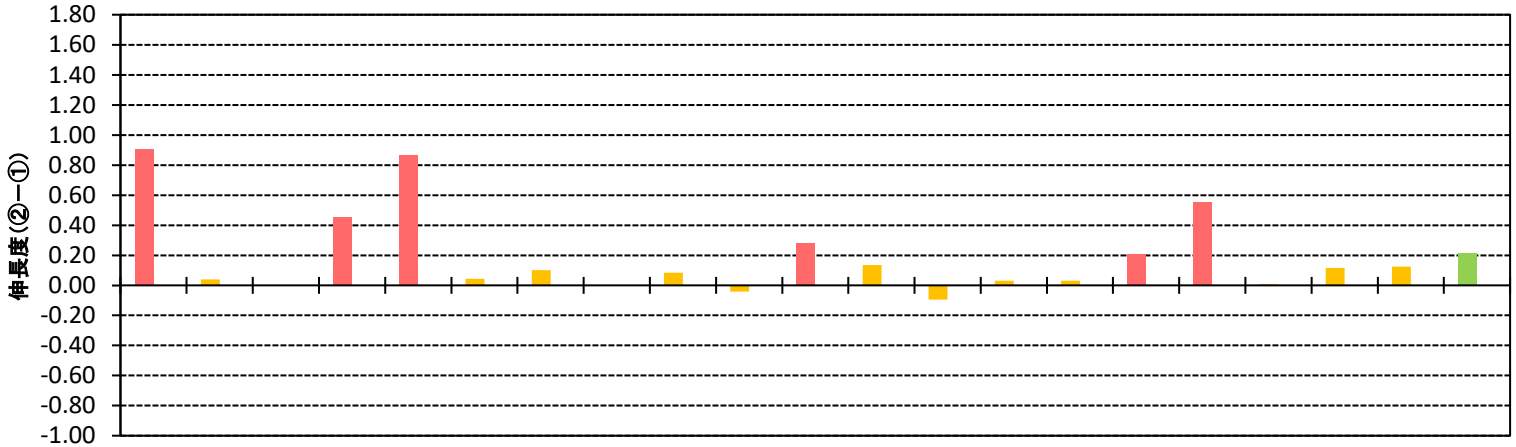


PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-1
3年生　成長分析
（大学全体）
T検定

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで)



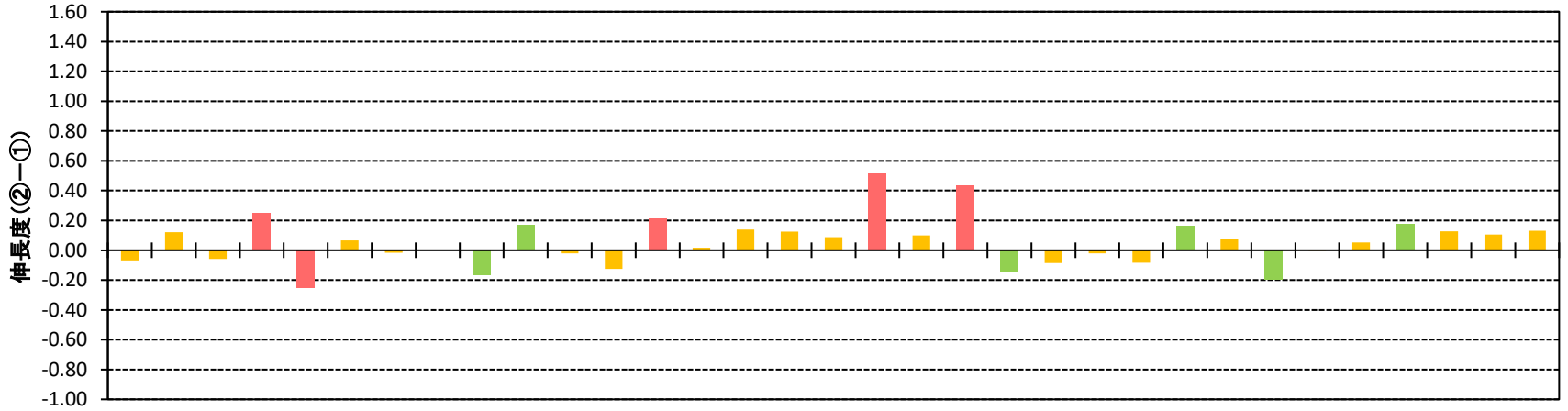
・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①茨城キリスト教大学3年全体(1年次)	3.97	3.52	3.38	3.16	3.20	3.18	3.25
②茨城キリスト教大学3年全体(今回)	4.88	3.56	3.38	3.62	4.07	3.23	3.35
伸長度(②－①)	0.90	0.04	0.00	0.45	0.87	0.04	0.10
t検定(P値)	0.00	0.67	0.97	0.00	0.00	0.60	0.21

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①茨城キリスト教大学3年全体(1年次)	2.82	3.28	2.88	3.34	3.85	3.57	2.54	2.81	2.81	3.12	3.22	3.23	3.58
②茨城キリスト教大学3年全体(今回)	2.90	3.24	3.16	3.48	3.76	3.60	2.57	3.01	3.36	3.12	3.34	3.36	3.80
伸長度(②－①)	0.08	−0.04	0.28	0.14	−0.09	0.03	0.03	0.21	0.55	0.01	0.12	0.12	0.22
t検定(P値)	0.22	0.71	0.00	0.12	0.37	0.56	0.65	0.01	0.00	0.89	0.24	0.18	0.02

T検定結果（コンピテンシー小分類）

オプション分析



・・・1%有意
・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①茨城キリスト教大学3年全体（1年次）	2.86	3.02	3.52	3.65	2.56	3.48	3.42	2.49	3.18	2.49	2.18	2.08	2.24	2.03	3.56	2.38	2.12	2.33	2.30	2.30	2.28	2.46	3.26	2.61	2.37	2.83	2.36	2.54	2.60	2.63	2.41	2.63	3.04
②茨城キリスト教大学3年全体（今回）	2.79	3.14	3.46	3.90	2.31	3.55	3.40	2.50	3.02	2.65	2.16	1.96	2.45	2.05	3.70	2.50	2.21	2.85	2.39	2.73	2.14	2.38	3.24	2.53	2.54	2.90	2.16	2.54	2.65	2.80	2.54	2.73	3.17
伸長度（②－①）	−0.07	0.12	−0.06	0.25	−0.25	0.07	−0.02	0.00	−0.17	0.17	−0.02	−0.12	0.21	0.02	0.14	0.13	0.09	0.52	0.10	0.44	−0.14	−0.09	−0.02	−0.08	0.16	0.08	−0.19	0.00	0.05	0.18	0.13	0.11	0.13
t検定（P値）	0.35	0.10	0.57	0.00	0.00	0.42	0.95	0.85	0.03	0.03	0.76	0.08	0.00	0.84	0.06	0.11	0.11	0.00	0.17	0.00	0.04	0.32	0.78	0.31	0.04	0.37	0.01	0.97	0.56	0.04	0.18	0.19	0.18

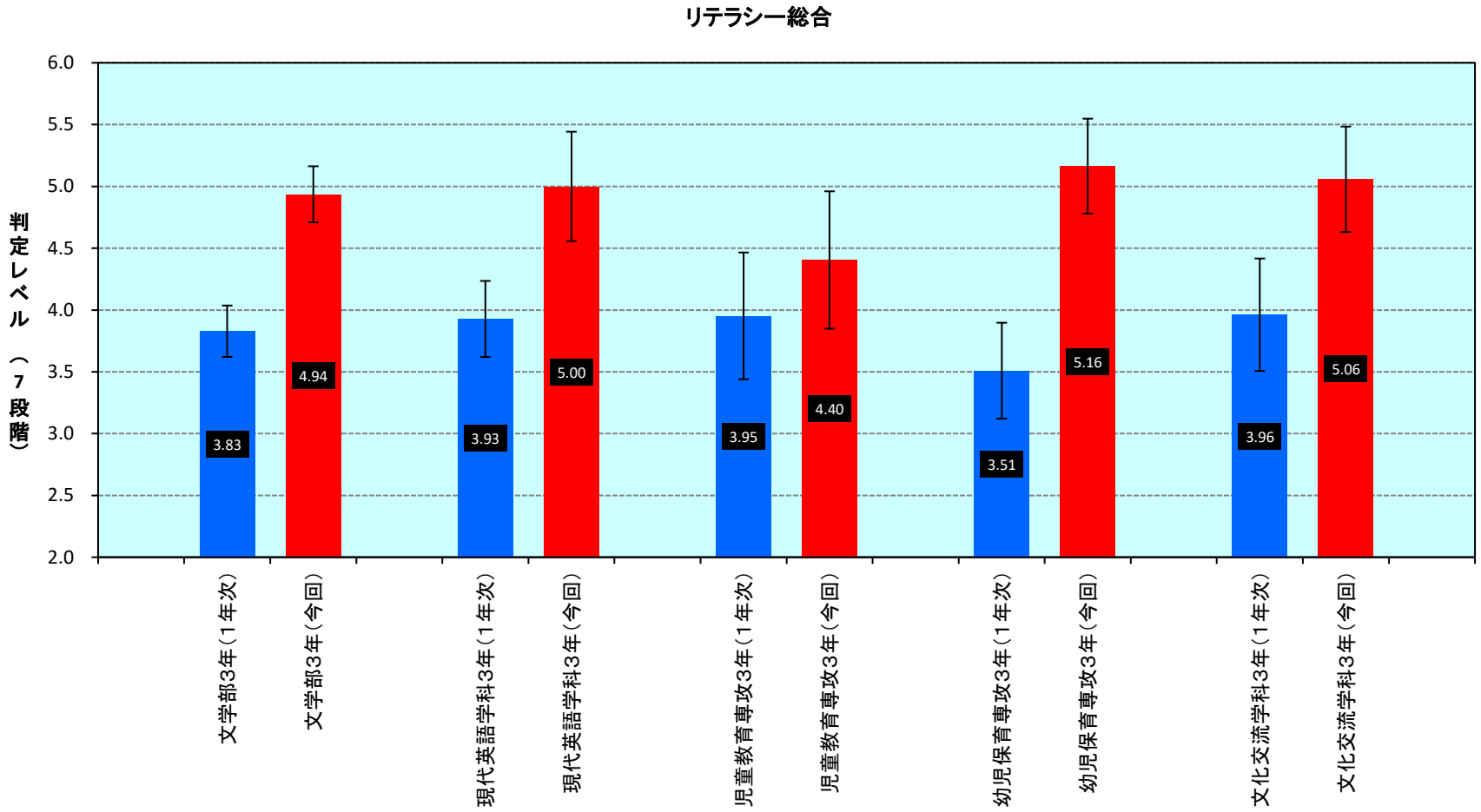
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-2
3年生　成長分析
（文学部）

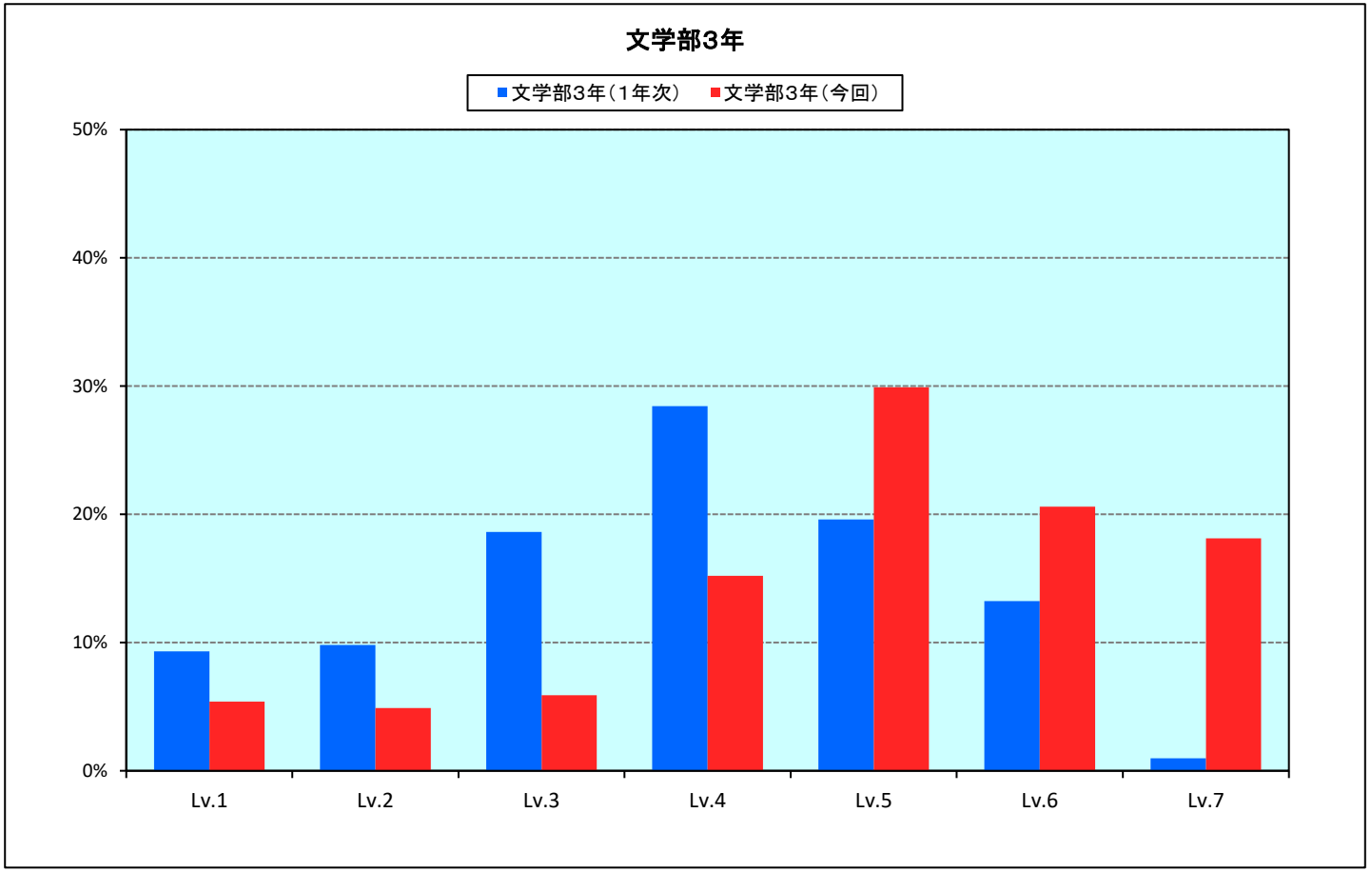
リテラシー総合（成長分析）

●文学部3年、現代英語学科3年、児童教育専攻3年、幼児保育専攻3年、文化交流学科3年は、1年次受験のスコアを上回る。



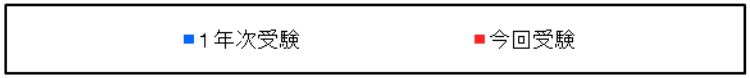
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

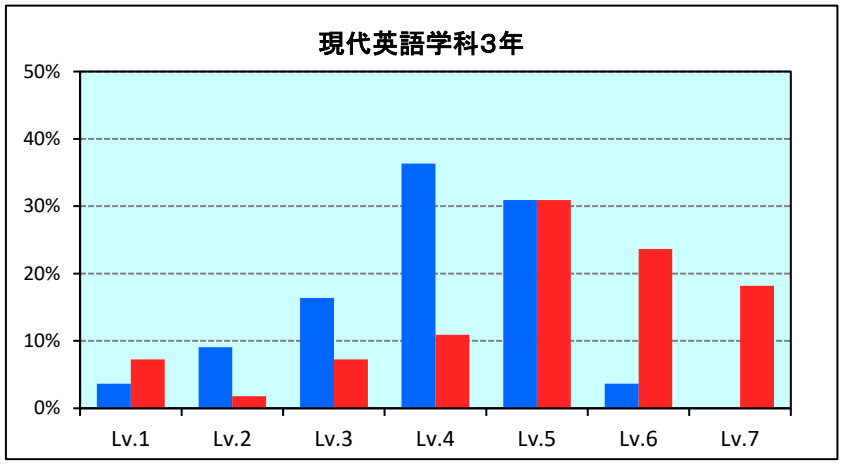
リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）①



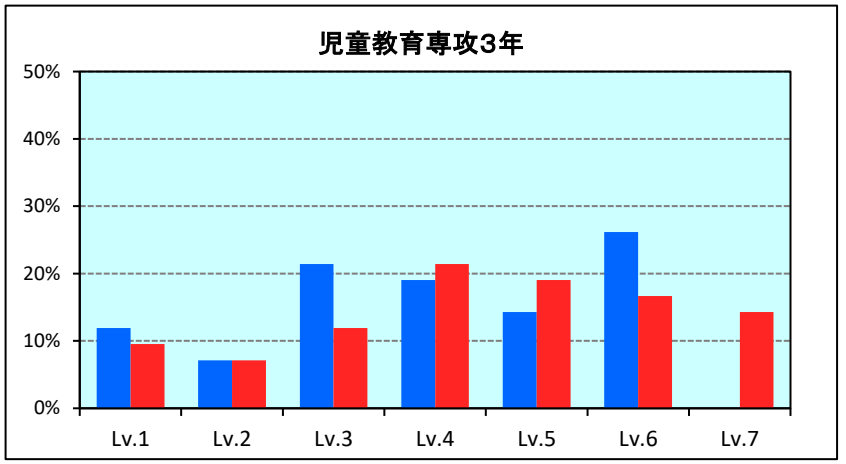
１年次受験に比べて、レベル１～４のボリュームが小さく、レベル５～７のボリュームが大きい。

リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）②

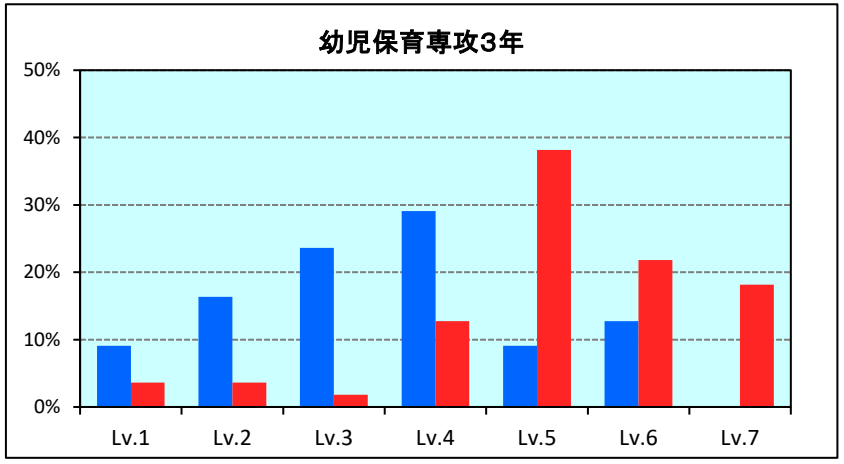




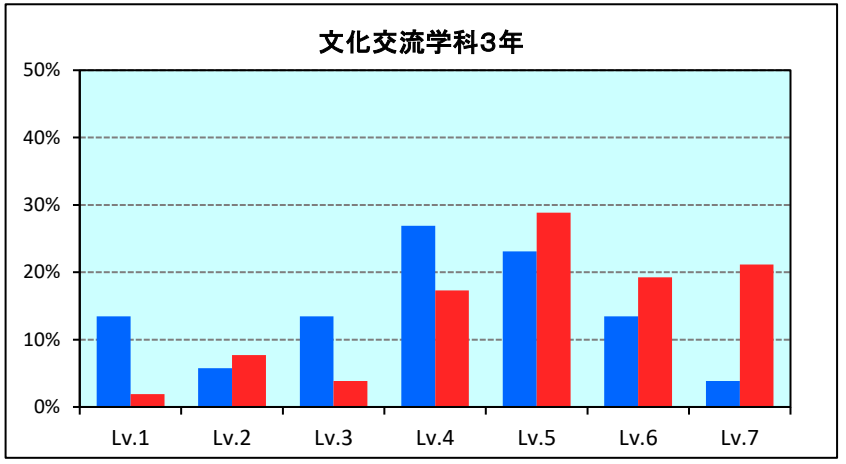
1年次受験に比べて、レベル2～4のボリュームが小さく、レベル1、レベル6～7のボリュームが大きい。



1年次受験に比べて、レベル3、レベル6の割合が小さく、レベル5、レベル7の割合が大きい。



1年次受験に比べて、レベル1～4のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。

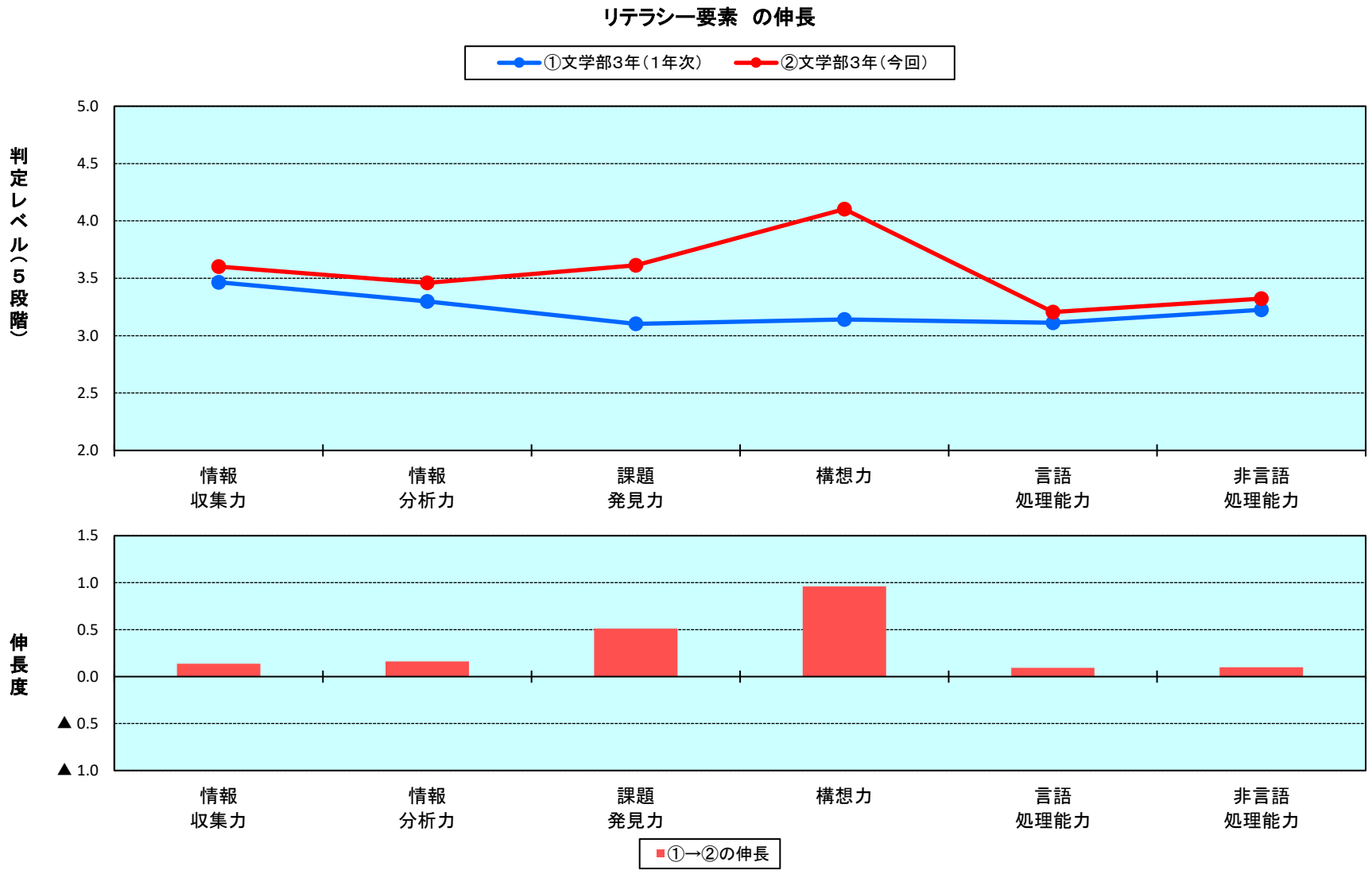


1年次受験に比べて、レベル1、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。

リテラシー要素（成長分析）①

【文学部3年】

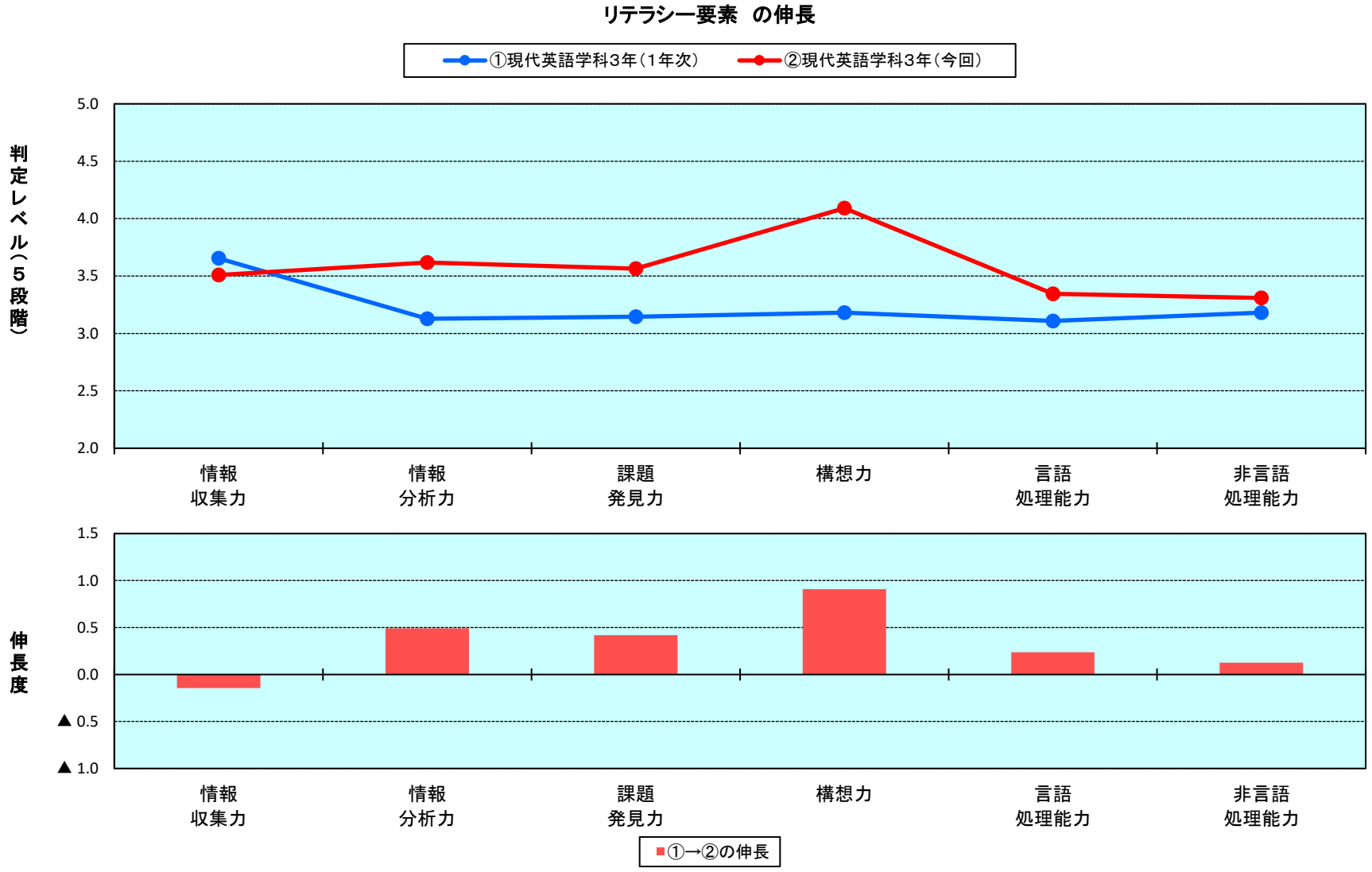
情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。



リテラシー要素（成長分析）②

【現代英語学科3年】

情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、情報収集力は、1年次受験のスコアを下回る。

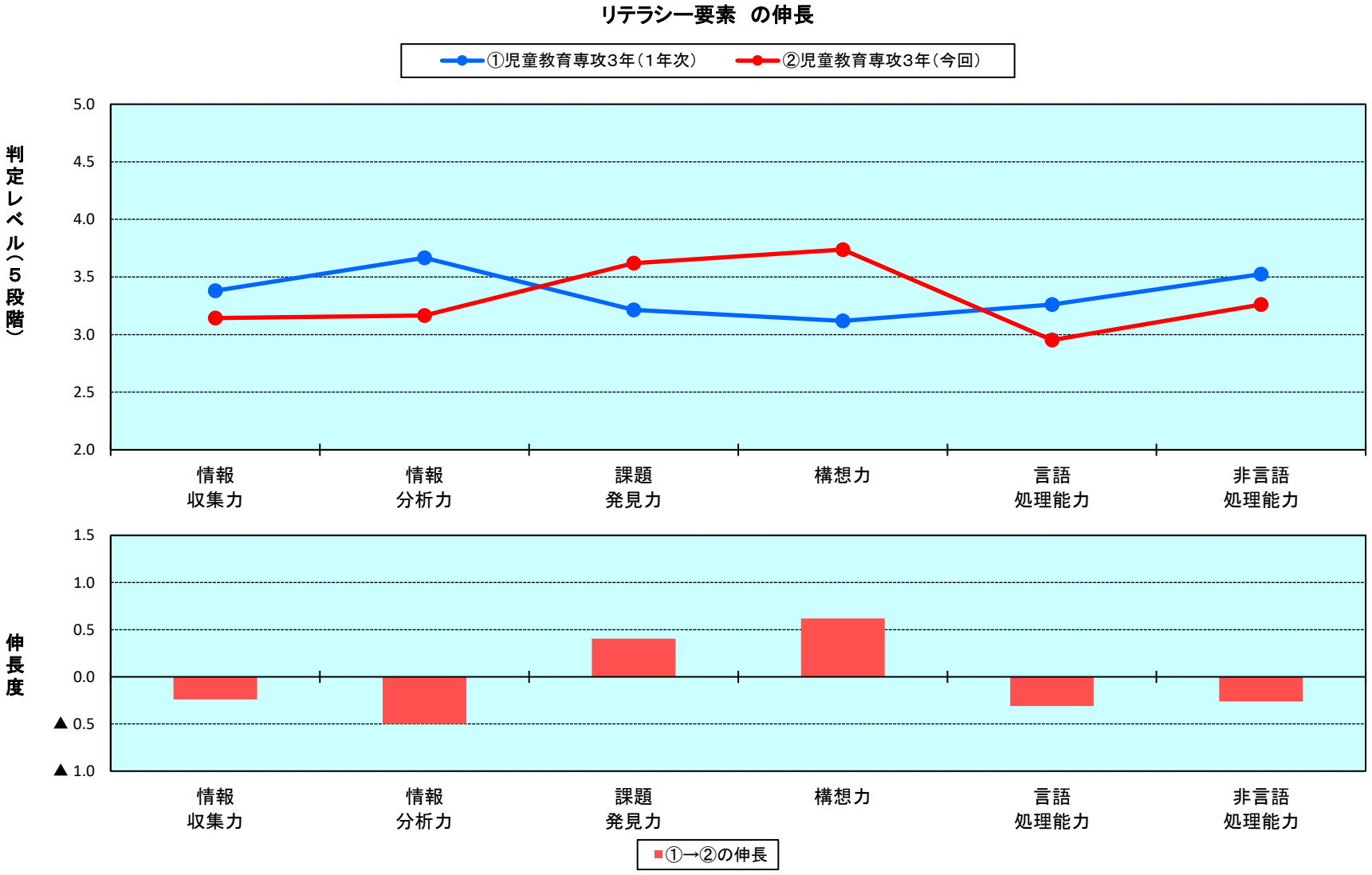


リテラシー要素（成長分析）③

【児童教育専攻3年】

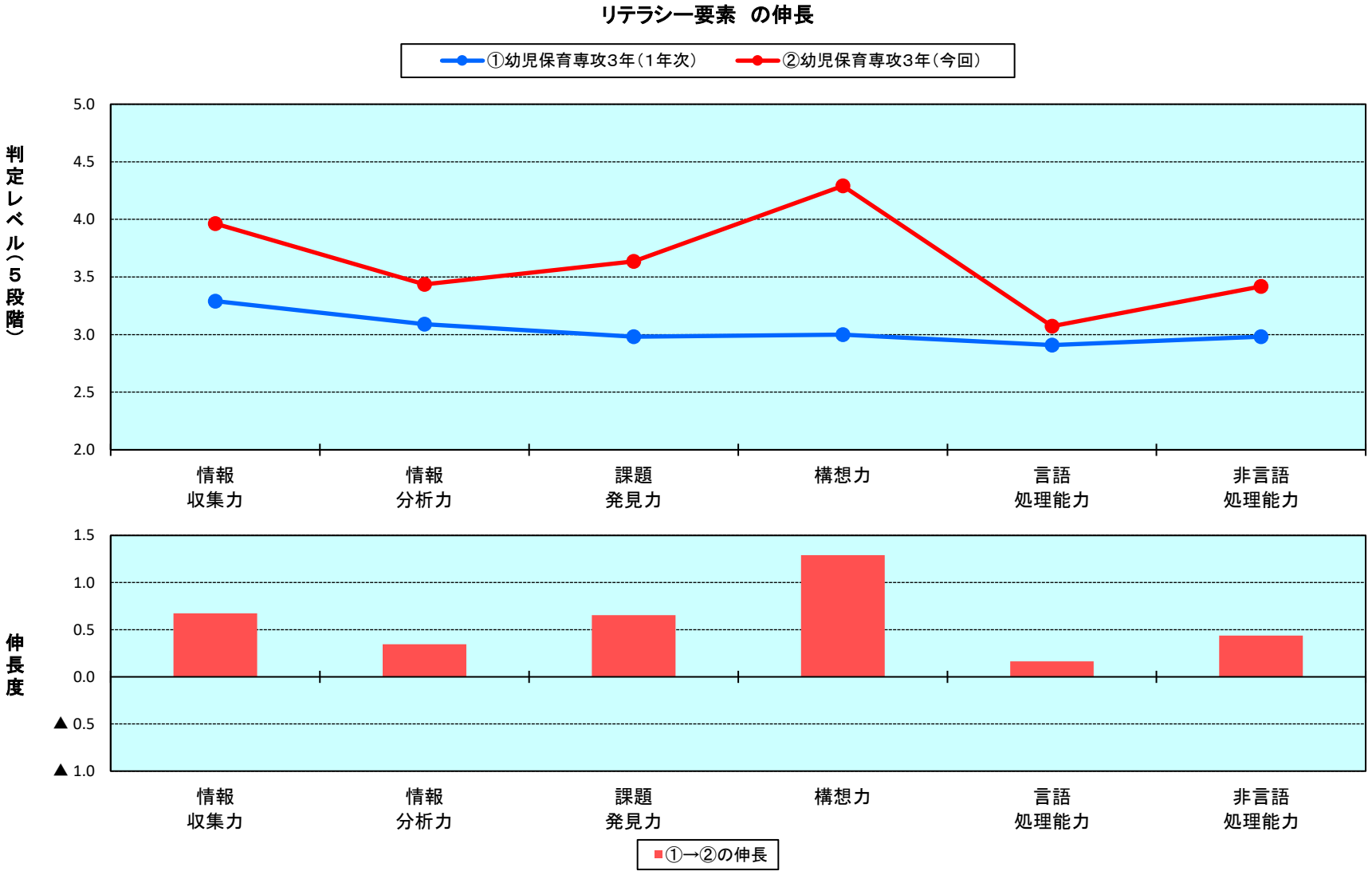
課題発見力、構想力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



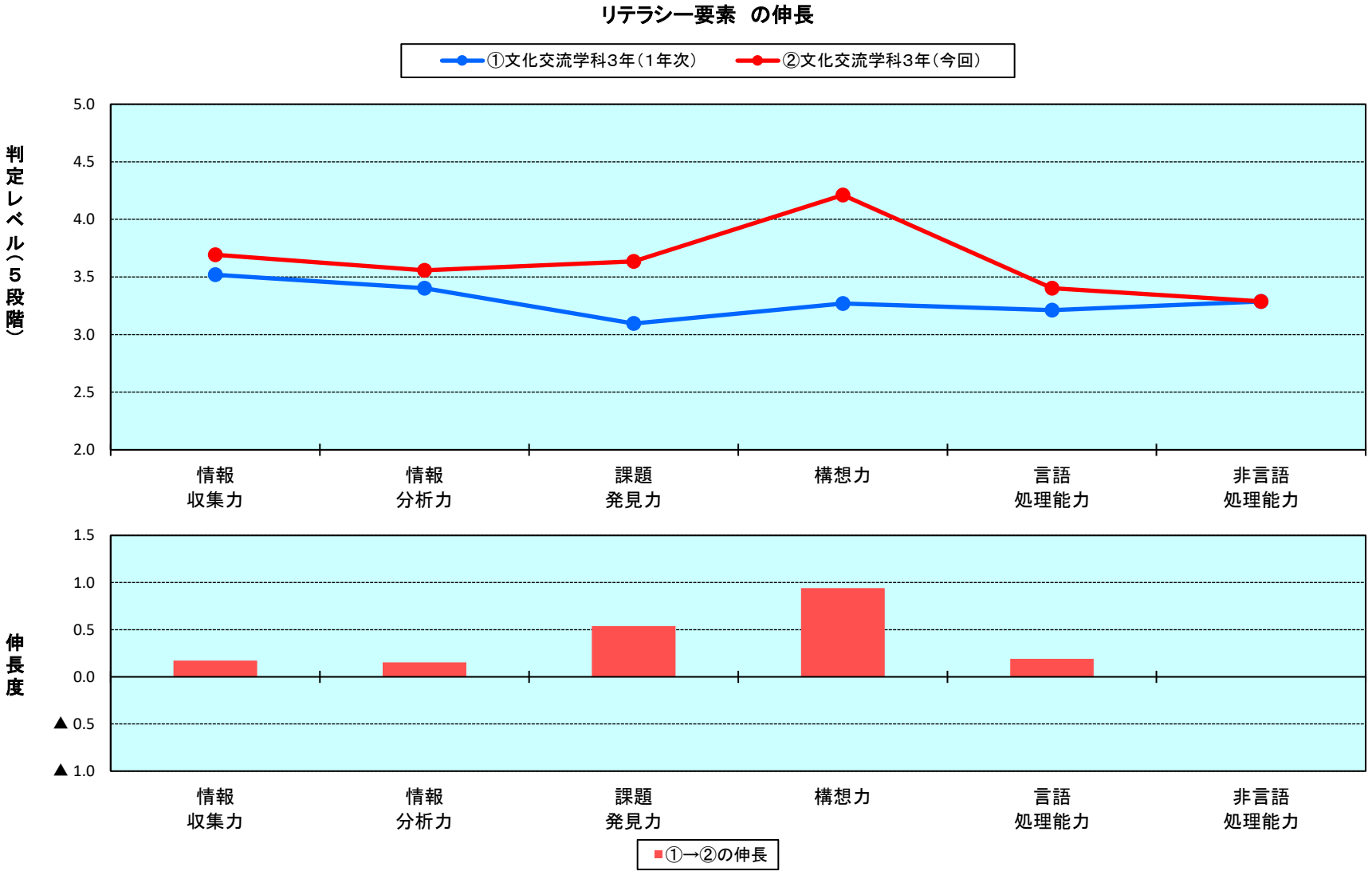
リテラシー要素（成長分析）④

【幼児保育専攻3年】
情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。



リテラシー要素（成長分析）⑤

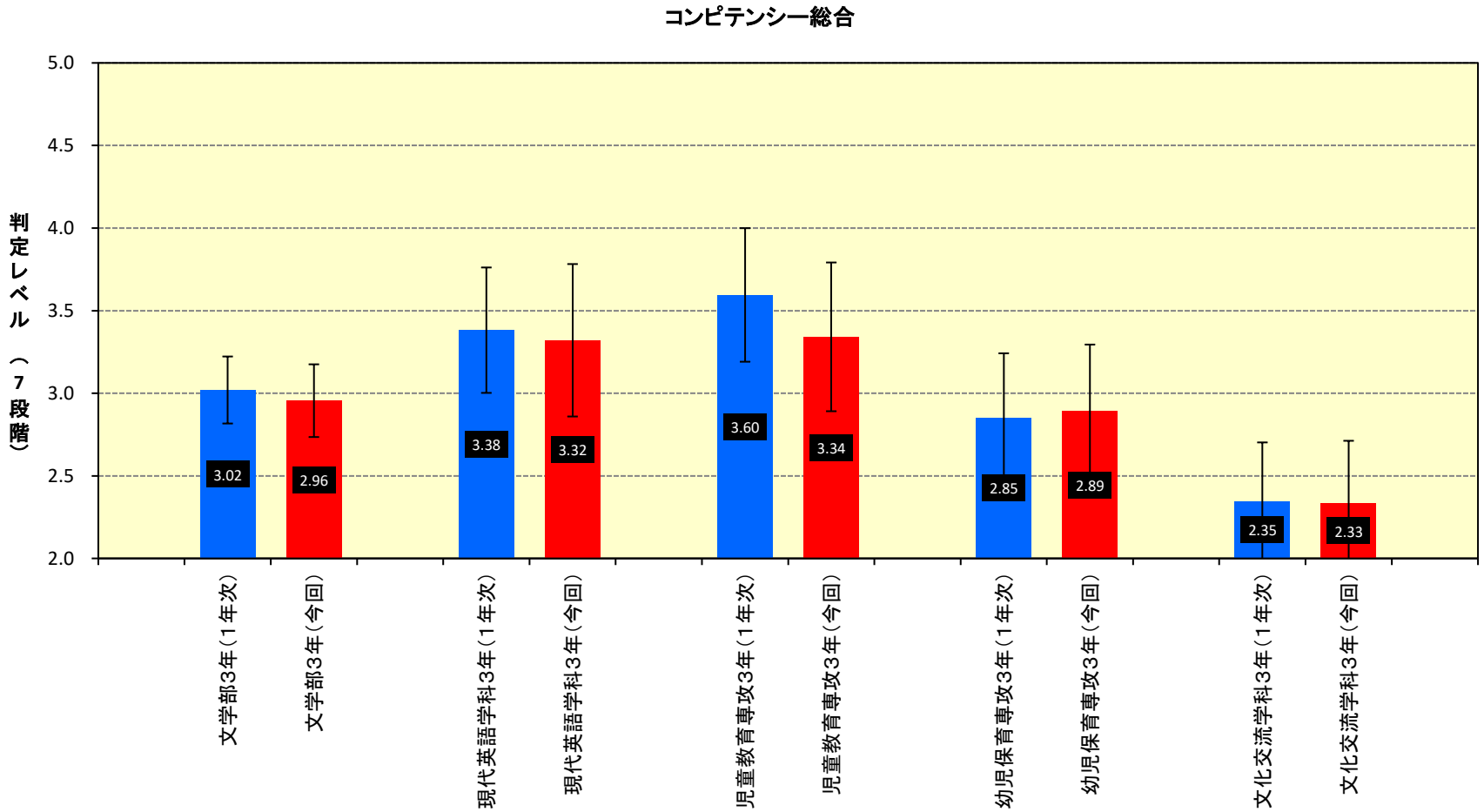
【文化交流学科3年】
情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。



コンピテンシー総合（成長分析）

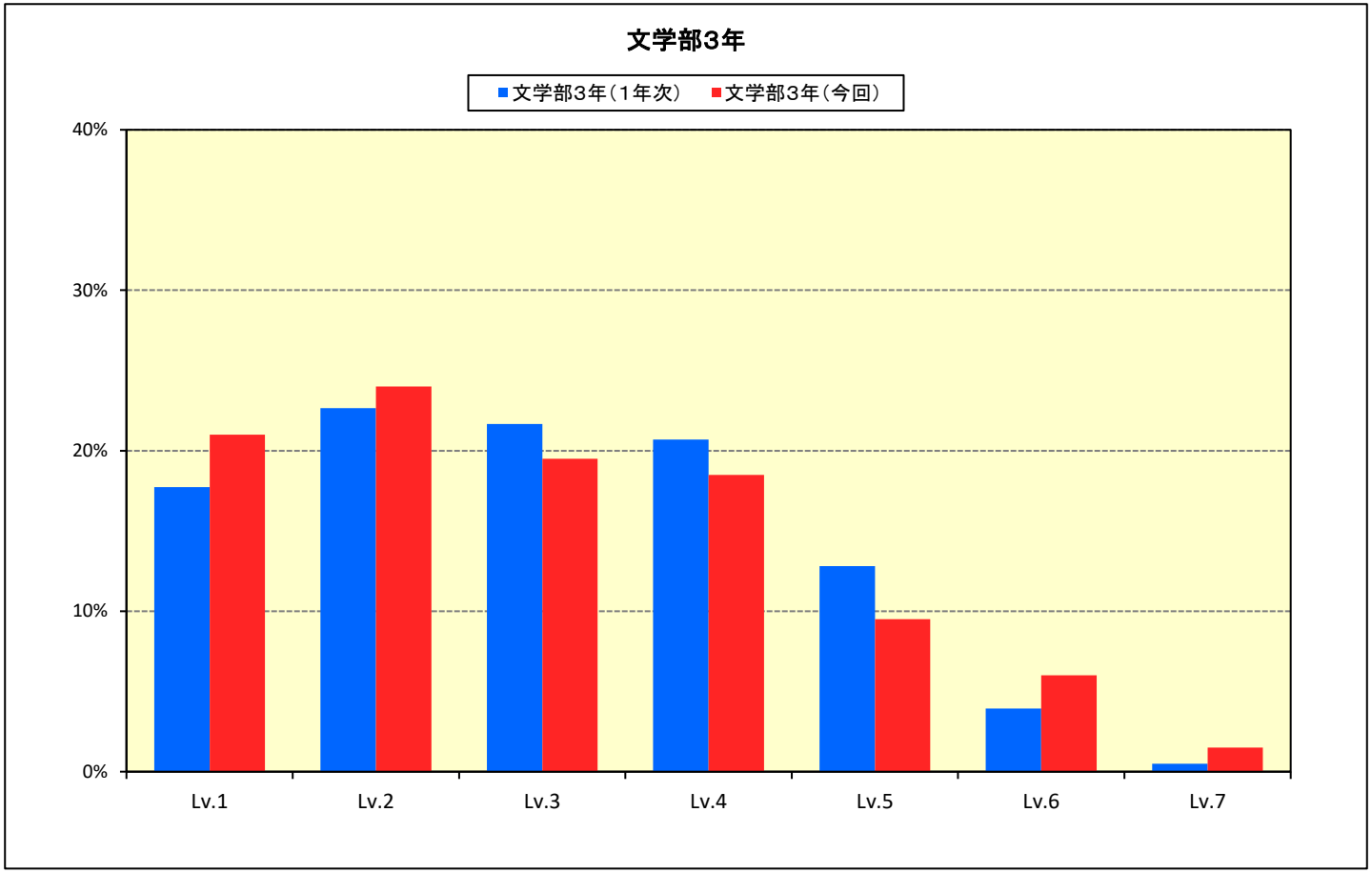
●幼児保育専攻3年は、1年次受験のスコアを上回る。

●文学部3年、現代英語学科3年、児童教育専攻3年、文化交流学科3年は、1年次受験のスコアを下回る。



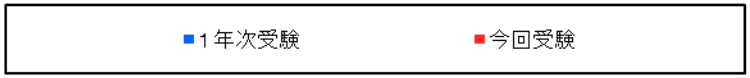
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

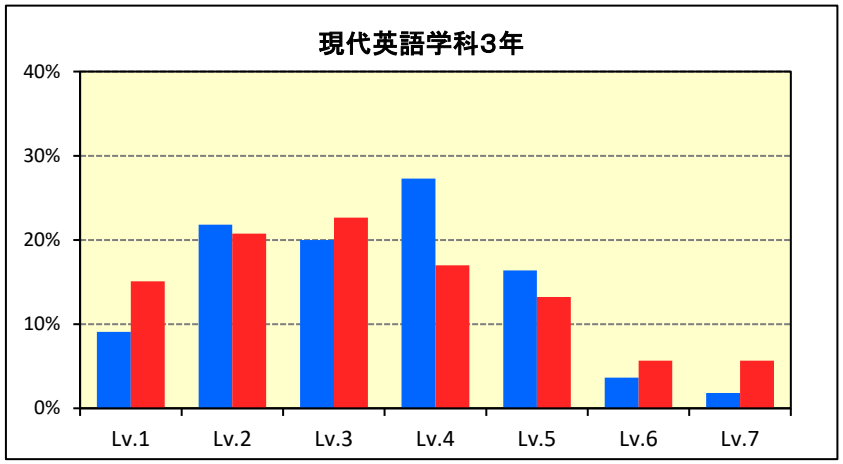
コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）①



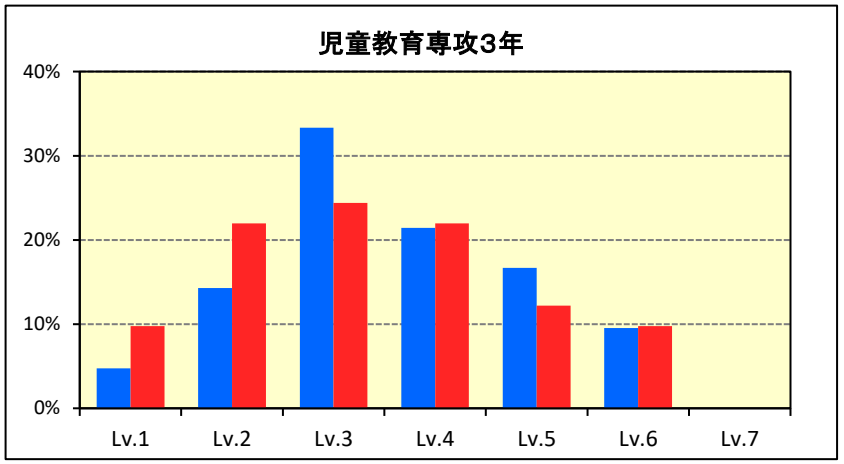
1年次受験に比べて、レベル5の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）②

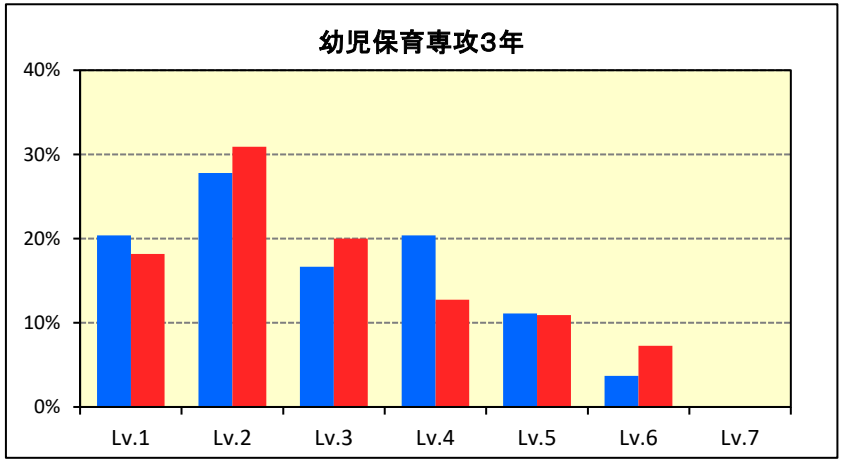




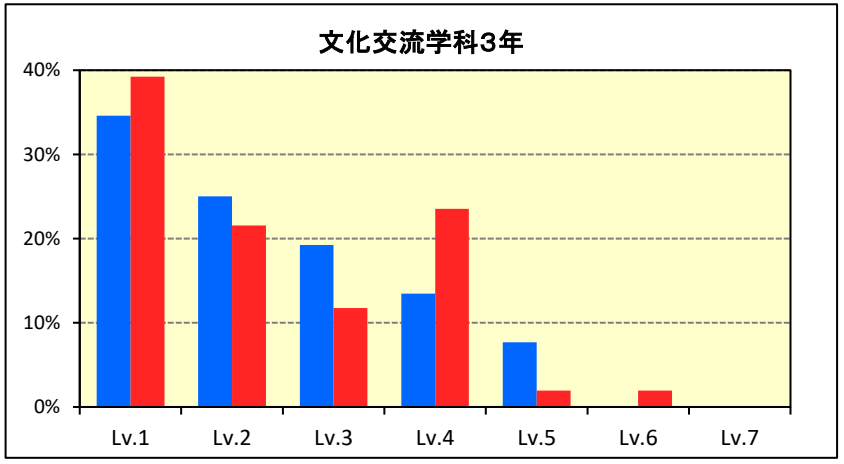
1年次受験に比べて、レベル4～5のボリュームが小さく、レベル1、レベル7の割合が大きい。



1年次受験に比べて、レベル3、レベル5の割合が小さく、レベル1～2のボリュームが大きい。



1年次受験に比べて、レベル4の割合が小さく、レベル2～3、レベル6のボリュームが大きい。

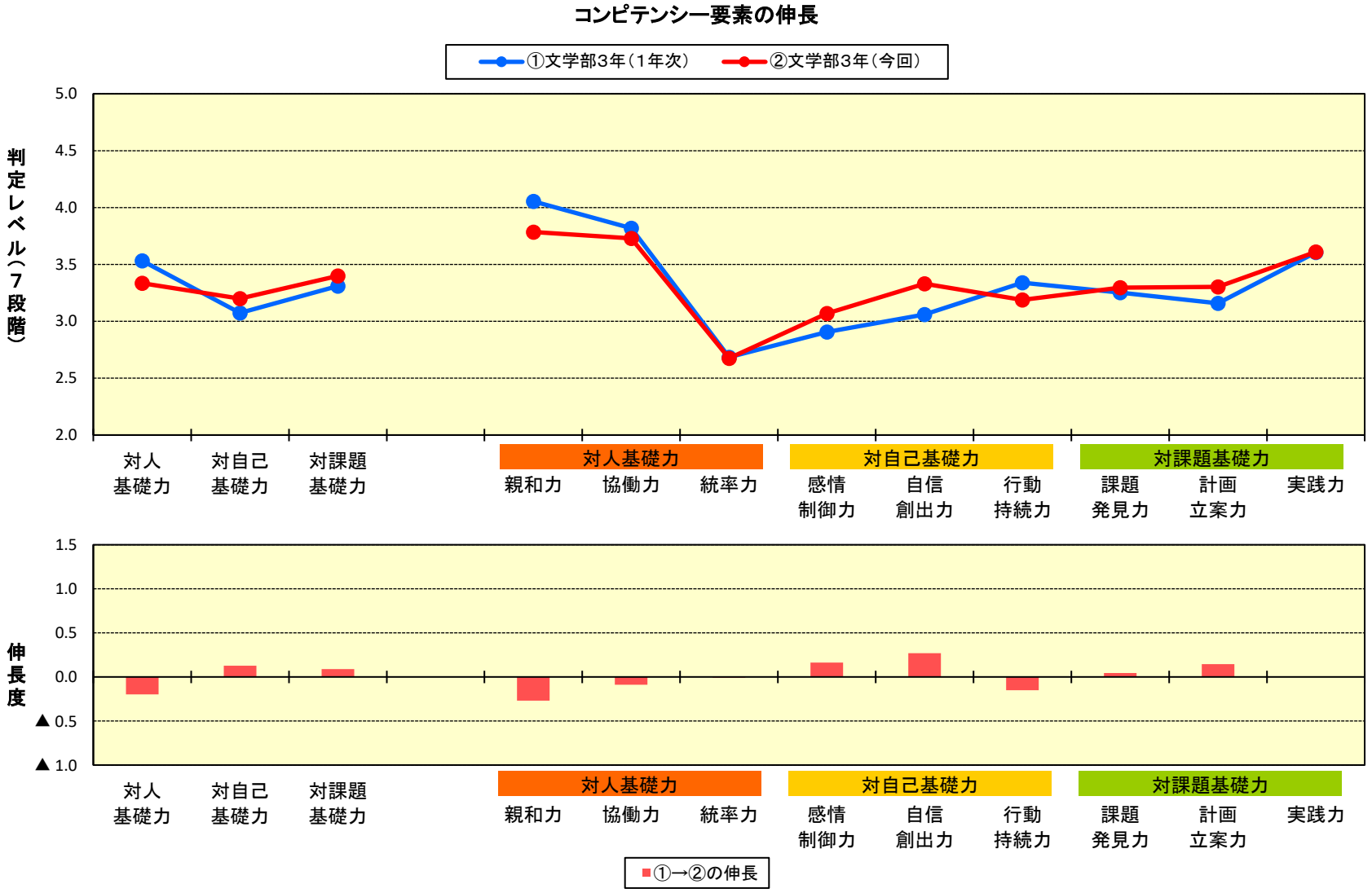


1年次受験に比べて、レベル2～3、レベル5のボリュームが小さく、レベル1、レベル4の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（成長分析）①

【文学部3年】

感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、親和力、協働力、統率力、行動持続力は、1年次受験のスコアを下回る。

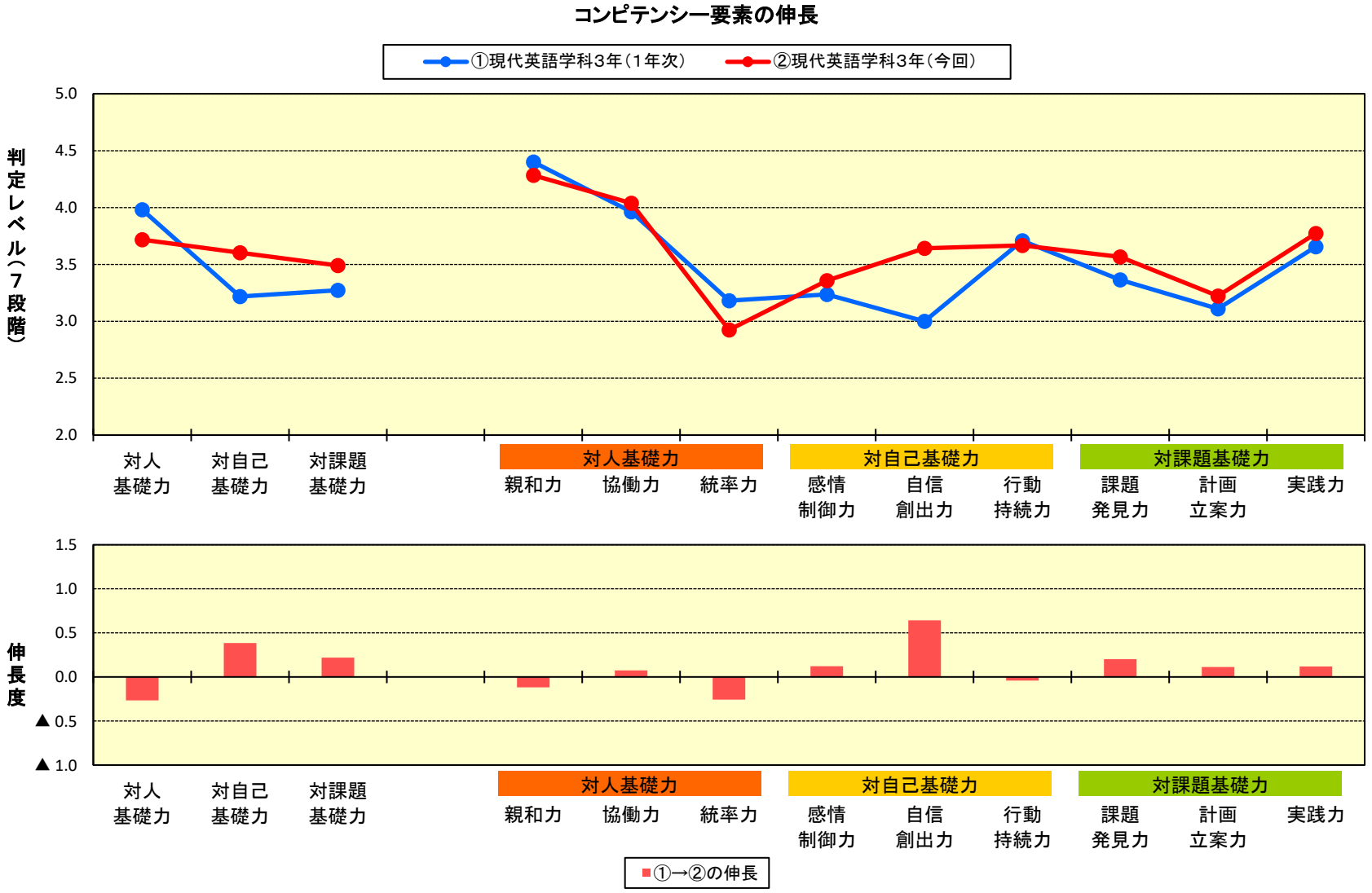


コンピテンシー大中分類要素（成長分析）②

【現代英語学科３年】

協働力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力は、１年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、統率力、行動持続力は、１年次受験のスコアを下回る。

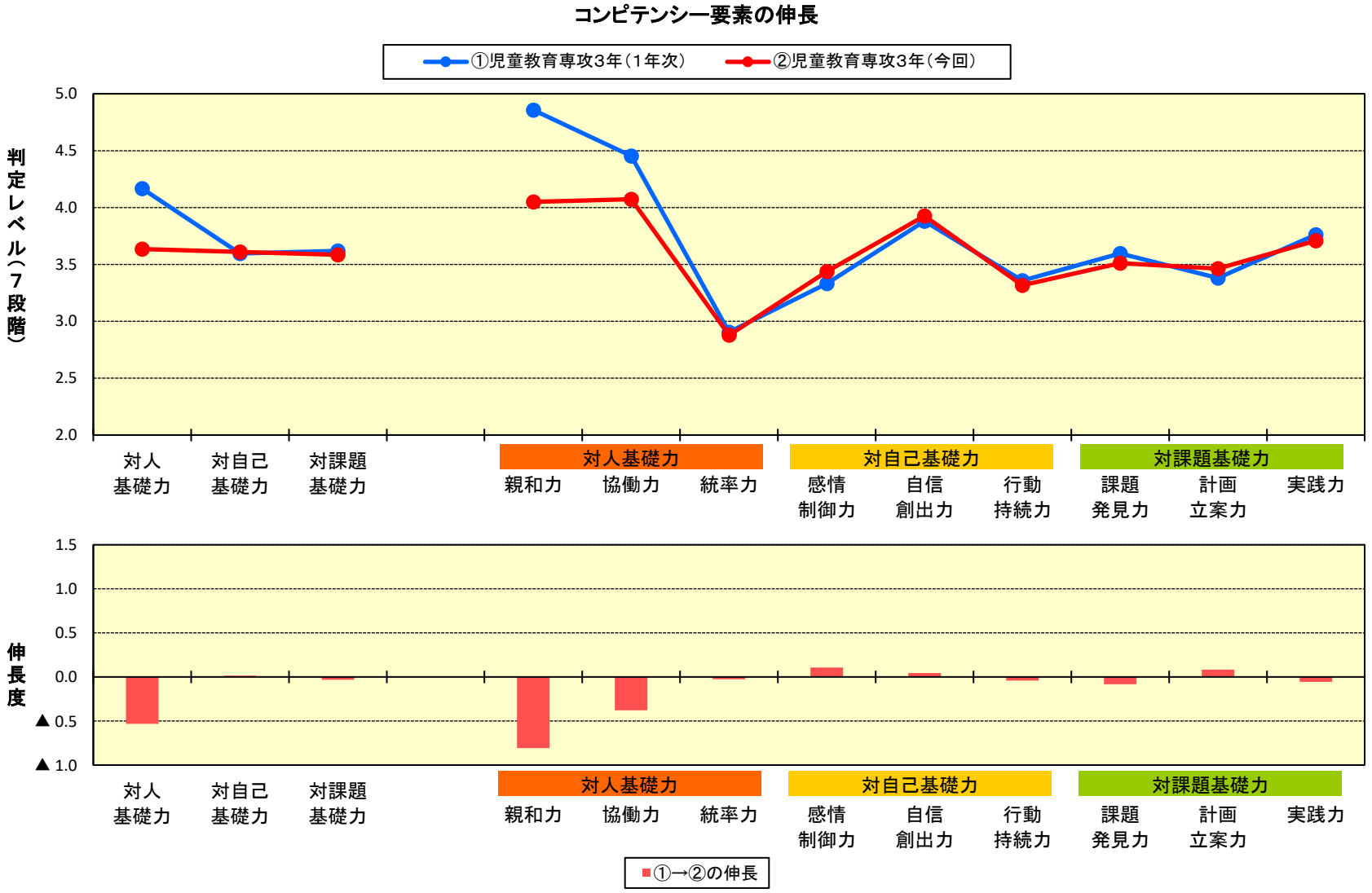


コンピテンシー大中分類要素（成長分析）③

【児童教育専攻3年】

感情制御力、自信創出力、計画立案力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、行動持続力、課題発見力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

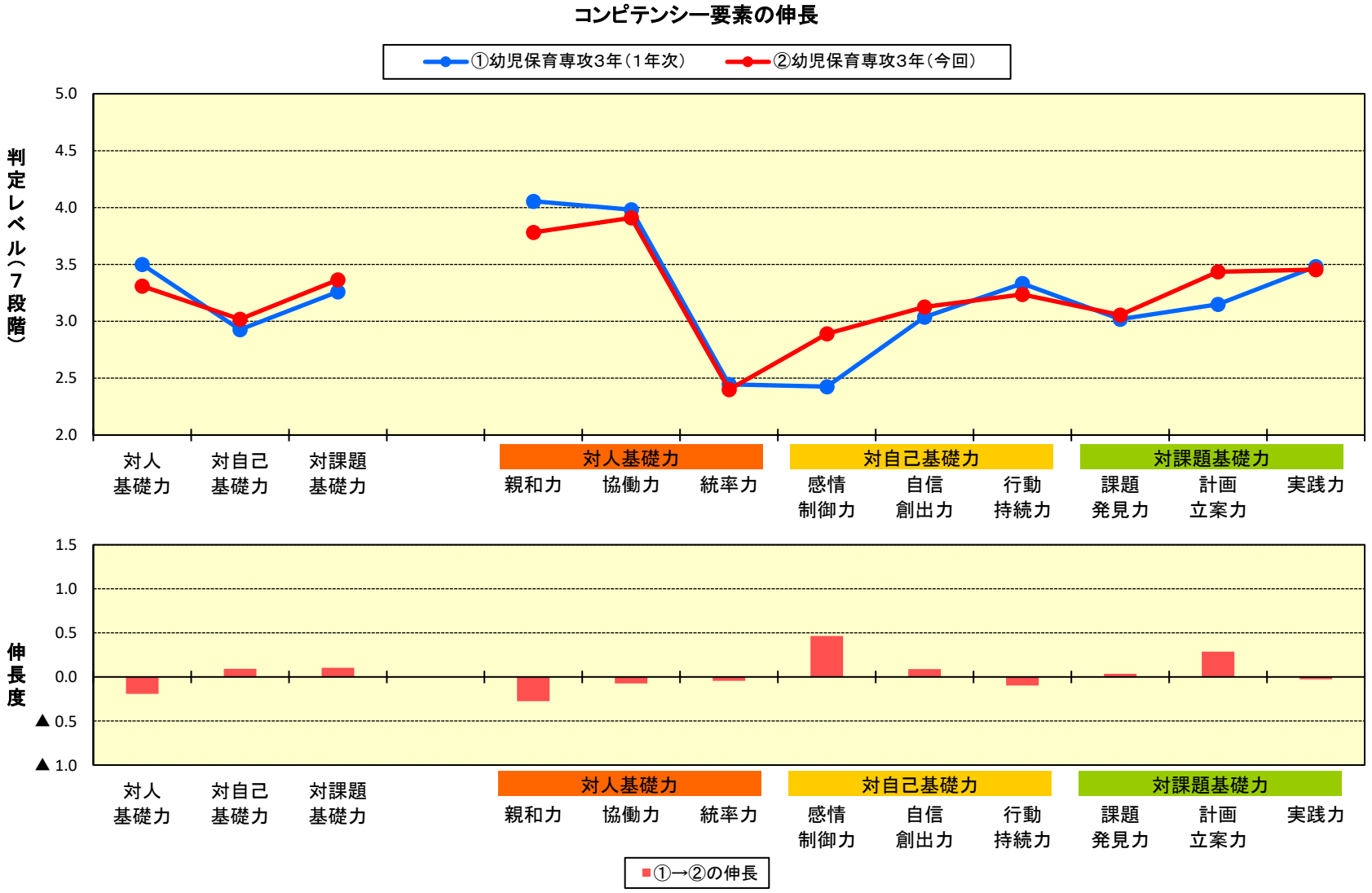


コンピテンシー大中分類要素（成長分析）④

【幼児保育専攻3年】

感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、行動持続力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

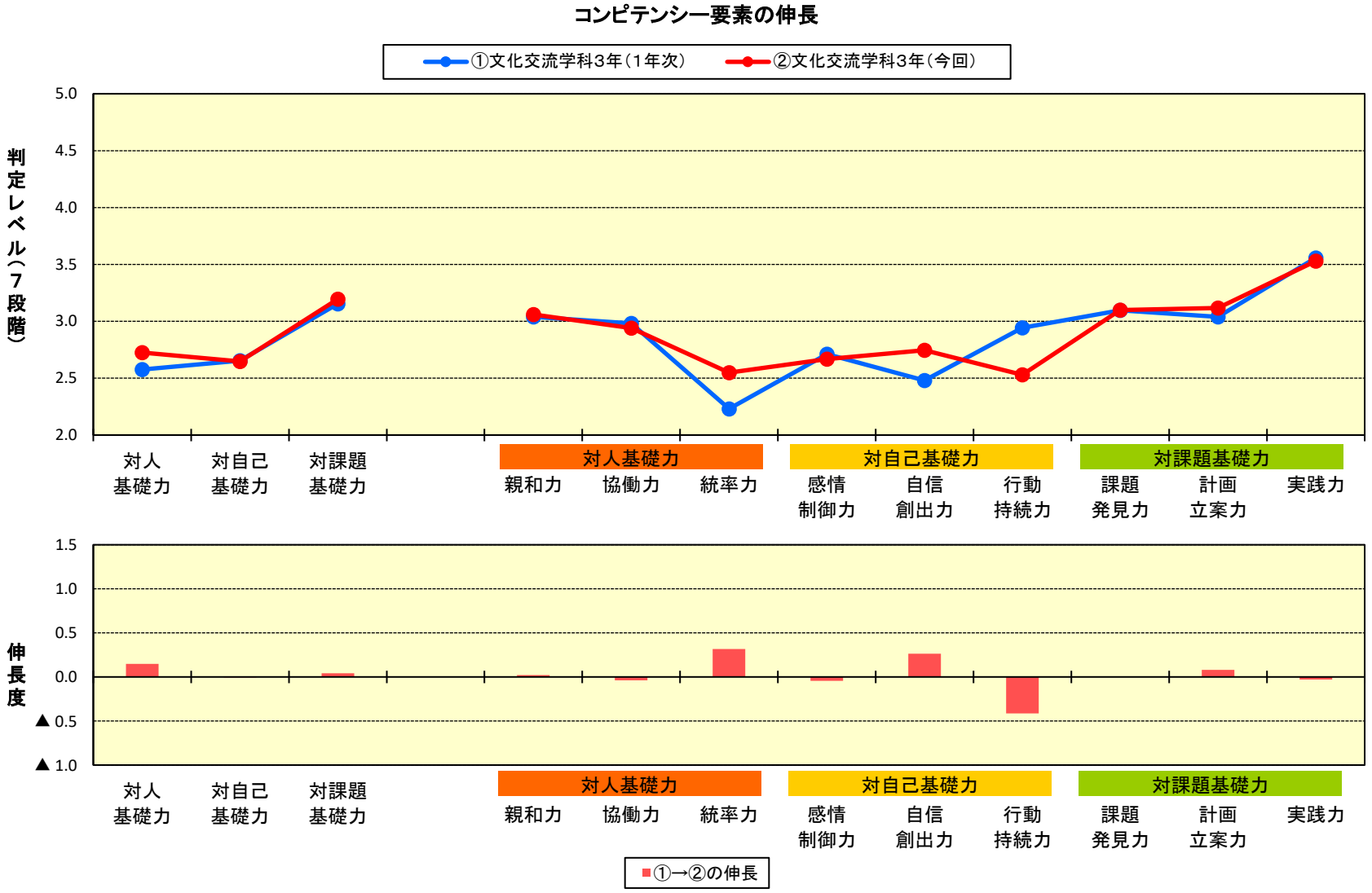


コンピテンシー大中分類要素（成長分析）⑤

【文化交流学科３年】

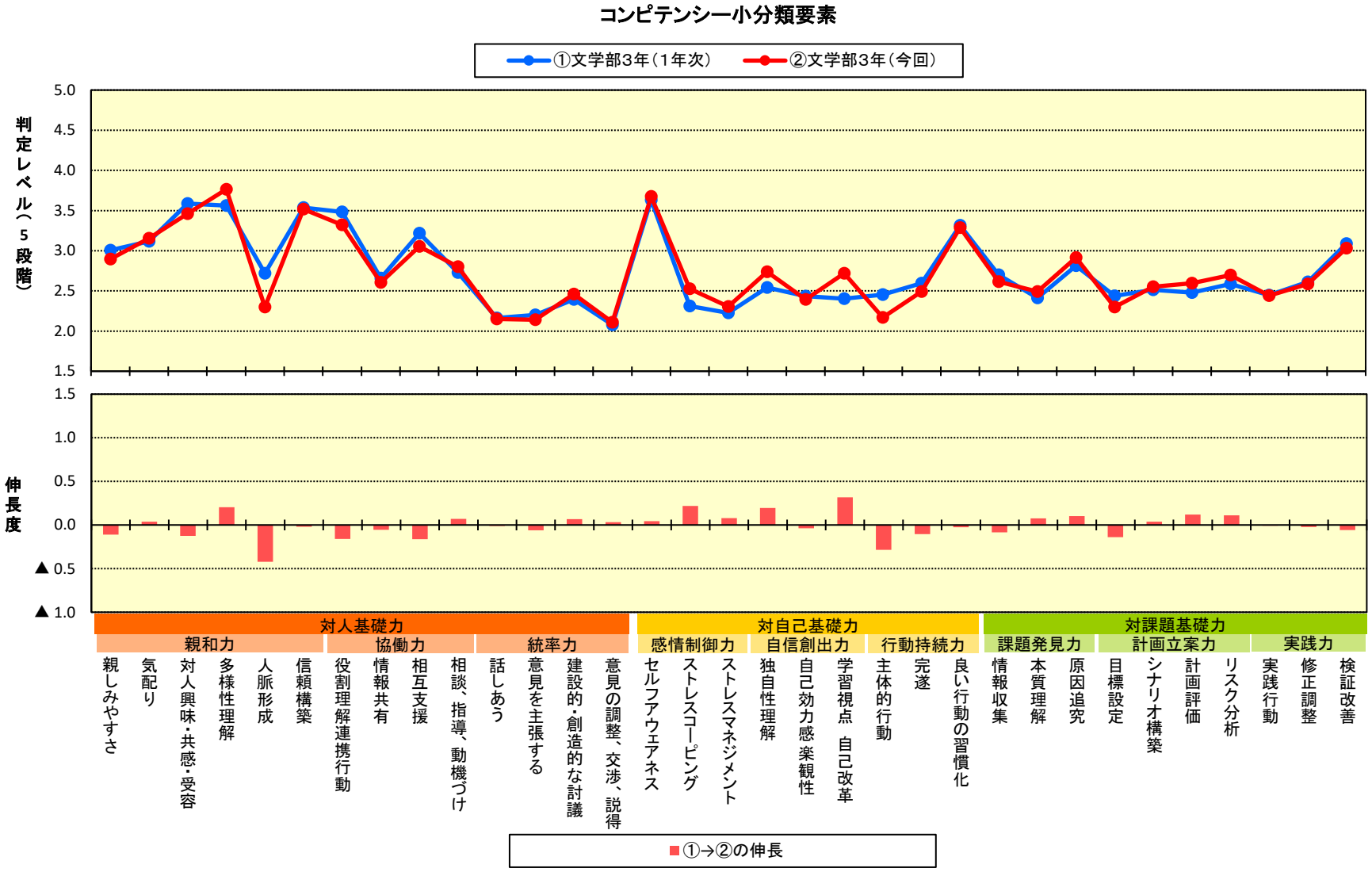
親和力、統率力、自信創出力、課題発見力、計画立案力は、１年次受験のスコアを上回る。

一方、協働力、感情制御力、行動持続力、実践力は、１年次受験のスコアを下回る。



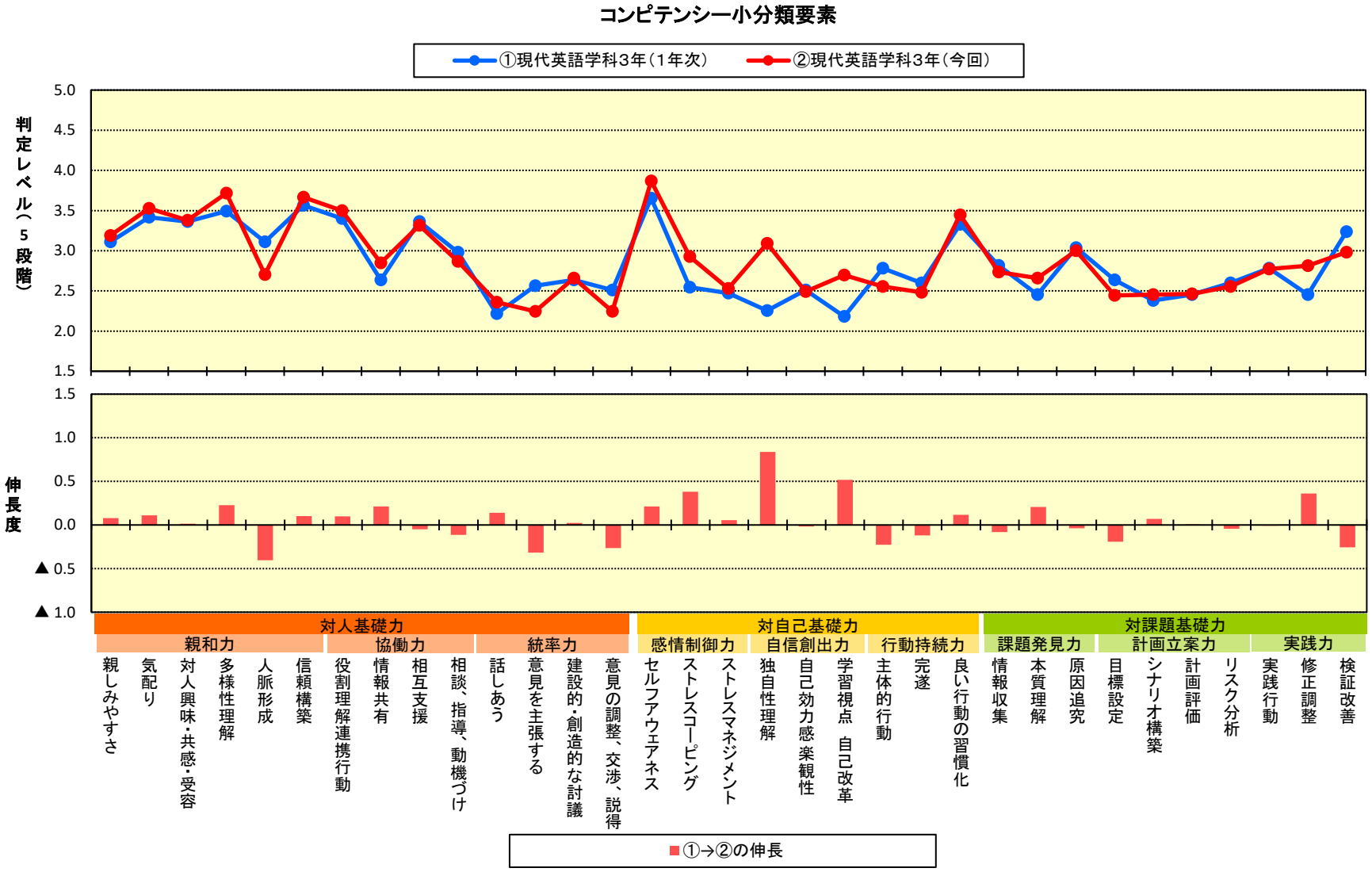
コンピテンシー小分類要素（成長分析）①

【文学部3年】



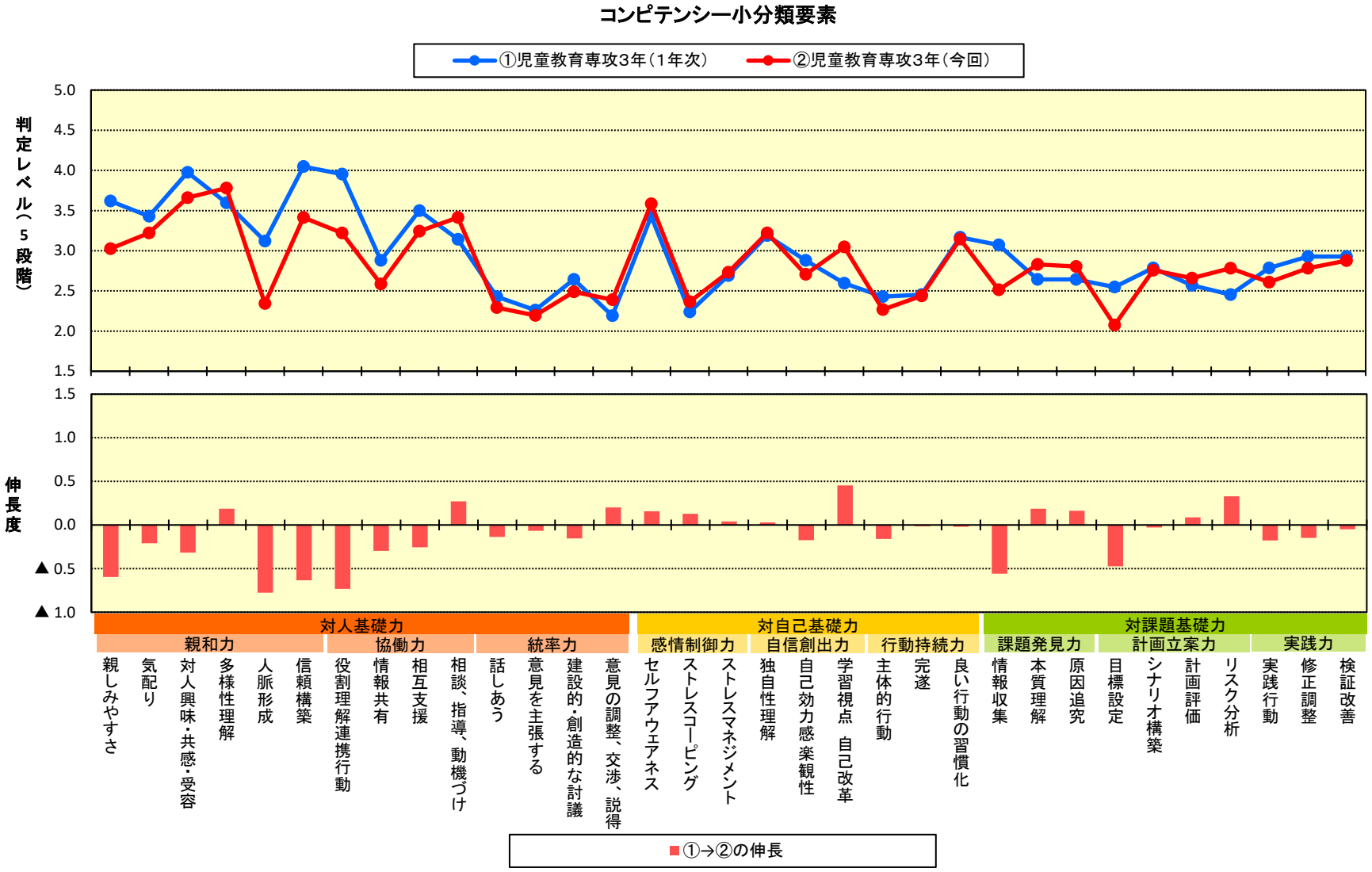
コンピテンシー小分類要素（成長分析）②

【現代英語学科3年】



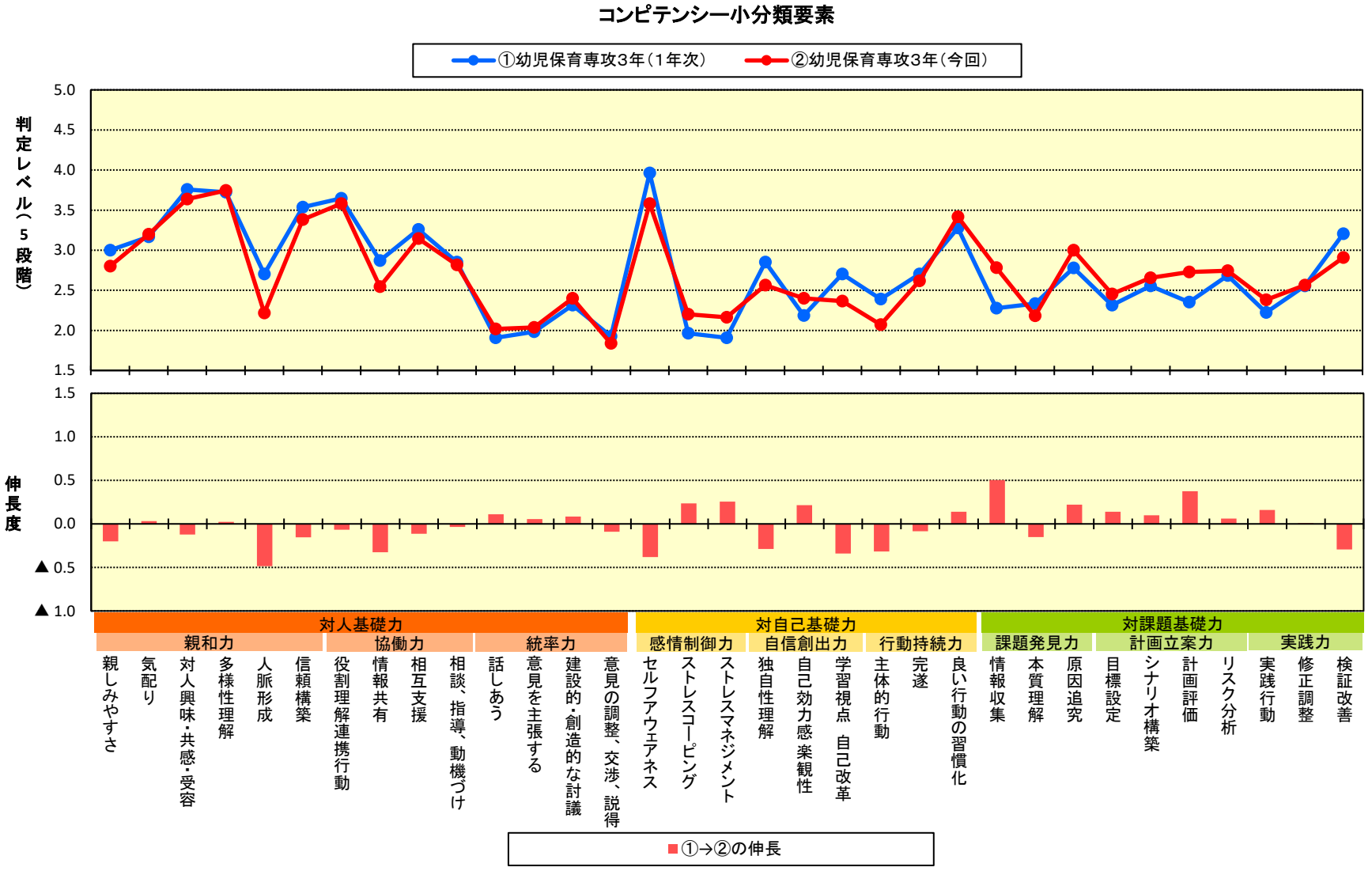
コンピテンシー小分類要素（成長分析）③

【児童教育専攻3年】



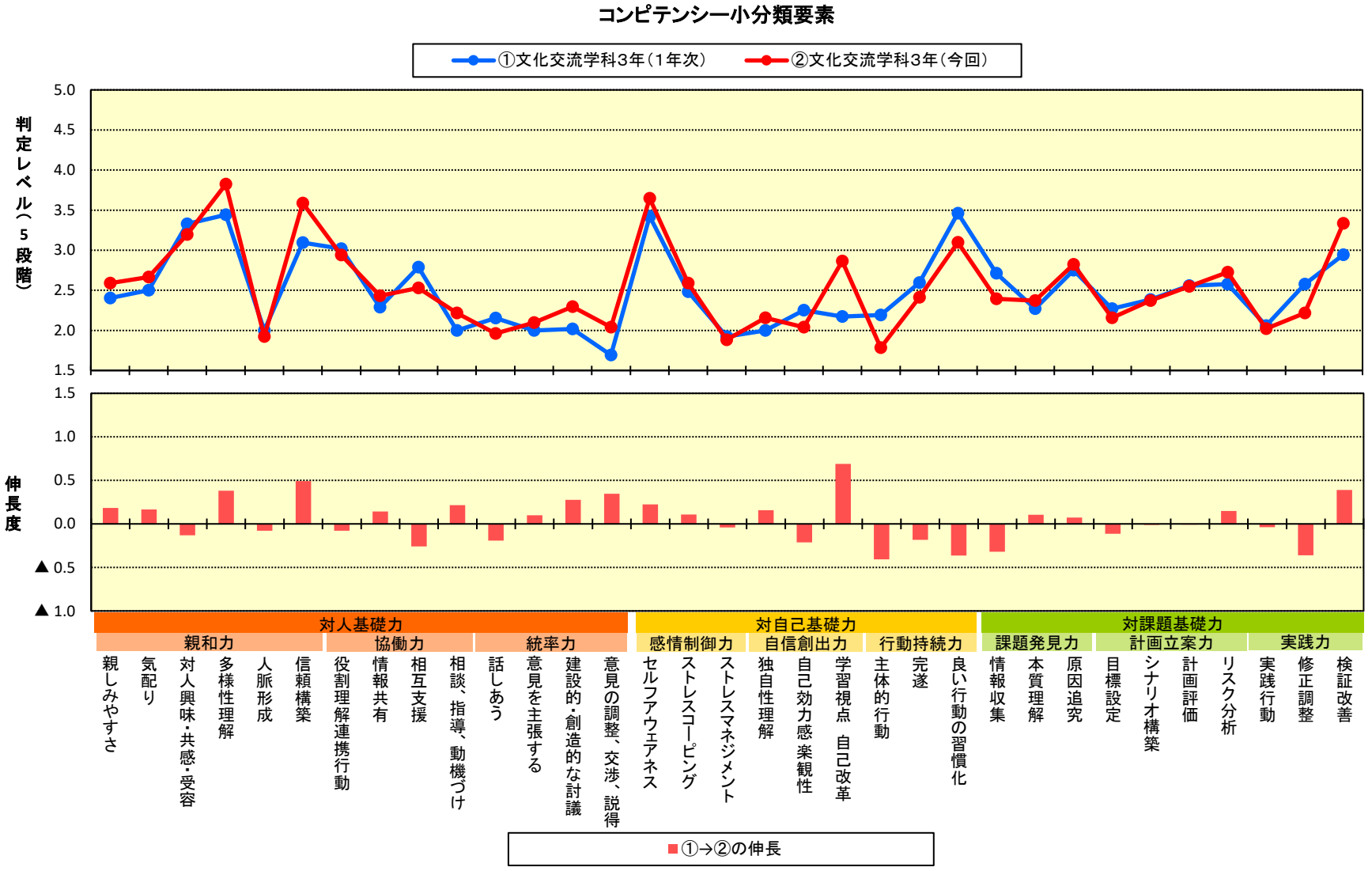
コンピテンシー小分類要素（成長分析）④

【幼児保育専攻3年】



コンピテンシー小分類要素（成長分析）⑤

【文化交流学科3年】

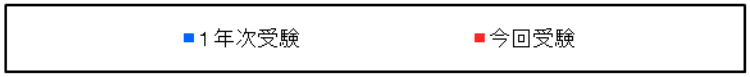


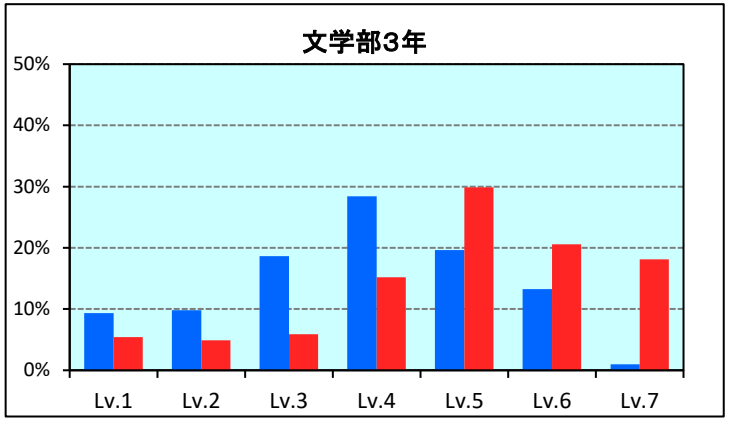
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

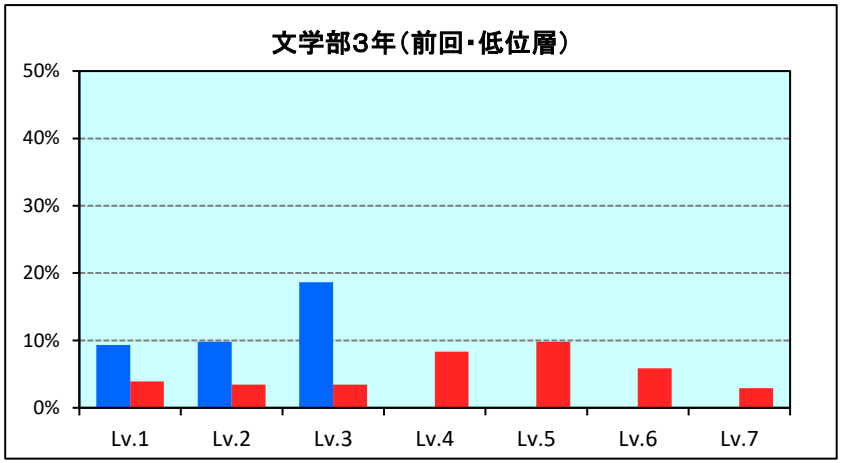
Part.2-2
3年生　成長分析
（文学部）
高中低位分析

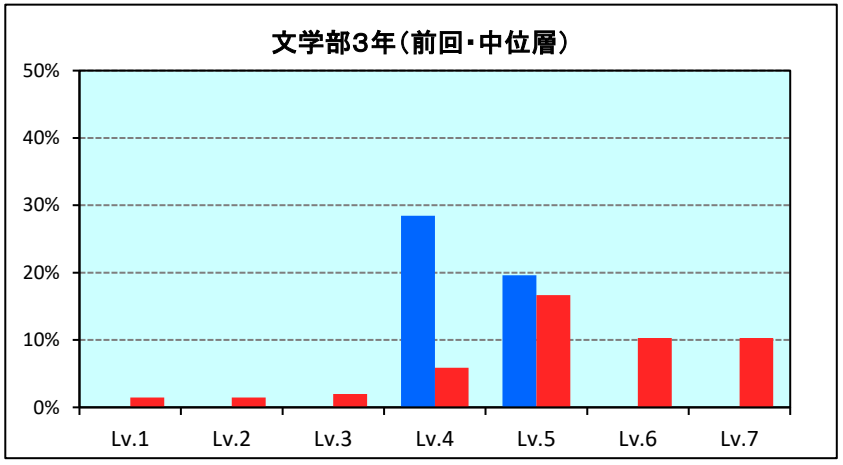
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）①

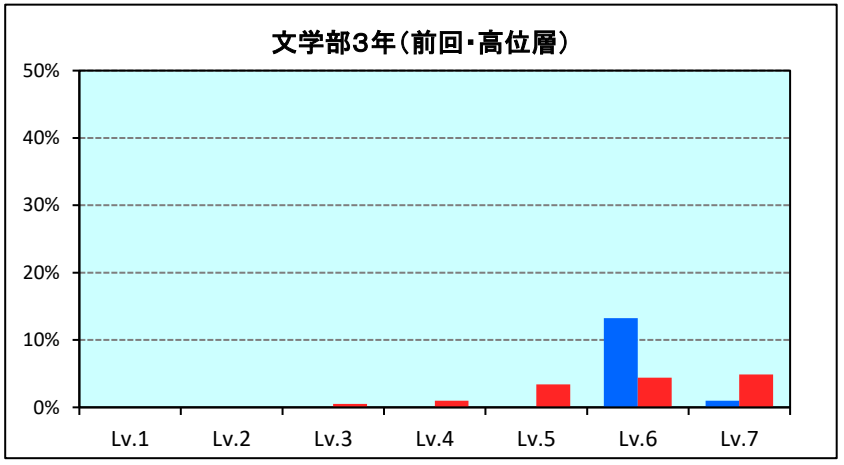




1年次受験に比べて、レベル1～4のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。

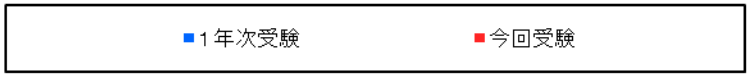


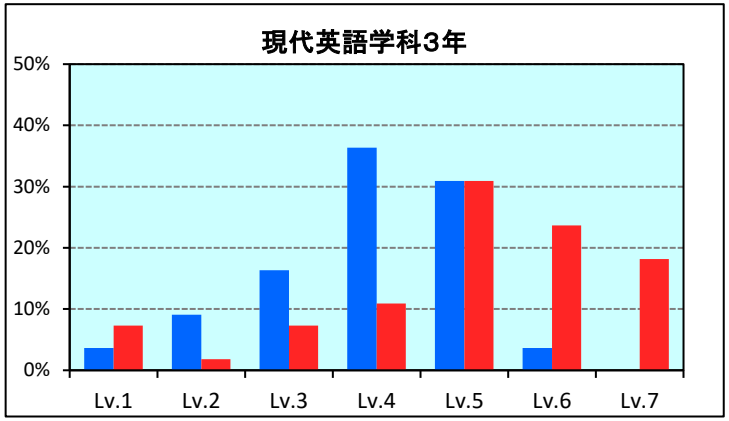




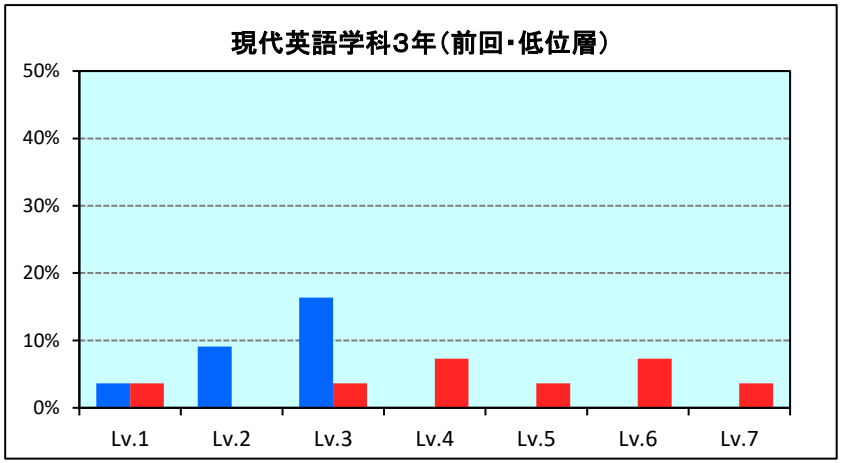
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）②

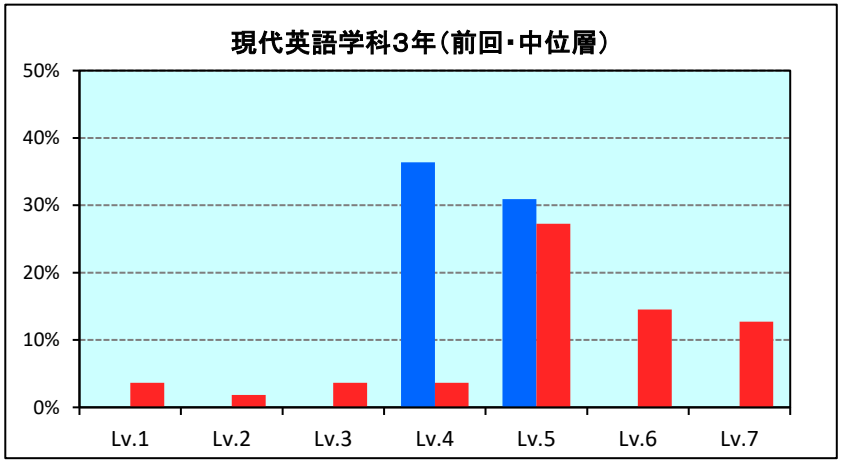
オプション分析

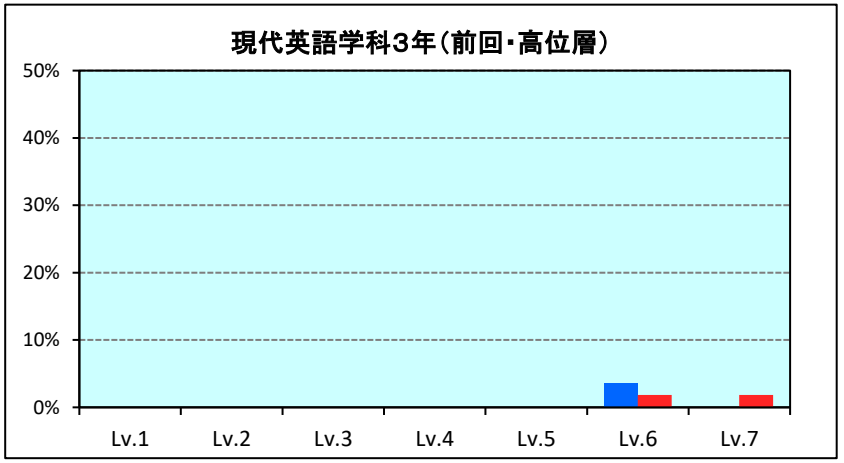




1年次受験に比べて、レベル2～4のボリュームが小さく、レベル1、レベル6～7のボリュームが大きい。

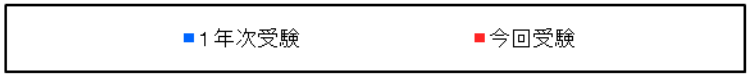


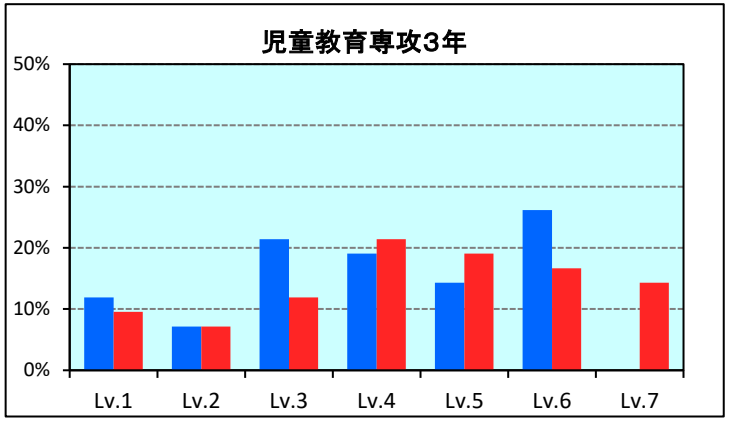




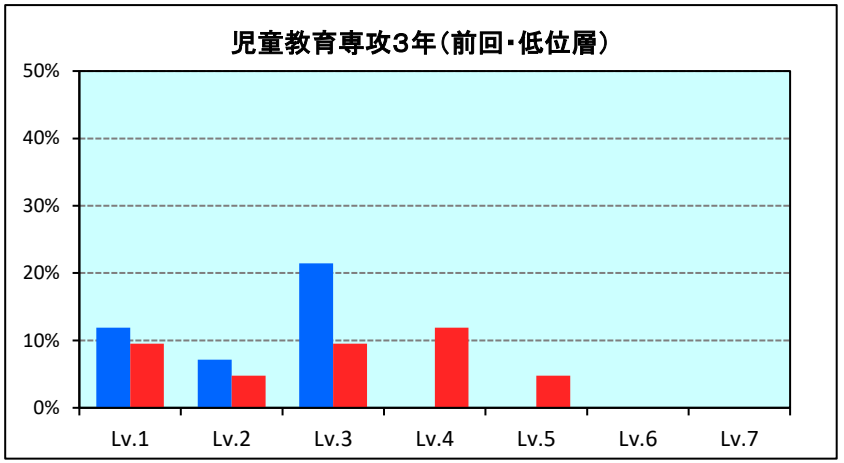
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）③

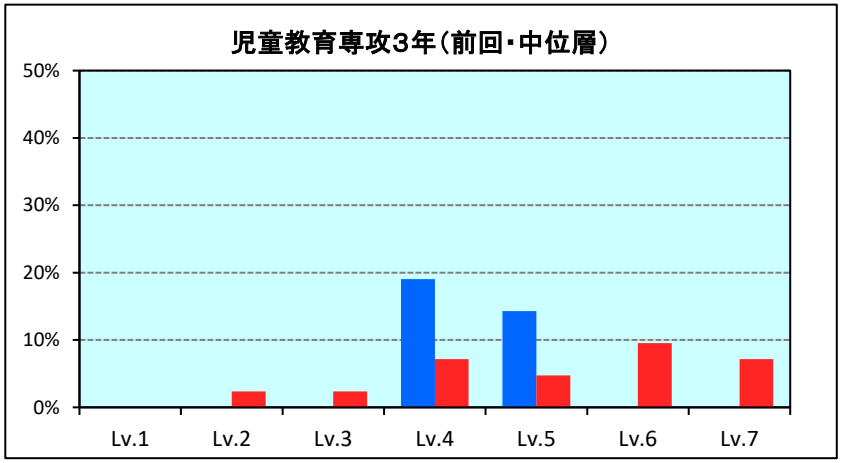
オプション分析

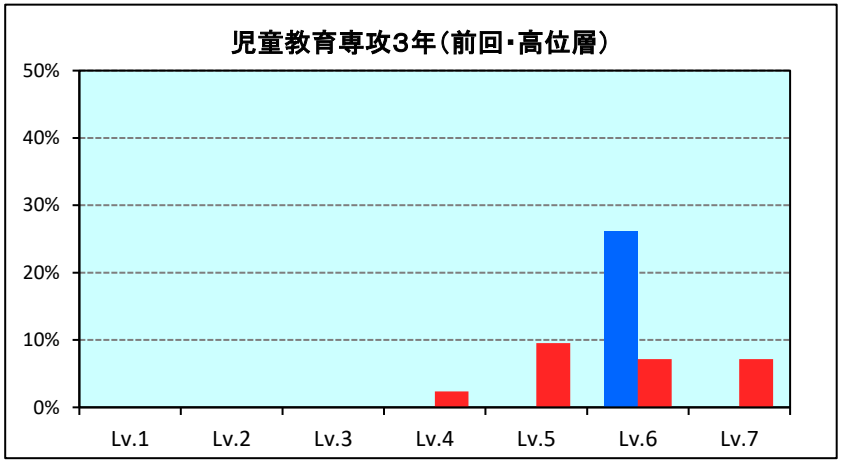




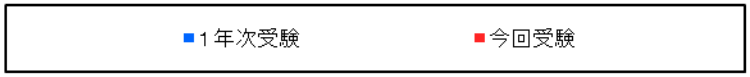
1年次受験に比べて、レベル3、レベル6の割合が小さく、レベル5、レベル7の割合が大きい。

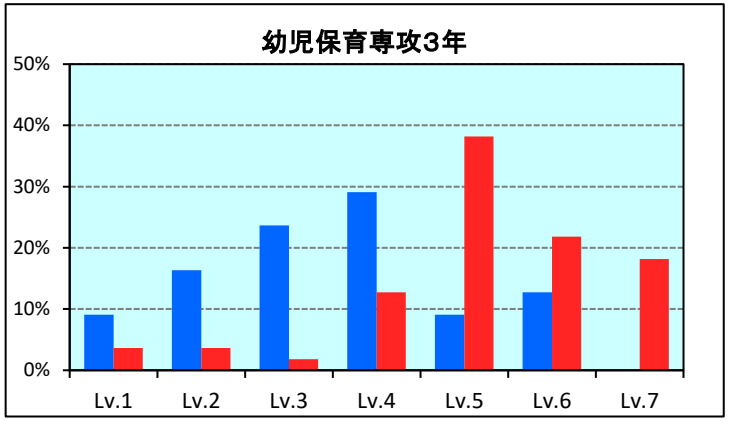




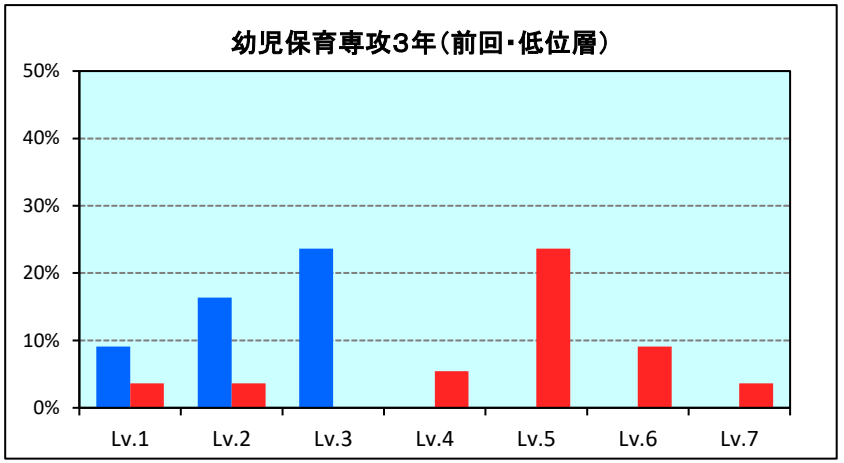


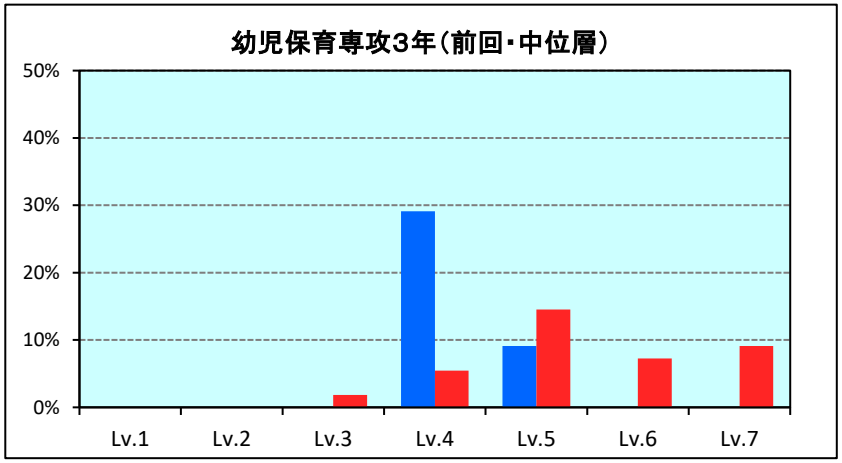
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）④

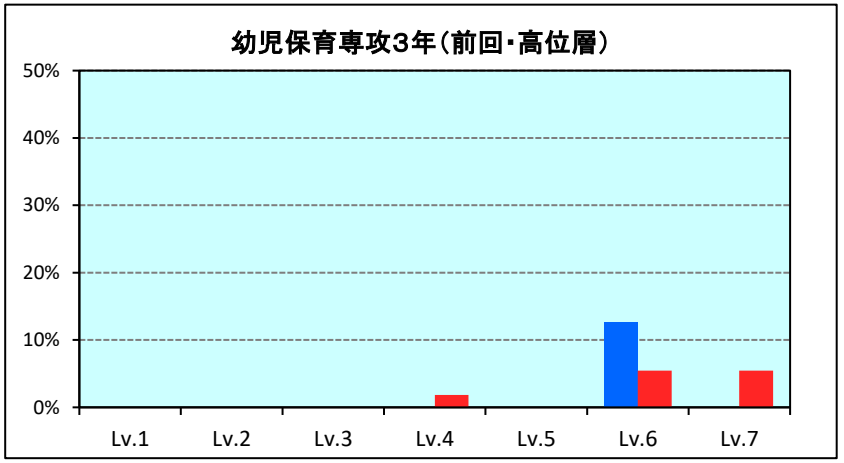




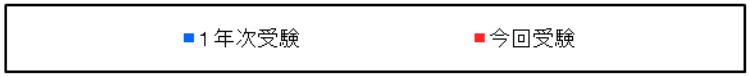
1年次受験に比べて、レベル1～4のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。

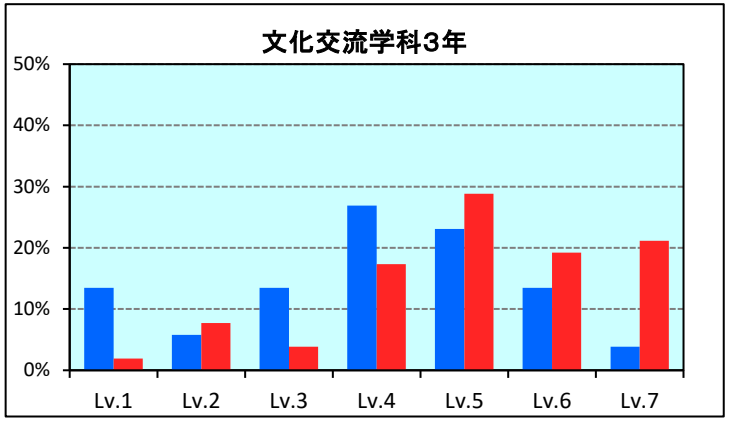




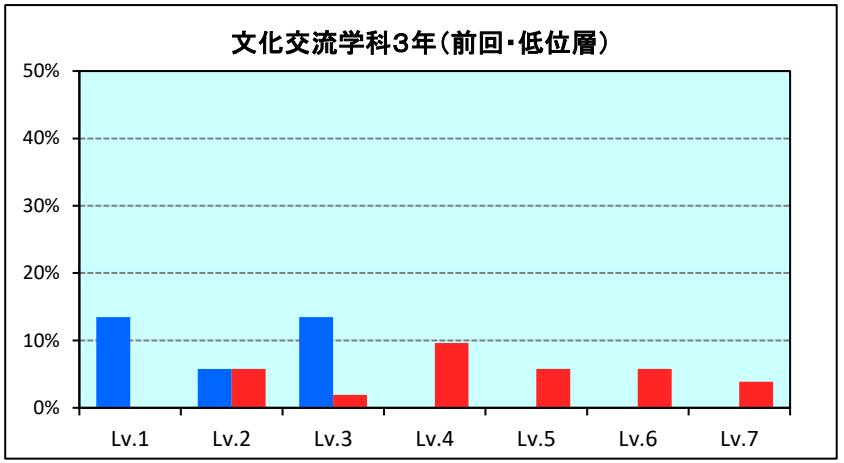


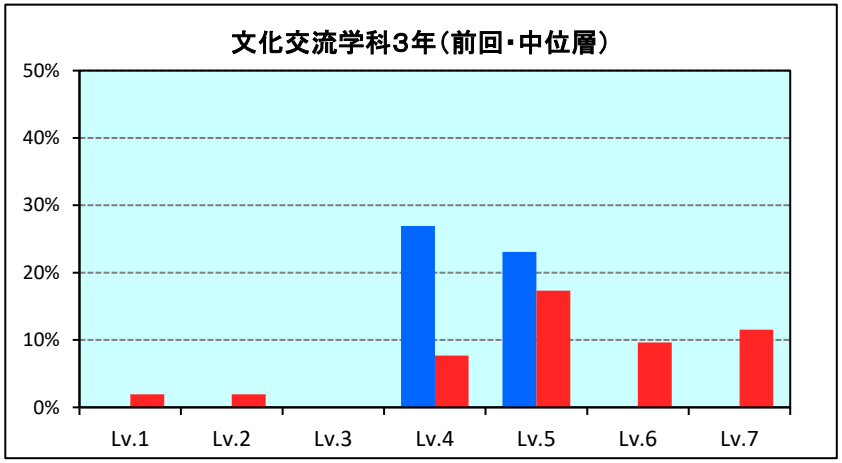
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）⑤

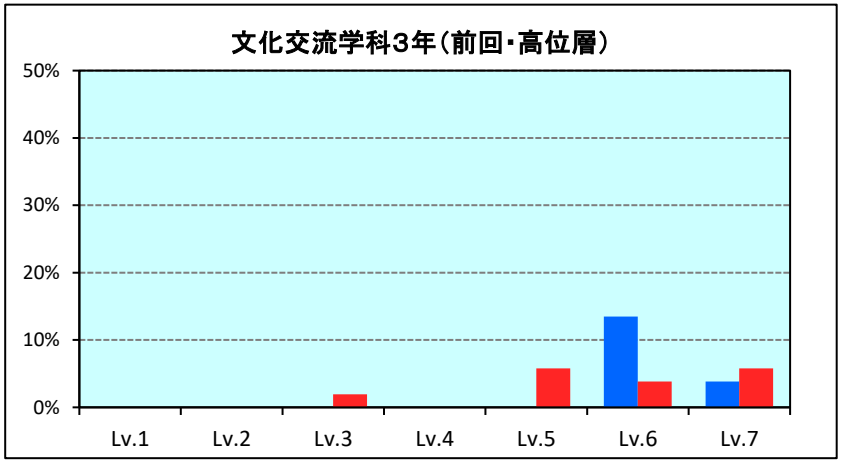




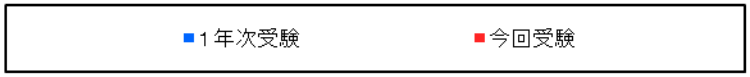
1年次受験に比べて、レベル1、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。

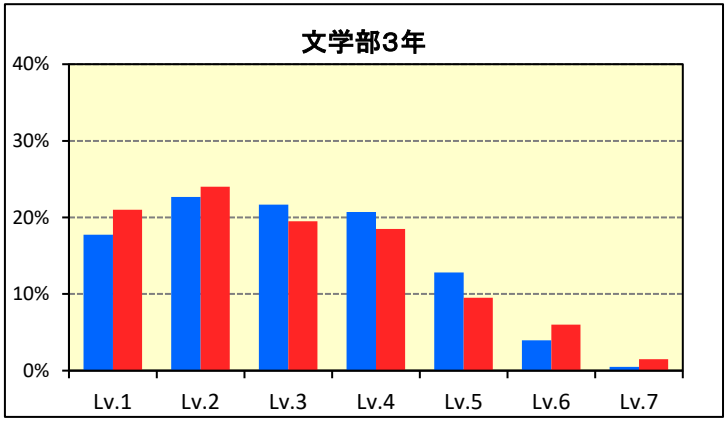




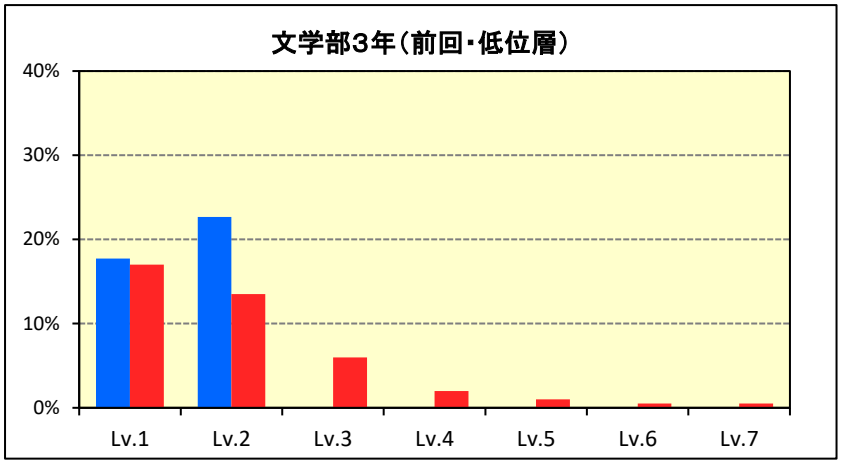


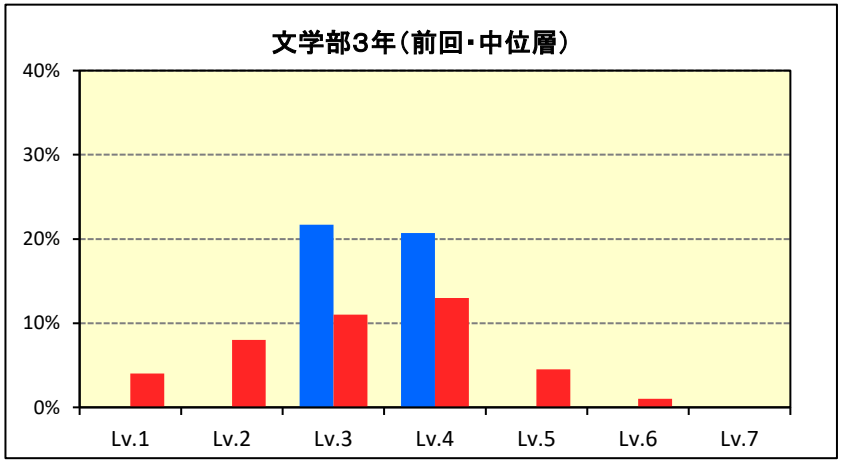
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）①

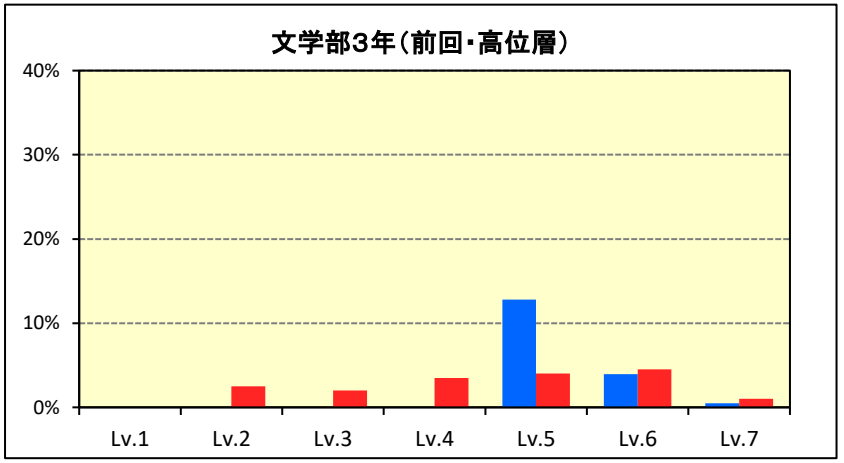




1年次受験に比べて、レベル5の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。

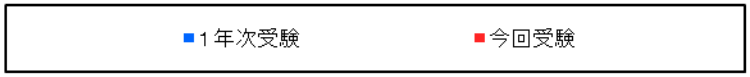


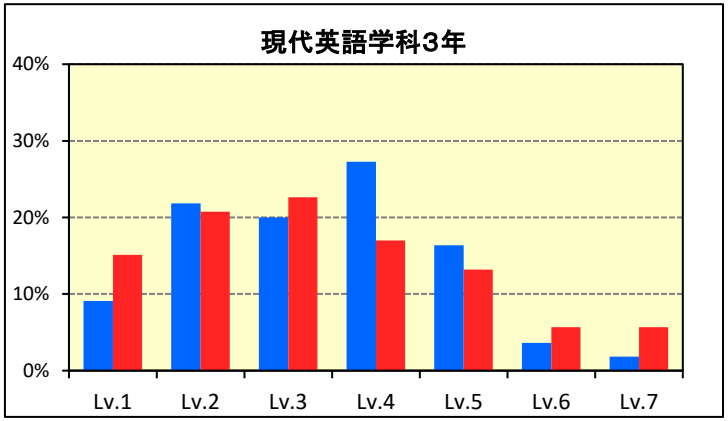




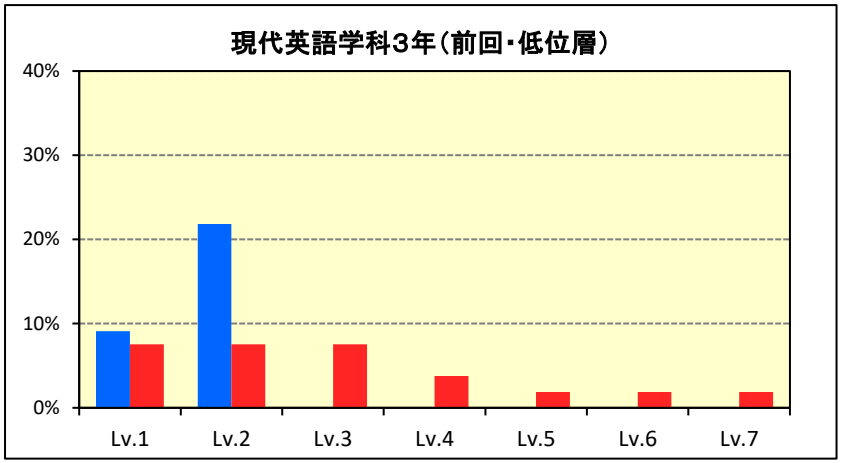
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）②

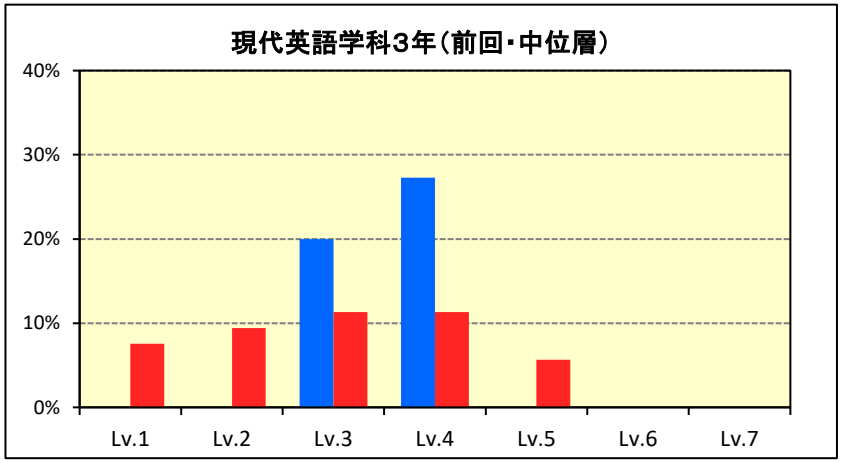
オプション分析

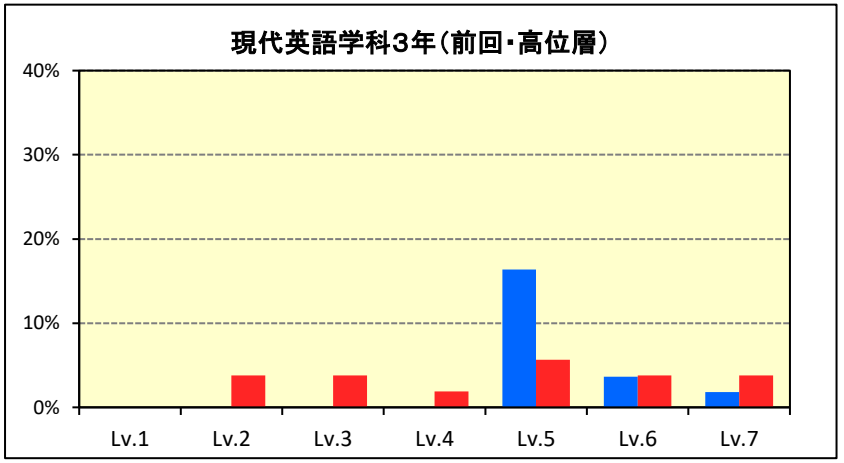




1年次受験に比べて、レベル4～5のボリュームが小さく、レベル1、レベル7の割合が大きい。

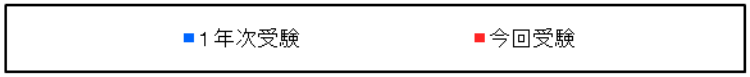


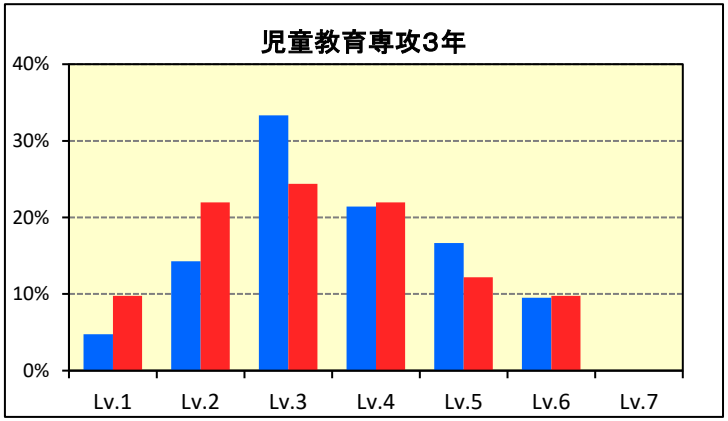




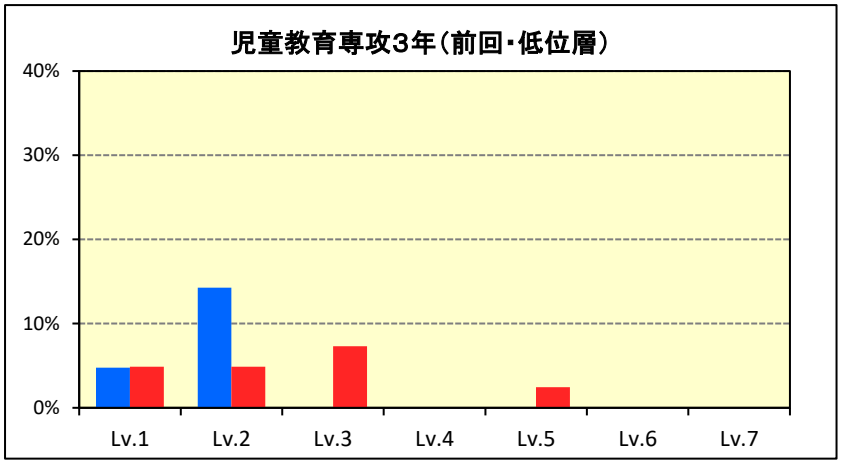
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）③

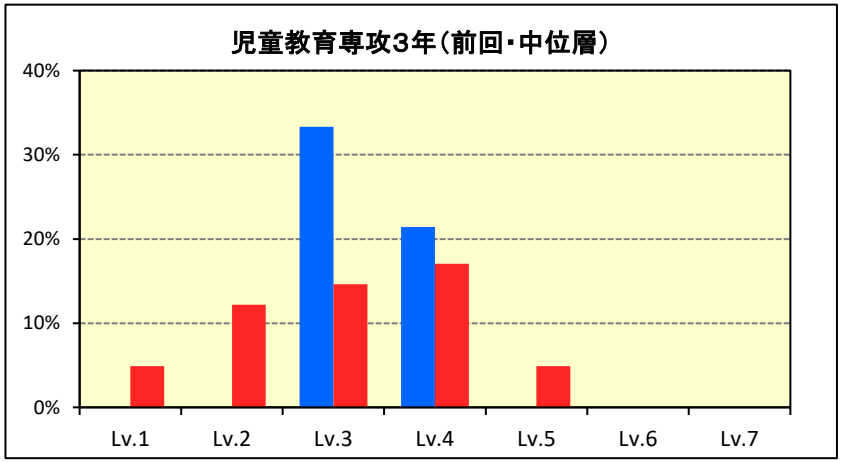
オプション分析

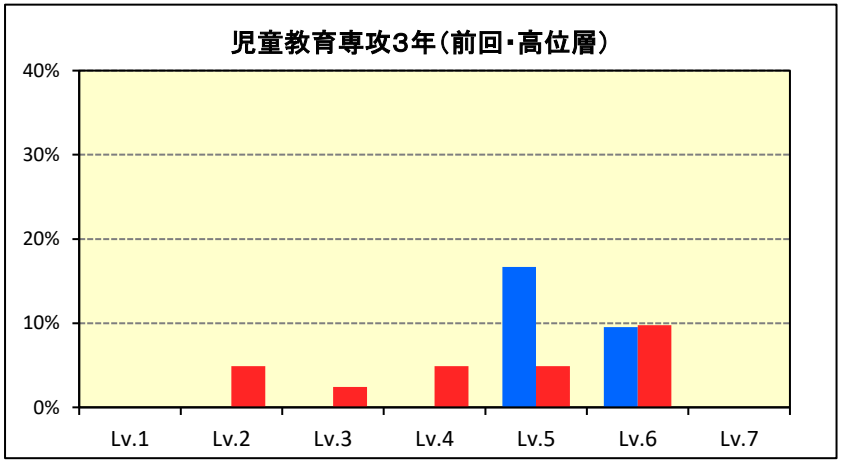




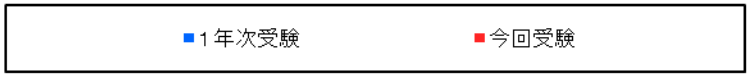
1年次受験に比べて、レベル3、レベル5の割合が小さく、レベル1～2のボリュームが大きい。

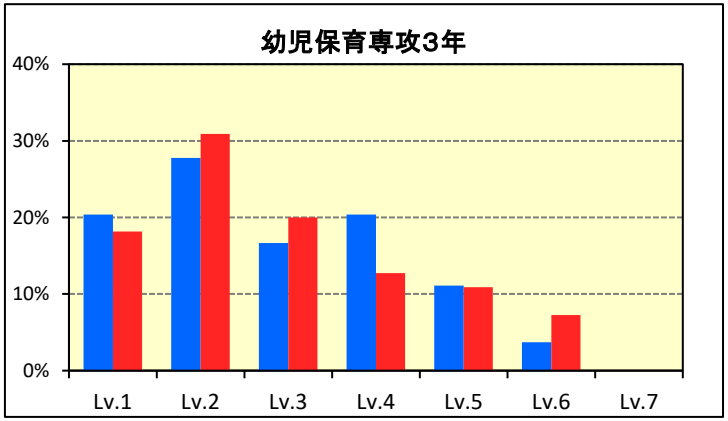




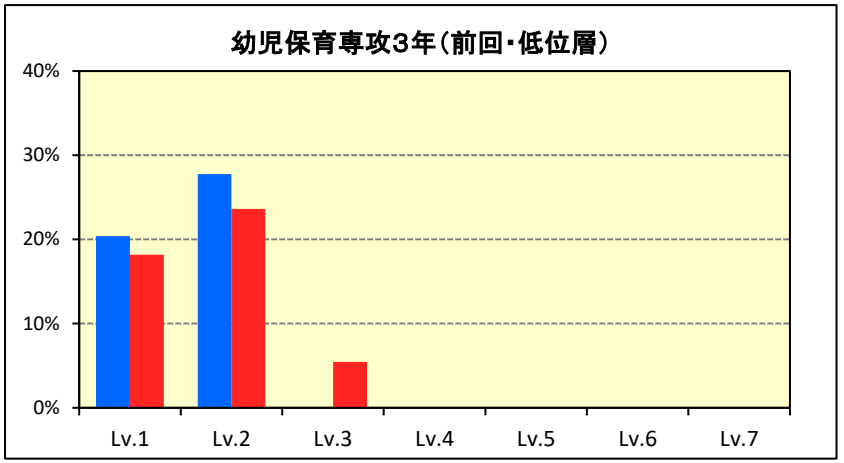


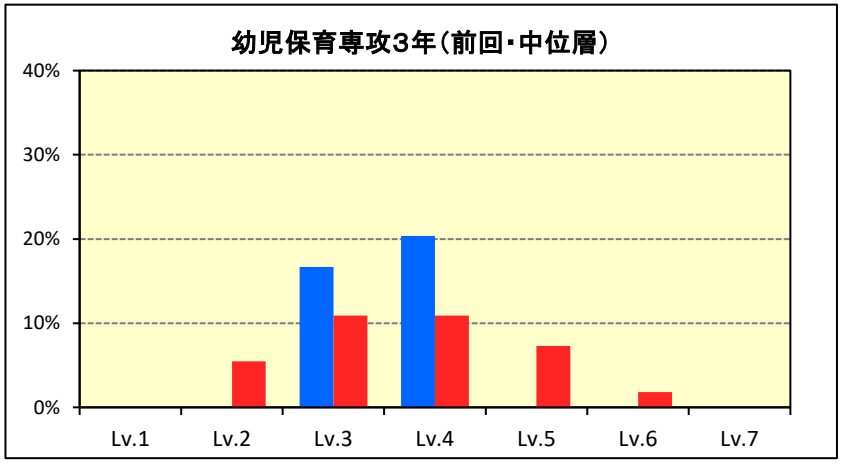
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）④

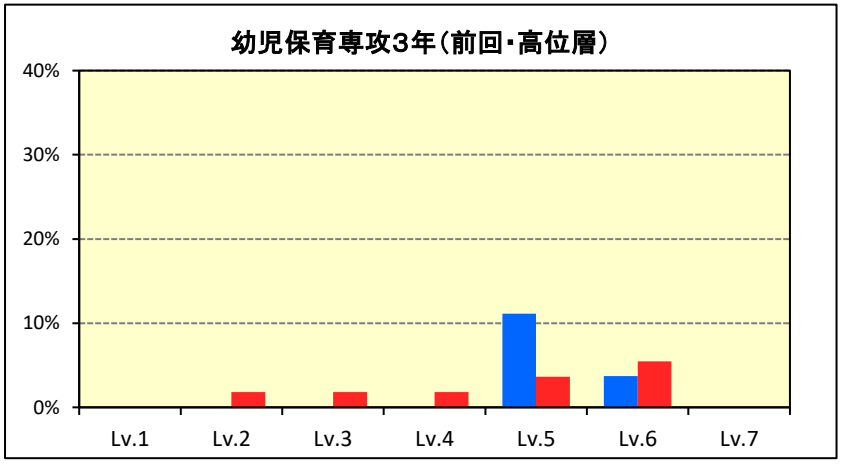




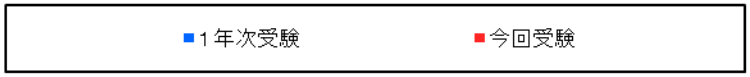
1年次受験に比べて、レベル4の割合が小さく、レベル2～3、レベル6のボリュームが大きい。

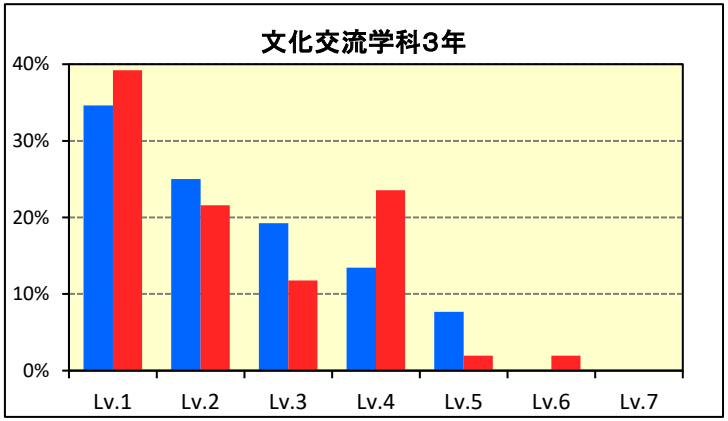




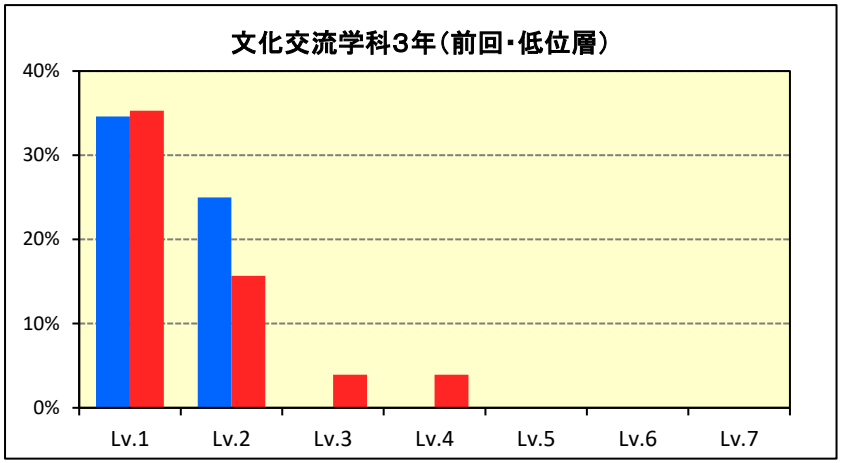


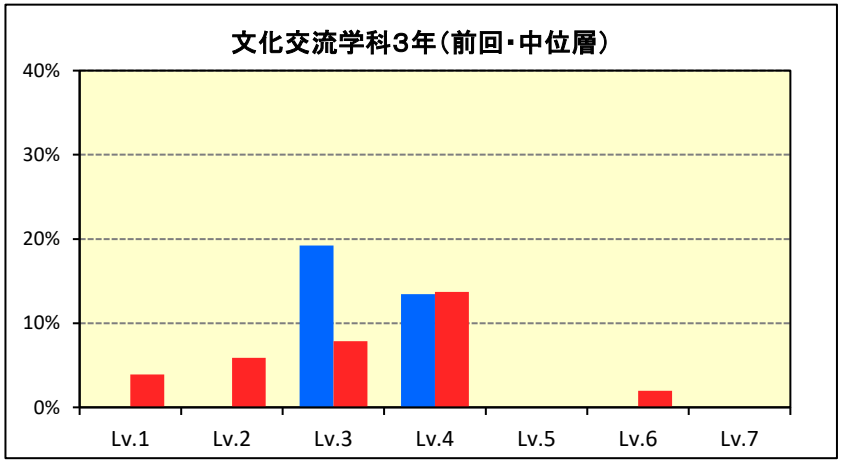
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）⑤

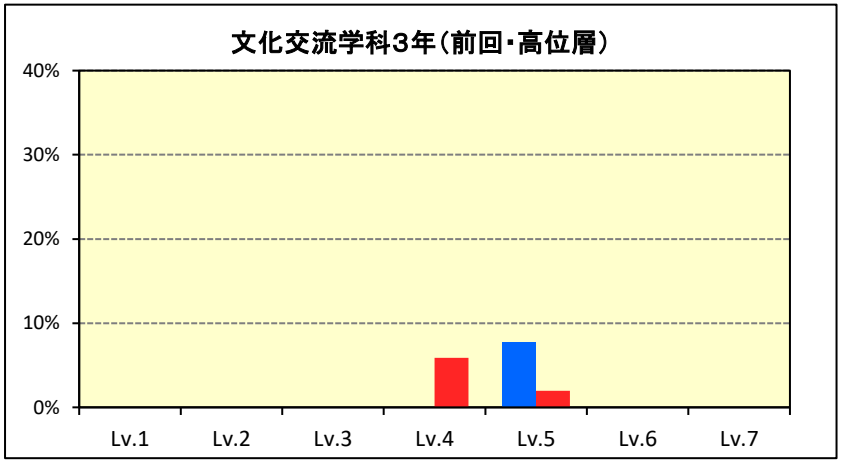




1年次受験に比べて、レベル2～3、レベル5のボリュームが小さく、
レベル1、レベル4の割合が大きい。





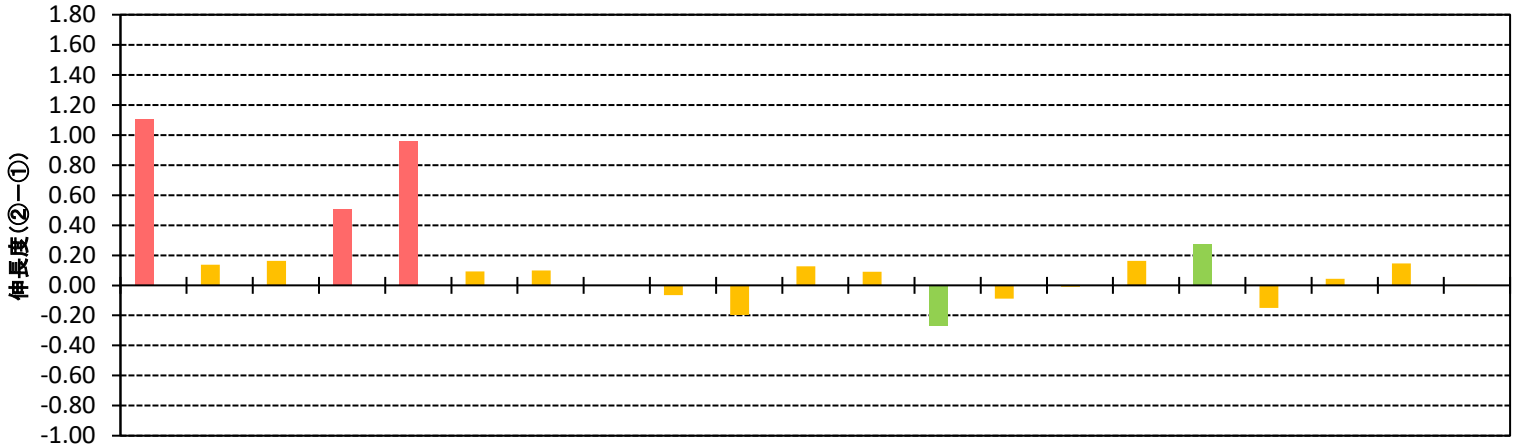


PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-2
3年生　成長分析
（文学部）
T検定

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで) ①

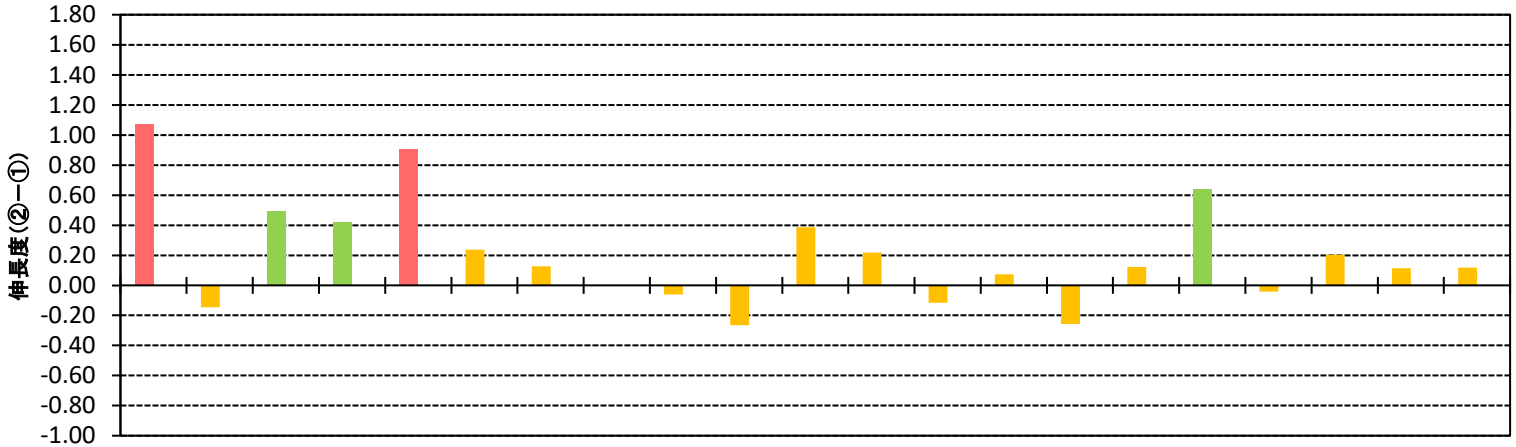


・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①文学部3年(1年次)	3.83	3.47	3.30	3.10	3.14	3.11	3.23
②文学部3年(今回)	4.94	3.60	3.46	3.61	4.10	3.21	3.32
伸長度(②－①)	1.11	0.14	0.16	0.51	0.96	0.09	0.10
t検定(P値)	0.00	0.26	0.16	0.00	0.00	0.41	0.36

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①文学部3年(1年次)	3.02	3.53	3.07	3.31	4.05	3.82	2.68	2.91	3.06	3.34	3.25	3.16	3.61
②文学部3年(今回)	2.96	3.34	3.20	3.40	3.79	3.73	2.68	3.07	3.33	3.19	3.30	3.30	3.61
伸長度(②－①)	−0.06	−0.20	0.13	0.09	−0.27	−0.09	−0.01	0.16	0.27	−0.15	0.04	0.15	0.00
t検定(P値)	0.48	0.05	0.18	0.44	0.02	0.35	0.93	0.10	0.02	0.21	0.70	0.24	0.97

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで) ②

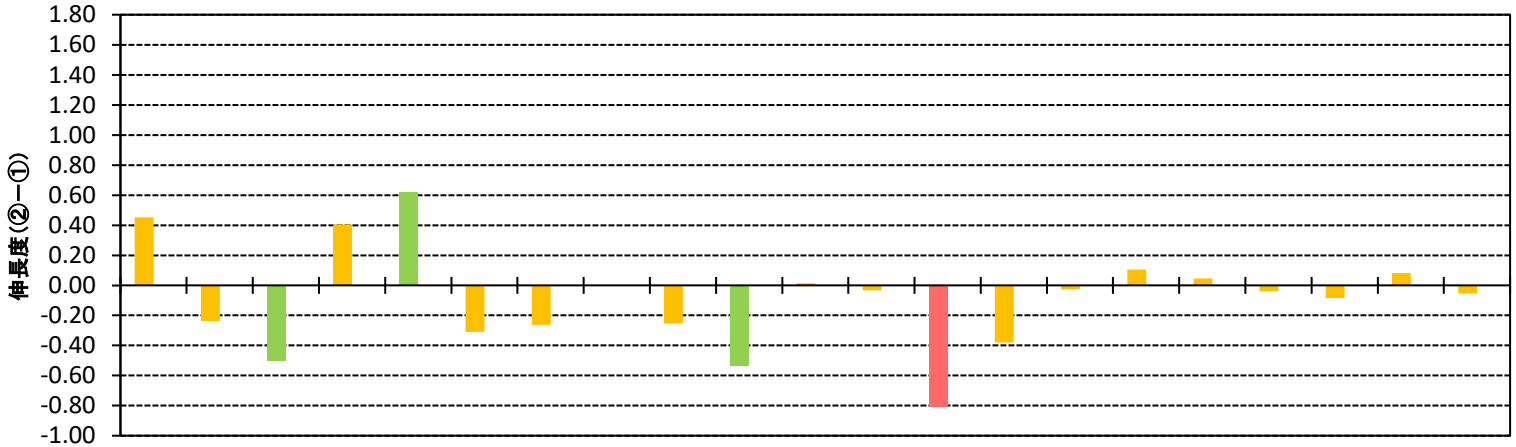


・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①現代英語学科3年(1年次)	3.93	3.65	3.13	3.15	3.18	3.11	3.18
②現代英語学科3年(今回)	5.00	3.51	3.62	3.56	4.09	3.35	3.31
伸長度(②－①)	1.07	−0.15	0.49	0.42	0.91	0.24	0.13
t検定(P値)	0.00	0.48	0.03	0.03	0.00	0.29	0.55

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①現代英語学科3年(1年次)	3.38	3.98	3.22	3.27	4.40	3.96	3.18	3.24	3.00	3.71	3.36	3.11	3.65
②現代英語学科3年(今回)	3.32	3.72	3.60	3.49	4.28	4.04	2.92	3.36	3.64	3.67	3.57	3.22	3.77
伸長度(②－①)	−0.06	−0.26	0.39	0.22	−0.12	0.07	−0.26	0.12	0.64	−0.04	0.20	0.11	0.12
t検定(P値)	0.75	0.21	0.06	0.39	0.53	1.00	0.41	0.39	0.01	0.87	0.36	0.71	0.71

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで) ③

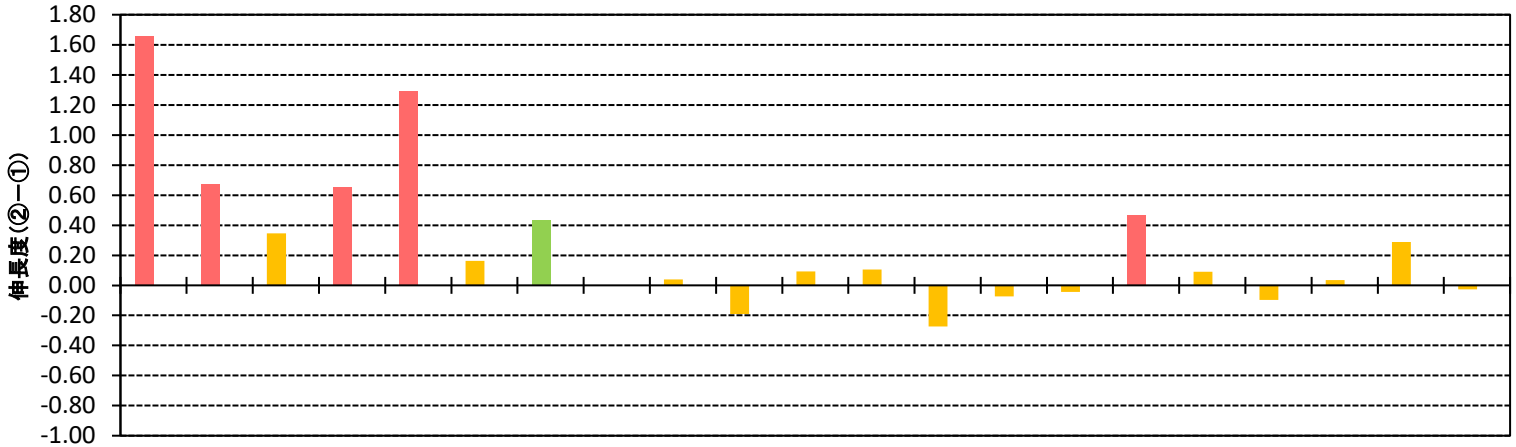


・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①児童教育専攻3年(1年次)	3.95	3.38	3.67	3.21	3.12	3.26	3.52
②児童教育専攻3年(今回)	4.40	3.14	3.17	3.62	3.74	2.95	3.26
伸長度(②－①)	0.45	−0.24	−0.50	0.40	0.62	−0.31	−0.26
t検定(P値)	0.07	0.41	0.04	0.07	0.02	0.13	0.30

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①児童教育専攻3年(1年次)	3.60	4.17	3.60	3.62	4.86	4.45	2.90	3.33	3.88	3.36	3.60	3.38	3.76
②児童教育専攻3年(今回)	3.34	3.63	3.61	3.59	4.05	4.07	2.88	3.44	3.93	3.32	3.51	3.46	3.71
伸長度(②－①)	−0.25	−0.53	0.01	−0.03	−0.81	−0.38	−0.03	0.11	0.05	−0.04	−0.08	0.08	−0.05
t検定(P値)	0.25	0.01	0.91	0.84	0.00	0.23	0.90	0.85	1.00	0.92	0.61	0.71	0.93

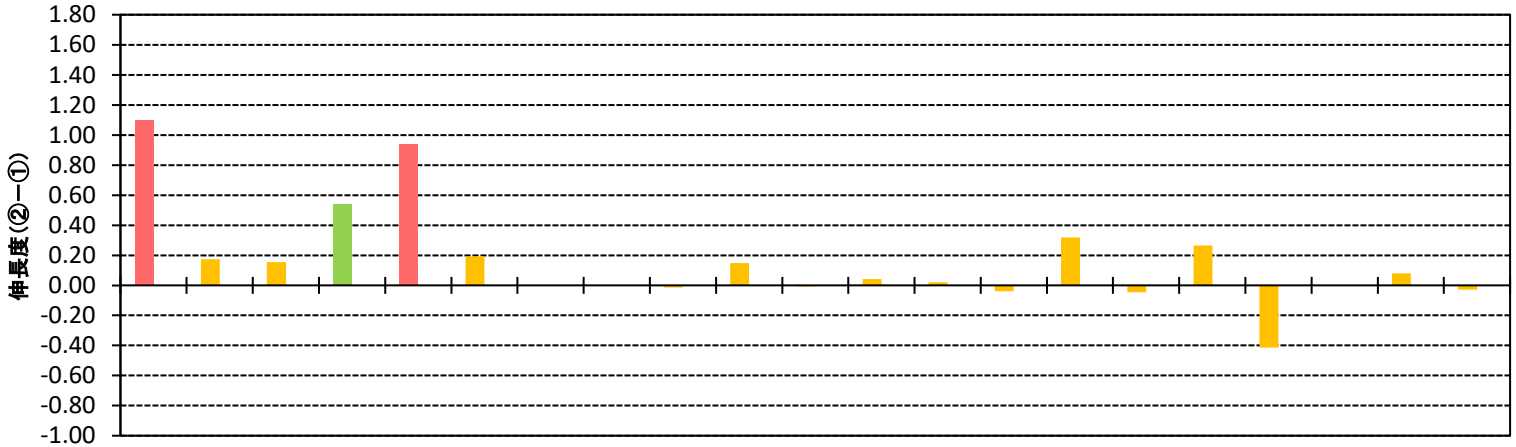
T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで) ④



・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー							コンピテンシー												
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①幼児保育専攻3年(1年次)	3.51	3.29	3.09	2.98	3.00	2.91	2.98	2.85	3.50	2.93	3.26	4.06	3.98	2.44	2.43	3.04	3.33	3.02	3.15	3.48
②幼児保育専攻3年(今回)	5.16	3.96	3.44	3.64	4.29	3.07	3.42	2.89	3.31	3.02	3.36	3.78	3.91	2.40	2.89	3.13	3.24	3.05	3.44	3.45
伸長度(②－①)	1.65	0.67	0.35	0.65	1.29	0.16	0.44	0.04	−0.19	0.09	0.10	−0.27	−0.07	−0.04	0.46	0.09	−0.10	0.04	0.29	−0.03
t検定(P値)	0.00	0.00	0.13	0.00	0.00	0.52	0.04	0.80	0.26	0.50	0.47	0.20	0.70	0.64	0.01	0.69	0.66	0.68	0.17	1.00

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで) ⑤

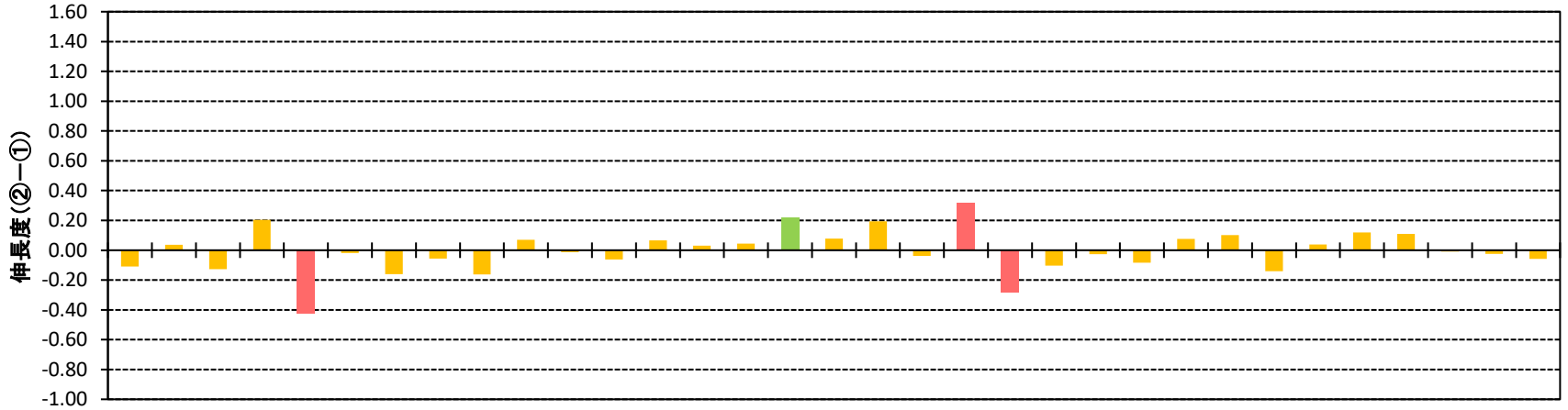


・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①文化交流学科3年(1年次)	3.96	3.52	3.40	3.10	3.27	3.21	3.29
②文化交流学科3年(今回)	5.06	3.69	3.56	3.63	4.21	3.40	3.29
伸長度(②－①)	1.10	0.17	0.15	0.54	0.94	0.19	0.00
t検定(P値)	0.00	0.51	0.51	0.02	0.00	0.35	1.00

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①文化交流学科3年(1年次)	2.35	2.58	2.65	3.15	3.04	2.98	2.23	2.71	2.48	2.94	3.10	3.04	3.56
②文化交流学科3年(今回)	2.33	2.73	2.65	3.20	3.06	2.94	2.55	2.67	2.75	2.53	3.10	3.12	3.53
伸長度(②－①)	−0.01	0.15	−0.01	0.04	0.02	−0.04	0.32	−0.04	0.26	−0.41	0.00	0.08	−0.03
t検定(P値)	0.90	0.40	0.91	1.00	0.87	0.76	0.09	0.67	0.21	0.10	0.86	0.87	0.77

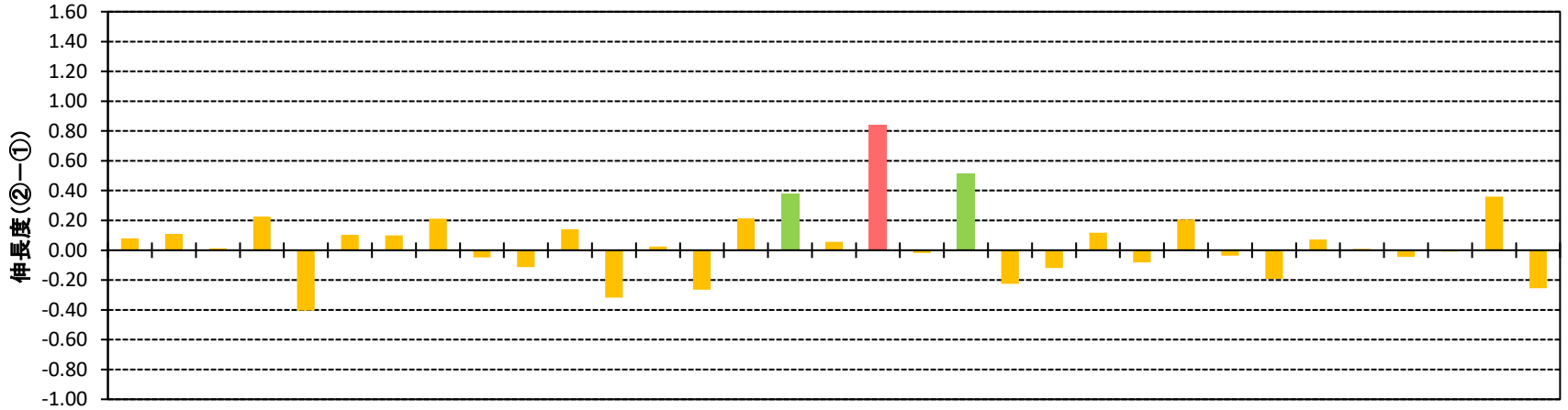
T検定結果（コンピテンシー小分類）①



■・・・1%有意
■・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①文学部3年（1年次）	3.00	3.12	3.59	3.56	2.72	3.54	3.48	2.66	3.22	2.73	2.16	2.20	2.39	2.08	3.63	2.31	2.23	2.54	2.43	2.40	2.45	2.60	3.32	2.70	2.41	2.81	2.44	2.51	2.48	2.59	2.45	2.61	3.09
②文学部3年（今回）	2.90	3.16	3.46	3.77	2.30	3.52	3.32	2.61	3.05	2.80	2.15	2.14	2.46	2.11	3.68	2.53	2.31	2.74	2.40	2.72	2.17	2.49	3.29	2.62	2.49	2.92	2.30	2.55	2.60	2.70	2.44	2.59	3.03
伸長度（②－①）	−0.11	0.04	−0.13	0.20	−0.42	−0.02	−0.16	−0.06	−0.16	0.07	−0.01	−0.06	0.07	0.03	0.04	0.22	0.08	0.19	−0.04	0.32	−0.28	−0.10	−0.03	−0.08	0.08	0.10	−0.14	0.04	0.12	0.11	−0.01	−0.02	−0.06
t検定（P値）	0.30	0.75	0.26	0.06	0.00	0.74	0.11	0.57	0.12	0.62	0.92	0.60	0.42	0.71	0.62	0.02	0.32	0.08	0.47	0.01	0.00	0.45	0.74	0.44	0.47	0.34	0.19	0.73	0.24	0.31	0.87	0.86	0.61

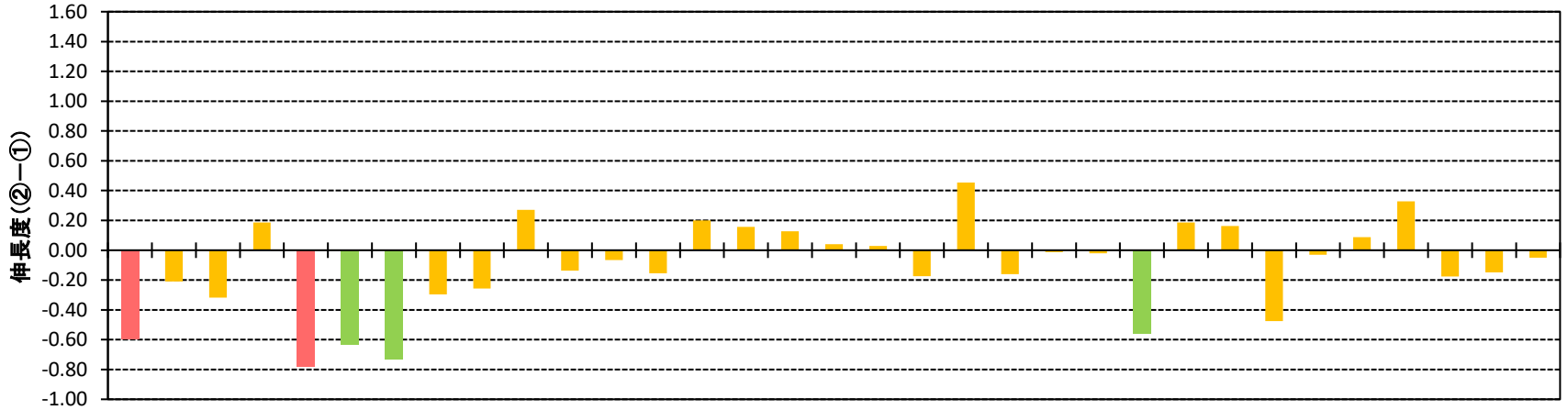
T検定結果（コンピテンシー小分類）②



■・・・1%有意
■・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①現代英語学科3年（1年次）	3.11	3.42	3.36	3.49	3.11	3.56	3.40	2.64	3.36	2.98	2.22	2.56	2.64	2.51	3.65	2.55	2.47	2.25	2.51	2.18	2.78	2.60	3.33	2.82	2.45	3.04	2.64	2.38	2.45	2.60	2.78	2.45	3.24
②現代英語学科3年（今回）	3.19	3.53	3.38	3.72	2.70	3.67	3.50	2.85	3.31	2.87	2.36	2.25	2.66	2.25	3.87	2.93	2.53	3.09	2.49	2.70	2.56	2.48	3.44	2.74	2.66	3.00	2.44	2.45	2.46	2.56	2.77	2.81	2.98
伸長度（②－①）	0.08	0.11	0.01	0.23	−0.41	0.10	0.10	0.21	−0.05	−0.11	0.14	−0.32	0.02	−0.26	0.21	0.38	0.06	0.84	−0.02	0.52	−0.23	−0.12	0.12	−0.08	0.21	−0.04	−0.19	0.07	0.01	−0.04	−0.01	0.36	−0.25
t検定（P値）	0.80	0.75	1.00	0.35	0.06	0.59	0.79	0.38	0.75	0.47	0.57	0.18	0.77	0.27	0.39	0.04	0.62	0.00	0.83	0.03	0.18	0.76	0.61	0.64	0.32	1.00	0.34	0.69	0.92	0.80	0.83	0.11	0.17

T検定結果（コンピテンシー小分類）③

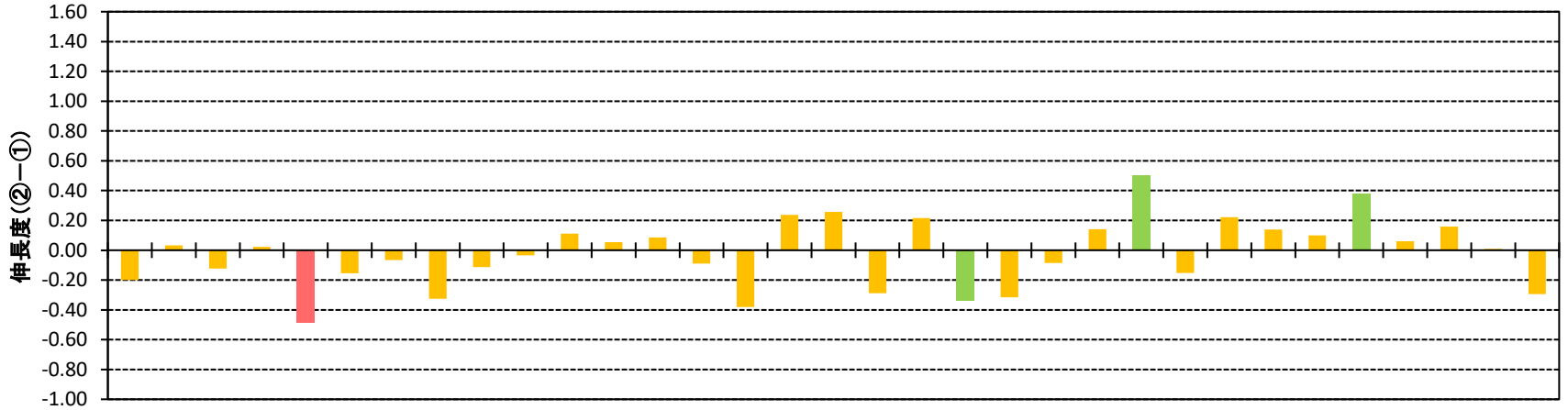


■・・・1%有意
■・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①児童教育専攻3年（1年次）	3.62	3.43	3.98	3.60	3.12	4.05	3.95	2.88	3.50	3.14	2.43	2.26	2.64	2.19	3.43	2.24	2.69	3.19	2.88	2.60	2.43	2.45	3.17	3.07	2.64	2.64	2.55	2.79	2.57	2.45	2.79	2.93	2.93
②児童教育専攻3年（今回）	3.02	3.22	3.66	3.78	2.34	3.41	3.22	2.59	3.24	3.41	2.29	2.20	2.49	2.39	3.59	2.37	2.73	3.22	2.71	3.05	2.27	2.44	3.15	2.51	2.83	2.80	2.07	2.76	2.66	2.78	2.61	2.78	2.88
伸長度（②－①）	−0.59	−0.21	−0.32	0.19	−0.78	−0.63	−0.73	−0.30	−0.26	0.27	−0.14	−0.07	−0.16	0.20	0.16	0.13	0.04	0.03	−0.17	0.45	−0.16	−0.01	−0.02	−0.56	0.19	0.16	−0.47	−0.03	0.09	0.33	−0.18	−0.15	−0.05
t検定（P値）	0.01	0.36	0.16	0.54	0.00	0.01	0.01	0.29	0.23	0.24	0.55	0.84	0.54	0.18	0.47	0.67	1.00	1.00	0.32	0.13	0.55	0.87	0.80	0.04	0.51	0.52	0.07	0.85	0.61	0.21	0.46	0.74	0.92

T検定結果（コンピテンシー小分類）④

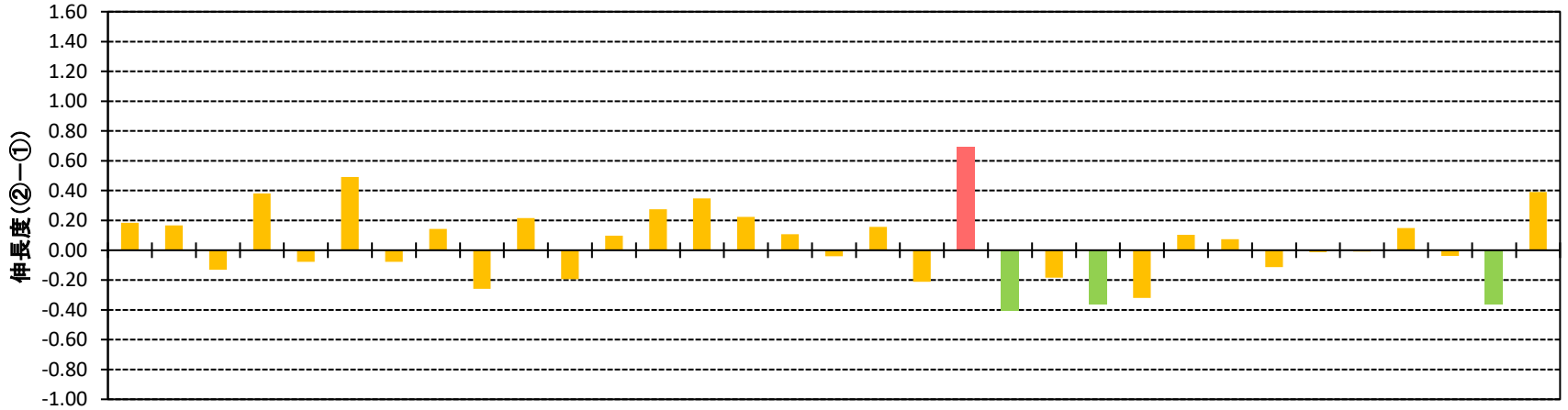
オプション分析



・・・1%有意
・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①幼児保育専攻3年（1年次）	3.00	3.17	3.76	3.72	2.70	3.54	3.65	2.87	3.26	2.85	1.91	1.98	2.31	1.93	3.96	1.96	1.91	2.85	2.19	2.70	2.39	2.70	3.28	2.28	2.33	2.78	2.31	2.56	2.35	2.69	2.22	2.56	3.20
②幼児保育専攻3年（今回）	2.80	3.20	3.64	3.75	2.22	3.38	3.58	2.55	3.15	2.82	2.02	2.04	2.40	1.84	3.58	2.20	2.16	2.56	2.40	2.36	2.07	2.62	3.42	2.78	2.18	3.00	2.45	2.65	2.73	2.75	2.38	2.56	2.91
伸長度（②－①）	-0.20	0.03	-0.12	0.02	-0.49	-0.16	-0.07	-0.32	-0.11	-0.03	0.11	0.05	0.09	-0.09	-0.38	0.24	0.26	-0.29	0.21	-0.34	-0.32	-0.09	0.14	0.50	-0.15	0.22	0.14	0.10	0.38	0.06	0.16	0.01	-0.29
t検定（P値）	0.23	1.00	0.54	0.71	0.01	0.37	0.83	0.14	0.62	0.67	0.53	1.00	0.77	0.42	0.12	0.14	0.07	0.18	0.29	0.04	0.08	0.71	0.58	0.01	0.50	0.24	0.48	0.56	0.05	0.62	0.44	0.87	0.26

T検定結果（コンピテンシー小分類） ⑤



■・・・1%有意
■・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①文化交流学科3年（1年次）	2.40	2.50	3.33	3.44	2.00	3.10	3.02	2.29	2.79	2.00	2.15	2.00	2.02	1.69	3.42	2.48	1.92	2.00	2.25	2.17	2.19	2.60	3.46	2.71	2.27	2.75	2.27	2.38	2.56	2.58	2.06	2.58	2.94
②文化交流学科3年（今回）	2.59	2.67	3.20	3.82	1.92	3.59	2.94	2.43	2.53	2.22	1.96	2.10	2.29	2.04	3.65	2.59	1.88	2.16	2.04	2.86	1.78	2.41	3.10	2.39	2.37	2.82	2.16	2.37	2.55	2.73	2.02	2.22	3.33
伸長度（②－①）	0.18	0.17	−0.13	0.38	−0.08	0.49	−0.08	0.14	−0.26	0.22	−0.19	0.10	0.27	0.35	0.22	0.11	−0.04	0.16	−0.21	0.69	−0.41	−0.18	−0.36	−0.32	0.10	0.07	−0.11	−0.01	−0.01	0.15	−0.04	−0.36	0.39
t検定（P値）	0.31	0.24	0.69	0.09	0.66	0.05	0.58	0.58	0.23	0.12	0.35	0.52	0.17	0.05	0.29	0.63	0.68	0.49	0.17	0.00	0.02	0.52	0.04	0.16	0.68	0.85	0.60	0.86	0.83	0.56	0.86	0.04	0.11

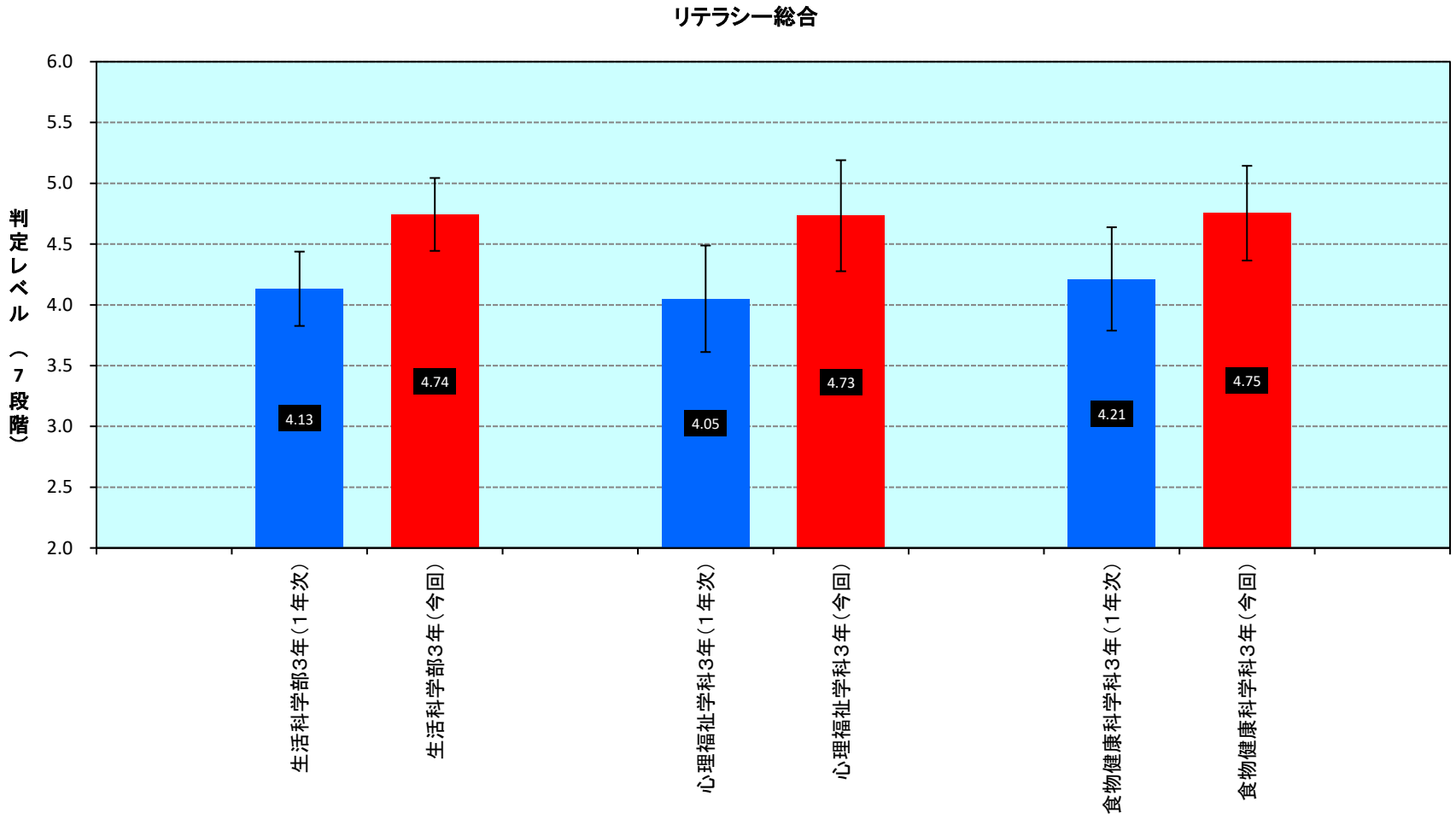
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-3
3年生　成長分析
（生活科学部）

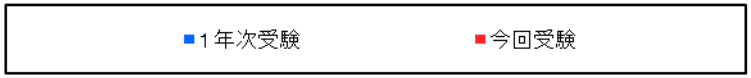
リテラシー総合（成長分析）

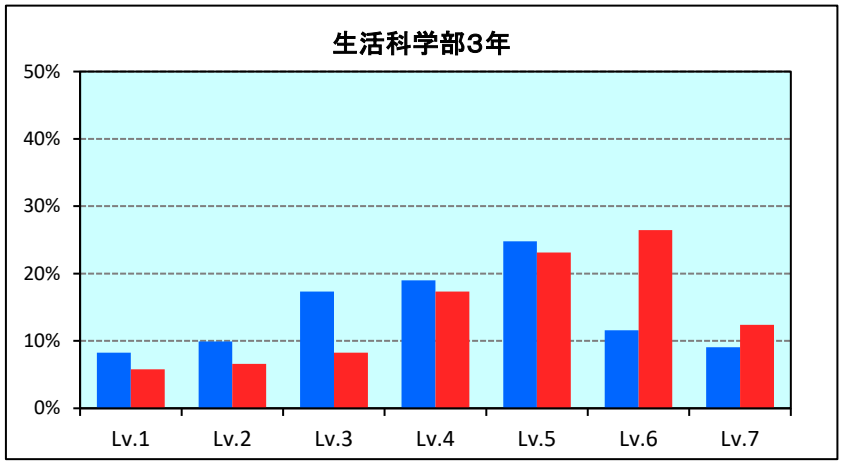
●生活科学部3年、心理福祉学科3年、食物健康科学科3年は、1年次受験のスコアを上回る。



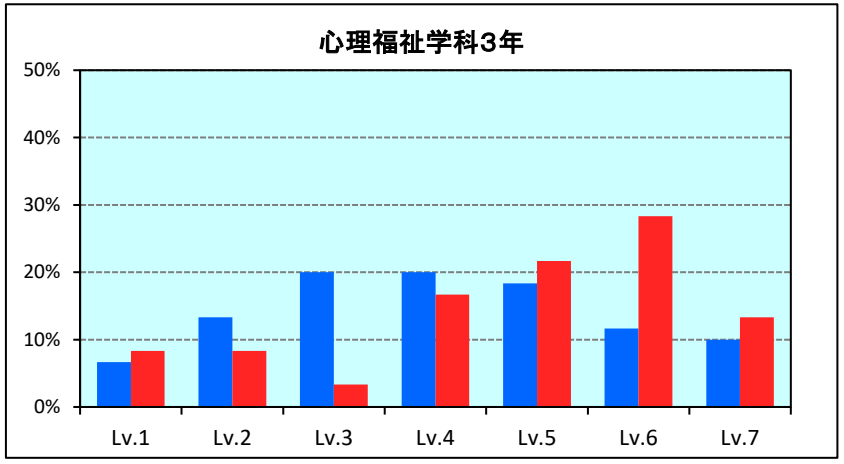
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

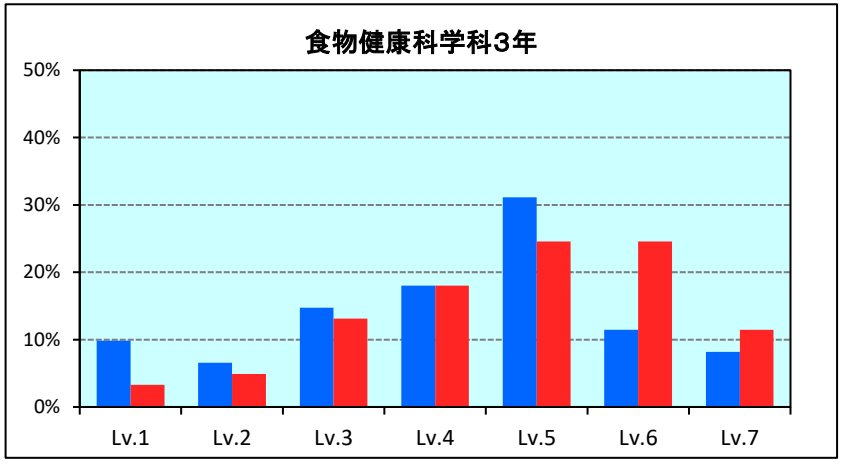




1年次受験に比べて、レベル2～3のボリュームが小さく、レベル6～7のボリュームが大きい。



1年次受験に比べて、レベル2～4のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。



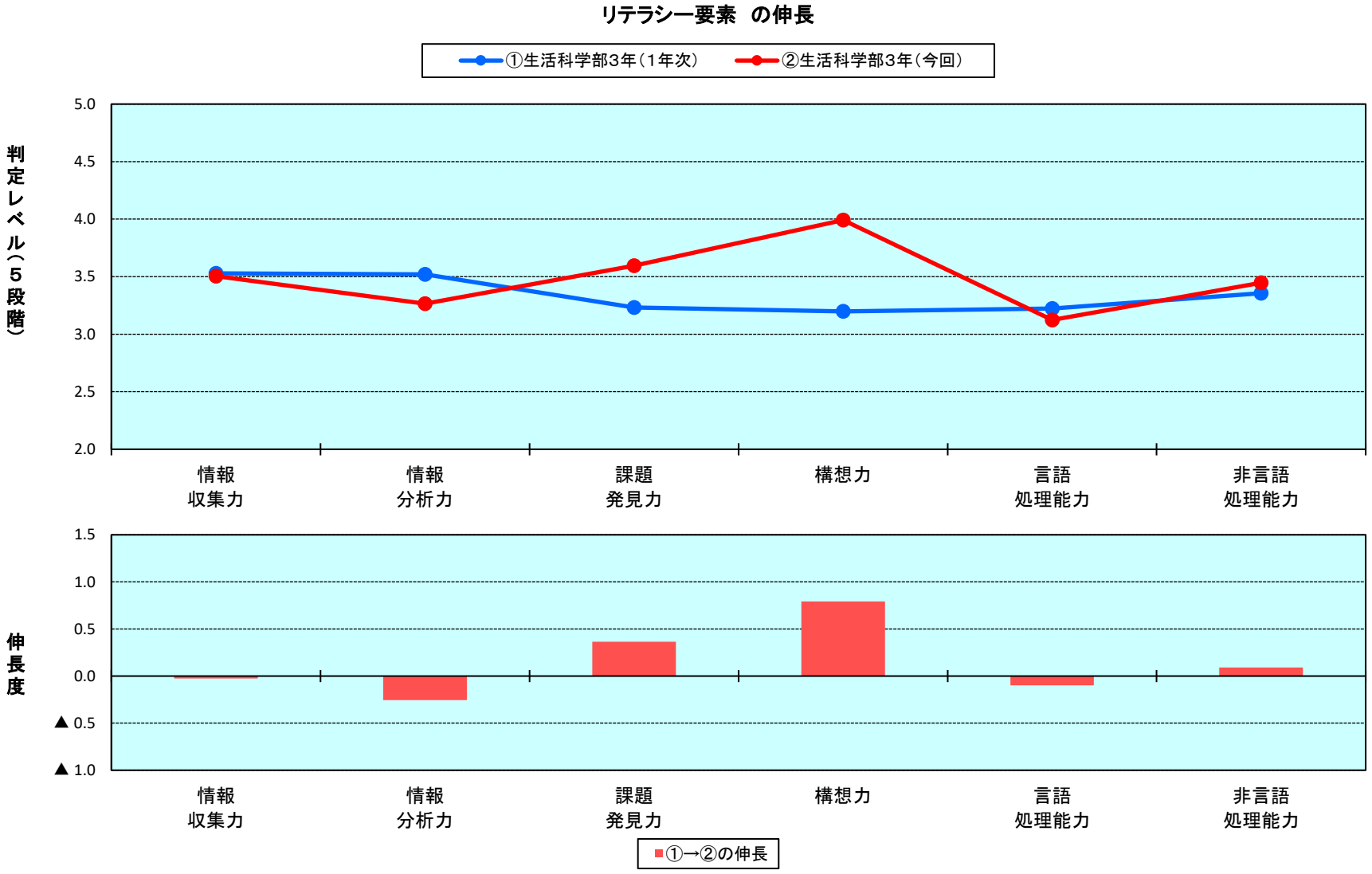
1年次受験に比べて、レベル1、レベル5の割合が小さく、レベル6～7のボリュームが大きい。

リテラシー要素（成長分析）①

【生活科学部3年】

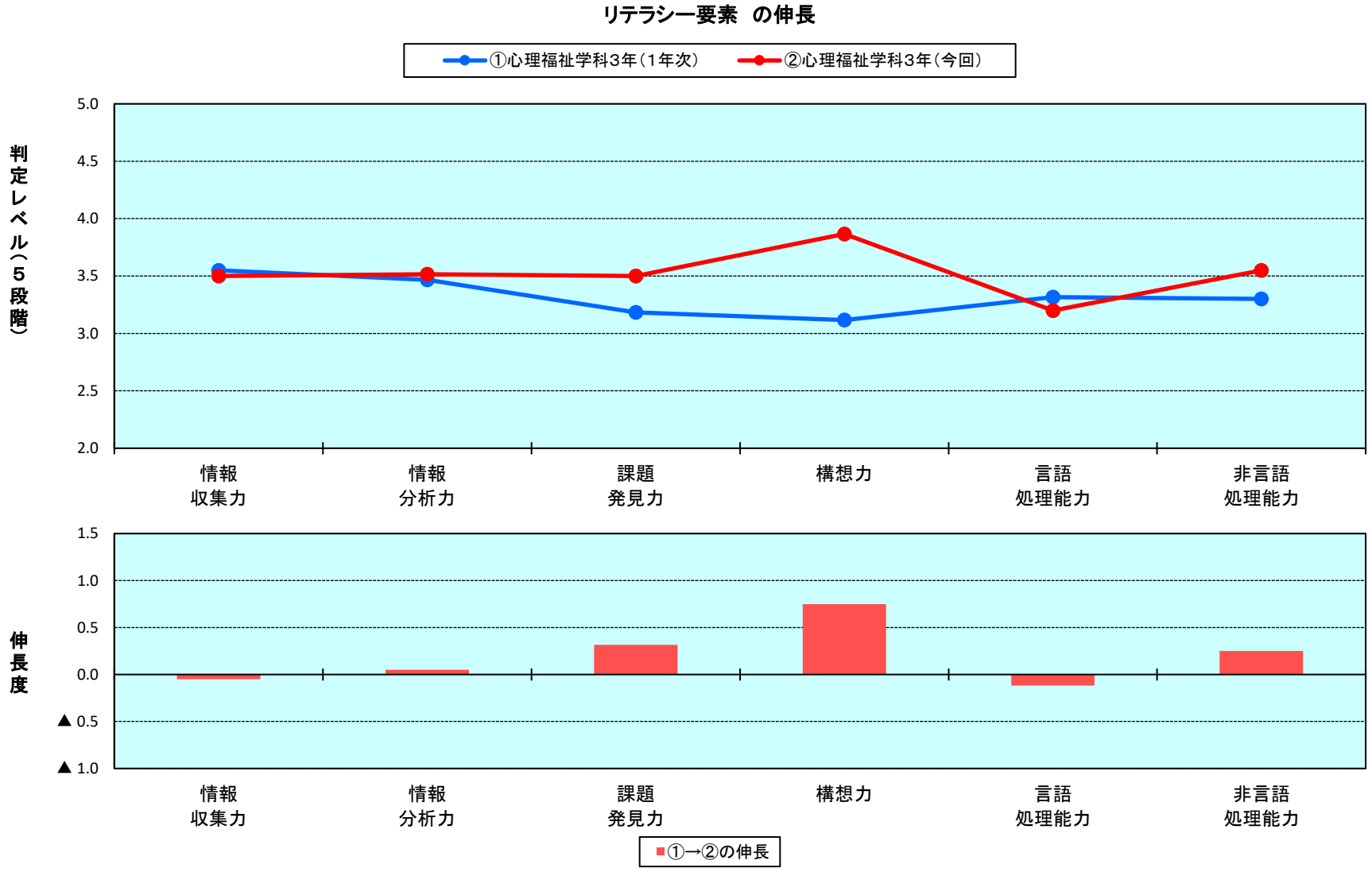
課題発見力、構想力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



リテラシー要素（成長分析）②

【心理福祉学科3年】
情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、情報収集力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

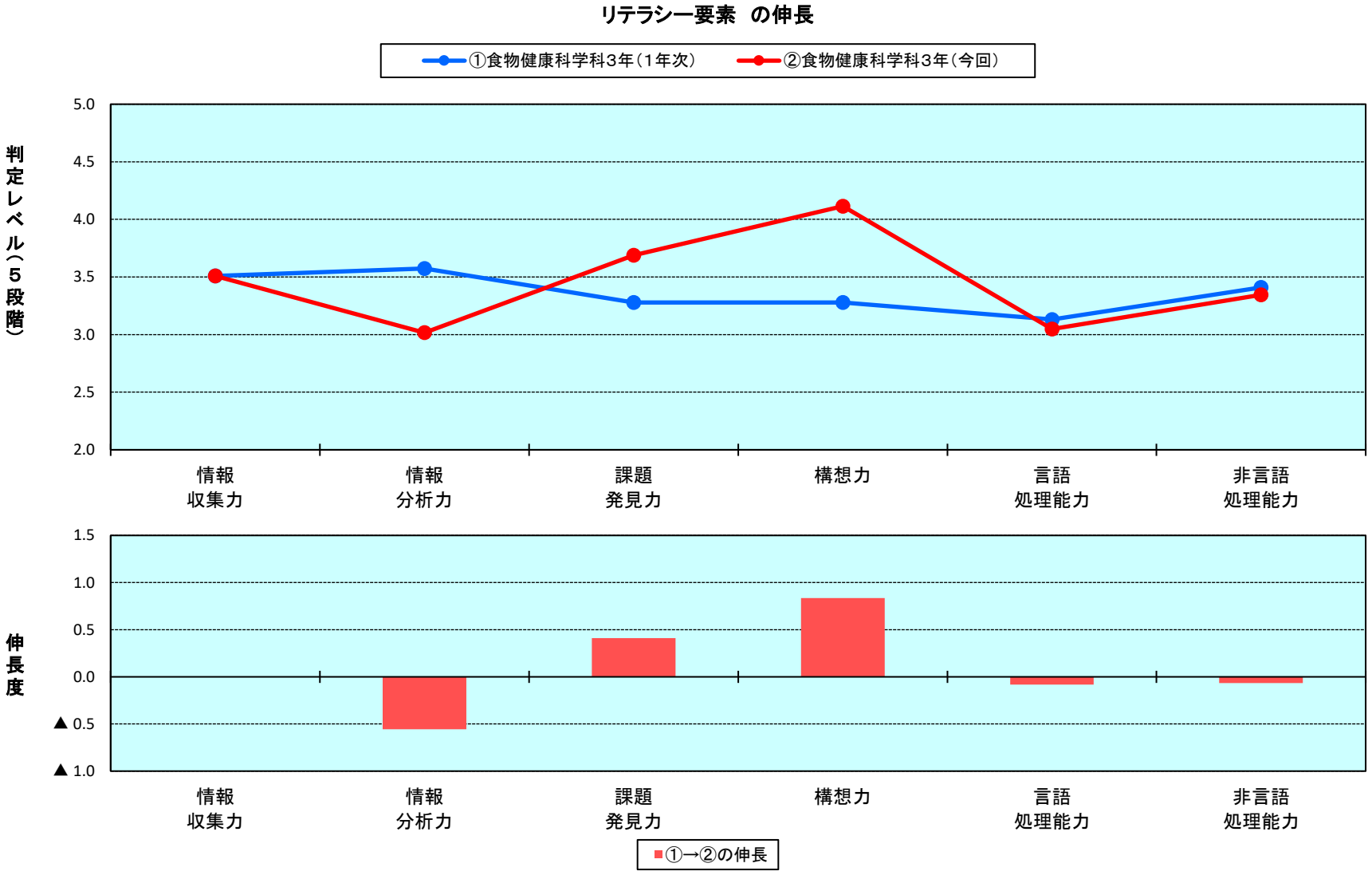


リテラシー要素（成長分析）③

【食物健康科学科3年】

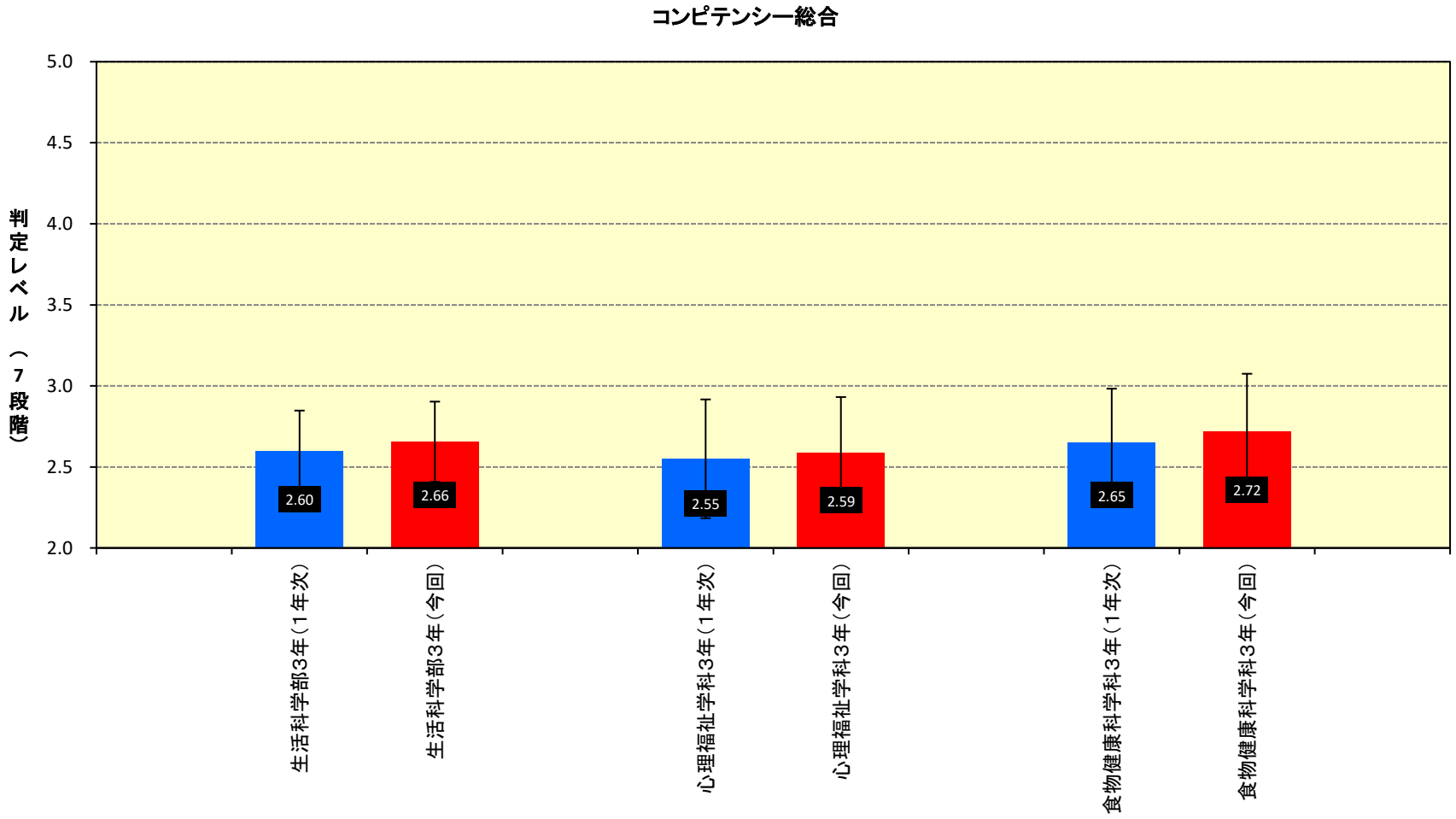
課題発見力、構想力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報分析力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



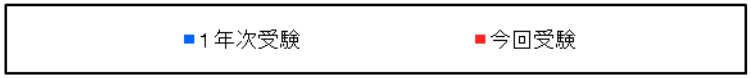
コンピテンシー総合（成長分析）

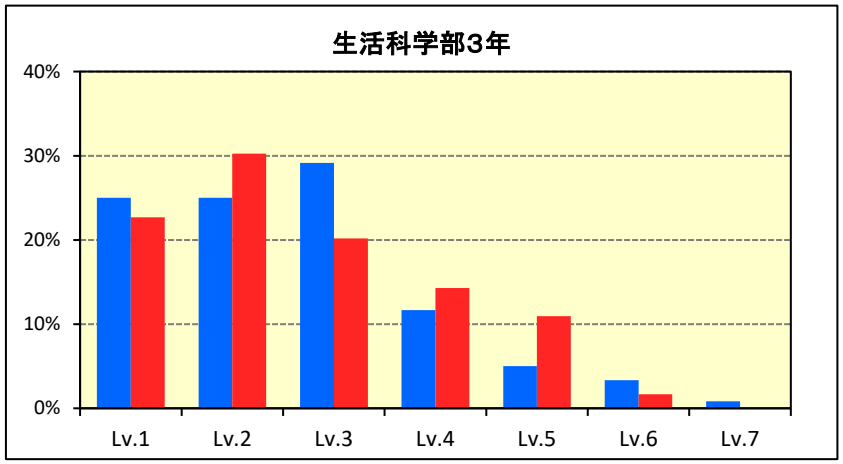
●生活科学部3年、心理福祉学科3年、食物健康科学科3年は、1年次受験のスコアを上回る。



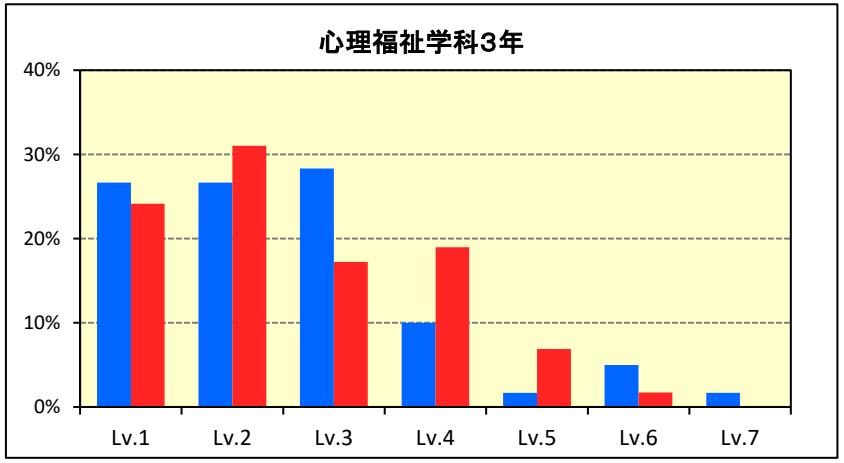
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

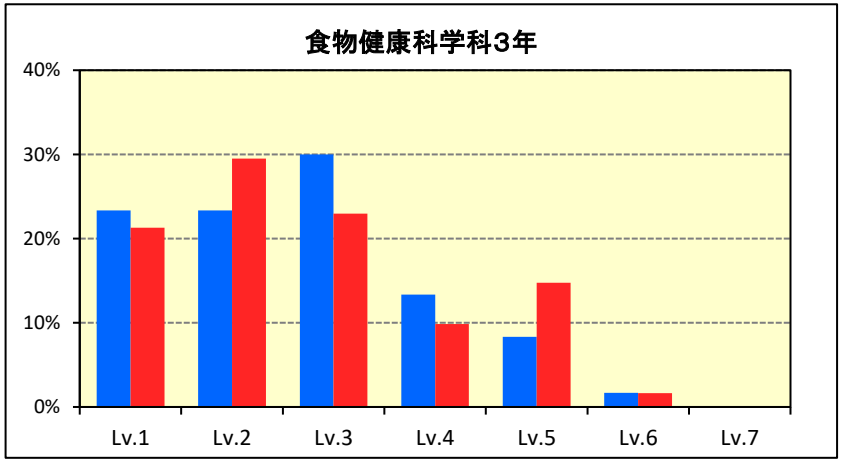




1年次受験に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル2、レベル5の割合が大きい。



1年次受験に比べて、レベル3、レベル6の割合が小さく、レベル2、レベル4～5のボリュームが大きい。



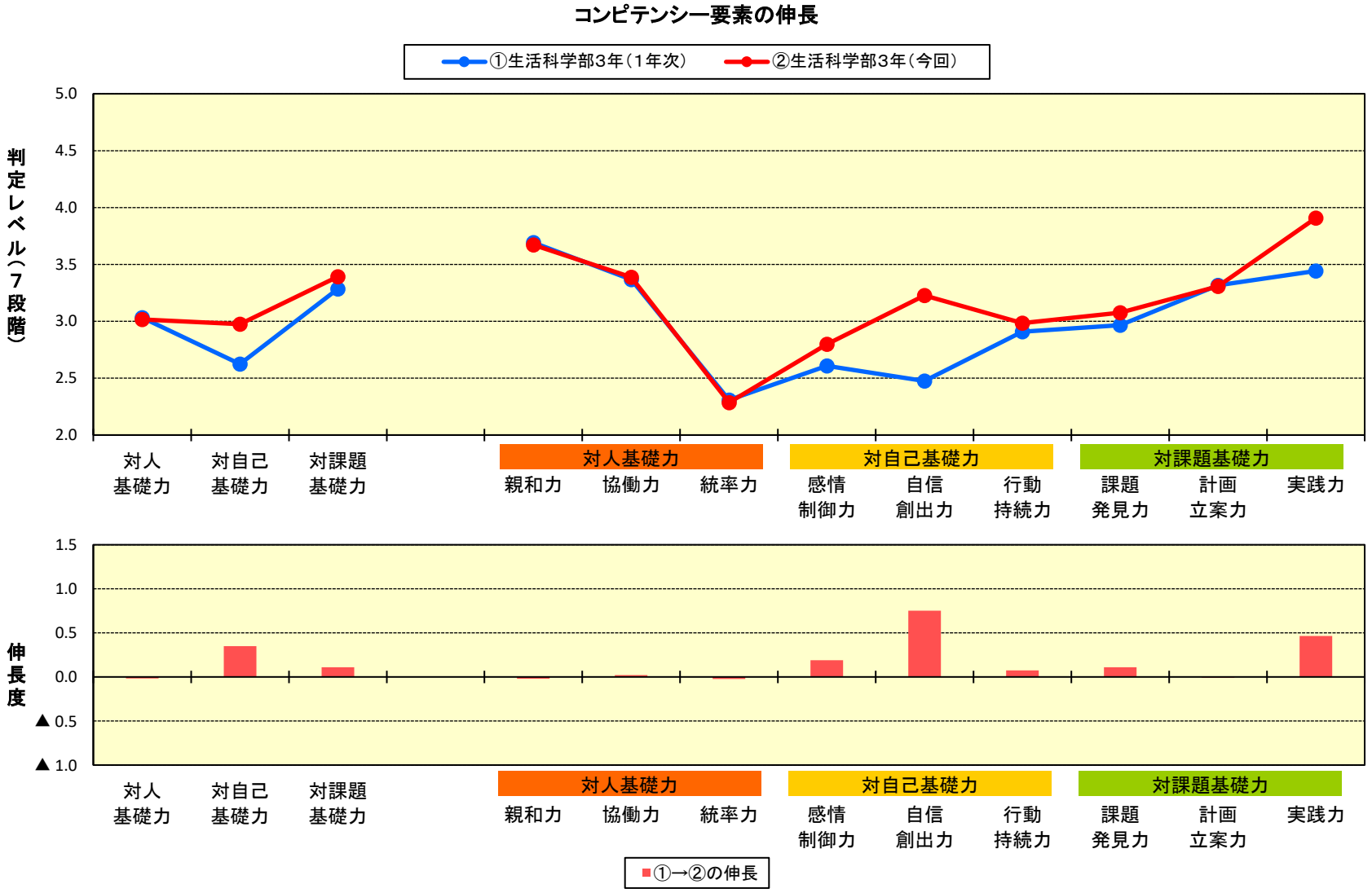
1年次受験に比べて、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル2、レベル5の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（成長分析）①

【生活科学部3年】

協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、統率力、計画立案力は、1年次受験のスコアを下回る。

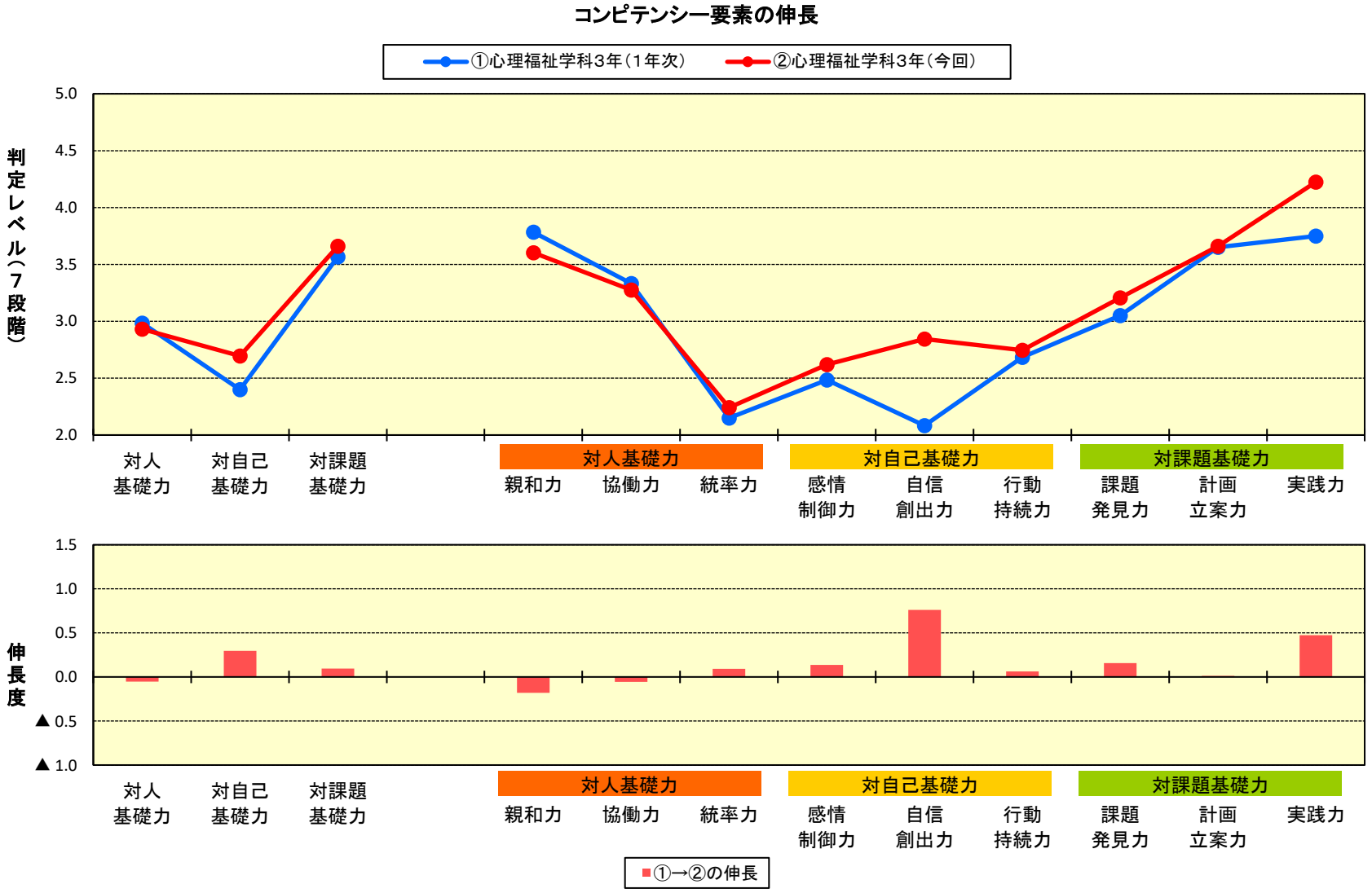


コンピテンシー大中分類要素（成長分析）②

【心理福祉学科３年】

統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、１年次受験のスコアを上回る。

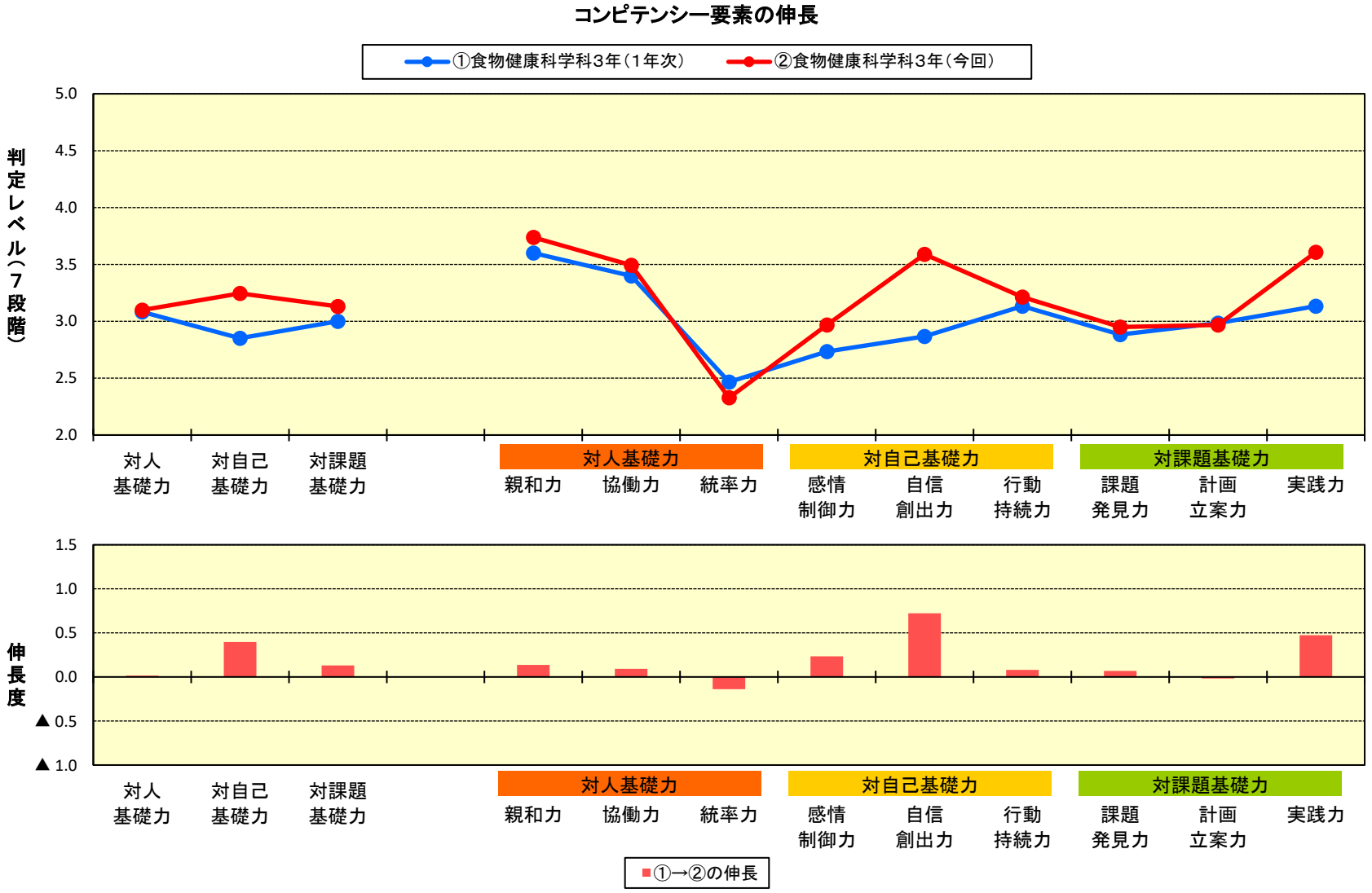
一方、親和力、協働力は、１年次受験のスコアを下回る。



コンピテンシー大中分類要素（成長分析）③

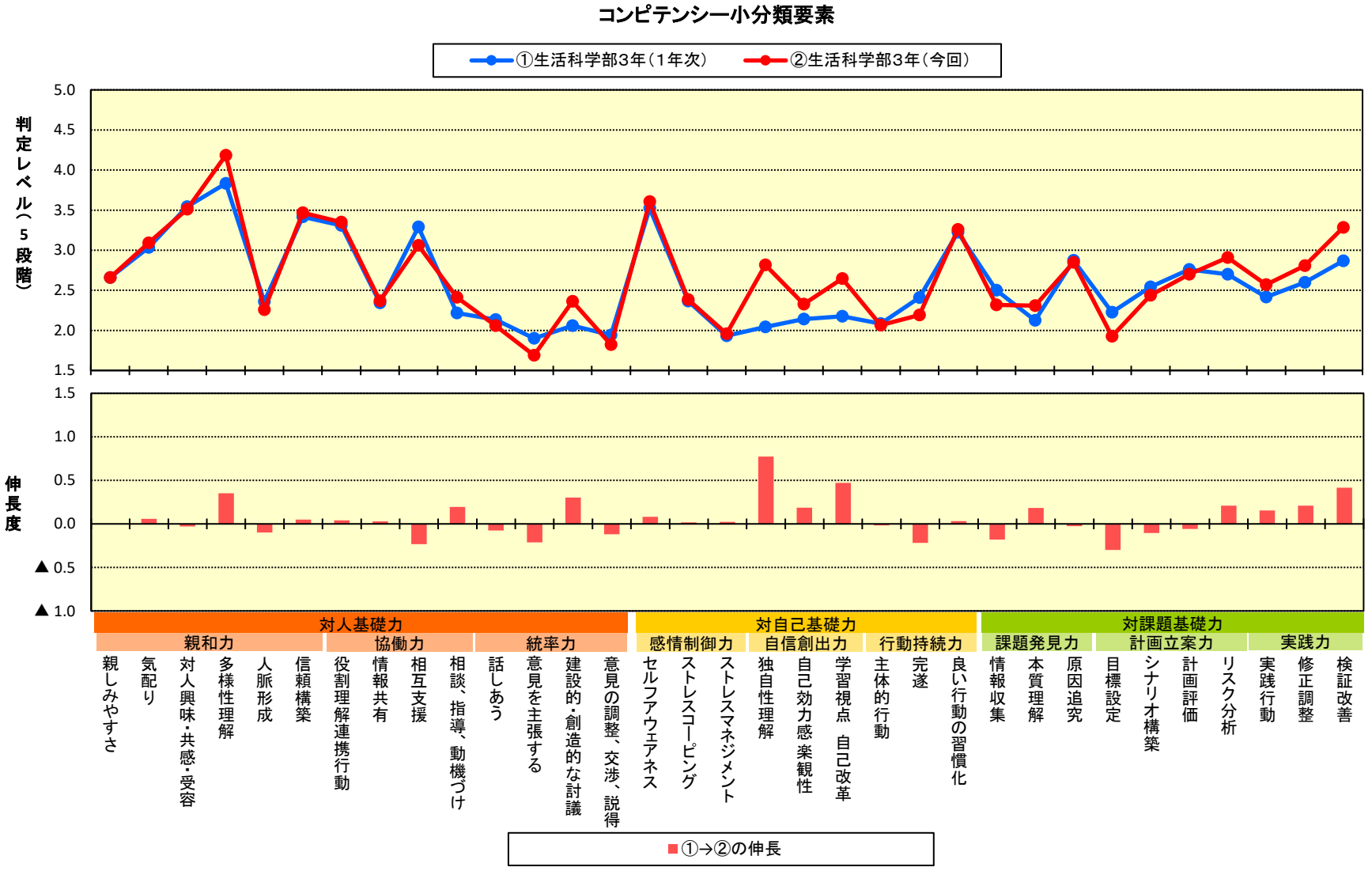
【食物健康科学科3年】

親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、統率力、計画立案力は、1年次受験のスコアを下回る。



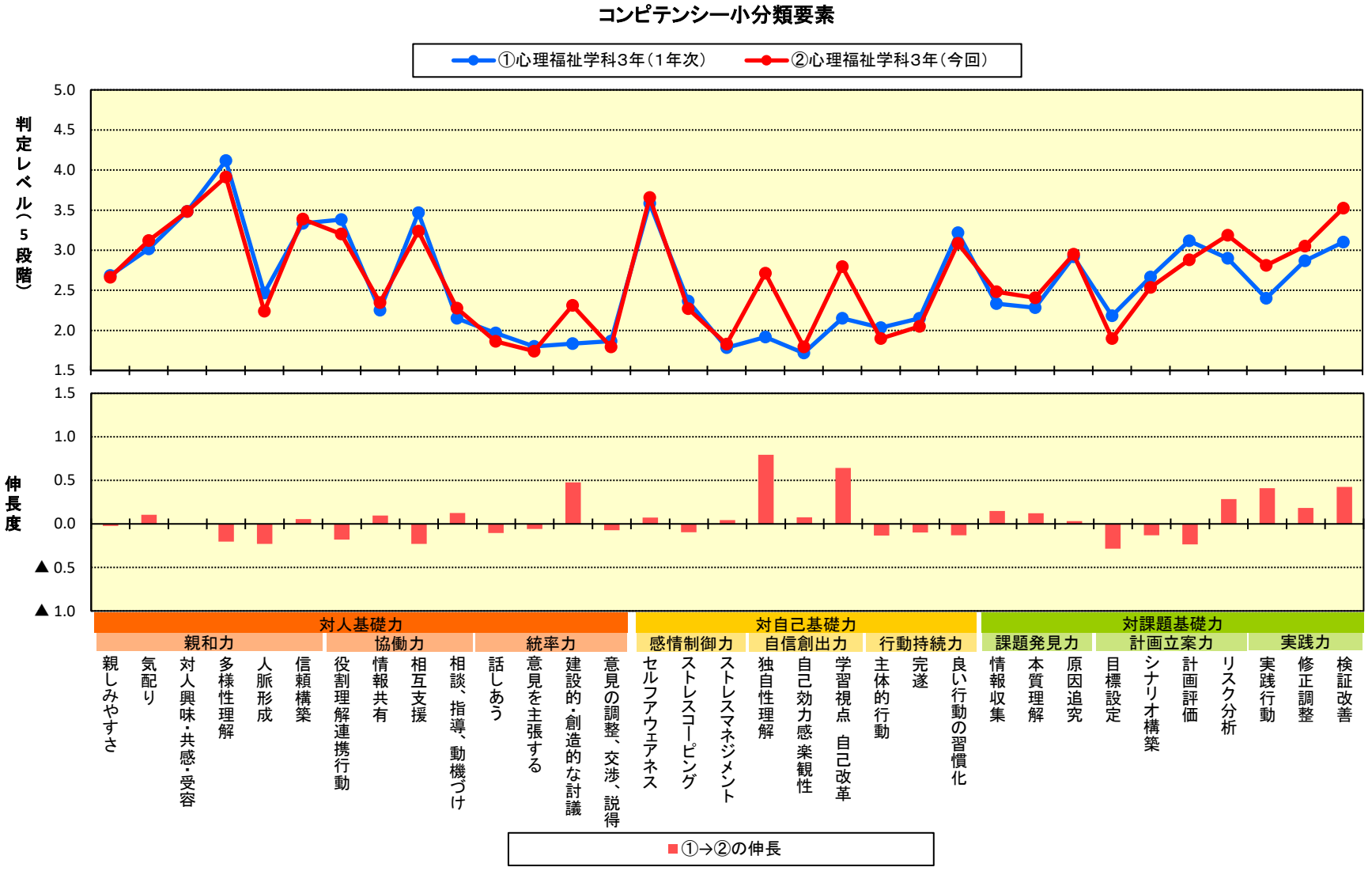
コンピテンシー小分類要素（成長分析）①

【生活科学部3年】



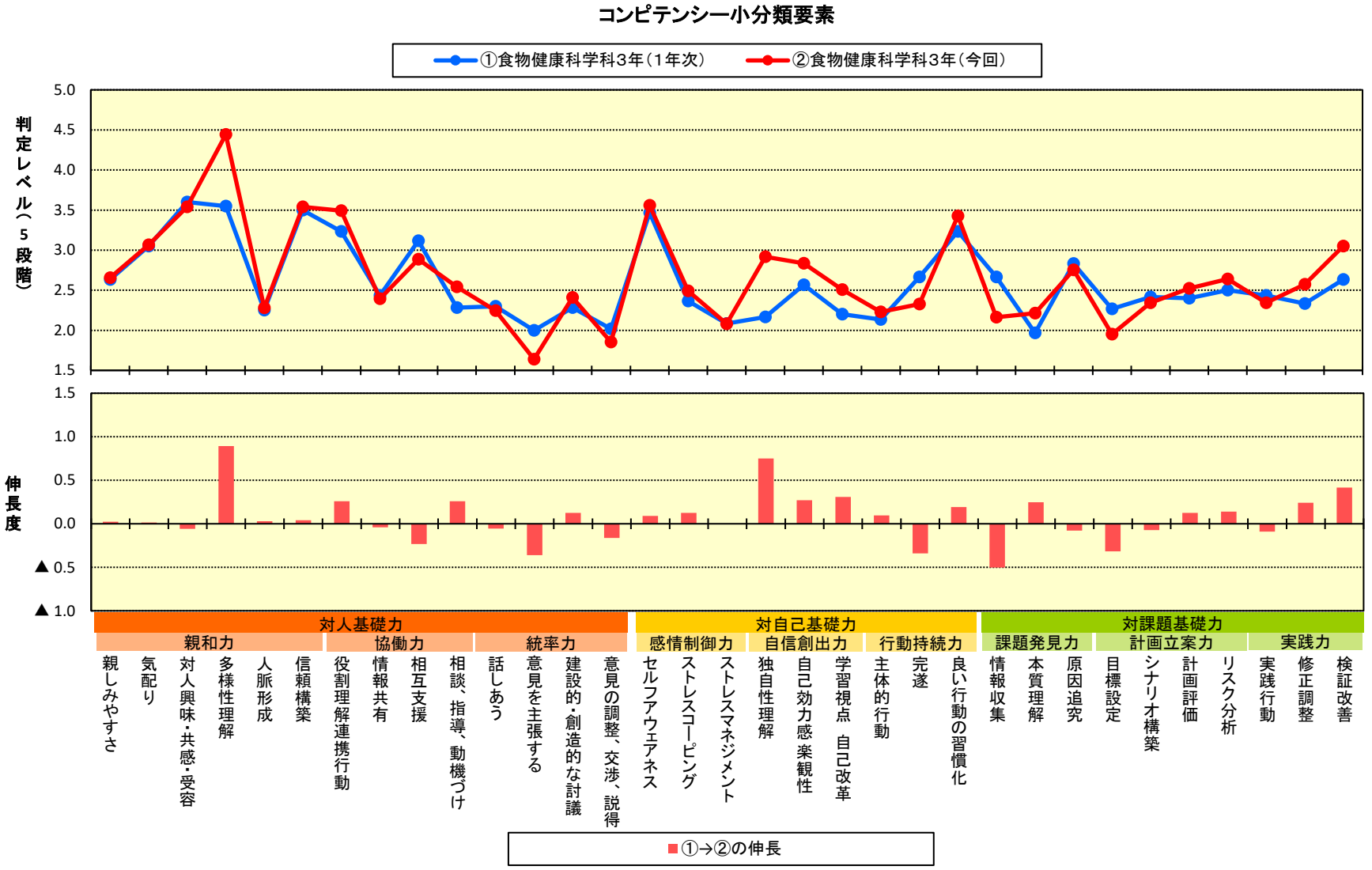
コンピテンシー小分類要素（成長分析）②

【心理福祉学科3年】



コンピテンシー小分類要素（成長分析）③

【食物健康科学科3年】

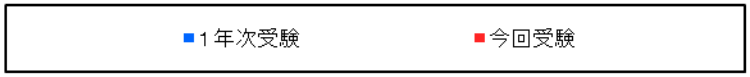


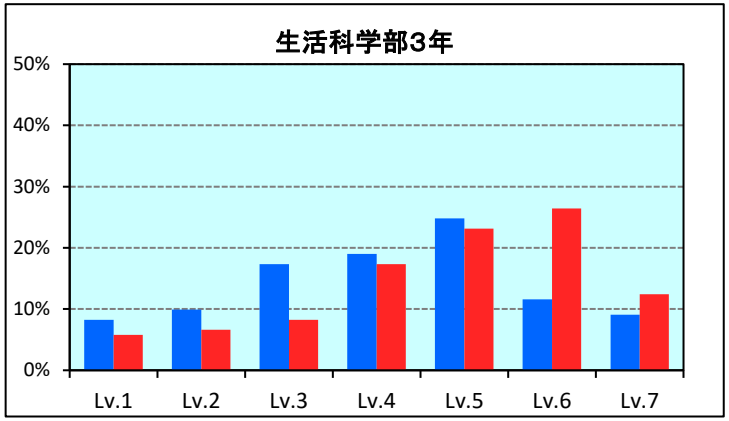
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

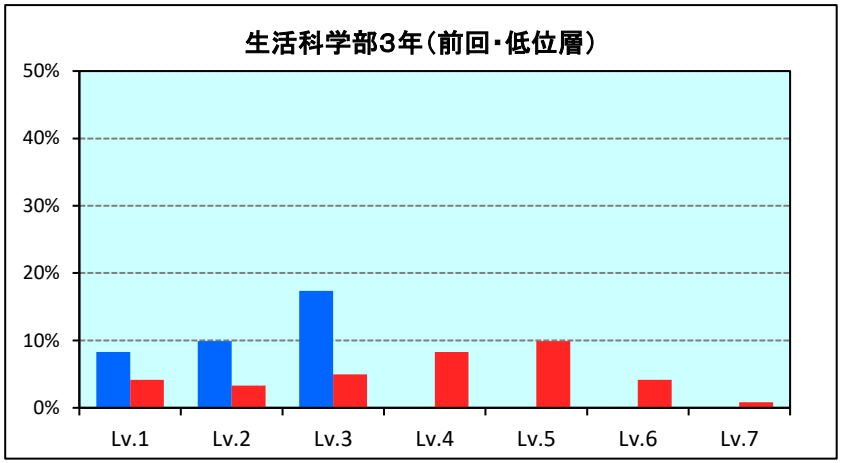
Part.2-3
3年生　成長分析
（生活科学部）
高中低位分析

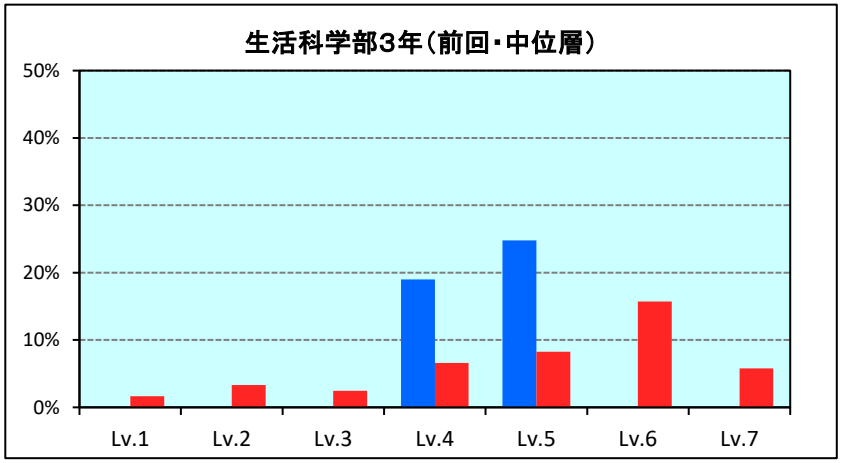
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）①

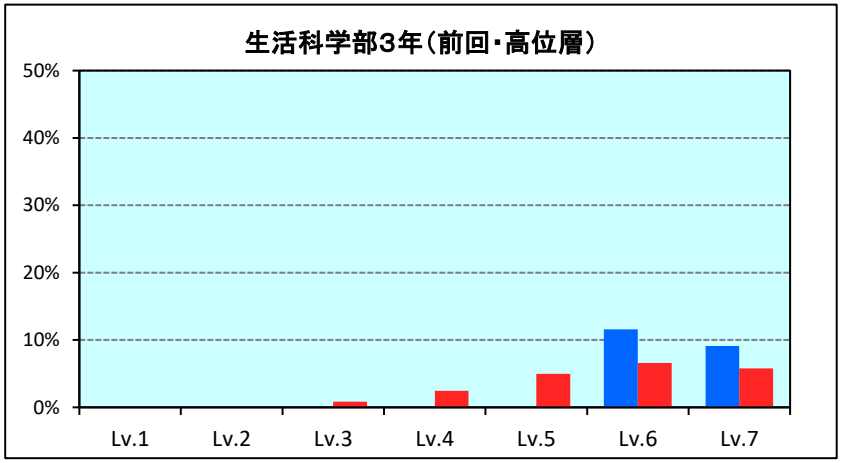




1年次受験に比べて、レベル2～3のボリュームが小さく、レベル6～7のボリュームが大きい。

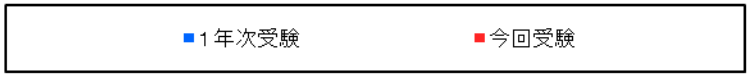


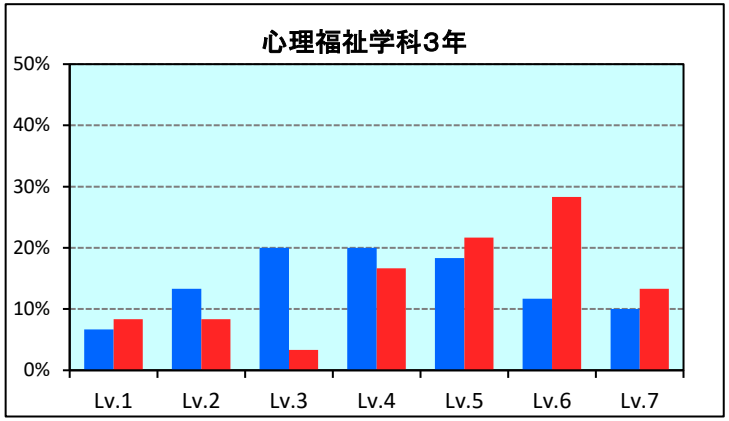




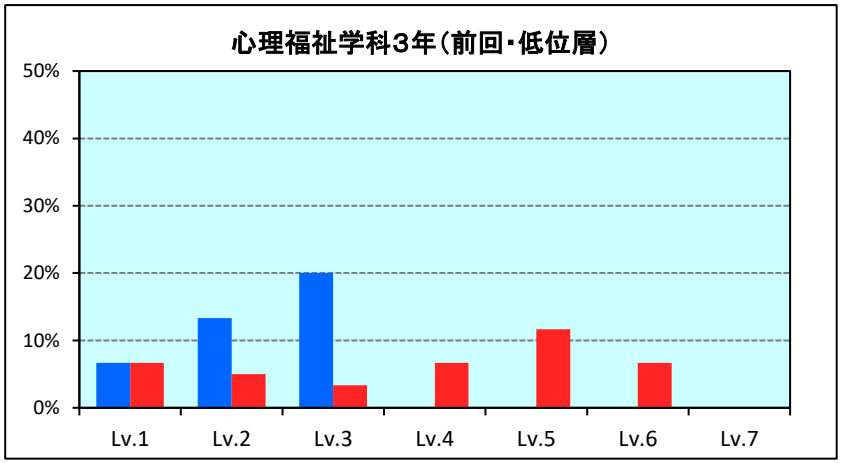
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）②

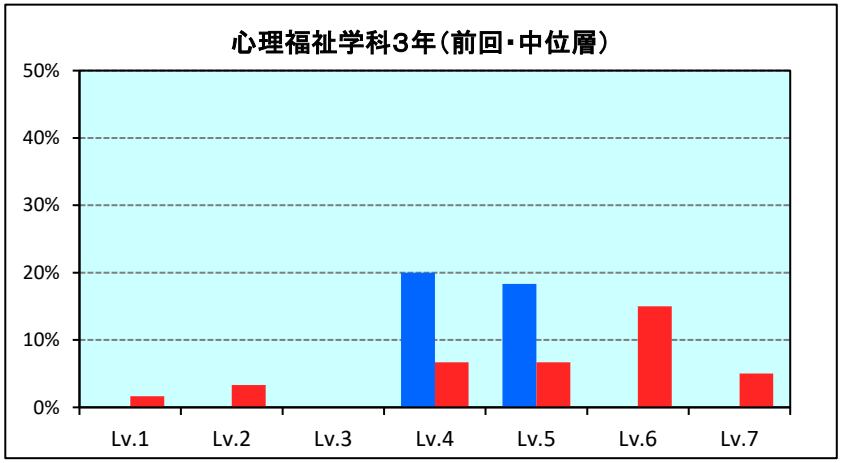
オプション分析

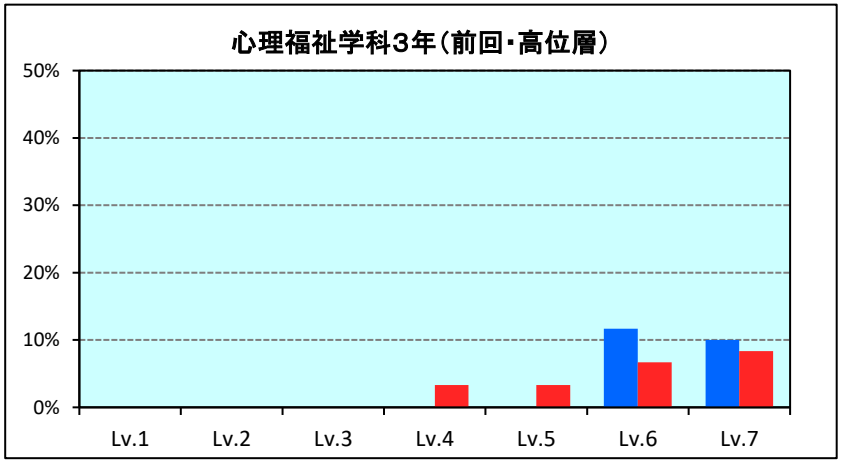




1年次受験に比べて、レベル2～4のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。

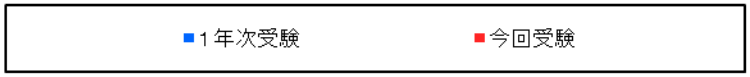


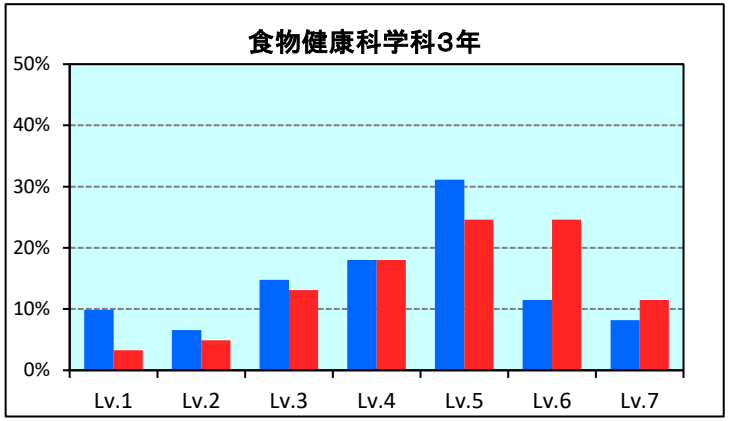




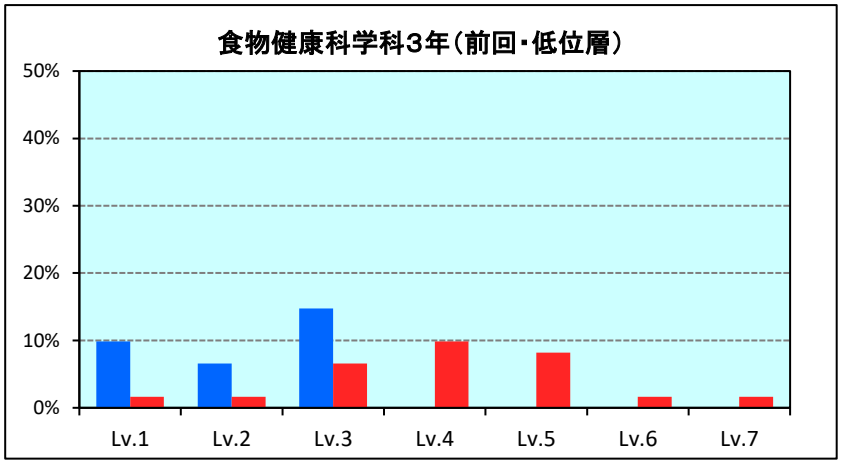
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）③

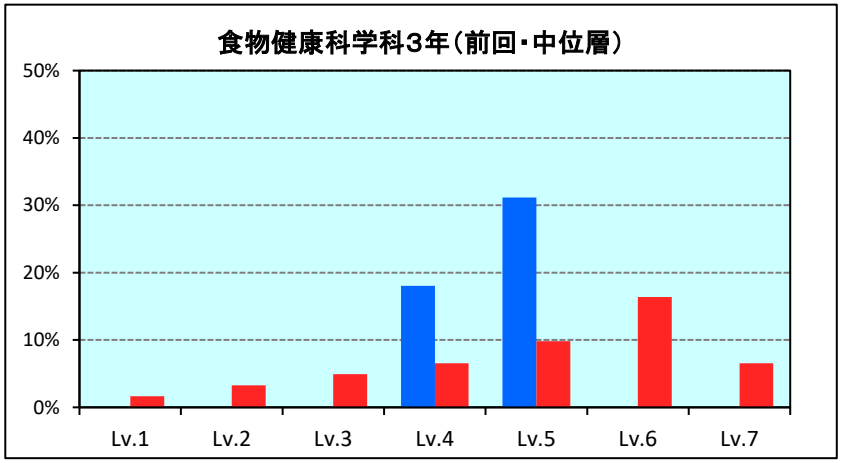
オプション分析

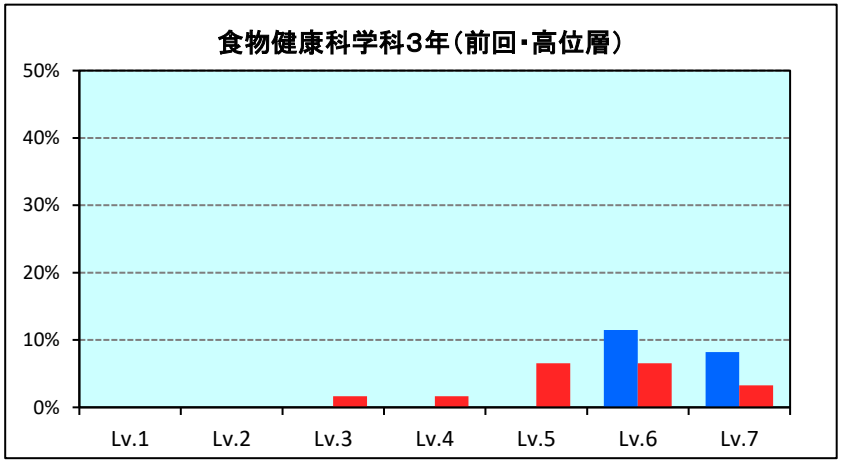




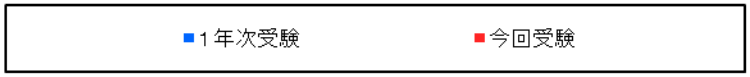
1年次受験に比べて、レベル1、レベル5の割合が小さく、レベル6～7のボリュームが大きい。

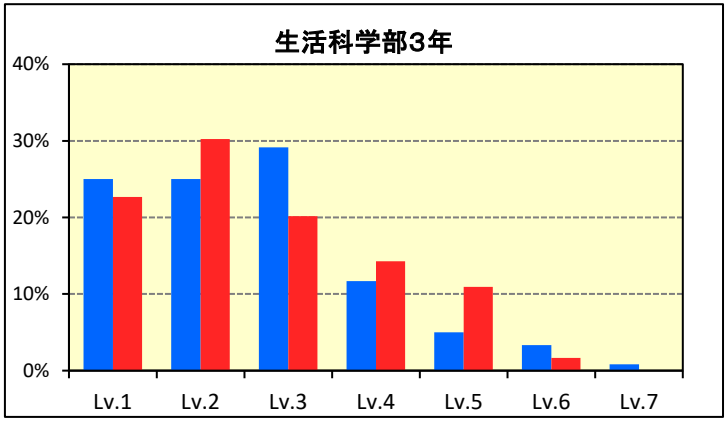




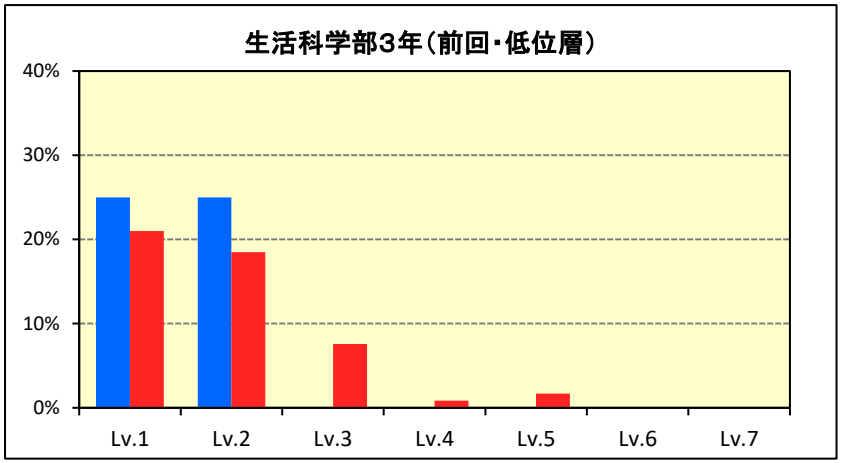


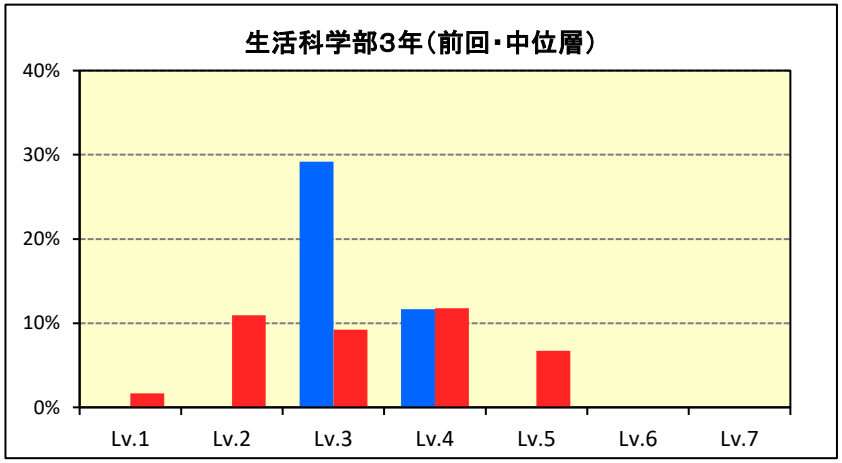
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）①

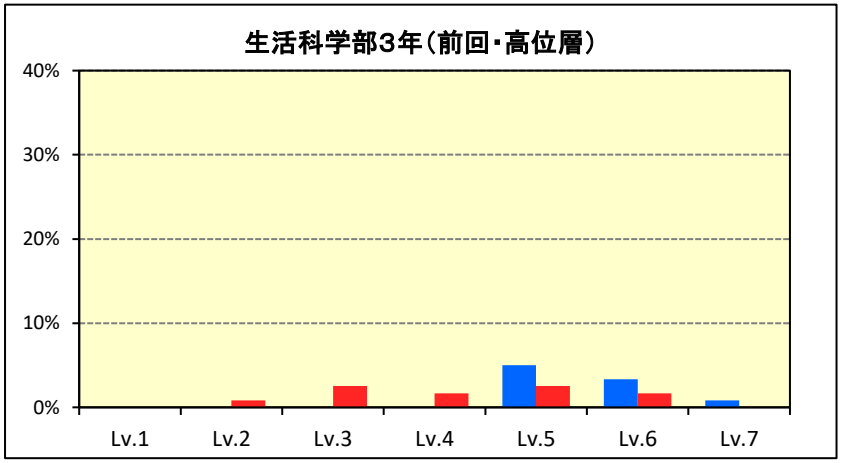




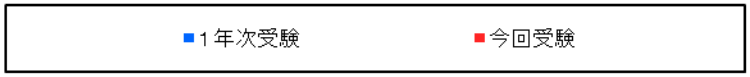
1年次受験に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル2、レベル5の割合が大きい。

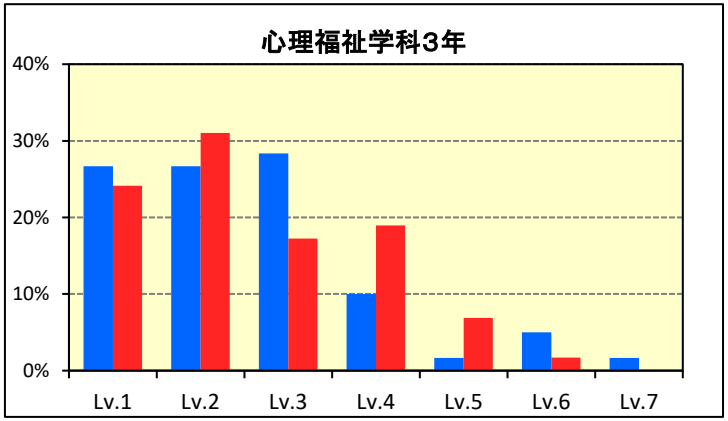




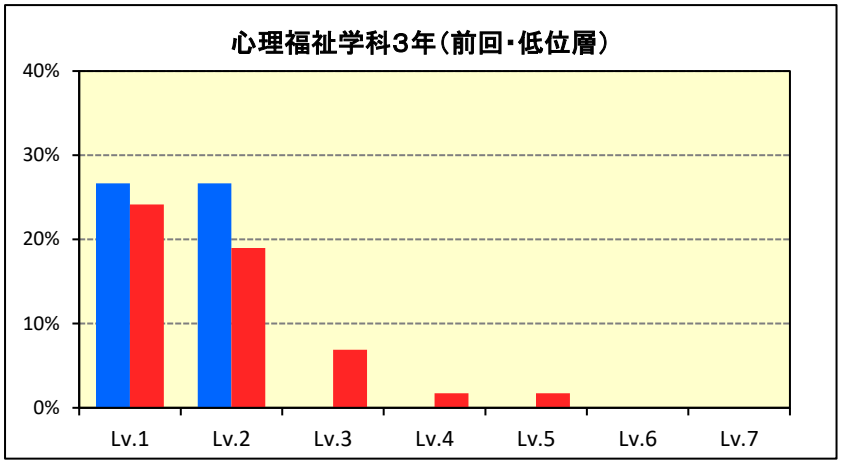


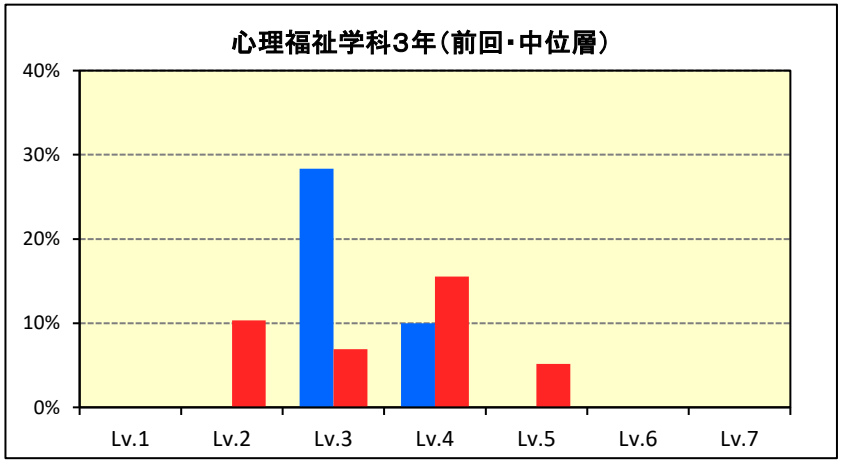
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）②

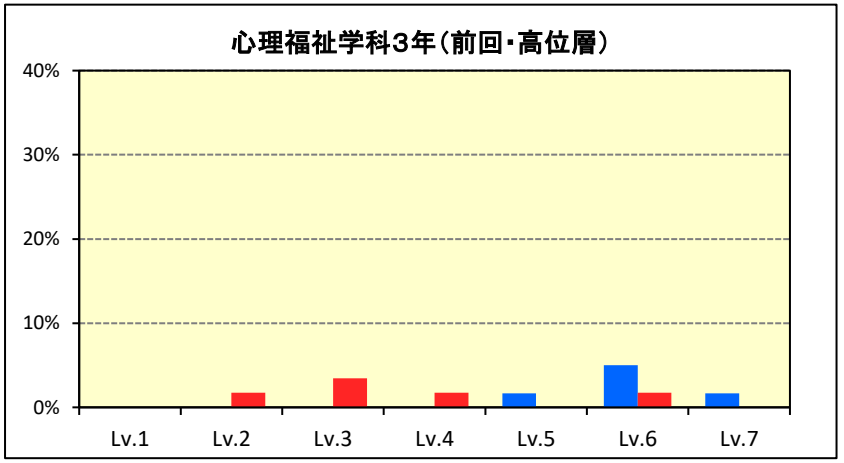




1年次受験に比べて、レベル3、レベル6の割合が小さく、レベル2、レベル4～5のボリュームが大きい。

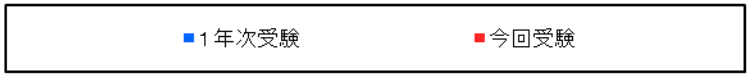


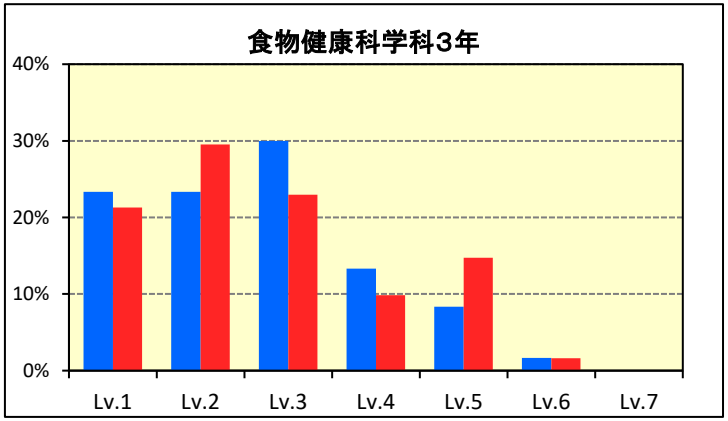




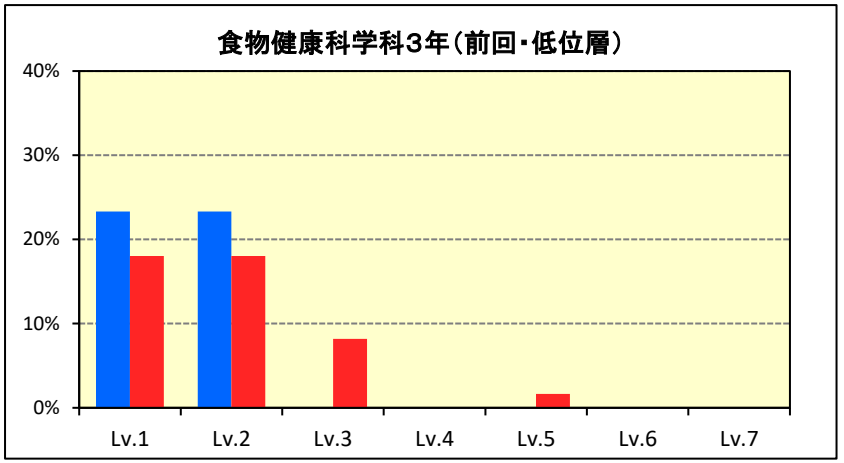
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）③

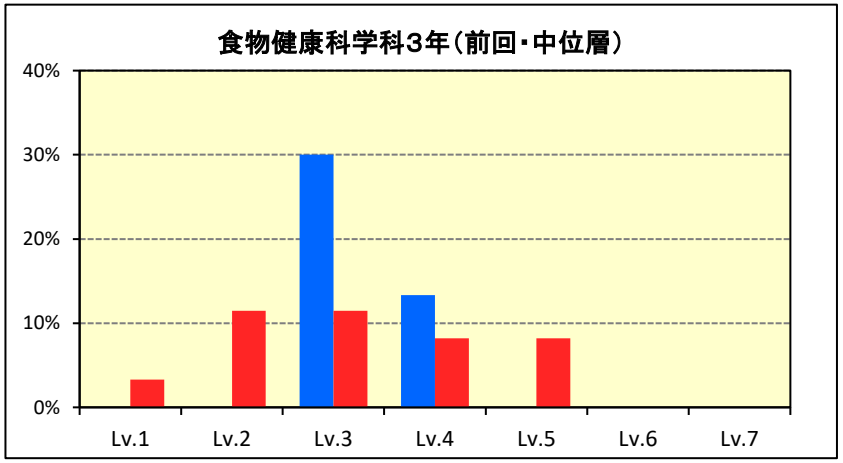
オプション分析

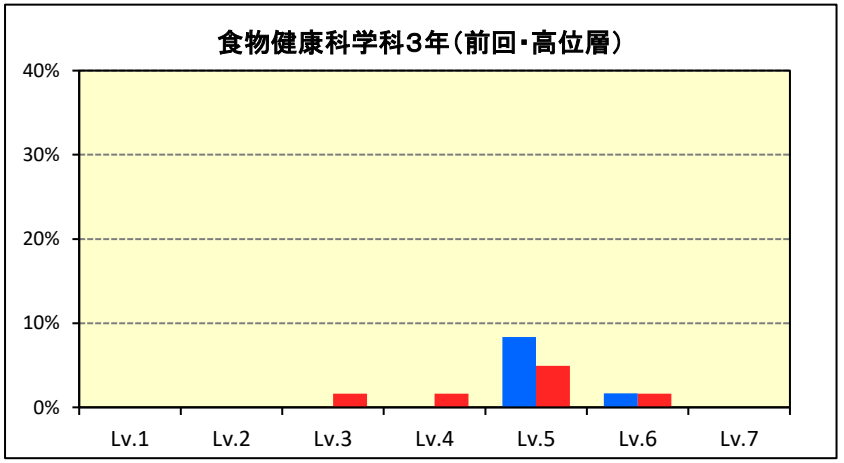




1年次受験に比べて、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル2、レベル5の割合が大きい。





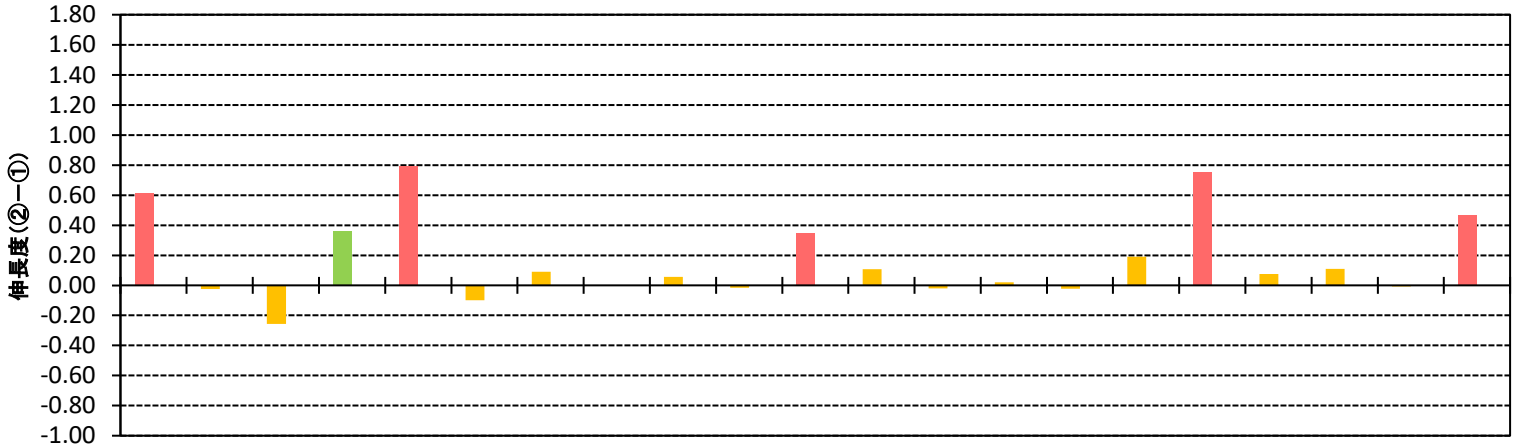


PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-3
3年生　成長分析
（生活科学部）
T検定

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで) ①

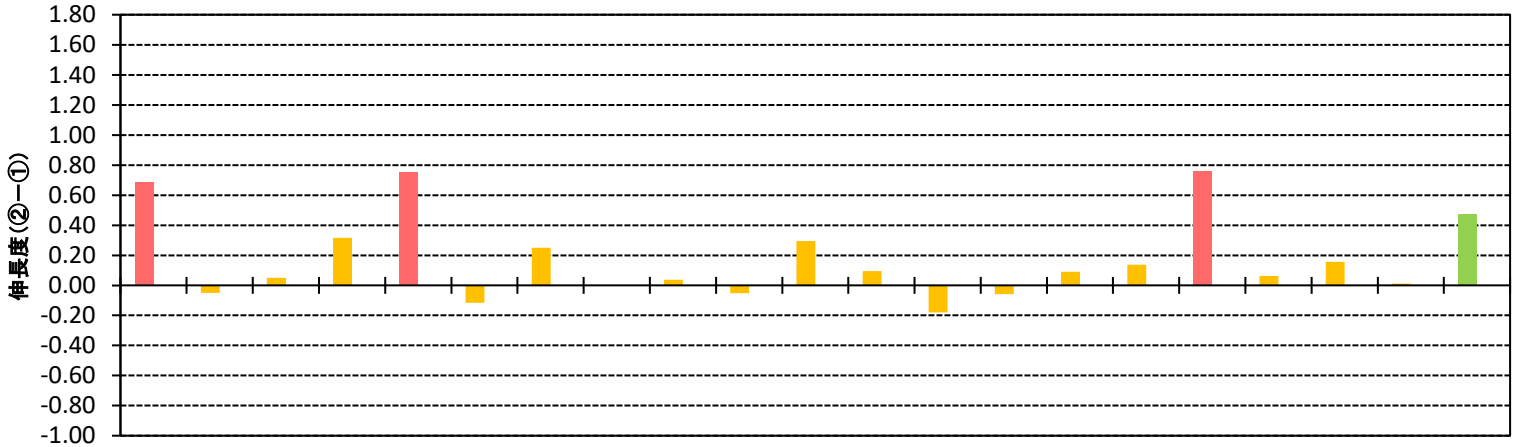


・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①生活科学部3年(1年次)	4.13	3.53	3.52	3.23	3.20	3.22	3.36
②生活科学部3年(今回)	4.74	3.50	3.26	3.60	3.99	3.12	3.45
伸長度(②－①)	0.61	−0.02	−0.26	0.36	0.79	−0.10	0.09
t検定(P値)	0.00	0.87	0.08	0.02	0.00	0.52	0.53

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①生活科学部3年(1年次)	2.60	3.03	2.63	3.28	3.69	3.37	2.31	2.61	2.48	2.91	2.97	3.32	3.44
②生活科学部3年(今回)	2.66	3.02	2.98	3.39	3.67	3.39	2.29	2.80	3.23	2.98	3.08	3.31	3.91
伸長度(②－①)	0.06	−0.02	0.35	0.11	−0.02	0.02	−0.02	0.19	0.75	0.08	0.11	−0.01	0.47
t検定(P値)	0.60	1.00	0.00	0.48	0.95	0.59	0.80	0.16	0.00	0.65	0.62	0.96	0.00

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで) ②

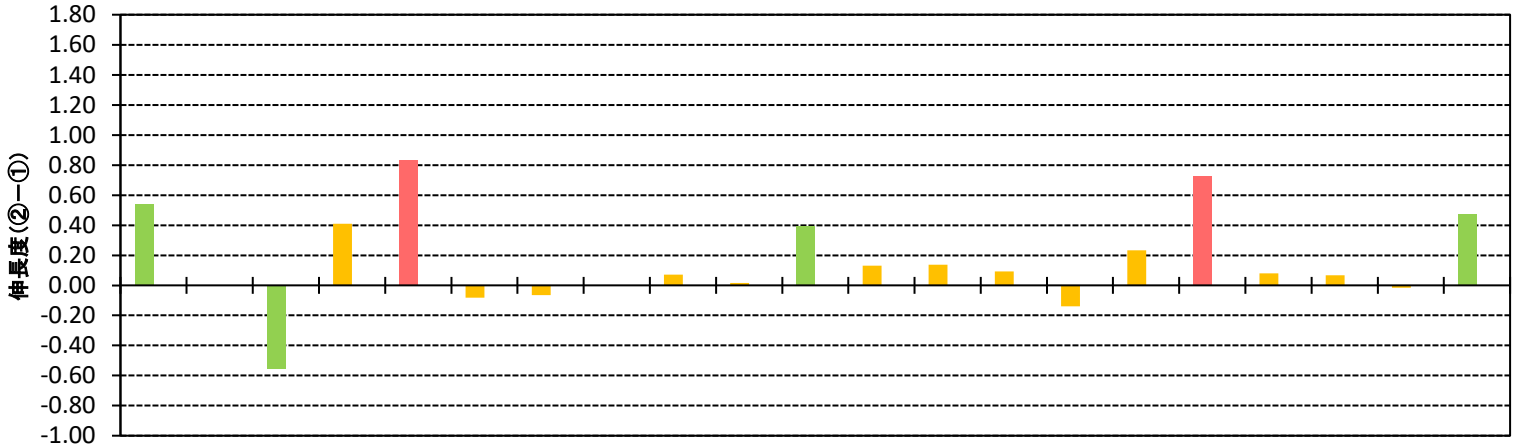


・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①心理福祉学科3年(1年次)	4.05	3.55	3.47	3.18	3.12	3.32	3.30
②心理福祉学科3年(今回)	4.73	3.50	3.52	3.50	3.87	3.20	3.55
伸長度(②－①)	0.68	−0.05	0.05	0.32	0.75	−0.12	0.25
t検定(P値)	0.00	0.80	0.79	0.11	0.00	0.58	0.27

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①心理福祉学科3年(1年次)	2.55	2.98	2.40	3.57	3.78	3.33	2.15	2.48	2.08	2.68	3.05	3.65	3.75
②心理福祉学科3年(今回)	2.59	2.93	2.69	3.66	3.60	3.28	2.24	2.62	2.84	2.75	3.21	3.66	4.22
伸長度(②－①)	0.04	−0.05	0.29	0.09	−0.18	−0.06	0.09	0.14	0.76	0.06	0.16	0.01	0.47
t検定(P値)	0.77	0.92	0.10	0.81	0.48	0.87	0.66	0.45	0.00	0.81	0.62	0.89	0.05

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで) ③

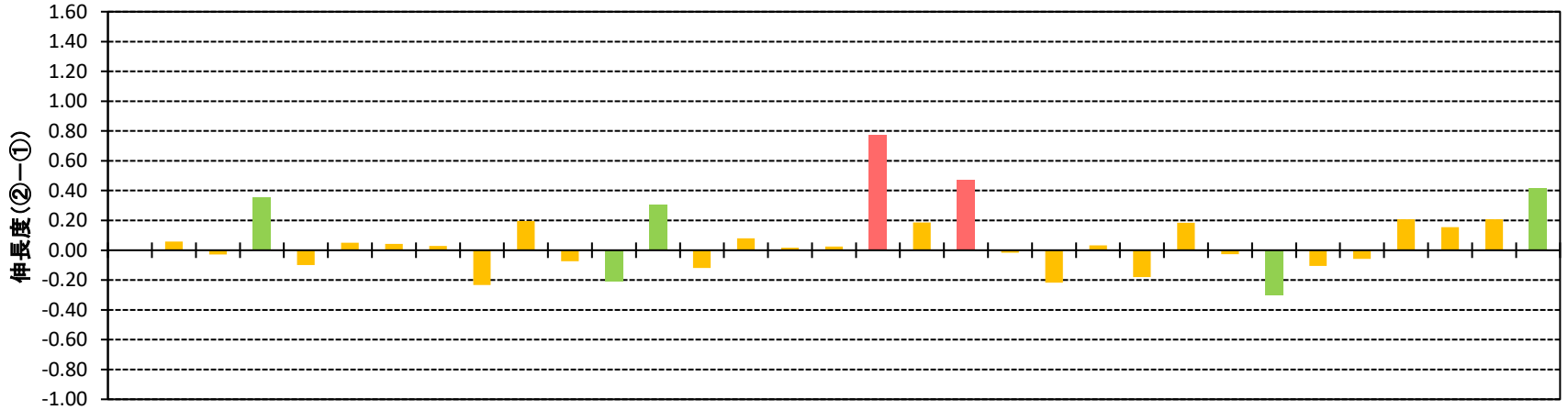


・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①食物健康科学科3年(1年次)	4.21	3.51	3.57	3.28	3.28	3.13	3.41
②食物健康科学科3年(今回)	4.75	3.51	3.02	3.69	4.11	3.05	3.34
伸長度(②－①)	0.54	0.00	−0.56	0.41	0.84	−0.08	−0.07
t検定(P値)	0.03	1.00	0.01	0.07	0.00	0.73	0.72

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①食物健康科学科3年(1年次)	2.65	3.08	2.85	3.00	3.60	3.40	2.47	2.73	2.87	3.13	2.88	2.98	3.13
②食物健康科学科3年(今回)	2.72	3.10	3.25	3.13	3.74	3.49	2.33	2.97	3.59	3.21	2.95	2.97	3.61
伸長度(②－①)	0.07	0.02	0.40	0.13	0.14	0.09	−0.14	0.23	0.72	0.08	0.07	−0.02	0.47
t検定(P値)	0.65	0.93	0.01	0.41	0.49	0.55	0.44	0.22	0.00	0.70	0.87	0.93	0.03

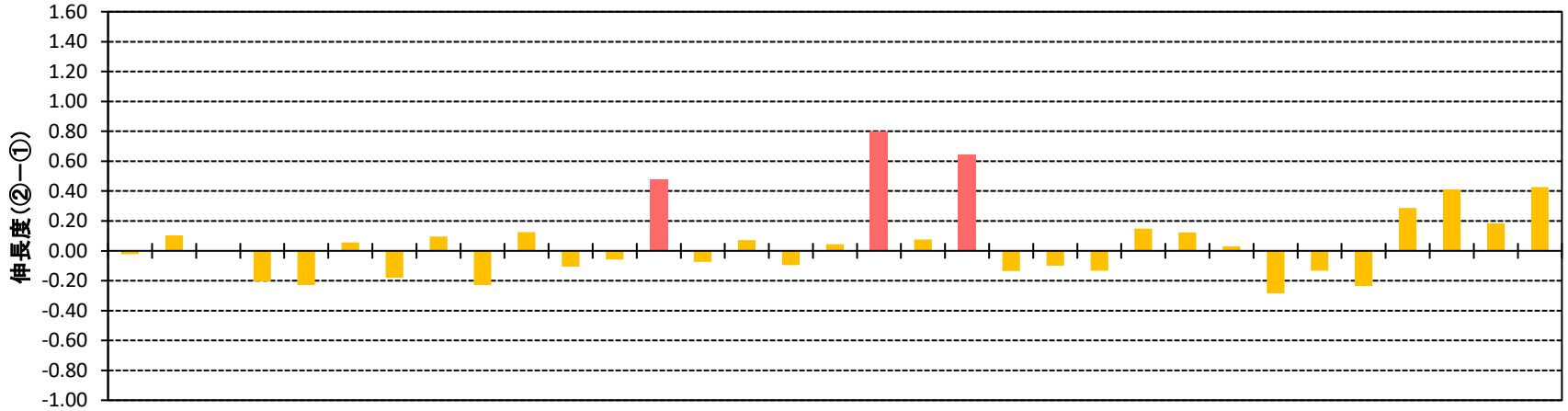
T検定結果（コンピテンシー小分類）①



・・・1%有意
・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①生活科学部3年（1年次）	2.66	3.03	3.54	3.83	2.36	3.42	3.31	2.34	3.29	2.22	2.13	1.90	2.06	1.94	3.53	2.37	1.93	2.04	2.14	2.18	2.08	2.41	3.23	2.50	2.13	2.88	2.23	2.54	2.76	2.70	2.42	2.60	2.87
②生活科学部3年（今回）	2.66	3.09	3.51	4.18	2.26	3.47	3.35	2.37	3.06	2.41	2.06	1.69	2.36	1.82	3.61	2.38	1.96	2.82	2.33	2.65	2.07	2.19	3.26	2.32	2.31	2.85	1.93	2.44	2.70	2.91	2.57	2.81	3.28
伸長度（②－①）	0.00	0.06	−0.03	0.35	−0.10	0.05	0.04	0.03	−0.23	0.20	−0.07	−0.21	0.30	−0.12	0.08	0.02	0.02	0.78	0.19	0.47	−0.02	−0.22	0.03	−0.18	0.18	−0.03	−0.30	−0.10	−0.06	0.21	0.15	0.21	0.42
t検定（P値）	0.79	0.57	0.91	0.02	0.37	0.64	0.61	0.62	0.06	0.07	0.49	0.05	0.01	0.26	0.42	0.95	0.65	0.00	0.09	0.00	0.79	0.10	0.71	0.21	0.23	0.83	0.02	0.50	0.63	0.15	0.29	0.14	0.02

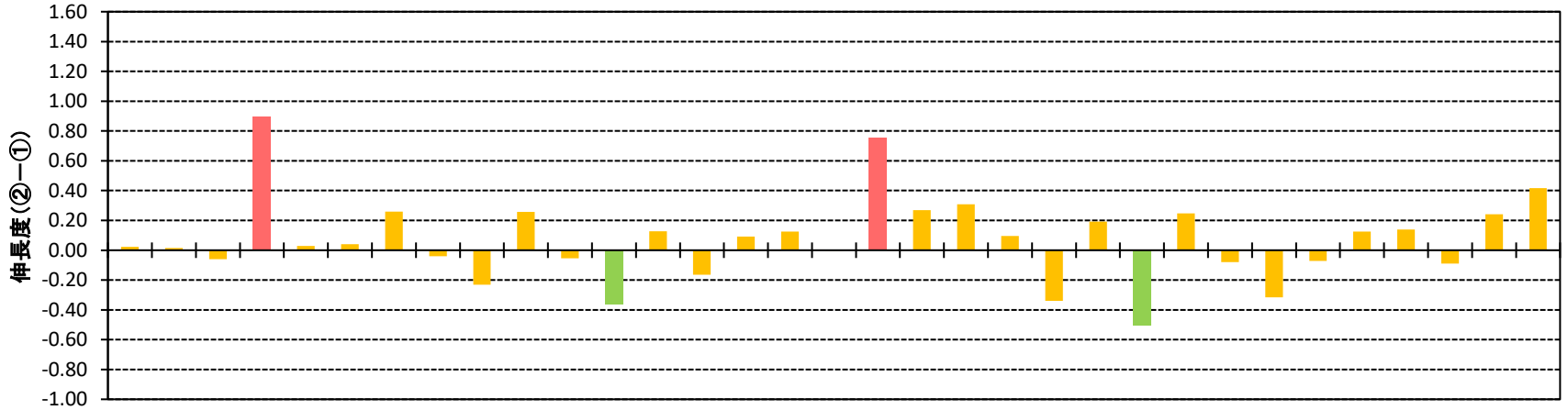
T検定結果（コンピテンシー小分類）②



■・・・1%有意
■・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①心理福祉学科3年（1年次）	2.68	3.02	3.48	4.12	2.47	3.33	3.38	2.25	3.47	2.15	1.97	1.80	1.83	1.87	3.58	2.37	1.78	1.92	1.72	2.15	2.03	2.15	3.22	2.33	2.28	2.92	2.18	2.67	3.12	2.90	2.40	2.87	3.10
②心理福祉学科3年（今回）	2.66	3.12	3.48	3.91	2.24	3.39	3.20	2.34	3.24	2.28	1.86	1.74	2.31	1.79	3.66	2.27	1.83	2.71	1.79	2.79	1.90	2.05	3.08	2.48	2.41	2.95	1.90	2.53	2.88	3.19	2.81	3.05	3.53
伸長度（②－①）	-0.02	0.10	0.00	-0.20	-0.23	0.06	-0.18	0.09	-0.23	0.13	-0.10	-0.06	0.48	-0.07	0.07	-0.10	0.04	0.80	0.08	0.64	-0.14	-0.10	-0.13	0.15	0.12	0.03	-0.29	-0.13	-0.24	0.29	0.41	0.18	0.43
t検定（P値）	0.75	0.55	0.81	0.32	0.17	0.70	0.45	0.43	0.22	0.35	0.51	0.60	0.00	0.54	0.57	0.57	0.60	0.00	0.51	0.00	0.39	0.60	0.59	0.37	0.59	0.83	0.14	0.54	0.19	0.23	0.08	0.40	0.10

T検定結果（コンピテンシー小分類）③



■・・・1%有意
■・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①食物健康科学科3年（1年次）	2.63	3.05	3.60	3.55	2.25	3.50	3.23	2.43	3.12	2.28	2.30	2.00	2.28	2.02	3.47	2.37	2.08	2.17	2.57	2.20	2.13	2.67	3.23	2.67	1.97	2.83	2.27	2.42	2.40	2.50	2.43	2.33	2.63
②食物健康科学科3年（今回）	2.66	3.07	3.54	4.44	2.28	3.54	3.49	2.39	2.89	2.54	2.25	1.64	2.41	1.85	3.56	2.49	2.08	2.92	2.84	2.51	2.23	2.33	3.43	2.16	2.21	2.75	1.95	2.34	2.52	2.64	2.34	2.57	3.05
伸長度（②－①）	0.02	0.02	−0.06	0.89	0.03	0.04	0.26	−0.04	−0.23	0.26	−0.05	−0.36	0.13	−0.16	0.09	0.13	0.00	0.75	0.27	0.31	0.10	−0.34	0.19	−0.50	0.25	−0.08	−0.32	−0.07	0.12	0.14	−0.09	0.24	0.42
t検定（P値）	0.93	0.84	0.70	0.00	0.84	0.77	0.17	0.92	0.16	0.11	0.73	0.03	0.48	0.33	0.57	0.48	0.92	0.00	0.10	0.07	0.66	0.08	0.31	0.02	0.24	0.57	0.05	0.77	0.49	0.42	0.63	0.22	0.08

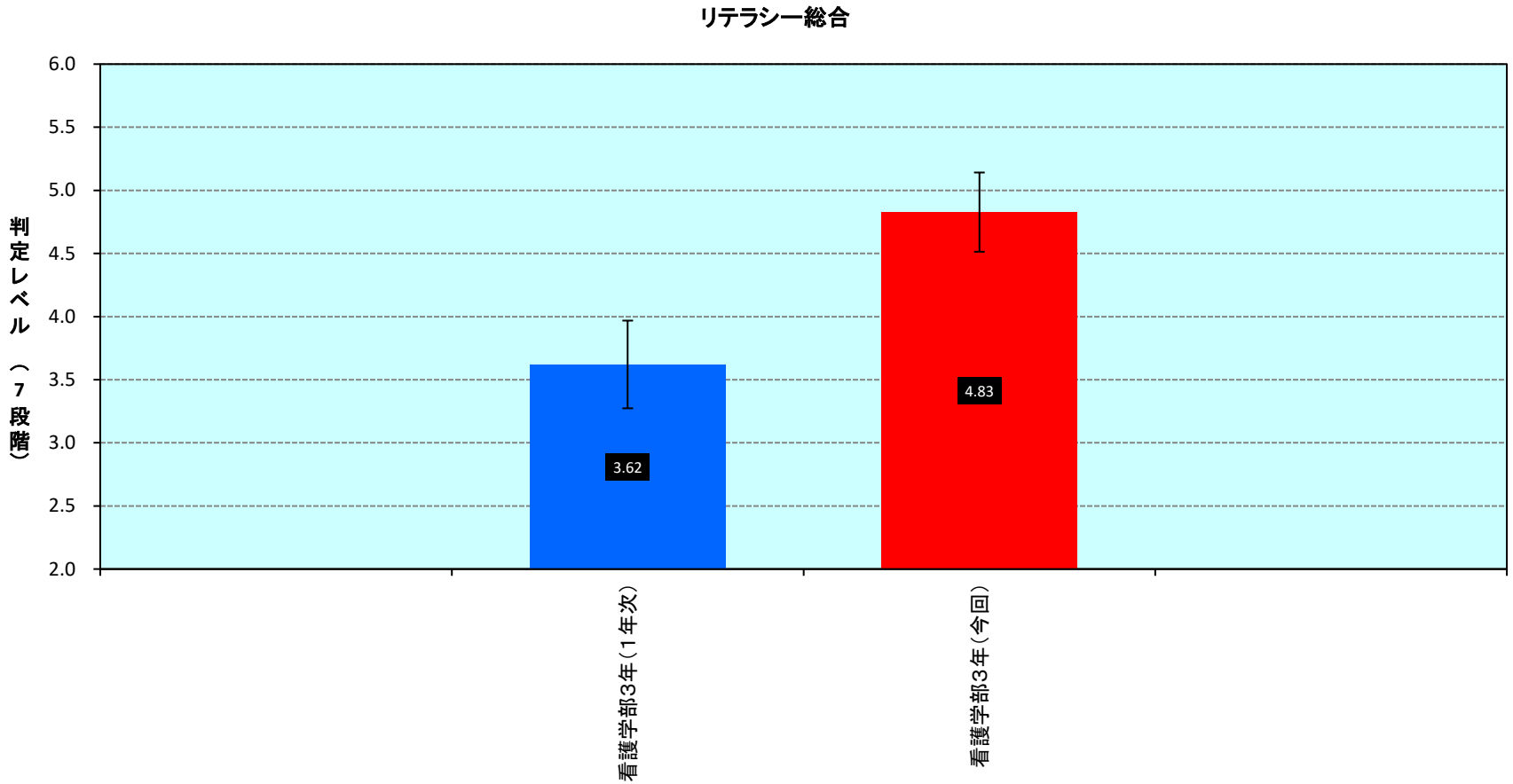
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-4
3年生　成長分析
（看護学部）

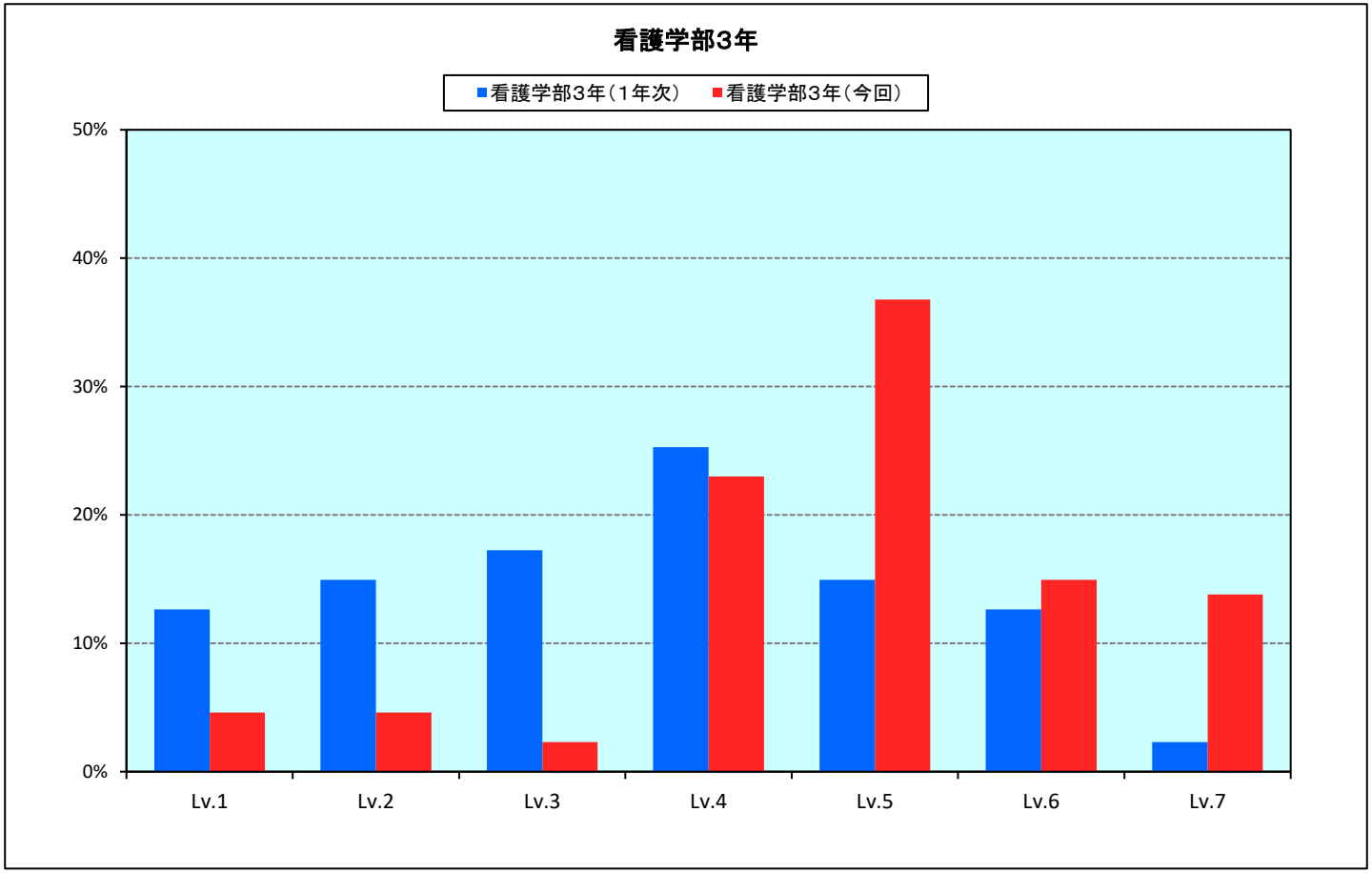
リテラシー総合（成長分析）

●看護学部3年は、1年次受験のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

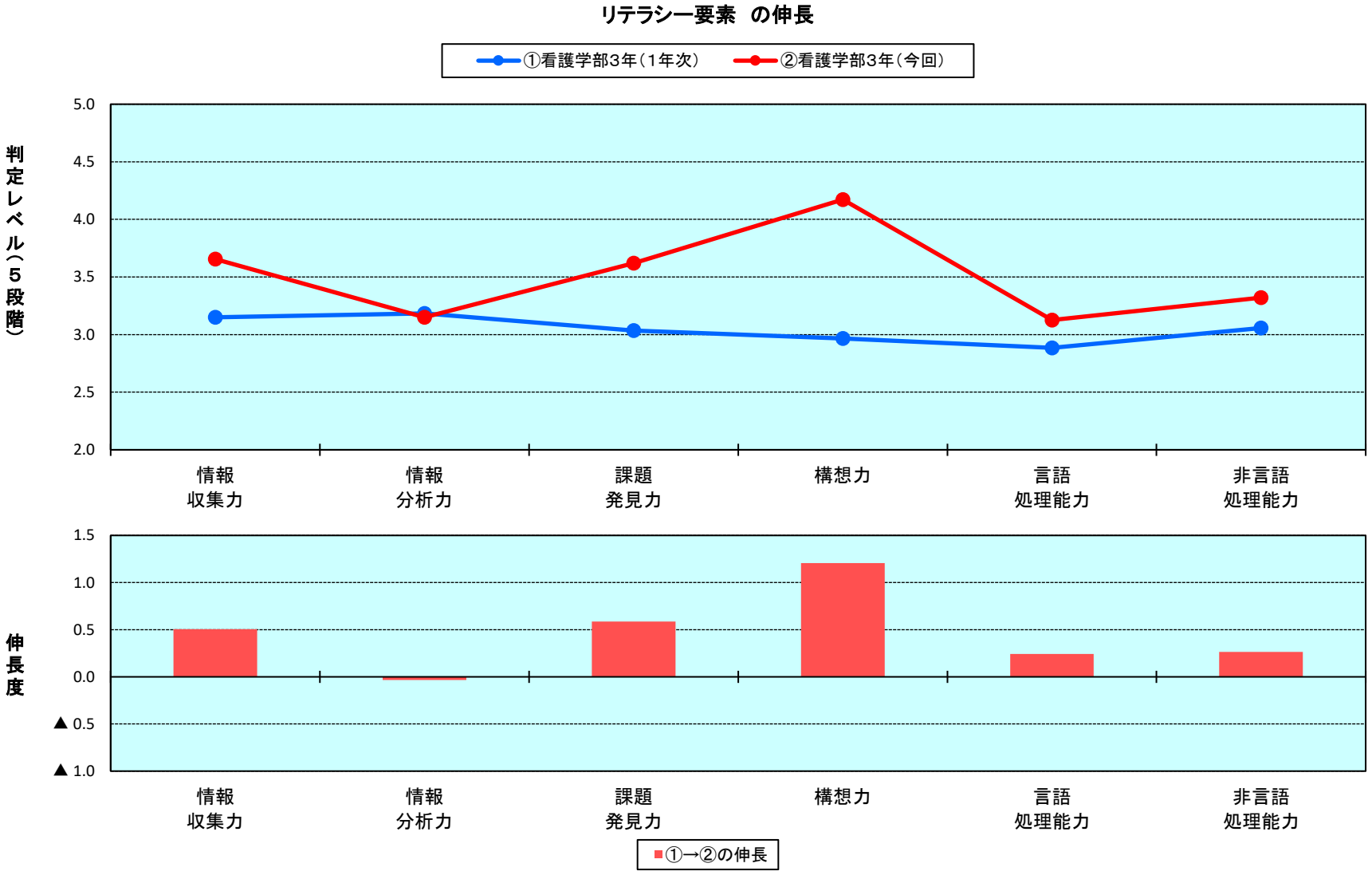


1年次受験に比べて、レベル1～3のボリュームが小さく、レベル5、レベル7の割合が大きい。

リテラシー要素（成長分析）

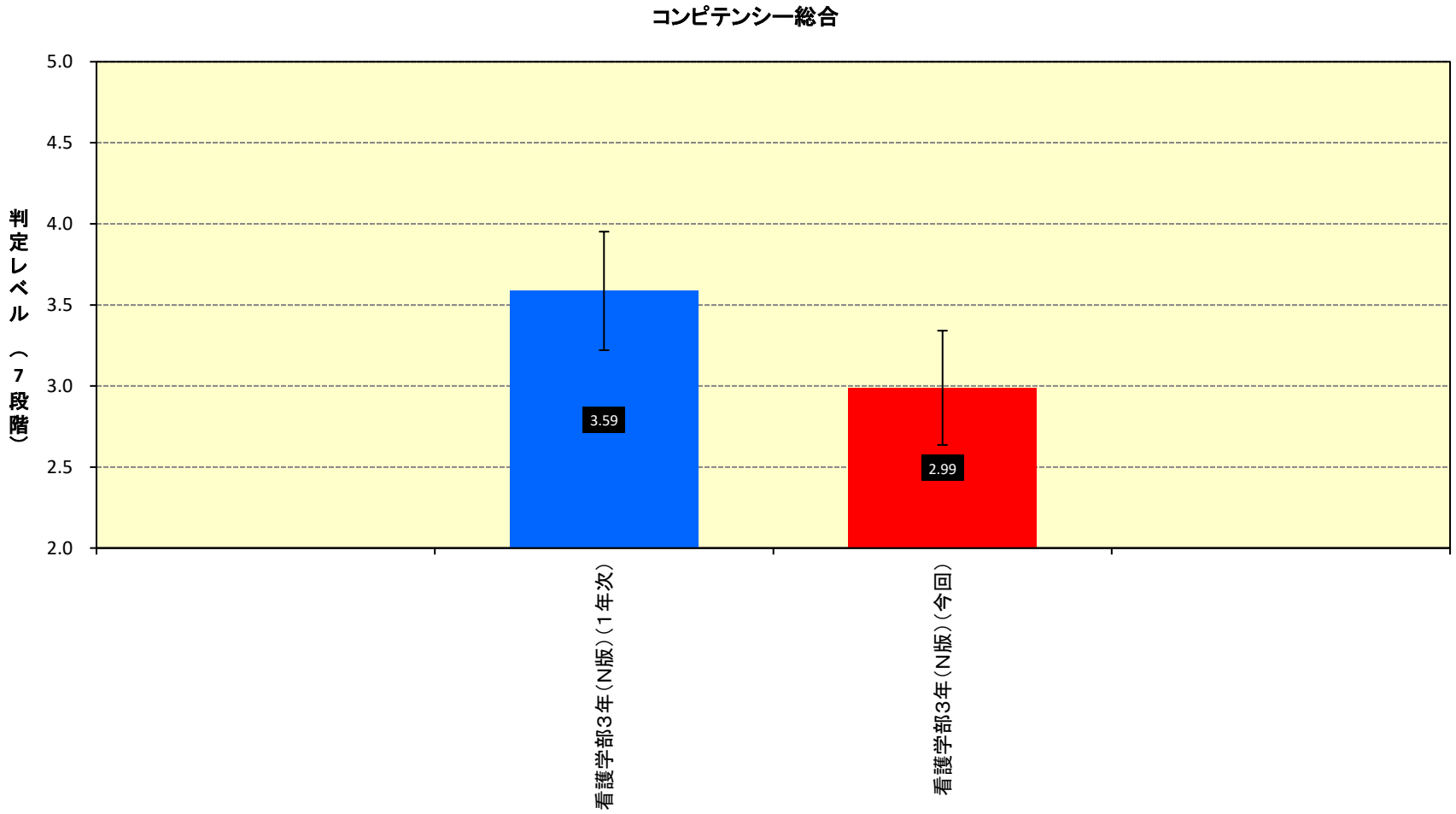
【看護学部3年】

情報収集力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、情報分析力は、1年次受験のスコアを下回る。



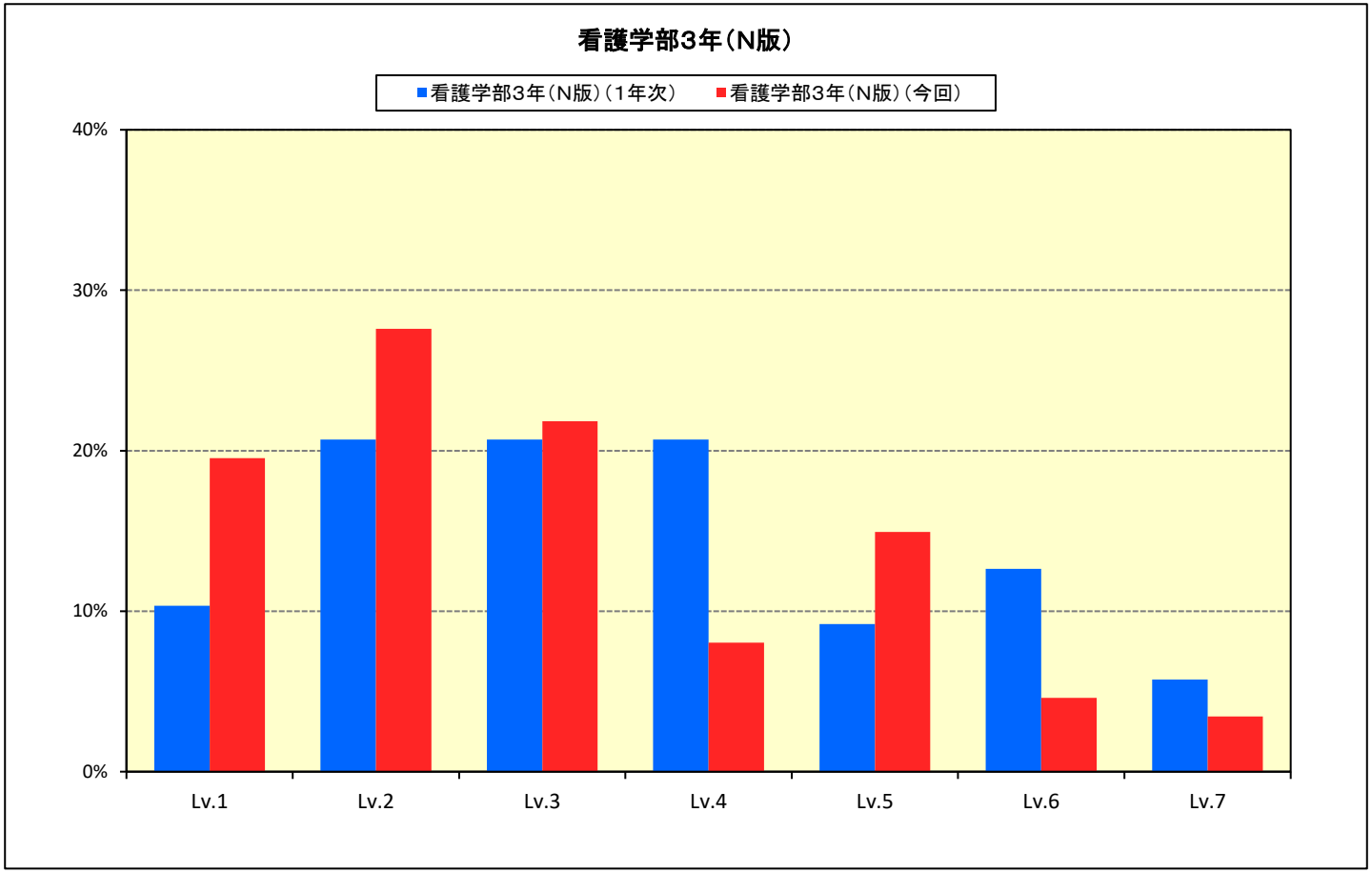
コンピテンシー総合（成長分析）

●看護学部3年（N版）は、1年次受験のスコアを下回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

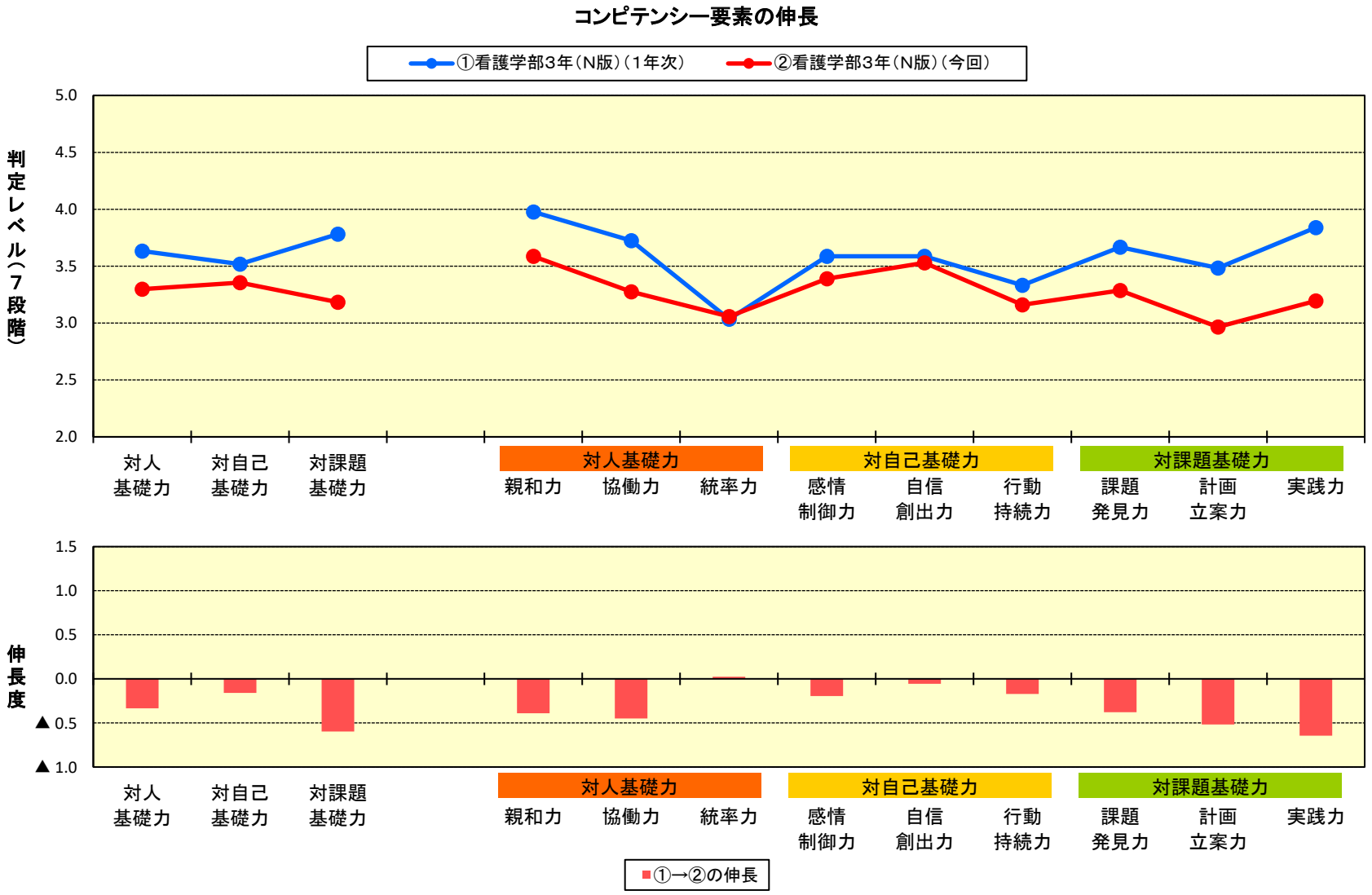
コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）



1年次受験に比べて、レベル4、レベル6の割合が小さく、レベル1～2、レベル5のボリュームが大きい。

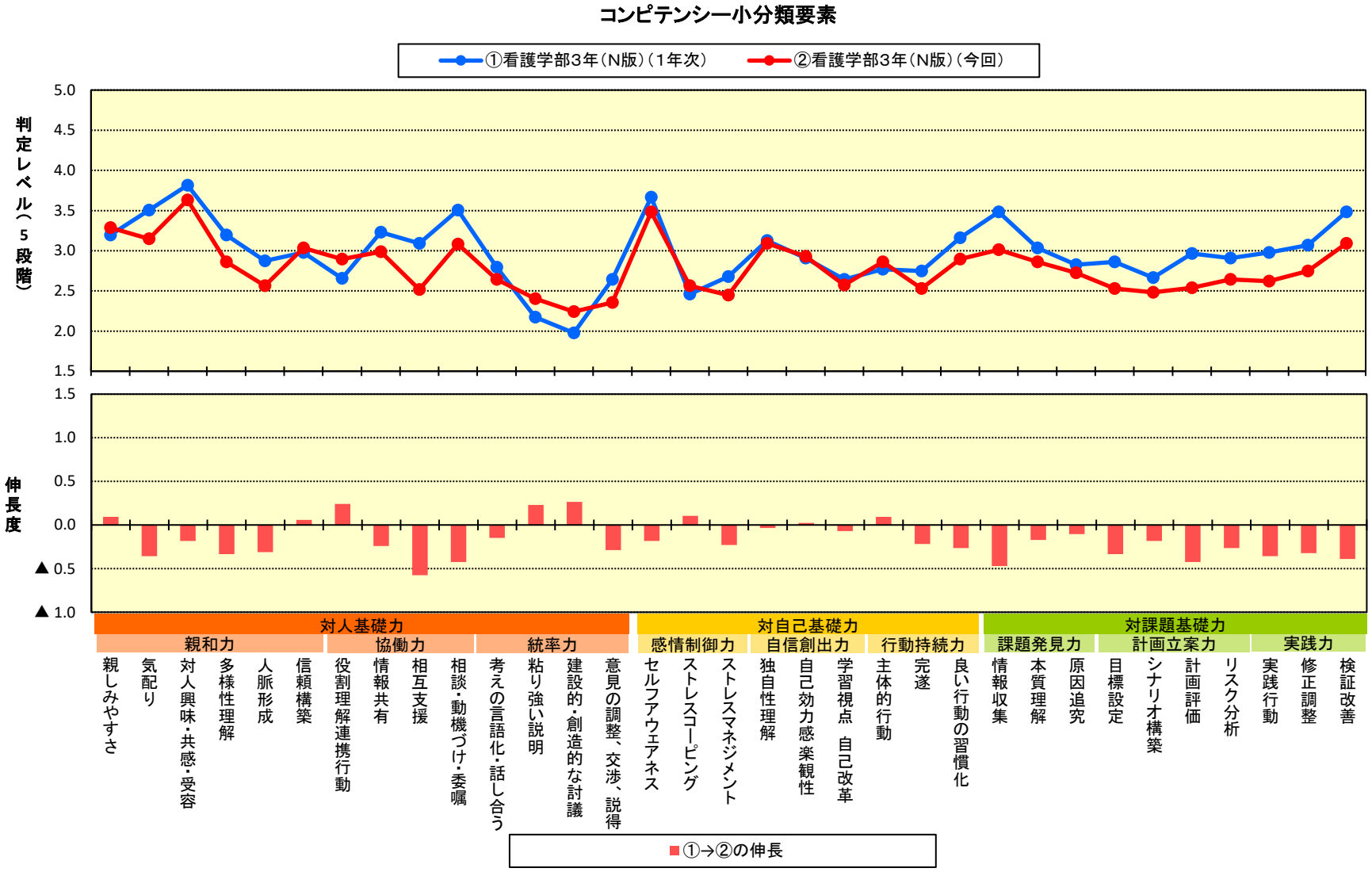
コンピテンシー大中分類要素（成長分析）

【看護学部3年（N版）】
統率力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。



コンピテンシー小分類要素（成長分析）

【看護学部3年（N版）】

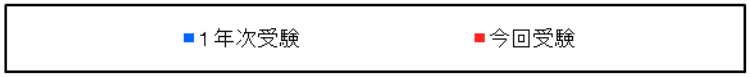


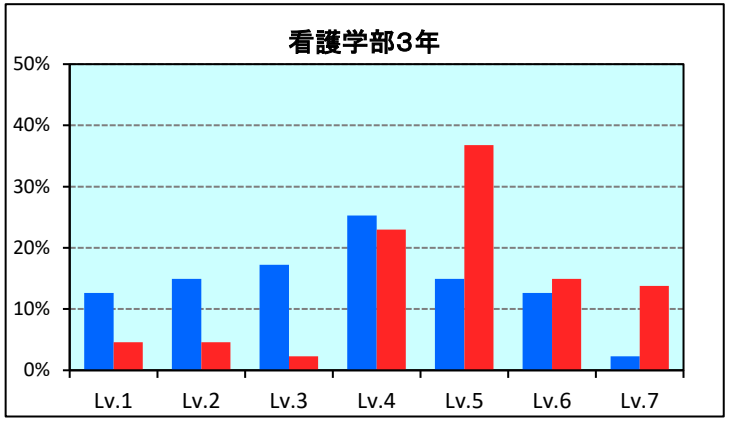
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

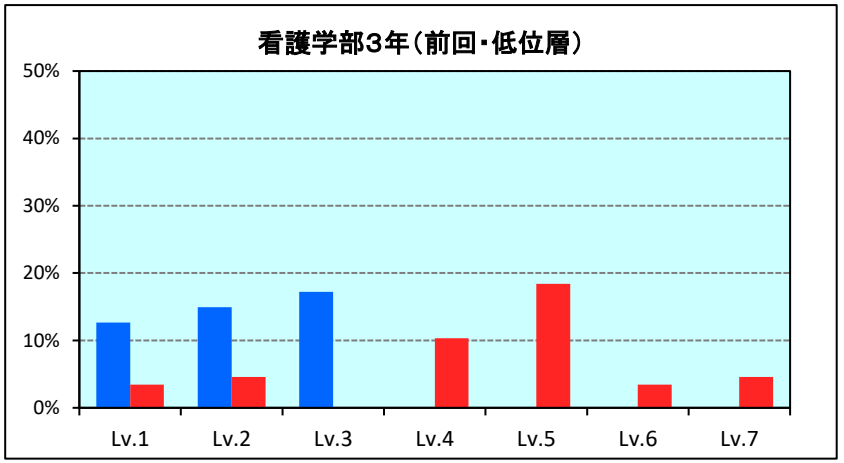
Part.2-4
3年生　成長分析
（看護学部）
高中低位分析

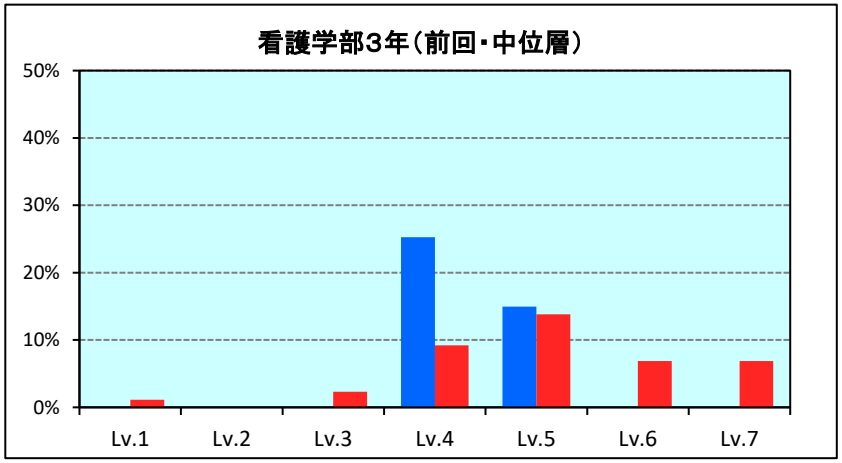
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

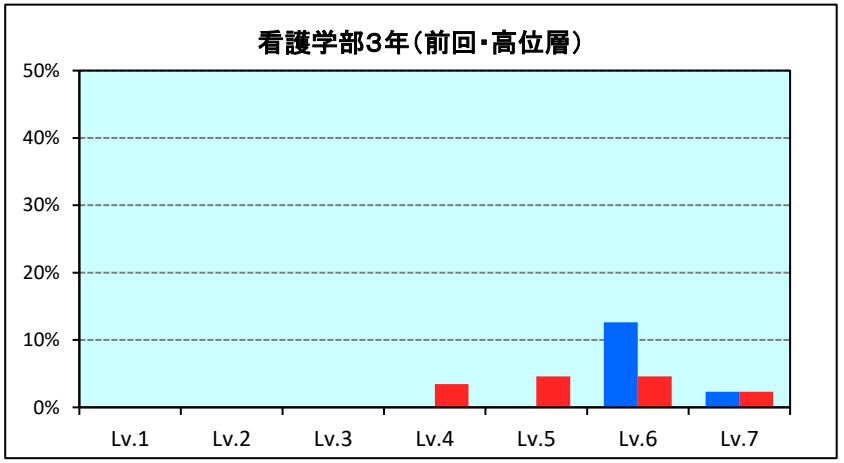




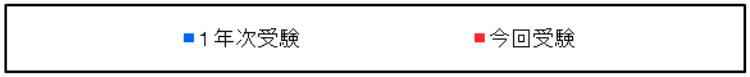
1年次受験に比べて、レベル1～3のボリュームが小さく、レベル5、レベル7の割合が大きい。

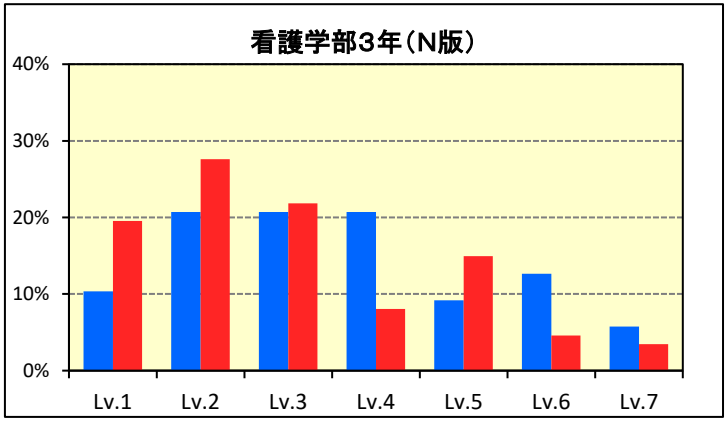




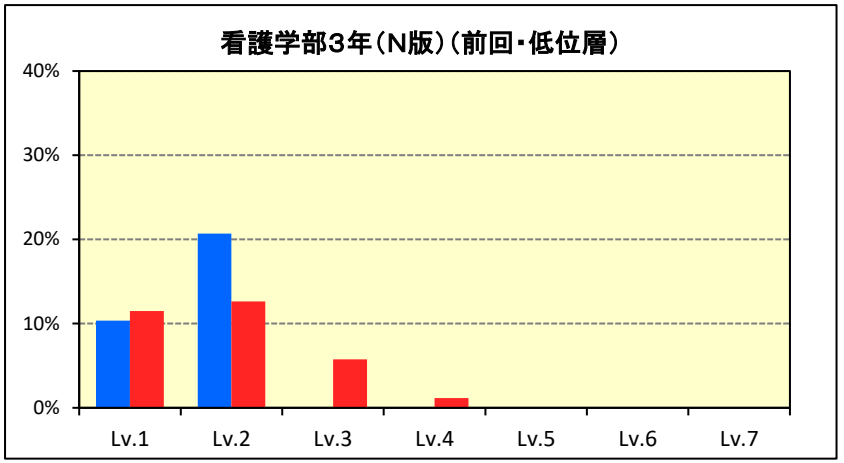


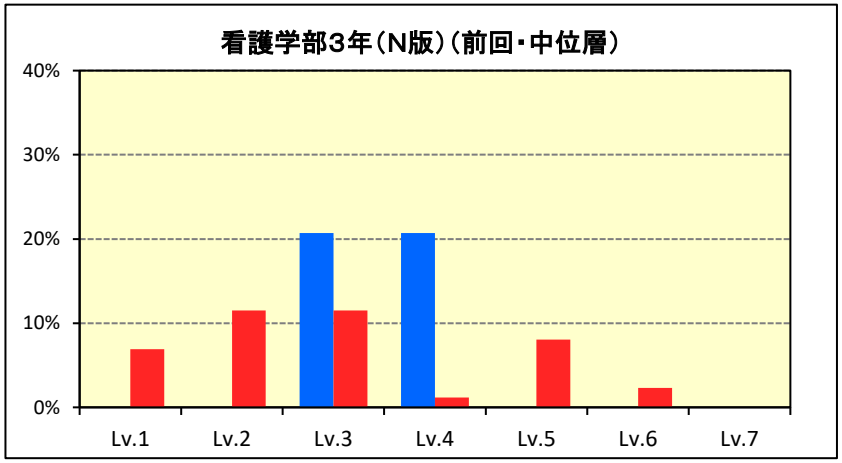
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

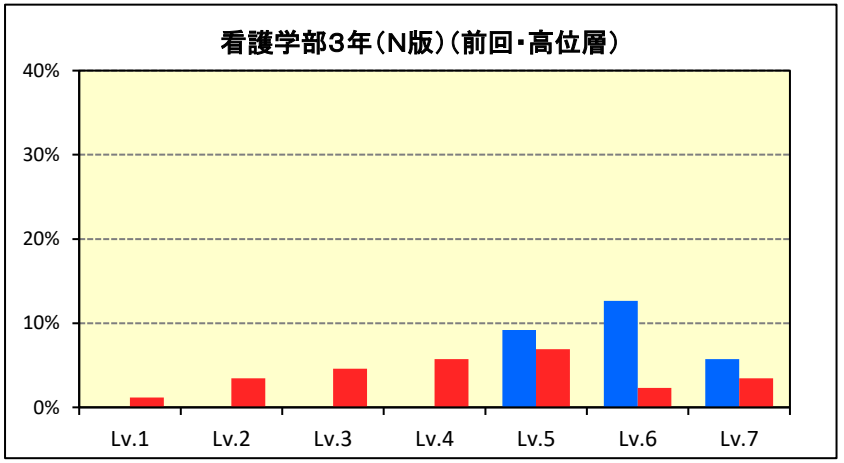




1年次受験に比べて、レベル4、レベル6の割合が小さく、レベル1～2、レベル5のボリュームが大きい。





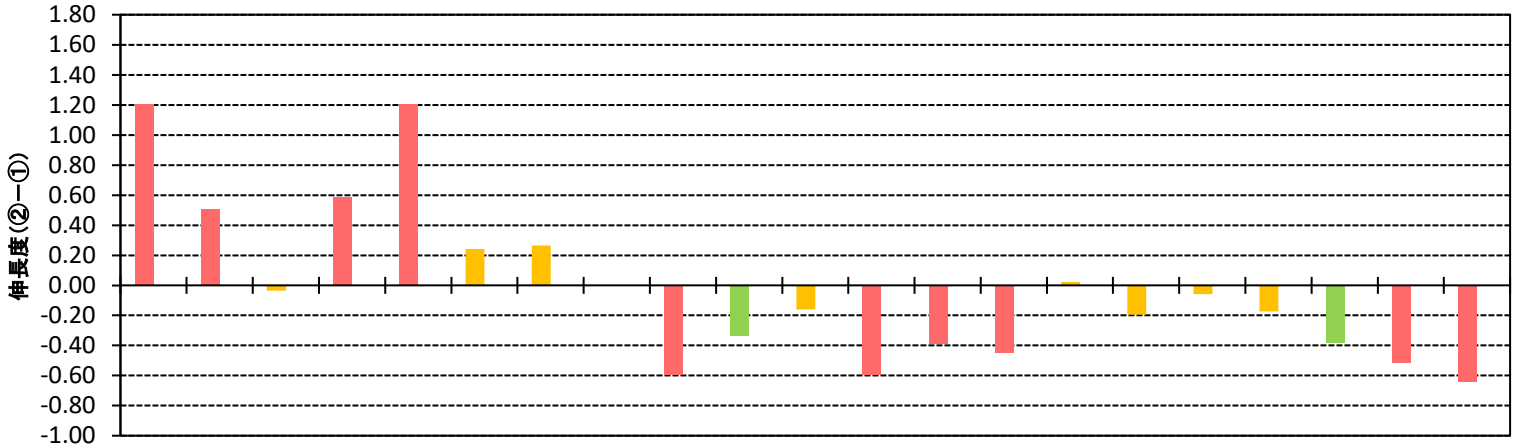


PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-4
3年生　成長分析
（看護学部）
T検定

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで)

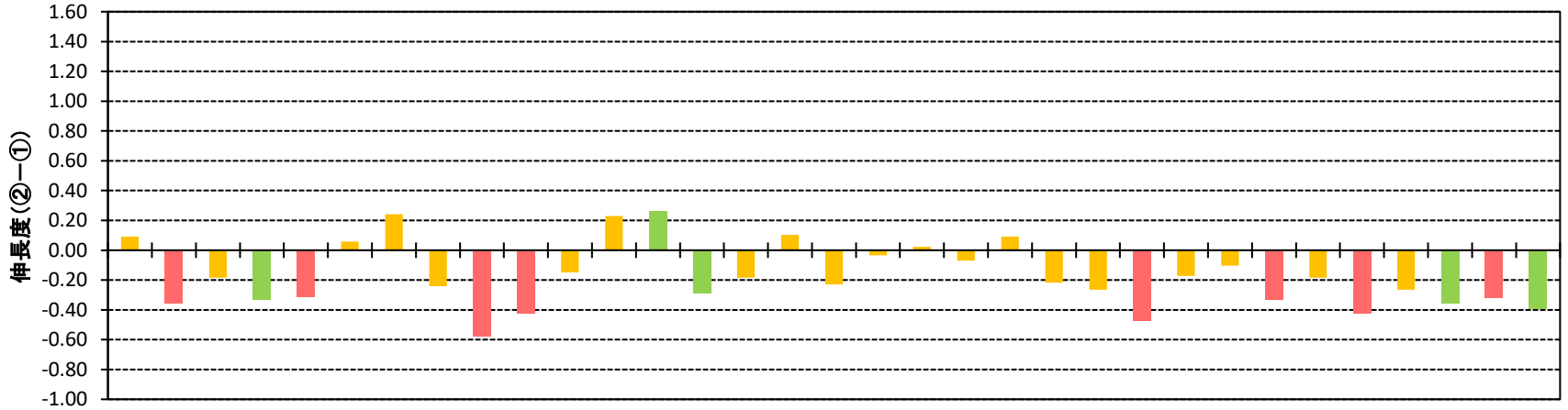


・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①看護学部3年(N版)(1年次)	3.62	3.15	3.18	3.03	2.97	2.89	3.06
②看護学部3年(N版)(今回)	4.83	3.66	3.15	3.62	4.17	3.13	3.32
伸長度(②－①)	1.21	0.51	−0.03	0.59	1.21	0.24	0.26
t検定(P値)	0.00	0.01	0.84	0.00	0.00	0.14	0.15

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①看護学部3年(N版)(1年次)	3.59	3.63	3.52	3.78	3.98	3.72	3.03	3.59	3.59	3.33	3.67	3.48	3.84
②看護学部3年(N版)(今回)	2.99	3.30	3.36	3.18	3.59	3.28	3.06	3.39	3.53	3.16	3.29	2.97	3.20
伸長度(②－①)	−0.60	−0.33	−0.16	−0.60	−0.39	−0.45	0.02	−0.20	−0.06	−0.17	−0.38	−0.52	−0.64
t検定(P値)	0.00	0.03	0.23	0.00	0.00	0.01	0.90	0.14	0.69	0.19	0.01	0.00	0.00

T検定結果（コンピテンシー小分類）



■・・・1%有意
■・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談・動機づけ・委嘱	考えの言語化・話し合う	粘り強い説明	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①看護学部3年（N版）（1年次）	3.20	3.51	3.82	3.20	2.87	2.98	2.66	3.23	3.09	3.51	2.79	2.17	1.98	2.64	3.67	2.46	2.68	3.13	2.91	2.64	2.77	2.75	3.16	3.48	3.03	2.83	2.86	2.67	2.97	2.91	2.98	3.07	3.48
②看護学部3年（N版）（今回）	3.29	3.15	3.63	2.86	2.56	3.03	2.90	2.99	2.52	3.08	2.64	2.40	2.24	2.36	3.48	2.56	2.45	3.09	2.93	2.57	2.86	2.53	2.90	3.01	2.86	2.72	2.53	2.48	2.54	2.64	2.62	2.75	3.09
伸長度（②－①）	0.09	−0.36	−0.18	−0.33	−0.31	0.06	0.24	−0.24	−0.57	−0.43	−0.15	0.23	0.26	−0.29	−0.18	0.10	−0.23	−0.03	0.02	−0.07	0.09	−0.22	−0.26	−0.47	−0.17	−0.10	−0.33	−0.18	−0.43	−0.26	−0.36	−0.32	−0.39
t検定（P値）	0.45	0.01	0.20	0.03	0.00	0.68	0.11	0.08	0.00	0.00	0.35	0.11	0.05	0.05	0.21	0.46	0.06	0.82	0.84	0.60	0.41	0.12	0.06	0.00	0.18	0.47	0.00	0.16	0.00	0.10	0.01	0.00	0.03

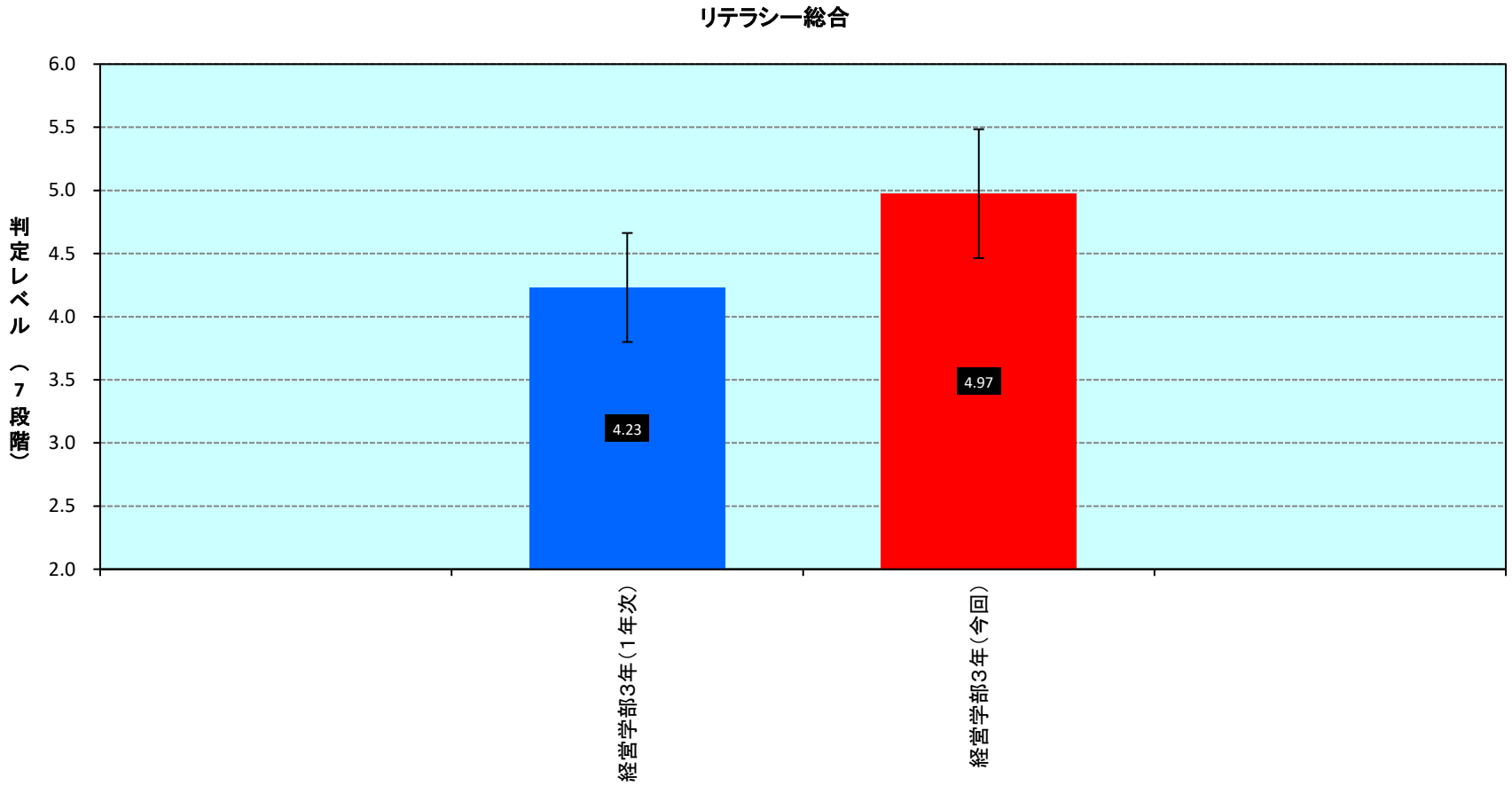
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-5
3年生　成長分析
（経営学部）

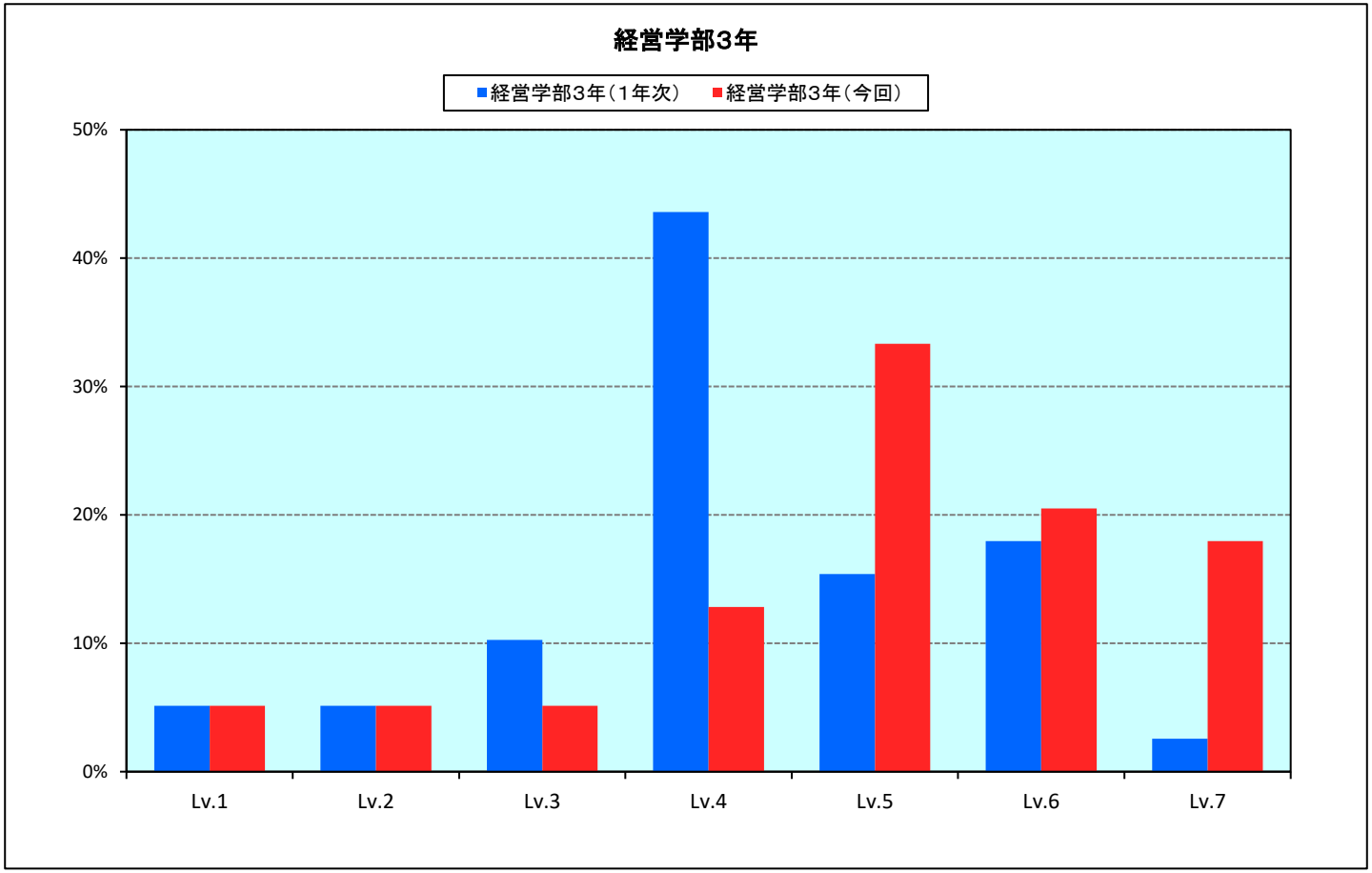
リテラシー総合（成長分析）

●経営学部3年は、1年次受験のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）



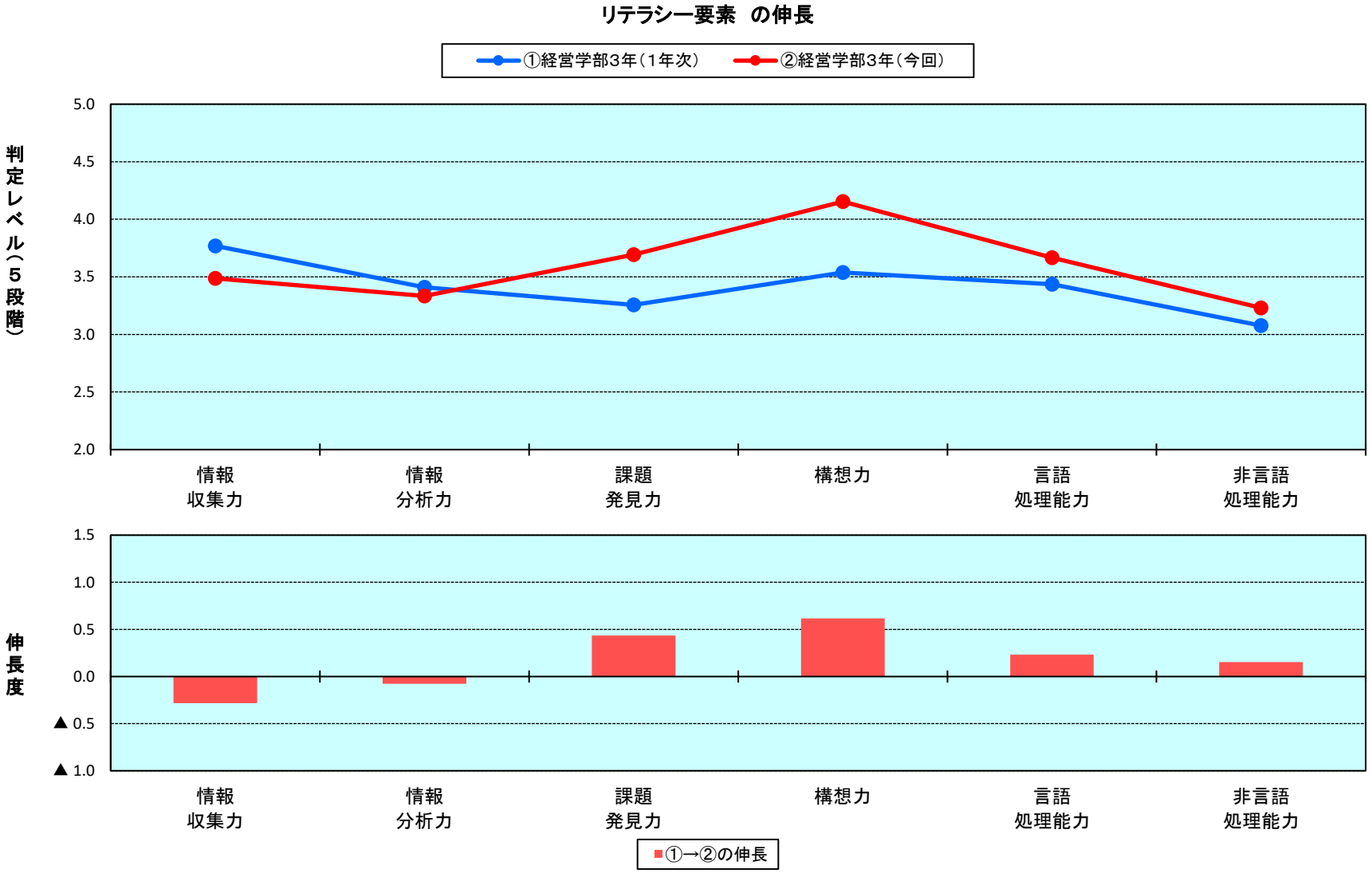
1年次受験に比べて、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル5、レベル7の割合が大きい。

リテラシー要素（成長分析）

【経営学部3年】

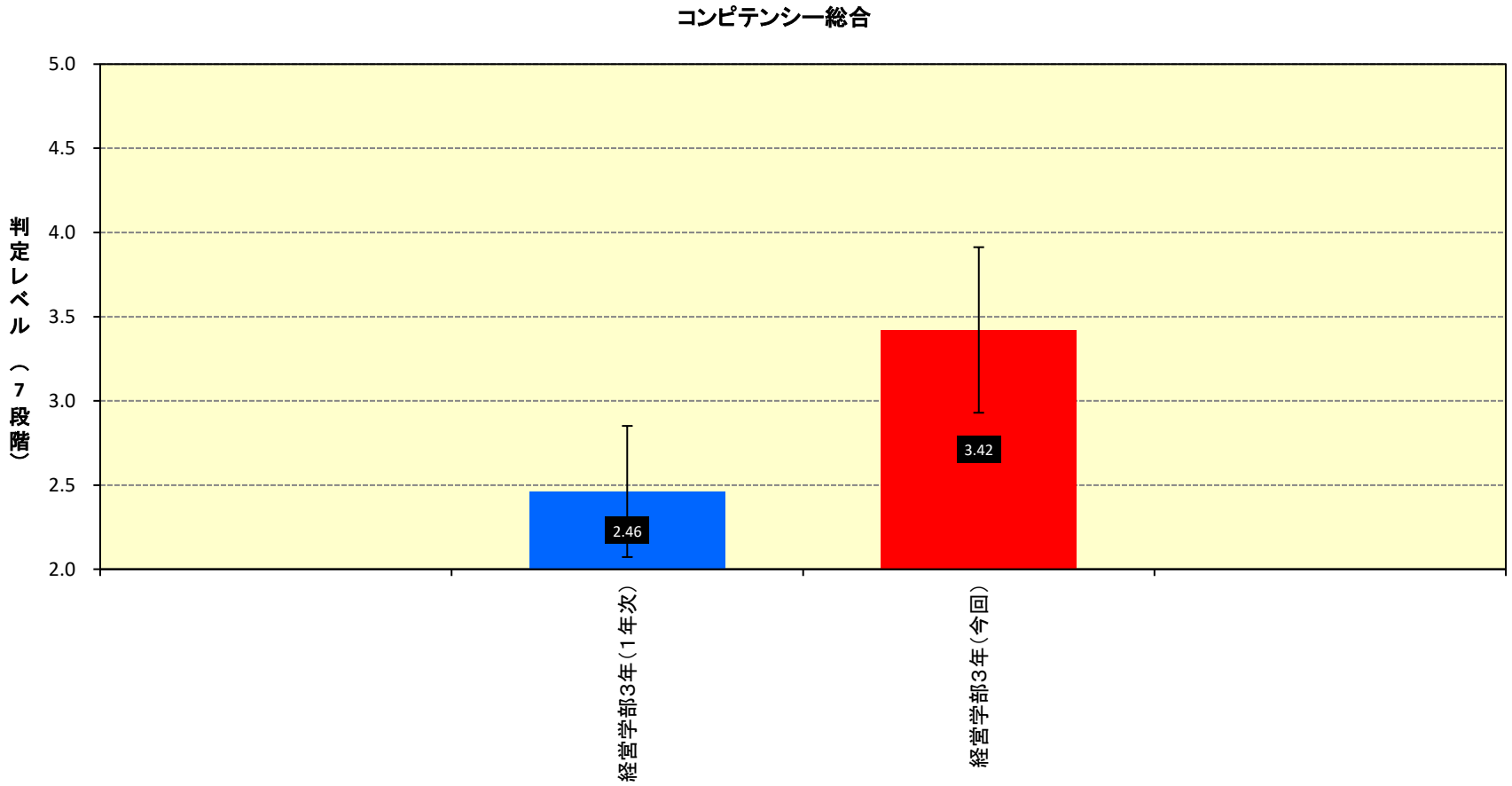
課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力は、1年次受験のスコアを下回る。



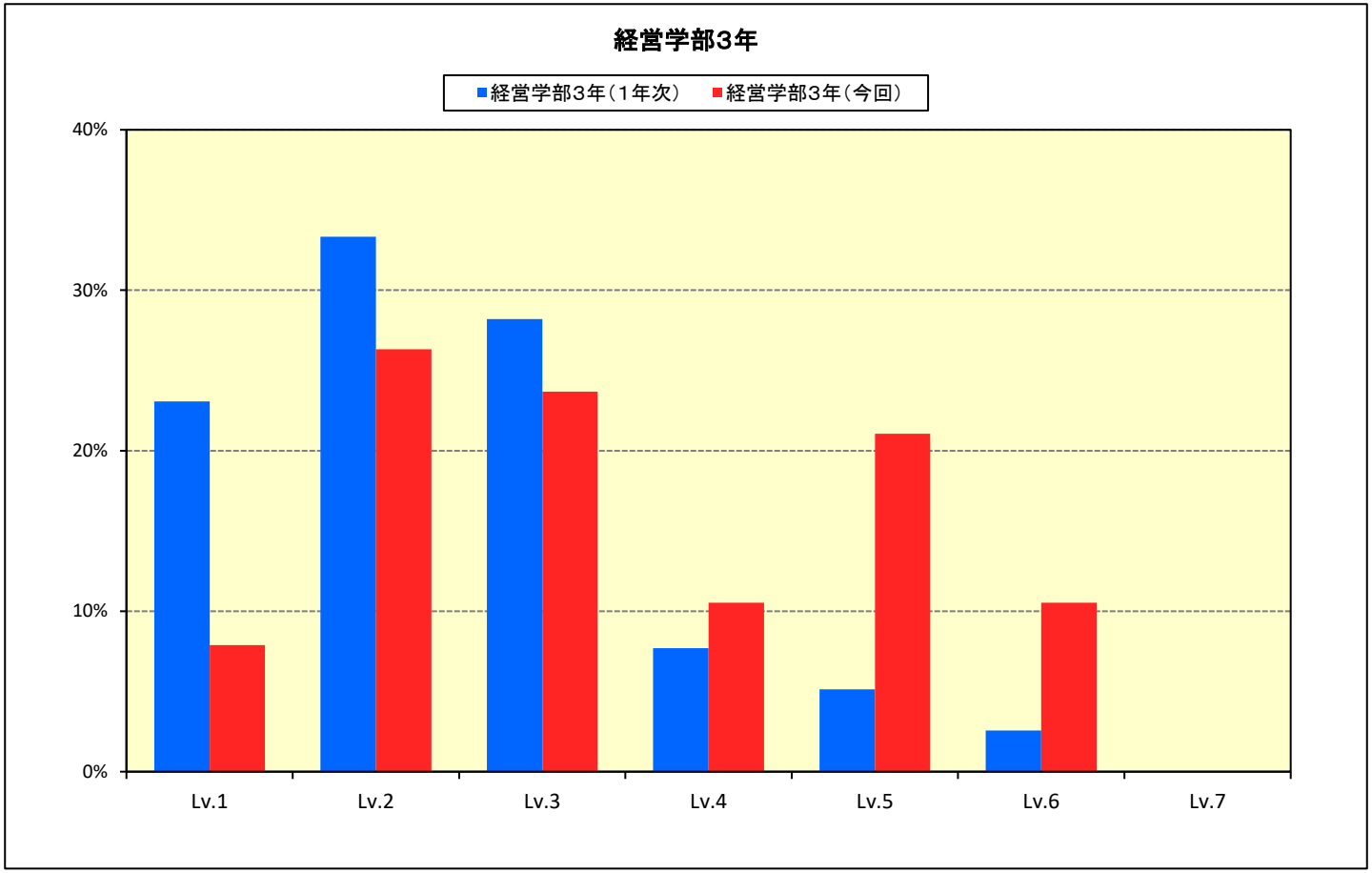
コンピテンシー総合（成長分析）

●経営学部3年は、1年次受験のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

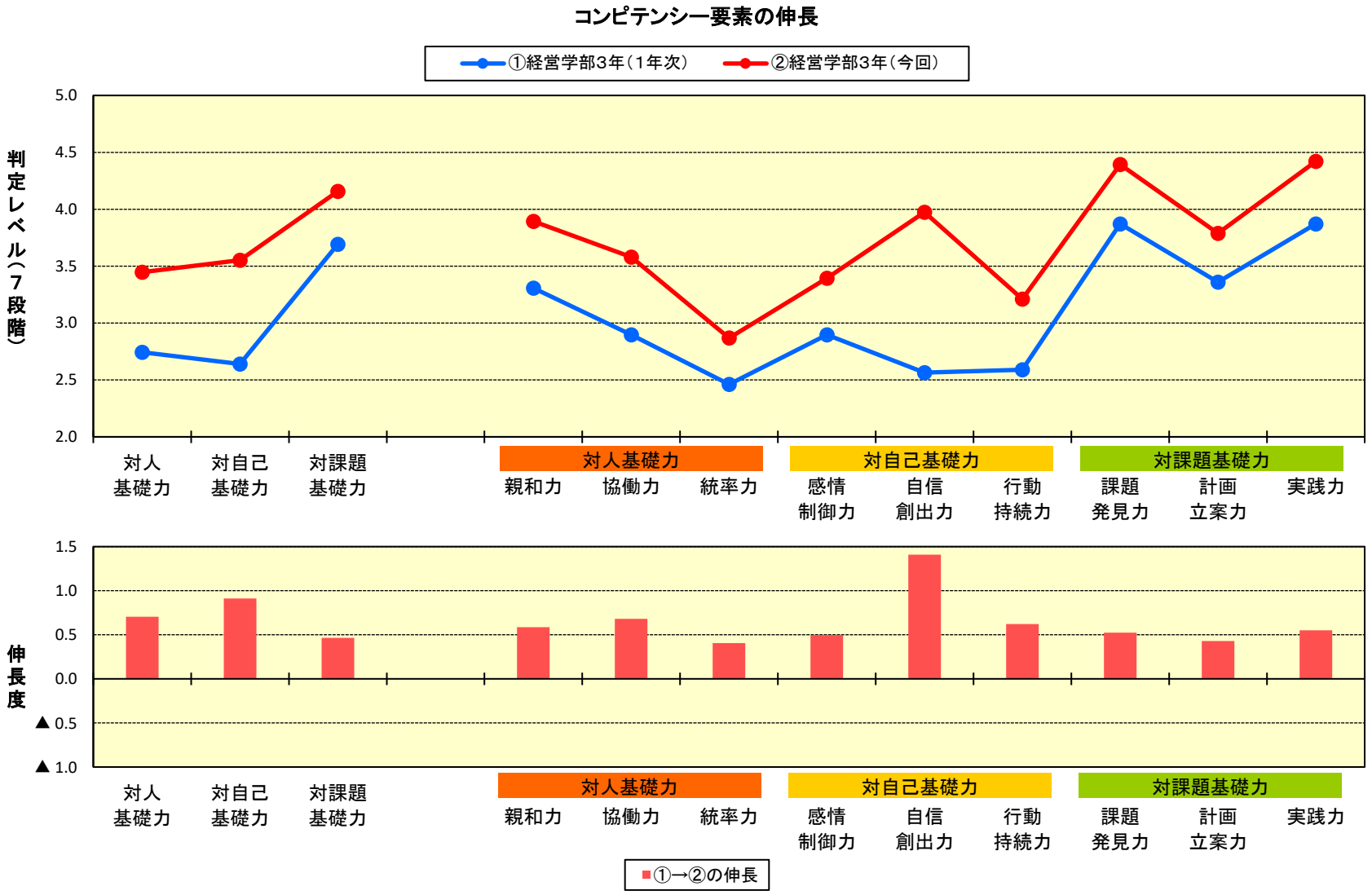


1年次受験に比べて、レベル1～3のボリュームが小さく、レベル5～6のボリュームが大きい。

コンピテンシー大中分類要素（成長分析）

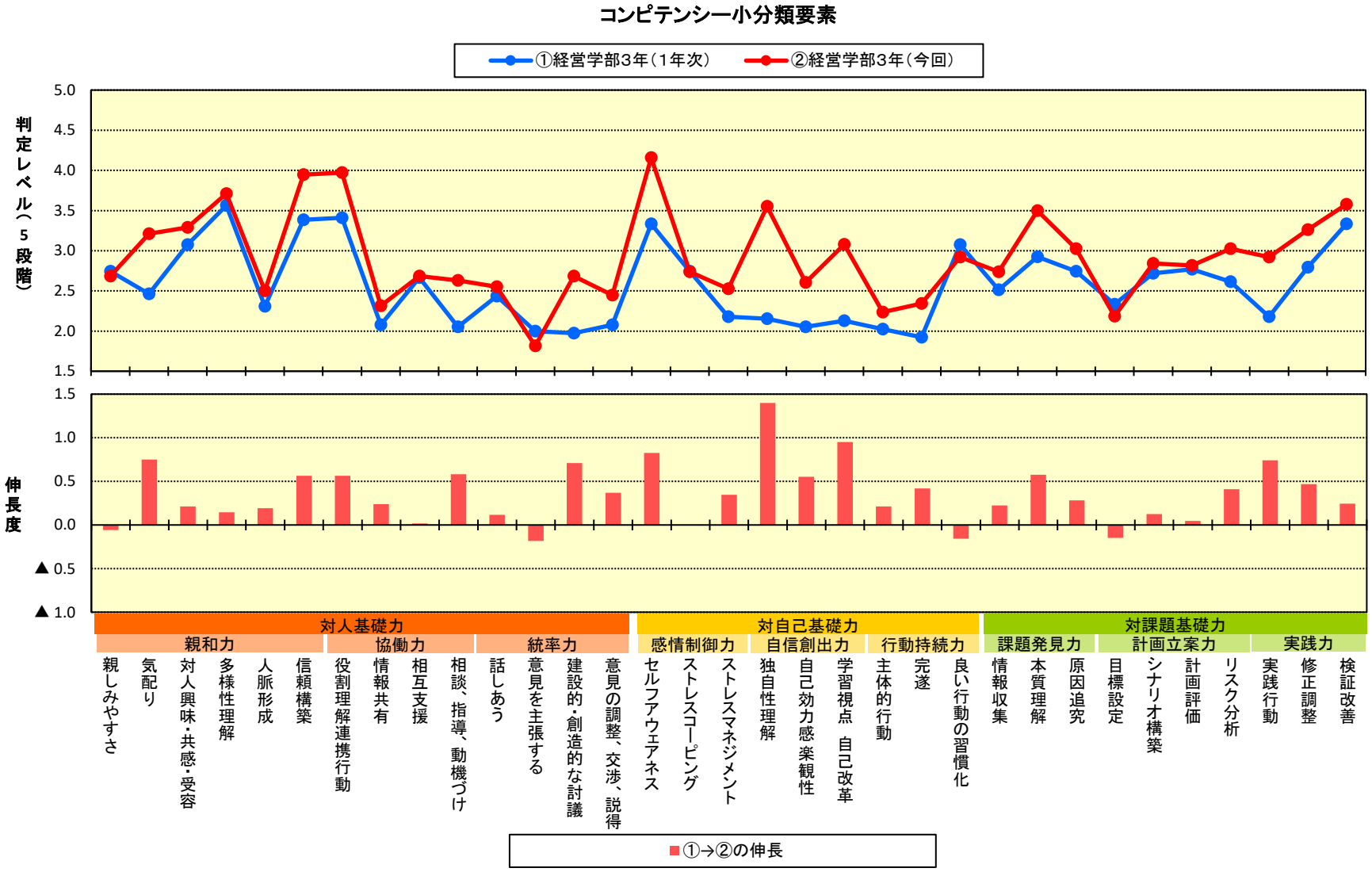
【経営学部3年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。



コンピテンシー小分類要素（成長分析）

【経営学部3年】

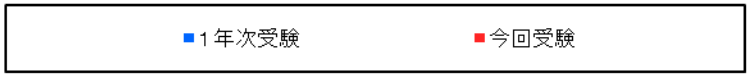


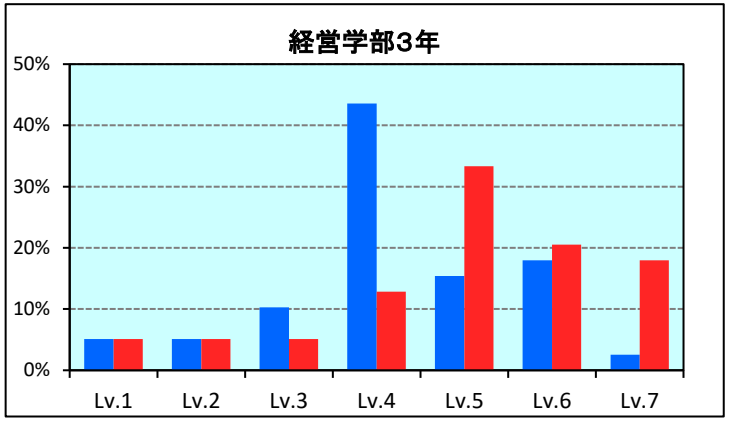
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

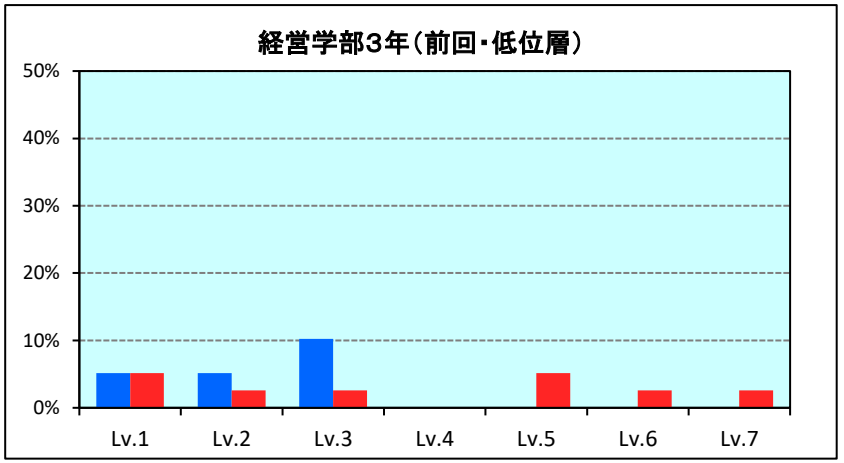
Part.2-5
3年生　成長分析
（経営学部）
高中低位分析

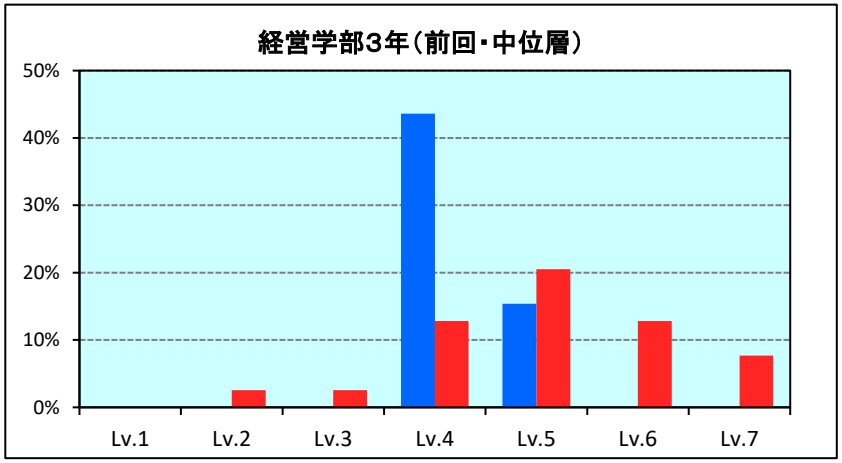
高中低位分析／リテラシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

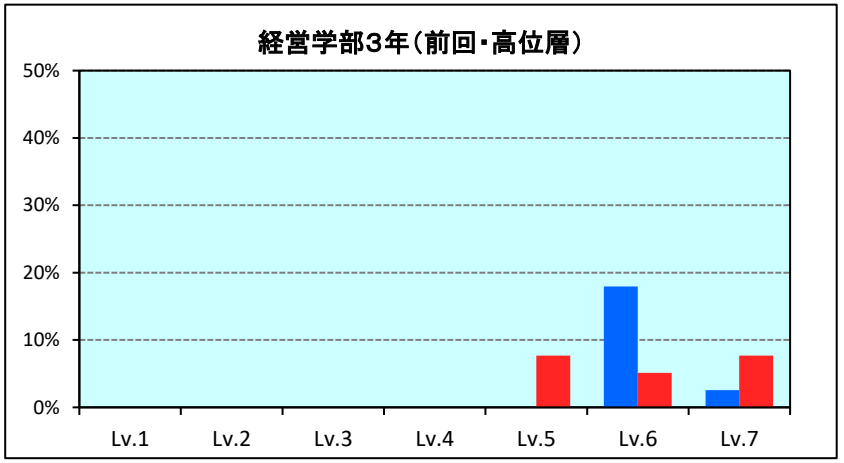




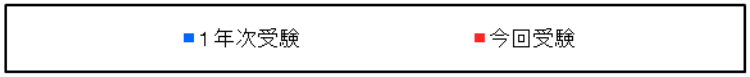
1年次受験に比べて、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル5、レベル7の割合が大きい。

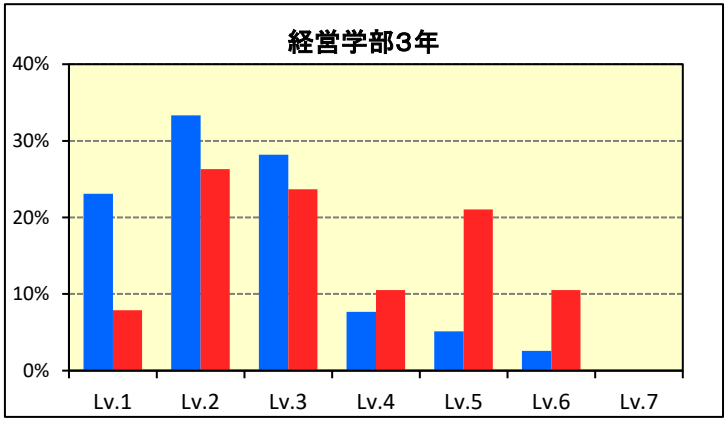




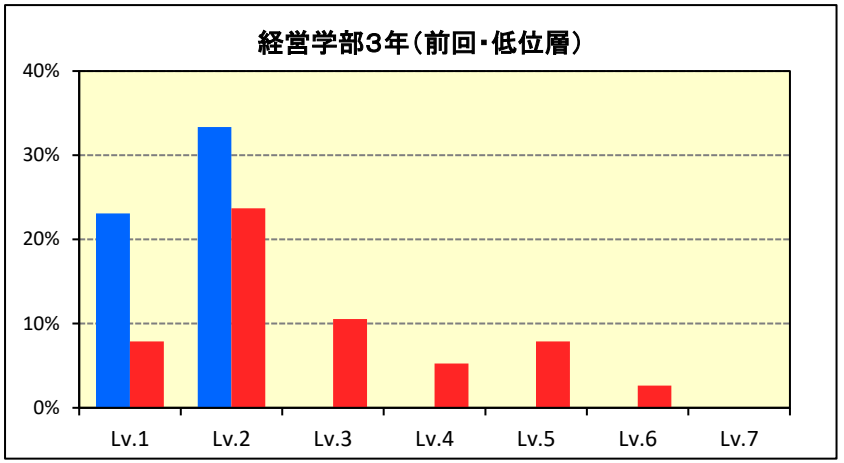


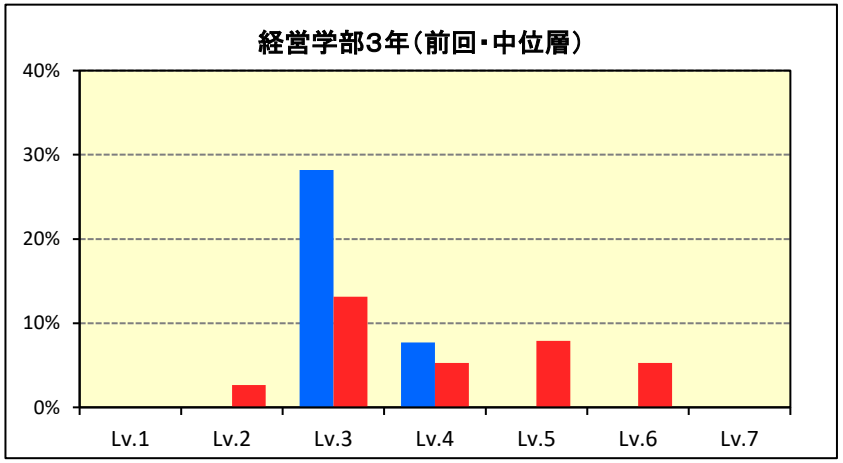
高中低位分析／コンピテンシー総合　判定レベルの分布（成長分析）

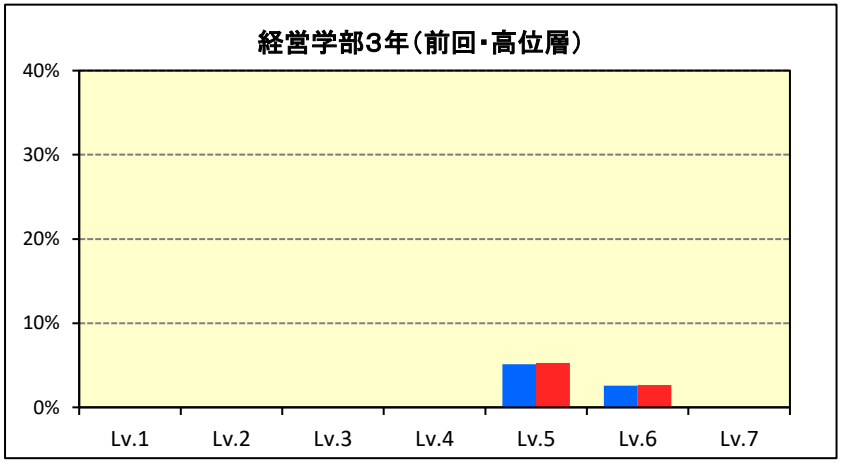




1年次受験に比べて、レベル1～3のボリュームが小さく、レベル5～6のボリュームが大きい。





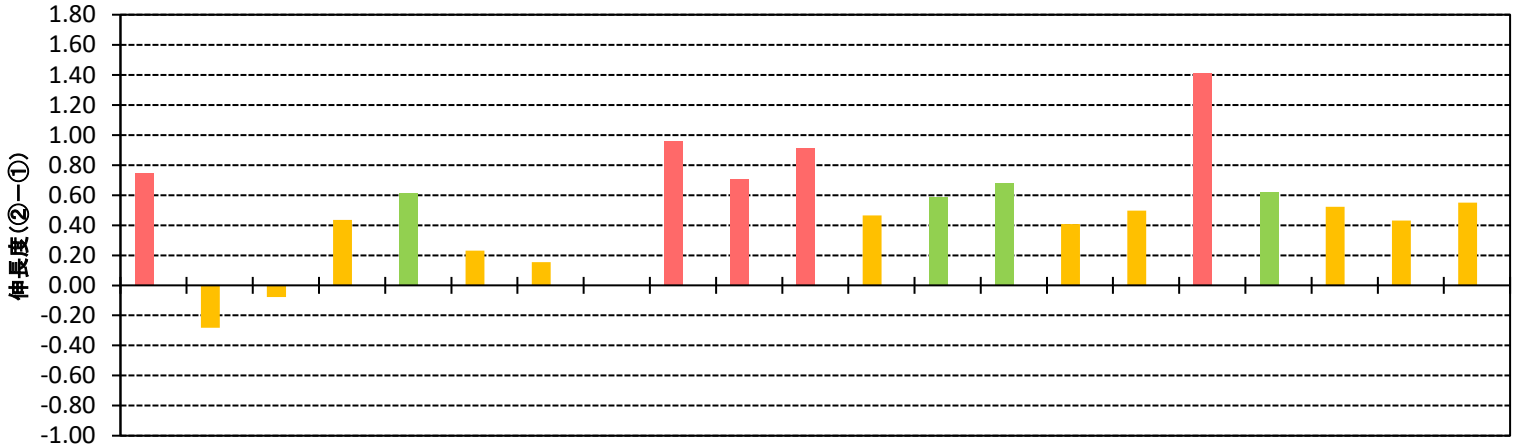


PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2-5
3年生　成長分析
（経営学部）
T検定

T検定結果(リテ総合～コンピテンシー中分類まで)

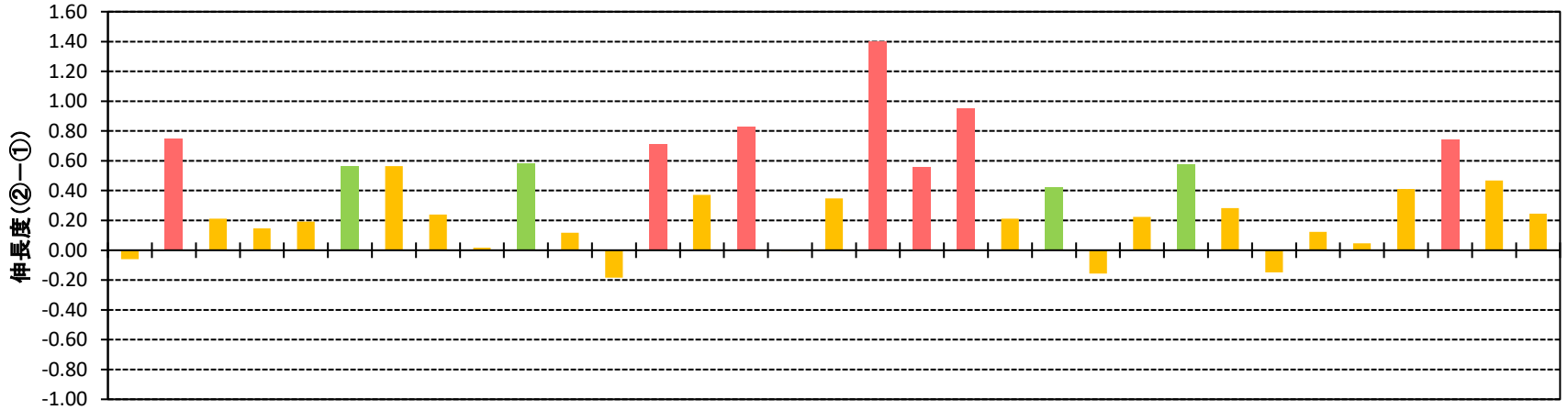


・・・1%有意
・・・5%有意

	リテラシー						
	リテラシー総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
①経営学部3年(1年次)	4.23	3.77	3.41	3.26	3.54	3.44	3.08
②経営学部3年(今回)	4.97	3.49	3.33	3.69	4.15	3.67	3.23
伸長度(②－①)	0.74	−0.28	−0.08	0.44	0.62	0.23	0.15
t検定(P値)	0.01	0.27	0.79	0.13	0.01	0.22	0.53

	コンピテンシー												
	コンピテンシー総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①経営学部3年(1年次)	2.46	2.74	2.64	3.69	3.31	2.90	2.46	2.90	2.56	2.59	3.87	3.36	3.87
②経営学部3年(今回)	3.42	3.45	3.55	4.16	3.89	3.58	2.87	3.39	3.97	3.21	4.39	3.79	4.42
伸長度(②－①)	0.96	0.70	0.91	0.47	0.59	0.68	0.41	0.50	1.41	0.62	0.52	0.43	0.55
t検定(P値)	0.00	0.00	0.00	0.10	0.02	0.01	0.15	0.06	0.00	0.01	0.08	0.10	0.06

T検定結果（コンピテンシー小分類）



■・・・1%有意
■・・・5%有意

	親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談、指導他者の動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	ストレスコーピング	ストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感　楽観性	学習視点　機会による自己変革	主体的行動	完遂	良い行動の習慣化	情報収集	本質理解	原因追究	目標設定	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善
①経営学部3年（1年次）	2.74	2.46	3.08	3.56	2.31	3.38	3.41	2.08	2.67	2.05	2.44	2.00	1.97	2.08	3.33	2.74	2.18	2.15	2.05	2.13	2.03	1.92	3.08	2.51	2.92	2.74	2.33	2.72	2.77	2.62	2.18	2.79	3.33
②経営学部3年（今回）	2.68	3.21	3.29	3.71	2.50	3.95	3.97	2.32	2.68	2.63	2.55	1.82	2.68	2.45	4.16	2.74	2.53	3.55	2.61	3.08	2.24	2.34	2.92	2.74	3.50	3.03	2.18	2.84	2.82	3.03	2.92	3.26	3.58
伸長度（②－①）	-0.06	0.75	0.21	0.15	0.19	0.56	0.56	0.24	0.02	0.58	0.12	-0.18	0.71	0.37	0.82	-0.01	0.35	1.40	0.55	0.95	0.21	0.42	-0.16	0.22	0.58	0.28	-0.15	0.12	0.05	0.41	0.74	0.47	0.25
t検定（P値）	1.00	0.00	0.30	0.56	0.22	0.01	0.08	0.24	0.73	0.02	0.65	0.45	0.00	0.13	0.00	0.85	0.10	0.00	0.00	0.00	0.33	0.03	0.50	0.40	0.02	0.23	0.64	0.64	1.00	0.12	0.00	0.07	0.41

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.3-1
3年生　過去受験者比較
（大学全体）

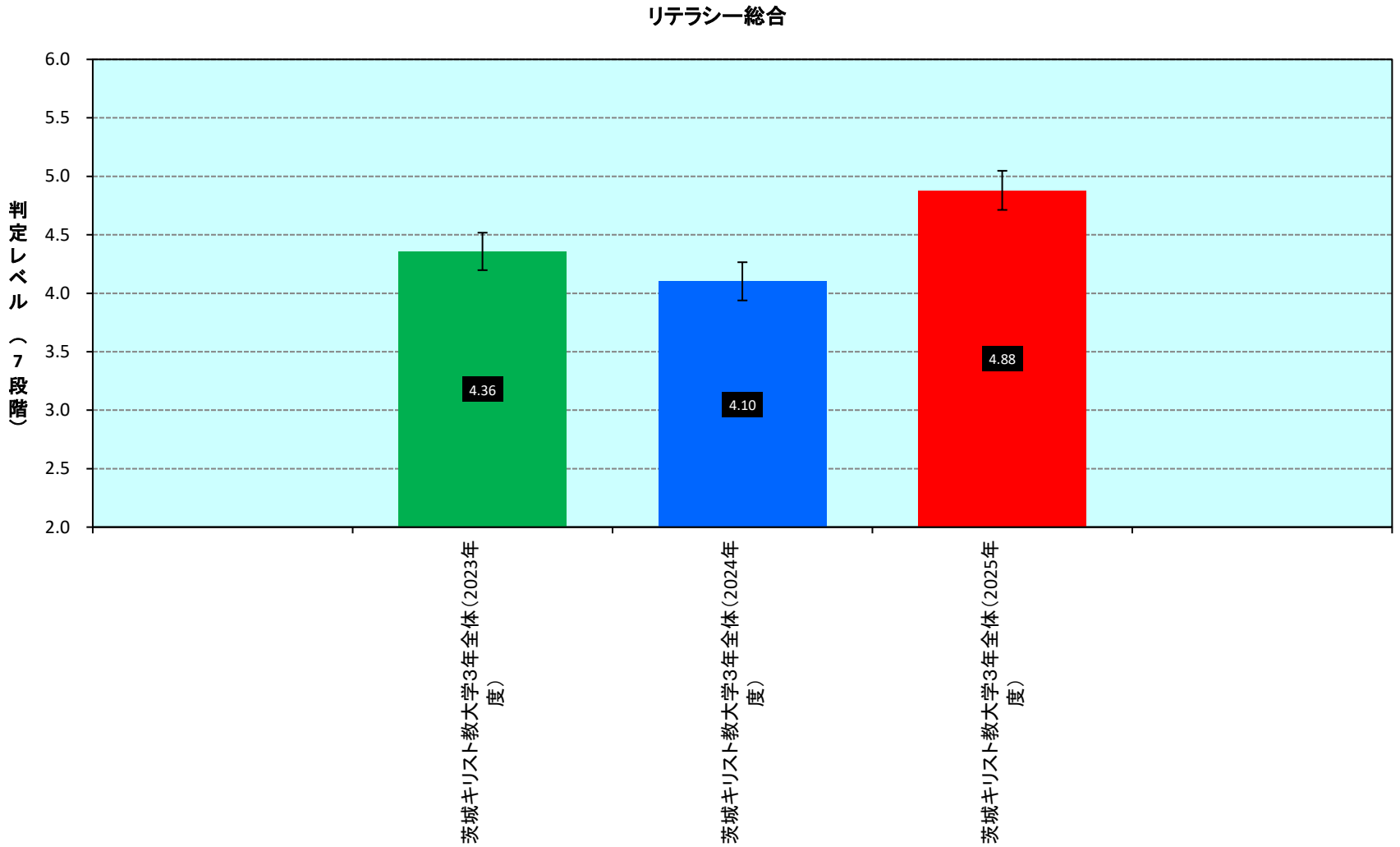
受験者プロフィール

学部	学科　専攻	2023年度 3年 2024年2月～3月 受験	2024年度 3年 2025年2月～3月 受験	2025年度 3年 2026年2月～3月 受験
文学部	現代英語学科	65	56	57
	児童教育学科　児童教育専攻	60	45	45
	児童教育学科　幼児保育専攻	48	40	56
	文化交流学科	55	46	53
		228	187	211
生活科学部	心理福祉学科	66	60	60
	食物健康科学科	55	73	63
		121	133	123
看護学部	看護学科　※N版受験	87	82	87
		87	82	87
経営学部	経営学科	62	43	41
		62	43	41
合計		498	445	462

※看護学科はN版受験のため、学年全体には含めず集計いたします。（N版と大学版はコンピテンシー領域が異なるため）

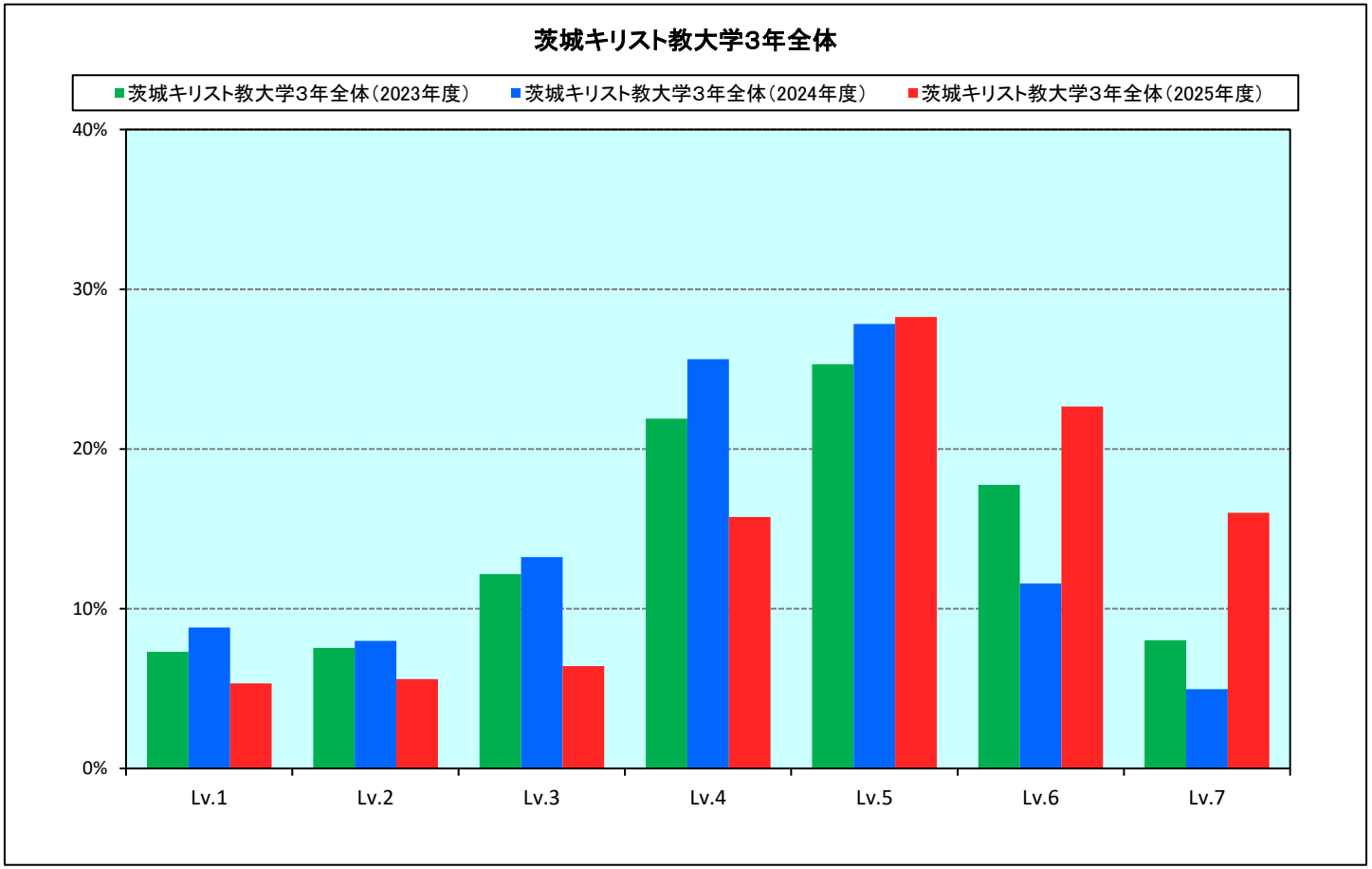
リテラシー総合（過去の受験者との比較）

●茨城キリスト教大学3年全体は、2024年度のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

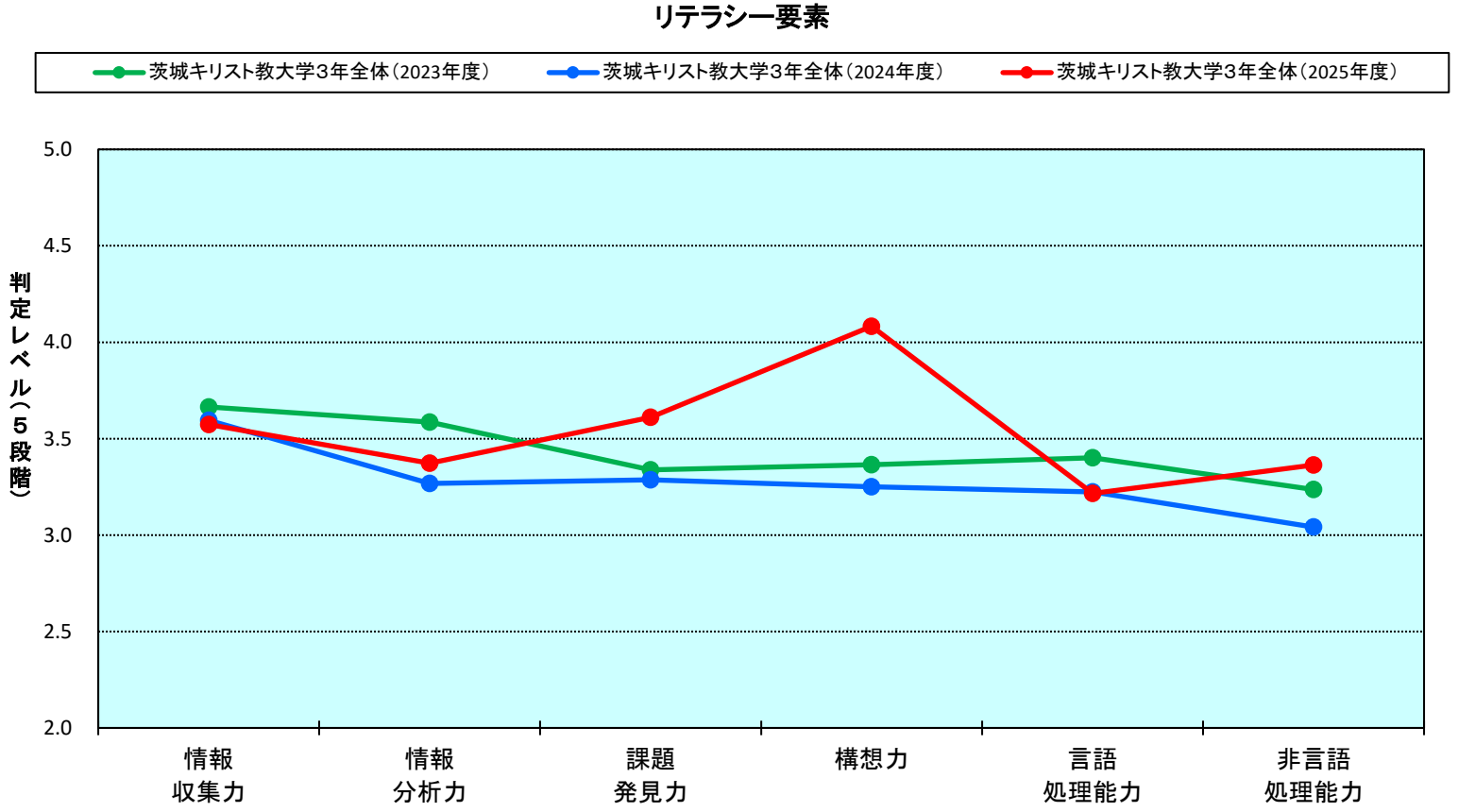
リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）



2024年度に比べて、レベル1、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル6～7のボリュームが大きい。

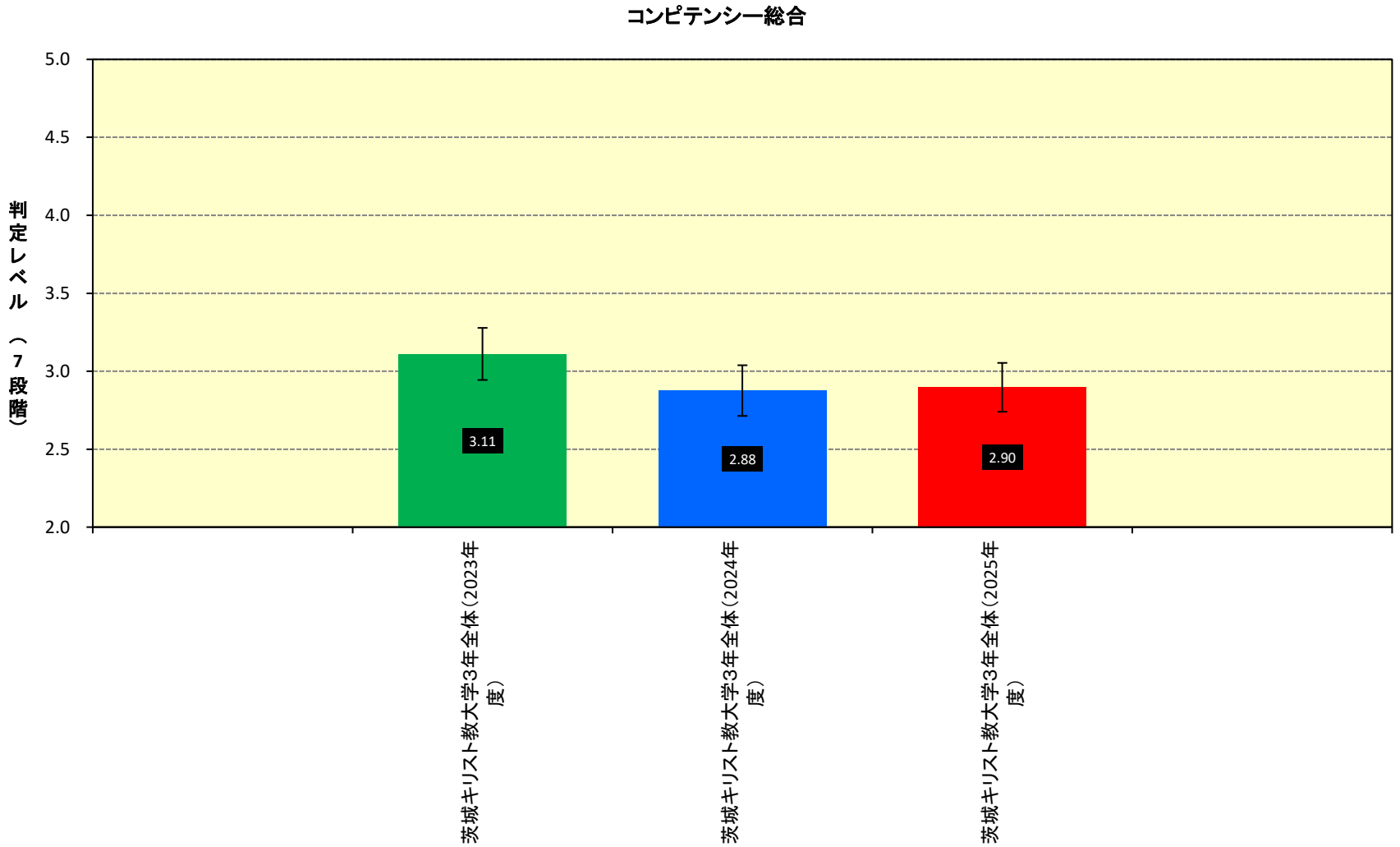
リテラシー要素（過去の受験者との比較）

【茨城キリスト教大学3年全体】
情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。
一方、情報収集力、言語処理能力は、2024年度のスコアを下回る。



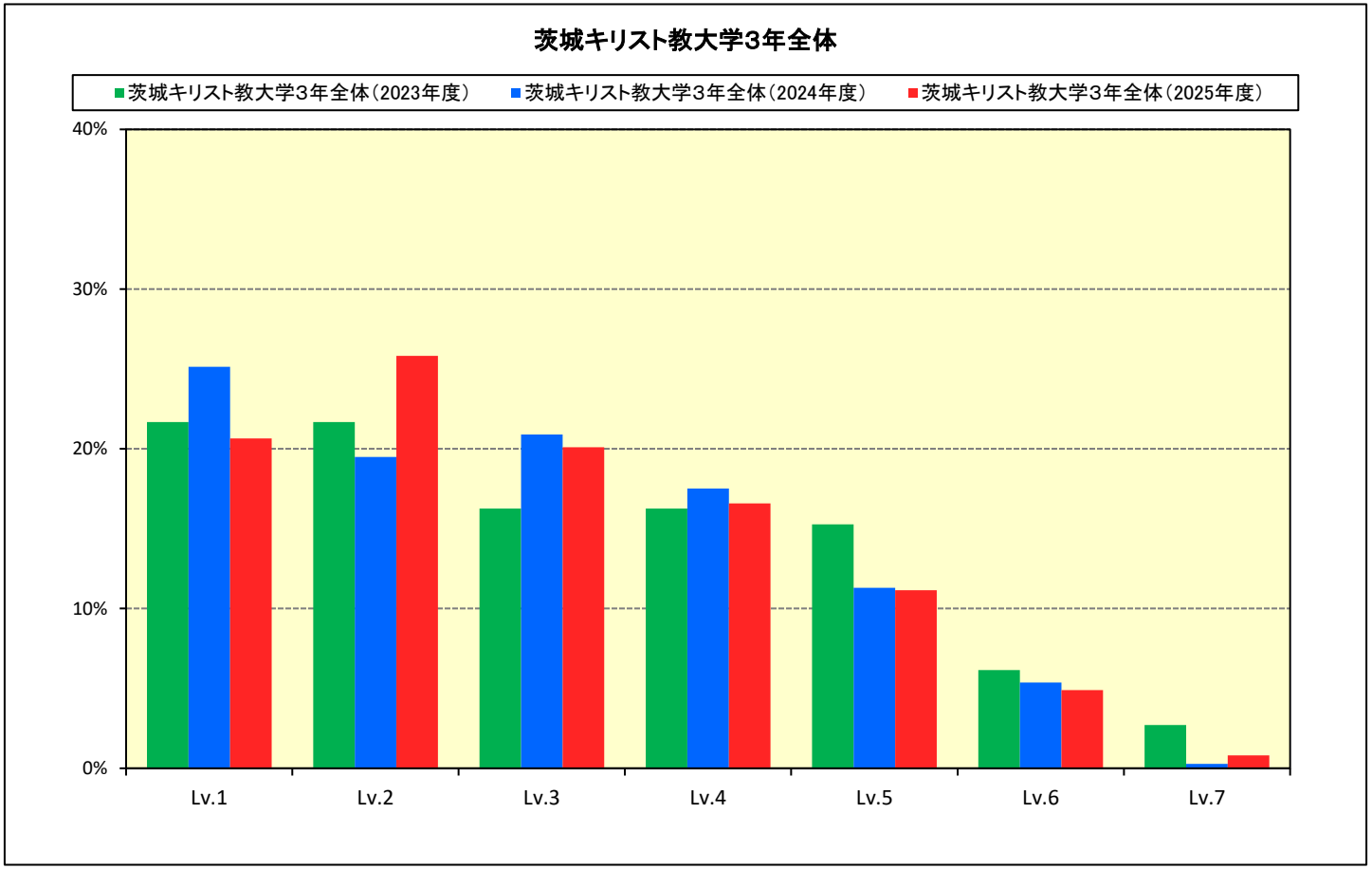
コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

●茨城キリスト教大学3年全体は、2024年度のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）



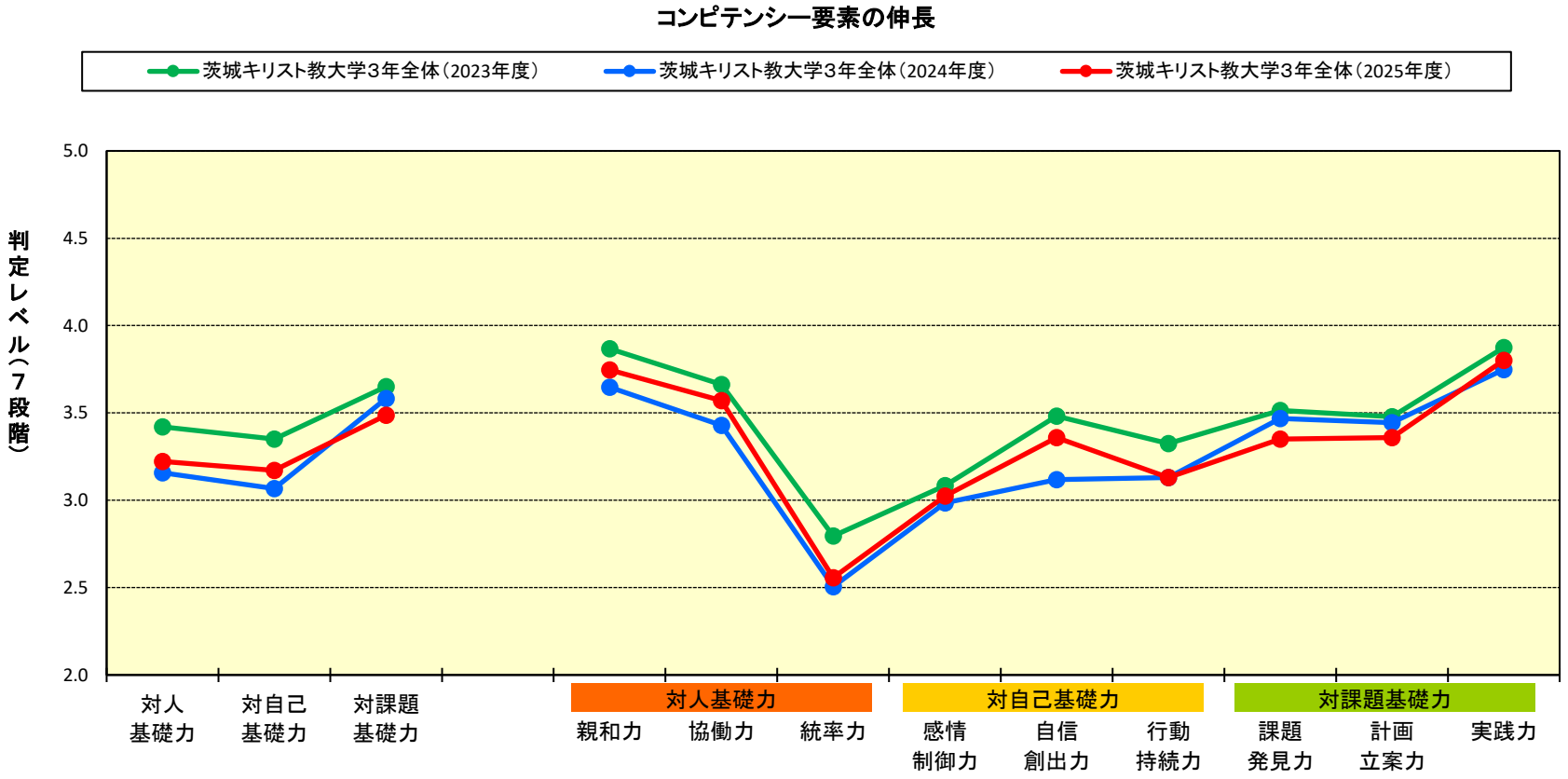
2024年度に比べて、レベル1の割合が小さく、レベル2の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）

【茨城キリスト教大学3年全体】

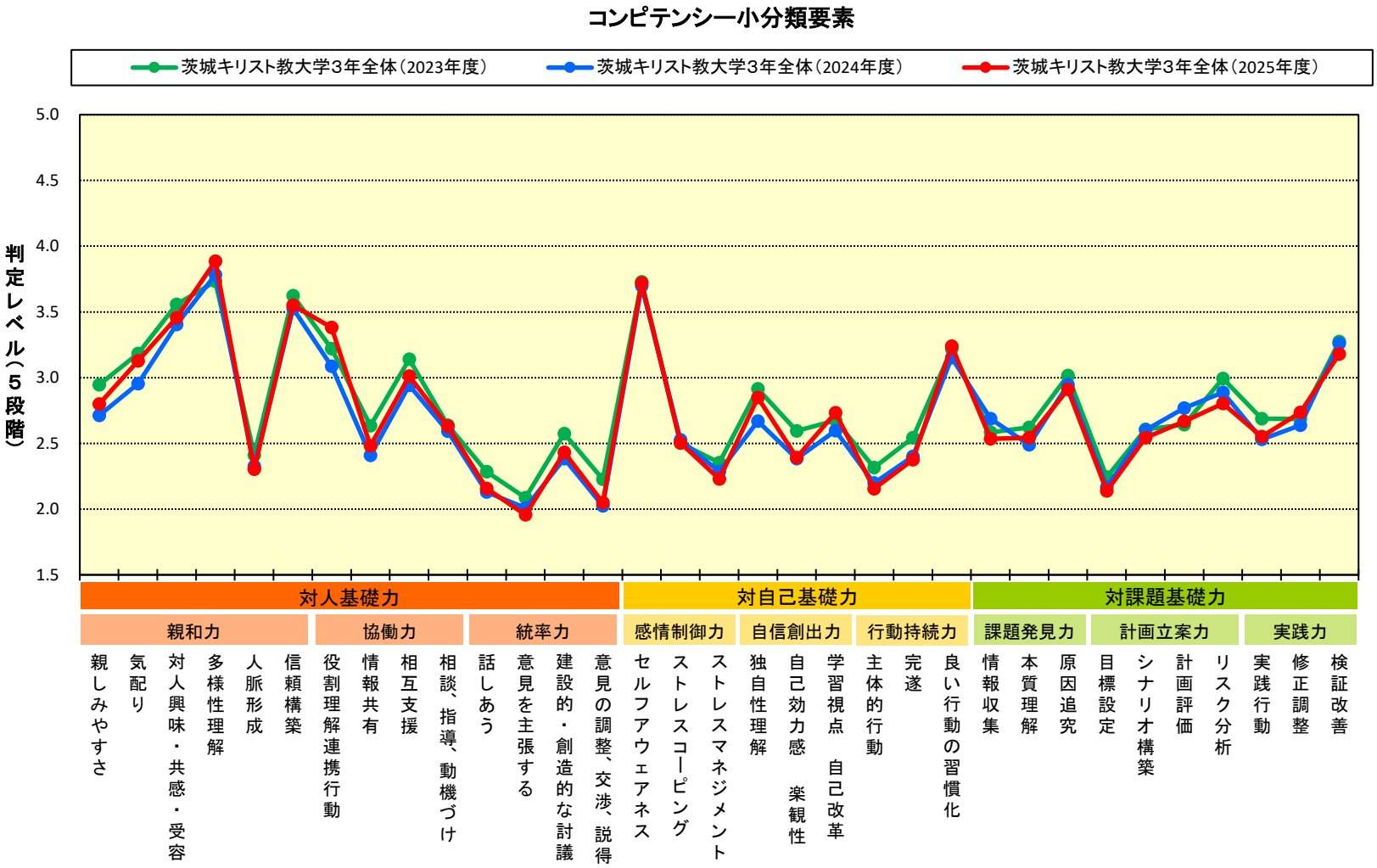
親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、実践力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、課題発見力、計画立案力は、2024年度のスコアを下回る。



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）

【茨城キリスト教大学3年全体】



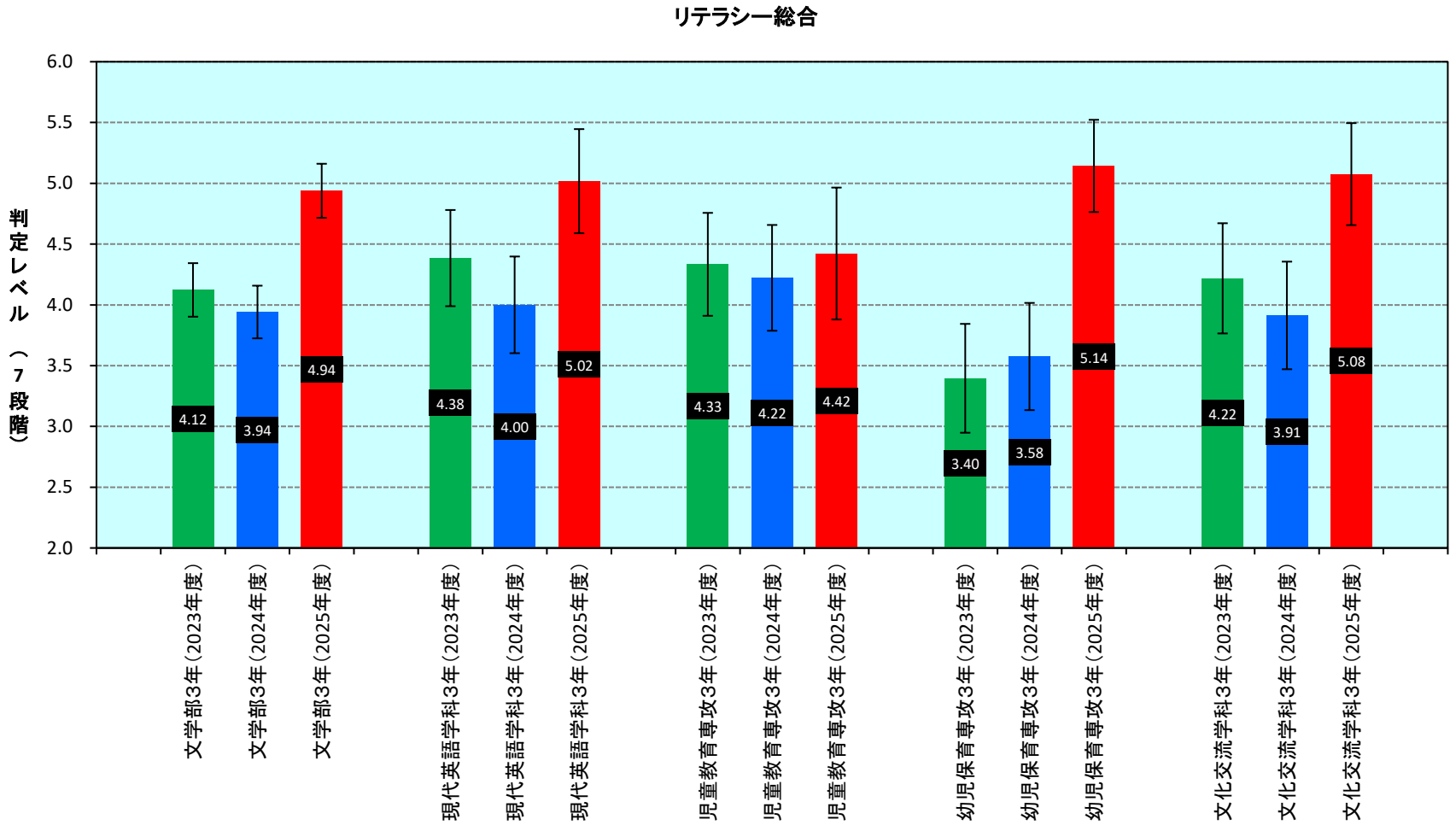
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.3-2
3年生　過去受験者比較
（文学部）

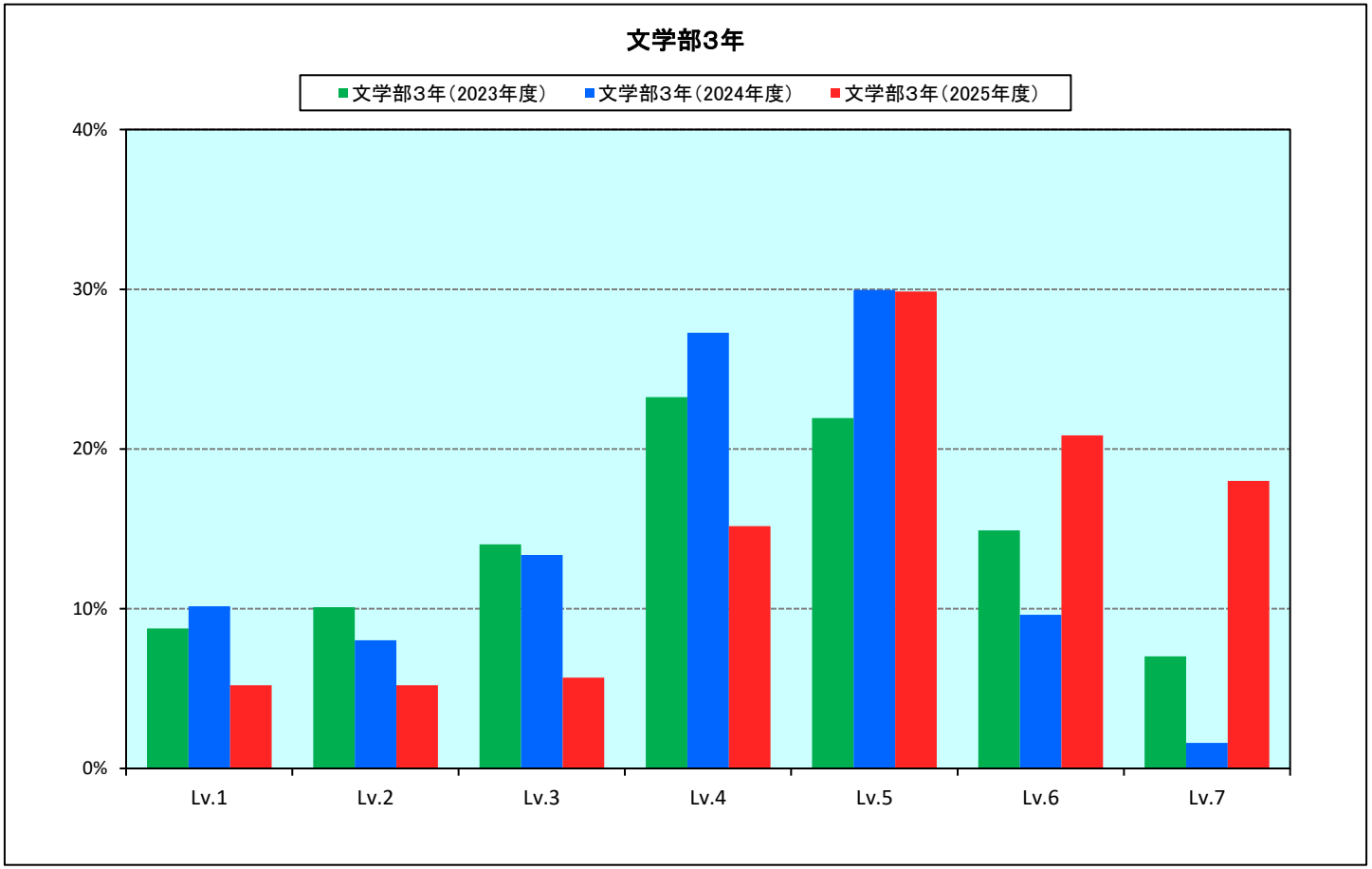
リテラシー総合（過去の受験者との比較）

●文学部3年、現代英語学科3年、児童教育専攻3年、幼児保育専攻3年、文化交流学科3年は、2024年度のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

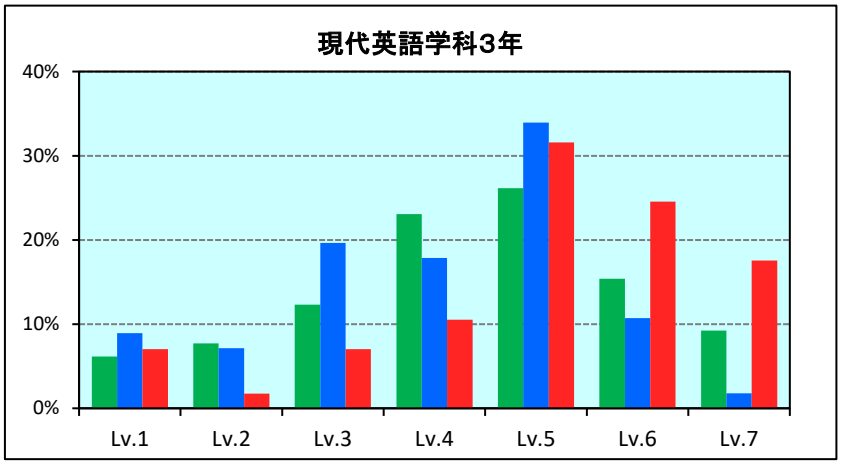
リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）①



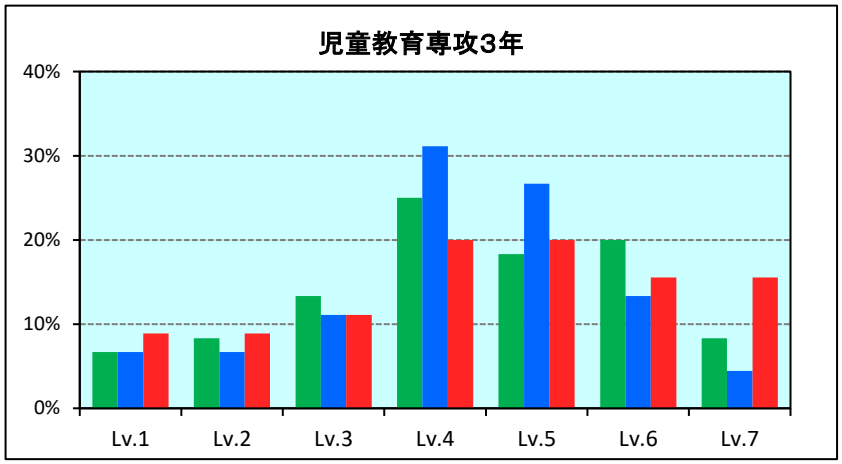
2024年度に比べて、レベル1、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル6～7のボリュームが大きい。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）②

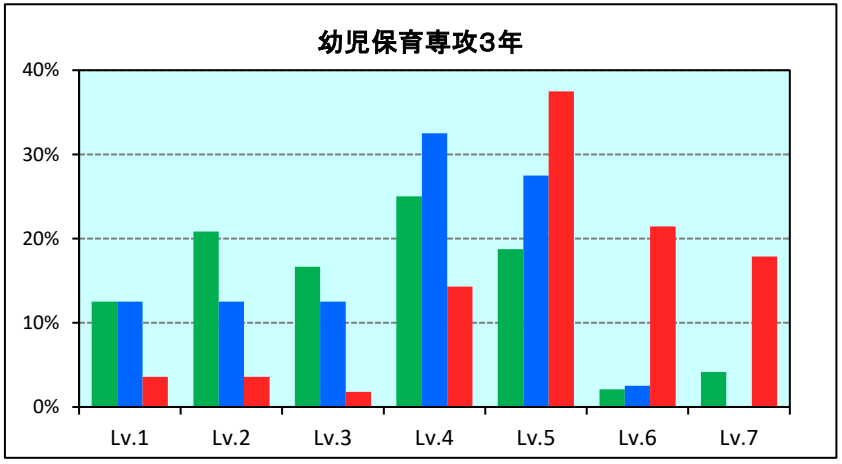




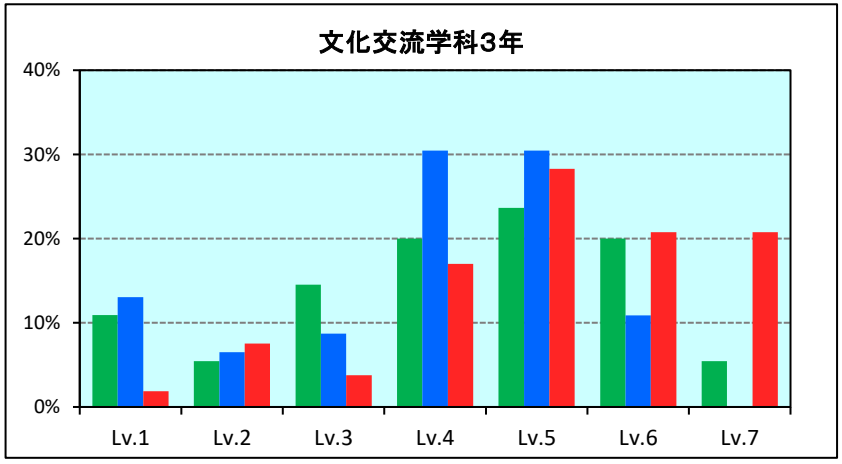
2024年度に比べて、レベル2～4のボリュームが小さく、レベル6～7のボリュームが大きい。



2024年度に比べて、レベル4～5のボリュームが小さく、レベル7の割合が大きい。



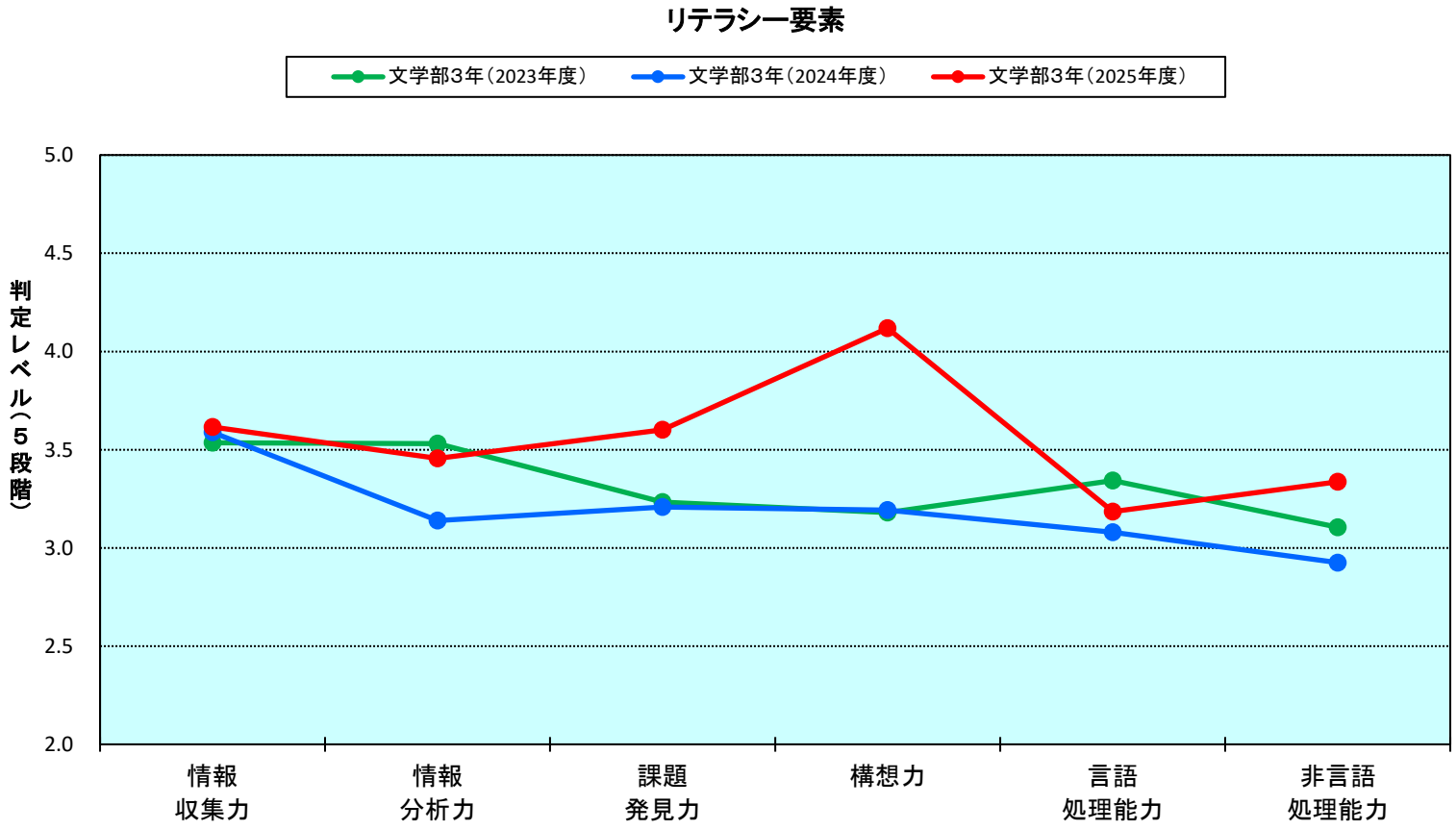
2024年度に比べて、レベル1～4のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。



2024年度に比べて、レベル1、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル6～7のボリュームが大きい。

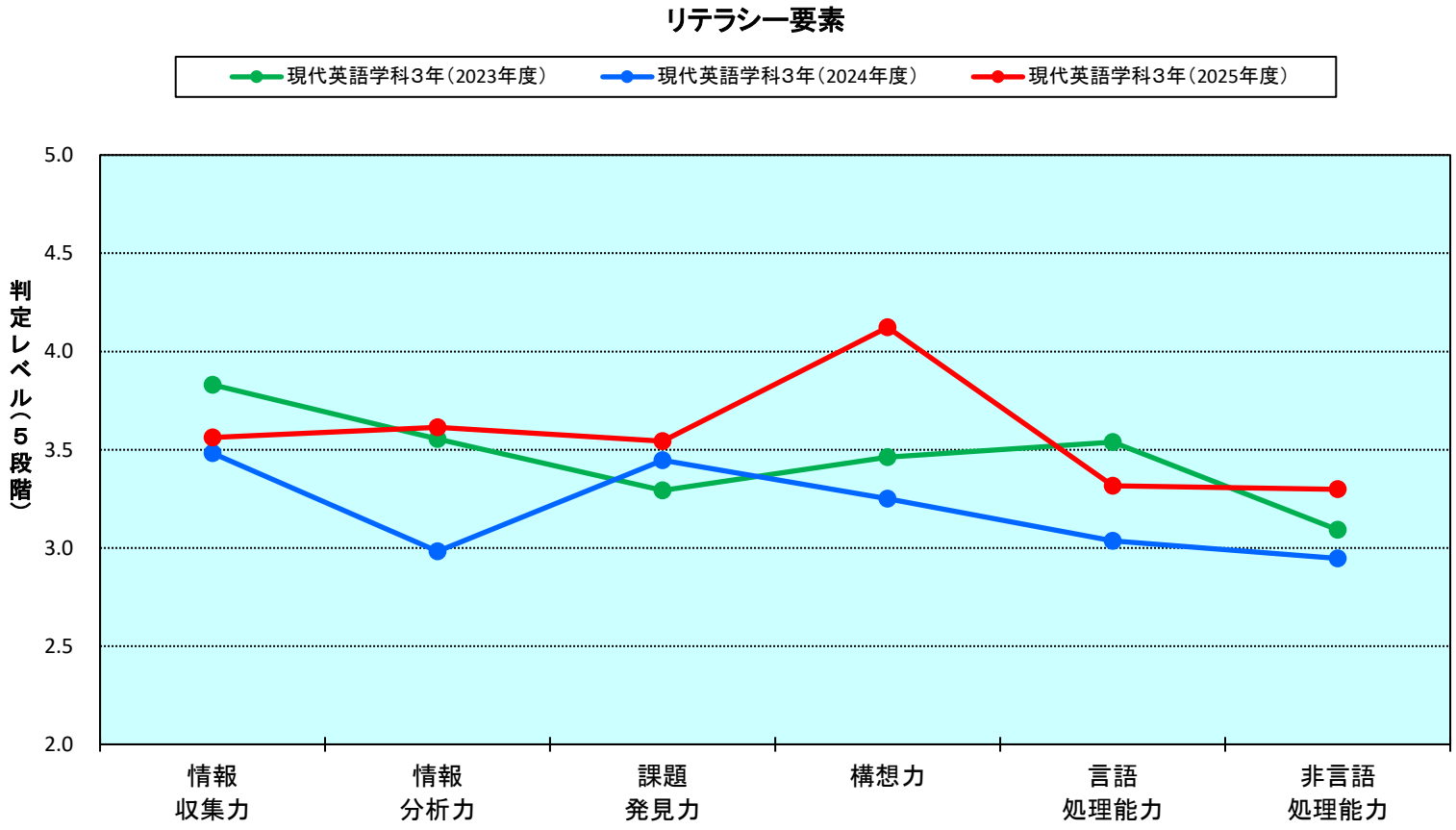
リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【文学部3年】
情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【現代英語学科３年】
　情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。

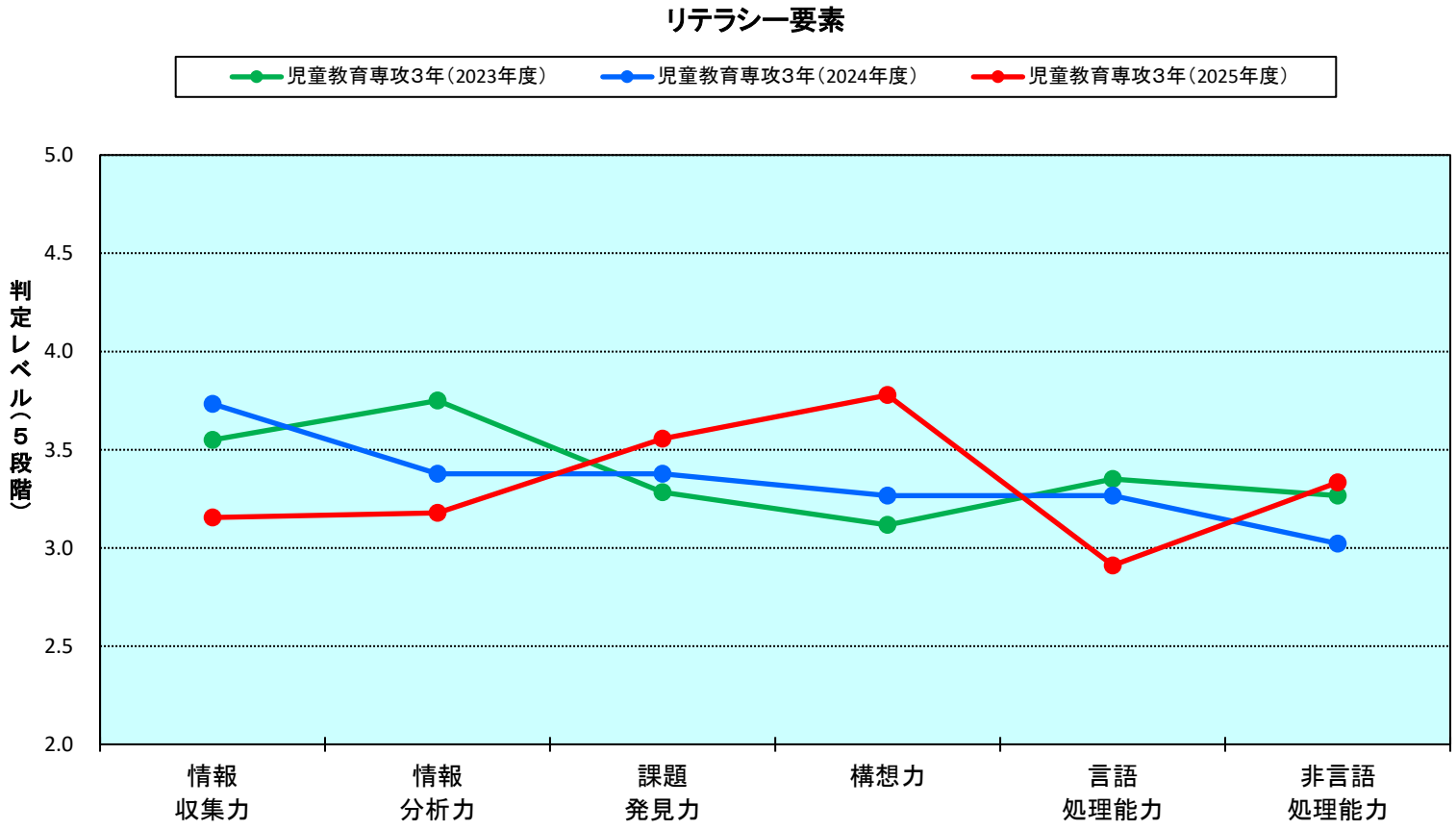


リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

【児童教育専攻3年】

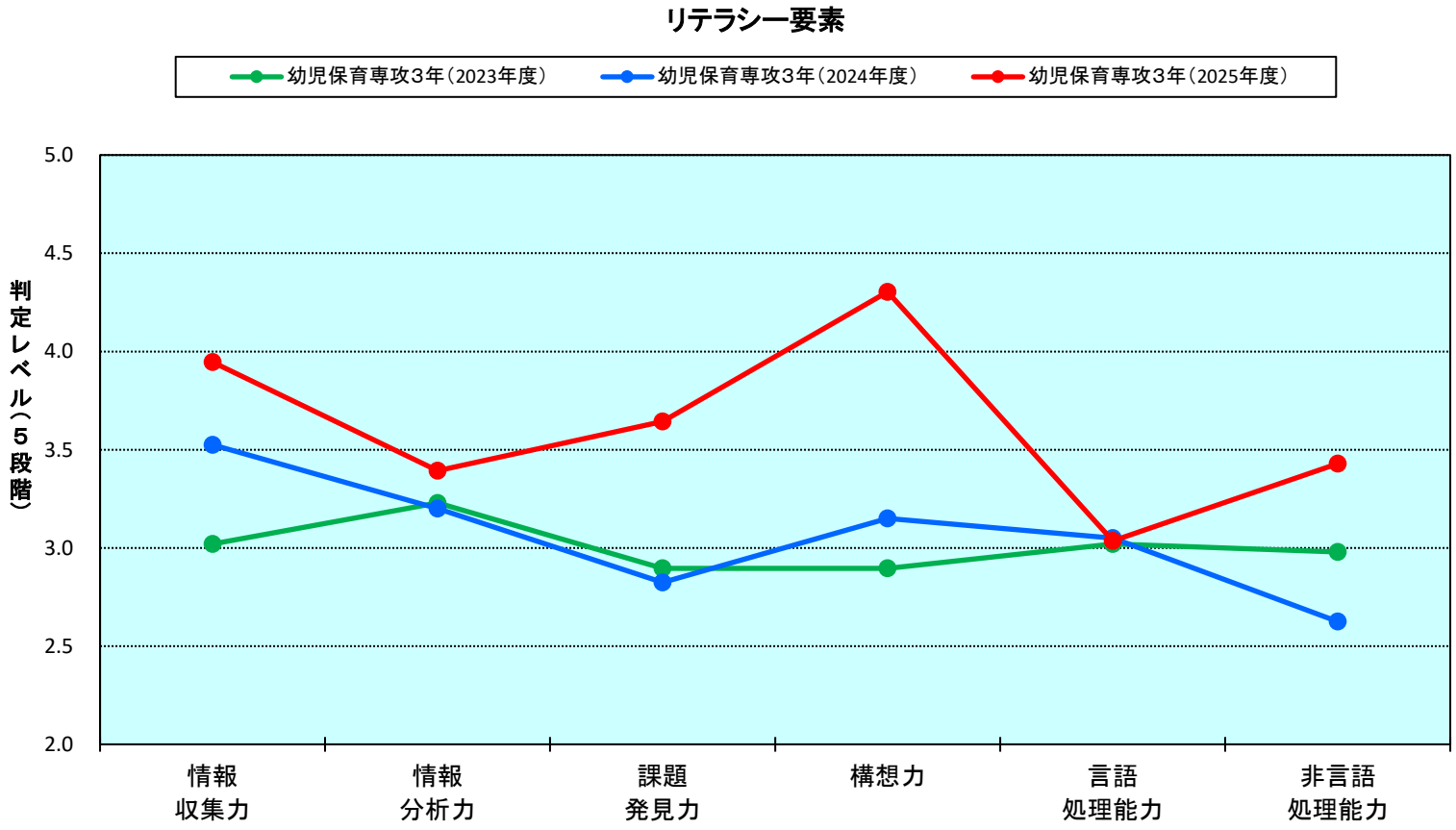
課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、言語処理能力は、2024年度のスコアを下回る。



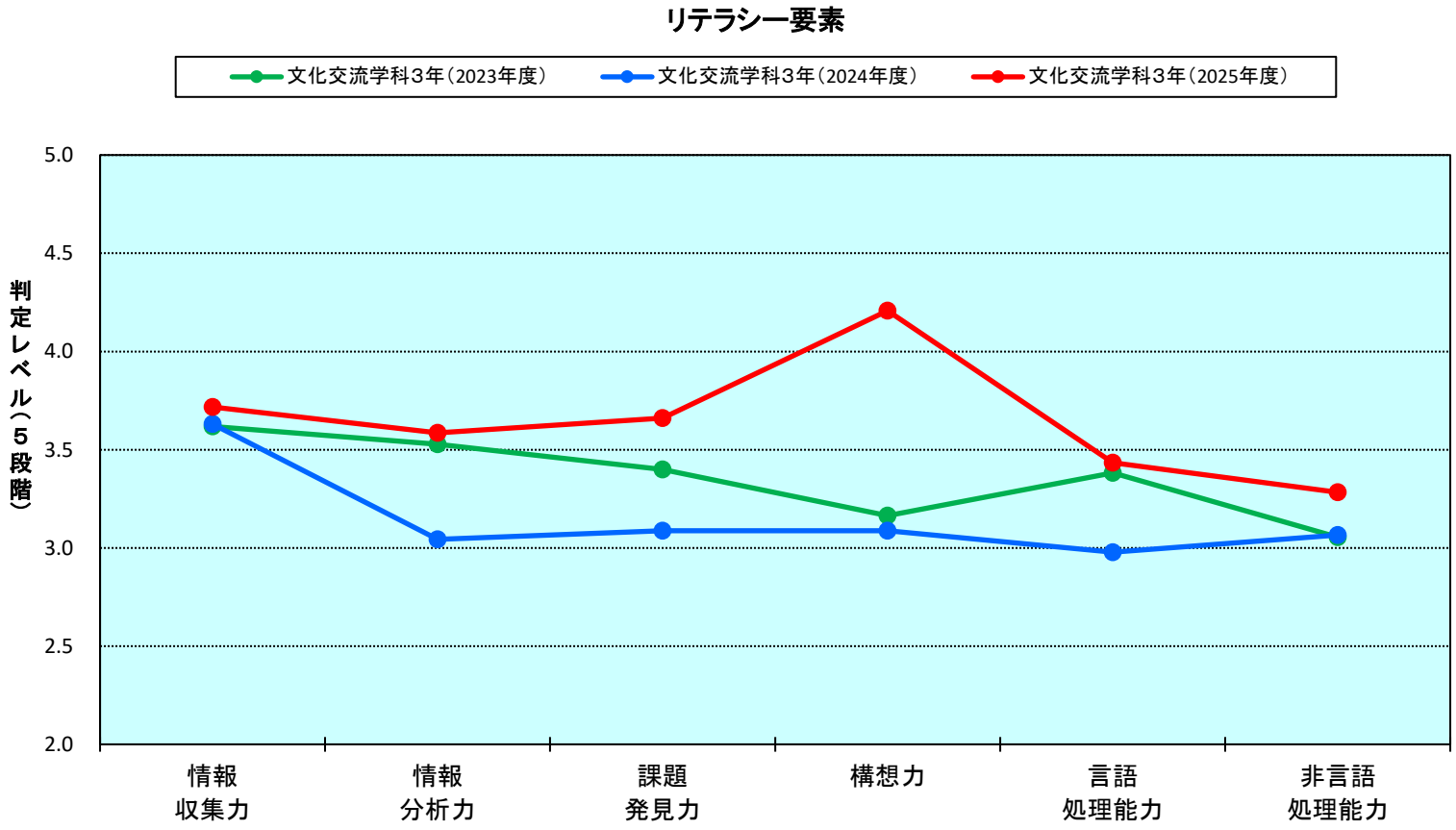
リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【幼児保育専攻3年】
情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。
一方、言語処理能力は、2024年度のスコアを下回る。



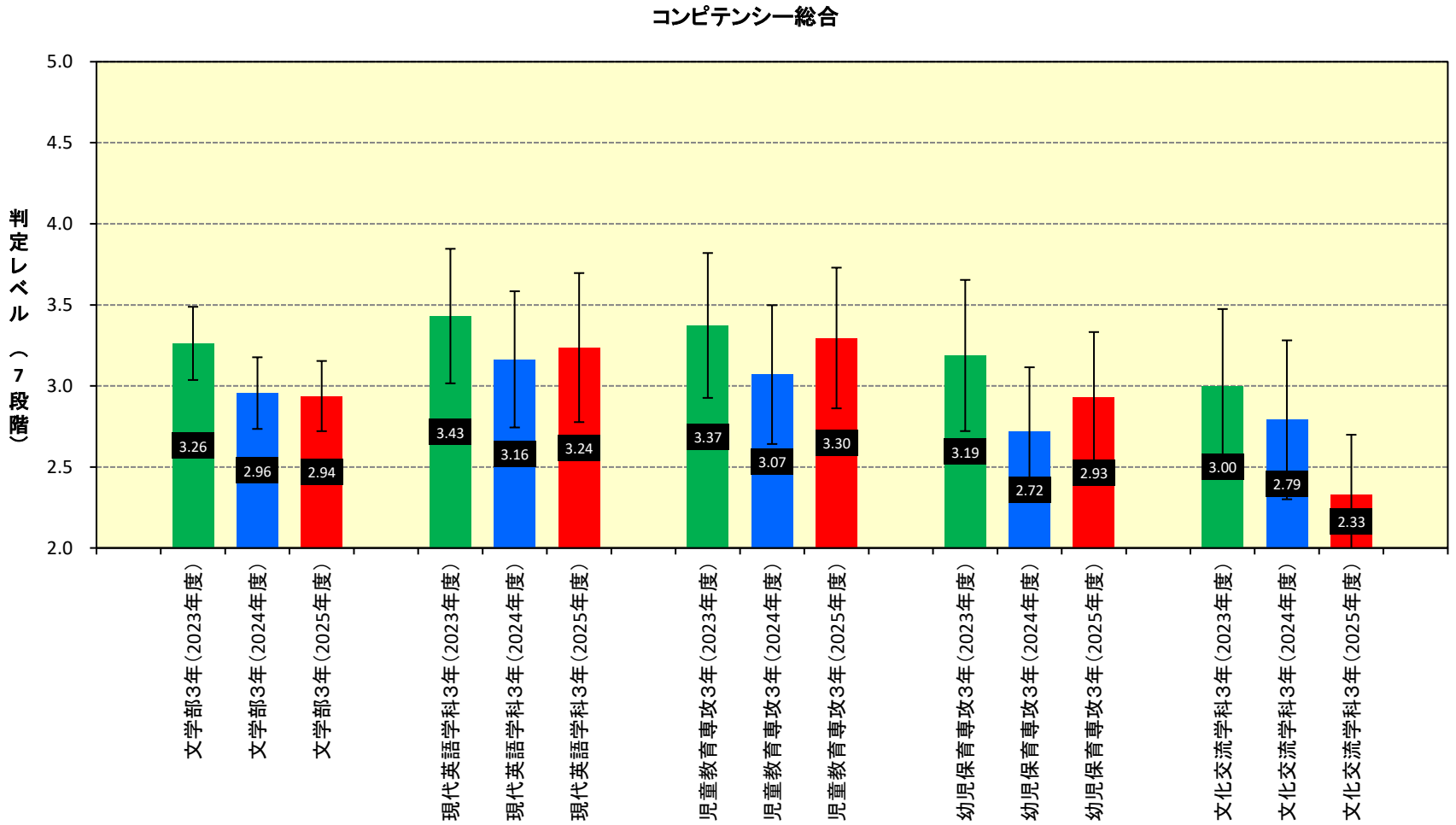
リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑤

【文化交流学科３年】
情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。



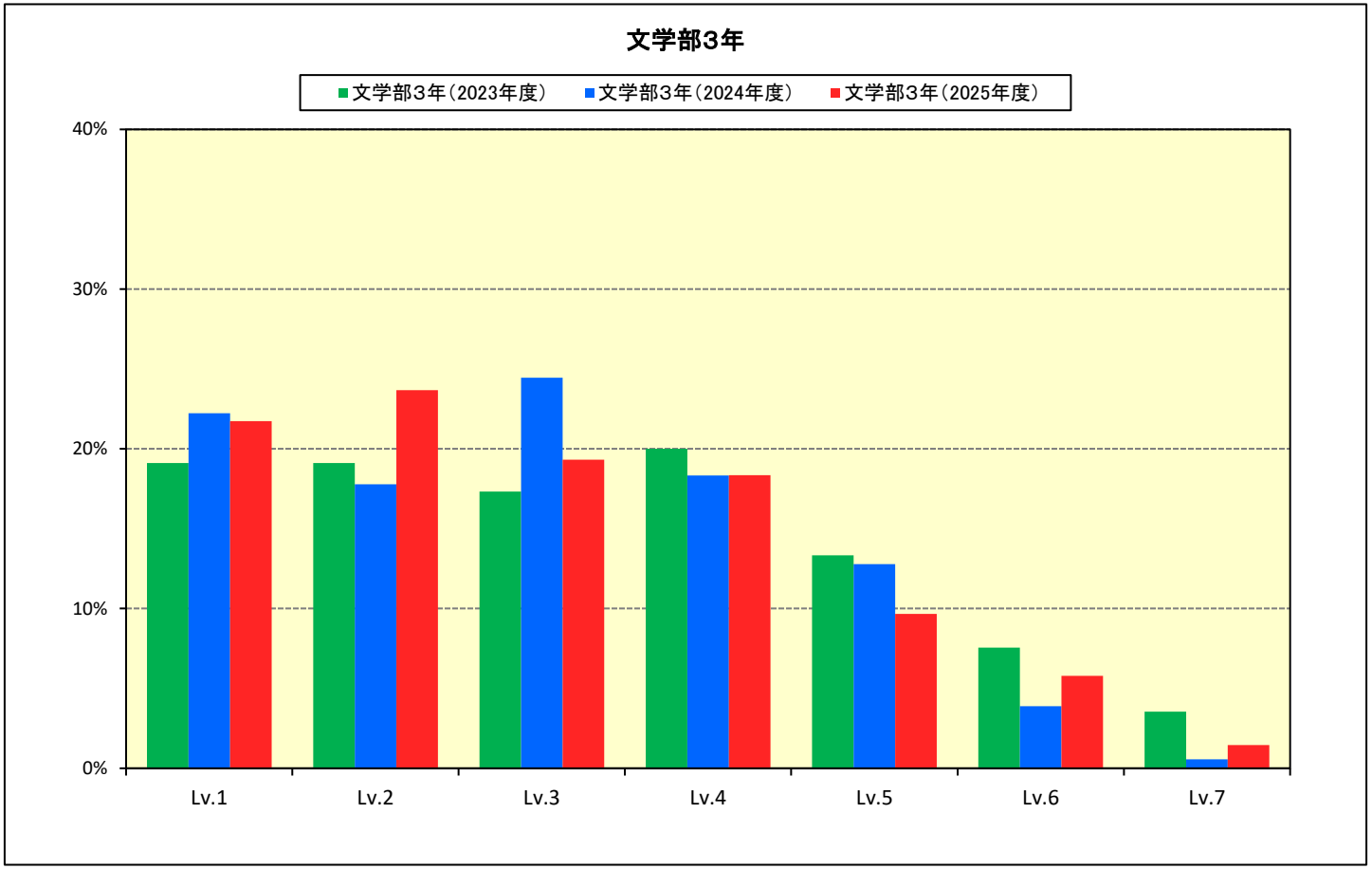
コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

●現代英語学科3年、児童教育専攻3年、幼児保育専攻3年は、2024年度のスコアを上回る。
●文学部3年、文化交流学科3年は、2024年度のスコアを下回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

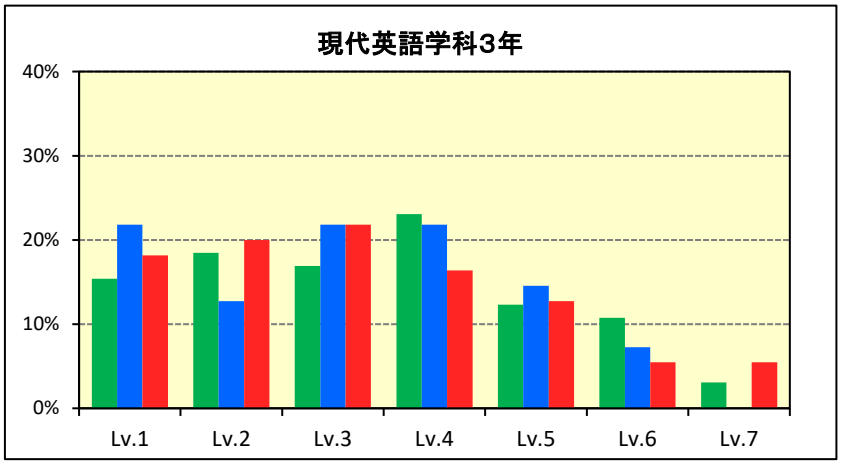
コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）①



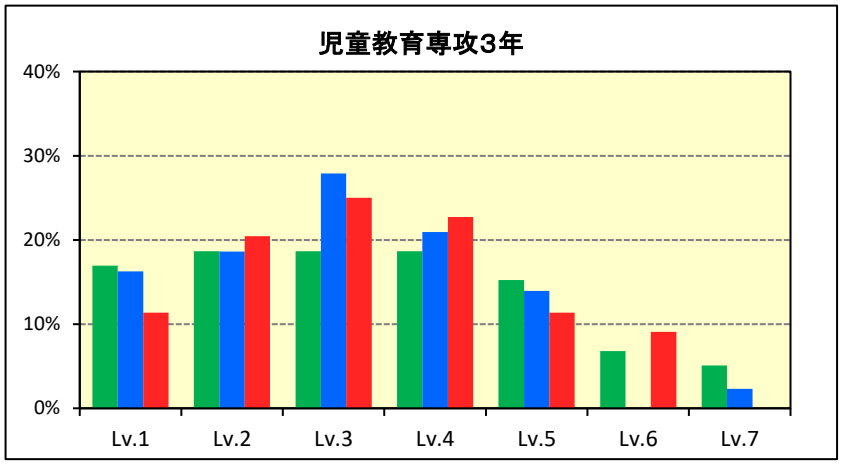
2024年度に比べて、レベル3、レベル5の割合が小さく、レベル2の割合が大きい。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）②

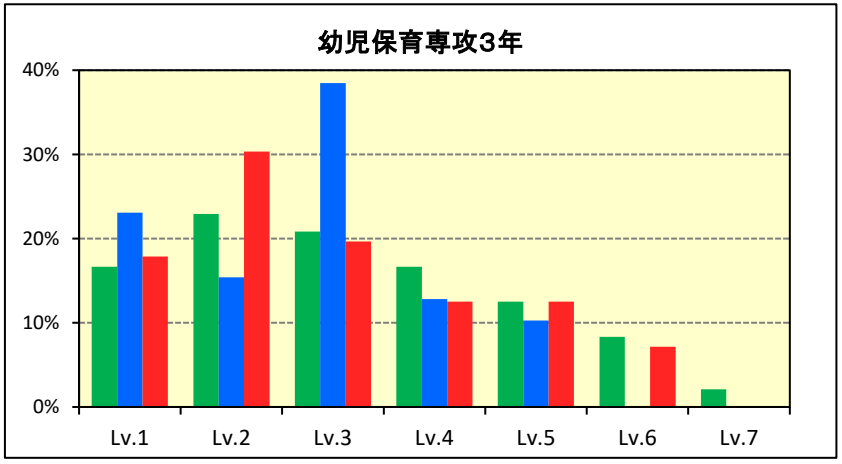




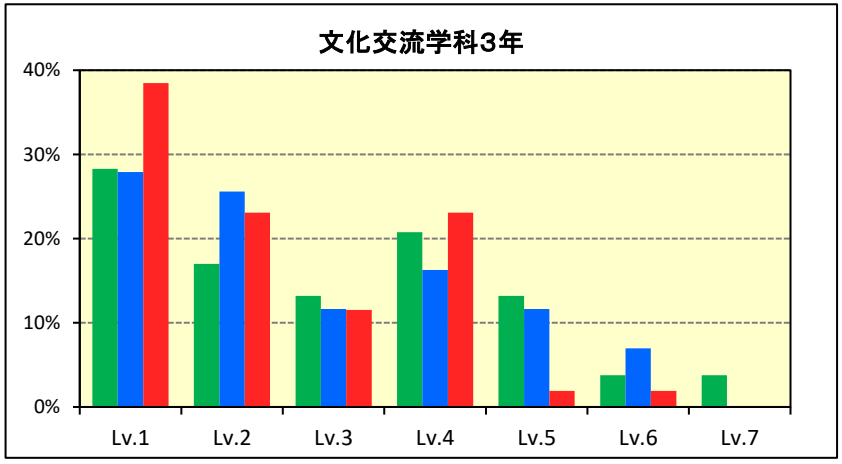
2024年度に比べて、レベル1、レベル4の割合が小さく、レベル2、レベル7の割合が大きい。



2024年度に比べて、レベル1の割合が小さく、レベル6の割合が大きい。



2024年度に比べて、レベル1、レベル3の割合が小さく、レベル2、レベル6の割合が大きい。

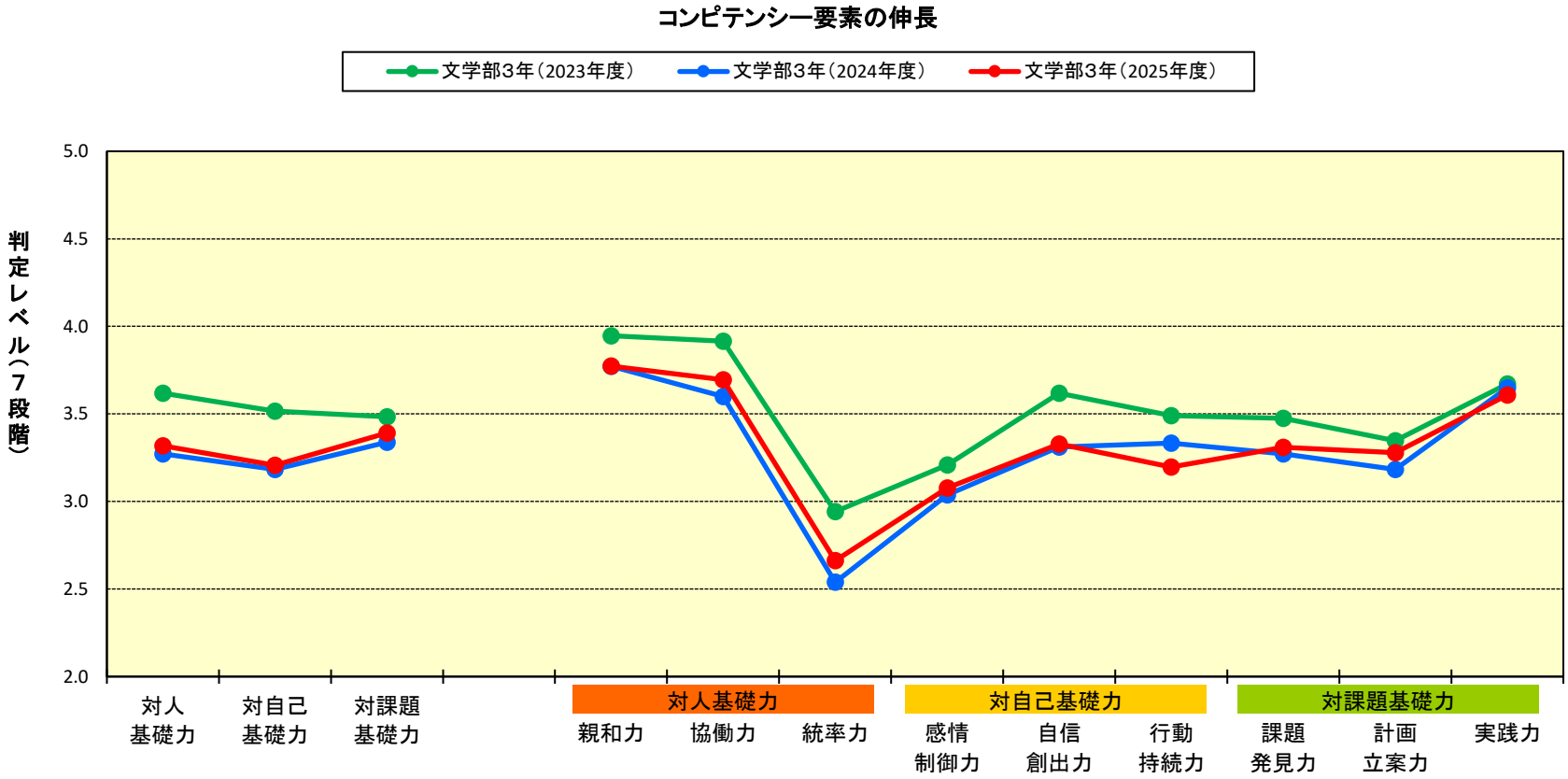


2024年度に比べて、レベル5～6のボリュームが小さく、レベル1、レベル4の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

【文学部3年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力は、2024年度のスコアを上回る。
一方、行動持続力、実践力は、2024年度のスコアを下回る。

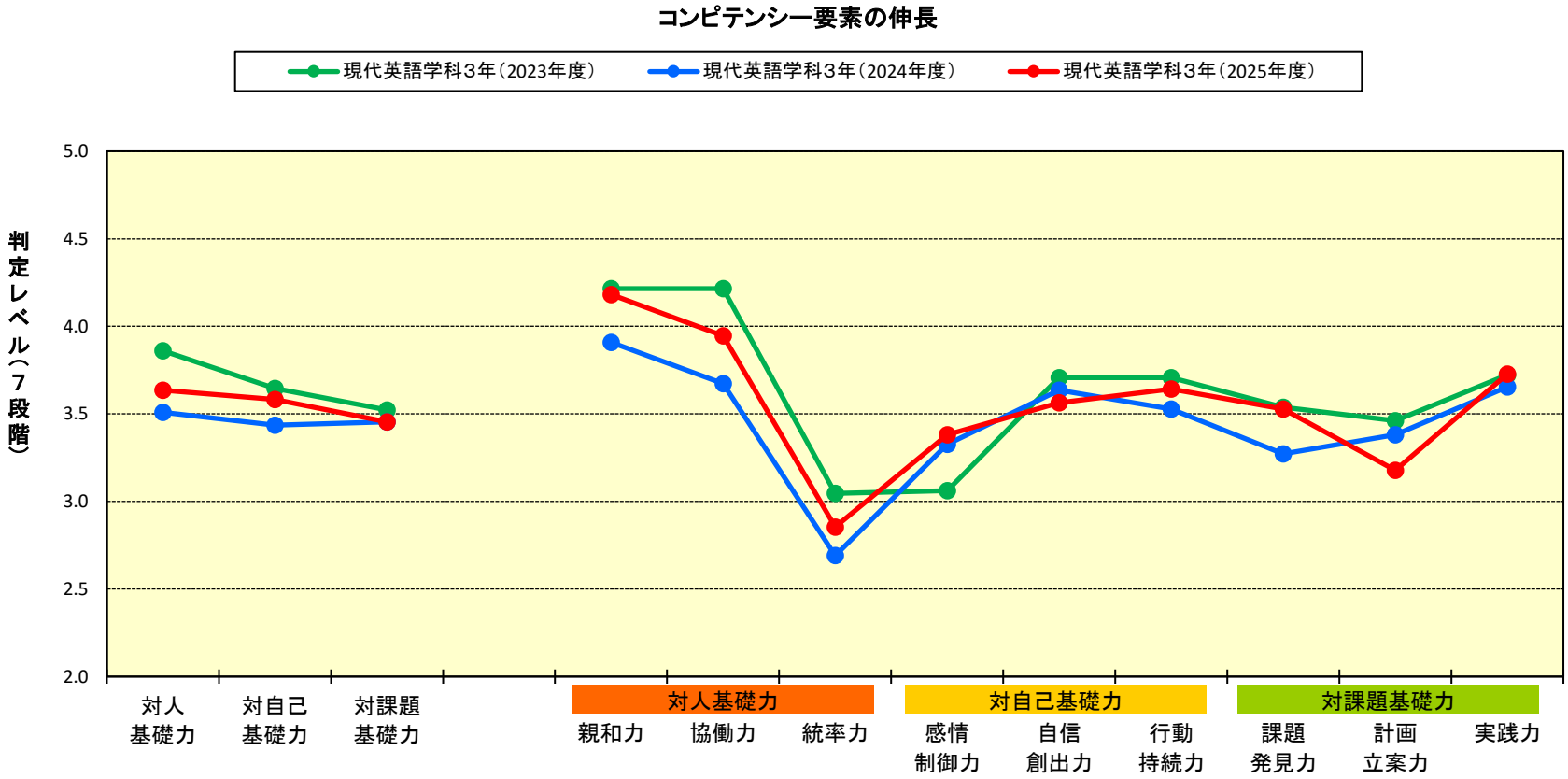


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）②

【現代英語学科３年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、実践力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、自信創出力、計画立案力は、2024年度のスコアを下回る。

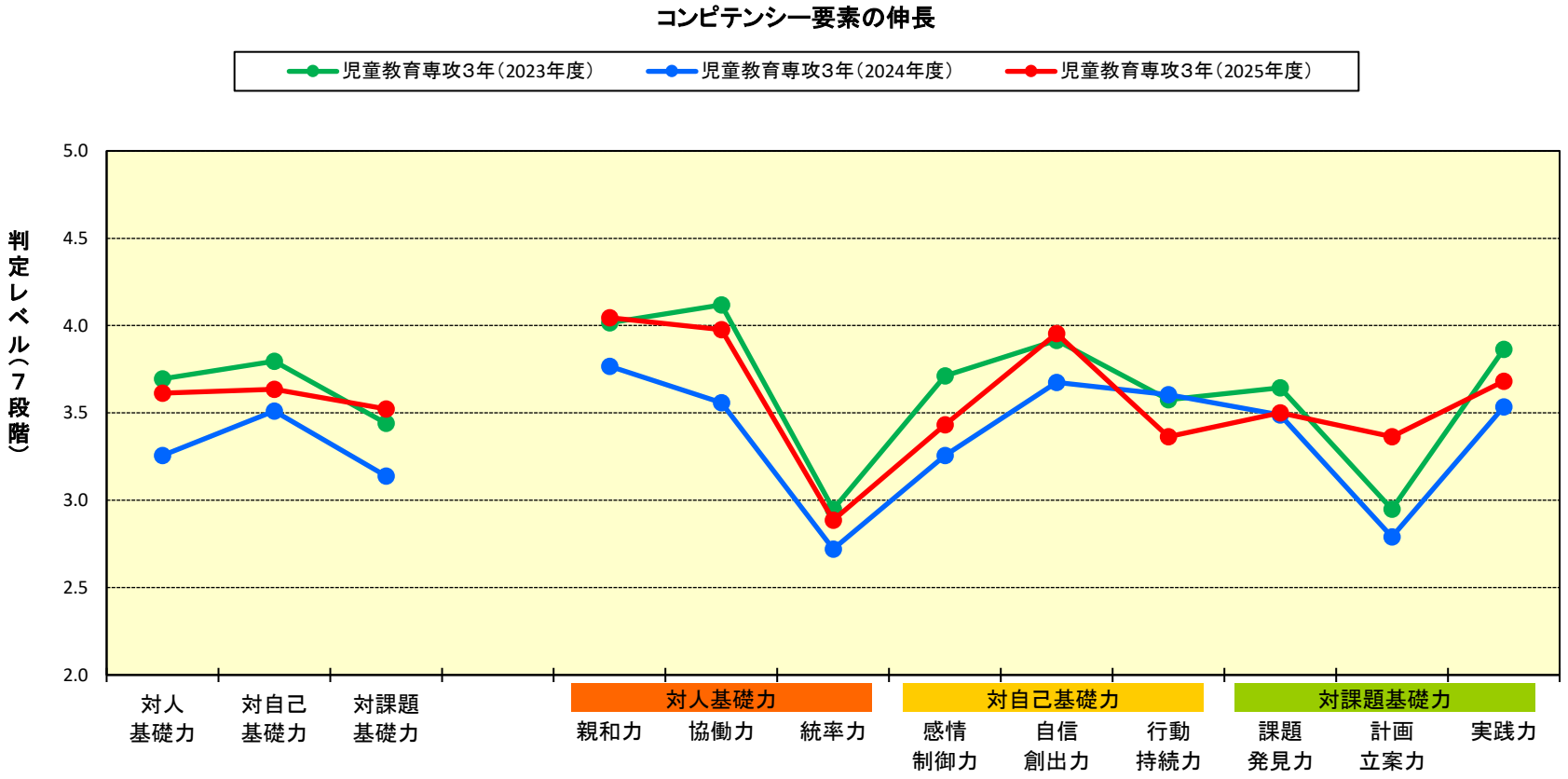


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）③

【児童教育専攻3年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2024年度のスコアを上回る。

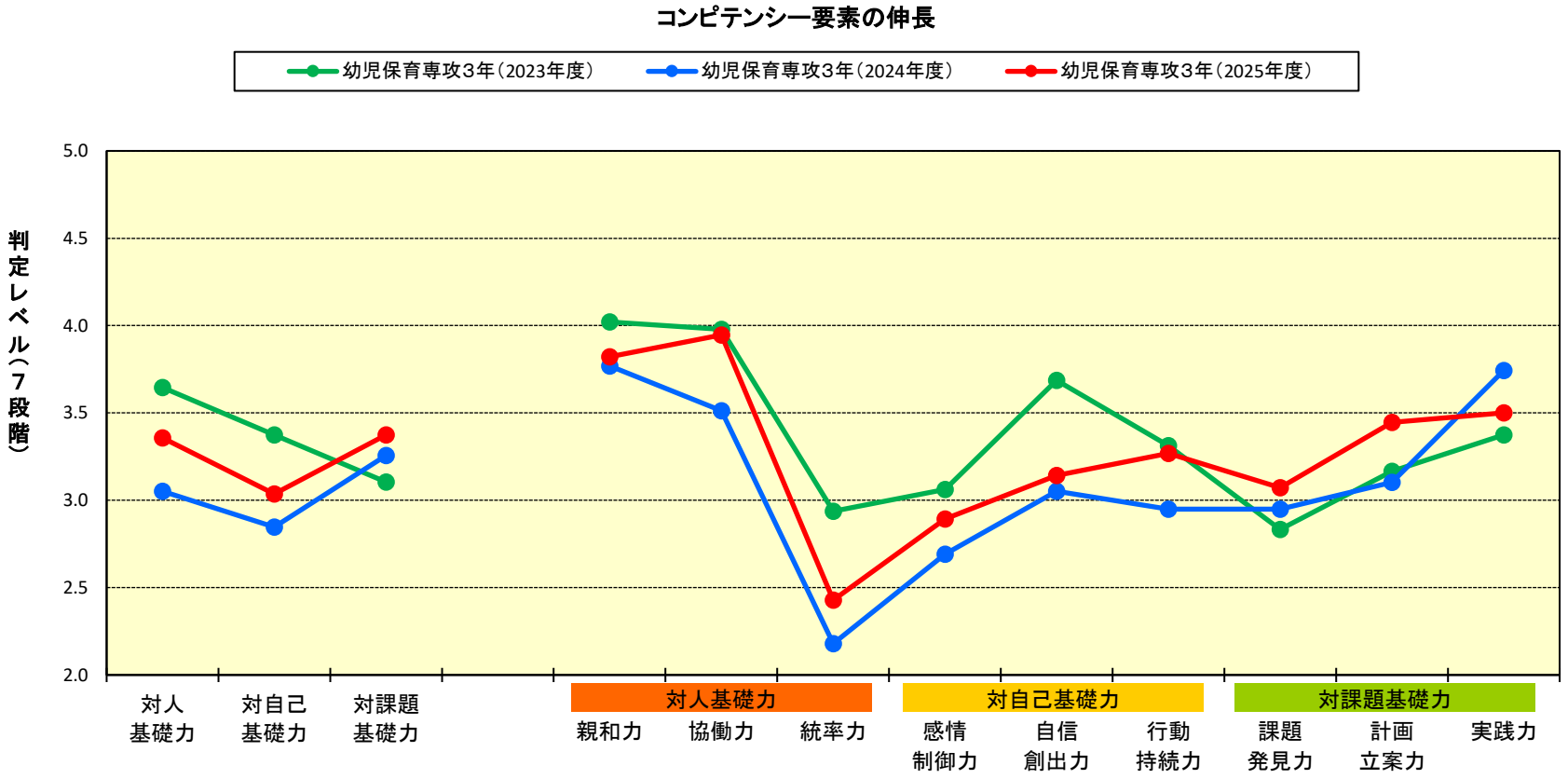
一方、行動持続力は、2024年度のスコアを下回る。



コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）④

【幼児保育専攻3年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力は、2024年度のスコアを上回る。
一方、実践力は、2024年度のスコアを下回る。

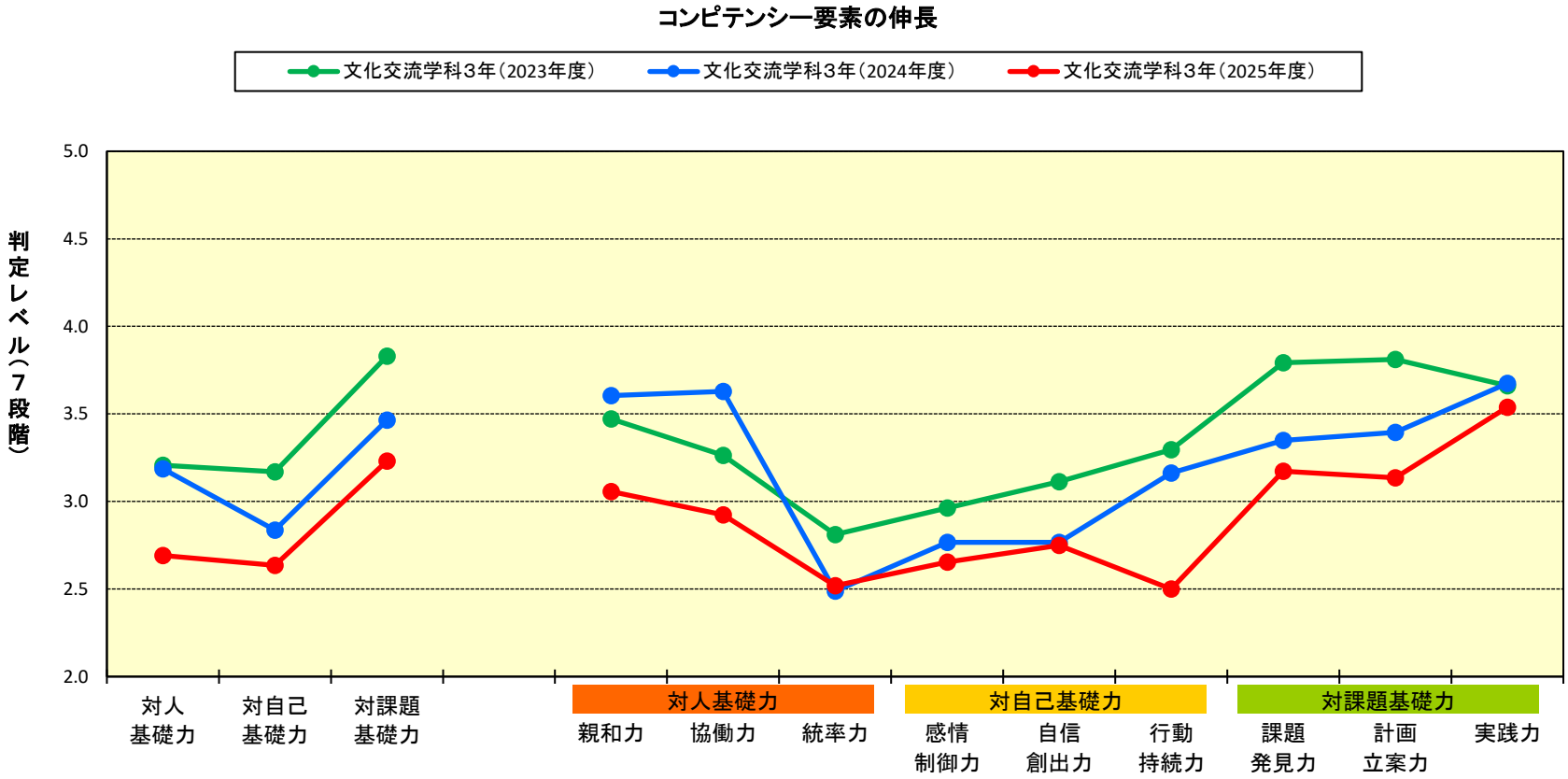


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【文化交流学科３年】

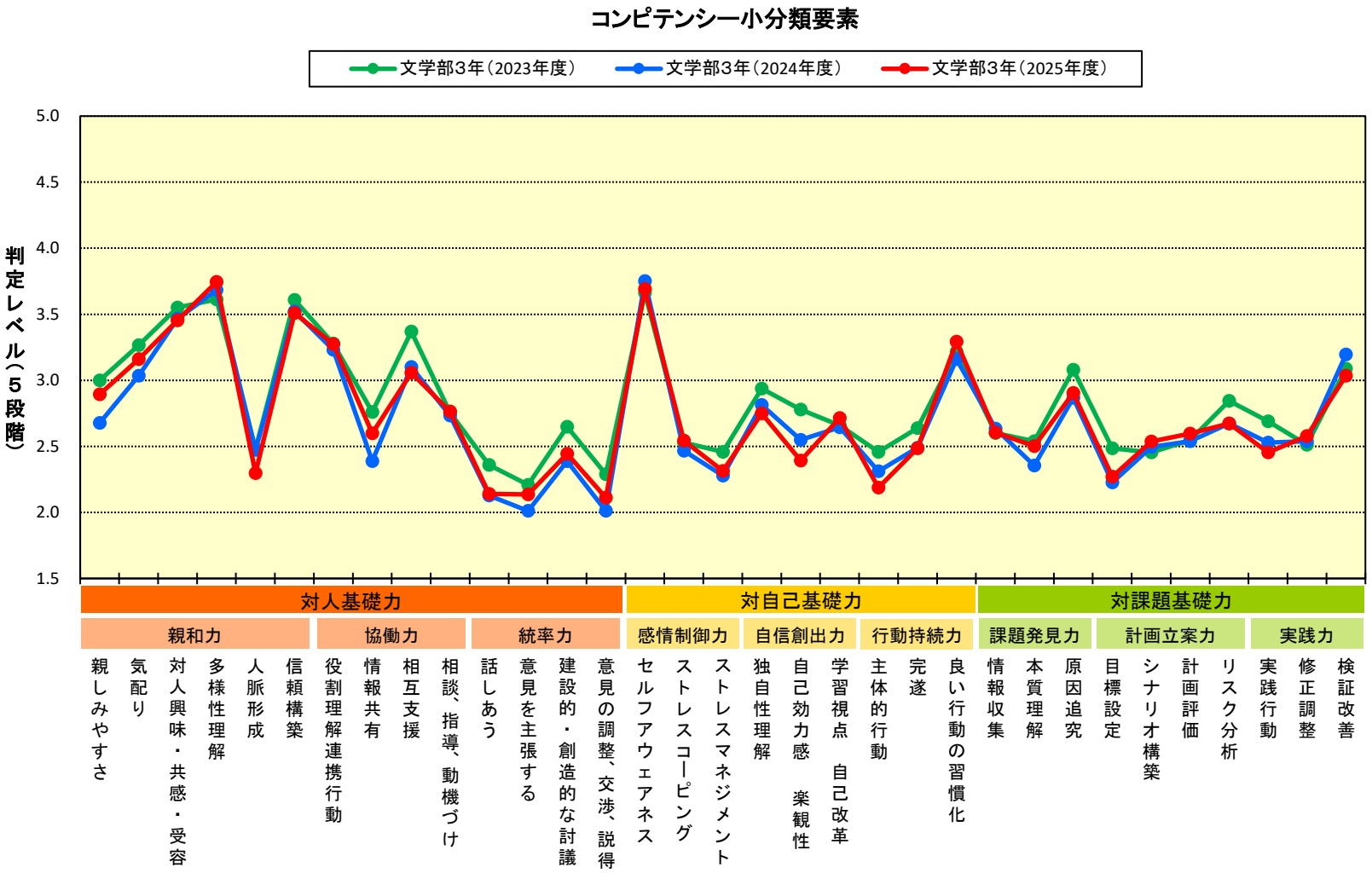
統率力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2024年度のスコアを下回る。



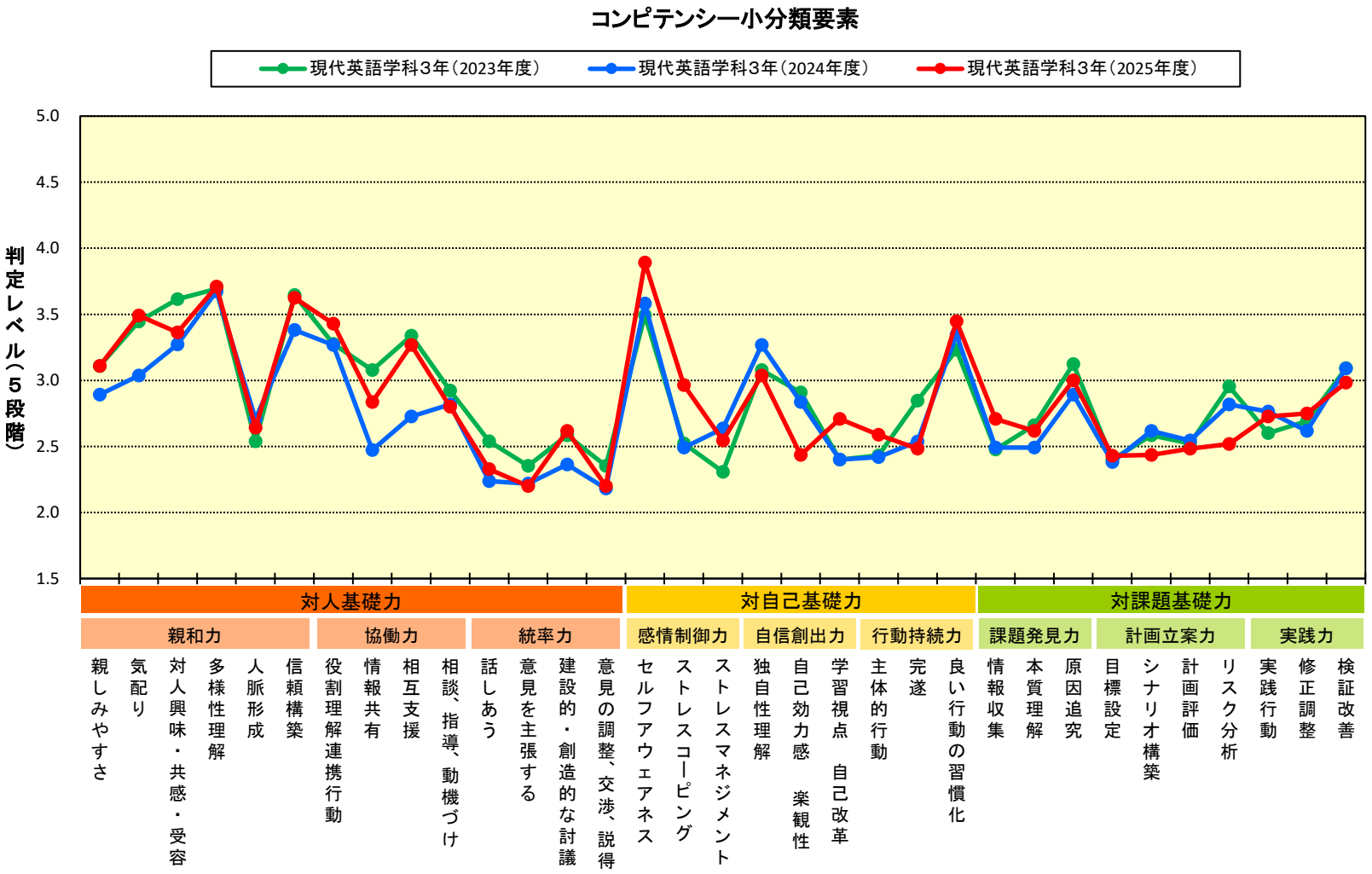
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

【文学部3年】



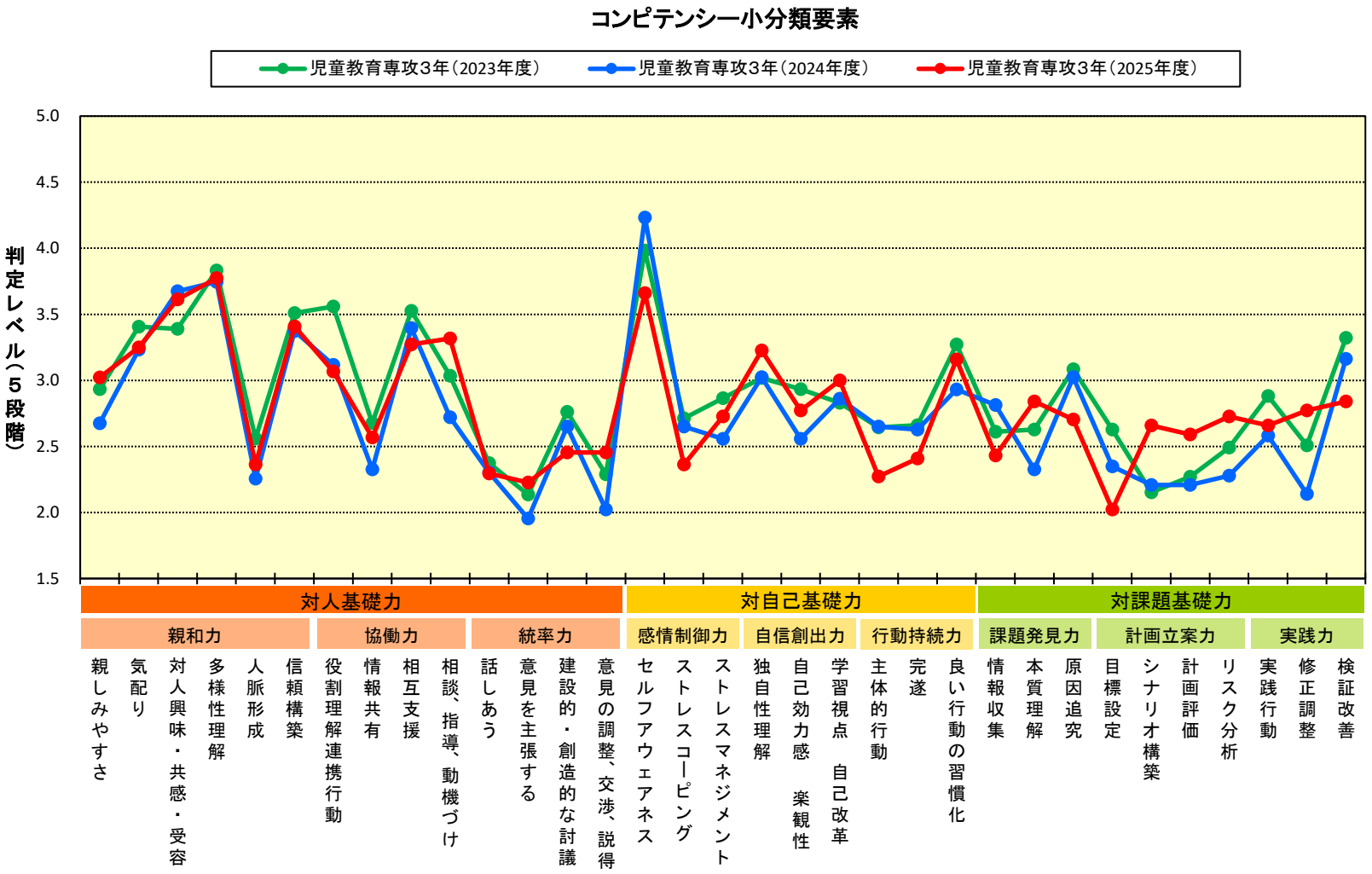
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）②

【現代英語学科３年】



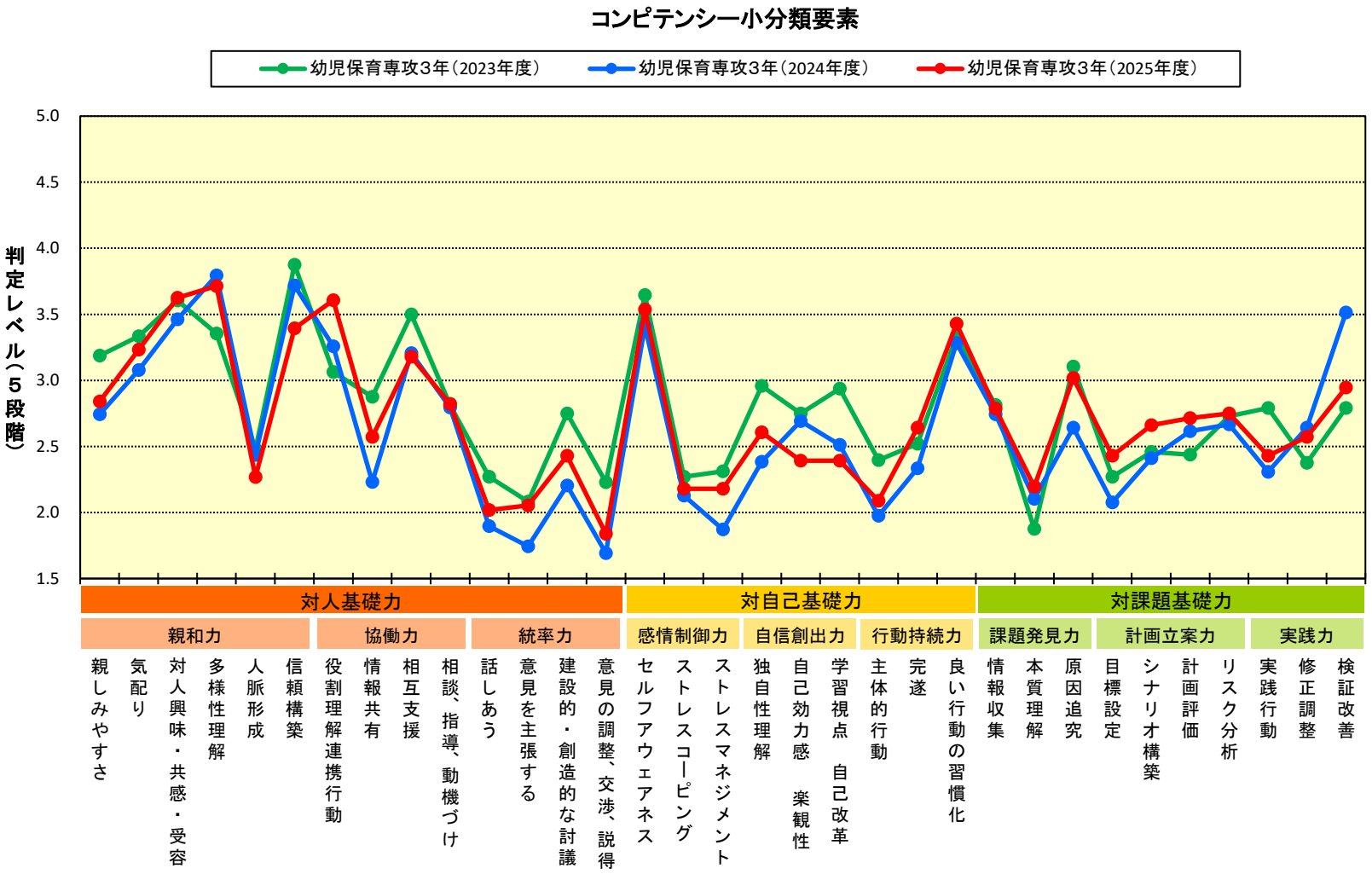
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）③

【児童教育専攻3年】



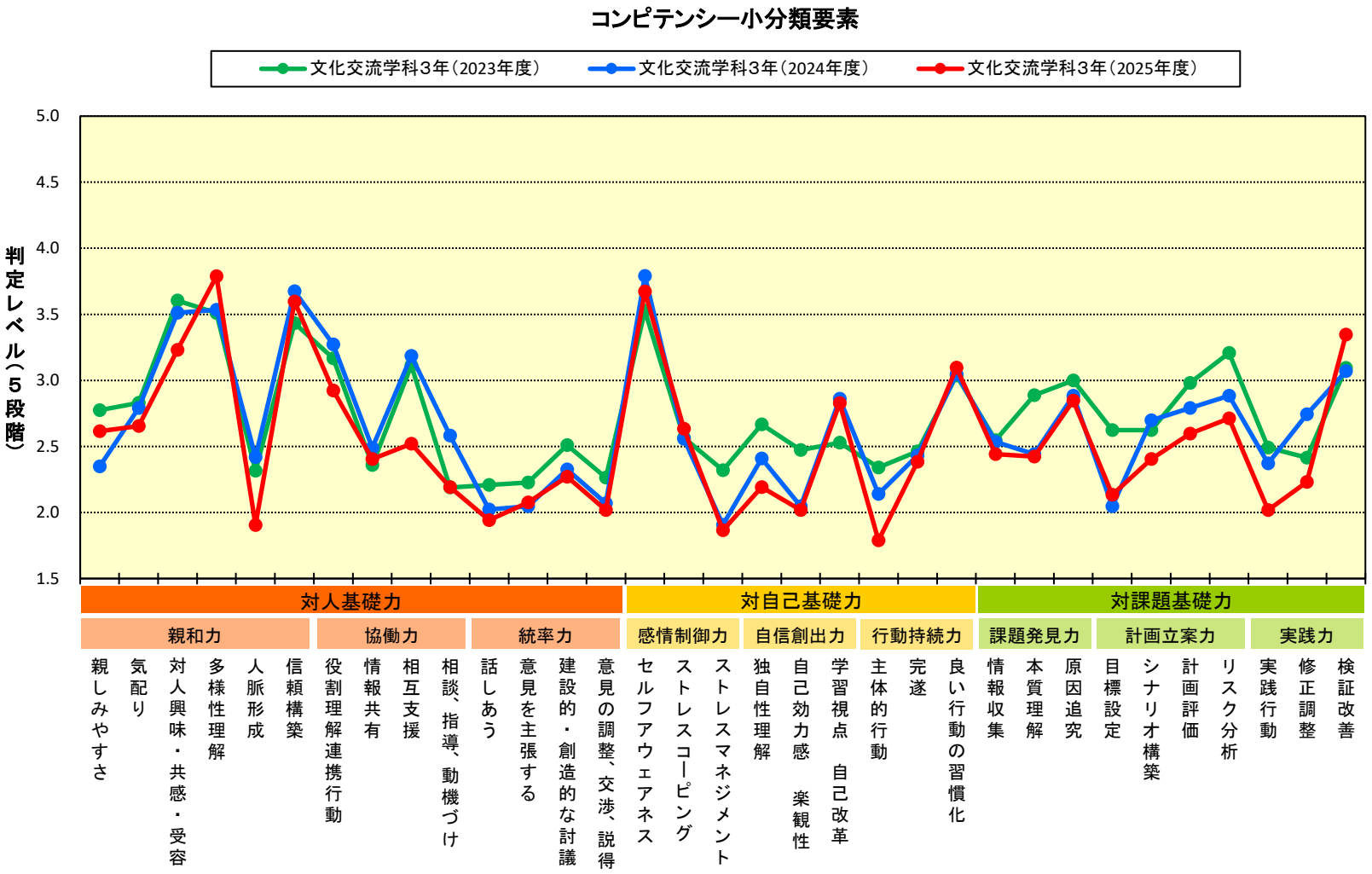
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）④

【幼児保育専攻3年】



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【文化交流学科３年】



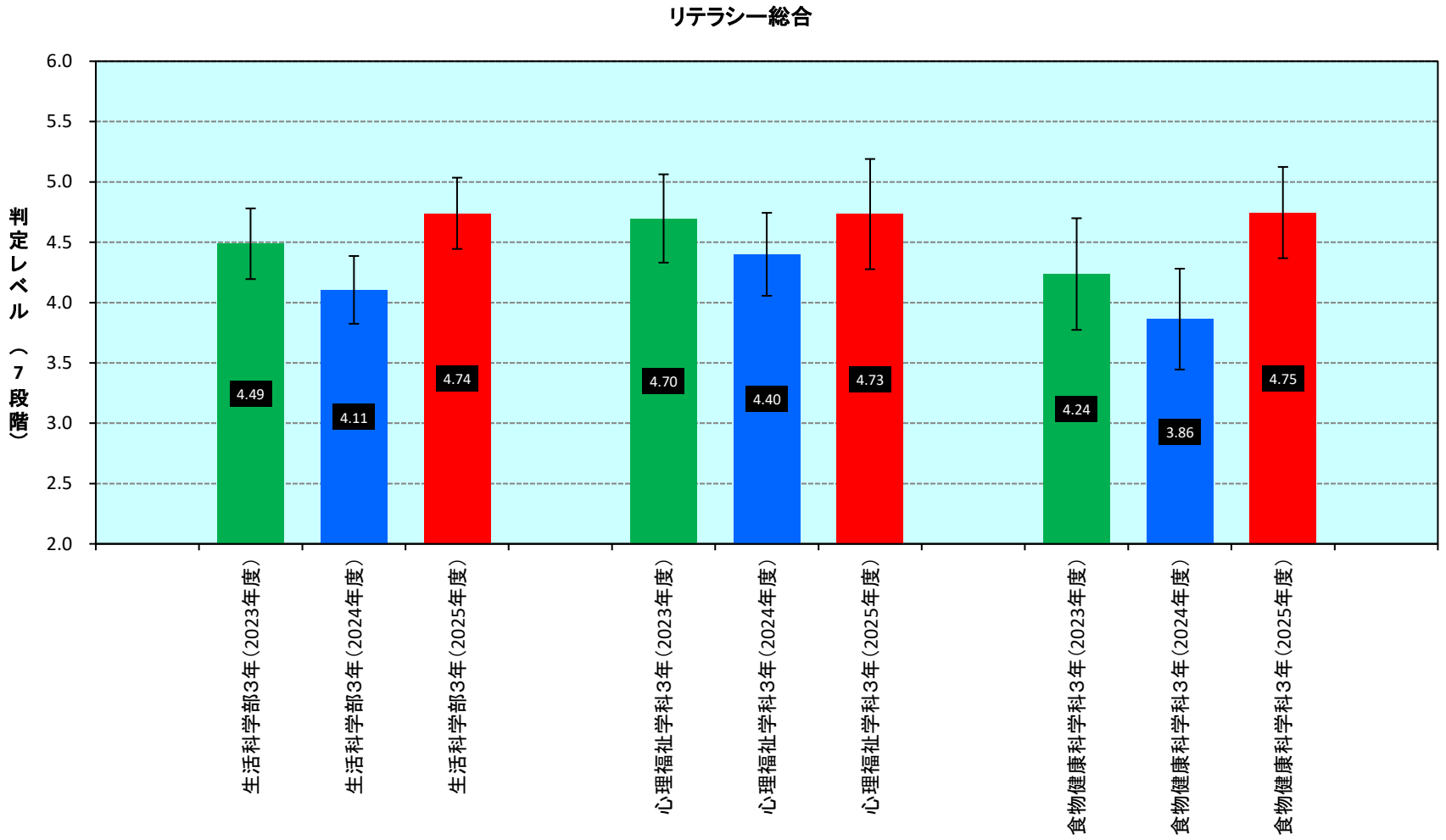
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.3-3
3年生　過去受験者比較
（生活科学部）

リテラシー総合（過去の受験者との比較）

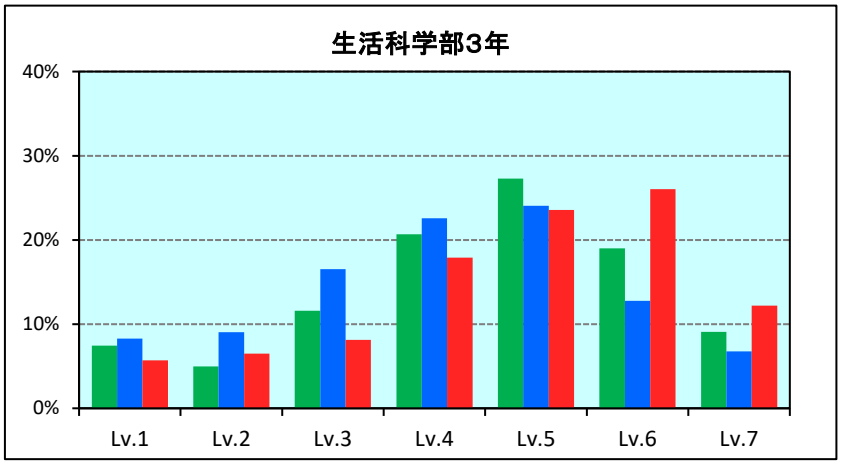
●生活科学部3年、心理福祉学科3年、食物健康科学科3年は、2024年度のスコアを上回る。



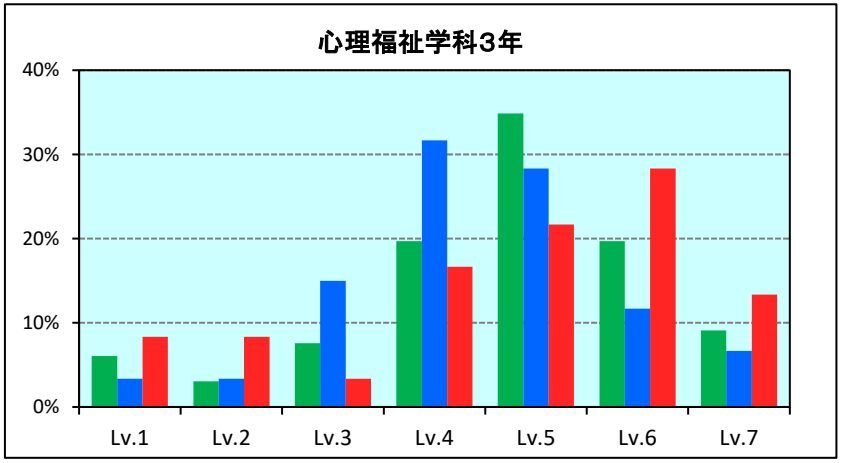
※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）

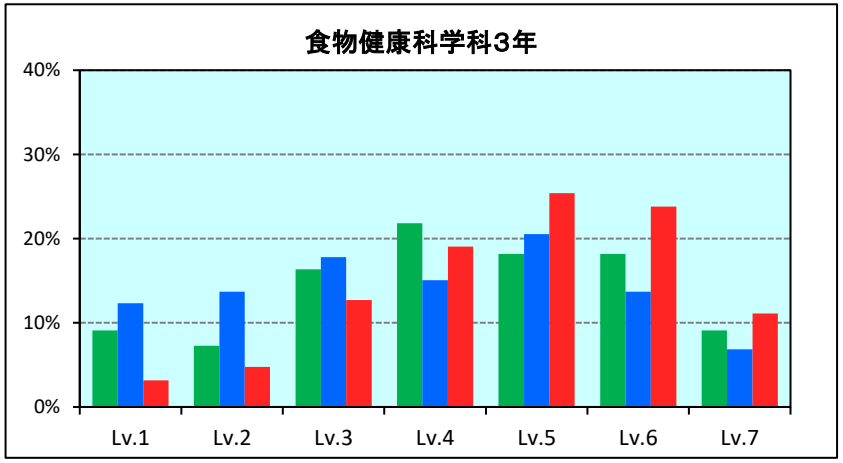




2024年度に比べて、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル6～7のボリュームが大きい。



2024年度に比べて、レベル3～5のボリュームが小さく、レベル1～2、レベル6～7のボリュームが大きい。



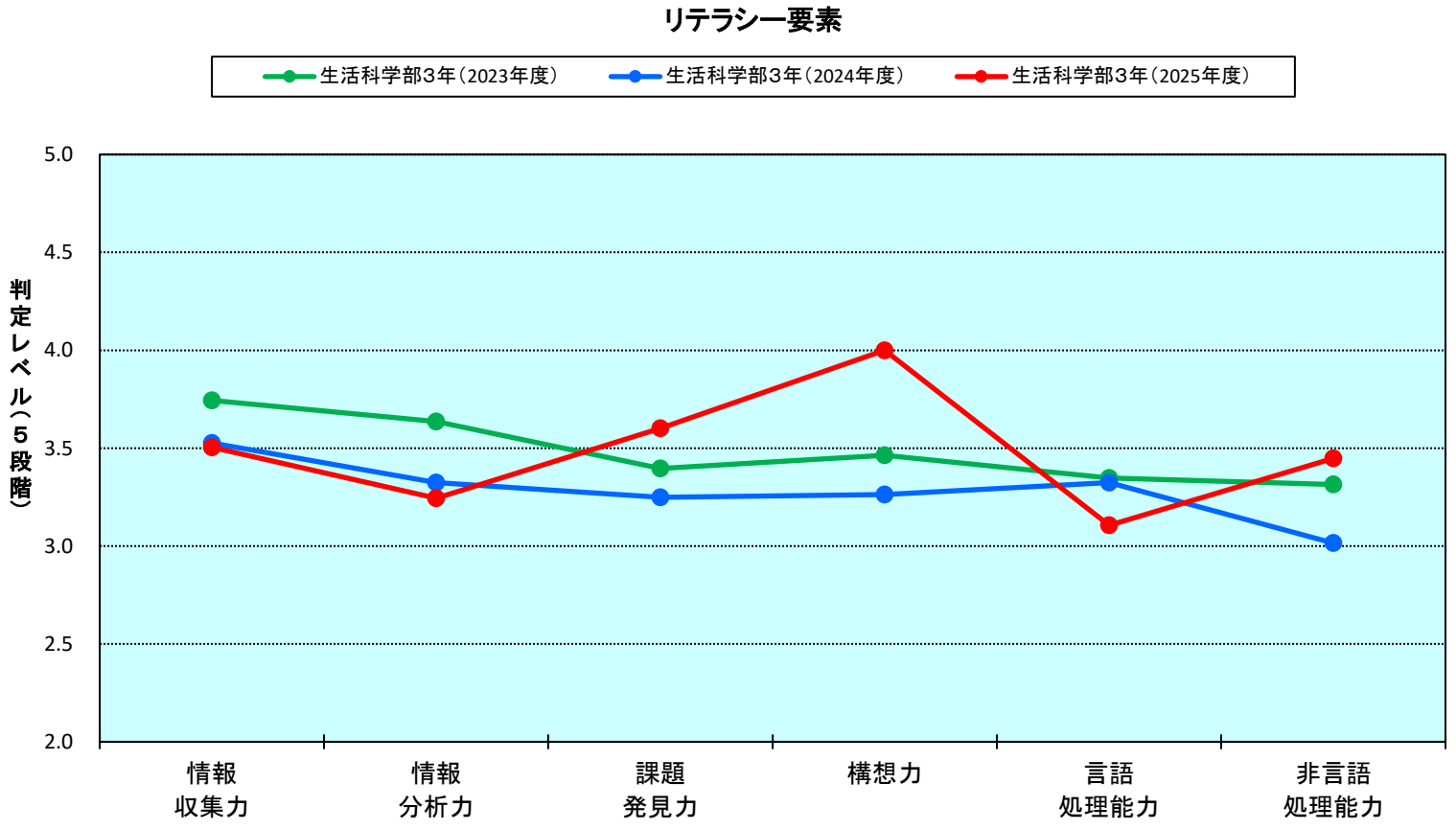
2024年度に比べて、レベル1～3のボリュームが小さく、レベル4～7のボリュームが大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【生活科学部3年】

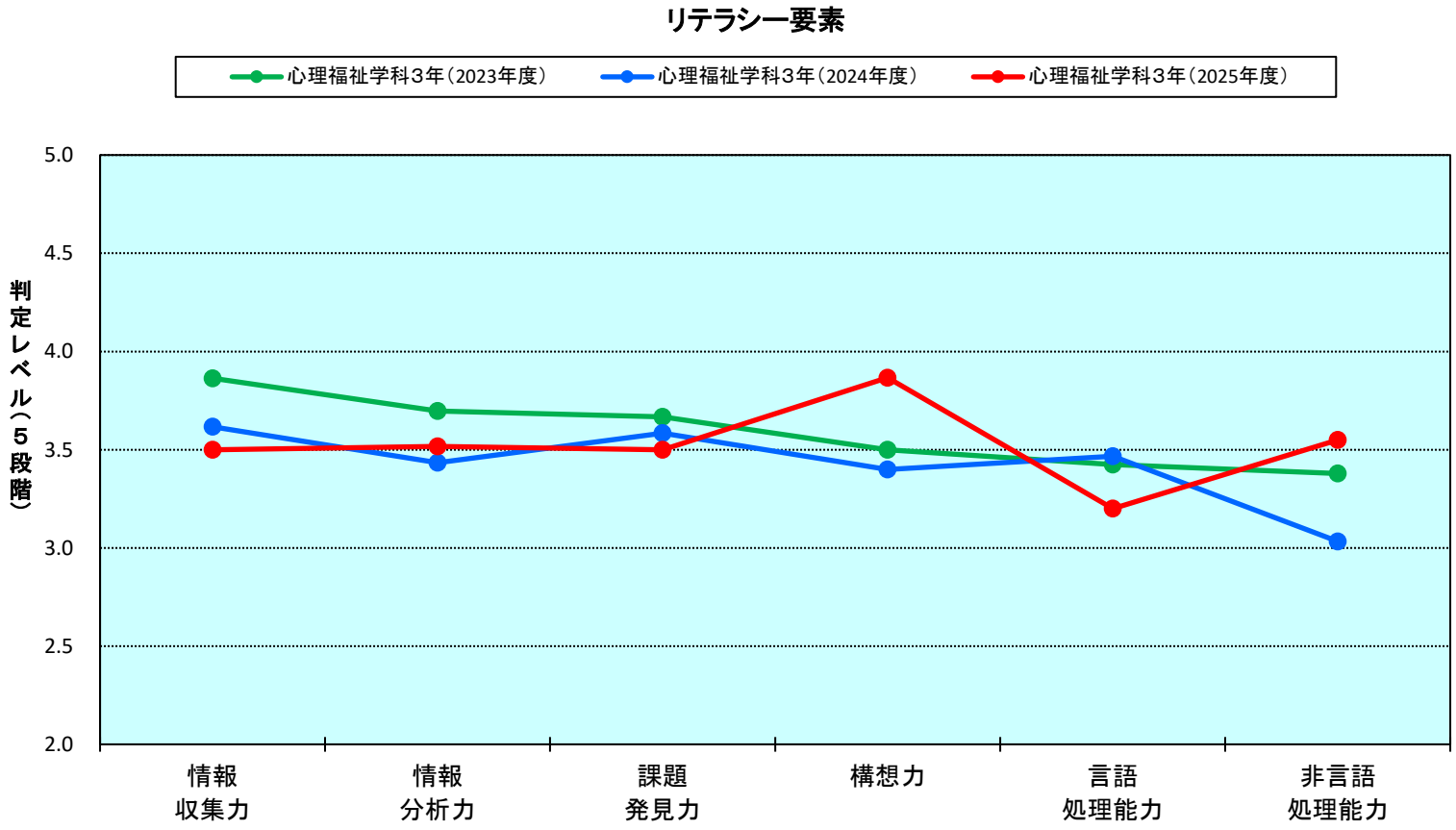
課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、言語処理能力は、2024年度のスコアを下回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【心理福祉学科３年】
情報分析力、構想力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。
一方、情報収集力、課題発見力、言語処理能力は、2024年度のスコアを下回る。

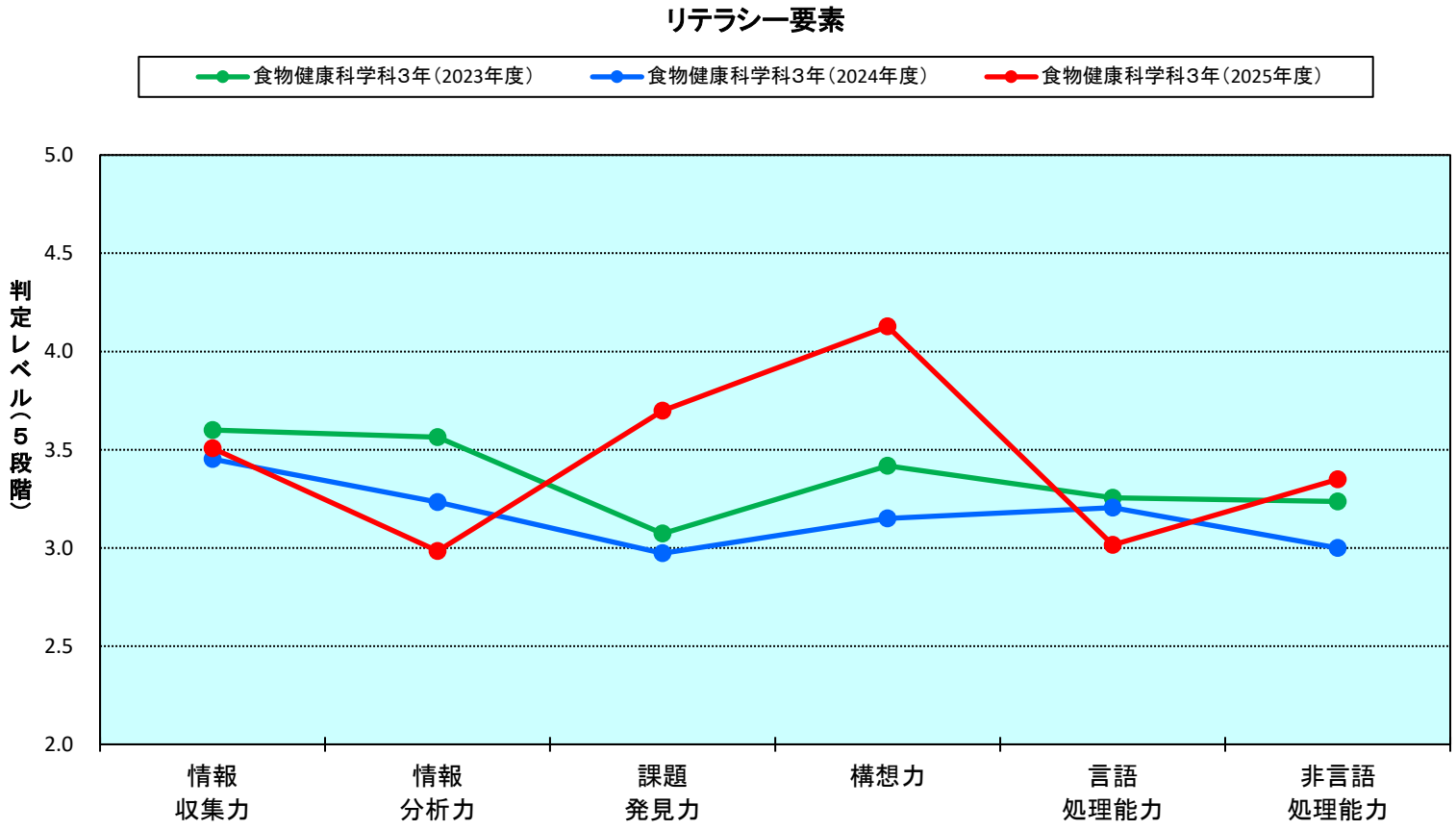


リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

【食物健康科学科３年】

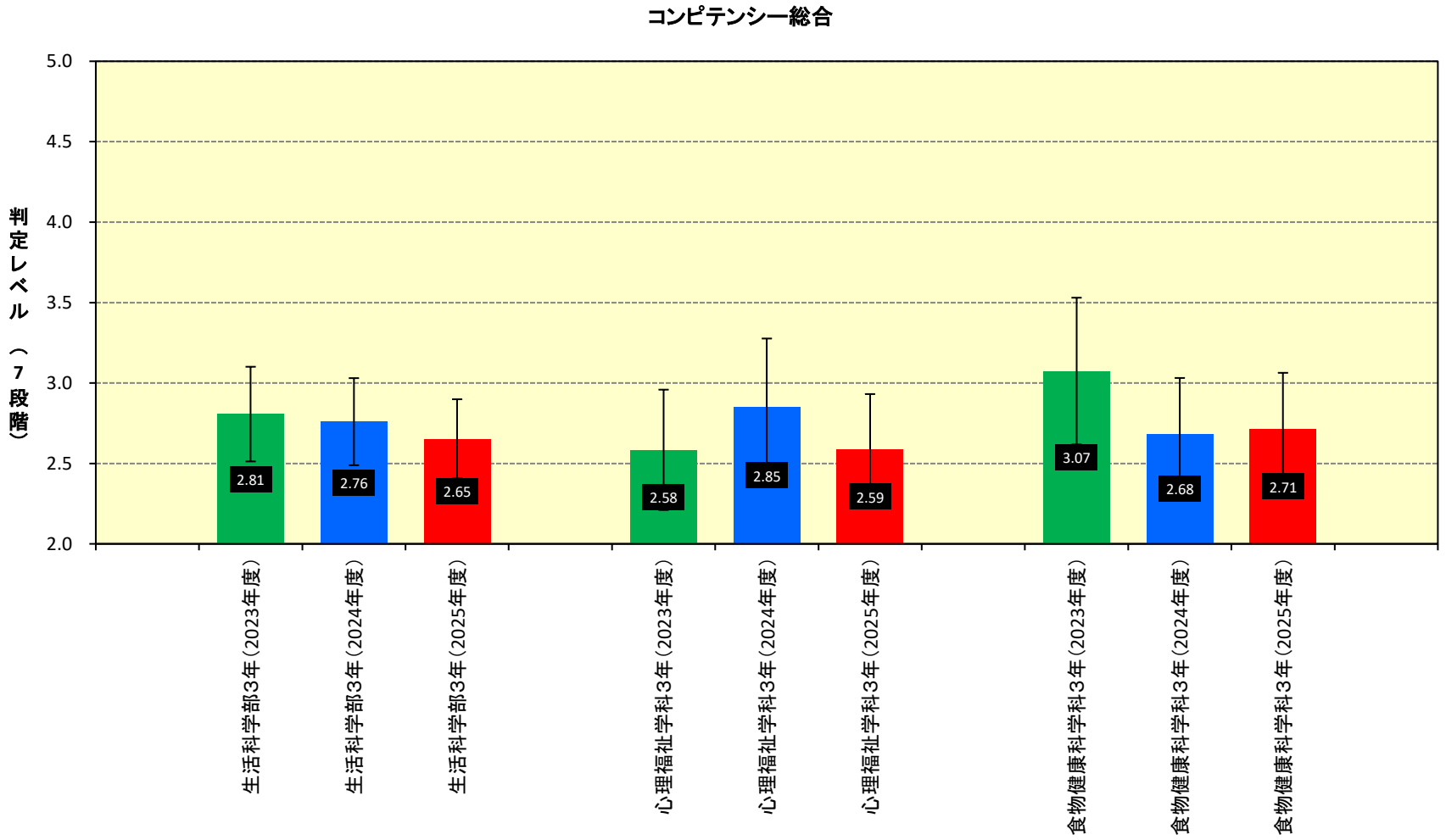
情報収集力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、情報分析力、言語処理能力は、2024年度のスコアを下回る。



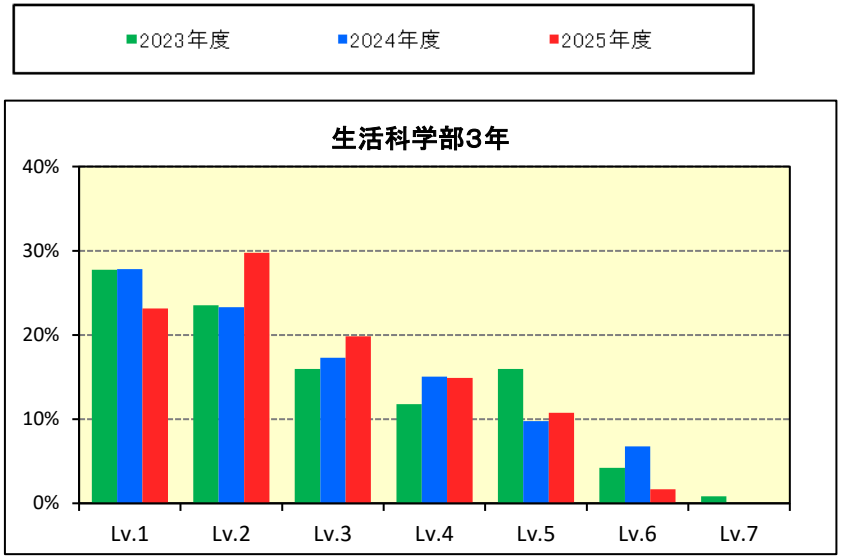
コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

●食物健康科学科3年は、2024年度のスコアを上回る。
●生活科学部3年、心理福祉学科3年は、2024年度のスコアを下回る。

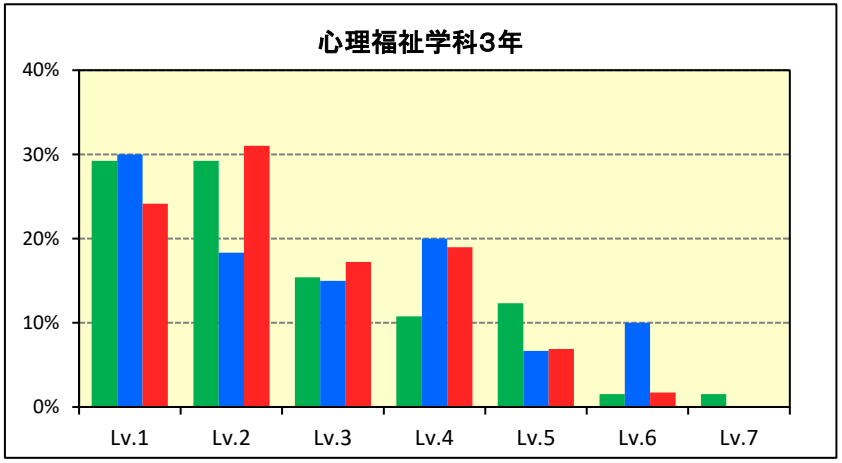


※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

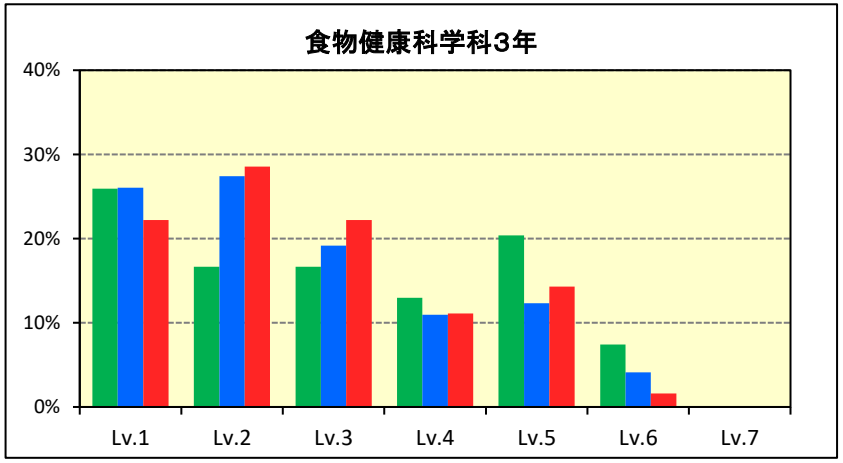
コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）



2024年度に比べて、レベル1、レベル6の割合が小さく、レベル2の割合が大きい。



2024年度に比べて、レベル1、レベル6の割合が小さく、レベル2の割合が大きい。



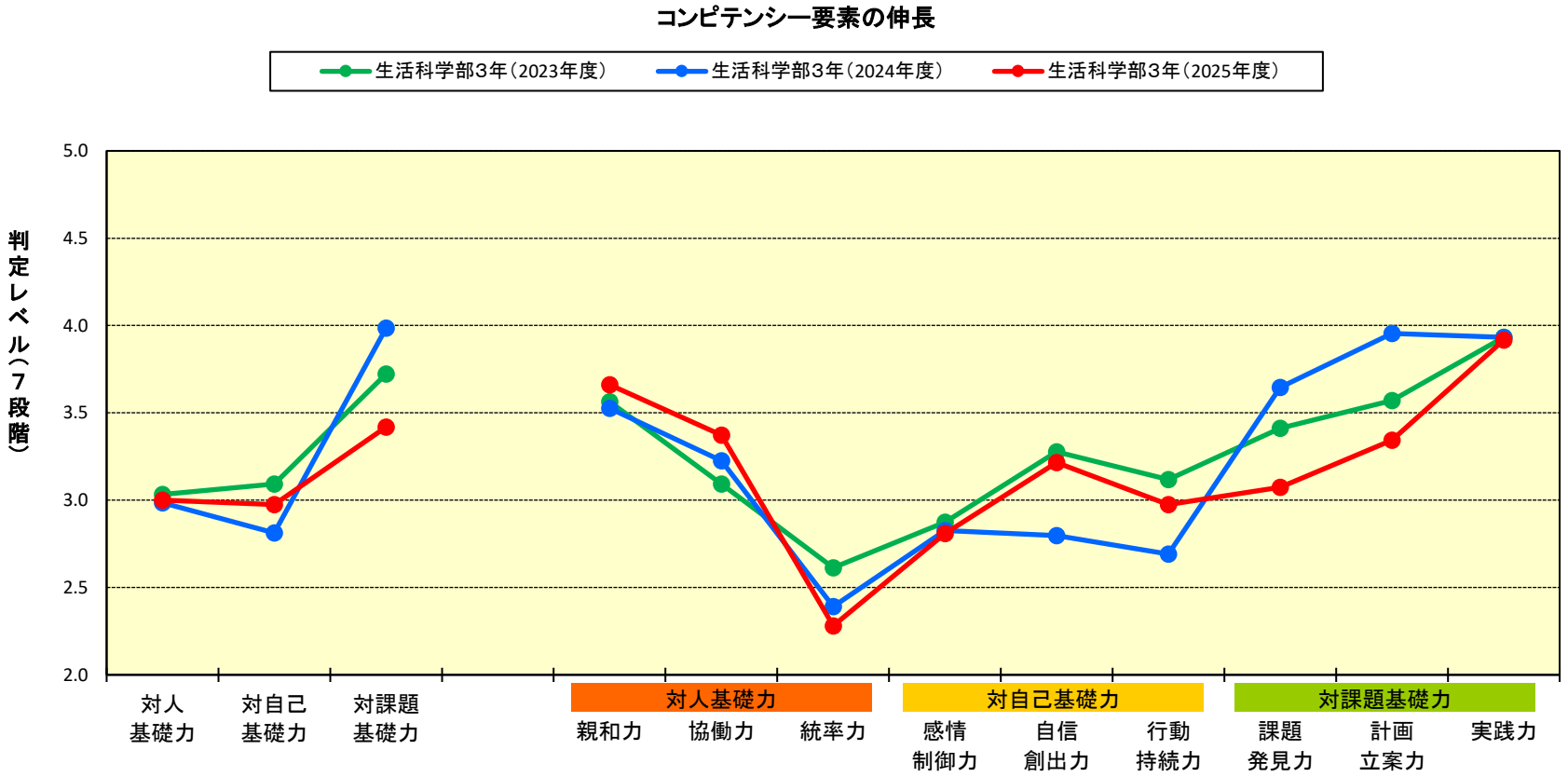
2024年度に比べて、レベル1の割合が小さく、レベル3の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

【生活科学部3年】

親和力、協働力、自信創出力、行動持続力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、統率力、感情制御力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2024年度のスコアを下回る。

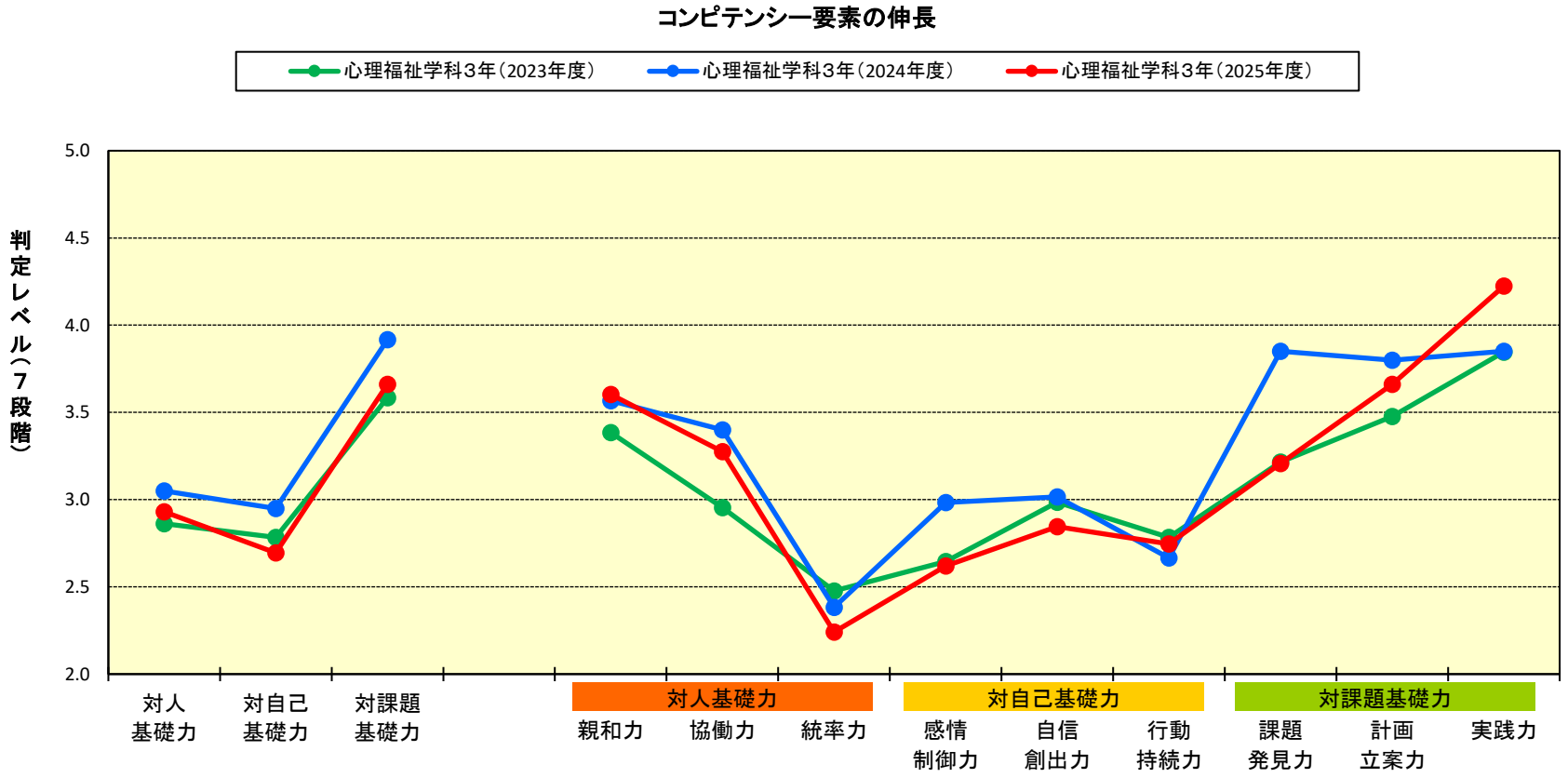


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）②

【心理福祉学科３年】

親和力、行動持続力、実践力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力は、2024年度のスコアを下回る。

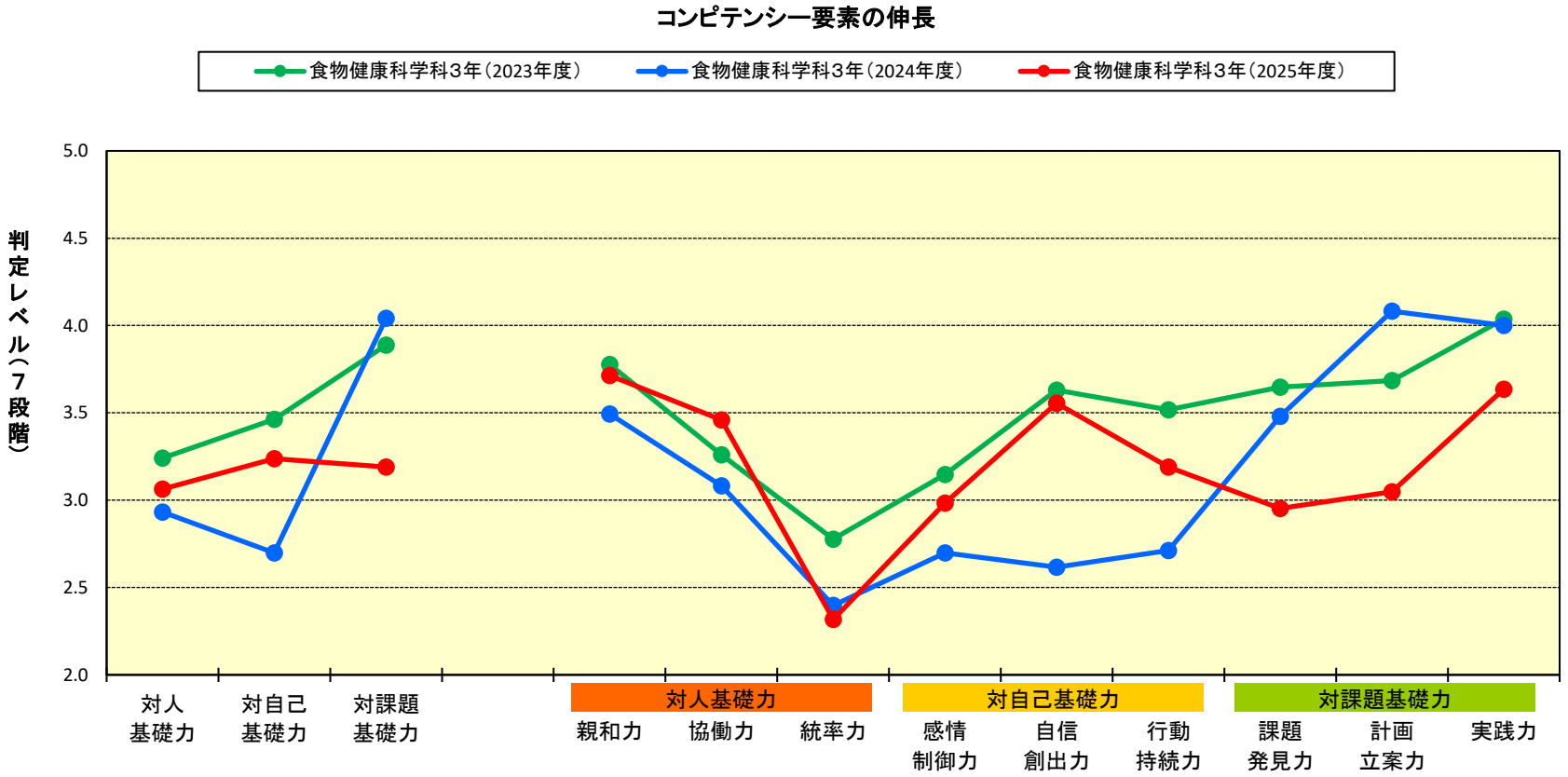


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）③

【食物健康科学科３年】

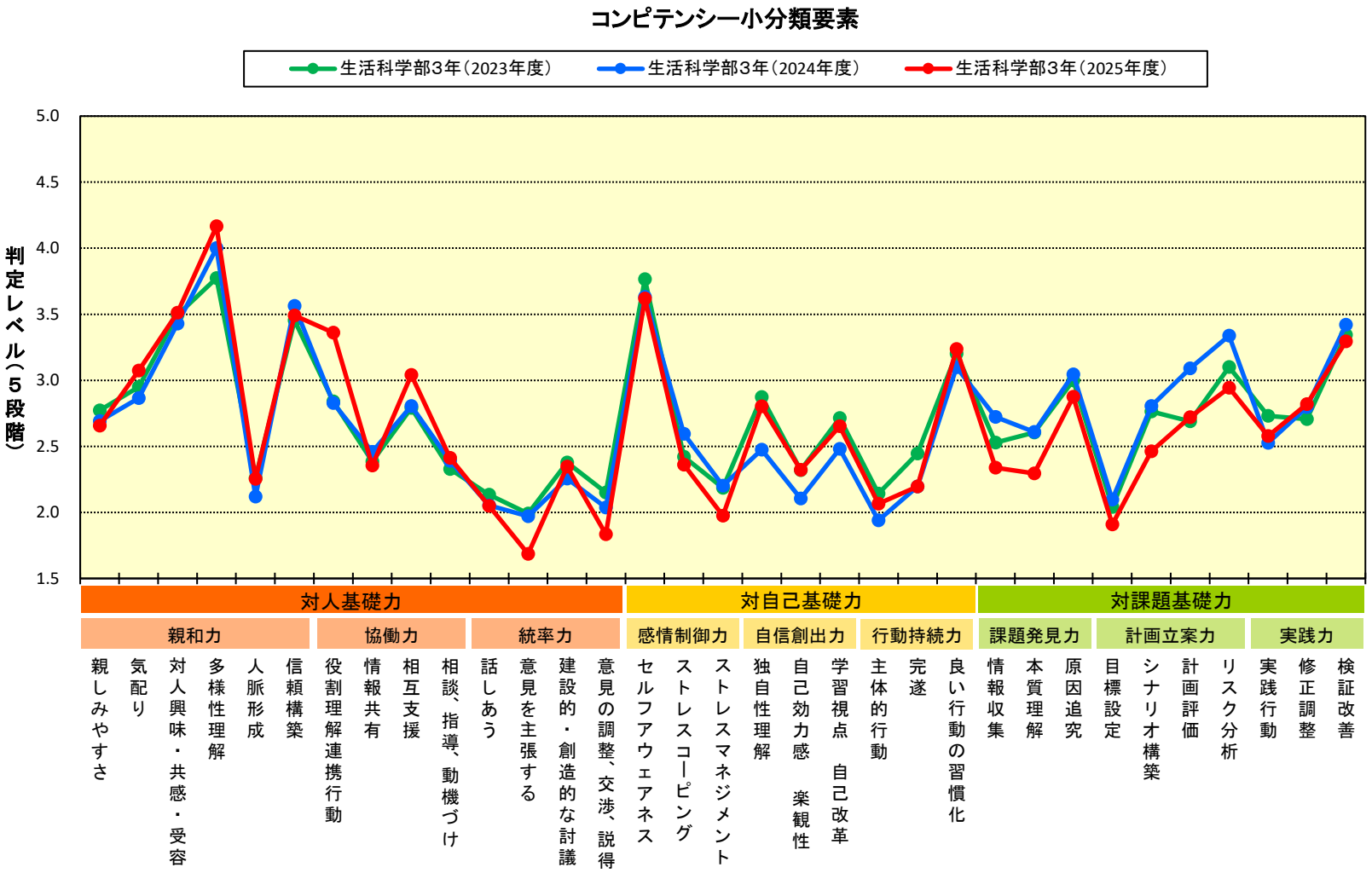
親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、統率力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2024年度のスコアを下回る。



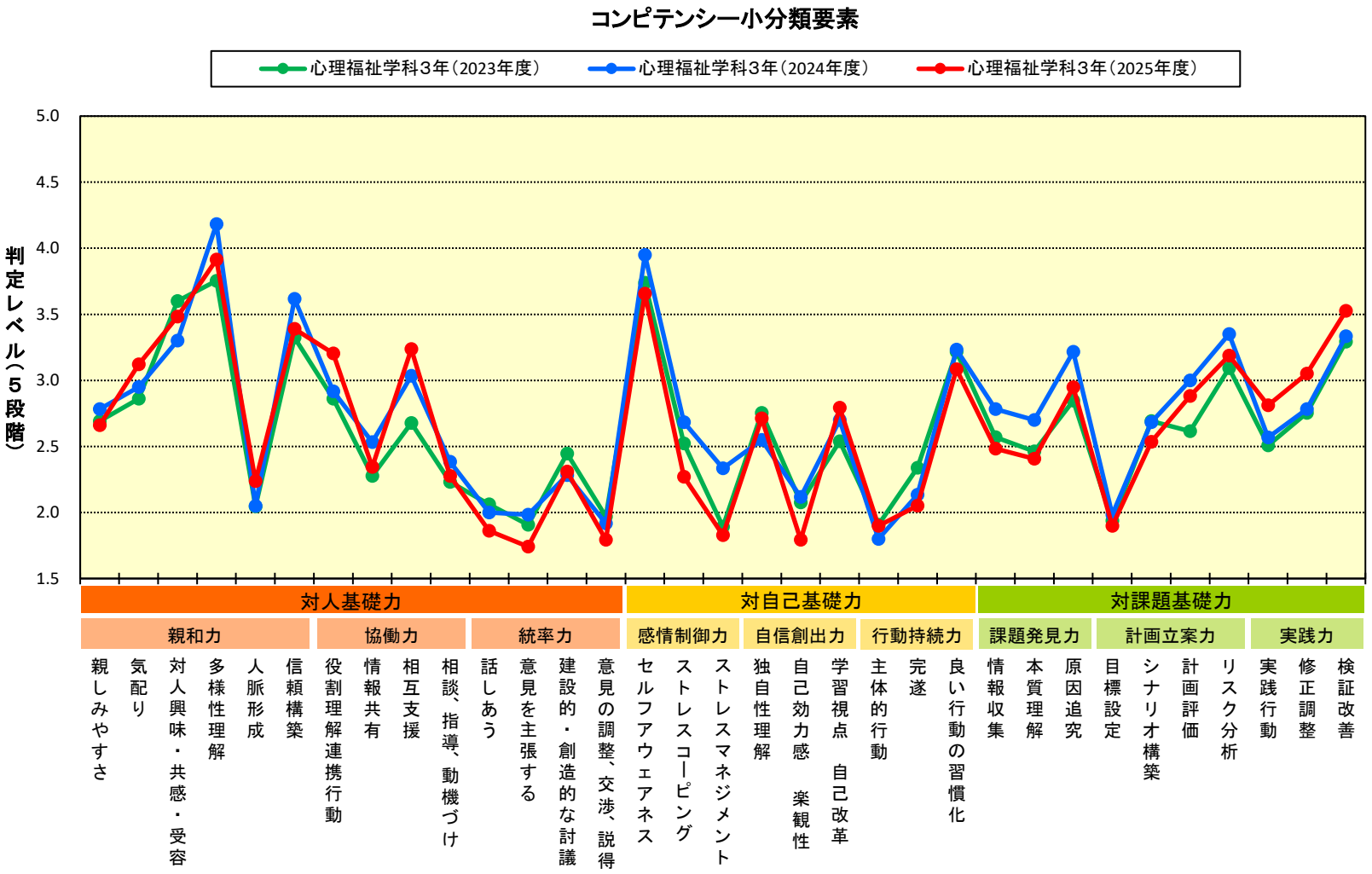
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

【生活科学部3年】



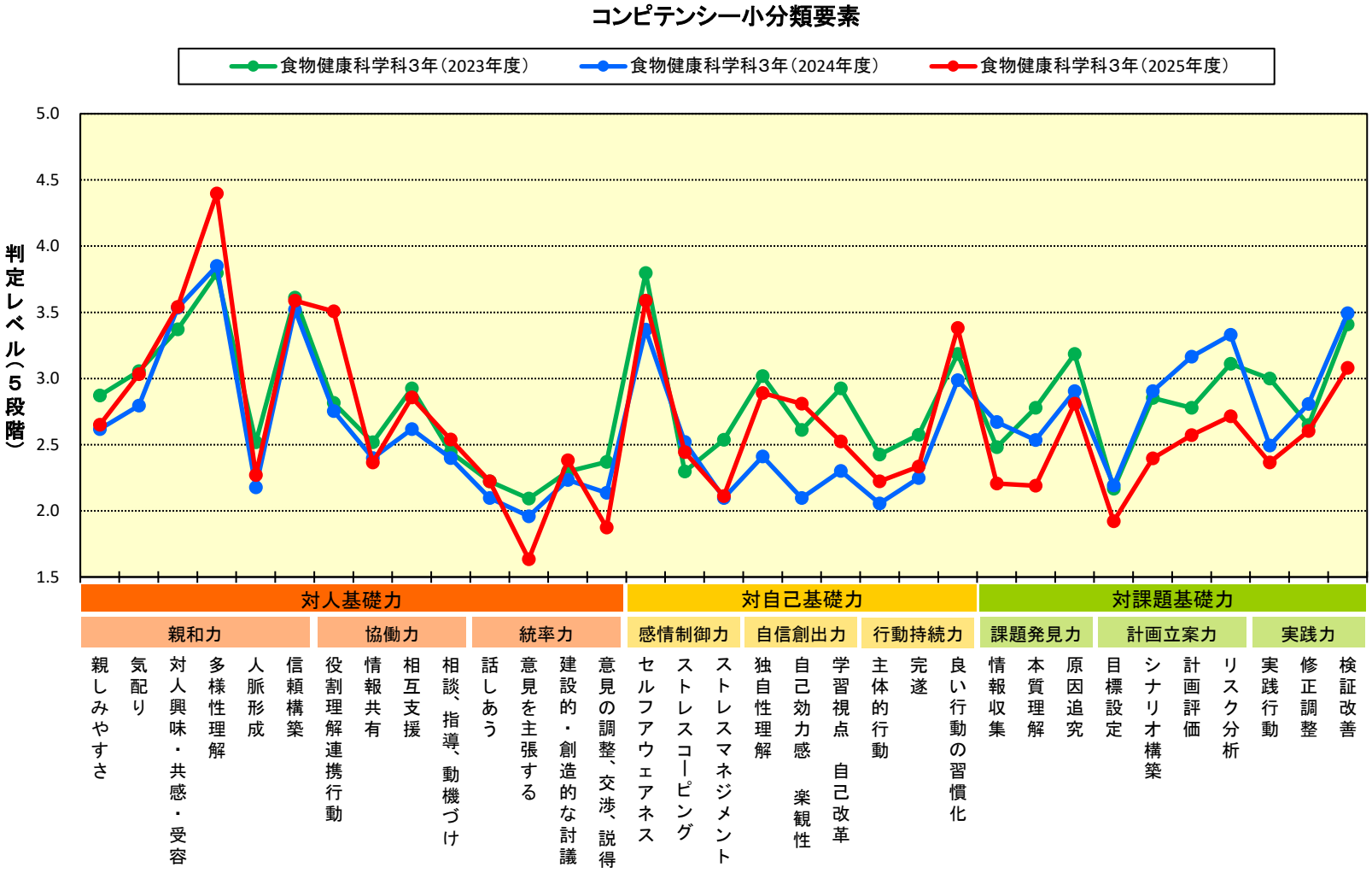
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）②

【心理福祉学科３年】



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）③

【食物健康科学科３年】



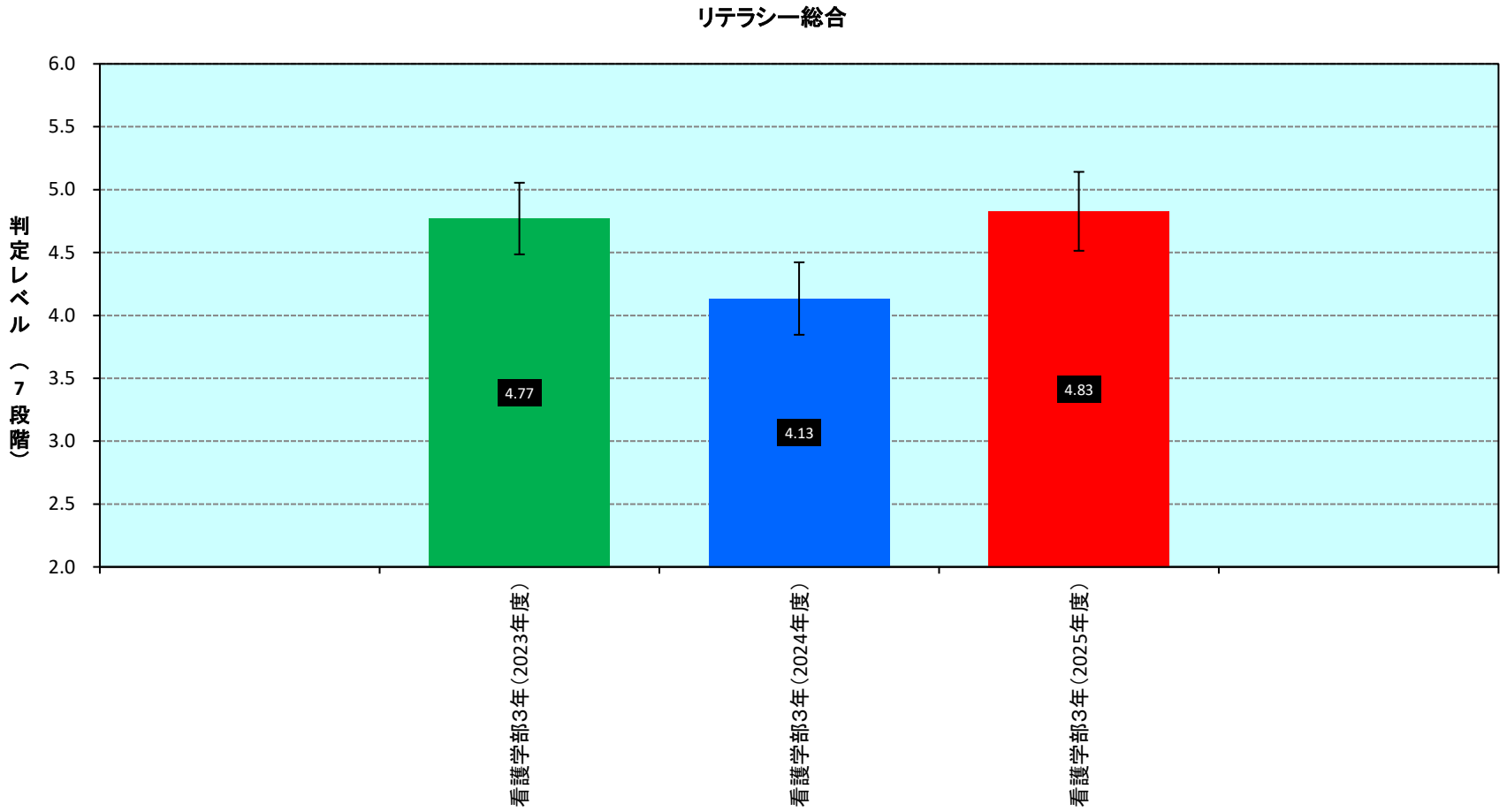
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.3-4
3年生　過去受験者比較
（看護学部）

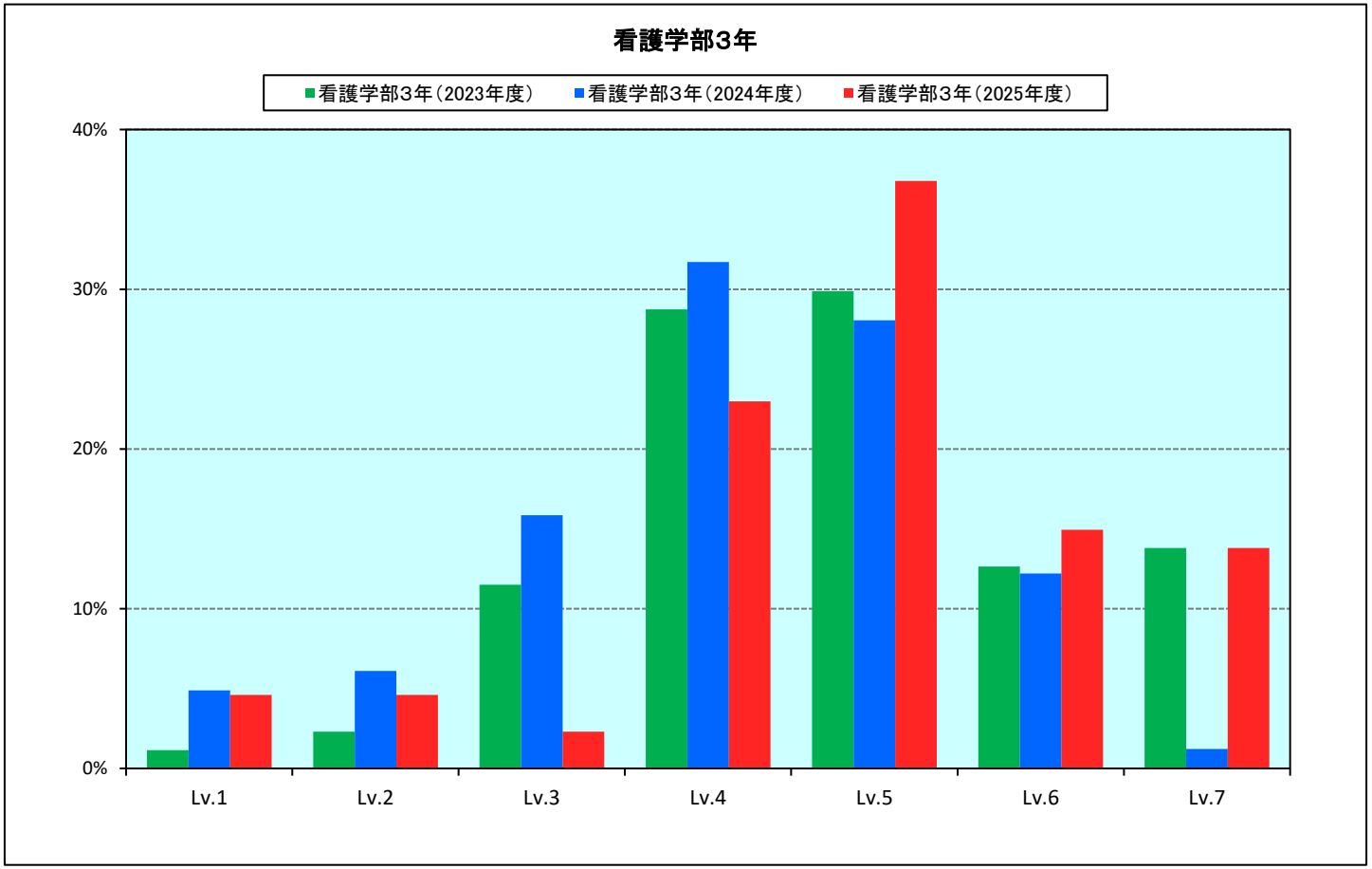
リテラシー総合（過去の受験者との比較）

●看護学部3年は、2024年度のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）



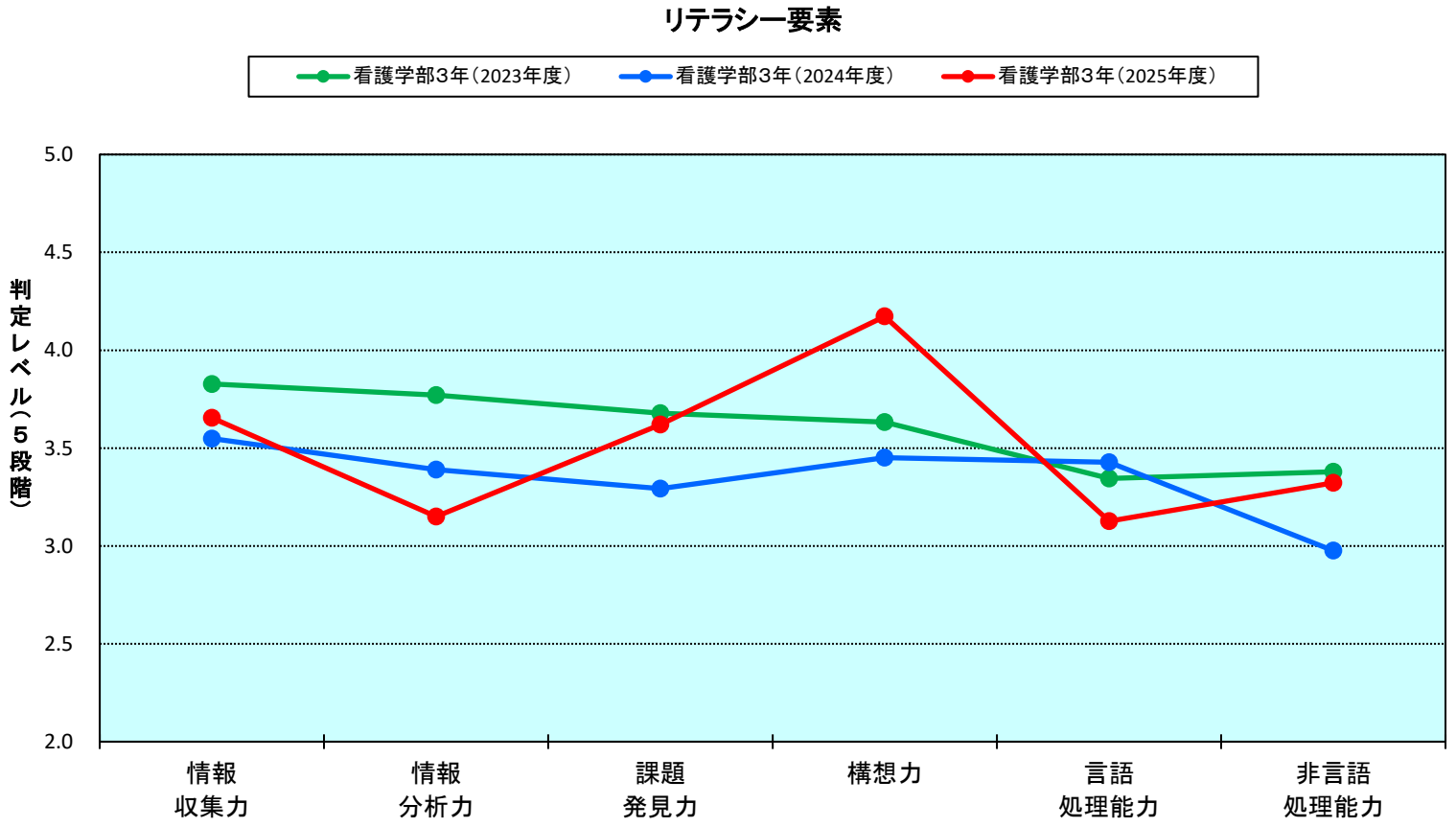
2024年度に比べて、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル5、レベル7の割合が大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）

【看護学部3年】

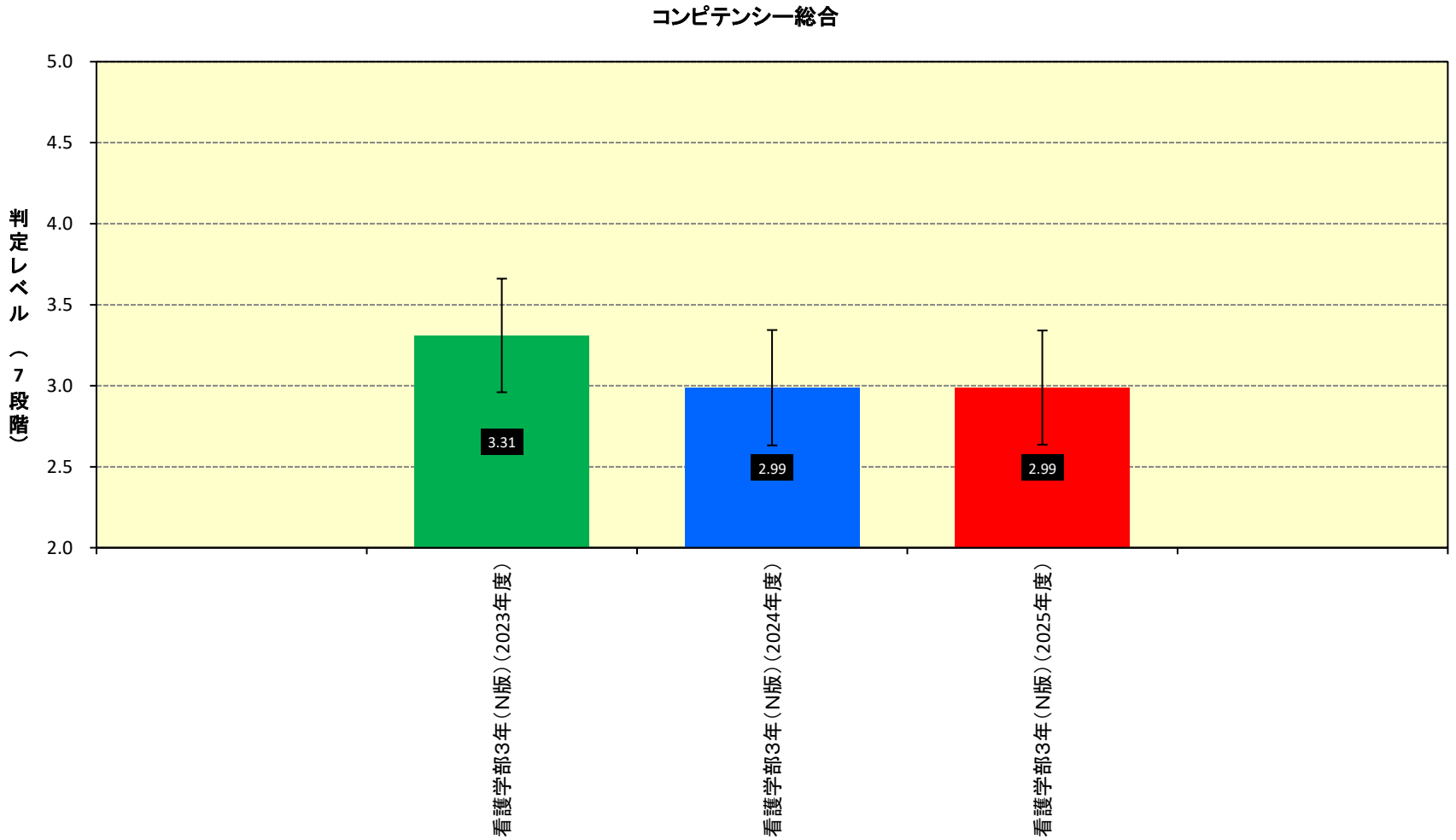
情報収集力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、情報分析力、言語処理能力は、2024年度のスコアを下回る。



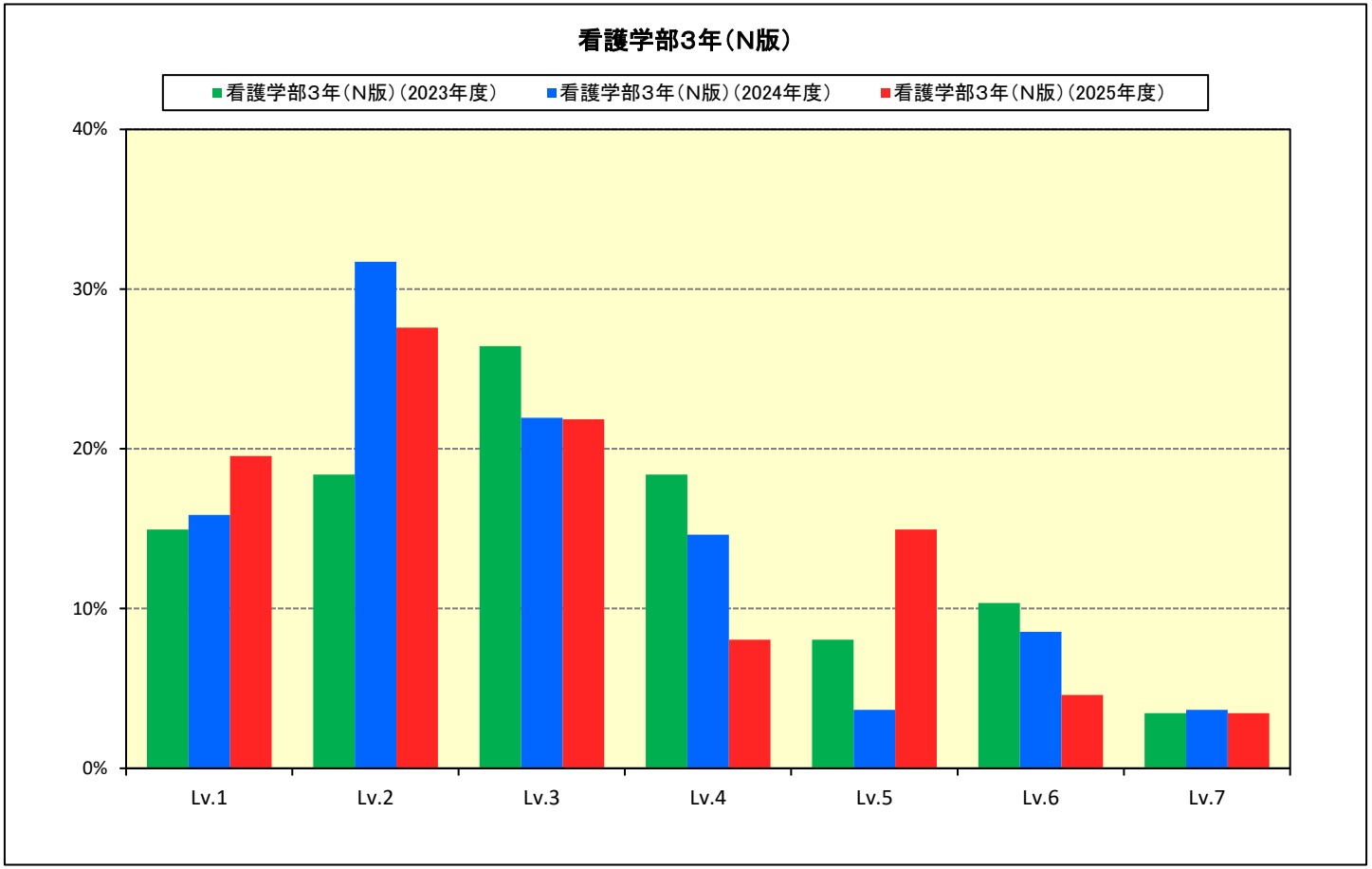
コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

●看護学部3年（N版）は、2024年度のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）



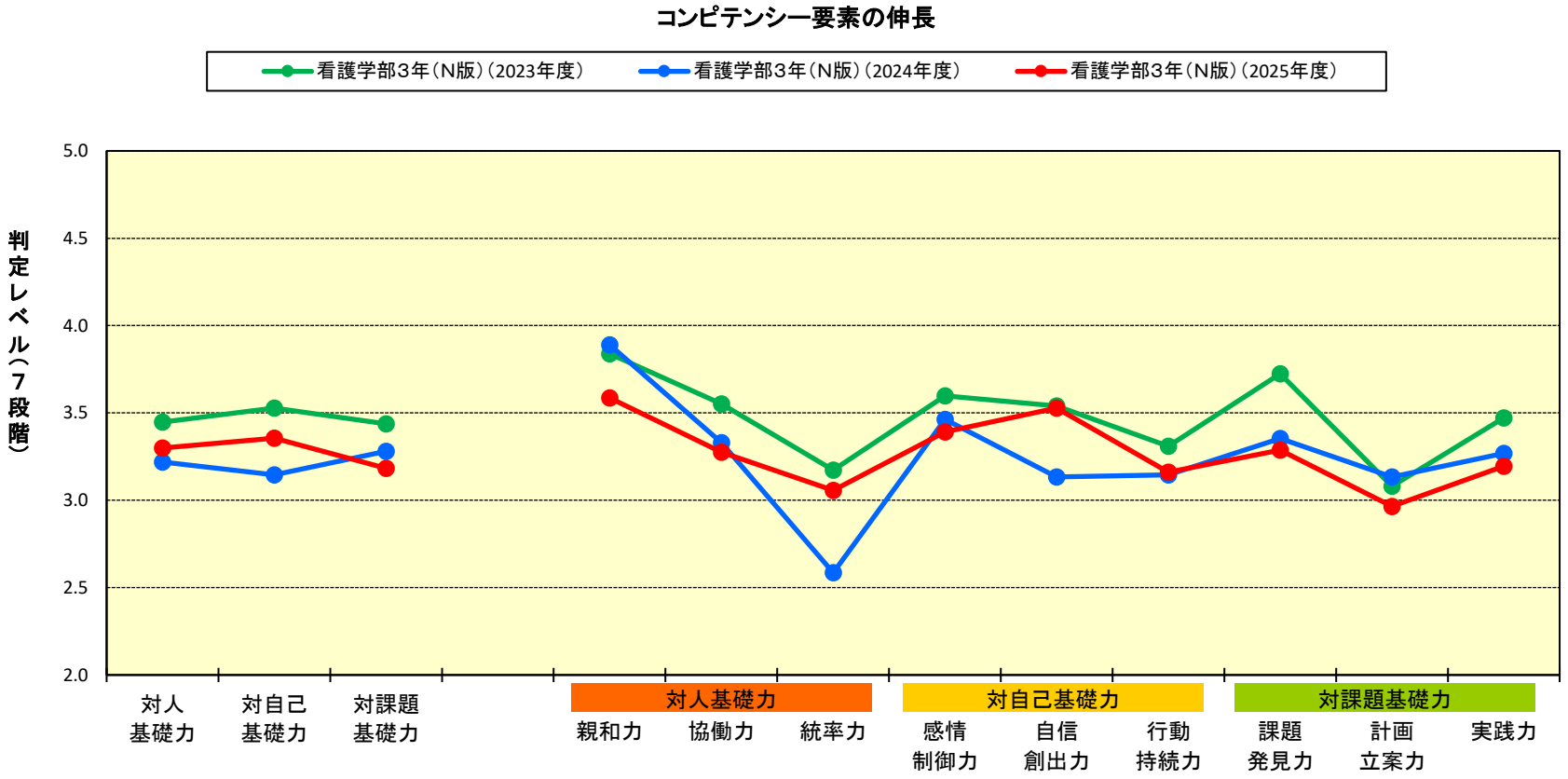
2024年度に比べて、レベル2、レベル4、レベル6の割合が小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）

【看護学部3年（N版）】

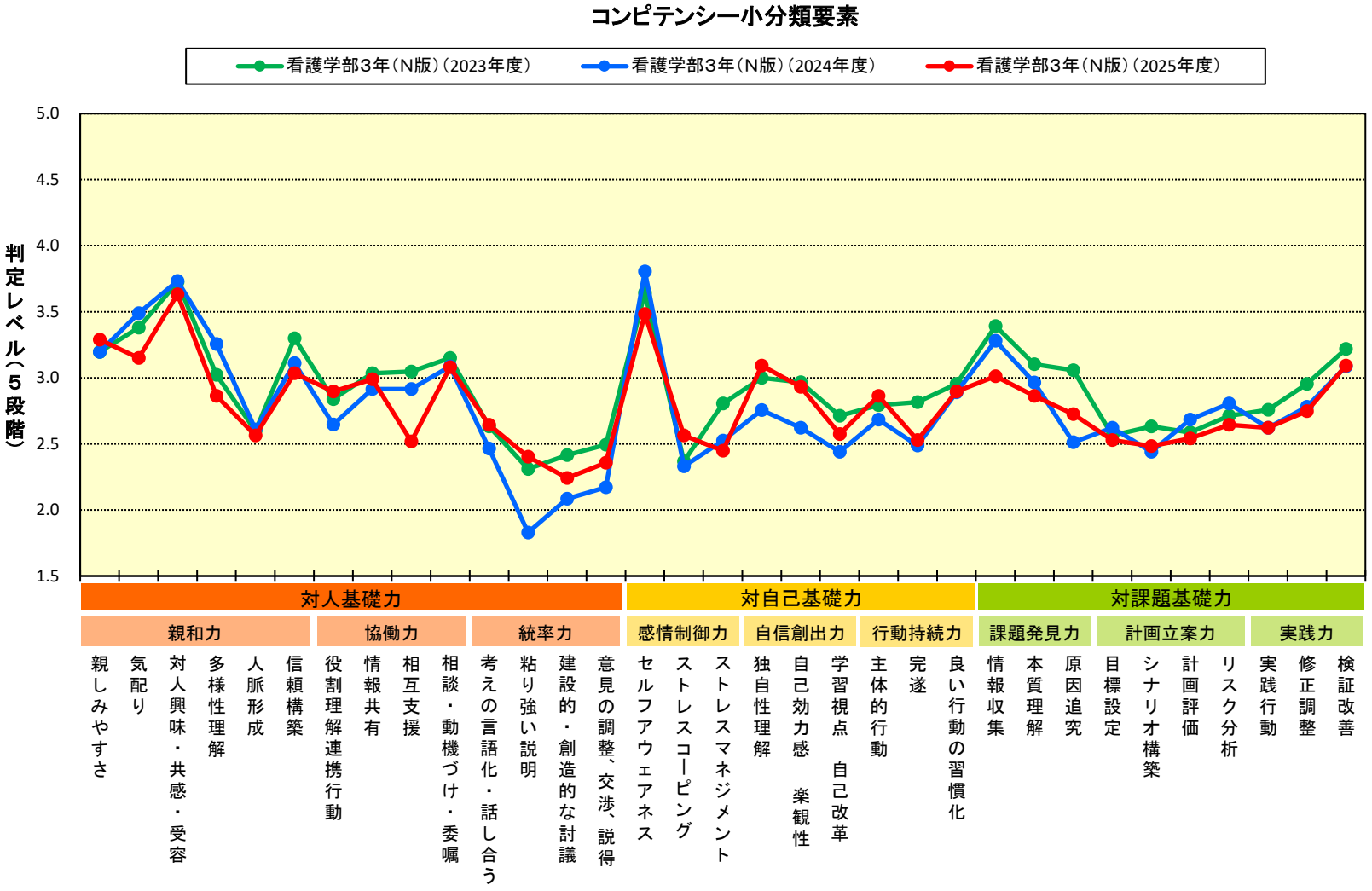
統率力、自信創出力、行動持続力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、感情制御力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2024年度のスコアを下回る。



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）

【看護学部3年（N版）】



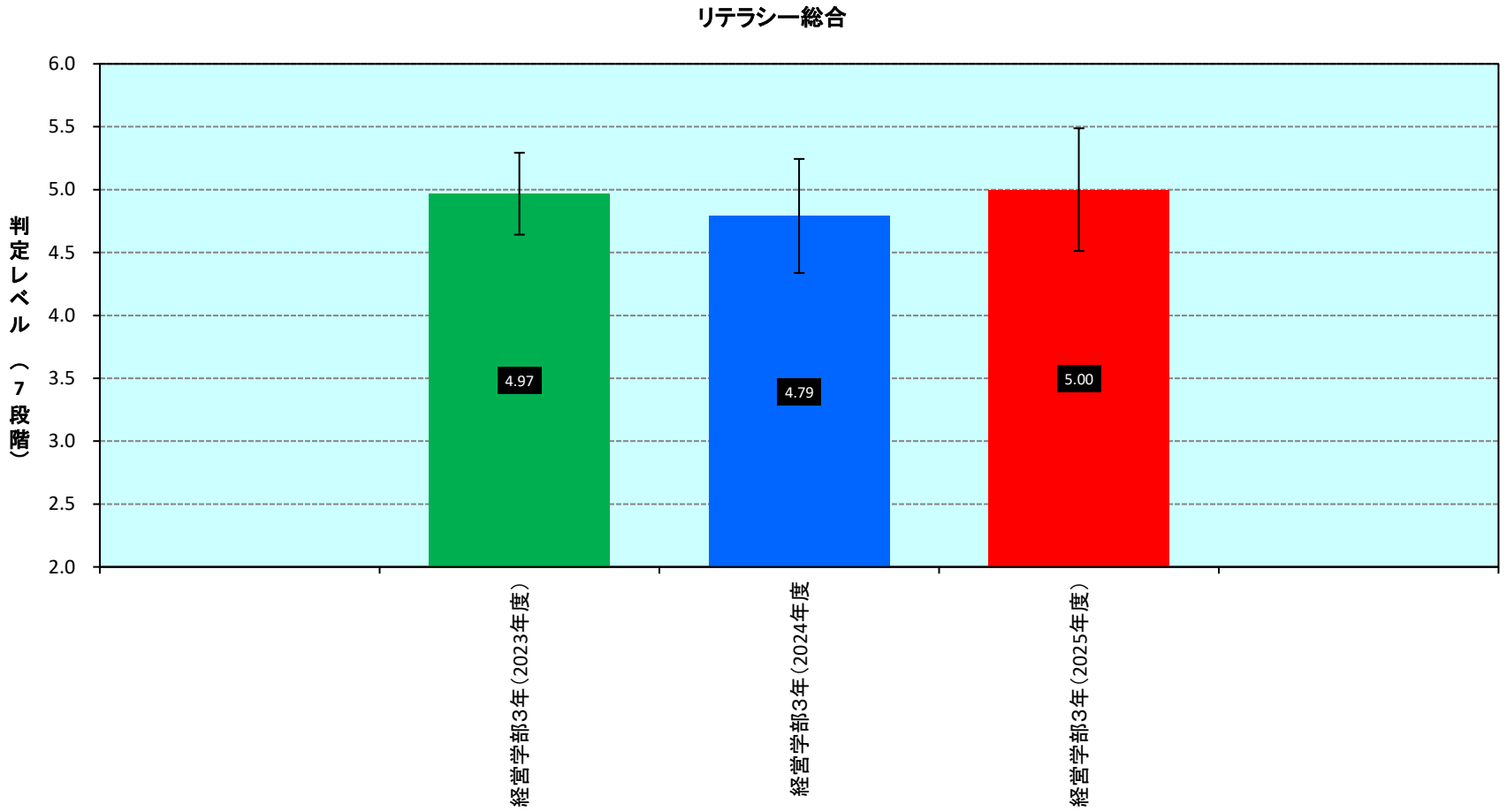
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.3-5
3年生　過去受験者比較
（経営学部）

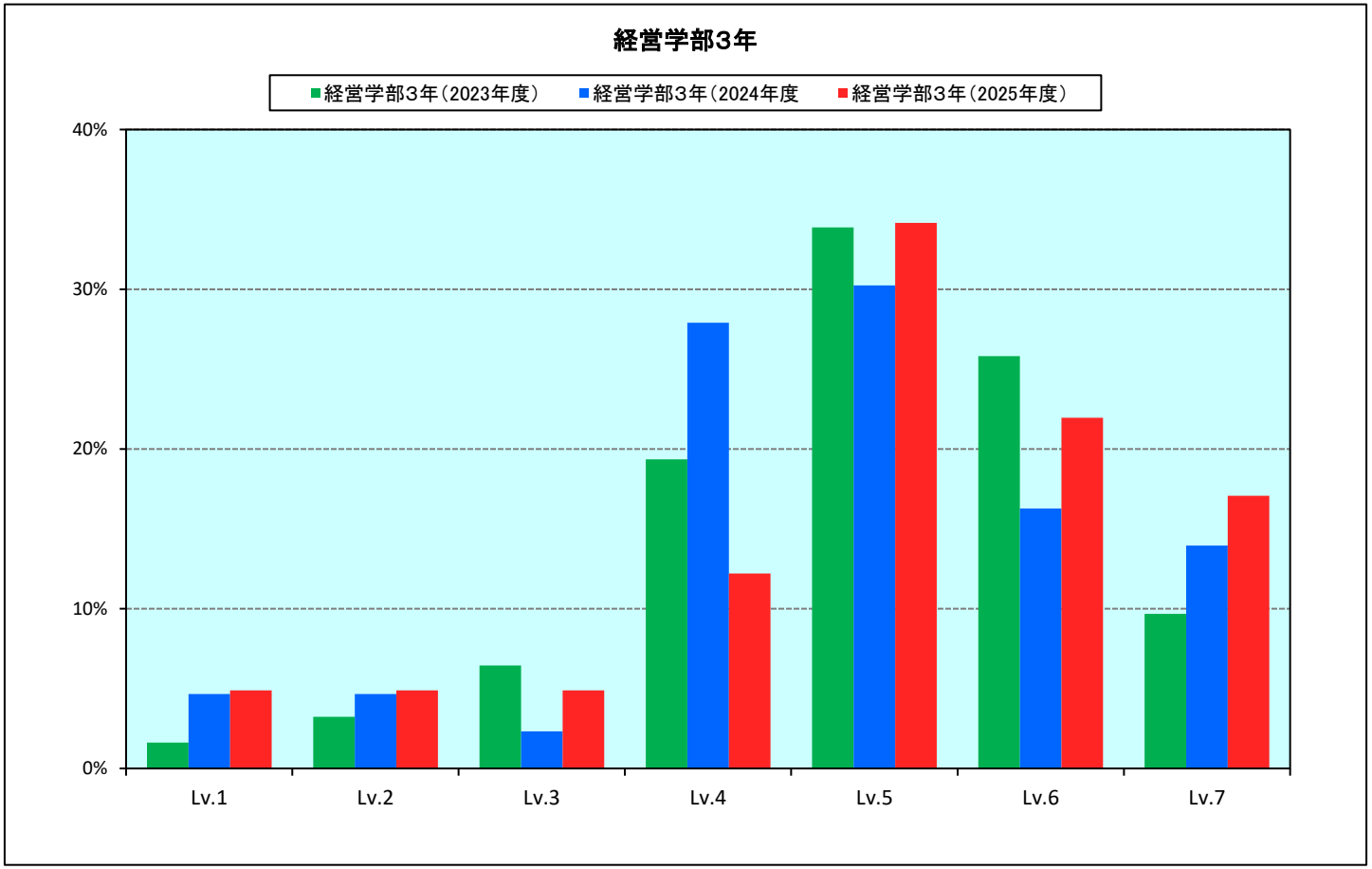
リテラシー総合（過去の受験者との比較）

●経営学部3年は、2024年度のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

リテラシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）



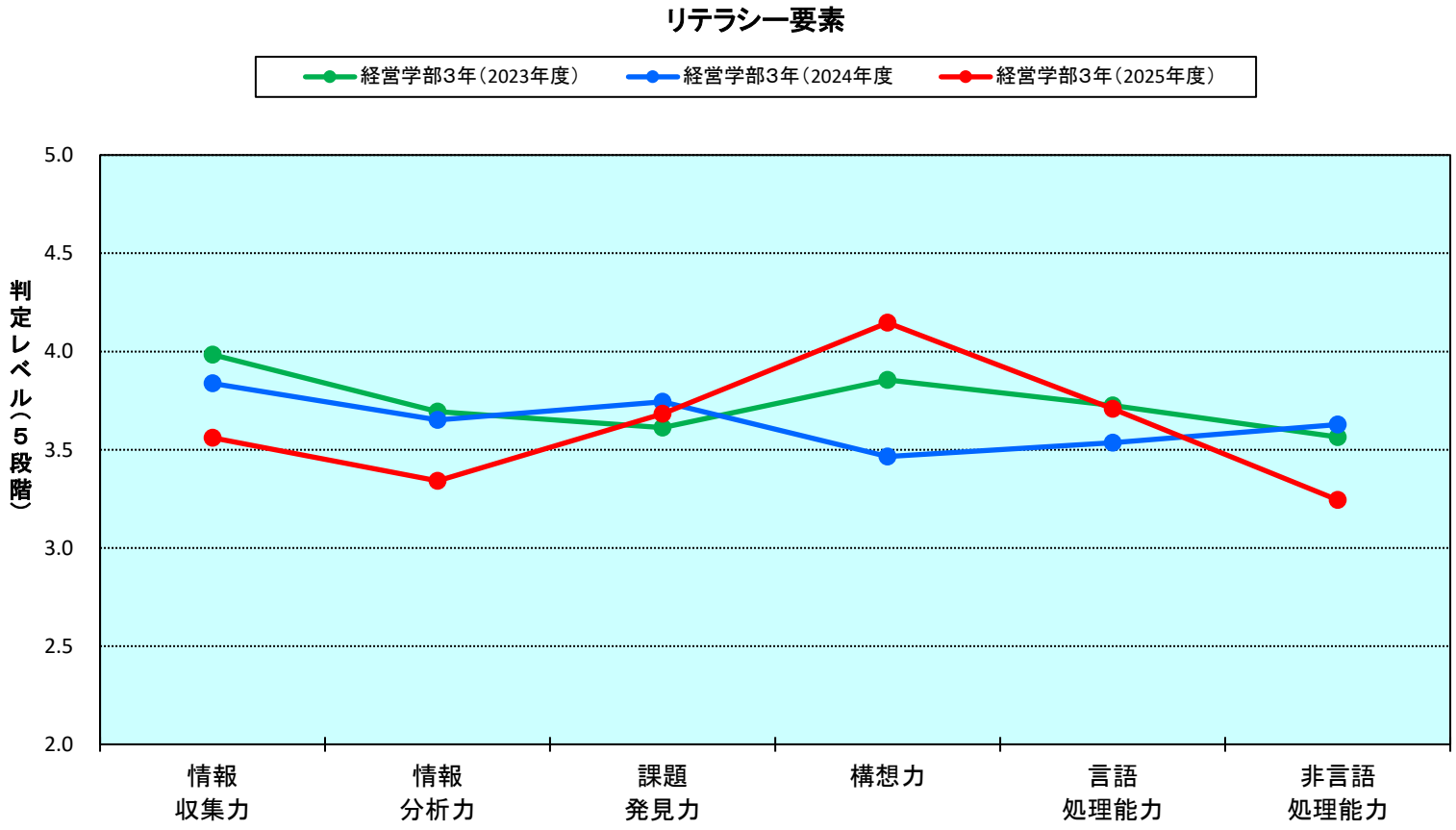
2024年度に比べて、レベル4の割合が小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）

【経営学部3年】

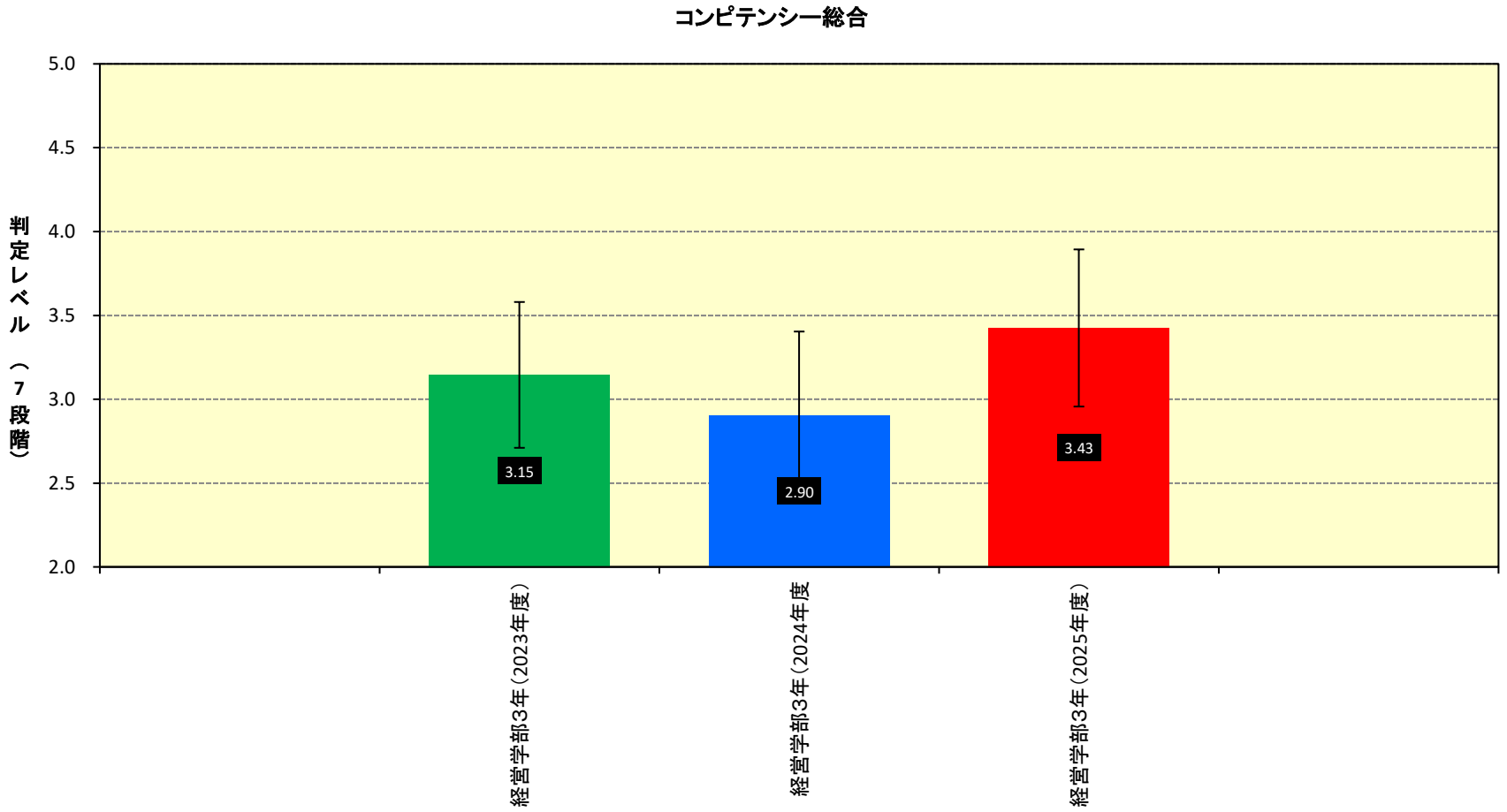
構想力、言語処理能力は、2024年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、課題発見力、非言語処理能力は、2024年度のスコアを下回る。



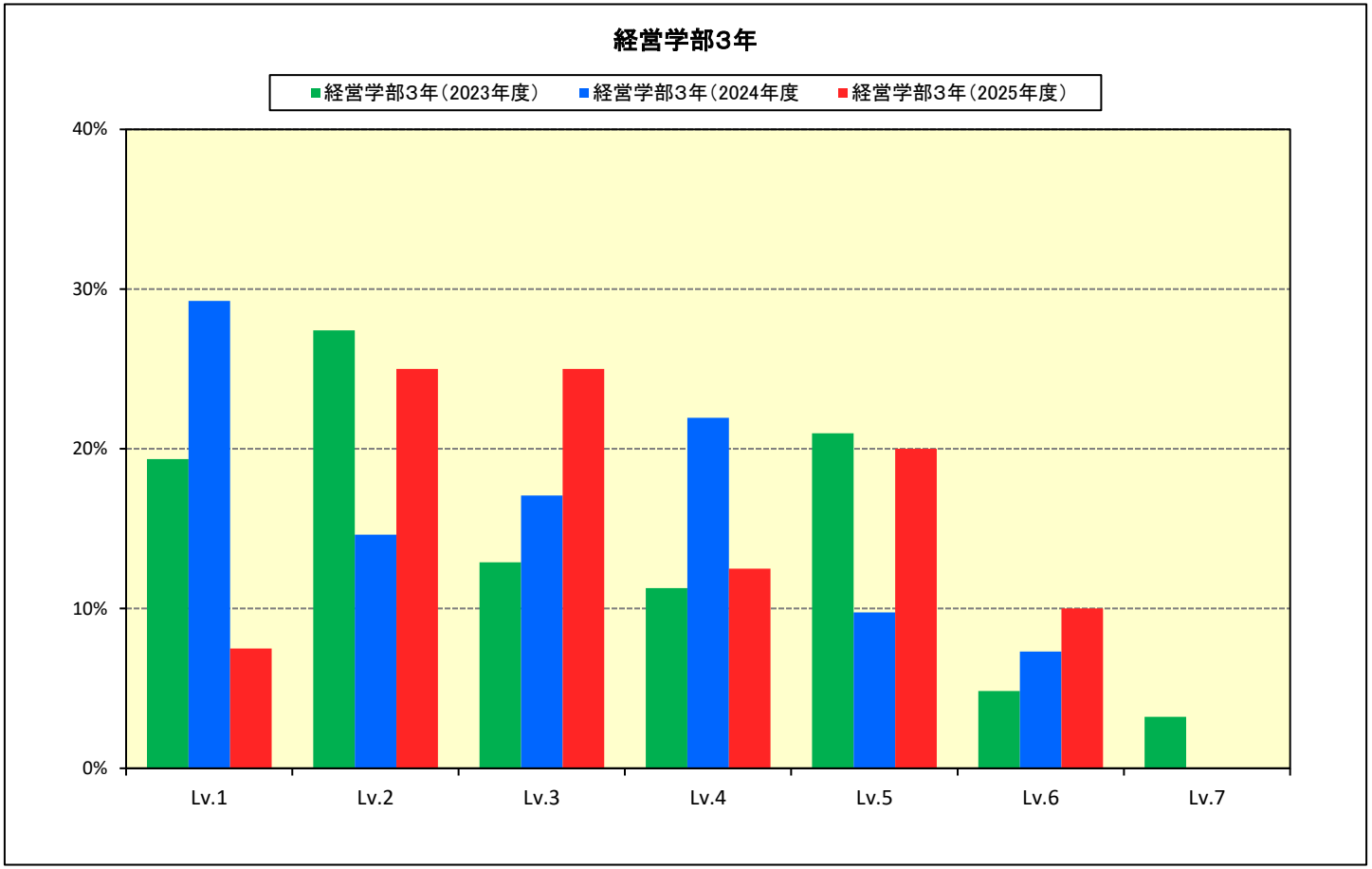
コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

●経営学部3年は、2024年度のスコアを上回る。



※平均グラフの先端のＩ状の縦線は、スコア±標準誤差（SE）×2を表す。

コンピテンシー総合　判定レベルの分布（過去の受験者との比較）

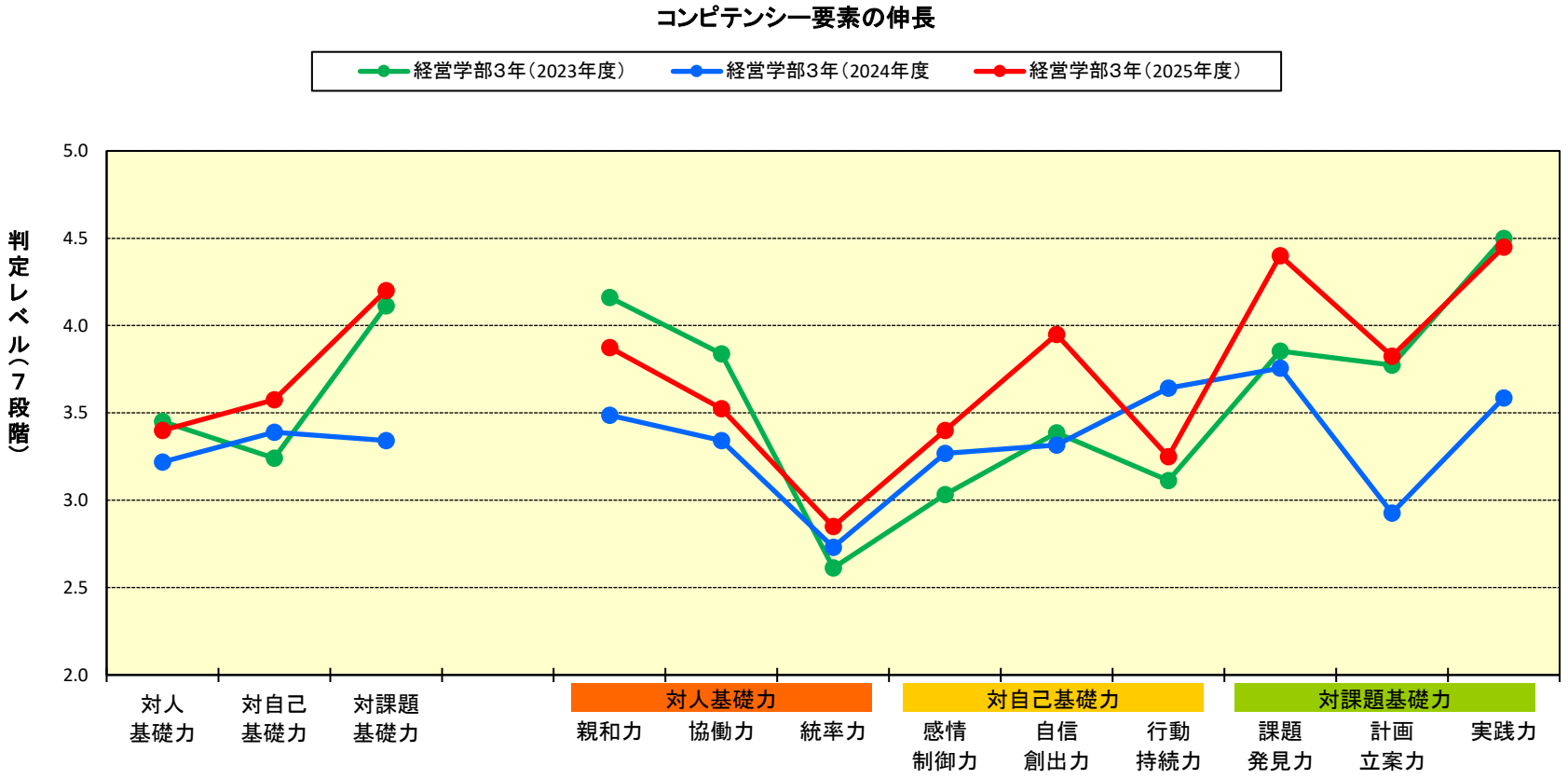


2024年度に比べて、レベル1、レベル4の割合が小さく、レベル2～3、レベル5のボリュームが大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）

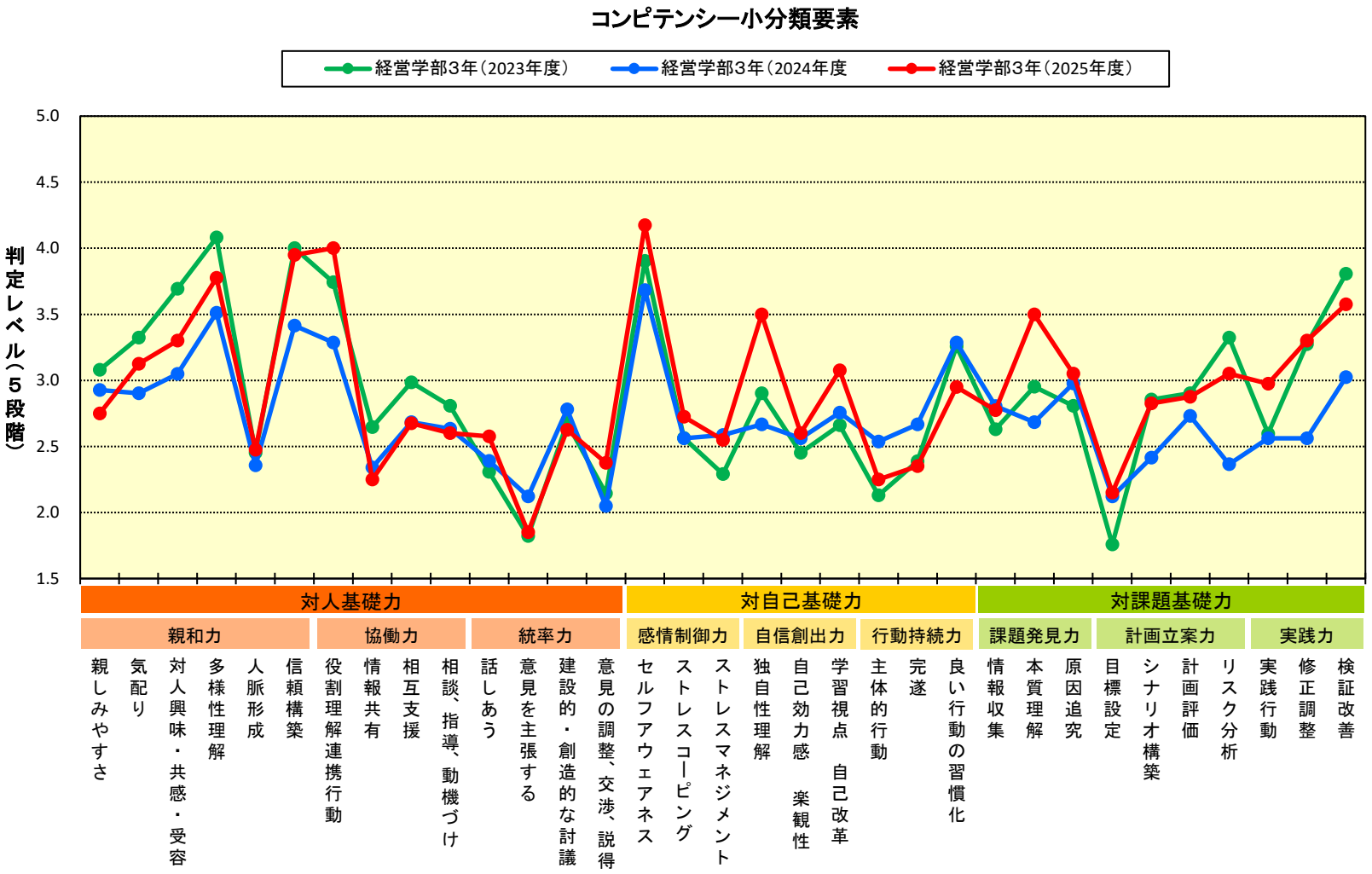
【経営学部3年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2024年度のスコアを上回る。
一方、行動持続力は、2024年度のスコアを下回る。



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）

【経営学部3年】



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

共通アンケート
【3年生・在学生アンケート】

共通アンケート集計（在校生）①

Q1. 志望した学校の中で、本学は何番目でしたか。

所属情報	学科	回答者数	1. 第一志望	2. 第二志望	3. 第三志望以下
共通アンケート3年生平均値		18866	62.7%	19.1%	18.2%
3年生全体（25年度）		462	70.8%	22.5%	6.7%
	現代英語学科	57	57.9%	35.1%	7.0%
	児童教育学科	101	69.3%	21.8%	8.9%
	文化交流学科	53	62.3%	34.0%	3.8%
	心理福祉学科	60	76.7%	16.7%	6.7%
	食物健康科学科	63	81.0%	14.3%	4.8%
	看護学科	87	82.8%	12.6%	4.6%
	経営学科	41	53.7%	34.1%	12.2%

Q2. 志望した学部・学科の中で、本学部・学科は何番目でしたか。

所属情報	学科	回答者数	1. 第一志望	2. 第二志望	3. 第三志望以下
共通アンケート3年生平均値		18866	90.4%	6.7%	2.9%
3年生全体（25年度）		462	95.2%	3.0%	1.7%
	現代英語学科	57	96.5%	3.5%	0.0%
	児童教育学科	101	97.0%	1.0%	2.0%
	文化交流学科	53	90.6%	7.5%	1.9%
	心理福祉学科	60	93.3%	5.0%	1.7%
	食物健康科学科	63	96.8%	1.6%	1.6%
	看護学科	87	97.7%	1.1%	1.1%
	経営学科	41	90.2%	4.9%	4.9%

Q3. 現在、力を入れたいことや目標は明確ですか。

所属情報	学科	回答者数	1. とても明確である	2. やや明確である	3. どちらでもない	4. あまり明確ではない	5. まったく明確ではない
共通アンケート3年生平均値		18866	21.1%	47.1%	12.3%	15.9%	3.7%
3年生全体（25年度）		462	32.5%	48.7%	8.7%	9.1%	1.1%
	現代英語学科	57	35.1%	45.6%	10.5%	5.3%	3.5%
	児童教育学科	101	38.6%	53.5%	3.0%	5.0%	0.0%
	文化交流学科	53	20.8%	32.1%	17.0%	26.4%	3.8%
	心理福祉学科	60	23.3%	56.7%	6.7%	11.7%	1.7%
	食物健康科学科	63	27.0%	58.7%	6.3%	7.9%	0.0%
	看護学科	87	42.5%	40.2%	14.9%	2.3%	0.0%
	経営学科	41	29.3%	53.7%	2.4%	14.6%	0.0%

共通アンケート集計（在校生）②

Q4. 現在の学部・学科で勉強を続けることに不安はありますか。

所属情報	学科	回答者数	1. まったく不安はない	2. あまり不安はない	3. どちらでもない	4. 少し不安がある	5. とても不安がある
共通アンケート3年生平均値		18866	18.5%	40.9%	14.6%	21.6%	4.4%
3年生全体（25年度）		462	23.8%	42.6%	11.9%	18.6%	3.0%
	現代英語学科	57	33.3%	38.6%	15.8%	10.5%	1.8%
	児童教育学科	101	24.8%	50.5%	7.9%	15.8%	1.0%
	文化交流学科	53	35.8%	41.5%	13.2%	9.4%	0.0%
	心理福祉学科	60	20.0%	55.0%	13.3%	8.3%	3.3%
	食物健康科学科	63	15.9%	34.9%	11.1%	31.7%	6.3%
	看護学科	87	10.3%	33.3%	13.8%	36.8%	5.7%
	経営学科	41	39.0%	43.9%	9.8%	4.9%	2.4%

Q5. 授業に臨む際、予習や復習をどの程度取り組みましたか。

所属情報	学科	回答者数	1. ひんぱんにあった	2. ときどきあった	3. あまりなかった	4. まったくなかった
共通アンケート3年生平均値		18866	9.9%	53.7%	30.6%	5.8%
3年生全体（25年度）		462	12.1%	61.7%	22.7%	3.5%
	現代英語学科	57	22.8%	59.6%	12.3%	5.3%
	児童教育学科	101	5.9%	67.3%	25.7%	1.0%
	文化交流学科	53	1.9%	69.8%	22.6%	5.7%
	心理福祉学科	60	13.3%	70.0%	10.0%	6.7%
	食物健康科学科	63	9.5%	54.0%	34.9%	1.6%
	看護学科	87	20.7%	54.0%	24.1%	1.1%
	経営学科	41	9.8%	56.1%	26.8%	7.3%

Q6. 授業に意欲的に取り組みましたか。

所属情報	学科	回答者数	1. ひんぱんにあった	2. ときどきあった	3. あまりなかった	4. まったくなかった
共通アンケート3年生平均値		18866	32.0%	56.6%	10.2%	1.2%
3年生全体（25年度）		462	45.9%	47.6%	5.6%	0.9%
	現代英語学科	57	49.1%	43.9%	5.3%	1.8%
	児童教育学科	101	44.6%	50.5%	5.0%	0.0%
	文化交流学科	53	49.1%	41.5%	9.4%	0.0%
	心理福祉学科	60	41.7%	48.3%	5.0%	5.0%
	食物健康科学科	63	46.0%	46.0%	7.9%	0.0%
	看護学科	87	50.6%	46.0%	3.4%	0.0%
	経営学科	41	36.6%	58.5%	4.9%	0.0%

共通アンケート集計（在校生）③

Q7. 自分の好奇心や関心事と、学部・学科・専攻の授業内容は一致していますか。

所属情報	学科	回答者数	1. とても一致している	2. やや一致している	3. どちらでもない	4. あまり一致していない	5. まったく一致していない
共通アンケート3年生平均値		18866	35.2%	48.5%	10.4%	5.0%	0.9%
3年生全体（25年度）		462	39.8%	46.8%	10.0%	2.6%	0.9%
	現代英語学科	57	26.3%	56.1%	14.0%	1.8%	1.8%
	児童教育学科	101	52.5%	42.6%	3.0%	1.0%	1.0%
	文化交流学科	53	26.4%	56.6%	15.1%	1.9%	0.0%
	心理福祉学科	60	35.0%	48.3%	10.0%	6.7%	0.0%
	食物健康科学科	63	47.6%	39.7%	7.9%	3.2%	1.6%
	看護学科	87	42.5%	42.5%	12.6%	2.3%	0.0%
	経営学科	41	34.1%	48.8%	12.2%	2.4%	2.4%

Q8. 学校の授業の難易度について教えてください。

所属情報	学科	回答者数	1. 易しい	2. 適切	3. やや難しい	4. 難しい	5. とても難しい
共通アンケート3年生平均値		18866	8.2%	59.5%	22.7%	7.5%	2.1%
3年生全体（25年度）		462	7.1%	65.8%	19.9%	6.1%	1.1%
	現代英語学科	57	5.3%	77.2%	15.8%	0.0%	1.8%
	児童教育学科	101	12.9%	72.3%	11.9%	3.0%	0.0%
	文化交流学科	53	11.3%	83.0%	3.8%	1.9%	0.0%
	心理福祉学科	60	8.3%	66.7%	18.3%	5.0%	1.7%
	食物健康科学科	63	3.2%	42.9%	33.3%	19.0%	1.6%
	看護学科	87	1.1%	49.4%	37.9%	9.2%	2.3%
	経営学科	41	7.3%	80.5%	9.8%	2.4%	0.0%

Q9. 今まで、授業の中で「自分の考えを皆の前で主張する機会」はどの程度ありましたか。

所属情報	学科	回答者数	1. ひんぱんにあった	2. ときどきあった	3. あまりなかった	4. まったくなかった
共通アンケート3年生平均値		18866	21.4%	58.9%	18.1%	1.6%
3年生全体（25年度）		462	37.4%	57.4%	4.5%	0.6%
	現代英語学科	57	45.6%	50.9%	1.8%	1.8%
	児童教育学科	101	30.7%	66.3%	3.0%	0.0%
	文化交流学科	53	20.8%	66.0%	11.3%	1.9%
	心理福祉学科	60	41.7%	53.3%	5.0%	0.0%
	食物健康科学科	63	36.5%	61.9%	1.6%	0.0%
	看護学科	87	49.4%	46.0%	3.4%	1.1%
	経営学科	41	34.1%	56.1%	9.8%	0.0%

共通アンケート集計（在校生）④

Q10. 今まで、授業の中で「皆の意見をまとめて議論を進める機会」はどの程度ありましたか。

所属情報	学科	回答者数	1. ひんぱんにあった	2. ときどきあった	3. あまりなかった	4. まったくなかった
共通アンケート3年生平均値		18866	14.9%	54.2%	27.3%	3.6%
3年生全体（25年度）		462	26.2%	56.5%	16.7%	0.6%
	現代英語学科	57	24.6%	54.4%	17.5%	3.5%
	児童教育学科	101	21.8%	61.4%	16.8%	0.0%
	文化交流学科	53	7.5%	50.9%	39.6%	1.9%
	心理福祉学科	60	33.3%	51.7%	15.0%	0.0%
	食物健康科学科	63	31.7%	49.2%	19.0%	0.0%
	看護学科	87	26.4%	65.5%	8.0%	0.0%
	経営学科	41	43.9%	53.7%	2.4%	0.0%

Q11. 今まで、授業の中で「自分でテーマを決めて、調査や実験を行う機会」はどの程度ありましたか。

所属情報	学科	回答者数	1. ひんぱんにあった	2. ときどきあった	3. あまりなかった	4. まったくなかった
共通アンケート3年生平均値		18866	16.1%	53.1%	26.8%	4.0%
3年生全体（25年度）		462	16.2%	51.7%	30.7%	1.3%
	現代英語学科	57	17.5%	42.1%	38.6%	1.8%
	児童教育学科	101	8.9%	54.5%	36.6%	0.0%
	文化交流学科	53	30.2%	58.5%	9.4%	1.9%
	心理福祉学科	60	16.7%	58.3%	23.3%	1.7%
	食物健康科学科	63	19.0%	55.6%	25.4%	0.0%
	看護学科	87	14.9%	43.7%	37.9%	3.4%
	経営学科	41	12.2%	51.2%	36.6%	0.0%

Q12. 在学時、海外での留学を経験しましたか。

所属情報	学科	回答者数	1. 1年以上経験した	2. 半年から1年程度経験した	3. 半年未満経験した	4. 経験したことはない
共通アンケート3年生平均値		18866	1.0%	1.6%	8.5%	88.9%
3年生全体（25年度）		462	0.2%	0.4%	4.3%	95.0%
	現代英語学科	57	0.0%	1.8%	14.0%	84.2%
	児童教育学科	101	0.0%	0.0%	1.0%	99.0%
	文化交流学科	53	0.0%	0.0%	11.3%	88.7%
	心理福祉学科	60	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	食物健康科学科	63	0.0%	1.6%	3.2%	95.2%
	看護学科	87	0.0%	0.0%	3.4%	96.6%
	経営学科	41	2.4%	0.0%	0.0%	97.6%

共通アンケート集計（在校生）⑤

Q13. 卒業後はどのような進路を希望しますか。あてはまるもの1つをお選びください。

所属情報	学科	回答者数	1. 民間就職	2. 公務員	3. 教員	4. 大学院進学	5. 留学	6. 独立・起業	7. その他	8. 特に考えていない
共通アンケート3年生平均値		18866	61.8%	8.6%	6.3%	6.6%	0.5%	1.0%	5.4%	9.7%
3年生全体（25年度）		462	56.1%	14.3%	13.6%	0.4%	0.2%	0.2%	10.8%	4.3%
	現代英語学科	57	68.4%	17.5%	7.0%	0.0%	1.8%	1.8%	3.5%	0.0%
	児童教育学科	101	24.8%	9.9%	49.5%	1.0%	0.0%	0.0%	10.9%	4.0%
	文化交流学科	53	58.5%	26.4%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	9.4%
	心理福祉学科	60	70.0%	15.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	6.7%
	食物健康科学科	63	66.7%	12.7%	3.2%	1.6%	0.0%	0.0%	14.3%	1.6%
	看護学科	87	51.7%	11.5%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	28.7%	5.7%
	経営学科	41	85.4%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%

Q14. 自分の意思で自分の将来を決めることができる。

所属情報	学科	回答者数	1. とてもそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. まったくそう思わない
共通アンケート3年生平均値		18866	45.4%	38.3%	8.7%	6.4%	1.3%
3年生全体（25年度）		462	53.0%	36.4%	7.1%	2.8%	0.6%
	現代英語学科	57	43.9%	33.3%	14.0%	5.3%	3.5%
	児童教育学科	101	63.4%	30.7%	4.0%	2.0%	0.0%
	文化交流学科	53	41.5%	45.3%	5.7%	7.5%	0.0%
	心理福祉学科	60	35.0%	50.0%	8.3%	5.0%	1.7%
	食物健康科学科	63	58.7%	28.6%	12.7%	0.0%	0.0%
	看護学科	87	60.9%	34.5%	3.4%	1.1%	0.0%
	経営学科	41	56.1%	39.0%	4.9%	0.0%	0.0%

Q15. 自分の未来がどんなものになるか想像することができる。

所属情報	学科	回答者数	1. とてもそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. まったくそう思わない
共通アンケート3年生平均値		18866	11.9%	33.8%	18.4%	26.2%	9.7%
3年生全体（25年度）		462	17.5%	38.5%	18.0%	20.8%	5.2%
	現代英語学科	57	21.1%	33.3%	12.3%	22.8%	10.5%
	児童教育学科	101	21.8%	43.6%	15.8%	18.8%	0.0%
	文化交流学科	53	13.2%	26.4%	22.6%	26.4%	11.3%
	心理福祉学科	60	8.3%	30.0%	28.3%	26.7%	6.7%
	食物健康科学科	63	15.9%	38.1%	15.9%	27.0%	3.2%
	看護学科	87	19.5%	48.3%	19.5%	11.5%	1.1%
	経営学科	41	19.5%	41.5%	9.8%	17.1%	12.2%

共通アンケート集計（在校生）⑥

Q16. 将来に備えて計画や準備をすることができる。

所属情報	学科	回答者数	1. とてもそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. まったくそう思わない
共通アンケート3年生平均値		18866	16.1%	44.7%	17.1%	18.2%	3.9%
3年生全体（25年度）		462	19.3%	48.7%	18.8%	12.1%	1.1%
	現代英語学科	57	17.5%	38.6%	29.8%	12.3%	1.8%
	児童教育学科	101	20.8%	50.5%	13.9%	14.9%	0.0%
	文化交流学科	53	20.8%	32.1%	26.4%	17.0%	3.8%
	心理福祉学科	60	11.7%	46.7%	23.3%	15.0%	3.3%
	食物健康科学科	63	20.6%	52.4%	14.3%	12.7%	0.0%
	看護学科	87	16.1%	62.1%	17.2%	4.6%	0.0%
	経営学科	41	31.7%	48.8%	9.8%	9.8%	0.0%

Q17. 自分が行ったことに常に自信を持つことができる。

所属情報	学科	回答者数	1. とてもそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. まったくそう思わない
共通アンケート3年生平均値		18866	14.9%	34.5%	19.6%	24.9%	6.1%
3年生全体（25年度）		462	15.4%	37.9%	20.1%	22.1%	4.5%
	現代英語学科	57	17.5%	36.8%	15.8%	26.3%	3.5%
	児童教育学科	101	17.8%	36.6%	21.8%	21.8%	2.0%
	文化交流学科	53	11.3%	35.8%	20.8%	24.5%	7.5%
	心理福祉学科	60	6.7%	31.7%	26.7%	23.3%	11.7%
	食物健康科学科	63	23.8%	28.6%	17.5%	23.8%	6.3%
	看護学科	87	12.6%	41.4%	24.1%	19.5%	2.3%
	経営学科	41	17.1%	61.0%	7.3%	14.6%	0.0%

Q18. 学校にお互い頼りあえる友人はいますか。

所属情報	学科	回答者数	1. よくあてはまる	2. ややあてはまる	3. どちらでもない	4. あまりあてはまらない	5. まったくあてはまらない
共通アンケート3年生平均値		18866	49.8%	34.3%	6.6%	5.9%	3.4%
3年生全体（25年度）		462	58.7%	31.0%	5.2%	3.5%	1.7%
	現代英語学科	57	57.9%	31.6%	3.5%	3.5%	3.5%
	児童教育学科	101	60.4%	30.7%	5.0%	4.0%	0.0%
	文化交流学科	53	54.7%	32.1%	5.7%	3.8%	3.8%
	心理福祉学科	60	56.7%	31.7%	6.7%	1.7%	3.3%
	食物健康科学科	63	60.3%	25.4%	6.3%	6.3%	1.6%
	看護学科	87	62.1%	29.9%	4.6%	2.3%	1.1%
	経営学科	41	53.7%	39.0%	4.9%	2.4%	0.0%

共通アンケート集計（在校生）⑦

Q19. 学校にいろいろと相談にのってくれる先生または職員はいますか。

所属情報	学科	回答者数	1. よくあてはまる	2. ややあてはまる	3. どちらでもない	4. あまりあてはまらない	5. まったくあてはまらない
共通アンケート3年生平均値		18866	21.4%	37.6%	20.4%	14.1%	6.4%
3年生全体（25年度）		462	28.6%	42.0%	17.5%	10.2%	1.7%
	現代英語学科	57	29.8%	29.8%	19.3%	19.3%	1.8%
	児童教育学科	101	36.6%	37.6%	12.9%	12.9%	0.0%
	文化交流学科	53	28.3%	37.7%	18.9%	11.3%	3.8%
	心理福祉学科	60	25.0%	50.0%	16.7%	8.3%	0.0%
	食物健康科学科	63	23.8%	44.4%	19.0%	6.3%	6.3%
	看護学科	87	26.4%	47.1%	20.7%	5.7%	0.0%
	経営学科	41	24.4%	48.8%	17.1%	7.3%	2.4%

Q20. 学校をやめたいと思ったことはありますか。

所属情報	学科	回答者数	1. まったくなかった	2. あまりなかった	3. 時々あった	4. 頻繁にあった
共通アンケート3年生平均値		18866	41.6%	32.2%	20.3%	5.8%
3年生全体（25年度）		462	44.8%	29.0%	21.0%	5.2%
	現代英語学科	57	42.1%	36.8%	17.5%	3.5%
	児童教育学科	101	56.4%	24.8%	15.8%	3.0%
	文化交流学科	53	62.3%	22.6%	11.3%	3.8%
	心理福祉学科	60	48.3%	30.0%	16.7%	5.0%
	食物健康科学科	63	31.7%	31.7%	30.2%	6.3%
	看護学科	87	20.7%	34.5%	33.3%	11.5%
	経営学科	41	63.4%	19.5%	17.1%	0.0%

Q21. 成長を実感していますか。

所属情報	学科	回答者数	1. とてもそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. まったくそう思わない
共通アンケート3年生平均値		18866	22.3%	52.9%	13.5%	9.1%	2.1%
3年生全体（25年度）		462	30.7%	55.4%	8.9%	4.1%	0.9%
	現代英語学科	57	28.1%	54.4%	10.5%	5.3%	1.8%
	児童教育学科	101	32.7%	56.4%	6.9%	4.0%	0.0%
	文化交流学科	53	18.9%	56.6%	15.1%	7.5%	1.9%
	心理福祉学科	60	28.3%	60.0%	8.3%	3.3%	0.0%
	食物健康科学科	63	36.5%	47.6%	7.9%	4.8%	3.2%
	看護学科	87	32.2%	56.3%	9.2%	2.3%	0.0%
	経営学科	41	36.6%	56.1%	4.9%	2.4%	0.0%

共通アンケート集計（在校生）⑧

Q22. 現在の学生生活に満足していますか。

所属情報	学科	回答者数	1. とても満足している	2. やや満足している	3. どちらでもない	4. あまり満足していない	5. まったく満足していない
共通アンケート3年生平均値		18866	25.6%	49.4%	15.5%	7.6%	1.8%
3年生全体（25年度）		462	30.3%	53.0%	11.7%	4.3%	0.6%
	現代英語学科	57	28.1%	50.9%	15.8%	3.5%	1.8%
	児童教育学科	101	40.6%	48.5%	6.9%	4.0%	0.0%
	文化交流学科	53	28.3%	52.8%	17.0%	1.9%	0.0%
	心理福祉学科	60	46.7%	40.0%	10.0%	3.3%	0.0%
	食物健康科学科	63	15.9%	68.3%	11.1%	1.6%	3.2%
	看護学科	87	17.2%	59.8%	14.9%	8.0%	0.0%
	経営学科	41	36.6%	48.8%	7.3%	7.3%	0.0%

Q23. もう一度高校生に戻り、学校を選ぶ機会がある場合、本学に入学したいですか。

所属情報	学科	回答者数	1. 入学したい	2. どちらかというと入学したい	3. どちらでもない	4. どちらかというと入学したくない	5. 入学しない
共通アンケート3年生平均値		18866	21.3%	29.4%	27.6%	12.3%	9.4%
3年生全体（25年度）		462	22.9%	33.3%	27.5%	9.3%	6.9%
	現代英語学科	57	24.6%	36.8%	21.1%	5.3%	12.3%
	児童教育学科	101	32.7%	38.6%	18.8%	8.9%	1.0%
	文化交流学科	53	22.6%	30.2%	32.1%	11.3%	3.8%
	心理福祉学科	60	28.3%	31.7%	20.0%	13.3%	6.7%
	食物健康科学科	63	14.3%	30.2%	36.5%	9.5%	9.5%
	看護学科	87	11.5%	29.9%	37.9%	10.3%	10.3%
	経営学科	41	26.8%	34.1%	26.8%	4.9%	7.3%

Q24. 学生生活で力を入れている事を教えてください。

所属情報	学科	回答者数	1. 学業	2. 自己成長や学びに関する事	3. 友人との交流等	4. 部活/サークル	5. 学校以外の課外活動	6. 趣味	7. エンターテイメント（テレビ、ゲーム、SNS等）	8. アルバイト	9. その他	10. 特にない
共通アンケート3年生平均値		18866	52.6%	32.8%	40.2%	20.3%	8.3%	45.2%	18.3%	52.2%	2.0%	2.5%
3年生全体（25年度）		462	60.0%	39.2%	51.5%	13.2%	11.9%	46.3%	15.2%	62.6%	1.3%	1.5%
	現代英語学科	57	57.9%	43.9%	52.6%	14.0%	17.5%	54.4%	17.5%	73.7%	1.8%	1.8%
	児童教育学科	101	60.4%	43.6%	61.4%	15.8%	13.9%	35.6%	9.9%	66.3%	2.0%	1.0%
	文化交流学科	53	49.1%	39.6%	49.1%	9.4%	5.7%	54.7%	20.8%	58.5%	1.9%	1.9%
	心理福祉学科	60	61.7%	53.3%	51.7%	8.3%	13.3%	48.3%	16.7%	60.0%	1.7%	3.3%
	食物健康科学科	63	58.7%	22.2%	39.7%	20.6%	7.9%	41.3%	15.9%	65.1%	1.6%	1.6%
	看護学科	87	73.6%	32.2%	48.3%	8.0%	9.2%	43.7%	11.5%	56.3%	0.0%	1.1%
	経営学科	41	46.3%	41.5%	53.7%	17.1%	17.1%	61.0%	22.0%	56.1%	0.0%	0.0%

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

PROG活用事例

事例①達成指標の具体化を行い、何が起因しているか分析

他大学事例

自学の後輩推奨度を主要目標と置き、影響する要素を分析し、次の施策につなげる。

アンケート

アンケ
PROGテス

成長実感を高めるために、大学としてどのようなサポートが可能か。

コミュニティへの参加を促すために、大学としてどのようなサポートが可能か。

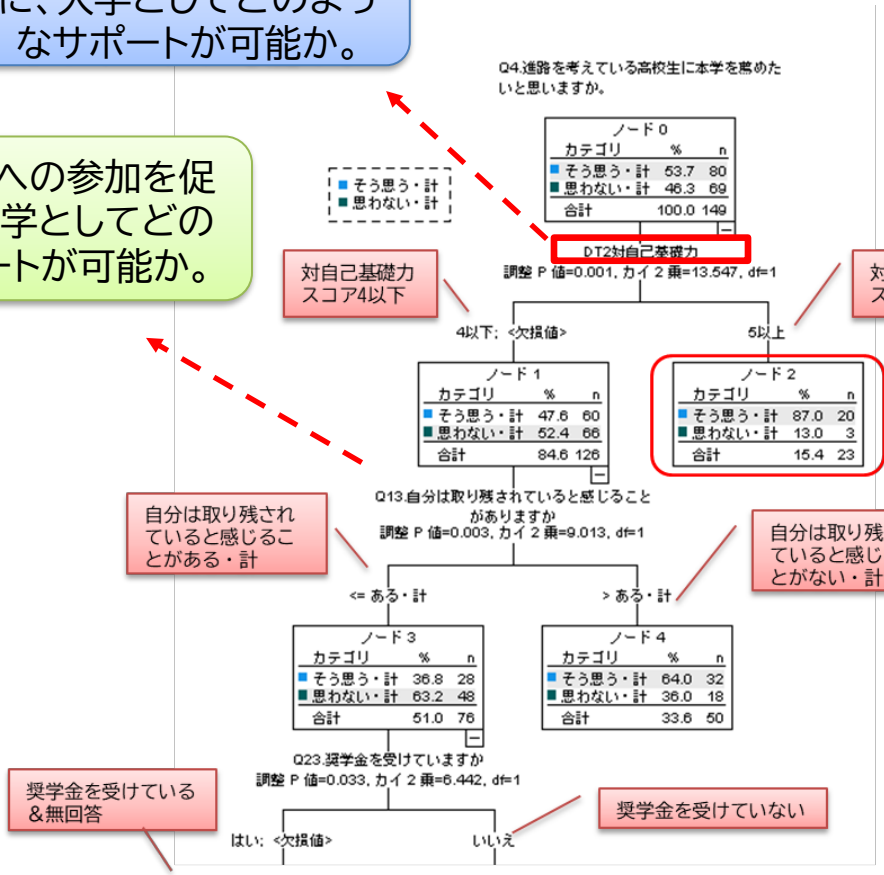
目的変数

貴学の後輩への推奨度

独立変数（説明変数）

後輩への貴学の推奨度

- 入学後の成長実感
- 性格タイプ（自己認識）
- 社会に出た後の将来への期待
- 現在の孤立感・不安や悩み
- アルバイト状況
- 奨学金受給状況
- 生活状況（睡眠・起床・自主学習時間・食事・通学時間・心身の健康）
- リテラシースコア（8項目）
- コンピテンシースコア（13項目）



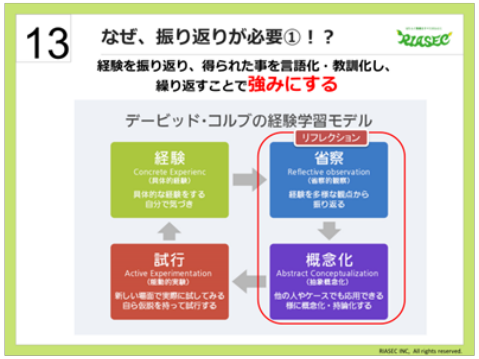
事例①分析結果から明らかになった要因への対策①

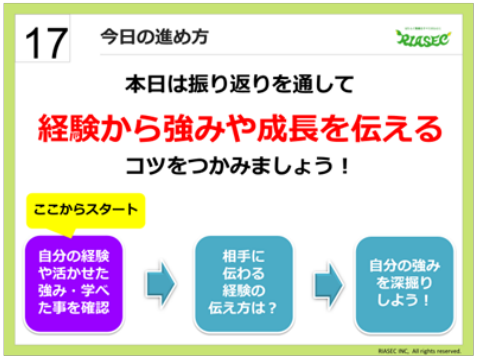
他大学事例

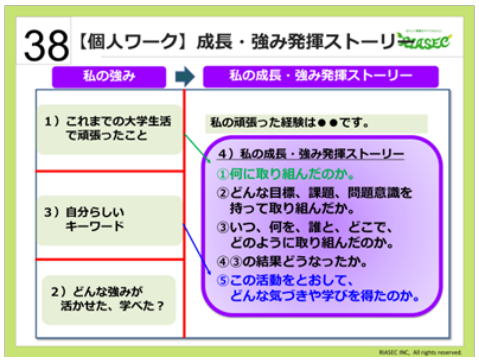
成長実感を高めるために、
大学としてどのようなサポートが可能か。

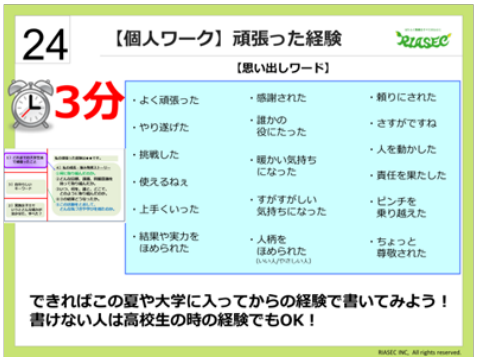
成長実感を高めるために、半期に一度**リフレクションセミナー**を実施。
セミナーの狙いは、学生に自らの学びや経験を振り返る機会を提供し、自己理解を深める。
さらに、積極的な行動が取れていない学生には、行動を起こすための新たな決意を促す。

キャリアスタートアップワークショップ	4年間の**学生生活のワクワクを言語化**し、**学生生活の仮目標の設定**を行う！
成長診断テスト受験＆解説会	自身の**長所、短所**を知る。 それを元に学生生活を通して**伸ばしたい能力を見つける**！
1年次夏休み	仮目標や能力伸長の達成に向けて何かに**一歩を踏み出す**。
2022年9月 リフレクションDay①	夏休みまでに取り組んだ行動に対して**振り返り**を行い、**振り返りの重要性**を理解する。
2023年3月 リフレクションDay②	後期に取り組んだ行動に対して**振り返り**を行い、**1年間の自己成長を実感**する。
2023年9月 リフレクションDay③	1年次に実感できた振り返りの重要性と自己成長を活かし、2年次は一層**目標に向けて挑戦**をし、その振り返りを行う。









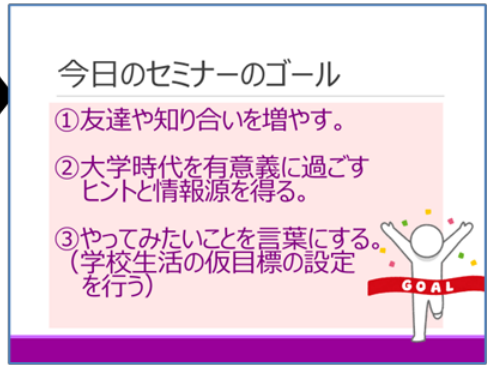
事例①分析結果から明らかになった要因への対策②

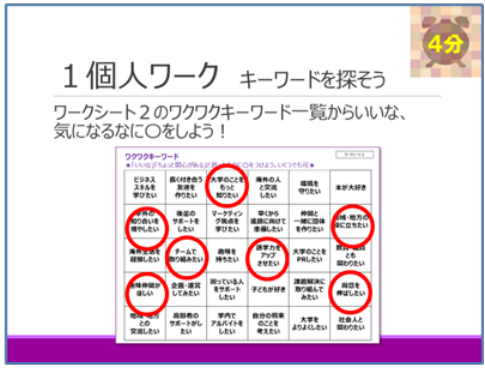
他大学事例

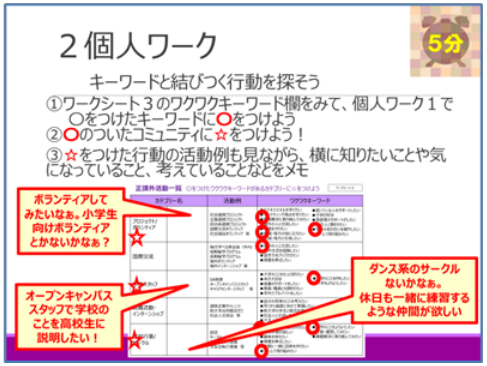
コミュニティへの参加を促すために、大学としてどのようなサポートが可能か。

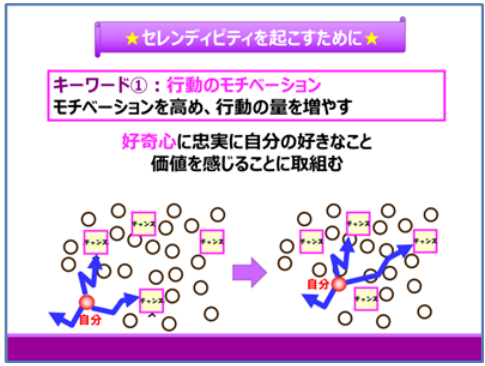
入学時に、**チームビルディング**を通じて、学生の対人興味や協働意欲を高め、自信のない学生にも「自分にもできる」と感じさせる。また、学生が自分の価値観を言語化し、大学が提供するコミュニティとのマッチングを促進する。

キャリアスタートアップワークショップ	4年間の**学生生活のワクワクを言語化**し、**学生生活の仮目標の設定**を行う！
成長診断テスト受験＆解説会	自身の**長所、短所**を知る。それを元に学生生活を通して**伸ばしたい能力を見つける**！
1年次夏休み	仮目標や能力伸長の達成に向けて何かに**一歩を踏み出す**。
2022年9月リフレクションDay①	夏休みまでに取り組んだ行動に対して**振り返り**を行い、**振り返りの重要性**を理解する。
2023年3月リフレクションDay②	後期に取り組んだ行動に対して振り返りを行い、**1年間の自己成長を実感**する。
2023年9月リフレクションDay③	1年次に実感できた振り返りの重要性と自己成長を活かし、2年次は一層**目標に向けて挑戦**をし、その振り返りを行う。









事例②PROG測定結果から初年次教育の改善事例

国立大学　情報系学問

1年生のみPROG受験を実施。導入きっかけは学生のキャリア支援、自己分析として。

おそらく卒業までにはジェネリックスキルが伸びているであろう・・・

【当時の学部課題】
就職率が他の学部に比べて低く、就活の動き出しも遅い。

試しに学修成果の可視化として、4年生の前期に受験を実施してみよう・・・

結果（1年次春⇒4年生春）

リテラシー：元々1年次から高く維持。
コンピテンシー：対課題基礎力は伸長していたが、伸びていない、
特に！対人基礎力が1年次から低く、低いまま

学内でも学生の傾向として
①一人で調べものをしたり，計画を立てたりすることは比較的得意である
②対話力に乏しく，自分から声がかけられない
③自己効力感に乏しく，未知の物事に対する恐怖心が強い、という指摘

事例②PROG測定結果から初年次教育の改善事例

国立大学　情報系学問　初年次教育授業（1年生／必修）

→PROG結果から見えてきた学生の行動特性を踏まえて、初年次教育授業（必修科目）のシラバスを見直し。

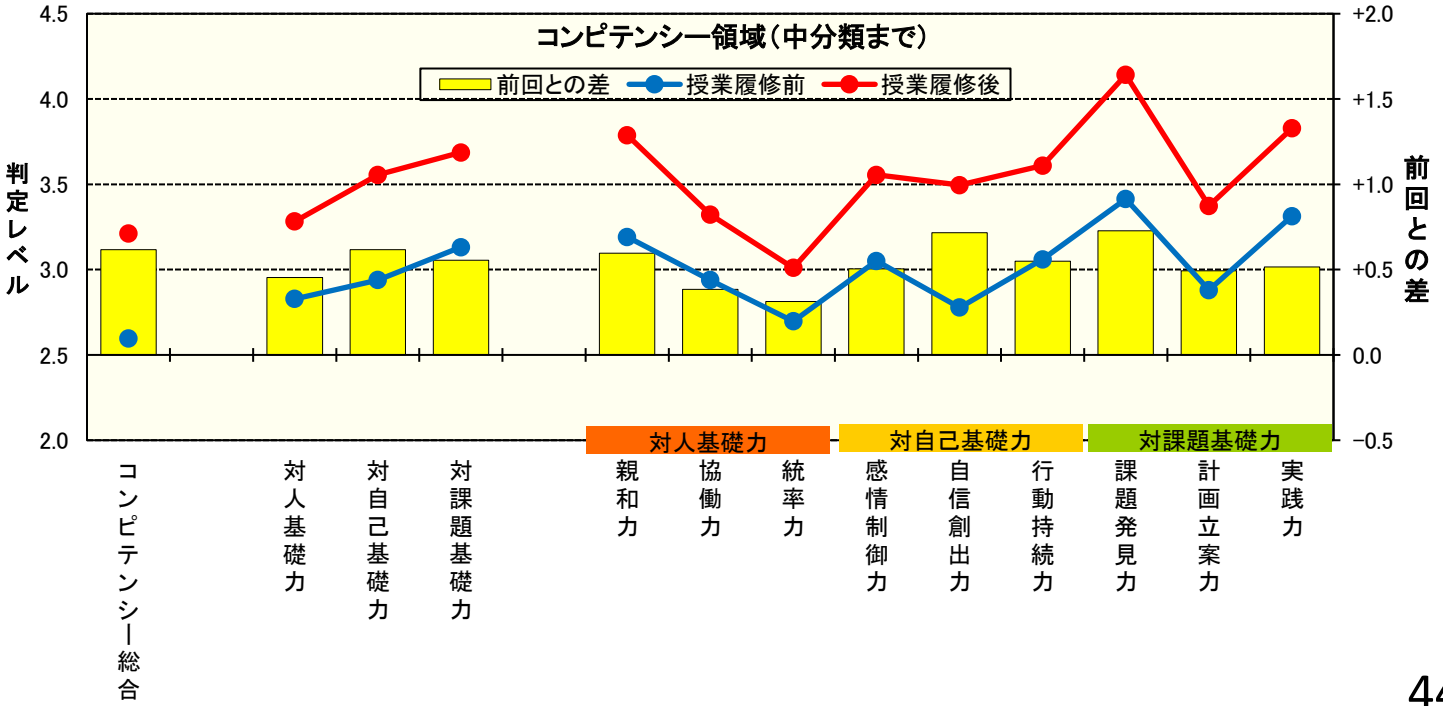
＜改善取組の特徴、工夫＞

○授業開始時にウォーミングアップ，終了時にクールダウンを図る手続きを設け，コミュニケーションをとる心の準備をさせてからチーム活動に取り組ませた。

○チーム活動を授業に取り入れることで、コミュニケーション能力・チームビルディングの重要性を学生に体感させ、大学生活・社会に出てからも必要なコンピテンシーの基盤づくりを行った。（ビブリオバトル，名刺作成，ポスター発表等）

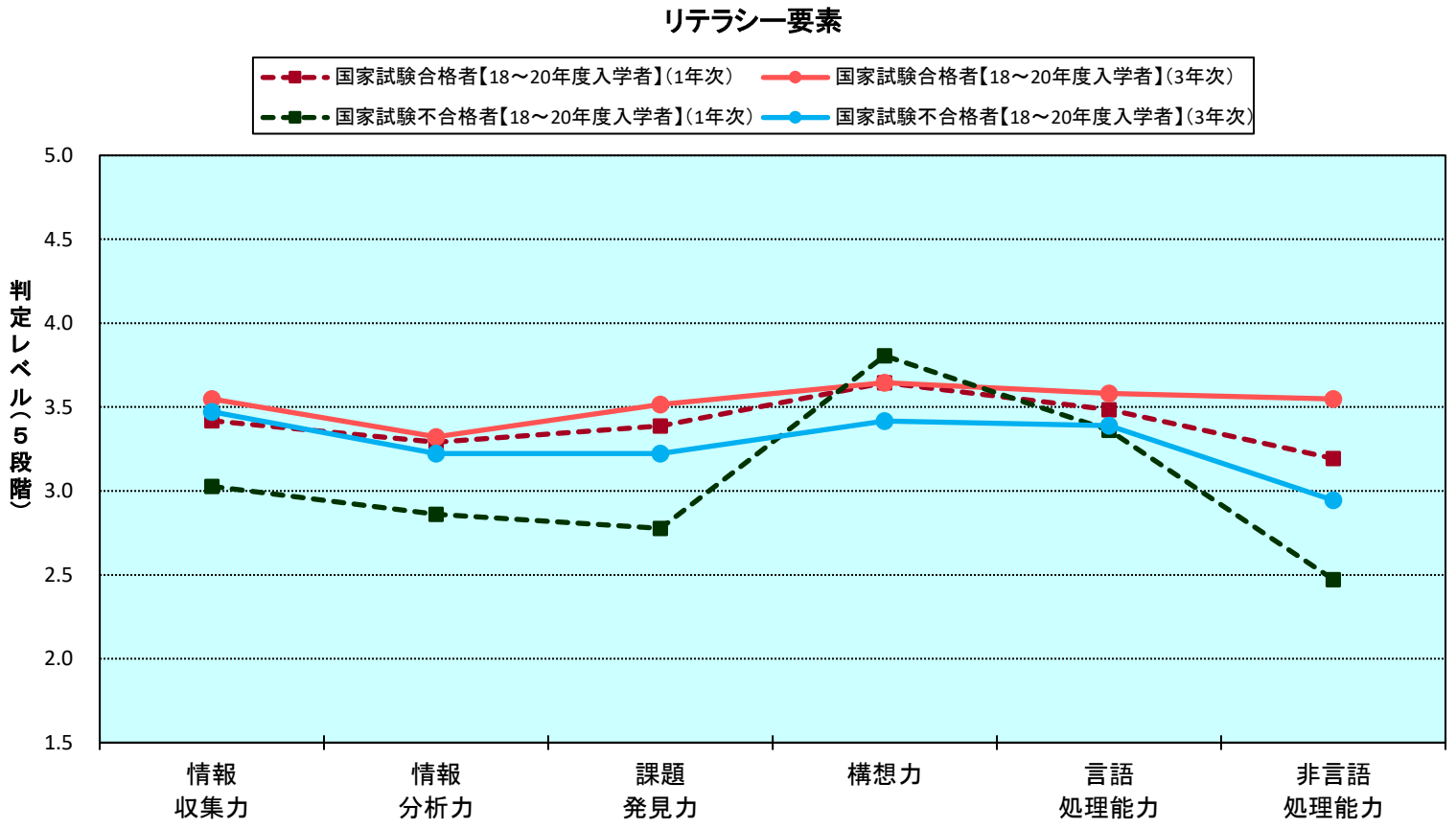
○①テーマの難易度，②テーマと自己との距離感，③自己と他者の距離感を考慮して徐々に難易度を高め，「人とやりとりをすること」に慣れるように設計。

授業前後にPROGを受験した結果、育成課題としていた親和力・自信創出力含めたコンピテンシー全般の伸長が確認された。
その後の4年生受験でも伸長傾向！



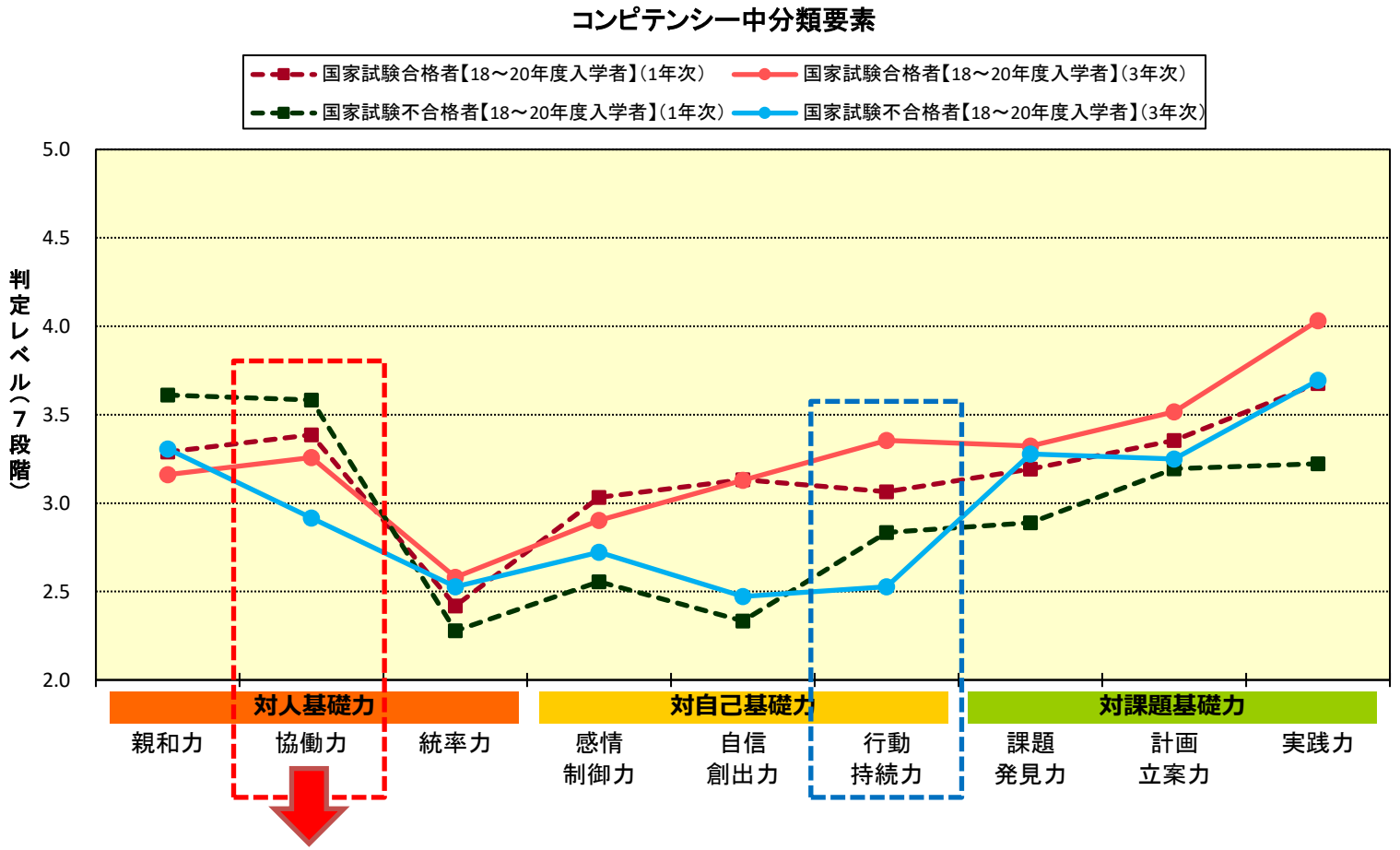
事例③国家試験合否×リテラシー要素別スコア

国家試験合格者【18～20年度入学者】はいずれの項目も1年次を上回る傾向。特に非言語処理能力の伸長が大きい。
国家試験不合格者【18～20年度入学者】は、構想力以外は1年次を上回る傾向。
国家試験合格者と不合格者の1年次比較すると、構想力以外は合格者が上回る傾向。
国家試験合格者と不合格者の3年次比較するといずれの項目も合格者が上回る傾向。



事例③国家試験合否×コンピテンシー(中分類)スコア

国家試験合格者【18～20年度入学者】は、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は1年次を上回る傾向。
国家試験不合格者【18～20年度入学者】は、統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力は1年次を上回る傾向。
また、「協働力」は有意に低下傾向である。
国家試験合格者と不合格者の1年次を比較すると、親和力、協働力以外は合格者が上回る傾向、特に感情制御力、自信創出力の差が大きい。
国家試験合格者と不合格者の3年次を比較すると、親和力以外合格者が上回る傾向、特に「行動持続力」は有意に差がある。



仮説：周りと協力しながら国家試験合格を目指した学生の方が合格できた可能性
初年次科目見直し⇒協働学習を検討

事例④PROG×共通アンケート分析

Q6大学進学の理由の中で、他大と比較すると**【大学の学歴が欲しい】**の回答割合が高く、それ以外の項目は高くない。
Q10入学を決めた理由の中で、他大と比較すると**【高い就職実績】**の回答割合が低い。
Q11卒業後の進路希望では、他大と比較すると**【特に考えていない】**の回答割合が高い。
Q16在学時に力を入れたいことは、他大と比較すると**【あまり明確ではない】**の回答割合が高い。
Q17学生生活で力を入れたいことは、他大と比較するとあまり回答割合の高低の特徴はないが、**【学業】**が低い。
Q19学生生活で不安なことは、他大と比較すると**【将来に対する不安】**の回答割合が高い。

大学進学理由が希薄であり、将来に関してはあまり考えられていないが、不安ではあるといった傾向が見受けられる。

F大学での分析事例

N≧10の場合 ： 全体+0.5以上　全体-0.5以下

設問	選択肢	N数	コンピテンシー												
			総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
全体		158	3.29	3.87	3.38	3.11	3.99	4.09	3.32	3.30	3.17	3.57	3.25	2.97	3.22
Q3. 志望した学校の中で、本学は何番目でしたか。	①第一志望	136	3.18	3.82	3.25	3.03	4.01	4.03	3.21	3.16	3.11	3.45	3.18	2.96	3.16
	②第二志望	18	**4.00**	4.11	**4.33**	3.56	3.78	4.44	**4.11**	**4.33**	3.67	**4.44**	3.50	3.11	3.56
	③第三志望以下	4	4.00	4.33	3.67	4.00	4.67	4.67	3.67	3.33	3.00	3.67	5.00	2.67	4.00
Q4. 志望した学部・学科の中で、本学部・学科は何番目でしたか。	①第一志望	153	3.27	3.84	3.38	3.11	3.99	4.07	3.29	3.29	3.18	3.56	3.24	2.97	3.23
	②第二志望	4	4.00	4.75	3.50	3.25	4.25	4.75	4.00	3.50	3.00	4.00	3.25	3.00	3.00
	③第三志望以下	1	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	5.00	4.00	3.00	3.00	5.00	2.00	3.00
Q5. 入学した試験区分について教えてください。	①一般入試	7	3.57	3.86	3.57	3.29	4.00	4.14	4.00	3.43	2.86	3.71	3.43	3.00	3.57
	②共通テスト	0													
	③内部推薦	0													
	④推薦型（旧公募推薦、自己推薦）	5	4.00	4.75	4.50	3.50	4.50	4.75	4.75	3.50	4.25	4.75	4.00	3.25	2.75
	⑤推薦型（旧指定校）	58	2.84	3.43	3.07	2.81	3.62	**3.52**	2.95	3.02	2.91	3.28	2.83	2.84	2.90
	⑥総合型選抜	71	3.35	3.99	3.35	3.13	4.17	4.31	3.27	3.37	3.13	3.55	3.34	2.97	3.21
	⑦一般編入	0													
	⑧その他	17	**4.29**	**4.65**	**4.24**	**3.88**	4.41	**4.94**	**4.18**	**3.88**	**4.12**	**4.29**	**4.06**	3.29	**4.35**
Q11. 卒業後はどのような進路を希望しますか。	①民間就職	49	3.31	3.88	3.45	3.08	4.14	4.06	3.27	3.33	3.29	3.65	3.39	2.78	3.47
	②公務員	11	3.09	3.73	3.27	3.18	3.91	3.82	3.36	3.55	2.91	3.36	3.27	3.18	2.82
	③教員	2	5.00	5.50	5.00	4.50	5.00	5.00	5.50	5.00	3.00	5.50	5.50	3.50	4.00
	④大学院進学	2	4.50	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	3.00	4.00	4.00	4.50	4.00	6.00
	⑤留学	1	3.00	5.00	2.00	4.00	6.00	5.00	2.00	3.00	3.00	2.00	4.00	4.00	3.00
	⑥独立・起業	22	**4.71**	**5.24**	**4.71**	**3.76**	**5.00**	**5.57**	**4.38**	**4.38**	**4.38**	**4.81**	3.71	3.33	3.67
	⑦その他	16	**3.88**	4.19	3.81	3.44	4.44	**4.69**	3.56	3.63	3.63	3.88	3.63	3.31	3.44
	⑧特に考えていない	55	**2.51**	**3.18**	**2.65**	2.64	**3.29**	**3.38**	**2.76**	**2.67**	**2.51**	**2.91**	**2.69**	2.78	2.73

目標ややりたいことがないため、なんとなく大学生活を過ごすだけで受け身な傾向が多く、チャレンジ精神がない方が多い可能性もあり、コンピテンシー全般が低い傾向

事例⑤支援学生の特定、面談の優先順位参考として

■PROG受験者の結果一覧を活用し、支援が必要な学生・期待が出来る学生の特定に活用。
ご提案：リテラシー・コンピテンシーともに課題の学生から優先的に面談実施へ

PROG
PROGRESS REPORT ON GENERIC SKILLS

リテラシー（知識活用力）

受験者情報					総合	4つの力				理能力	
出力順	学籍番号	カナ氏名	学年	性別		情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力
1	B000000	1	1	男	1	1	1	1	1	1	1
2	B000001	2	1	男		1	1	1	1	1	1
3	B000010	3	1	男	1	1	1	1	1	1	1
4	B000011	4	1	男	1	1	1	1	1	1	2

PROG
PROGRESS REPORT ON GENERIC SKILLS

コンピテンシー（行動実践力）

受験者情報					総合	3つの力			9つの要素					
									対人基礎力			対自己基礎力		
出力順	学籍番号	カナ氏名	学年	性別		対人基礎力	対自己基礎力	課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	
1	B000000	1	1	男	1	1	1		1	1	1	1	1	
2	B000001	2	1	男		1	1	1	1	1	1	1	1	
3	B000010	3	1	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
4	B000011	4	1	男	1	1		1	1	1	1	1	1	

＜ポイント1：リテラシー＞

■1年生向け

リテラシーは偏差値との関係性やGPAとの相関も見られるケースが多く、授業についていけない可能性あり

■3年生向け

就職活動の筆記試験（SPI言語・非言語）に該当。
レベル1・2の学生は筆記試験で苦戦する懸念あり。
（※対象学生を特定し、SPI対策講座を案内するなど、早めに対策を講じることで、対処できる）

＜ポイント2：コンピテンシー＞

◆コンピテンシーの総合レベルが1・2の学生向け

主体的な行動が乏しい傾向があるため、教職員からの積極的な関与が必要。

※対人基礎力が低い：コミュニケーションが苦手可能性

※対自己基礎力：学生は「落ち込みやすい」可能性

◆コンピテンシーの総合レベル3～4の学生向け

一部能動的に行動ができている可能性。更なる挑戦を促し、積極的に行動を促す。

◆コンピテンシーの総合レベル5以上の学生向け

要望度を上げていく、役割を与えるなどし、更に引き上げる・維持させる。

■就職活動において

コンピテンシー低い学生はグループディスカッションや個別面接対策講座を積極的に案内

事例⑥DP到達が、社会でどのように役立つのか（キャリア系授業での活用）

他大学事例

■シラバス（一部抜粋）

授業の概要及び到達目標	■授業概要 将来専門職（管理栄養士）として活躍するために、学生時代に取得が必要な基礎的能力（知識活用力・行動特性）とは何かを学び、卒業後も自らの資質を向上させ、社会的及び職業的に自立できるように、入学時から計画的に幅広く学習する機会を与えることを目的とします。 ■到達目標について 〇自分の意見を持って主張することができる。 〇他者の話を相手の意図を汲み取りながら「聴く」ことができる。 〇自分の強みや課題を理解し、言語化できる。 〇基礎的能力の開発目標を具体的に、自分で立てることができる。
学位授与方針との関連	■1. 管理栄養士の行動特性を身に付け、人々の豊かな食生活と健康に寄与する基本的な能力。 ■2. 食に関する情報を収集し、疾病の一次、二次予防の担い手としての知識を修得し、食生活改善のための計画・実行・評価を実践できる能力。 ■3. 管理栄養士として必要な疾病に関する知識、技術をもって実践できる能力。 ■4. 管理栄養士として栄養指導の対象者等との適切なコミュニケーションをとれる能力。
授業計画	キャリア形成を主体的に取り組むための考え方を学ぶとともに、職場や地域社会で多様な人々と協力して仕事をしていくために必要な基礎的な能力の開発方法などを修得する。 また、これらの応用として、グループ活動などを通じて、人の話を聴き・自分の意見を述べる力を養えるようにする。加えて、授業で紹介する書籍又は参考図書から最低1冊は読むこととする。

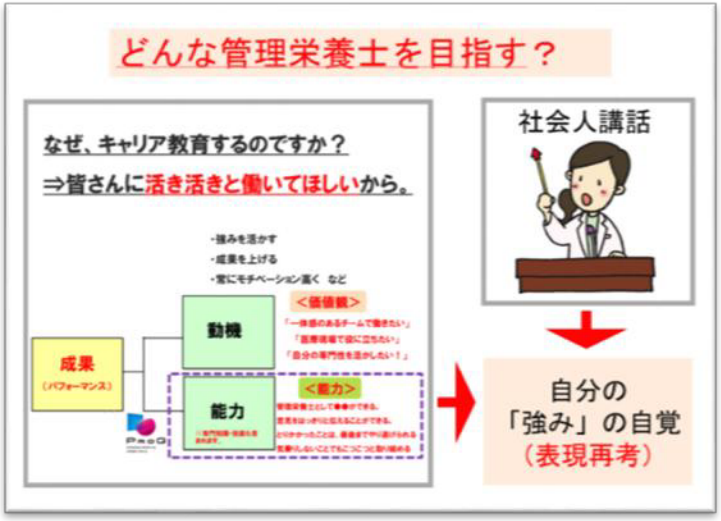
・「自分の強み・課題の理解・言語化」にPROG結果を活用している事例
・「PROGの強化書」を用いた解説、グループワークを通じて、自己理解・基礎的能力の開発計画を立てる支援を行っている
・管理栄養士にも「基礎的能力」（知識活用力・行動特性）が必要であることを、社会人講話（先輩の管理栄養士）の話を聞いて理解したうえで、PROG解説を行っている

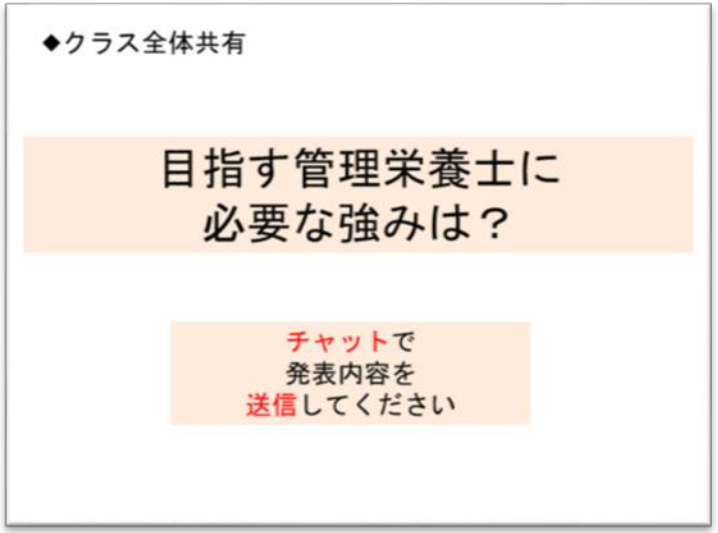
事例⑥DP到達が、社会でどのように役立つのか（キャリア系授業での活用）

内容	事前・事後学習
「管理栄養士の基礎力学習Ⅰ」 第2回で測定した基礎的能力についての解説　（リアセック講師） ・第二回目で測定したPROGテストを活用し、自分自身の強み・課題を理解し、言語化する。 ・社会人講話を通じて、管理栄養士として働いている人のやりがい、大切にしていることを言語化し、必要としている専門力や基礎的能力を考える。	事前学習・・社会人講話の復習 事後学習・・①リテラシー・コンピテンシーの結果が高い理由と出来事を考える、まとめる ②リテラシー・コンピテンシーの結果が低い理由と出来事を考え、まとめる
「管理栄養士の基礎力学習Ⅱ」 基礎的能力の個々人の活用についてと今後（3年生以降）の学びについて（リアセック講師） ・個人として、社会人講話を通じて、管理栄養士として働いている人のやりがい、大切にしていることを言語化し、必要としている専門力や基礎的能力を理解したことを、グループワークを通して、共有することで、自分と違った視点を取り入れ、理解する。 ・PROGテストを活用し、自分の強み・課題を把握し、能力の開発計画を作成する。	事前学習 ・社会人講話の個人ワーク。管理栄養士として、必要な知識・能力・やりがいを考える。 事後学習 ・授業内で作成した、能力開発計画の具体化・見直し

・授業を通じて学んだことを纏めて記入する「キャリアノート」をオリジナルに作成。

・事前学習・事後学習を通じて、学生の自己理解、管理栄養士として必要な能力の理解を深める支援を行っている。





＜授業終了後の学生の声＞

・自分や友達の目指す管理栄養士像や、そのための課題、自分たちの強みなど知ることができてよかった。》

・管理栄養士に向けての目標を立てることができたのがよかった。

・共通の目標をもつ仲間の強みや意見を聞くことができ、自分も頑張ろうと思えた。

・強みを知ることができさらにこれからどう変わるか、目標を立てることができ刺激になった

事例⑦伸長者インタビュー　※学生のFDへの参加

成長要因インタビューをもとにした冊子制作

他大学事例

PROGテスト２回の測定結果を比較し、成長著しい学生に「行動特性が変わったきっかけ」をインタビュー。
学生の成長を促進するための授業・活動や学生支援策を発見・分析し、冊子にして、学内または学外向けのリーフレットを制作

今回結果（3年）	Lv.1	Lv.2	Lv.3	Lv.4	Lv.5	Lv.6	Lv.7
Lv.7	1	0	0	0	0	1	1
Lv.6	0	0	3	2	2	2	0
Lv.5	0	3	4	0	5	4	1
Lv.4	4	4	10	15	2	1	1
Lv.3	6	12	16	8	1	1	0
Lv.2	23	18	8	3	0	0	0
Lv.1	46	13	2	1	2	0	0
226（名）	Lv.1	Lv.2	Lv.3	Lv.4	Lv.5	Lv.6	Lv.7
	前回結果（1年）						

取材で見えてきた 成長のための３つのコツ

2022年10月29日に実施した教職員向けFD（教育内容・方法等をはじめとする研究や研修）にて、登壇してくれた３名の学生に、大学生活で自分自身を成長させるコツを追加で取材しました。

※３名の学生は、ジェネリックスキル測定PROG（1年次・3年次実施）で著しい伸長の３名を選出しています。
※PROG（プログ）について：河合塾・リアセック社で共同開発。2012年にリリースし、学生の社会から求められるジェネリックスキルを測定。測定レベルは７段階で、大学生平均は３～４。４以上は社会で期待されるレベル。

PROG（プログ）とは

学校法人河合塾と株式会社リアセックが共同開発した社会で求められる汎用的な能力を測定するアセスメント・テストです（毎年約300校で導入）。

本学では、このアセスメント・テストを導入することで、学生の成長を可視化し、教育改善に活かすことを目的としています。また、1年次には自分の強みや苦手を理解し、大学生活を有意義に過ごすことを考えさせ、3年次には1年次からの自己成長を振り返り、就職活動に役立てることを目的としています。

リテラシー　問題解決のために思考する力

領域	領域説明
問題解決のプロセスにまわられる思考力	情報収集力：幅広い視点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集し、それらを適切に整理・保存する力
	情報分析力：事実・情報を思い込みや偏見でなく客観的に、かつ多角的に整理・分析し、それらを統合した際の仮説を設定、立案を検証する力（課題・問題発見能力含む）
	課題発見力：様々な角度から現象や事象を捉え、背景に潜んでいるメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力
	構　想　力：様々な条件や制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構築し、その過程で想定される「リスクや対処方法を構築する力

コンピテンシー　問題解決のために行動する力

領域	領域説明
対人基礎力：他の人と積極的に関わり、チームとして動く力	親 和 力（人に興味を持ち、共感・連帯する力）
	協 働 力（目標を理解し、相互に助け合う力）
	統 率 力（意見を主張し、チームを導く力）
対自己基礎力：自分の感情や考え方をコントロールする力	感情制御力（自分の感情を適切に制御する力）
	自信創出力（自分を知り、自信を引き出す力）
	行動持続力（主体的に取り組み、完遂する力）
対課題基礎力：問題解決のために行動を考え、起こす力	課題発見力（情報を集め、本質に迫る力）
	計画立案力（目標を設定し、計画を立てる力）
	実　践　力（考えた行動に移し、振り返る力）

ロールモデルから学び、困難にも積極的に取り組むことが成長の秘訣



先輩から学ぶコツ！

どんな大人になりたいか ロールモデルを見つける！

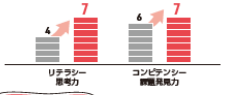
理工学部理工学科３年　R.Kさん（男性）

私が成長するための秘訣は、「ロールモデルを見つけて、見通しが立たないことでも、意欲的に取り組む」ことです。母が経営する会社に触れる中で、仕事に対する多くの話を聞いてきました。そのパワフルさには多くの学びがあり、将来的に何事にも積極的に進める姿勢が芽生えました。

大学での学びも、6名のグループメンバーと共に、15回の授業でロボットカーを作る実践的な授業に参加しました。この授業では、理論だけでなく実際に「ものづくり」を通して学ぶことができました。グループメンバーには、積極的な学生もいれば消極的な学生もいましたが、チームの活性化のためにはどのように進めていくか、良い作品を作るためにはどのような工夫をするか等、メンバーと話し合いながら完成まで取り組むことができました。このように、何事にも意欲的に取り組むことが自分の成長につながると感じています。

正課内外での多様な経験が私の成長の秘訣





先輩から学ぶコツ！

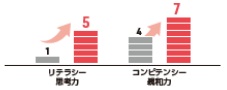
大学の授業含め、正課外の活動も成長のチャンス！

文学部教育学科３年　G.Mさん（女性）

私の成長の秘訣は、「正課内外を問わず様々な経験をする」ことです。小学校の頃から、教師になりたいと思い、教育学科に進学しました。授業は異なる学部学科の人々とグループを組み、毎回新しい人たちと先生が出した課題について話し合う形式で行われました。最初は嫌だと思っていたものの、様々な性格や考え方を持つ人々と関わり、自主性と主体性を持ち、未知のことにもチャレンジする気持ちを育てることができました。授業を通して、理想的な教師像を明確化し、仲間と協力して問題を解決することができるようになりました。正課外では小学校と特別支援学校でボランティアを行い、家庭教師のアルバイトもしました。学校現場の子どもたちの実態含め、答えの無い課題に対してどのように進めていこうかを常に考える経験をしました。ボランティアでは、先輩教員の指導を見ることで、教師に対するイメージをより具体的に持つことができ、経験を高めることができました。マルチタスクで忙しかったですが、しっかりと計画を立てて進めることで多様な経験ができたことは、確実に自信につながっています。

難しい専門用語も、具体例や受講生の多様な意見を聴くことで思考の幅が広がった





先輩から学ぶコツ！

意見交換は思考を広げる重要な手段！

法学部現代ビジネス法学科３年　S.Kさん（男性）

私が感じる成長のコツは、「多様なメンバーの意見を聞くことで、新しい見方や考え方を学ぶ」ことです。例えば、専門的な刑法の言葉が複雑で理解に苦しみましたが、先生が具体例を用いて学説を説明してくださったおかげで、頭にイメージしながら学ぶことができました。また、受講者の意見を聴くことで、自分の思考が広がり、新しい考え方を学ぶことができました。抽象的なことでも、具体例を交えることで理解を深めることができると実感し、その後の授業でも役立っています。

多様な人々と交流し、思考の幅を広げることは、成長する上で大切なことです。常に新しい刺激を受け、自分の思考を広げながら成長していきたいと考えています。

RIASEC INC, All rights reserved.

大学内でのPROG活用場面

【キャリアセンター】
◎PROGデータから就活支援策を分ける
・リテラシー低：SPI・筆記試験対策講座への参加促進
・コンピテンシー低：面接・グループディスカッション対策講座への参加促進
※リテラシーコンピテンシーともに高い層ターゲット企業への内定獲得のため特別クラスを作成
◎就職活動支援（自己PR作成）
・PROG解説会にて、「強み」や「成長」からエピソードを出し、自己PR作成へ
⇒学内自己PR講座へ連動
⇒カウンセラーの自己PR添削

【学生支援（面談活用）】
◎PROGデータより入学時のスコアから支援が必要な学生の見立てを立てる
・対人基礎力：コミュニケーションが苦手
⇒孤立可能性
・対自己基礎力：落ち込みやすい、悩みを抱えている可能性

【自己点検評価委員・執行部】
◎他大学比較、同学年過去受験比較、経年比較を通して、全学・学部・学科の傾向を把握
・IRからのデータ分析よりDP・CP・AP検証
⇒教育改善に生かす。

PROG
PROGRESS REPORT ON GENERIC SKILLS

【IR】
◎PROGデータ×学内データ分析
・PROG×GPA
・PROG×学内アンケート
・PROG×退学者
⇒伸長者と停滞者の差を分析
⇒退学者と非退学者を分析
・DP／AP分析（PROG項目と紐づけ）

【授業（キャリア科目）】
◎学科の卒業生から社会で求められる力について講話（ジェネリックスキルの要素が多分に話される）
⇒学生は将来の自分に重ねてジェネリックスキルの必要性を理解
⇒1年生PROG解説会「テーマ：行動計画」に繋げる（ポートフォリオ入力）
⇒教職員からのFB
⇒1年生後期に行動計画の振り返りを実施

【PBL授業】
◎PROGスコアをグループ分けに活用。グループワークやディスカッションが円滑に進められるように

【教務】
◎PROGデータをシステムへ取込
・ポートフォリオへの活用、学内の見える化を促進
※学生と教職員が同じ内容を確認
⇒学生支援に活用

【入試広報】
◎PROGデータをエビデンスとしてPR活用
・PROGスコアの経年データ⇒成長
・成長学生インタビュー⇒オープンキャンパス、高校廻り等の学外向けPR
・他大学よりスコア高い（対人・対自己）
⇒就職に強い
大学の強みやPRをまとめ、入試施策に繋げる

【地域・産学・社会連携センター】
◎プロジェクト参加学生のPROGスコアから参加することでの成長を言語化
⇒学生の主体的なプログラム選択を促進

PROG4年生実施のご提案

新しい認証評価では、学部ごとに「成長に効果的な取り組みができているか」が重視され、段階的に評価される方向で進んでいます。現在、貴学では学生への還元性も踏まえ、1年生・3年生でPROGをご実施いただいておりますが、学部としての教育成果をより的確に検証するために、ゼミ・卒業研究での学びを踏まえた4年生での実施を提案いたします。

よく伺う課題について

ゼミ・卒業研究での成果を踏まえて、4年間の学修成果を可視化したい

ゼミや卒研で学生は伸びているはずだという声が多く、その成長を客観データとして可視化したいというニーズが高まっています。

入学～卒業までの縦断データを用いて、成長要因・満足度要因を分析したい

4年間のデータを一貫して収集し、学生の成長要因や満足度に影響する要素を客観的に把握したいというご相談を頂いています。

4年間の成長を可視化し、学生本人に成長実感を持たせたい

卒業前のタイミングで、学生に4年間の学びを振り返らせ、社会人への自信につながるフィードバックを提供したい。そのために、4年間の成長を可視化し、学生本人に成長実感を持たせたいという声が高まっています。

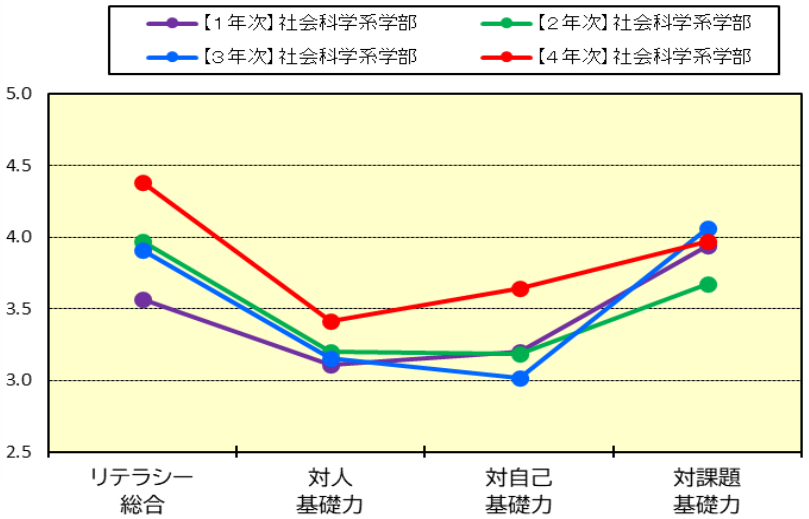
費用

4年生PROG：通常価格の半額でご提案いたします

- 1・3年生実施校のみの特別プラン
- WEB受験、WEB納品に限る

私立A大学

短大は1年、2年＋もう1回



- 1年生⇒4年生の伸長による考察 -

就職活動やゼミが大きく関与していると考えられる。就職活動では、自己分析や企業研究、面接での対話を通じて、自分の考えを整理しながら状況に応じて柔軟に対応する力が鍛えられている。
ゼミでは、教員の指導のもとで調査・議論・発表を重ねることで、思考の深まりや協働の姿勢が培われている。さらに、ストレッチな目標を乗り越えた経験により、自己効力感も高まっていると推測される。

他大学で4年生の受験率が高い大学様では、ゼミや卒業研究の場で先生方から受験案内を行っていただいております。学修成果の把握や要因分析の精度向上のためにも、ご検討をお願いいたします。